大正十年四月一日發行（毎月一回一日發行）

THE CENTRAL REVIEW

中央公論

4-1921

春期大附錄號

36 4 37

第三十六年 第四號 第三百九十四號

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

GIFT OF
Sidney M. Ehrman



信用ある店舗及び卑猥なる賣品の廣告掲載は謝絶す

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

六版

ノベル賞金を得たる白耳義文豪
マーテルリンク著
文學士 栗原古城譯

靈智と運命

▼四六判總布製 價貳圓貳拾錢 郵稅十錢

人間の運命は果して先天的に豫定せられたるものなりや否や
人間は自からの努力によりて其運命を改造し能ふべきや否や、將た又
人間の理性は奈邊まで信賴せらるべきものなりや

これ實に全人類の頭腦を惱まし來れる千古の疑團なり。マーテルリンクは、其思索の有らん限りを竭して、遠くは不可思議なる神秘境に其の思ひを馳せ、近くは日常生活の一些事をも見逃さずして所謂「運命」の正體なるものを剔抉解剖して餘蘊無からしむ。靈智の明鏡一度輝いて萬妖悉く其影を潛むるの慨あり、求道の士は必ずや空しく本書を看過せざるべきを信ず。

十七版

ノベル賞金を得たる白耳義文豪
マーテルリンク著
文學士 栗原古城譯

死後は如何

附錄「交靈術とは何ぞや」

四六判上製 價壹圓九拾錢 郵稅十錢

五版

印度マドラス大學教授 ナラス著
曹洞宗大學教授 立花俊道譯

佛教の要諦

▼釋尊影像、アジヤンダ壁畫等の寫眞版十一頁入
▼四六版總布製 價參圓貳拾錢 郵稅十二錢

これ幽靈なる佛教々理の眞諦を何人にも解し易きやうに手に取る如く明快に說破せる稀世の名著にして現に印度マドラス大學、カルカッタ大學等の指定參考書として推薦せられ、歐米の學者間にも嘖々の好評ある「エッセンス、オブ、ブヂズム」の全譯である。譯文亦明快を極む。

目次

◎歷史的佛陀 ◎四諦（四大眞理） ◎世界の謎
◎佛教の合理性 ◎佛教と苦行主義 ◎人格
◎佛教の道德說 ◎佛教と厭世主義 ◎死及び死後
◎佛教の婦人 ◎賢正八正道 ◎至高善

◉「余は佛教の智識を得んと欲する萬人に此書の熟讀をすゝむ。憶ふに此書はかゝる主題に關する空前の良書と稱するを得ん」――スマレガラ大僧正

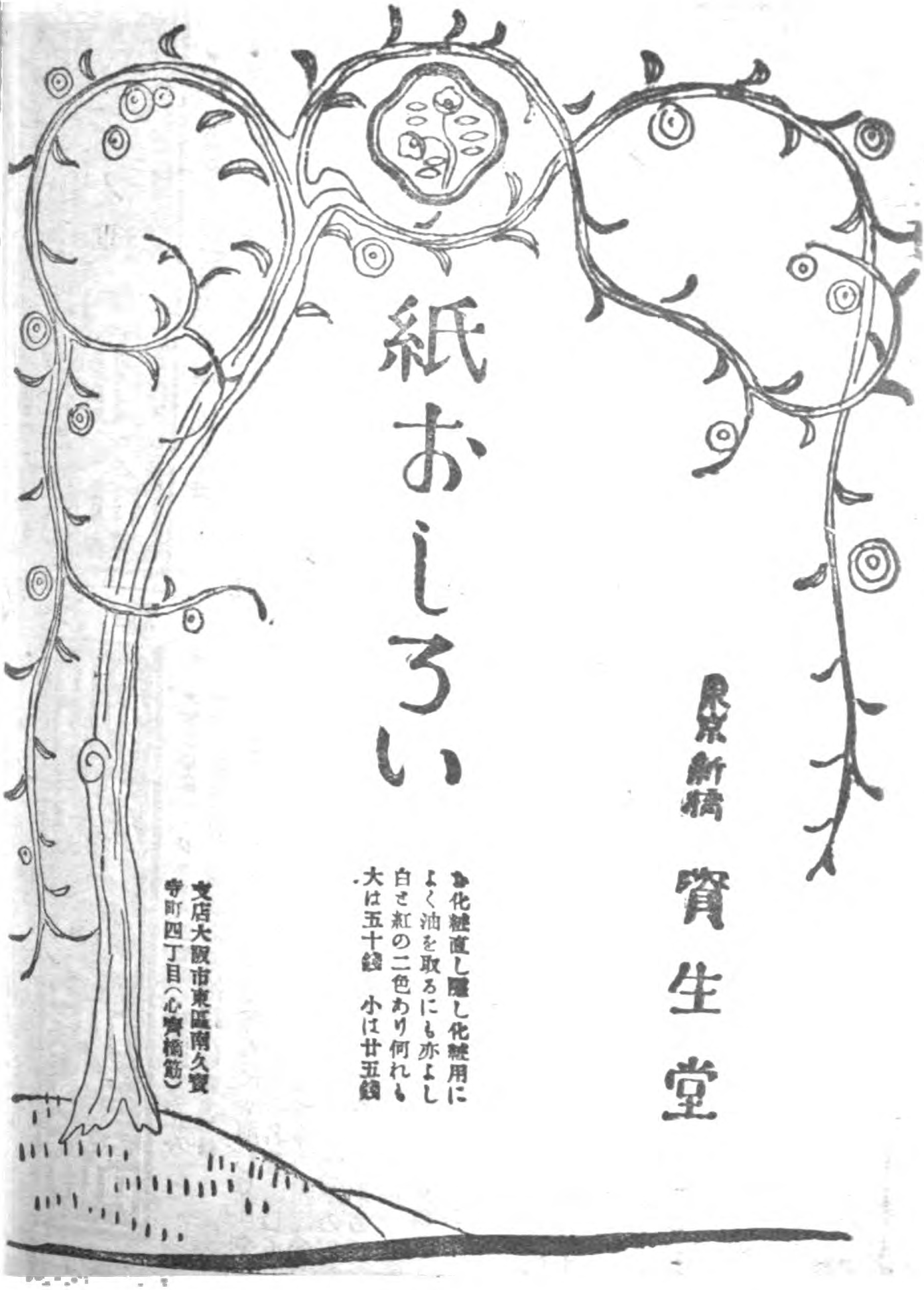
英國 ラスキン著

二ッの道
再版 小林一郎譯 貳圓參拾錢 郵稅十錢

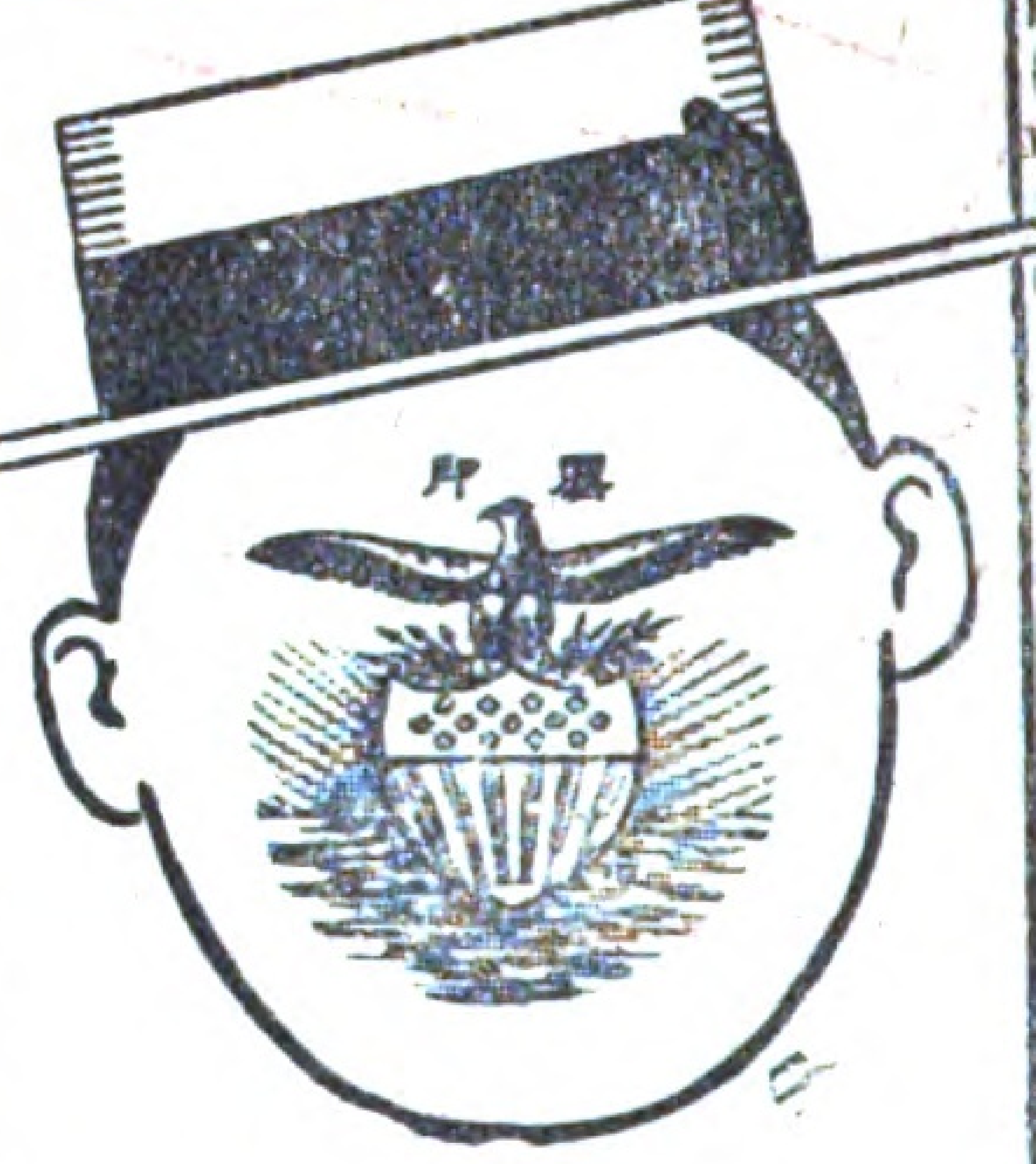
塵の倫理
再版 小林一郎譯 壹圓九拾錢 郵稅十錢

胡麻と百合
三版 栗原古城譯 貳圓 郵稅十錢

東京本郷西片町 玄黃社
電話小石川一三九番
振替東京七九九五番



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



純品質主義

鷹印帽子

大阪 株式會社 高橋製帽所

帽子と文化生活（其四）

（今年の流行と御買求の秘決）

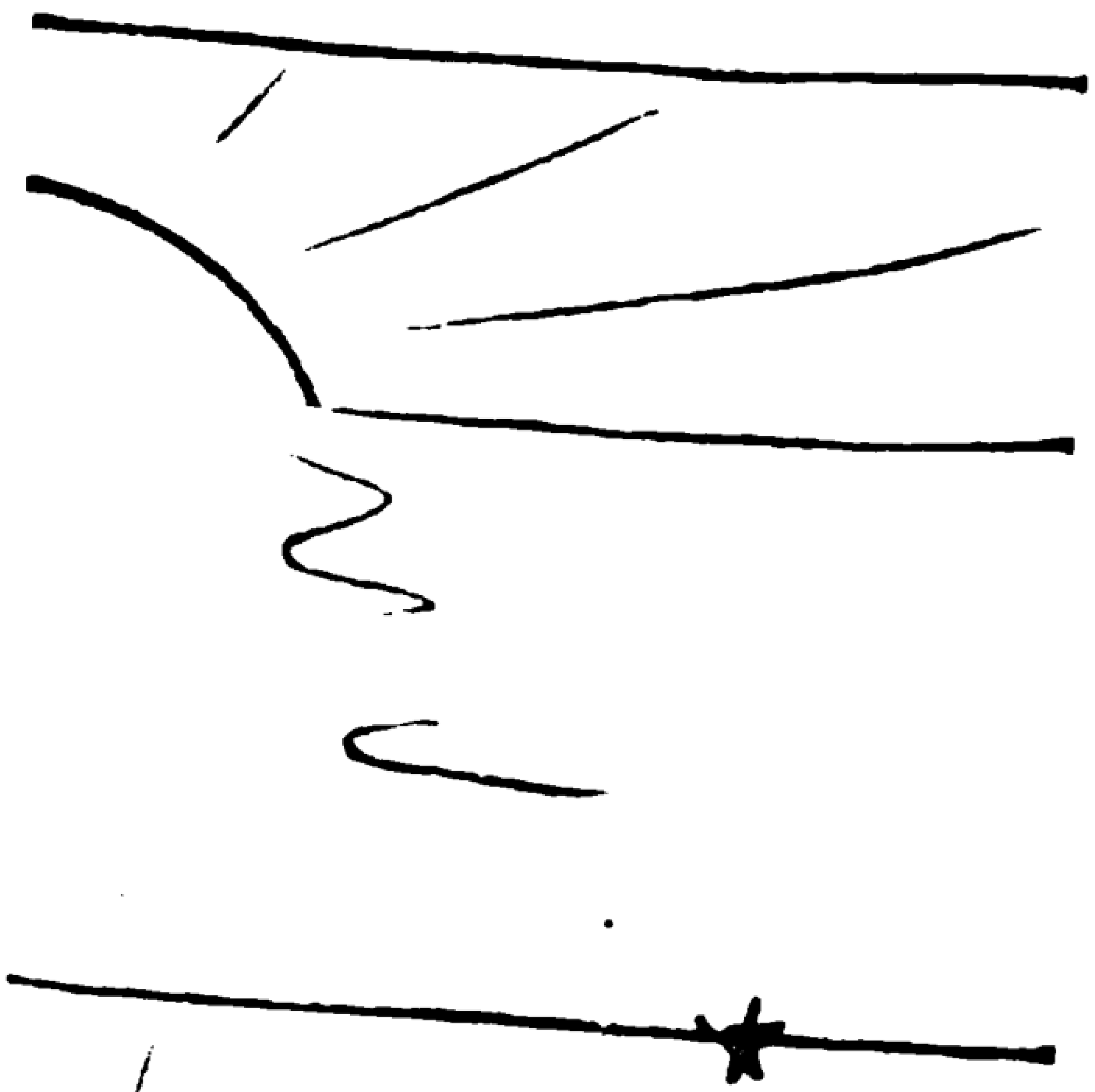
今夏帽子の流行は矢張り麥稈帽子が全盛で頭の高さ三吋四分一、椽廣さ二吋八分五、乃至二吋四分三、リボンの巾普通一吋八分五乃至一吋四分三、若手向は一吋四分一乃至一吋二分一、此の格好が昔から我日本人の體格に最良釣合の型なのであります。今日では一夏必ず二枚や三枚を御召しになる夏帽子ですから隨分安物で御辛棒なさる方も有る様ですが之は却つて御損です高くても優良品は品物に曲が出ず洗濯に耐へ四時も飽が來ず且歐米のホテルや料理店では御召になつて居る帽子を見て其人柄を推察するので帽子だけは一等品を被つて居ねば思はぬ恥を見るのは、一寸外國へ御越しの方はよく御承知の事ですお頭の物ですもの立派な服装や履物やに比して御粗末な帽子では折角の御人品を傷ける事となります此等の點に留意し純品質主義の立場より絶へず技術と材料との向上に全力を盡すのみならず藝術的良心を以て卓越したる意匠と嶄新なる考案を創作する事に沒頭し常に現代人の望む文化生活に適しき優良品を提供する事に成功して居ますのは我國に於て獨り鷹印帽子あるのみです。

其ですから鷹印なれば何處へ行つても決して御心配は要りません現に極東の小天地に止まらず遠く紐育の檜舞臺で盛なる好評を博し一躍世界的製品となりましたる今日ですから是非帽子は鷹印を御撰定願ひます。

本年の新發明は

一、野趣深き「バンガロー」帽子
一、輕快なる「デモクラシー」帽子
一、典雅なる「パンパナマ」帽子
一、心地よき「ローケツ段巻」帽子

何れも特に**新案防止飛帽**（ボオシヒモ）を添付す



[illegible]二、細音流行「ハイクラス」帽子

◎商人階級の横暴の矯正……法學博士 河津暹……一一五

我が憲政を阻害する憂ふべき近時の諸現象

◎我が憲政斯くの如く夫れ危し……永井柳太郎……一二一

◎徳幕時代の觀念を脫せぬ我が憲政の現狀……文學博士 三宅雪嶺……一二九

◎政界の陰謀と言論壓迫……法學博士 堀江歸一……一三一

◎言論壓迫の社會的損失……早大教授 杉森孝次郎……一三四

[illegible]

平凡であるが峻烈なる新聞記者の祖国観、教へられる事が多い。

▼説　苑

特殊國及特殊人……………荒井陸男……一
假面と顏面……………野上豐一郎……八一
談話賣買所から買つた話……………村松梢風……九五
ウオルムス議會の獅子吼四百年記念に方りてルーテルを憶ふ……マスター・オブ・アーツ　村田勤……一二〇
犯罪の變遷と捜査の進歩……………寺田精一……一四一

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



"Meeting" By Mademoiselle Marie Bashkirtseff.

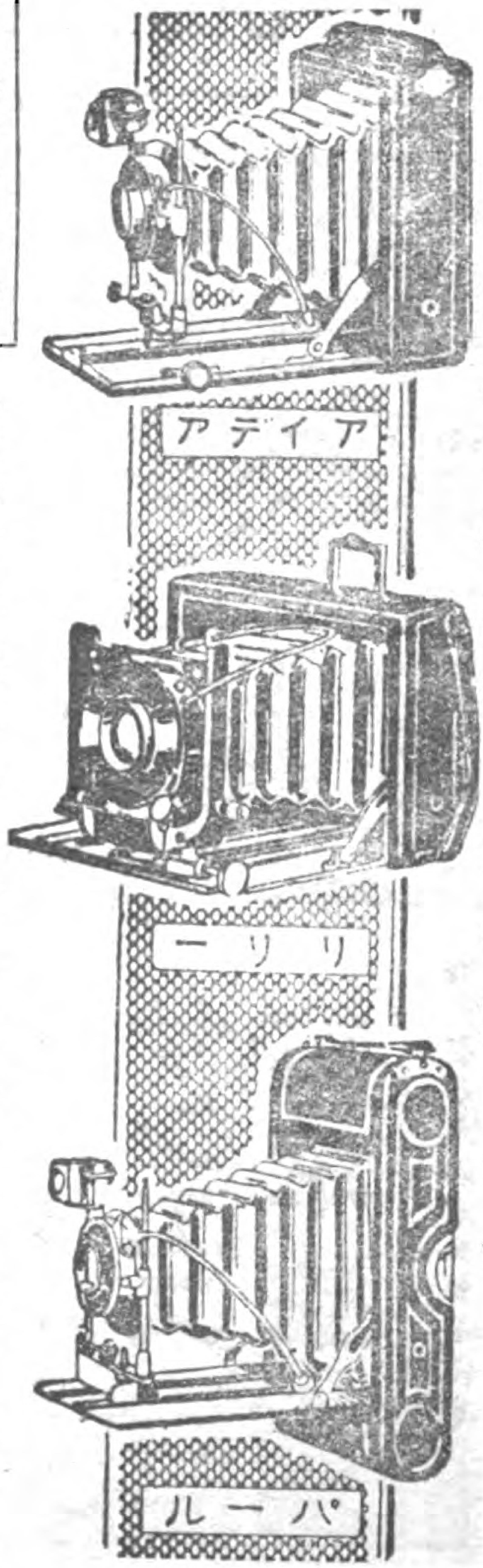
Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

春の寫眞

郊外散歩の季節になりました
長閑な春の野邊に寫眞器は
アイデア、リリー、パール、(乾板フィルム兼用)
手提寫眞器を御薦めいたします



後悔は先に立たず

寫眞には幾多の種類あり其の撰擇には誰も迷はるる處なるが乾板フィルムに兼用せられ且つピントを覗かるゝ物を購はざれば後悔する事必ずあらむ

大サ＝名刺形＝手札形＝ハガキ形＝(目録進呈)

東京本町二丁目

小西本店

支店　大阪長堀橋一丁目

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

堅實と熱誠とはサンエスの營業的信條なり

SSS Fount Pen



現代の各方面に於ける代表的人士の手に執らるゝ

サンエス萬年筆

如何なる人のポケットにも

如何なる家の卓上にも

斯て生產するサンエスは當然天下を風靡す

東京馬喰町

大阪 名古屋 ── 細沼株式會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

斯れ豈君子の爭ならんや

三月十七日倫敦發の電報に曰く、ボナー・ロー氏は健康不良の故を以て政界を引退せりと。又曰く首相は此意外の出來事に非常に感動し、ロー氏の議員辭任の聲明書を讀了するに堪へず、アスキス氏亦聽き取り惡い程の低聲にて、ロー氏が政敵にまで最も懷かしき印象を與へたる過去の功勞と德望とを讃し、速に健康を回復して再び議政壇上に立たんことを希望する旨を辛うじて述べ了つたと。公事に於ける侃々諤々の闘士も私情に於て相愛惜する事斯の如し。電文甚だ簡なれども、予輩は其間に流るゝ無限の情味に恍惚たらざるを得ない。

之に比ぶると政友會憲政會兩黨諸公の最近の啀み合は何たる醜狀ぞや。固より黨首は全く關係のない事なのであらう。けれども其幹部と稱し世間にも多少名を知られた程の者が、如何に憤激の極に達すればとて、互に惡事醜行を摘發し合ふとは、其心事の陋劣なる殆んど吾人の唾棄にも値しない。

滿鐵事件は何と云つても政友會に取つては道德的致命傷である。正々堂々の論陣を張つて最も明白に一切の辯妄を公表せざる以上、何と云つても誠實なる國民の信用を恢復することは出來ない。而かも彼等は這の必要なる辯妄の態度には出です、徒らに反對黨の弱點を剔抉して自家に對する國民的憤激の鋒先を他に轉ぜしめんとして居る。何と云ふ淺猿しい心事だらう。所謂反對黨の醜行が、事實許し難きものであり且之が摘發に依りて社會を益する事ありとするも、辯明せられざる政友會の罪惡は其の帳消になる譯ではない。況んや其反對黨の醜行なるものも、聞いて見れば大したものでなきに於てをや。

併し予輩は加藤憲政會總裁の五萬圓事件を道德的に是認せんとするものではない。今日の政界に於て斯の如きは尋常茶飯事であり、刑法の術語を藉りて云へば微罪不檢擧の類に外ならぬものであるけれども、飽くまで政界の道德的廓淸を冀うて已まざる吾人の立場からすれば、是亦我國政界の一大通弊の發露として大に糺彈の叫を高くせざるを得ぬのである。

政治は一國の運命を直接に左右するもので本來最も高尙なるべき仕事である。而して今や此の最も高尙なるべき仕事が最も下品な最も敎養のない俗惡の徒輩により最も不眞面目に取扱はるゝ事となつた。國民の不幸之より甚しきはない。

所謂政治家の社會は惡事醜行の相互的摘發をまで敢てして公事に不當の勝を占めんとする程墮落し切つて居る。然るに他方民間には之を憎み之を糺し、更に此間に根本的革新の機運を作らんとするの健全なる輿論の勃興しつゝあるのは誠に喜ぶべき現象である。世人は昨今の世態を目して滔然墮落の極救ふ可らずと云ふ。併し墮落せる彼等が敵の醜行を摘發するに腐心する所以のものは、畢竟するに醜行を憎むの民間の情を利用せんとするからではないか。民間に於ける健全なる志操の勃興は、自ら舊式政治家の摘發を促し、之に激せられて民間の輿論はまた益々銳敏になる。惡しきものは斯くして遂に滅び、善きものは斯くして漸く芽ばえするのであらう。天の配劑亦妙なるかな。吾人は大觀に於て我國の前途を悲觀しないものである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

中央公論



第卅六年第四號
春季大附錄號
第三百九拾四號

性的差異の上より見たる婦人解放問題

醫學博士 文學博士 富士川游

緒言

輓近、男子と女子とは同等のものなりとの見地よりして、女子の倫理的、法律的、社會的、經濟的及び政治的地位を男子と同一ならしめむとするの運動が起つた。これを名づけて婦人運動といふ。この運動の中には、もとより種々の方面があつて、一派のものは、女子に損害を與へて居る所の一定の法律の改正を求め、一派のものは法律の範圍にありて女子はすべて男子と同等の地位を獲んことを望み、一派のものは女子の經濟的生活を男子と同様にせむことを要請し、一派のものは倫理殊に性慾倫理に關して女子と男子とを同様にし、所謂重複倫理を排除せむことを願望し、一派のもの

は學校制度及び敎育を男女によりて區別することなからむことを求め、一派のものは同等の地位を超越して、母權を制定して女子に特別の權利を與へられんことを望むのである。此の如く、所謂婦人運動といふ名稱の中には幾多の相異なれる運動の種類を存するのであるが、槪して言ふに女子の解放に外ならぬものである。畢竟するに、社會の間に漸次に盛となりたる文化生活上の幾多の弊害と共に男性的權威及び父權の衰頽に基づき、又一部分は輓近の經濟的生活及び結婚制度の顯著なる弊害等のために起れる運動で、期する所は女子をして此等の歴史的束縛から免れしめむとするのである。それ故に、婦人運動の利益として、此等の弊害を除くことを得て、男女兩性の間の自然的關係が正しく起ることを得べき筈である。しかしながら、此の如き婦人解放の運動が女子の身的及び精神の本態を顧慮することなくして行はれるときは、生物學上の危險の著しいものがある。余は今、この點に就て、卑見を陳述せむとするのであるから、順序として、先づ男女兩性の身體及び精神の差異に就て、略述せねばならぬ。

兩性の差別

男女兩性の差別は、人類の文化の當初から既に存在して居つた事實であるが、此の如く男女兩性の差別を著しく現はすことは畢竟、人類があらゆる生物の中にありてその發達の最も高きことを示すものである。一千八百九十五年カツセルに開かれたる人類學會に於てワルダイエル氏は男女兩性に於ける身體的差異に就きて講演し、生物の一定の種族の發達の高きものは男女兩性の差異の著明なるを以てその特徴とする旨を唱道したが、現に植物及び動物の世界にありて、その種族の下等のものより高等のものに向つて進むに從ひ、男女の兩性の差異はます／＼著しくなるが、人類にありても、男女兩性の差異はその系統的發生の間にありてます／＼著明となるを認むるのである。この男女兩性の差異に就

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

きて科學的の研究を企つるに至りたるは近世のことであるが、フィールオルト、クェトレー、トピナール、フィッツネル、ワルダイエル、ラウチエル、リール、オスカル・シユルチェ、ハインリヒ・シユルツ、ストラツツ、ランケ、ランゲ、ハーヴエロツク・エリス、メルケル、ビショツフ、シユワルベ、マルシヤン等諸家の研究報告が既に行はれて居る。此等諸家の科學的研究の結果に據ると、男子の身體と、女子の身體との間に存する差異の重要あるものは大凡、次の通である。

二次性の性徴

男女兩性の性細胞は通例、一定の局處にありて、組織體の特別の層の中に成立するもので、一口に言へば男女共に生殖腺の中に性細胞を生ずるものである。その生殖腺といふは人類にありては卵巣と睾丸とで、その卵巣は女子に屬し、睾丸は男子に屬するものである、これは一次性の性徴(Primäre Geschlechtscharaktere)と名づけられるものである。人類及び高等の動物にありては、この一次性の性徴に併せて、男子と女子とにありて各自特殊なる身體的及び精神的の標徴を呈する。ローベルト・ミユルレル氏はこれを指して二次性の性徴(Sekundäre Geschlechtscharaktere)と言つて居る。この二次性の性徴はもとより一次性の性徴と同じく男女兩性の身體の始めて現はれたるときより現はれるものであるべく考へらるるが、しかしながら人類の身體にありて二次性の性徴の十分に現はれるのは思春期の頃である。この二次性の性徴につきて男女の差異を擧ぐれば大要左の通である。

身長と體重

性的差異として著しきものは第一に身長と體重とである。身長の平均は女子にありて男子よりも小である。但しこの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

身長の男女に於ける差異は人種によりて同しからず、たとへばローマン人種では、ゲルマン人種に於けるよりもその差異が僅微であるが、しかし何れの人種でも、この差異は著しく現はれて居る。我邦にありては文部省の調査に據ると十七歳の男子は身長平均五尺一寸八分、女子平均四尺八寸八分である。この差異は初生の時から已に現はれて居るもので、フィールオルト氏に據れば歐洲人に於ける初生の男子は女子に比して約〇・五乃至一・〇「センチメートル」だけその身長が大である。我邦にありても初生の男子は女子に比して身長の大なること略ぼこれと同樣である。體重も亦、身長と同じく男子にありては女子のよりも著しく大である。我邦にありては文部省の調査に據ると十七歳の男子の體重は十二貫八百五十匁、女子の體重は十一貫三十匁を以て平均とする。この差異は初生の男女にありても已に著しく現はれて居る。ランケ氏の說に據ると、男子の十分に發育せるものにありては軀幹は身長に比して割合に短かく、これに反して、脚、手は軀幹に比して割合に長く、女子の十分に發育せるものにありては軀幹は長く、これに比例して腕、脚、手は短かきを例とする。此の如く、男子と女子とにありてその身長に著しく差異を呈することに就て、一千九百十年タンドレル氏は、女子の四肢の發育がその生殖機能成熟の早きに準じて、早くその絕頂に達するがためであると說いたが、實際にありて女子の身長が男子に比して小なるは主としてその脚が短いためである。カール・フオン・デン・スタイネン氏がブラシルにて發見せられたる石器時代の人種の骨につきて檢査せる所に據ると、男子の身長は平均百六十二「センチメートル」で女子の身長はそれに比して十仙迷米ほど小であるといふことである。これによつて見ると、男女兩性の身長に於ける差異は原始的の人類にありても、文化人種に於けると同じやうである。身長の大なると同じく、男子にありては其他の各部分の比率（プロポルチオン）が女子に比して大である、殊に肩の幅が女子よりも大なることが著しい。それに反して、腰の幅と、下腹の長がさとは女子にあつて男子よりも大である。これは姙娠といふことに特別の關係を有するもので、女子の身體に特殊の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ものである。

骨　骼

女子の身體の發育は男子に比して早く停止する。それ故に女子の身體は兒童のものに近似して居る。又その發育の早く停止するがために、一定量の勢力が女子の身體内に貯蓄せられる。オルシャンスキー氏はそれを名づけて潜勢力(Latente Energie)と言つて居る。此の如くに女子と男子との身體にありてその發育の不等なるは、主として骨骼の相異に歸因するもので、女子の骨骼は男子の骨骼に比して概して小さく且つ纖弱である。殊に性的差異の著しきは骨盤で、ウイーデルスハイム氏の如きは人類に於ける骨盤の性的差異は人類に特殊なる標徴とすべきものであると言つて居る。又この性的差異は人類の文化の高度なるに比例して著しく現はれる所の進歩的徴候と認むべきものである。男女兩性の骨盤が差異を呈することは類人猿にありては十分でなく、人類にありても野蠻の種族にありては男子の骨盤と女子の骨盤との差異が文化種族に比して甚だ輕微である。文化種族の女子の骨盤はその幅徑の大なること、著しく低位なることと及び前口の廣きことと等を特殊として、男子の骨盤とは一目瞭然として區別せらるべきであるが、此の如く女子の骨盤腔の廣いといふことは文化因子として重要のものである所の腦髓に關係するもので、この腦髓を盛る所の胎兒の頭蓋が大であるがためにその骨盤が大でなければならぬのである。頭蓋骨は女子にありて男子よりも小さく、且つその構造が美しく出來て居る。エッケル氏が獨逸の女子の頭蓋に就て調査せる所に據ると、女子の頭蓋は男子のに比して低く、顱頂部が扁平で、前額が著しく鉛直であるから、前額部と顱頂部との間が著しく角度をなして居るといふことである。しかし頭蓋骨につきての女性の特徴といふものは認められない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

筋肉及び脂肪

女子の骨骼が小さく且つ纖弱なるが上に、その筋肉も纖弱で且つ水分を含むことが多い。これに反して脂肪は男子よりも女子に多く、ビショッフ氏の説に據れば、男女兩性に於ける筋肉と脂肪との比例は、男子にありて、全身の四一・八％が筋肉、一八・二％が脂肪なるに對して女子にあつては三五・八％が筋肉、二八・二％が脂肪である。又タイル氏の説に據ると、成長したる女子の强壯なるものにありて筋肉の量はその體重の三分一に足らぬが、男子にありては概して三分一以上に達して居る。此の如く男子にありては重量の大なる骨骼と筋肉とが著しく發育して居るに反して女子にありては重量の少ない脂肪が澤山であるがために、女子の體重は男子に比して絶對的に少さいばかりでなく、關係的（同一の容積に比較して計算して）にも亦少ないのである。殊に女子にあつて、脂肪が乳房と臀部とに多量に存在するがために、この兩部は女子に特殊なる二次性の性徵として最も著しく現はるるものである。しかもこの脂肪の蓄積は筋肉の發達と作用とを障碍するものであるから、女子は生れながらにしてその力の發達が弱いものであるといはねばならぬ。脚の筋肉を比較して見れば、男子と女子とにありて同樣に發達して居るにも拘らず、男子にあつて運動の活潑なるを見るは、全く男子に於ける身體の構造の然らしむる所である。女子にありては一方にあつて筋肉の發育が弱く、一方にありて脂肪のために骨骼及び筋肉が包まれて居るがために、その身體は軟かにして圓味を帶び、腕も脚も男子の如くに角立ちて見ゆることが無い。

皮膚及び毛髮

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子の皮膚は男子に比して繊弱にして、何れの種類にありても色素が乏少である。それ故に女子の皮膚は男子のに比して美麗である、殊に女子にありては毳毛の發生が男子に比して甚だ輕微であるからその皮膚は男子に比して美麗である。毳毛といふのは思春期になりて始めて發生する毛髪で、比較的に長く且つ強きもので、女子にありてこの毳毛の發生するは概して腋下と陰部とに限られて居るが、男子にありては、その外、軀幹にも手足にも又顔面にも發生する。陰毛は女子にありては、毳毛なき下腹部と限劃せられて居るが男子にありては下腹部の毳毛に移つて限劃がない。又顔面の毳毛は男子にありて髭鬚となりて現はれ、女子と區別せらるべき徴標となる。頭髪につきて男子と女子との差異は左ほど著しきものはない、フリーデンタール氏が一二の種族、たとへば印度人種の如く、男子がその頭髪を截除することのないものに就て、檢査したる成績に據ると、男子の頭髪も女子の頭髪と同一の長さを有して居つたといふことである。又フリーデンタール氏が歐洲人につきて調査せる所に據ると、十六歳の兒童にありて、男子の頭髪も、女子の頭髪も殆ど同様に八〇乃至一〇〇「センチメートル」の長さを有して居つたといふことである。しかるに、女子にあつては身體の毳毛が發育すること著しからざるがために頭髪が長く且つ多量に發生するに反して男子にありてはそれが短かく且つ少なくなる。それ故に思春期以後になりては男女の頭髪に差異が現はれるのである。

内臓

その他、乳房、喉頭などにありて、男女兩性の差異は著しく認められるが、身體内部の臓器にありても男女兩性の差異は數多く存在する。即ち心臓と血管とは男子にありて女子に於けるよりも大にして廣く且つ厚きを例とする。女子の血液は水分に富み、赤血球の量が男子の血液に比して少ない、ウエルケル氏の計算に據ると、男子の血液一立方「ミリ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

メートル」中には五百萬の赤血球を存すれども女子にありては僅に四百五十萬の赤血球を存する。それに相當して女子の血液はヘモグロビンを含むことが尠なく、比重も亦少ない。赤血球は酸素運搬者として身體の經濟上に重要の任務を有するものであるから、この差異は重要のもので、それがために男女身體の組成に著しき影響を及ぼして居る。女子にありて血液の造成は男子に比して速に出來る、それ故に女子は多量の出血に堪ゆることが容易である。血液の量は男女兩性共に略ぼ同一である。男子の脈搏は少なく、女子の脈搏は多い。女子の肺臓は男子の肺臓に比して小さく、それに反して女子の肺胞は男子の肺胞に比して大きく且つ擴張し易い。概して言ふに、女子にありては腹部の內臓が優越し、男子にありては胸部の內臓が優越して居る。

腦髓

腦髓につきても亦著しき差異が認められる。リユーヂンゲル氏の說に據ると、初生の男子と女子との間には、腦髓の造構及び發育に著しき差異がある。男性の胎兒の腦髓にありては前頭葉廣く高く又著しく發育し、廻轉殊に顱頂葉の廻轉が女性のものよりも著しく發育して居る。ワルダイエル氏も亦同樣の事實を證明し、前頭葉は智力の作用に關係する部分であるから、この差異は重要のものであると言つて居る。しかしながらブロカ氏の說に據ると、女性にありて前頭葉の發育が男性に比して著しくないといふことは認められぬといひ、カンニンハム及びエーベルスタルレル氏の如きは却て女性にあつて前頭葉の發育が著しいのを見たと說いて居る。有名なる瑞典の腦髓解剖學者レッチウス氏の精密なる檢查の成績に據ると、男性の腦髓と女性の腦髓とを區別すべき特殊の標徵は今日まで未だ發見せられず、しかしながら、女子の腦髓はその造構に於て單簡であり、又主型から離るることが輕微である。腦髓の重量を見るに、歐洲にての檢查

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に據れば、初生の男子にありて四百「グラム」、女子にありて三百八十「グラム」なるものが、十五歳乃至十九歳に至りて男子のは千三百七十「グラム」、女子のは千二百五十「グラム」となり、又十五歳乃至八十九歳にあつては男子千三百五十五「グラム」、女子千二百三十三「グラム」の平均數となる。それ故に大人の腦髓の重量は約十八歳に至りて永久量に到達するものであるが、女子にありてはそれが少しく早期に現はれる。これを身長一「センチメートル」に割り當てるときは男子にありては八・三「グラム」、女子にありては七・九「グラム」であるから、身長の小なるものは比較的多量の關係的腦髓量を有して居るが、しかし女子の中等腦髓量は同身長の男子のものに比して常に必ず小である。

性的差異の原由

男女兩性の身體の上に、此の如き著明の差異を現はす所以につきて、スペンサー氏は生殖と高等の發育傾向との間の反抗作用が主要の因を成して居ると說いた。實際、高等の動物の種族にありては男性が女性に比して發育傾向が著しいのであるが、これは男性が生殖作用に關與することの少ないために、身體がその方面に使用せらるることの僅微なるに基因するものである。それに加ふるに女性の身體には離卵作用と月經の來潮とがありて、それが定期に波動的に現はれる。この離卵作用と月經とのために失はれたる損失は常に次回の月經の來潮までに補はれねばならぬに、その補充が十分でない内に、次回の離卵作用と月經の來潮とが現はれる。此の如くにして、女性にありてその生殖作用のために失はれたる力を恢復することの急務であるために發育の傾向はために障碍せられて、女性の身體は男性のものよりも兒童に近似するやうになるのである。ダルウイン、エドワーヅ、ブルークス、ロムブローゾー、ビルヘルツ、其他幾多の自然科學者が證明したる如く、女性の身體が男性の身體の複雜にして變化に富めるに反して、單簡で且つ原始的であるのも全くこの理

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

由に基くものである。しかしながら、此の如き事實に據りて、女子の身體が男子の身體に比して下等であるとは言はれぬ、又女子の身體が男子の身體に比して低格であるといふことは不當である。女子の身體はそれが生殖の目的に適應せむがために根本的に差異を現はしたものであるから、それ自身として十分の發達を遂げて居るものである。それ故にこの差異は文化の進歩と共にます〳〵著明に現はれ、又ます〳〵個性的に明瞭となるを認むるのである。たとへば野蠻種族の間にありては男性と女性との身體上の差異は十分に現はれて居ない、文化種族にありても、田舍の住民及び勞働階級のものの中には男女兩性の差異が現はれること少なく、又それが代償せられて居るのが認められる。

精神の差異

男女兩性に於ける二次性の性徵は、此の如く身體の上に著明であるが、精神の作用の方面にありても亦これと同樣に二次性の性徵は明かに現はれて居る。それに就きてはダルウイン、アーラン、ミュンステルベルグ、ジヤストロウ、ロムブローゾー、シヤウ、ハーヴエロック・エリス、トムプソン、ウレッシユネル等諸家の自然科學的、人種學的及び心理學的の精密なる研究があつて、男女兩性の精神作用の差異は十分明瞭に證明せられて居る。中にもハーヴエロック・エリス氏の著述(Mann und Weib, Leipzig, 1894)には輓近の人類學及び心理學上からの研究の結果が總括して擧げてある。今これを根據とし、又その他の諸家の所說を參酌して、男女兩性の精神作用の差異の大要を擧ぐれば、次の通りである。

感覺と運動

精神の作用の中で最も單簡のものは感覺であるが、これにも男女兩性の差異が現はれて居る。重量を感ずることも、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

空間を感ずることも女性の方が男性よりも鋭敏である。味覺も亦同樣であるが、殊に苦味を感ずることにありて男女の差異が著しく、甘味を感ずることにありてはその差異がさほどでない。嗅覺も女性の方が男性よりも鋭敏である。これに反して理性の感覺といはれて居るところの視覺と聽覺とにありて男性の方が優越して居る。但し色の感覺は女性の方が鋭敏で、色盲も女性の方には尠ない。形を感ずることも男性の方にありて著しく發達して居る。音を感ずることの限界は男女兩性にありて著しき差異は認められぬが、その感覺の男性にありて鋭敏なることは明瞭である。區別の感覺も亦同じく男性の方が優越して居る。これを要するに、味覺、嗅覺、及び皮膚覺の如き低級の感覺で、感情と親密に結合して居るところの感覺は女子にありて優越し、これに反して視覺及び聽覺の如き高級の感覺で、理性生活に重要であるところの感覺は男性にありて優越して居る。表現も運動性も亦、男性の方にありて著しく發達して居る。その刺戟に對する反應も男女兩性に著しき差異がありて、男子にありて女子よりも迅速且つ平等である。共齊運動は女性の方に著しく形成せられて居るが、その共齊運動の精密の度は男性の方がすぐれて居る。女性にありて運動の男性に比して著しからざると同時に自働的、不隨意的の運動は男性に比して著しく現はれる。これ男女兩性に於ける差異の著しき點である。運動と密接の關係を有するものは書字であるが、科學的に男女兩性の書字の差異を明にすることは今日の所まだ不可能である。概して言ふに、女性の書字は輕易に又意思の努力なしに行はれるからその文字が大きく、早く、且つ押壓せらるることが輕いのを特徴とする。

智力

感覺より進みて、知覺、統覺、それより觀念、記憶、聯想、想像、思考等、すなはち智力を名づけらるるところの精

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

神の作用につきて、男女兩性を比較するに、ここにも著しき差異が認められる。ジヤストロウ氏の實驗心理學的研究に據ると、女子は直接に自己に近傍せるもの、已に成立したるもの、裝飾的のもの、個性的のもの及び具體的のものに向つて興味を有し、男子はこれに反して自己よりも遠隔のもの、成立しつつあるもの、有要的のもの、普汎的のもの及び抽象的のものに向つて興味を有して居るといふことである。伯林市に於ける入學兒童の檢査に據ると、概念の尋常普通なるもの、手近かなるもの、及び輕易なるものであれば女性の方が優越して居るが、それに反したる概念に對する答辯は男性の方が優越して居るといふことが認められた。尙ほ少しく細かに各個の精神作用につきて男女兩性の差異を檢査するに、直接記憶（被檢者に種々の物品を示したる後、これを去りて、その何物たるやを言はしむるによりて認め得べき一次性の記憶）は、女性にありて同一年齢の男性よりも著しく優等である。二次性記憶（即ち普通に言ふ所の記憶）も亦女性の方にありて著しく現はれる。聯想の作用にも亦、男女の差異がありて、女性は概してその思考に於て、飛躍的でその觀念の變轉することを喜び、男性はこれに反してその注意を一個又は少數の問題に集中し、それに固執し、又各個の問題につきて深く考へることを好むものであるが、これに顧慮して聯想作用を檢査するに、男性は女性よりも、甚だ速かに反應語に對して應答する、又その聯想の形式が女性にありては特殊的、平均的、創始的であることが少ない。又女性にありては聯想作用の變化を呈することが男性に比して甚だ尠ない。內容的の聯想と形式的の聯想とを比較するに女性にありては形式的の聯想が著しく現はれる。又女性の聯想作用にありては、その間に感情が影響することが男子に比して著しく、又各種感覺より起るところの直觀的觀念の影響することも、それに關聯して個性的の影響が現はれることも、女性にありて男性よりも著しい。これに反して聯想作用の上に意思が影響することは女性よりも男性にありて著しい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

精神の運動

精神の作用と、精神の運動とは女性にあつて優越して居る。それ故に、女性は書物を讀むことが男性よりも速かにして、讀むだものを他人に話すことも男性に優さつて居る。しかしこれは固より智力の優越せることを示すものではない、天才と稱せらるる人にありても讀むとの甚だ遲いものが多くある。ドラウネイ氏が男女兩性の商估につきて、その職業的作業の優劣を比較したる成績に據ると、女性は男性よりも勤勉である、しかしながら理性が乏しい、それ故に女性のものには規程的の作業のみを委任することが出來ると言つて居る。ハーヴエロック・エリス氏が報告する所に據ると、英國に於ける郵便局の職員にありて、女性は簿記、爲替、貯金、未教育者に對する應接等の事務を執ることに於て、男性よりも優等である。又電信技手として女性は男性と同一に理性的に勤務するが、しかしながら女性は男性の如くに、電信の技術を理解せむとするの志望なく、又困難なる作業にありては、その作業能力の乏しきがために男性と競爭することが出來ぬ。又手關節の力の弱きがために女性の電信技手は迅速に文字を書くことが出來ない。その他の諸家の報告に據るも、女性は概して容易に敎へらるべくある。輕易の作業をなすことは善く又持續することが出來る。しかしながら劇甚の作業であると容易に疲勞して、その作業が十分に出來ない。又自分が從事して居る作業以外のものにつきて理性を働かすことが十分でないがために、それに對して快感を起すことなく、從てそれにつきて作業するの能力が缺けてゐる。

暗示性と感動性

暗示性は女性にありて甚だ強く、若し人格及び論説がその感情の上に作用することが著しき場合には、速かにその感作

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を受ける。それと併行して女性にありては感動性が甚だ強い、すなはち女性にありては、その身體的及び精神的刺戟に對して反應することが男性よりも速かである。女性にありては神經及び筋肉が男性に比して發揚し易く、それが殊に瞳孔と膀胱とに現はれるが故にモツソー氏等はこれを全身の精緻なる精神計であると言つて居る。たとへば恐怖、期待、緊張、畏懼等の如き感情の發動に際して膀胱は收縮するのであるが、この現象は女性及び兒童にありて男性より著しく現はれる。それ故に、女性が著しき精神發揚の場合に尿意を催ふすることは日常我々の實驗する所である。諸家の說に據るに、女性にありて此の如き神經筋肉性の發揚を致すことの著しい原因は、一には女性の下腹內臟器が著しく大なるが故である。女性の發揚性なるに相當してその疲勞性の強いことも男性に比して著しき相異がある。これは女性の身體が生理的に貧血であり、血液の水分の量が多く、赤血球の量が少ないといふことに歸因するものであるが、しかしながら持續したる作業の場合に、疲勞が早く現はれるが故に、過勞を豫防するの效果がある。男性にありては、疲勞性が著しくないためにその力を盡して作業するによりて動もすれば過勞の害を受るものである。女性にありては又、神經中樞の抑制作用が強く働くがために男性に比して意思痲痺及び意識溷濁を起すことが多い。女性が催眠狀態、睡眠狀態及び「ヒステリー」狀態に陷り易いのも、女性にあつて抑制作用が強いためである。しかしながら、女性の神經系統にありて神經系統の抑制作用が強く働くために一方にありては、生活力の貯蓄が出來て、それによりて女性は男性よりも抵抗力に富むといふ利益を有して居る。

受容性

女性の精神作用として、獨立といふことと、創造といふことが、これまで著しく現はれて居ないことは事實である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ーヴェロック・エリス氏等は、女性に理學上の發明をなすの能力ありとは認められぬと言つて居るが、しかしながらキュリー夫人の如き、理學者として有名の女性が存在することを思へば、女性が自然科學の領域にありて、發明をなし得るの力を有するといふことは爭はれぬことである。パウル・ラフィット氏の說に據ると、女性の精神作用はその受容性の著しいことを以て特徵とする。同氏の說に云く。男兒と女兒と合同してこれに敎育を施すとき、第一年には女兒が優等の成績を擧げる、これこの時には印象の受容と保存とが役に立つためである。この場合、女性の印象が活潑で、記憶の强いことは男性に優越することが著しい。これに加ふるに女性にありては生れながらにして對稱の覺性が著しい、それ故に、女性は幾何學に上達する。醫學を修むる女性にありては生理學及び病理學の如き、事實を領會する所の學科の成績に優等にして、これに反して臨床診斷の如く他の精神作用を要する場合にはその成績不良である。概して言ふに、女性は法則に對してよりも事實に對して又普汎的の思考よりも具體的の思考に對して感受性が强い。それ故に、女性は抽象部の形而上學よりも具體的の哲學を好むのが常である。これに反して、女性が政治の方面にありて獨立的の意義を有することは、これまで多數の女帝又は女王が存在して居つたといふ一事にて證明せられる。

感情及び意思

感情及び意思の方面にありては、男女兩性の差異を十分に證明すべき檢査が尙ほ僅少である。しかしながら一二の學者は不快の感情と愉快の感情とに際して、脈搏と呼吸とに現はるる所の生理的變化を檢査して、その變化が男性に强く女性に弱いのを認めた。又自家觀察につきて質問を提出し、その應答によりて、女性の感情及び意思を判定するの方法が行はれたが、その成績は固より確乎たるものでない。しかも、今日まで諸家がなしたる研究の成績を綜合して見ると

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女性にあつては宗教性が男性よりも著しく且つ早く現はるること、恐怖が強いこと、性慾上の愛が男性に比して強く現はれること、同情が男性に比して著しきこと等が特殊であるといふことが出來る。メービウス氏の說に據ると、男性に主として現はるる所の動向は爭鬪、自負、舞踏慾、音樂慾及び恰悧で、女性に主として現はるる所の動向は、愛兒、社交、建築神等である。女性が兒童を愛する心に富めることは普知の事實であるが、社交及び建築神はこれから派生したもので、鳥類が巢を建造するのは全く女性の力である。藝術の稟賦は女性に比して男性が優越して居ることは疑がない。男性の詩人、音樂家、畫工、彫刻師等には天才的のものも隨分少くないが、女性にありては左ほど著名の藝術家が尠ない。料理の技術でも男性の方に優等のものが多い。これは男女兩性に於ける性慾の差異に基づくもので、男子の性慾の侵略的なることが創造的傾動を催進し、性慾的「エネルギー」をば高等なる成形的作業に轉換するがためである、又男性の變化性に富めることもその藝術家に富める理由の一部をなすのである。

性的差異の意義

此の如く、男女兩性の精神に著しき差異があり、概して言ふに、女性が知覺性、記憶及び感情に於て優越せるに反して男性が運動性、特發性の精神機能（例之區別、判斷等）及び能動性又は意思「エネルギー」に於て優越せることは、その生殖細胞が、女性にありては大きく且つ非運動性にして營養物質を收藏し、保存の作用を著しく現はせるに反して、男性にありて生殖細胞が小さく、運動性にして「エネルギー」の放散を主とするに相當せるものといはねばならぬ。それ故に、女性の精神作用は受容性、再生、保守的、持續的、忍耐、平等、發揚性、感情劇烈、感覺鋭敏を以て特殊とし、男性の精神作用は變換性、輕浮性、衝動的、勇敢、注意集中、批判的、抽象作用強度等を以て特殊とすることは、上述

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に叙述した如くである。しかれども、此の如き男女兩性の差異が果して何によりて起れるものであるかといふことに就きて、議論することは余が此篇の目的とする所では無い。余が此篇に於て叙述せむとすることは、此の如き、男女兩性の差異が、事實として、すべての生物の兩性に別れたるものに存在し、それが男女兩性の任務の異なるに從ひて、男性の身體及び精神は個性を保存するがため、女性の身體及び精神は種族を保存するがために、各々それに相當して著しき差異を現はすに至つたといふことを明にせむとするのである。事實此の如くなるが故に、男子の身體と女子の身體とは固より同等のもので、多くの人々が考へて居るが如くに、女子の身體が低級のものであるといふことは間違つて居る。又古來より爭論せられたやうに、女子の身體が美であるか男子の身體が美であるかといふことを議論するの必要は無い。男子と女子とが、人類の重要なる分子として、相共に努力してその發展に貢獻するものであるといふ生物學の法則にして變動せぬ限、男女兩性の差異は、永久に存續せねばならぬ筈である。

外界の影響

男女兩性の差異はもとより原始的のものである。しかしながら、それが文化、遺傳、教育及び環境の影響を受けて居るといふことは明瞭なる事實である。實際、男兒と女兒とを比較するに、その遊戯の狀態と、理想とする所と、その他、すべての生活と態度とが相違して居る。これ男女兩性の差異は自然的、原始的のものであるといふことを證明するものであるが、しかしながら此の如き生活と態度との差異は文化、遺傳、教育及び環境の影響によりて益々著明となるものであるから、その獲得性のものと、原始性のものとを明瞭に區別することの出來ぬことは言ふまでもないことである。余はもとよりこの問題に就て議論せむとするのでは無い。いづれにしても、男女兩性の差異は原始的のものであるが、そ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れが文化、遺傳、教育及び環境の影響を受くるといふことは確實なる事實であるから、此の如き男女兩性の差異は文化、遺傳、教育及び環境の作用によりて一定度までそれを除却することが出來る。男女兩性の差異を除却するといふのは、畢竟、人類をしてその原始の狀態に歸らしむるものである。幾千萬年の長き時日の間に、漸次に發展し來りたる文化生活の結果として、斯くまでに分化したる男女兩性の身體及び精神をば太古原始の狀態に復へさしむるものである。女子の身體及び精神の本態に顧慮することなくして行はむとする所の婦人運動が生物學的の危險を致すといふ所以のものは全くこの點に存するのである。平たく言へば、不正當の婦人運動の結果は、男女兩性の差異を滅却して、女子をして男子化せしむるものである。

所謂第三性

女子の男子化せるものは所謂第三性（Dritte Geschlecht）にして、男女の性的差異が滅却せられ、女子にして子を産むことなく、その身體的及び精神的作業が全く男子と同等になつたものである。此の如きは女子の發展の誤まれる見解の結果として現はれるもので、シユルツ氏はこれを蟻及び蜜蜂の勞働者に比較して居るが、實に勞働蟻及び勞働蜂は女性にして子を孕むの能力なく、その身體は頽敗したものである。此の如きは女子をしてその原始の狀態に復歸せしむるもので、所謂婦人運動の最後の目的であるべき筈は無いが、しかしながら女子解放の變性現象として、女子にして男子の衣服を著け、男子の帽を冠むり、男子と同じやうに喫煙し、飲酒し、作業するものにありて女子の二次性性徴が漸次に滅却せらるることは疑の無い事實である。ハーヴエロツク・エリス氏の説に據ると、晩近の女子が感動性を滅却したことは著しいが、その原因が習俗及び教育、殊に女子の間に身體的遊戯が盛に行はるるに至つたことである。又晩近の都

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

府及び工業の發展と共に男子が女子様になり、女子が男子様になつたといふことを說く學者が多いが、これは男子と女子との職業生活がその身體の上に影響して性的差異を減却せむとするがためである。アルベルト・モル氏の如きは輓近の婦人運動が女子をして男子化せしむることは當然の結果であると說き、職業によりて女子が男子化することは一千九百四年伯林に開かれたる萬國婦人會議に參列したる代表者の容貌を一瞥すれば明かに認められると言つて居る。アルベルト・モル氏のこの說は勞働階級の女子を一瞥しても確實であるといふことが認めらるるものであるが、此の如き關係的性的差異滅却が輓近の社會の下級のものの中に存在するといふことは人類の原始史の遺物と稱すべきもので、長き時の間、消滅して居つた兩性狀態が隔世遺傳として再び現はれたものであると言つて差支ない。

同性性慾者

アルベルト・モル、イワン・ブロッホ等諸家の說に據ると、女子の同性性慾を有して居るものが、精神的に男子に接觸せむとするの要求は、男子の同性性慾者が精神的に女子に接觸せむとするの要求に比して著しく强烈である。それ故に、男子の精神的文化の好結果を採りて我物とせむとするの運動、即ち所謂婦人運動には同性性慾の女子が幹部となつて居る。アルヅアン氏の如きは所謂婦人問題は丈夫的の同性性慾女子の運命の問題であるとまで極言して居る。エルンスト・フオン・ウオルツオーゲン氏作の小說『第三性』(Ernst v. Wolzogen, Das dritte Geschlecht.)や、マリア・ヤニチエック氏作の小說『新しきエバ』(Maria Janitschek, Die neue Eva.)の中に敍述せられたやうな解放女子は同性性慾のものであると認められる。元來、同性性慾と稱せらるるものは倒錯狀の性慾狀態にして、隨分世の中には多數に存在するもので、有名なるオスカー・ワイルド、米國のホウイットマンは同性性慾者として著しいものである。その中、女子の同性性慾者

にありては、その姿勢と氣質とが男子に近似し、その咽頭は男子の如くに發育し、身體及び精神の特性は概して小兒のものに近かい。もとより同性性慾者は先天性の原因に本づくものが多いのであるが、別に先天性の原因がなく、後天性にこれを獲得するものがある。それを假性同性性慾と名づける。これ故に、所謂婦人運動に努力するものの中に同性性慾のものがあるとして、それは先天性のもので、精神的に男子に接觸せむとする要求の盛なるがために此の如き運動をなすものがあると同時に、所謂婦人運動のためにその人をして假性同性性慾のものたらしむることが有るといはねばならぬ。

女子と文化作業

退いて、文化の初期の狀態を案ずるに、既に前段にも叙述した通ほり、男女兩性の身體及び精神の差異はもとより著しくはなかつた。男子も女子も同じやうに生産的及び創造的の作業をして居つた。所が段々と文化の進歩するに從ひて生産的の作業はすべて男子の任務に歸し女子の任務は家事に限局せられるやうになつた。カール・ビユツヘル氏の説に據ると、原始蒙昧の世には、女子の作業は植物性物質を蒐集し且つこれを處理することで、それに必要なる器具はすべて女子の作業に成つた。男子は主に漁獵、牧畜及び戰鬪に從事して居つた。それ故に女子の作業としては穀物を搗き、或はこれを粉にし、麵包をこしらへ、食物を料理し、陶器を造り、絲を紡ぐ等であつたが、此等の作業は韻律的に出來ることであり又女子は平原若しくは小舍の内に團欒して作業をして居つたから、詩歌と音樂とを創めて造つたものは女子であつた。又幾多の工業及び手工は女子がそれを創めて、男子は女子よりこれを學び得たのである。しかるに女子は母親としての作業が重大であるがために、その作業を分化せしむることが出來ず、男子の手に移つてから、それが漸次に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

發達して遂に今日の狀況に達したのである。それ故に、家事以外に於ける女子の實際的作業に關する能力を今日の狀態によりて判斷すべきではないといふことは無論の義である。女子の精神能力が男子に比して劣等であると考ふるは多くの人々の誤謬である。この點から見て、所謂婦人運動が單純なる男性の主權からして女子を解放し、男子の精神高慢のために現はれたる幾多の弊害から女子を解放せむと要求することは正當である。實に女子が幾千百年の間、不當の影響を受けたるがためにその能力の疑はるるまでになりたるは女子のために氣の毒のことである上に、將來の文化は男子と女子との同等の發展を要望せねばならぬことであるから、此の如き見地に立てる婦人運動が合理的のものであるといふことは論のないことであらう。殊に近時の實驗に據ると、あらゆる作業に對する女子の能力が恰適のものとして認められたる以上、女子をして文化作業に關與せしめむとの要求は主要の婦人運動としてこれを公認せねばならぬことである。

婦人解放

この意味に於ての婦人運動は女子の歷史を一新し、將來の女子に對して自由の人格を與へ、男子と同等に文化の作業に關與せしむることを期するのであるから、その結果として、母親及び家婦としての女子の作業はます〳〵その價値を發揮すべき筈である。しかるに、この生物學的事實を度外視して、男子と女子との同等を無制限的に主張し、遂にその身體及び精神をして男子化せしめ、男子と女子との性的差異を滅却するに至らしむるといふことは、不合理であり、又生物學上の危險を致すものである。それ故に、婦人運動の問題を研究するに方りては必ず常に男女兩性の身體及び精神に於ける差異が、人類の發展のために重要なるものであるといふ生物學上の事實に着目し、これによりて適當の判斷

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を下さねばならぬ。それにつきて、余は男女兩性の差異を稍〻詳細に前段に叙述したが、尙ほ一事の特に擧げて言ふべきことがある。それは外でもない、文化の歷史を案ずるに向上的生殖淘汰にありて女子が主要なる地位を占めて居るといふことである。すなはち、健全なる女子が、その配偶者として選擇するものは自己よりも高級の文化を有する男子で、これによりて生殖淘汰の上に影響を與へ、男子の身體上及び精神上の性質を淘冶して以て高等に進ましむることに與かつて力がある。又能才と天才とは人類の文化生活の上に有力の要素を成すものであるが、此の如き天才及び能才の數を增して、その種族の發展を助長するといふことも直接に女子の努力に待つべきものである。すべて此等の事項は婦人解放の問題を研究するに方りて、先づ著目せざるべからざる所の重要のものである。若し此等の生物學的事實を顧慮することなくして、婦人解放を實行するときには、その結果は徒に女子の身體及び精神の上に損害を與ふるのみでなく、人類の文化に對して弊害の著しきものがあらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

月見草

相本まさを女史著

津田敏子女史装幀

三六版頗美本五百五十頁

定價貳圓五拾錢郵税不要

彗星の如く現はれたる樋口一葉以來の天才的女流作家

田山花袋先生は「女が斯う大膽に赤裸々に自分の生活を描いては男の作家は全く其方面に眼色がない」と歎聲されたほど赤裸々に女を告白してゐる。

徳田秋聲先生評

作者が極力描寫しようとして女主人公と其旦那との關係などはモウパーサンの作品にでも見るやうな深刻さを以て極度の寫實主義を發揮してゐる。

田山花袋先生評

殊に女の生活が非常によく書けてゐる。而も澤田が女を斬りつけるあたりの描寫はいかにもうまい。

佐藤紅綠先生評

或數奇な運命に捉はれた一人の女が、今の日本の社會道德の惡い爲め（日本の道德といふものが個人の自由を認めない爲め）段々切つても切れない深みに陷込んで遂々悲慘な運命に逢ふと云ふ著者一流の涙の籠つた小說である。男が女に未練を殘して、一方が逃げようとすればするほど未練を出して女の跡を追駈る、人としての弱點、人間の情緒の絆しの斷ち難い所此點に就て作者は實に非凡の才をもつてゐる。而も正しい道を踏みたいといふ、即ち自己の境遇に反抗しながら男の強い力の爲めに悶え苦しむ女主人公の生活が最も巧みに描かれてゐる。

玄文社發行

東京市芝公園九號地
振替東京一四一七七

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

知識階級同盟論

（中流階級の研究 其三）

法學博士 森本厚吉

一、序言

産業革命以來社會が驚く可き經濟進歩を來す事の出來たのは主として分業の賜である。十八世紀の中頃に一人一日五千本のピンを造り得ると云つて分業の利益を力説した、アダム・スミスでさへ其後更に分業が發達して一人一日一千萬本以上を造り得るに至つた程其利益の大なる事は豫想し得なかつたであらう。蓋し分業を行ふと生産の技術に於て熟練や知識を増加し、時間や器械の利用に節約を行ひ、品質を改良し、發明を促進し、又才能の經濟的使用に益が多くなるから、生産の結果を有利に展開し得る程度の大なる事は、實に驚く可きである。

勿論分業の發達に伴ふて其弊害も次第に多くなるのであるが、現今の經濟界では弊害以上に利益が大なるものであれば、如何なるものでも、總て歡迎されるのである。斯くの如くにして今日分業が殆と極端に發達したのは當然の事である。

分業の發達に伴ふて自然重きをなすのは合同である。分業の結果を秩序正しく總合して合同を行ふ事により、始めて生産の利益が十分に現實され得るのであるから、分業と合同とは同一物の表裏の關係を有するもので、近來分業の發達と歩調を揃へて合同が盛に勢力を占める樣になつたのである。

抑も合同とは宇宙を支配する法則の中最も普通なるものゝ一つである。大は太陽系に於ても、小は微生物に於ても、皆合同が行はれ始めて生を完ふして居る。人類の經濟生活に於ても同樣に合同の勢力を利用するのは當然の事である其こ從つて近來經濟界に合同事業が、分業の進歩と比例して發達する樣になつた。先づ資本家階級に於て之を見るに、資本を結合さして會社を作り、會社が結合してトラストとなり、更にトラストが變形してホールデング・コンパニーの如きものとなり、以て事業の成

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

額は單獨のものに比して數十數百倍のものになつた。是と同樣の事實が筋肉勞働者の間に見る事が出來る。卽ち勞働組合が次第に重きをなし、彼等が單獨に孤立して居る時には、資本家に對して恰かも暴君の下にある一平民の如きものであるが、組合を形成して合同の勢力により初めて對等の地位に立ち得るの光明を認むるに至つたのである。

然るに中流階級に於ては其職業的、地方的、技術的等の方面に夫々分業が行はれて居るけれども、是を統一合同さするのは上流階級者であるから、中流階級の利益增進の爲めには餘り效果がないのである。蓋し今日社會の中堅である可き中流階級が滅亡を來さんとして居る重なる理由の一つは、彼等が經濟進化の原則に反して合同の利益を無視して居る事であらう、故に中流階級も資本家階級や勞働者階級と同じく合同の勢力を作つて競爭場裏に立つ事は最も肝要な事である。

二、中流階級の合同

中流階級の合同は種々の形式を採るのであるが、是を大別すると消極的目的を主とする合同と、積極的目的を主とする合同との二つにすることが出來る。前者は各自經濟生活の發達を計るが爲に、產業又は生活に必要なる物を共同的に購買し是れを合同者に廉賣せんとする目的の爲めに設立さるゝもの、卽ち購買組合である、而して中流階級に特に必要なるは生產者に對しては原料購買組合で、農具、機械、種子及諸原料等生產に必要なる物を大口に購入して之を組合員に安價に分配する事を目的として居る。消費者に對しては消費組合で主として生計に必要なる日用品を大口に購入し組合員に廉價に分配するのを目的として居る。知識階級を中心として居る中流階級に最も必要なる合同の一つは實に此消費組合である。

消費組合の發達は漸く十九世紀の中頃より始まつたのであるが、其後驚く可き發達を見るに至つた。千八百四十四年に英國の田舍町ロックデールで始めて消費組合が設立されてから戰前千九百十四年に至る迄の間に約千四百の組合が出來、其賣上高は八億萬圓に達し、組合員の數は約三百萬人で、若し其家族を算入する時には英國全人口の四分の一に當るのである。モーレーが曾て消費組合は「國家內の國家」とも云ふ可き大勢力を有して居ると云つたのはよく現在の事實を表明して居る註(二)

日本では明治三十三年始めて產業組合法が制定され、其後次第に發達して大正八年末に於ては組合數一萬三千百六で其會員數百九十六萬五千九百人である註(三)其內消費組合と稱す可きものが何程あるかは正確に知る事が出來ないけれども、大部分は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

生產者の爲めに出來たもので、消費者の利益を目的とするものは甚だ尠いのである。故に大いに消費組合の發達を計り中流階級者が此種の合同によりて先づ生活資料を經濟的に購入し小賣商の利益を自ら受け以て生活の安定を計る一助としなければならぬ。

現今小賣商人が暴利を食つて居る事は實に驚く可きものである、今東京市に於ける實例の二三を擧ぐれば「暴利の親玉は水菓子屋で其の通り相場が三十割であるが、五十割乃至八十割の口錢を取つて居るものが數多いのである」註(四)「魚屋は場所によつて著しく相違して居るが刺身の如きは二十割乃至四十割の儲けを得て居る」註(五)鷄屋や菓子屋は十割内外で註(六)細民に緣の深い漬物屋でさへ五割内外は通りで、梅干の如きは百匁十七錢のものを一個(二、三匁)一錢以上で賣るのであるから、十割近い暴利である註(七)

斯かる不當の暴利を小賣商人が占め得るのは消費者の商品に對する知識の缺乏が第一の原因になつて居る、故に若し適當な方法で組合を充分に發達させるならば小賣商は不必要になり、小賣制の打破によりて中流階級は物資の廉價購入、貯蓄の奬勵、或は進んでは共同的精神養成等の組合の目的を達する事が出來て、其利益は實に莫大であらう、而て各方面にかゝる組合が出來た時には其統一機關として中央消費組合が自然に成立する樣になり、其合同は一層鞏固なる者となるのである。

中流階級の經濟的並びに社會的地位の向上を計るが爲めに上述の消費組合が一層進歩すれば其合同が積極的に社會運動を開始する機關となる事も出來る、斯くなつた場合には其組合は一層有利なる合同に發達するであらう。

積極的合同を形成するには消費組合が發達して出來上る場合もあるが、又新らたに特別の組織を作つて、設立當時から積極的目的を標榜する同盟を設立する事も亦必要である。現在我國の狀態では双方の方面から合同力の發達を促す事が適當である。即ち出來るだけ多數に消費組合を設立すると同時に、初めから積極主義の合同をつくり、社會運動開始の機關として中流階級同盟を設立する事も亦止むを得ない事である。

三、智識階級同盟の目的

まだ中流階級問題が發生して居なかつた時代即知識階級の利害が有產階級と同一であつた頃に制定された法律制度は、有產階級に利あつて無產階級に不利である事は當然の事である。夫で今日の如く中流階級が知識階級を中心として獨立しなければならぬ場合には、自己階級の發達に甚だ不都合なる制度や法律

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が存在して居る事に自覺せずには居られず、從て彼等は進んで社會運動を開始しなければならぬ事は既に詳論したのである。

最も勞働者や貧民階級に對しては時代の思潮に促され、又文明國の體面を保つにも必要であるから、諸種の社會政策的又は慈善的の施設が行はれ、或程度迄彼等を保護する法律も制定されて居る。去りながら知識階級はまさか貧乏人の仲間入をして公然と其恩惠を受ける事も出來ない場合も少なく無い。然り知識階級は社會的に相當の體面を重ずる必要があるにも關はらず彼等の富力は到底是れを許し得ないのである。實に現代の資本主義經濟が行はれて居る間は社會はブルジョア階級とプロレタリヤ階級の二つに次第に分離して中流階級は其存在が不可能になり、彼等の生活權さへ奪掠されなければならない狀態に陷つて居る。斯くの如き苦境から彼等を救ひ出し、彼等の個人的及階級的福利を保護し、又增進せんとするのが知識階級同盟の目的である。

千九百十九年四月ロンドンで開かれた中流階級同盟會（ミッドル・クラス・ユニオン）の會長ジョン氏は其同盟設立の目的を論じて次の如く云つて居る。

「自己の經濟上及政治上の利益を保護するが爲に此種の組合に賴るの他に何等方法を有せざる人々を保護せんが爲に中流同盟が設立さる可きである」

而して英國の中流階級同盟が主張して居る目的の主なるものを擧ぐれば

一、社會の凡ての階級の間に相互的理解を與へ、且つ國稅の公平なる負擔を計る事

一、中流階級の受くる不當なる負擔を除去し、法律及產業上の壓迫に對し合同的行動を採り、以て此階級者の利益を保護するに努むる事

一、立法及行政に關する當局の行動を監視し、中流階級の利益が不當に損傷される樣な法律の改正に努力する事

一、中流階級に影響を及ぼす一般的問題を提唱する凡ての人に對しては其利益を十分に保護するが爲に必要に應じ法律の力を用ゐ可き事（註八）

知識階級同盟の成立は今日我が國に於いて必ずしも餘り困難な業ではない、如何となれば元來此種の合同は人の結合であつて、其人々が自發的に合同の必要を感じて成立するところに其興味を有するのである。從つて同盟の成立は先第一に合同者の自覺に俟たなければならない。元來筋肉勞働者や其他の組合が殊に我國に於て失敗に歸した理由は主として各自の自覺なきものを無理に外部から盲從又は其他の勢力者が結合せしめんとしたが爲めであつた事を忘れてはならぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

而して中流階級の中には知識階級が大部分を占めて居るのであるから、彼等が一度合同の必要を自覺し同盟を自發的に形成する樣になつたならば其の健全なる發達を期する事は容易である。前にも述べた樣に中流階級同盟の價値は單に自己階級の保護のみでなく間接には社會全體の爲に利益となるのである。卽ち次第に隔離せんとして居る上下の兩階級を調和する連結環とならねばならぬのである。故に社會全體の幸福增進と云ふ社會的目的の爲にも知識階級同盟の必要を自覺す可きであるから此同盟は個人的及社會的兩方面から設立を促がされて居る事を記憶せねばならぬ。

四、敎育者同盟

旣に詳論した樣に我國十七萬の小學敎員は當然中流階級に屬す可きものでありながら、其所得額は平均一ケ年僅かに七百十圓に過ぎない、從て彼等の經濟生活に於ては貧民階級として實に不幸なる境遇に陷つて居るのである。是れ決して彼等自身のみの問題ではなく、廣く我國民敎育上に重大なる影響を來し、延いては社會全體の運命に關す可き由々しき大事件である。

彼等は其所得に於ては筋肉勞働者にさへ及ばない者が多いのであるが、少くも中等敎育を卒へ、全國民の模範となり又知識階級者としての大任を自覺して居るのであるから、彼等の現在の經濟的地位に到底永く滿足し得ない事は明白なことである、唯彼等は敎師としての社會的體面を重んじ、貧乏に泣きながらも忍耐に忍耐を加へて敎職に從事して居るに過ぎない、勿論我國在來の褒むべき習慣として特に敎育を重んじ敎職を一種の名譽職とし、尠からず敎育者に尊敬を表して居るのであるけれ共、近來經濟的壓迫は無慈悲に激しくなつたが爲に、彼等の地位は經濟的にも社會的にも頗る不安を極める樣になつた。

彼等小學敎員はたとへ戰後物價の騰貴に對して約十割の增俸を受け又最近物價は多少下落したとは云へ、到底戰前の物價に歸るが如きはあり得べからざる事であるから元來不當に低くかつた給料が倍加されたとて、近來著しく向上した生活の標準を支ふる事は容易に出來る事ではない。加ふるに從來重きをなして居つた彼等の社會的地位や名譽の價値が甚しく減少したが上に時代の勢力により自己の生存權を自覺し始めたのであるから彼等の境遇は甚だ悲慘なもので、且つ又危險を感ぜざるを得ないのである。

最近の事實としては米價暴落の爲に農民の多くは非常なる窮地に陷りたる結果、地方財政は頗る苦境に入つた、而して是が救濟策として村費縮小論が起り、其第一着手として小學敎員の俸

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

給減額が斷行され、校長八十圓の月俸が五十圓と云ふ樣な割合で以下全部不法な減額が行はれたと云ふが如き極端な事實が栃木縣に起つて居る貴き其他俸給支拂延期又は强制的に俸給の一部を町村に寄附させるが如き例もありと新聞紙は傳へて居る。若し夫れが事實であるならば實に一種の人權蹂躙と云はねばならぬ。

斯かる環境に處しては自然の結果として合同の勢力を利用して自己階級の向上を計る必要を感じ、先づ以て教員同盟の成立を必要とするに至つたのは、何も不思議な事ではなく、社會進化の一階梯に過ぎないのである。然り彼等は個人としては至つて微弱な者であるが全國二萬五千六百二十九校に散在し居る小學校教員の總數は實に十六萬九千四百六十人であるから、假りに其半數だけが同盟をつくつたとしても其の合同の偉大なる力ある事は私共の豫想以上であらう。

又彼等は既に各地方各府縣に亘りて、教育會其他の會合を組織し、更に全國に亘る帝國教育會若しくは全國教員聯合會等を作りて合同的運動を起す準備を有して居る。今試みに帝國教育會の目的を見るに其第一條に「教育社會の公議を發表する事」とあるが、其當然發表さる可き公議の最も大なるものが未だ顧られずして、單に傳統的教育に關する調査や研究を高踏的に行ふに過ぎないのは、寧ろ新時代の一大矛盾ではあるまいか。

今や全國小學教員が覺醒して自己階級の重大なる任務を完ふするが爲めに必然的に合同の必要なる事を自覺して正當なる方法により社會運動を開始す可きの秋である。先づ十七萬の小學校教員を中心として、次に中等教育者一萬七千人、高等教育者四千人が夫々各部類に於て組合を作り、其組合が小學教員同盟と合同して以て有力なる全國各種教員同盟を成立し得る事が出來たならば其勢力は實に侮る可らざるものであらう。

今知識階級同盟に參加すべき範圍を示せば其重なる者のみにても左の如く大なるもので、假りに總體の三分の一だけの結合であつても、社會運動の進歩に多大の力を占むるものと云はねばならぬ。

大正六年末全國教員數(註十)

一、小學校教員	一六九、四六〇人
二、中學校教員	六、七八二
三、高等女學校教員	三、八〇六
四、實科高等女學校教員	一、一九一
五、實業學校教員	四、五一一
六、專門學校教員	二、二五七
七、實業專門學校教員	八五三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

八、高等學校教員　三六〇。
九、帝國大學教員　九二四。
合計　一九〇、一四四。

五、知識階級同盟の設立と其運動

教員同盟を中心として更に進んで結合す可き團體は、新聞雜誌記者及び辯護士等の組合である。我國には日刊新聞六百九十六種其他三千四百九十一種計約四千種の新聞雜誌がある。是等の新聞雜誌に幾名の記者が從業して居るかは不明であるが、少くも一萬以上を算へる事が出來るであらう。是等階級者が或は口に或は筆に夫々努力を吝まなかつたならば、社會運動の進捗に有效なる事は申す迄もない。而して是に加ふるに法律觀念の發達して居る辯護士二千九百四十三人を以てせば、知識階級として長短相容れて共同盟の勢力たるや偉大なものでなければならぬ。尚以上三種の階級者と同樣に知識階級に屬す可きものは未だ澤山に存在して居るから、次第に夫等の加入を求め同盟の範圍を廣くする事によつて知識階級の各方面を網羅した一大合同勢力を生み出す事が出來るのである。

更に進んで知識階級同盟を中心として各種の中流階級を糾合して中流階級同盟と編成し、一層勢力を擴大し、遂には筋肉勞働者組合の成立及發達を助け、結局精神及筋肉勞働者の結合を起し、以て無產者階級大同盟を作り有產階級と相對立して自己の正當なる主張の貫徹を計らなければならぬ。

英國では筋肉勞働者が第一に鞏固なる組合を作り、其次に中流階級組合が是れに提携して、合同の勢力を大にしつゝあるのである。けれ共我國では事情が甚だしく異つて居つて、筋肉勞働者は甚だ幼稚であつて未だに治安警察法十七條の如き時代後れの法律が存在して居るから、英國の反對に先づ知識階級が同盟を起し、其勢力によつて筋肉勞働階級の向上を計らなければならないのである。

勿論私共は有產階級を全く呪ふものではないが、彼等が資本主義經濟制度の弱點を利用して、不知不識の間に不法に大なる利益を貪つて其資產の大部分を造つたと云ふ事、及現在資本に對する報酬は勤勞の報酬に對して不當に多大である事は明白なる事實であるから、大に彼等に反省を促す事が必要である。而して必ずしも一部論者の主張するが如く根本的に資本主義制度を破壞する事をしないでも分配の公平を次第に得る樣に努力する事が出來る。例へば租稅制度や其他社會及經濟制度を次第に改善して私共の最後の目的を完ふする事は知識階級同盟の任務である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

戰後時勢の變遷著しく思想界は渾沌たる狀態で、新舊思想は絕えず衝突して止まず、一方危險思想の宣傳さへ行はれて居るのである。斯かる時代に中流階級が正當なる要求を提げて同盟を作り、自己階級の保全を計ると同時に上下階級の調和に力を致し極端に低級な下級階級の生活標準を所謂「日本生活標準」に接近せしむると共に、上流階級の奢侈的及怠惰の生活を戒め、彼等をして浪費のない健全な文化生活を營ましむる事を得ば玆に初めて經濟社會は健全なる發達を來して「最大多數の最大幸福」と云ふ理想を實現し得るに至るであらう。

然らば如何なる方法により如何なる組織を以て同盟を起す可きかと云ふ問題は今玆に論ずる事を避けるのであるが、斯かる同盟を組織して共同目的に到達せんとするが如き事は現今囚はれた常識で考へると恰も夢の如き空想として一笑に附せんとする論者のある事は十分に承知して居るのである。けれ共社會進化の原則から打算し又資本主義經濟の進化の傾向が次第に有產階級と無產階級との鬪爭の避く可らざる事を示して居る等の事實から考へる時に、中流階級同盟が成立されて大いに活動する時代の早晩來らねばならぬ事は何も不思議な事ではない。

若し夫此同盟運動が具體化されたる曉には如何なる行動を採るに至るかと云ふに、少くとも次の二ッの者を考へるのである。

一、生活權提唱の結果として起る増給運動、
二、社會の模範階級としての責任から起る生活改善運動、

前者は同盟の目的を達する爲めに當然起る可き積極的運動であるが、後者は自己階級の責任を自覺する事によりて自動的に起さなければならぬ消極的運動である。而して此の兩者共に密接な關係を有するものであるから前者のみを採つて後者を捨つるが如き事があつてはならぬ。

六、智識階級同盟の増給運動

資本主義經濟が行はれ自由競爭が盛んな現代に於て經濟生活を完ふするには必ず勞働力が大であつて生產界に相當の成績を舉ぐるものであらねばならぬ、是れが爲には現代甚だ低級なる生活を向上して、勞働の能率を大にする事が急務である。而して其の手段としては能率的生活の標準を保持し得るに足るだけの所得を得なければならぬ。元來文化生活又たは能率生活と稱するものは奢侈生活と全く異つたものであるが、決して所謂安價生活と稱するものと同一でもない。換言すれば文化生活は一方に於て浪費を戒むる事は嚴であるが他方に於ては能率増進の爲めに又は合理的生活を營むが爲に必要なる消費を吝む事を深く避けんとするのである。從つて其基礎的必要條件として一定

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の所得を有する事が必要である。而して中流階級が一家五人暮しで標準生活を營むが爲に必要とする所得額は一ヶ年二千圓乃至五千圓を最少限度とするにも拘らず現在大部分の國民所得が是れに到達して居ない事は既に詳論したのである。殊に現今知識階級の社會的地位と經濟的待遇との間に著しき相違を生じつゝあるのであるから、彼等が增給運動に注意を拂ふに至つた事は又止むを得ない事で識者の同情に價するのである。

知識階級が如何に體面を重んじ從前の因習に盲從して成る可く「事勿れ主義」を守らんとしても時代の勢力に反抗する事は出來るものではない、云ふまでもなく積極的に增俸運動を開始するが如きは彼等自身も亦社會全體も成る可く避けんとするのであるが、所謂脊に腹は換えられぬのであるから、既に意外の方面から種々の運動が開始され始めて居る。今大正八年度に於ける事實を見るに俸給生活者が起した增俸運動の回數は實に百を超え、約十回の同盟休業迄行はれて居る。其内重なるものを算して見ると、小學教員二十二回、官公吏員四十三回、會社員十三回である。猶之を詳しく說明すれば次の如き增俸運動が行はれたのである。

俸給生活者の增俸運動調(十一)

一、小學教員が起した增俸運動の場所

兵庫縣、東京市、仙臺市、鳥取縣、岡山縣、福島縣、北海道渡島、茨城縣、愛媛縣松山市、大分縣、青森縣、門司市、宇都宮市、愛媛縣郡部、札幌、青森師範學校、愛知縣、松江市、甲府、名古屋市、秋田市、東京府、

二、其他の教員の起した增俸運動の場所

東京私立女學校（教員）、慶應義塾（大學職員）、豐橋私立商業學校（教員）、大阪五中學（教員）、

三、市町村吏員の起した增俸運動の場所

德島市役所、大分町役所、東京水道課、仙臺市役所、京都運輸課、神戶水道課、神戶市役所、福岡市役所、姬路市役所、大阪市役所、岩手縣氣仙郡役所、福岡縣（吏員）、東京市役所、香川縣町役場、大牟田町役場、山梨縣（吏員）、岡山市役所、東京府（吏員）、

四、官吏の起した增俸運動の場所

東京砲兵工廠、東京稅務所、文部省（判任官）、金澤監獄（看守）、東京裁判所（下級官吏）、仙臺貯金局、山梨縣（巡査）、遞信省爲替貯金局（判任官）、東京麴町（巡査）、會計檢査院（判任官）、神戶（大藏省所管官吏）、東京（大藏省所管判任官）、福岡（在住文武官）、東京控訴院（雇書記）、東京專賣局、高崎稅務署、和歌山縣新宮町（官公吏員）、廣島煙草專賣支局、廣島（藝

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

備鐵道事務員)、函館專賣支局、大阪大林區署、大阪煙草專賣支局、神戸鐵道管理局、大藏省(判任官)、海軍省(雇員)、

五、會社員其他の起した增俸運動の場所

東京三井物産會社、日本郵船會社(高給船員)、橫濱取引所、高田米穀取引所、大阪商船會社(高等海員)、橫濱サミユエル商會、長崎三菱造船所、明石町(銀行員)、門司築港會社、大阪(輸出商店員)、日本帝國發布會社、大阪電燈會社、松山市(銀行員)、埼玉縣米穀檢査所、京都市(銀行員)、

六、雜　類

東京(活動辯士)、神戸(活動辯士)、高知新聞社、萩(神職)、名古屋(活動辯士)、基督教牧師、東京(看護婦)、山梨(看護婦)、東京(產婆)、東京郡部(產婆)、東京(俳優)、京都(通譯)、京都(看護婦)、東京相撲協會(力士)、

次に同一年間に出來た教員組合は次の如く多數に上つて居る。

京都教員消費組合、大阪府下女教員組合、大阪市女教員組合、名古屋教員購買組合、大阪小學教員同志會、東京教員互助會、大阪府三島教員互助會、東京私立中學校教員向上會、東京市內小學校聯合同窓會、埼玉縣啓明會(小學教員)、東京府及埼玉縣教員自衞團啓明會、高松中學教員組合、

以上の合同が今日何程引續き存在して活動して居るかは不明である、或は其大部分は自滅して居るであらうが、兎に角、知識階級者が組合をつくつたり、社會運動に從事したりする必要を認め、多少其の經驗を有し居る事を示すが爲には上述の事實は相當に有力なる資料である。

七、智識階級同盟者の責任

權利主張の裏には責任負擔の重任がある。悲む可きは我國民性の弱點として、權利を主張するには相當の勇氣を有して居つても其責任を盡すに甚だ卑怯なる事である。

近來知識階級が當然主張す可き權利が種々の方面から盛に論議される樣になつて、我等は大いに心を強くし得るのである。けれ共知識階級の運動は模範的社會運動である可きが故に殊に重大なる責任が附帶して居る事を忘れてはならぬ。此責任を完ふする事がなかつたならば同盟の目的を達し得ざるのみならず其運動には自然危險性を有するに至るであらう。常に自己階級の責任を自覺し以て正義觀念の上に行動を取り不合理なる手段を排斥する事に知識階級同盟運動の特性を見出す事が肝要である。

責任を自覺したる結果として起す可き運動は一にして足らないのであるが、其最も基本的なるものゝ一としては生活改造に關する文化運動に從事する事である。蓋し此運動の效果は個人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

及社會の能率を增進して、生活を幸福になし得るものであるから、社會改造の根本義となつて居るのである、然るに生活問題は從來科學的の研究が行はれず多く常識論に放任してあつた關係上、如何に科學が進步して社會は著しく變化し、經濟生活は其面目を改めても、社會及經濟の主體である人其者の實生活は甚しく因習に囚はれて科學的改良の行はれた事は實に少く、今猶封建時代と同樣の生活狀態を續けて居るのである。恐らくは世界文明國の中で我國程非科學的な生活を營んで居るものは他に類がないであらう。而して其影響は或は國民衛生の上に或は國民經濟の上に尠からぬ障害を與へて居るのである。例へば我國に於ては歐米文明國に比して乳兒死亡率の大なる事、肺病感者の多き事、勞働能率の少なる事、病氣に罹り易き事等多くは我國獨得の非文化的生活に密接なる關係を有して居る事は各專門家の立證して居る處である。

茲に於て知識階級は先づ自ら進んで實生活の改造を行ひて、國民生活の模範を示し、進んで上流階級の奢侈多き生活の改造を促し、更に下流階級の生活を向上せしめ以て生活の「日本標準」に於て國民生活の統一を計らなければならぬのである。乍去、生活には習慣性が甚だ强力に働くものであるから、數百年の歷史的發達によつてなれる現今の生活を改めて直に文化生活に入る事は其實行に於て非常に困難を感ずるのである。

茲に於て同盟の力を借りて此實行を期せなければならぬ、即ち適當なる方法を講じて先づ此種の問題を調査研究する機關を設け、其目的を達する爲に必要なる規約を作り各自責任を以て共同的に改善に努力し以て範を一般社會に示す可き重大責任を有して居る。

八、智識階級の生活改造運動

永く鎖國主義の下にあつた我國民の生活狀態は孤立的で獨特のものが頗る多い。然し開國以來今日に至る迄著しく變化した種々の事實が示して居る樣に、生活も次第に世界化し行くものである事は明白なる事である。私共は無意味に外國の生活を似眞するの非なる事は申す迄もない事であるが、廣く先進國から生活の長處を採り我國の短所を捨てゝ進步的世界的生活を營事の必要を認むるのである。今一般知識階級が心得て居つて實知識普及運動に從事すべき生活改善の要項を述ぶれば次の如である。

第一、食物に於て是れを見るに、食物の生活に對する職務は人體の細胞組織を形成し又體内に絶えず起る細胞の磨滅を修繕する事と、人類の體溫を保持して活動力を作り出す事である、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

是等の職務を完ふするが爲には、其食物中に必要とする營養物を十分に含有して居なければならぬ。然るに現今我國中流階級の普通食料は甚だ不完全なるもので到底食物の職務を完ふし得て居ないのである。故に知識階級は卒先して科學的食料即ち「安全食料」或は「標準食料」と稱するものを採る習慣を作らねばならぬ。今食物消費の効果を大にして食費の効果を最も經濟的にするが爲め必要なる要點を擧ぐれば

(一)食品の市場價格と滋養價格との區別を明かにする事。元來市場價格は主として市場に於ける需要供給の關係によつて定まるものであるから。食品其物の有して居る滋食價値とは必ずしも同一でない。故に成る可く滋養價値に重きを置いて市場價格の少なるものを擇ぶ習慣を作らねばならぬ。從つて高價な舶來品よりも成る可く廉價なる自國產食品を用ゐ、又はしりものゝ如き珍奇の食品や滋養價値少にして價格の大なる嗜好品の如きは市場から放逐する樣に努めなければならぬ。

(二)食物の選擇は消費者の必要に應じて決定する事。例へば强健にして過激の勞働に從事し、粗食に慣れて居る農民の如きは、高價なる濃厚食品を少量に用ゐるよりも、安價な食品を多量に攝取する方が利益である。或は大人と小人との食物の區別は普通其分量を異にせるのみであるが、特に成長要素を必要とする小人の食物は其種類に於ても亦大に大人と區別されなければならぬ。

(三)副食物の種類を適度に多くする事。我國に於ては主食物を餘りに多く攝取する習慣があるが爲めに胃食の弊害が勘からず發生して居る。適度に副食物の種類數量を大にしなければ必要なる各營養分を適量に攝取する事が出來なくなる。「澤庵漬亡國」註十三の理據も實に玆に存するのである。

(四)食物に關する冗費を少くする事。食料品又は燃料に於ける冗費及調理に關する勞力の冗費等は普通の家庭では非常に大いのであるから、科學の知識を普及して是れをなくする事に努力す可きである。

(五)調理法を改良して科學的に食饌を行ふ事。少くも知識階級の家庭には食品分析表、物價表、其他新式調理法に關する書物等を備へて科學的に獻立を作り廣く普通食料に關する科學的常識を養成し食事の根本的改良を行ふ必要を認むるのである。

以上は單に主なる要點のみを擧げたのであるが、我國在來の食事に對して特に改良を要す可き事は、パン食の奬勵、間食の全廢、奢侈的食物の廢止、及臺所改良等であるが、既に他で論述したのであるから今之を略す註十三

第二、被服に就いて考へんに。先づ衣服の目的が體溫を保持

する事及身體の裝飾として使用する事であるから、其目的を主として現在我國の被服狀態を批判すると改善を要す可き點が甚だ多いのである。

先づ男子の服裝に就いては現今の如き經濟界に處しては到底和洋兩樣の裝服を有して二重に生活を營むが如き浪費は許されないのである。而して大いに活動をなさねばならぬ中流階級に於ては、和服を用ゆる事は不便であるから洋服を專用するのは當然の事である（第十四）

婦人服に於ては少しく男子とは趣を異にして居るけれ共到底在來の服裝では滿足する事は出來ない。其改良の要點を擧げると

（一）衣服の經濟的使用を奬勵する事。頗る高價で併も一年僅かに二三回より着用しない樣な美服を多數に簞笥の中に死藏するが如きは甚だ不經濟なる惡習慣である。故に成る可く實用に適する時着を手輕に使用する習慣を作り浪費を省く事を努めなければならぬ。

（二）健康及活動に便なるものに改むる事。我が婦人服が此點に著しき缺點を有して居る事は何等說明を加へる必要がない。

（三）優美性を發揮し得るものなる事。如何に活動に便であつても婦人の特性である可き優美性を害するが如きものは衣服の目的を達しないのである。此の點に於て所謂改良服の如きものは大いに注意を拂はなければならぬ。

（四）色合の配合を重ずる事。高價なる美服によるよりも簡單で廉價な物の色の配合をよくして美感を大にする事に注意する習慣を養成しなければならぬ。

（五）耐久性の强き物なる事。單に步行にさへ適しない樣な破損し易い衣服は廢止して耐久性の强いものに改めねばならぬ。

以上諸要項を具備した改良を行ふに當り、我國の服裝に於て特に改善す可きは

（一）男子及子供は全然洋服を單用する事

（二）過渡時代に於ては袴の使用を一般婦人に奬勵する事

（三）丸帶を廢止する事

（四）下駄又は草履を廢止して靴を使用する事

（五）機械縫を成る可く多くして手縫の勞力を出來るだけ少なくする事等である。

第三、住宅に於て根本的に改む可き事は、先づ住宅の構造に於て客人本位でなくして家族生活に便なる樣にしなければならぬ。是が爲には在來の習慣である玄關や客間等を最も大切なものとし、每日使用する居間や臺所の如きを輕視する習慣を根本的に改む可く、若し費用の點で止むを得ない場合には寧ろ玄關

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

や客間を廢止しても居間、食堂、客處等を完備する事を怠つてはならぬ位の見識を知識階級は有して一般社會の住居に關する蒙を啓かねばならぬ。

今改良す可き主なる點を擧ぐれば

(一)一層堅牢なる家屋を建築する事
(二)疊を廢して板床を用ゐる事
(三)障子、襖、雨戸を排して扉戸、西洋窓等を用ゐる事
(四)一家の間取を改良して家族生活本位にする事
(五)椅子テーブルを使用して座居を廢する事
(六)アパートメントの如き共同生活を行ひ得る住宅を奬勵する事(註十五)

第四、食衣住の外に改善す可き最も主なるものは社交に關する事である。我國の家計を歐米文明國に比して特に著しき相違を見るのは、中流階級の社交費である、例へば米國の標準生活に於て食衣住以外の費用は收入の二割四分であるが、我國では同程度の生活に於て三割八分の多きをなして居る。此相違を起す原因の一は我社交費が非常に大なるが爲である。元來社交は樂しきものである筈であるが、我國に於ては快樂よりも義理が重きをなして居るから却て苦痛を感ずるのみならず、其經費に於ても頗る多額を要するのである。例へば宴會費、贈答費等の如き時間と金のかゝる事は夥だしいのであるが、眞の社交の精神は存在して居るので無いから、全く時代の精神を裏切つて居るものと云はねばならぬ。

知識階級同盟論に於て、敢て生活問題の如き甚だ地味なものにまで論及したのは、必ずしも無意味な事ではない。之れ現今盛に論議されて居る社會運動の問題が、多くは現在を無視して極端に走れるものでなければ、甚しく皮膚的のもので、改造論の心髓に觸れて居ない事であり、且つは斯る生活改造運動の成功が知識階級に於て初めて望み得られる事を信ずるが故に敢てこれをなしたのである。幸に今日此の基本問題が稍や社會の注意を促して居るにも拘らず、今猶之を常識論に任ずべきものとして、葬り去らんとする者が多くあるのは、全く實生活に及ぼす習慣の勢力が頗る力強く働いて居る事を證明するのである。

確に習慣は第二の天性をつくる程に偉力を有して居るものであるが、眞理は人を自由にする一層力強い作用を有して居る。故に知識階級は習慣力の萬能を信ずるが如き愚を演ずるものではない。一度現今の生活狀態が頗る非科學的で生活能力に有害なるもの多き事を自覺するならば、たとへ數千年の歷史を有するものでも斷然改造するの勇氣を持たねばならぬ。今や凡ての事物が駸々として世界化せんとして居る時であるから徒らに保

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

守的習慣に囚はれたる非文化生活に甘んずるのは社會進化の原則に反する甚しきものと云はねばならぬ。

九、結　論

上述の理由に依り知識階級は玆に覺醒して强固なる同盟を結び、自己の努力と、合同の勢力に依りて、根本的に生活の改造を斷行し、能率多くして幸福の大なる生を營むの範を社會に示す可き運動に從事すべきである。而して之と同時に彼等は增俸運動其他の中流階級社會運動の目的を達し得んが爲に大に自重して萬難を排して事に當る覺悟を有さなければならぬ。今や社會は次第に明白にブルジョア階級とプロレタリア階級に分裂して、中流階級は其勢力が漸次衰退し、其存在さへ危ぶまるゝの秋となつた。若し夫現代社會を自然の成行に任して置くならば、ブルジョアーとプロレタリアートの致命的鬪爭に終りて社會の破滅を來すのみであらう。過去數ケ年に於けるロシヤの社會變化の事實は我等に深く敎ふる者がないであらうか。ボルシエビーキ革命は私共に取りて決して對岸の火災視すべき者で無い。勿論社會進化の一行程として或程度の鬪爭は免がれないであらうが、私共の切なる望は最少限度の破壞に依て新時代の革命運動を成就し、「最大多數の最大幸福」を實現したい事である。一部論者はかゝる希望は無意味な夢物語として侮蔑するであらうが、私は知識階級を信じ、其同盟の力は上下階級の調和を來し得る事を疑はないのである。知識階級は一種の無產階級であるから、彼等が筋肉勞働者階級と結合し、以て無產階級大同盟を形成する場合には、所謂プロレタリア運動は一層秩序が保たれて、危險性は益々少なくなる事と思ふ。假令有產階級と相對立して自己の立場を明かにする事があらうとも、其鬪爭は建設的目的を主とするのであるから、健全なる社會を建設するに止を得ない事である。私は斯の如く考ふるが故に現今行詰つた文化の下に不安を感じて居る社會を救出し得るものは知識階級同盟であることを信ずるのである。然り現代社會の救世主は中流階級同盟であると論斷するに逡巡するもので無い。斯く論ずるものの、其同盟が近き將來に果して成立して其使命を全ふするや否に就ては何等の豫言をするのでは無く、唯今から其準備をすべき必要を社會に訴ふる事に止めて此稿を終へる。（完結）

註（一）Gide: Economics. P. 156

註（二）「經濟資料」大正九年一月號

註（三）大正十年國民年鑑三二八頁

註（四）東京每日新聞大正十年一月二十五日號

註（五）同上一月二十六日號

註（六）同上一月二十九日及二月六日號

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

註（七）同上二月二日號
註（八）「文化生活研究」時報四〇頁
註（九）東京每日新聞大正十年一月十八日號
註（十）日本帝國第三十八統計年鑑に依る
註（十一）大原社會問題研究所編「勞働年鑑（大正八年度）」に依る
註（十二）中央公論大正九年八月號森本厚吉論文
註（十三）森本厚吉著生活問題一九〇―二一五頁
註（十四）同上二九八―三〇九頁
註（十五）同上三八一―三九二頁

肉は穢れ、大食は害

醫學博士　二木謙三

世の中には美食を以つて勢力の本源活動の基礎と考へて居る人が、仲々多いが、却つて粗食が活力を增進することを信じて居る人も少なくない、其の間の議論が種々あつて讀者をして取捨に惑はしむる、併し能く〳〵分析して調べて見ると取捨に惑ふこともない、一體人は混食の性を有して居る、單に場合を考へないで一つの議論を以て全般を律しようとするから疑惑が起るのである、所が人類の生活狀態は甚だ複雜で千差萬別であるから、美食とか粗食とかの一議論を以て全般を律することが出來ぬものである、大食や小食論も同樣である、其は皆個人個人により又場合場合により異なるものであつて、結局一定不變萬般に押し當てゝ誤りなき方法と云ふものはなく、つまり其々の條件によつて種々の適法があるので一定することの出來ぬものである。

〔適食〕肉食は鷹に適し、蟲食は燕に適し、魚肉食は鵜に適し、穀食は鷄に適する如く、人類に於ても概して云へば緯度及び風土によつて食物が異なつて、北極に近い「エスキモー」人種（北緯六十度以北）には肉脂肪食が適し、北部歐米人（北緯五十度內外）には肉菜食が適し、溫帶の海岸地方（北緯四十度以南）には穀菜食が適し、本邦の如きは此の部に屬し、更に南方熱帶地方には果菜食が適する、其れであるから猥りに澤庵亡國論など

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は許されない、併し此の論には外に取るべき意義もある、又同じ本邦人にありても內地米は內地人に適し臺灣米は臺灣人に適する、山地の人には穀菜食が適し、海濱の人には穀魚肉食が適する、一様では決してない、詰まり其の土地に生ずる食物は其の土地に棲住する人に適する様になつた、併し住所を轉ずれば又其の行く先の食物が適する様となるから之れは決して一定不動性のものではない、併し其人によつては土地が變つても之を換へ得ない人もあるが、其れは少なくして多くは之を換ふることが出來る、併し本國にあつて他國の食を常食とすることは一般的には適せぬものである。

〔滋養物〕何んな美食で口には旨しと雖も適せざれば毒で、何んな粗末に見えても適すれば滋養物であるから、食物其の物に絶對の滋養物と云ふものはない、適食が卽ち滋養物である、北部歐米人及北部支那人には肉類は滋養物であつて、本邦人には穀菜食は滋養物である、白米は精製して美果の様であつても鷄には毒で、玄米は寧ろ彼に適する、籾米は粗末の様に見えても鷄には最上無上の適食であ　て籾殼のある方が却つて玄米よりも遙かに滋養物である。

〔完全食〕大根や菜の葉には滋養分が少ない様に考へる人もあるが、其れは適する者に向つては完全食であつて、其から馬や牛の肉も出來れば、脂肪も出來れば、乳も出來れば、骨や角や歯も出來れば腦や神經も出來る、籾米や玄米も鷄には完全食で其れさへあれば鷄には外の食物がいらぬ位で、其から鷄の肉も羽も目も嘴も骨も內臟も又卵も出來る、只籾米さへ與ふれば毎日又は隔日に卵一個づゝ出來て其の卵一個の內には雛の總ての組織になる成分を含んで居る、卽ち玄米や籾米は完全食であつて白米は之に反して不完全食である、其の證據には白米のみを鷄に與ふれば鷄が病氣になつて仆れるのである、人も完全食を選ばねばならぬ。

〔肉類は不完全食〕肉類は滋養物だと誰でも考へて居る様であるが其れは不完全食であつて其のみ食して居ることに適する者は甚だ少ない、歐米人と雖も肉のみでは適しないから蔬菜果物を以て之を補ふて居るだけ取りも直さず不完全食である、犬と雖も肉ばかりでは適せぬので彼れは骨を噛んで之を補ふて居る、猫が鼠を食するにも鼠の肉許りを食する譯でない、皮も骨も一緒に食して其の不足を補ふて居る、日本人などに他のものを與へずに肉のみを日々三度食せしめて居ると段々痩せて、二三週間にして肉食はいやになり終に噛んで咽に落されなくなる人が多い、肉は不完全食であつて他の補食を要求する、肉は本邦人には單に副食として取るのみで主食としての價値はない、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

而して又時として副食としても害あることは屡々である、決して澤庵亡國肉興國ではない、併し歐米人には本邦人より遙かに肉が適するが其とてパンや野菜果物を副へねばならぬ程に完全とは云へぬ、固より肉食主張者と雖も純肉食の意義ではないとは申す迄もないが、穀類蔬菜は之に反して本邦人には遙かに完全に近かい、山地の人、農家の人、僧侶(今日は一部)は其のみにて完全に生活し且つ長壽をする。

「部分欠亡又は部分饑餓」肉類には蛋白質が偏つてカルシウム分が缺亡して居つて、即ち之れが部分缺亡で之れのみを以て養へば部分饑餓を起す、部分饑餓の適例は犬をソツプ殼の肉で養ふか、又は鷄を糠を去つた白米で養へば、部分饑餓を起して外見瘠せゝせなくとも元氣は衰へ、食慾を減し、不健康となる、之れにソツプを添へて與へ又は白米ならば糠を添へて與ふれば元氣恢復する、即ちソツプや糠の中には動物に必要な成分が存在する、即ち天然が與へたものは完全か又は完全に近いが人工を加へて部分缺亡に陥れてはならぬ、例へば鹽も米も水も食物の調理も過度の精製によつて却つて部分缺亡の不完全物となる！過ぎたるは及ばざるより惡しいのである注意々々。

「肉食は穢れ」とに本邦に於て昔よりよく唱へられた事であるが、何か理由があるかとなれば、第一肉は消化が惡い、併し本邦人中にも割合に肉の消化がよい人もあるが多くは惡い、併しッ壯年者は一般に消化力が強いから、野菜でも肉でも何でも消化して何れが消化が善いやら惡いやら分らぬが、肉を小兒や老人や虚弱者に與へて見ると、水落につかへたりお中がすかなかつたりする事がよく分る、即ち含水炭素ならば四時間に消化する所、肉ならば八時間を要する、其の消化の終る迄は他の作業が完全に營まれぬもので例へば腹が張ては勉強が出來ぬのは其例で、血液は長く胃腸に多量に呼びつけらる、斯の間元氣の消耗するもので、精神的能力も減退する。

「肉は穢の二」次に肉類は大食して不消化又は半消化に終る時は毒となりて急性又は慢性中毒を起さしむる、完全に消化すれば有效無害であるが、不完全消化の場合は有害無效である、即ち人は自分の腸内にあるものに中毒するによつて自家中毒と稱するもので、急性の場合には高熱を發し、頭痛、食慾不進、皮膚に蕁麻疹を來し、粘液に充血を來し、組織の抵抗力を弱くして諸種の病氣を誘發せしむゝ、即ち潜伏して居つて抵抗力の爲め押し付けられて居つた病氣が一時に頭を上げることゝとなる、即ち咽頭加答兒、鼻加答兒、氣管支加答兒、肺炎、肋膜炎、腹膜炎、腎臟炎、腦膜炎、肺尖加答兒、等を誘發せしむる、即ち眞の原因は別にあるが之を誘發することになる、慢性中毒の時は

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

多くの人は知らずに居る間に、數年又は數十年の間に毒作用が集積して所謂老人病を起さしむる、直接の關係なき場合にも間接に惡影響を與へて、脈管硬化、腦溢血、腎臟萎縮、尿毒症、僂痳質斯、神經痛、喘息、胆石、膀胱結石、慢性頭痛等を起さしむる、小量に食してよく消化すれば其の憂はないが多くは過ぐるのであるから、又肉類などは本邦人は食せずとも結構に濟むのであるから古人識者先覺者は後世を憂へて『肉は血を濁す四足二足は穢れである精進すれば無病長壽である』と云ふたものである、魚類も多くは肉に準ずべきものである、只鯛鯉鰈等の白身の魚並に川魚等は許されたもので、赤身の魚並に皮の光つた魚は肉と同じく中毒し易きものであるから禁ぜられた。

〔肉は穢れの三〕 人間の身は常に「アルカリー」性の反應によりて生活機能が營まるゝものであるが、活動した結果は酸性と變じ、其の酸は常に血液中の「アルカリー」によつて中和せられて過剩の「アルカリー」があれば又働くことが出來、其れがなければ疲勞の恢復が困難となるものである、卽ち體內に「アルカリー」過剩であれば忍耐力も強く、疲勞も少く、且つ疲勞から回復することも早いが、「アルカリー」減少する時は疲勞し易く疲勞より回復することが遲いのである、野菜類は消化すれば「アルカリー」性の強きものとなつて宜しいけれども、肉類は消化すれば酸性のものとなつて面白くないのである、卽ち肉類はよく消化すれば結構な滋養分となるにしても、尙ほ且つ酸性の物質となることが遺憾なものである、卽ち肉食の人は疲れ易く又疲れから回復することが遲く、菜食の人は忍耐力強く且つ疲勞から回復することが早いのは實驗の成績、理論並に實際經驗共に一致することである、肉食の後に「サラーダ」や果物の要求は其れであるから自然である。

〔肉は穢れの四〕 近頃は「カルシユウム」が大切である、「カルシユウム」缺亡が恐ろしい、「カルシユウム」注射が必要とか種々に唱へらるゝ、「カルシユウム」は肉類には缺亡して居つて野菜類に充分にある、卽肉には一萬分の一又は其の以下の微量しか含まぬが野菜類には平均一萬分の一五乃至二〇を含んで居る、「カルシユウム」の少ないもの肉類や白米(玄米に多し)を滋養物と誤認して之を食してイザ缺亡だと云つて注射をするなどは贊成は出來ない、折角天が與へた澤山に含むものを選んだらよいのである、注射は其時だけで長く效力の續くものでない、食物より入れべきである。

〔肉は穢れの五〕 肉類には「プーリン」と稱する極微量の物質を含んで居る。此物質は少量であるが體内に入つて尿酸となつて腎臟や其の他の組織に有害に働くものである、此の物質は、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

量即ち千分の一内外の割りに含有するものであるが肉類の所謂臓物には比較的最も多く、真の肉の中には之に次ぐもので、野菜類には非常に少く、米や果物中には全くないものである。此點から云へば肉は不利であるが、其他肉を大食すれば必要以上過剰の蛋白質に分解して尿酸や尿素の量が多くなり、血液に過剰に這入つては害となり、之を排泄するのには腎臓過労を起す様になる、それであるから腎臓炎患者には肉食を禁ずることになつて居る、而して野菜には斯くの如き害的作用がなく、却つて利尿の作用がありて體内に出來た毒物をも排除する働きがある、即ち精進食は心身を清くし、肉類は穢である、「清き」は「氣よき」で「元氣のよき」と「穢」は「氣枯れ」で「元氣枯るゝこと」である。

此の關係は肉類を適食とせざるが邦人には適切であつて、肉類を適食とする歐米人には左程穢れと迄言はずともよき關係にある、其れでも近來肉多食の害は歐米でも漸次多數の人から云はれて居るのである。

「體力作業者には肉」 肉類は消化に長き時間を要し、俗に腹のすき易くない食物なれば、此の點に於て兵士や力作業者に適して居つて精神作業者には適せぬものである、然るに實際は往々逆で、多くは精神作業に從事する中產階級以上には肉食多く、以下には肉食少なき狀態で、兩者共に宜しくない、併し力作者にも肉の過剰は却て作業に對する忍耐力を弱くする爲めに宜しくない、又力作者と雖も穀菜食で充分である例は農家などに見ても分る、穀菜食に消化はよく無害であつても大食は害であることは申す迄もない。

「年齢と肉食の利害」 年齢十六才より四十才迄の間には肉も許さるゝ、十六才未滿と四十才以上のものには肉は特に適しない、青年壯年者は一般に運動も盛んに消化力と排泄力も强い爲、大量又は過剰ならざる限りは害となるべき肉も害にはならぬがそれでも大量は常に害である、少年老年には一般に之を避けたい、婦人には年齢の如何によらず一般に肉を避くるが宜しい、結局獸を追ふて之を屠ふるだけの體力と勞働との報として肉食が與へらるゝもので、體力弱く勞働の少ない人は肉食の資格なく又肉を要求する權利もなきものである、肉食したければ其に適する運動をするがよい。

「菜食者は長壽」 長壽に菜食者の多きことと單に日本の實例のみに止まらず歐米に於ても然りである、肉食者特に肉大食家に長壽の少なき理由は前述の老人病を起し易き爲めである、菜食者特に穀菜食且つ小食者に長壽者の多き理由は老人病に罹らないで濟むからである、長壽とて壽命は延長し得べきものではない、唯人は天壽を故意に短縮しつゝある故に、其の惡習を避け

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て其の天壽を全ふするが卽長壽である、尙ほ大食と短命小食と長壽の關係もあるが時間の關係上之を略するが、最後に一言する、食の種類並に食の分量の撰擇は決して神經的に綿密に絕對になす必要あるものでなく、總て可なり大なる範圍に移動し得る且つ融通の利くものである、要は各人各個が之に適して遺憾なきや否やにある、必ずしも新派を追はず、舊習に泥まず、要の要は適食を適量に取る事にある、其の適と不適とは兄弟必ずしも同じからず、個人により年齡により季節により作業により性により健否により動靜により移動すべきものであつて、一定不變の窮屈なものではない。

【最後に】近來スタイナツハの若返り法などの說が盛に行はれ新しきを好ふ心が之を歡迎して居るが、そんな反自然の方法で事が旨く行くものではない、骨折らずによき結果は來らぬ、注射よりも施術よりも日常の注意が最上で安全で無害である、今日の人の多くは氣が短かい、日常の謹みと勤めは面倒で一攫千金の富を得んとして居る樣に、衞生法も同じ向きに傾いて居る、自然に歸れ、徒らに勞する勿れ！

原内閣に代るべきもの

文學博士　三宅雪嶺

○

幾年前に電氣娘といふものが來た事がある。落語家ブラックが通譯し、いろ／＼力業を見せたが、其中で見物人との力比べをした。椅子を持出し、何人でも見物人の押せる丈け押させ、女一人で之を逆戾しするのであつて、幾度も見事に逆戾しをした。實は何でもない事、幾人も寄つて集つて一つの椅子を押せば、力が纏らず、右へ行かうとし、左へ行かうとし、ブラ／＼する所をば、女が右へ押したり左へ押したりするのである。身體に電氣がついて居るからとの振れ廻しが嘘となり、何處かへ逃げて了ふた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

今の内閣に幾許か此電氣娘に似て居る。種々の方面から攻撃が起り、手厳しい問題が幾つもあるけれど、それで落着いて位置を維持して居り、原首相は平氣の平左、不死身と稱せられる程、何があつても感ぜぬらしい。衆議院で反對側からする攻撃に可なり強いのがあり、責任を免かれなくても、何分にも二百八十名の老大黨に加ふるに先天的御用議員を以つてし、多數で押へつけ、議論さへ十分にすゝ事を許さぬ。三分二に達せぬのは未だしもの事、之に達すれば何をするか分らぬ。反對する者あれば片々から除名を以つて脅かすであらう。今はそれ程でなけれど、殆ど極端に多數の威力を發揮する。

○

斯くなるには、反對側で一致を缺く所が與つて居る。憲政會と國民黨と無所屬と、同じく反對するにしても、肝要の所で一致せず、割合に一致する時でも焦點がボヤける。中に隨分急所に中る事あれど、味方らしい所から急所を外らして了ふ。憲政會で多年領袖顔して居つた者を、僅かの事で除名するなど、勢の程が察し得られる。前からの關係であるにせよ、大同團結といふが如きの正反對を示す。自分に都合の惡い者を撥ね除けようとし、其方に力を分けて居るので、當の敵は一向手應へを感ぜず、笑つて應ずる事が出來る。步調を整へようとして却つて之を亂すを免かれぬ。

貴族院は一應衆議院と同じく、研究會及び交友俱樂部が政府を援け、多數を占めるが、交友は格別、研究會は十分に懐柔されたやうで必ずしも左うでない。他の各派に至つては、内閣に反感を抱く事、昇格問題について三十八名の差で敗れたのでも知れる。官吏議員を集めて尙ほ左うである。貴族院が斯くまで反對の勢を示しては、半數に達せずとも、内閣を動すに足るのに、動かし得ぬのは、攻撃の方向の一致せぬに出る。内閣を攻撃するの意か、文相を攻撃するの意か、それさへ分らぬ。文相を攻撃し、之を射落せば内閣も自ら倒れると考へたのか、内閣を攻撃するならば、他に幾らも問題がある。後にも問題を提起した。衆議院でも問題の急所に觸れば、少數を以つて内閣を動かし得る譯であつて、何分にも多數決が幅を利かす所、多數決で敗れればそれ限りとなる。平素多數政治といふを標榜する丈け仕方が無い。貴族院は多數の非を說き、多數の横暴を許すべきでなく、是を是とし非を非とし、道理によつて決すべきものと主張する。貴族院で内閣の急所に觸れる事を明かにせば、内閣で考へねばならぬ。

○

所で急所に觸れさうで觸れず、次から次にと問題が出て、或

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る問題の急所に觸れべき所を他の問題で效力を減じてしまふ。內閣を攻擊するの意ならば、如何なる問題が最も重大であるかを考へ、他の問題を其附屬にすべきである。昇格問題は面白い問題でも、內閣の急所に觸れぬ。文相の急所に觸れるさへ疑はしい。虛僞ならば虛僞、人を欺く言行の明白なるにおいては、明白に責むべきであつて、二枚舌といふが如き、裏店の喧嘩の如き言葉を使ふべきではない。眞面目の場合に滑稽となる。文部攻擊は割合に盛んであつたが、何分にも鋒先が亂だれ、名人が切り付ける趣がない。如何にも稽古中の人か、足腰の不自由な老人といふ嫌ひがある。それも其筈、一廉教育通となつて居るのは、曾つて文部に居り、香ばしい事のない手合である。文政に經驗があるに相違ないが、經驗あるといふ丈けでは、善くもなく惡くもない。善い經驗なら善く、惡い經驗なら惡い。所謂經驗は果して善い經驗か何うか。餘り立派な口の利けぬ方でないか。文相を攻擊するならば幾らでも途がある。教育通連の敢てする所は、平家側の戰のやうで、面白くても何だか齒痒中に埒も無いのがある。

○

風致問題として二枚舌と滿鐵問題とは何れが重いか。滿鐵についてもいろ〳〵質問を試みたが、思ひ切つて之を攻擊するの決心があつたか何うか。原內閣を攻擊するならば、利益問題を以つてするに如くはない。政黨は兎角政商と惡因緣付きになろうとする。反對黨は惡因緣を付けやうとしても出來ぬが、政府黨は付けずに置かうと思つても付き、付けやうと思へば尚更らの事、何處まで深味に入るか分らぬ。廣く世間に知られぬ丈けで、訐き出せば鼻持ちならぬ程多い。敵を射れば先づ馬を射よ、政黨內閣を攻擊しようと思はゞ、利益問題を摘發せよ、大綱疑のある所は必然と斷定して誤りない。唯證據を握り得るや否やが分り難い。司法官が十分に活動せば、證據を握り得るに定まつて居る。儲け得る所　儲けぬやうなお上品なものは、今の政黨幹部に居らぬ。滿鐵の如き、內閣に致命傷を與へるに足り、他にも之に似たのが幾つもあつて、貴族院で之を振翳すに至らず、昇格問題で懸命に鬪ふなど、初めから陣容が亂れて居る。

○

少數側で內閣に對し如何にすべきかゞ定まつて居らぬ。本來貴族院議員が貴族院の性質を承知して居るかと云ふ事からして疑はしい。彈劾に類した事を云ふさへ、貴族院でかゝる事を云ふは寔に遺憾至極と云ふが如き、何を意味するか。苟くも自ら信ずる所を述べるに、貴族院と衆議院との差別無いではないか。何か上品に構へねばならぬやうになつて居るが、上品なら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ば上品でよく、本質の何處に在るかを明かにせぬのは、上品でも何でも無い。正面から內閣攻擊と出掛けては不穩當とするのであるか。正面からするのが不穩當であつて、側面からするのが穩當であるか。言葉に露骨と圓滑との違ひあるは分つて居る。何れにしても目的を示さねばならぬ。貴族院で云ふ所、本人の意が何處に在るか、明白を缺く事がある。原首相が謎といふのはそれである。時として謎もよからう。謎を普通の事としては事が間違ふ。貴族院は謎を懸けたり、懸けられたりする場所でなからう。云ふべき事は明白に云ふべきであり、唯云ふ者自ら何の了簡か明白ならぬ事なからうか。

○

何れにしても貴族院で原內閣の利益問題を追究したならば、退引きならぬ姿となり、少數も多數もあつたものでない。所が斯かる問題を輕んずる形あるのは何であるか。今は滿鐵問題が司法に移り、早晚何等かの解決がある。內閣の運命に關しさうであるが、貴族院が昇格問題を喧しくし、割合に利益問題を靜かにするのは、過去の習慣よりするのでないか。之れ實に官僚及び貴族院に於て、今更らの如く、篤と考ふべき所である。昔からの事であるが、明治維新以後でも、秩序の觀念が強く、正義の觀念が弱い。秩序を維持するが爲め、正義を踏みつけるを蔽はぬ跡がある。日本の風俗に相應に見るべき物あるが、缺點の中に之を擧げねばならぬ。秩序を維持する事を先にし、正不正を問はぬ。安寧秩序を紊す事が大罪惡であつて、不正を働く事がそれ程の罪惡でなく、或は當り前の事とする。お上の御無理御尤もといふのが、寧ろ徹底的に滲み込んで居る。お上に於て左樣心得、我が無理を聽かぬのが間違つて居るとする。警察に拘引された者が何事かを云へば、貴樣理窟を云ふかと云ひ、理窟を云ふべきものでないとするのは、一般政府關係者を通じての事である。由つて來たる所は、正義の觀念の弱いに在るでないか。世界の何處でも正義の觀念が必ず強いと云へぬけれど、日本の文化を以つてして、比較的其觀念の弱いのを打消し難い。官僚が自由民權運動を憎んだのは、秩序を紊すに在つて、誰でも秩序の維持に勤むれば宜いとする。貴族院議員は此習慣によつて居り、何事よりも秩序を紊すのを恐れる。從來政府關係者が幾多不正の事をして居つても之を怪まず、而して自ら手を不正に觸れて怪まぬ。滿鐵問題を輕く觀るのは、正不正の觀念の弱い所からして居り、利益問題となつては貴衆兩院を通じたのがいろ〱ある。證券交換所の如き明かに之を示す。政府關係者が不正の利を得る事は、政府に於ても、貴族院に於ても、世間の問題とならぬ限り差支へないとするの狀態である。少しでも秩序

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を紊すの恐れあるものは嚴重に取締り、不正の利を射る者は外に知られぬ間、當り前の事とする。滿鐵の不正事件が次第に大きくなつたのは其れからであつて、之れ位の事は當り前として不正の事をなし、次いで之れ位の事として更に不正を大きくし、次第に大きくして怪しまぬのである。前興業課長が之を暴露しさへせねば、更に不正が大仕掛になつたらう。或は秘密にする事を考へる丈け、いよ／＼不正を大きくするかも知れぬが、兎も角も今は問題となり、世間の注意を惹いて居る。

○

滿鐵問題がいよ／＼內閣に關係ありと知れては、內閣が進退を決せねばならぬ事になる。不正が秘密裡に在る間は可、世間の問題となつては不可と云ふのは、要するに秩序第一からのことである。世間の問題となつては、秩序を維持するに困難を來すから、何とか處置せねばならぬと云ふやうになる。世間に知れるので進退伺ひを出すなど皆左うであつて、不正は秘密裡に於ても爲すべきでないといふ信念が薄い。實に之は從來の習慣であり、漸次改まり來るものと見ねばならず、又多少改まるの兆候がある。唯成るべく早く改めるやうにありたい。議會では正不正が問題となる事少く、司法權の發動を待ち、始めて重大なる問題となる。正義の觀念の弱いが爲め、監獄に入らねば敬意を拂ひ、收監されると共に前科者扱ひにす。收監されたとて、一不正と限らぬが、監獄を以つて正不正を決するによる。裁判所で決定せぬ以上、不正漢も大きな顏をし、斷じて心に疚しくないと稱し、其中に引つ張られたりする。山本內閣の下、シーメンス事件の起つた時、原內相は風說が何であるかと嘯いた。其內相は現に首相として、滿鐵問題につき略ぼ同樣の口吻であつた。今後如何になるかゞ分らぬにしても、前と略ぼ同樣の運命にならぬと限らぬ。

○

原首相は內閣の維持について頗る考へ、貴衆兩院に多數を制し、何事があつてもビクともせぬと云ふの體たらくであつて、一四十四議會も斯くて經過したが、司法官を制肘し得るか何うか。今の所內閣は之れで一先づ進退を決せねばなるまい。前からの例で滿鐵の爲めと云はず、何等かの名義を以つてするであらう。議會中問題が多く、多い爲めに何れが重大かゞ分らぬ。重大問題と云ふのが重大であるに拘らず、他にも相應に重大なのがあり、注意が分れて攻擊の鉾が鈍り、內閣はかの電氣娘と同じく、好い頃にあしらつて居れば、それで支へる事が出來る。併しいよ／＼司法問題となつて何とか形がつかうとする。原首相は事の困難にならぬ間に、一應明け渡さうと考へようが、反對黨に明

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

け渡すが如き決してたからう。反對黨を嫌ふよりも、從來の狀態で斯く　なくても濟み、又斯くする事が出來悔くなつて居る。若し反對黨の首領を奏請し、これで新内閣が成るとせば、衆議院を解散して、總選擧で新政府黨が多數を占め、政友會が打擊を蒙るを免れぬ。原氏は内閣の明け渡しを辭せぬが、政友會の打擊を忍ぶ事が出來ぬ。その打擊は必ず頗る大であらう。特に二百が百に減じた。二百八十が如何になるか分らぬ。原氏の去るのは、一先づ明け渡し更に出直して來るつもりであり、再び位置を占める事の出來ぬやうな事を爲さうとせぬ。今の所反對黨の首領を奏薦する事を望むのは、好過ぎる事であつて、選擧取締法の改まらぬ間、全く仕樣が無い。政府黨が必ず勝つ事になつて居る。法律で運動費を制限し、勝手な事をする範圍を縮めれば、何程か選擧を公平にし得るが、今の所政府に敵ふものはない。地方官の手心を加ふるが上、關係筋を通つて運動費を豊かにしては、反對黨の立つ瀬がない。現在位の反對黨の存在するものはまだしもの事である。

○

原内閣は今の儘にして居れず、首相が辭表を奉るとし、成るべく政友會を現狀の儘にし、其援助を借るが如き内閣の成立を希望する。若し昇格問題又は宮中問題にて責を引くとならば、山本伯を以つて最も手頃の後繼者とする。原氏は伯の爲め、又自らの爲め、何とかして名譽を恢復させたい所がある。山本内閣の沒落といふ事が、後に暗い陰を及ぼして居り、原は之を殘念にも思ひ、忌々しくも思ふ。海軍に要職を占める身を以て、到底將校腐敗事件に責を免かれぬけれど、其の責を問ふならば他にも問ふべき者がある。山本の沒落は世間の反抗の外、山縣一派が與つて居り、陷し穽に落ちたやうな所がある。今は山本も出て出られぬ事はなく、算へ年六十九、老いても餘り前と變りあるまい。首相とすれば首相らしくなるが、引込んで居つては動きがつかぬ。今は忘れられたやうでも、原首相が奏薦せば其儘に行はれ、權兵衛として世間を騷はす所があらう。併し滿鐵問題の手傷を負つて退くとあつては、シーメンスの記憶を新にする事になる。山本自ら關係無いとしても、臭い物の代りに臭い物を引張り出したやうに見え、何處となく落付かず、人が侮蔑の眼を以て見るやうな事無いとせぬ。山本に取つて損な廻り合せと云はねばならぬ。

そこで朝鮮總督齋藤男は何うかといふ事になるが、之も同じ事、他の問題で更迭するならば齋藤内閣でやつて行けるが、滿鐵の摑んでは、山本と一つ穴の聯想を免かれぬ。齋藤の出るには今少しく年數を經ねばならぬ。宮相牧野男は何うか。宮中

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に入つて政界と離れたやうでも、政界に出てならぬと云ふ事なく、前に桂公が内大臣になり、復たしても首相として顯はれた。牧野は出ぬとも限らぬけれど、先づ今日の所誰でも政友會に頼りさへすれば可とし、餘り人選びせぬであらう。

東京市長後藤男は市政に專らで、内閣に意が無いやうに見える丈けそれ丈け、何事かあるとして差支へない。惡戯と云はうか何と云はうか、横合よりけしかける所ないか。滿鐵問題は山田氏の奮起に基いて居るが、後藤は之を何と見るか。後藤が焚き付けたとあつては、それこそ政友會と絶縁になるが、さういふ事はせぬであらう。然し政友會で之を睨んで居らぬでない。

○

政友會二百八十、研究會百三十、交友四十、ザット共勢で續けば、誰が何としても原の機嫌を伺はずに居れぬ。原が首相であつてもなくても變りなく、政界に異變無いやうであるが、眞に異變無いか何うか。衆議院の反對黨は微弱であり、憲政會は珍品五つを以つて傷いた。普選阻止の條件無いと云つて、それで何事も無いと云へぬ。尾崎島田は大嫌ひで助けるなといふ内示を遵守するなど、見つとも好くない。此調子故に振はぬも尤である。尾崎一人の働きも出來ぬやうな始末になつて居る。今の狀態では憲政會は唯いよ／＼不振に陷るばかりであり、斯くてはいよ／＼反對黨が衰微するでないかと云ふが、そこが一轉機の伏在する所である。加藤子は何處までも憲政會總裁で通すであらうか。或點に於て黨首に適するが、或點に於て頗る缺けて居る。手ブラで一大政黨の首領となる事は幸とするが、不幸が伴はぬとせぬ。さう問屋が卸さぬのであらう。何にしても憲政會は不振に陷り、解體するか何うかと云ふやうになれば、其處で非政友熱が興る。今日非政友熱の起りながら割合に高まらぬのは、憲政會が其反對黨となり、其政友會を攻擊するのが憲政會を援助するやうになり、其處に面白くない所があるに由る。憲政會に相應の人がありながら、兎角官僚氣分が多く、何處と惡い事無くして、いけ好かないと云ふ感じを與へる。今日非政友會熱が高まらぬやうでも、憲政會解體と共に俄かに高まらう。憲政會が解體して、自ら事實上に膨脹しようといふ跡あつては面白く思はるれず、好んで之に應じようとせぬが、いよ／＼憲政會に利用せられず、全く新たなる政黨を組織しようといふ事にでもなれば、各地に反響が強く、次の總選擧に必ず多大の力を得る。大隈内閣の如く政友會を壓迫して打擊を與へなくても、相應に打擊を與へ得るに定まつて居る。今は政黨改造の機運に迫つて居り、其機會が眼前に現はれる。政友會が不正手段で滿洲及び其他より運動費を得、憲政會が他の異なる條件で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

運動費を募るとあつては、此償に過ぎ得る害なく、過ぎ得れば國運の爲めに怨むの外ない。今日の如く既成政黨が傷物だらけになつては、餘程の鈍感者流を除いて改造を思ひ立つであらう。貴族院が衆議院の惡弊を矯めるやうに考へられたけれども、細い規則に拘泥するに止まり、不正分子を一掃することに考へ及ばぬ。彼等は秩序に重きを措き、正不正を輕く見て居る。

秩序の紊れる事のみを恐れ、正不正は何うでも宜しいとする。穩健と云ひ不正の利を貪るを厭はぬ。嚴然たる秩序に隱れて安樂にする事が舊幕時代の惡習であり、今日まで之を受け繼いで來て居るのではないか。政界の革新は差當り正不正に重きを置き、不正を働く餘地を減滅するにある。次の總選擧までに其運びを見るか疑はしいが、其方針を指して進むを要す。

個性主義の社會的徹底

杉森孝次郎

人類は一大樹のやうだ。現存の諸民族の各人は、その梢頭枝端の一葉にも比すべきだ。各葉はそれ〴〵に複雜なる統一體だ。統一ある複雜體だ。すなはちそれの個性を持つてをる。けれども、どの一葉をしらべて見ても、それは一纖條から生えてをる。一纖條の生命の連續だ。その一纖條は一巨枝に、その一巨枝は唯一の幹根に、極めて明白なしかたにおいて由來傳統してをる。現存の各人種は各巨枝の如く、現存の各民族は各纖條に似てゐる。西紀前五千年に、埃及の文明はすでにその成熟を示した。

人類は、すくなくとも有史以來の人類は、一とたび消えて復た新たに出現したのではない。紀元前幾千年乃至幾萬年、或ひはそれ以上の往昔に生存した人類が、一幼樹の成長する如くに、不斷の成長を續けて現存の人類に發達したのだ。勿論こゝでは人類の起原に關する罪系説を意識しまたは假定してをるわけではないが、大體において、現存の人類と、曾存の人類との間には、あだかも一樹の枝葉と根幹との間に於けるが如き關係が存する事を注意したく思ふのだ。そして、もしもわれらが全人類

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を、すなはち現存及び曾存の各男女を、その生存時順に從うて名記圖表する事が出來たなら、現存の男女がいかに少數にして、曾存の男女がいかに大多數であるかは、想像にたえる。その大多數の男女は、われらが生存する以前に生存して、現にわれらが意欲し、希望し、計劃し、想像し、努力するが如くに、ただかれらは、かれら特有の遺傳と境遇とに於いてしただけの差を保つて、要するに意欲し、希望し、計劃し、想像し、努力したのであつた。われらが理想家であり、實行家であるが如くに、われらの先人も、要するに理想家であり、實行家であつた。曾存の人類の理想と實行とは、ヘフチング氏の價値保存則をかつぐ趣意ではないが、或る程度に於いて。及び或る樣式に於いて現存の人類の理想と實行とを決定しつゝある。その程度と樣式とを、最も鮮明に代表する事實は、習慣だ。社會的一現象としての習慣だ。習慣のうちに個人的習慣と社會的習慣とを識別する事が出來る。個人的習慣は、數日來午睡に親しんだ結果、それが痼疾の如く、本能の如く、性癖の如くに發達した場合が例示する通りに、一人の遺傳と境遇との關係の範圍内にその說明を見いだしうる事實だ。社會的習慣は、衣食住の如く、言語の如く、その他の風俗の如く、多くの人が、世代を重ね〳〵する間に、かれらの遺傳と境遇との協力下に生み成した一事實だ。衣食住とはいつても、服裝、料理、建築造作等の民族的特異點が示す如き部面の現象の話だ。

社會に於ける習慣の位置は、個人に於ける本能の位置と類似だ。兩者ともに、經濟的意義を有するのだ。生の經濟といふ目的を達するための一手段たる價値を有するのだ。個人に本能なくば、かれの生は、現在よりも遙かに多くの消費をまぬかれない。本能は、判斷と思考と研究と實驗と疑惑と、無智のための絕望とを、すなはちそれらに費やされるだけの精力を、及び疑惑と絕望に伴ふ損失を、個人のために多大に省減する。社會に習慣が發達すれば、その社會の萬人が、それだけ生の餘裕を生ずる。その餘裕を、進歩創始の努力に向ける可能が與へられる。仁義禮智信とか、賢明、勇氣、節制、公正とか、誠、望、愛とか、勤儉とか、貞操とかいふたぐひの倫理的概念も、それらが疑問と批評を超絕した常識上または學說上の無假定の權威とされてをる場合についていへば、社會的本能としての習慣の意義を多少帶んでをるのだ。

曾存の人類の觀念と熱情とは、かれらの現身と共に墓下に永眠させられたのではない。現存の人類の觀念と熱情とに、すくなくとも習慣の形に於いて多少活潑に殘生しつゝあるのだ。その習慣の基礎の上にこそ、われらは實に制度を創設もし、維持

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

もする。曾存の人類の力を、われらは、習慣及び制度の表裏兩面に感ずる。感じないならば、それは智識缺乏の致すところだ。的のなかの矢傷を見て、射手の力を感じないと同様の心理現象だ。しかしながら、個人の生活は、本能に代表されず、問題の發見と創作と解決とに、すなはちその能力に代表される如くに、社會の生活も習慣に代表されずして、批評と改造とに代表される。社會に於ける習慣の位置は、個人に於ける本能の位置と似て、それの機械的一用を演ずるにある。それの全役をつとめるには存しない。主役をつとめるにさへも存しない。禽獸に於ける本能は、その生活の主役をつとめる。發明力を、傾向として、可能として賦與されてをる人といふ動物にあつては、こゝの關係が別だ。

現存の各人は、太古以來、乃至劫初以來の發展と成長にかゝる民族的または人類的一大樹の一新葉にほかならぬとはいつても、だから、現存の各人は、歴史的全體としての人類の下位、從位、副位、屬位に立つべきだといふ結論は成り立たない。部分と全體との關係は、樹の場合と人の場合とを通じて同一ではない。一葉には自由意思なく、一人には自由意思があるからだ。自由意思の存在と發達とは、それの有能者または所有者または主體をして、形體の大小にかゝはらず、全體としての意義を帶び且つ長ぜしめる。人は、一喬木にもしかぬ空間を占め、一巨石にだも劣る重量を有する。その意味に於いてあはれむべき微小存在ではあるけれども、人は、その微小存在自身及び周圍の存在を、或る程度まで支配し決定する能力を持つてをる。問題にむかつて、すくなくとも意思の直接態度に於いては、肯定と否定との間、應と反との間、一極と他極との間に自由選擇をほどこす能力を持つてをる。全宇宙そのものをさへも、樂天詩人がなす如くに樂しく解釋し、厭世哲學者がなす如くに悲しく解釋する特權をも持つてをる。自由意思の有無大小は、部分と全體との關係を決定する一大要件だ。自由意思を有すること、しかも大きく有すること人ほどであると、人と社會との關係は、全體と部分との關係となる。習慣と制度と組合とは、社會內の三大事實だ。全社會に對してさへ、それを部分視すべき位置にある人は、それらの三大事實の一たる習慣に對して、殊更らに論ずるまでもなく、それを自己存在の一部視すべき位置にある。

制度は、人の內に潜む理想家が、習慣にはたらきかけて、そこに生じた生活の一つの新道具だ。制度は、習慣を自然的と呼ぶに釣り合はせれば、機械的だ。習慣は、人意を加へないでも作用する。制度は、人意を加へないでは作用しない。機械だけでは、運轉しないと同じ事理だ。法律殊に成文法が制度の一內

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

容である事は、このあたりの消息をよく語る。制度は、一社會の萬人に通存する興味、能力を目がけて、それの總祈綱として社會の理想的勢力が社會の習慣的材料を採擇して組成した作品だ。制度の不能は、個性の機能たりえないところにある。印刷機が、個性を發表しない如くに、一種の機械たる制度は、人の個性をば發表しない。同じ天才の一作でも、印刷機として産出される場合には、百千枚が一型を百千重複するに過ぎない。その天才の個性の直接發表としての手蹟は、然るに、一枚ごとに別の生命を通はす。制度は、一社會のすべての、または成るたけ多くの人格的個性の類性を保護し、それの發表の機會となるところに、その存在理由を有するのだ。多數人格的個性の類性は、その各人格的個性の一部的實在を内容とする。類性は個性の一部分だ。社會は進歩を理想とすべきだが、進歩の第一原因は個性ア。個性中の個性ともいふべき天才だ。類性の保護發表の機會たる制度は、社會の保存、安定を確實にするが、進歩をば催促しない。保存と安定とは、單なる存在に多く超出しない。進歩のための現實の存在でなくては、人格的個性を内容とする社會の存在としては意義不十分だ。習慣が社會の歴史を代表する如くに、制度は社會の現在を代表する。人格的個性から、習慣と制度を除き去つた殘餘が、社會の將來を代表すべきだ。そしてこの殘餘が、人格的個性の最貴最尊の部分だ。なぜかといふに、習慣は、曾存の人格的個性の功績であつて、現存の人格的個性の功績ではない。制度は、現存の平均人格的個性の功績であつて、現存の進歩的人格的個性の功績ではない。けれども平均的個性といふ概念は、概念としてすでに不成立だ。習慣が人格的個性の踏み占める大地であるなら、制度は、人格的個性の足肢だ、脚だ。人格的個性の心胸頭腦は、習慣以上、また習慣及び制度以上の、非情性的、非類性的部位に存在する。支配と命令と權威と立法とは、その心胸頭腦から發して、足肢にも、大地にも達すべきだ。その心胸頭腦に、各人特有だ。

社會は流るゝ河のやうだ。現在の二字は、その水上に書かれる。上流から流れ來たる水の上に書くのだが、書きつゝある當時にも、その水は下流に流れ去る。制度はその現在だ。流れ來たる水は習慣だ。人格的個性の中心實在は、その流れ去る水だ。目的としての位置を常領する。習慣も、それが創作される瞬間前までは、本能ではなく、衝動と想像であつた。制度も、それが設定される前夜までは、討議であり、論爭であつた。衝動と想像と討議と論爭とは個性の發現だ。習慣と制度は、個性行進の足迹と現跡だ。現跡から觀ての足迹も、曾ては現跡であつた。未踏の現跡化が個

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

性の生命だ。習慣も　制度も、本質的には個性の書く字だ。習慣の卵の上に理想の母鷄が坐はつて、制度といふ雛が生まれる。その制度は、空間的に多くの人格的個性を竝律し、時間的にもまた多くの人格的個性を縱律する。殊に制度のうちでも、比較的に綜合的な組合の意識紀綱としての制度になると、その組合の全成員の綜合意思の強さを以て、その違反者を罰する。國家は死刑をさへも公行する。懲役には無論服させる。この種の部面のみを觀ると、制度は個性以上の價値實在であるやうに考へられるかも知れん。けれども、それは觀察と判斷の不精確、不周到だ。

制度は、その起原と發達に於いては、習慣の多少の理想的改造であり、修成であるのだが、その所在からいへば、しばしば組合の共礎的意思だ。組合は、然るに、一種の社會目的を内容とするか、多種の社會目的を内容とする。一種の社會目的を内容とする組合は、一見明白に人格的個性の一部的保護發表の機會だ。勞働組合にしても、消費組合にしても、敎會にしても、敎育組合にしても、學術組合にしても、その一例だ。これらの組合のどの一つも、すくなくとも現代に於いては、綜合組合たる要請權を持たぬから、制裁力も限られてをる。勞働組合に加入しなくても、或ひはそれから脱籍しても、その組合は、その人にむかつて、その組合特有の保護機會を與へないだけ、或ひは取り返すだけの制裁を加へうるに過ぎない。その限度を超えて例へばその人を懲役や死刑に處するやうな事をすれば、綜合組合としての國家が、その組合を處罰する。すなはち、單能組合の場合に於いては、その組合全體が、そもそも人格的個性の部的必要の所産であり、その一部的必要を充たす方法に過ぎないのだから、その組合に内在する制度も、隨つて、人格的個性に對しては、全體に對する部分の位置を明らかに占有する。複能組合或ひは綜合組合の場合は、しかしながら、問題がそれほど簡單容易でない。

現今の社會に於いて、複能組合または綜合組合の最大型は國家だ。法律の内容が明示する如く、また政府の要素が直白する通りに、國家は、綜合組合を標榜し、複合組合を實現してをる。經濟生活にも、文化生活にも、またその兩生活のおいおいのうちの、殆んどすべての特殊的社會生活に、國家は責任と權力とを帶んで關係してをる。文部省と農商務省と大藏省と海陸軍省とが、政府の要素のうちに存する事は、すでにその事實の雄辯なる説明だ。單能組合は、人格的個性の一部的發現であるとしても、國家の如き複能乃至綜合組合に至つては、人格的個性の全部的發現ではなからうか。否な實は、それ以上の價値實在で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さへもなからうか。

國家は、現在に於いて、綜合組合たる位置を代表する。將來になつても、國家の名に於いて、或ひはその他の稱呼を採用して、例へば一般結社（ジエネラルコンミユーン）の名に於いて、または聯合自由組合（フエデレーシヤンオブフリーアツソシエーシヤンス）の名に於いて、綜合組合を創作し、所有し、發達させる社會的必要は、それの創作と所有と發達とを可能にするにちがひない。然らば、現在及、將來に於いて、人格的個性と可能的綜合組合との關係は、正當にはいかなる性質を帶ぶべきか。われらは、この試問に對しても、すべての可能的綜合組合は、人格的個性に對して、全體に對する部分の位置を確保すべきであると即答する。

なぜかといふに、可能的組合のすべてを合しても、なほ且つそれは、人格的個性の全體には達しない。そも〱組合は、それの内的必具的條件としての制度と共に、なんらかの社會目的を内容とするほかない。しかも、その社會目的は、平均と共通とを一條件とする。然るに、人格的個性の或る部分は、平均と共通の網にはかゝらない。洩れる。洩れるけれども、その部分こそは、實は、一切の社會目的の總本源だ。社會目的は、人格的個性の通有目的だが、人格的個性そのものゝ最も中心的な目的は、どうしても組合や制度や習慣の委任統治を許さんのだ。人格的個性そのものゝ最も中心的な目的は、かれの自由意思とその自由意思の内容としての成長力ある複雜體とを、その直接の要素として構成される事實だ。

そも〱組合には意思はない。隨つて制度にもない。單能組合にないのみならず、複能組合にも、綜合組合にさへもない。人間の社會に於ける意思の所在は、おの〱の人格的個性のほかには絕無だ。絕對的に皆無だ。非存在だ。組合の意思は、その組合員の全數またはその以下の或る優越數間に、意思の合致、協調が實現された時に、これに與ふる便宜的稱呼だ。有假定の事實だ。無假定の事實としての意思の有能者は、かくの如くにして、人間の社會に於いては、各人格的個性のほかにはないのだ。

實をいうと、われらは、個性主義の社會的徹底を、文字通りに實現すべきだ。人格的個性などゝ、えらさうな形容詞づきにするのは、悲しむべき制限だ。それは、われらのえらさを示さす、小能卑志を示す。人格も非人格もない。われらは、實在の個性のおの〱に、十分なる機會を與ふべきだ。禽獸にも、草木にも、風雲月露にさへもだ。價値の經濟的必要に餘儀なくされて、われらは、人格優先權を保持するのだ。釋迦の同情の範圍が、蟲けらにまでも及んだといふ事例は、苦痛もなげに漁獵したらし

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

く侍へらるゝ他の一超人よりも、或る點に於いては餘計に光るやうに感ぜられる。これは偶然の一エピソードに過ぎないが、個性主義の社會的徹底の根柢と趣向とは、宇宙創作以下のものではありえない。個性に開眼し、個性を尊敬し、全個性の自由實現を可能にする必要方法として、われらは先づ、人間社會を組織する。われらの社會創作の統導原則は、それ故に、初中終を通じて個性だ。

單能組合の發達は、人格的個性と複能組合または綜合組合との間に立つて、人格的個性の自由意思と成長内容とを、批評、創始の形に於いて、複能組合に通達する可能を增す。この意味に於いて、われらはその發達を催進すべきだ。これは、個性主義の社會的徹底の縦の努力ともいふべきだ。この縦の努力と方向に於いて交錯し、必要に於いて竝行する他の一努力がある。それは、交通の手段の發達が招致する、空間の意義の變化を活讀する事だ。個性主義の社會的徹底は、現存の各國は、複地方乃至綜合地方組合の發達を十分に豫想する單地方組合として保育さるべき事を必要とするのだ。

政治、經濟、教育、家庭といふが如き、社會生活の樞要各方面に於ける、上述原則の適用は、目下のわれらに取つて、衣食住を有意義にする代表的可能だ。

所謂「遺傳性疾病」は果して恐るべきか

醫學博士 永井潛

（一）

だから長しへの契を結ぶ人は
胸の中に胸が見附かるかをしらべねばならぬ。

Drum prüfe, wer sich ewig bindet,
Ob sich das Herz zum Herzen findet!

『鐘の歌』に寄せて人生の眞相をまざまざと描き出した千古の名詩に於て、獨逸の文豪シラーは結婚の理想として、心臓と心

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

臟とが融け合ふことを以つてしたが、感情の生活に於て、人は勿論からなければ異身同體として眞の意義ある生活を爲す事は出來ない。併し乍ら人が理性の動物である以上、人はまた理性によつて感情を調節して行く事を忘れてはならない。而して蜜の様・結婚生活に入らうといふ此の二つの温い心臟の爲めに理性の手綱を與ふるものは、先づ以て遺傳に關する知識であらねばならぬのは言ふ迄もない。さりながら人は餘りに遺傳に拘泥して大局を大觀することを忘れてはならぬ。羹に懲りて膾を吹くの愚に陥りてはならぬ。斯かる意味から自分は、疾病と遺傳との關係に就いて一言注意して見たい。

抑も事物の一現象が生起する際には、其生起に必要なる無數の條件があるのであるが、而かも之を二つに統べ括る事が出來る。其一は事物それ自身の内に具はつて居る所の内的條件であり、其二は外より事物に働き掛くる所の外的條件である。此二つが相俟つて初めて一現象が起るのである。而して之に對する人間の考は、由來兎角一方に偏して居る傾向があつた。即ち或る時代或る人々は專ら外的條件に着目した。之に反して他の時代他の人々は專ら内的條件にのみ留意する傾向があつた。而かも一般に云へば、前者を代表する者は自然科學者であり、後者を標榜する者は哲學者であつた。外界の現象を以つて研究の對象として居る所の自然科學者に在つては、外的條件に着目する傾向が強くなるのは當然であらう。從つて自然科學が進歩すればする程、益々此趨勢が著るしくなつて來たのである。

（二）

然り而して内外の條件の孰れを重んずべきかの大問題に向つて、徹底的の解決を與へんとしたのは、實に大哲學者カント其人であつた。カントは唯理學派と經驗學派なる近世の二大哲學の潮流を批判綜合して、知識の成立を明かにすべく彼の大哲學系統を組織したのであるが、其内に多數の哲學者が是まで云はなかつた一新意見を發表して居る。それは何であるかと云ふと、從來の哲學者は一齊に事物の成立の關係を專ら外に覓めて、其基礎は外から内に與へられたるものである、凡ゆる原理法則は外界の事物それ自身から起るもので、心といふ鏡は單に之を映し出すに過ぎないものであると考へて居たのであるが、カントはそれに正反對の態度を取つて、法を立つるものは外に在らずして内に在る、原理法則は外界の事物其物が具へて居るのではなくして、内に存する心によつて作り上げられたものであるといふ説を、最も明瞭に道破したのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

而してカントが唱へ出した知識の成立に關する此唯心的理論が、偶然にも外界の事物を研究の對象として居る自然科學者、就中生物の機能を研究の問題として居る生理學者の手によつて裏書きを與へられたのは、學問の歴史上頗る面白い事である。即ち今を去る約九十年の昔に於て、獨逸の大生理學者ヨハンネス・ミューラーが感覺生理の研究に因つて歸納せる感覺神經の特殊勢力に關する法則といふのがそれである。御承知の如く、種々異なる性質の感覺が成り立つといふ事は、外より與へらるゝ刺戟其物の性質によつて定められるのではなくして、一に之を感知する感覺器官其物の性質上の差異から起るものである。例へば玆に電氣があるとして、それが眼に働くと光、耳に働くと音、皮膚に働くと痛、舌に働くと味といふ感じを起すのである。即ち外的條件は電氣といふ同一刺戟であつても、其爲めに惹き起さるゝ所の感覺は、感覺器官其物の性情によつてそれ〴〵相違して來るのである。或は又異なれる刺戟を以つて同一の感覺器官を刺戟すると如何なる結果を起すかと云ふに、常に同一の感覺を生ずるのである。即ち例へば眼に働かせるに或はエーテルゝ波動を以てし、或は電氣を以てし、或は機械的壓力を以てするも、孰れの場合でも等しく皆光といふ感じが起るのである。是等の事實からヨハンネス・ミューラーは感覺の性質的關係を考ふるに方つて、外的條件よりも內的條件に重きを置かねばならぬ事を力説した。此關係は單に感覺の現象に於て正當であるのみならず、凡ゆる生理的現象は皆此原則に從つて支配せられて居る。例へば筋肉ならば如何なる性質の刺戟が働いても常に收縮といふ反應が起つて來る。若し又唾腺ならば常に唾液の分泌を、胃腺ならば常に胃液の分泌を喚び起すものである。斯くしてカントが哲學的思索的に道破したる所のものを、ミューラーは自然科學的實驗的に證明したのである。

(三)

由來病又は死の如き事柄に至りても、多くの人は專ら外的條件にのみ注目せんとする傾向があつた。文化の幼稚な時代に於ては、何か眼に見えない病の原因が、身體を離れて獨立に外界に存在して居て、之が身體に宿ると病を惹起するものと考へて居た。所謂病の神なるものがあつて、之が身體に付くと病に罹ると考へて居た。然し斯かる考は獨り原始時代のみならず、自然科學の研究が比較的進歩した時代に於ても、尚ほ其根柢が深く植ゑ付けられて拔くべからざるものがあつた。而して此風潮は黴菌なる物が發見され、細菌學なるものが樹立せらるるに至つて、愈々益々鞏固なる根據を得たのであつた。即ち原始時代

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に擬へられたる、見るべからざる病の神が、現代科學の進歩に由つて細菌といふものになつて我々の目前に現示せらるるに至つた。斯く病の原因として外的條件を重んずる事が、細菌學の進歩に由つて愈々益々強くなつて來たのであるが、而かも此外的條件の尊重に一大根據を築いた細菌學の進歩が、同時に病の原因として内的條件を尊重せねばならぬ事に一大動機を與へた事は、學問上思想上の歴史に於て頗る興味ある事と云はなければならぬ。

一千八百八十二年にコッホが結核菌を發見し、次いで其翌年獨逸政府の命を奉じて埃及印度に赴いて、當時猖獗を極めて居つた「コレラ」病原體の研究を行つて、遂に「コレラ」菌を發見して意氣揚々として之を學界に發表した際に、時の衛生學の泰斗であつたペッテンコーフェルは頑強に之を否定し、其結果自らコッホの「コレラ」菌の純培養の一立方「センチメーテル」を飲んで、果して「コレラ」に罹るや否やを試驗して、幸に輕度の下痢を起したのみで済んだ事は、醫學歴史の上に表はれたる最も興味ある一挿話である。ペッテンコーフェル先生は其の時從容として傍人に語つて曰く、『若し自分の考が間違つて居て、此の試驗の爲に生命を隕すことがあつても、自分は毫も悔ゆる所はない。何んとなれば、夫は決して臆病な自殺ではなくして、恰も勇敢なる兵士が、國家の爲に屍を戰場に曝らすと同じく、學問の爲に命を捨てるのであるからである。生命財寶は世に在つて非常に貴いものには相違ないが、併し禽獸よりも高くあるべき人間は、場合によつては喜んで之れをも犠牲に供するの覺悟がなければならぬ。』誠に其の心事の壯烈なる、千歳の下懦夫を起たしむるの概がある。

實に此一挿話は病の原因に關して上述の根本問題を判定する上に深甚なる意義を發揮したものと言はなければならぬ。檢微鏡が精巧になり、染色法や培養法が改良せられ、續々新たなる病原菌が見つかつた時代に於ては勿論の事、今日に於ても尚ほ多くの人は「コレラ」菌即ち「コレラ」病であり、結核菌即ち結核病であるといふ考から超越する事が出來なかつたのであるが、而も學を信ずる事最も篤く、自己の是とする事の爲に生命をも犠牲に供する事を躊躇しなかつたペッテンコーフェル先生の如き人が出て、先づ第一に此囚はれたる學問上の思想より人心を解放すべく努力を惜しまなかつた。近時の精密なる檢索に據れば體内に結核菌を宿して居りながら結核に罹らぬ人は澤山ある。死體の九〇%以上に於て病理學者は現に結核菌を證明するか、或は一度結核菌を宿した形跡を證明する事が出來るのであるが、而かも結核病の爲めに死ぬる人は僅々其十分の一にも足ら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ない。是に由つて之を觀れば、大多數の人は結核菌の侵入を蒙つても、尙ほ能く之に抵抗して結核病にならないものであるといふ事が分る。之と同じ樣に「コレラ」菌即ち「コレラ」病でなく、「チブス」菌即ち「チブス」病でない事も亦疑を挿む餘地が無いのであつて、多數の菌攜帶者の實例は明かに其の然る事を立證して居る。即ち縱令外因があるからと云つて、それだけでは病は起らぬものである。其上に尙ほ內因といふ事に重きを置かねばならぬといふ事は、之に因つて明瞭になつて來た。

(四)

更にまた內因の益々重んずべき事を吾人に指摘した重要なる出來事は、輓近十數年來長足の進歩を遂げた實驗遺傳學の知識であつた。「メンデリスムス」の說く所に據れば、生物の現はす種々の形質は、孰れも其生殖細胞內に具有せる遺傳物質によつて決定せられるものである。而かも其遺傳物質即ち所謂單位性質なるものは原素の如きものであつて、變化せぬものである。換言すれば獨立性を帶びたものである。而して此獨立せる單位性質なるものが離合集散する事に由つて個々の形質が定まるのである。實驗遺傳學の理法は日一日と確かなる根據を得たのであつて、少くとも動植物に關しては實驗遺傳學の理法に基いて、斯かる配偶者の間には斯かる性質の子供がどれだけの數出來るかといふ事までも、數學的の精密を以つて適確に豫言する事すら出來るやうになつた。若し果して然りとするならば、生活體に於ける凡ゆる形態的機能的の現象は、內的の稟賦の性質であると云はなければならぬのであるから、內因の尊重に向つて一大保障を與へる事は云ふまでもない。由來人の思想は兎角極端より極端に奔らんとするもので、實驗遺傳學說が非常なる勢力を以つて進歩し來つた現代に於ては、人をして却つて餘りに內的關係にのみ重きを置かしめて、凡てを先天的に定まれる稟賦の性質によつて說明せねばならぬと主張するやうな趨勢を喚び起した。左りながら翻つて考ふるに、凡ゆる事物は內外の二條件が相俟つて起るもので、其孰れをも偏重する事が出來ない。病と遺傳との關係を論ずるに方つても、先づ以て此前提を明かにして置く必要がある。

(五)

病とは抑も何であるかと云ふに、即ち生活現象の變調である。而して此變調を喚び起す爲めには、矢張內的條件と外的條件との交渉に俟たねばならぬ。病を起すべき內的條件とは何であるかと云ふに、一生物體が具有せる特殊の體質(Konstitution)な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るものに外ならぬ。然らば體質とは何を意味するかと云ふに、受胎の際に決定せらるる所の個體の特性である。即ち種族に共通なる性狀を差引いて殘る所の形體的機能的の個性であると云ふ事が出來る。更に換言すれば、體質とは一個體が具ふる所の總括的の體格(Körperverfassung)である。即ち一個體が外界に對して一定のアクチイフの仕事を行ひ、又外界より働く侵害に對して受動的に抵抗すべき性質を總括せるものであると云ふ事が出來る。而して此體質が外見に表はれたるもの即ち狀貌(Habitus)である。若し之を精神的方面から云へば、體質に基く精神反應の有樣、即ち氣質(Temperament)である。今此體質なるものを上述の意義に解すると茲に一つの疑問が起る。即ち體質は先天的に享け來るのみであるか、或は後天的にも獲致し得るかといふ問題である。而して之は體質なるものを廣義に解するか、或は狹義に考へるかに由つて違ふのである。若し廣義に解釋するならば、先天的に繼承したものと同樣に、後天的に影響を受けて起つた所の變化をも含蓄する事になる。隨つて斯樣な場合には先天的體質と後天的獲得性の體質とを區別せねばならぬ。若し又體質を狹義に嚴格に解釋すれば、それは先天的のものを指すのであつて、後天的に得來つたものは之に對して體狀(Kondition)と云ふべきである。要するに其名稱に就

れに隨ふとも、生活體が外界との交渉を保つ際に内的體質が重要なる意義を有する事は勿論の事で、體質が異狀を呈する場合に於ては、外界と交渉を保つに際して、普通の人に見るべからざる一種の變調が生活機能に現はれて來る。而して之れ即ち病である。而かも此體質の異常に就いて考へて見ても、其性質の上に於いて、此程度の上に於いて、種々なる相違を考へなければならぬ。一方又病の外因即ち外界から働き掛ける關係を考へて見ても、之れ又性質上程度上種々なる相違を豫想する事が出來る。斯くの如くにして體質の異狀と外界の變動との關係によつて病が起ると一口に云つても、其交渉は實に複雜なものでなければならぬ。此二つの關係の如何に由つて病の起るか起らないかの程度が限定せらるゝのであつて、如何なる程度に於て病を起すかの關係を名付けて病的傾向と云ふ事が出來る。

若し病を起す原因として外的關係が非常に力強い場合であると、内的關係の如何は殆んど何等の意味を有たぬやうになる。茲に非常に劇しい毒物なる青酸があるとする。或は利刀を揮つて斬るといふ場合に於ては、生活狀態の變調を起す上に於いて、體質の如何は殆ど何等の意義を有たぬ事になる。之に反して病的原因と云はるゝものが殆ど全く外界に無いやうな場合に於ては、病を起すか否かは專ら體質の如何に由つて決定せらる

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るのである。斯く外的原因の力が極めて微弱で、加之、始ど缺乏して居て、専ら内的素質即ち體質の變化に由つてのみ惹き起さるる場合であると、之を體質性病氣と云ふのであつて、斯かる體質的病氣の場合に於て、遺傳が非常に重要な意義を有つ事になる。

（六）

體質的病氣に於て遺傳の意義を考ふるに方つて、先づ第一に述べて置かなければならぬ事は、由來病が遺傳すると云ふ事は屢々繰返さるる言葉であるが、然し病其物が決して遺傳するのではない。實は病に罹り易き體質其物が遺傳せらるるのである。此事は獨り病に關する遺傳のみならず、凡ての遺傳現象に於て考へなければならぬ。此色此形が遺傳するとは誰しも云ふ事であるが、實は色其物形其物が遺傳するのではない。斯かる色を表はし、斯かる形を生ずべき素因其物が遺傳せらるるのである。

第二に注意して置かねばならぬ事は、先天的といふ事と遺傳性といふ事は必ずしも同一でない。普通人は其關係を閑却して生れたからにして或る病を示して居ると、それを悉く皆遺傳に基くものと信じて居る。さりながら學問上から云へば、此兩者は往々混同してはならない場合がある。例へば玆に生れながらにして梅毒の症狀を呈して居る子供を見ると、其子供を目して先天性梅毒であると云ふのは正當であるが、之を以つて直ちに遺傳性梅毒と看做すは誤りである。何となれば遺傳と云ふ事は祖先より繼承し來れる遺傳物質の受授に由つて起らなければならぬのであつて、從つて眞の意味に於て遺傳性の病であると云ふのは、病を起すべき內因たる異狀の體質を生ずべき遺傳物質が祖先より子孫に受授せらるる時に限るのである。それ以外の關係から起つた病的現象は決して眞の意味に於て遺傳性のものとは云へない。例へば先天性梅毒に在つては、其梅毒を起すに至つた原因に遡つて考へて見ると、決して遺傳物質の受授に由つて現はれ來つたものではない。即ち親が梅毒に感染した結果其病毒が母の血液に入つて體內を循環しつゝある間に、胎內生活を爲しつゝある胎兒にも感染する結果である。從つて等しく之れ感染であつて、普通の感染は體成後に行はれるのに、先天性梅毒に於ては早く既に胎內生活時に行はれるといふ差があるのみである。斯く考へて來ると、先天性と云ふ事は遺傳性と云ふ事よりももつと廣い意味でなければならぬ筈で、其內には遺傳性のものも、又遺傳性でなくして胎內生活に於いて外的關係から惹き起された病をも含めて居るものであると云はなければ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ならぬ。

（七）

斯かる關係があるから、生れながらにして一定の病的症狀を示し、而かも之といふ特別の原因が働きかけた形跡も見付からないで、一見疑無き遺傳的の病であると考へられる場合でも、研究の結果立派に病を起すべき外的條件が見付かつて、從つて眞の遺傳性病でないといふやうな場合が幾許も起つて來た。例へば兎唇、或は指の畸形の如き、勿論生れながらにして起つて來るのであつて、之を先天性と云ふのは正しいが、それを悉く遺傳性とは云へぬ場合がある。即ち斯樣な畸形に於いて其原因に遡つて見ると、其の或るものは無論遺傳物質の變調に由つて喚び起された眞正の遺傳性の場合もあるが、併し他のものは往々羊膜水が不足した結果、或は發育の經過に際して癒着が行はれたり、或は癒着が阻げられたりして起る場合がある。從つて縱令或る家系に於て屢々それ等の畸形が現はれて來ても、それは或る場合に於て其家系に於て屢々羊膜水が不足するといふ性質の遺傳があり、其爲めに惹起されたる結果であつて、直接畸形其物が遺傳に由つて現はれて來るのではない。

之に反して或る場合に於ては、遺傳性のでなくして、專ら外的の影響に出つて表はるるが如き觀を呈しつゝ、而かも能く之を解釋して見ると、實は眞の遺傳性のものである事が屢々見らるる。例へば「アルコール」中毒の爲めに其子孫に屢々精神薄弱者、癲癇等が多く出るが、それは「アルコール」の爲めに、體細胞と同じ樣に生殖細胞も亦中毒を受けて、其結果右の樣な精神異狀の者が子供に出來るといふ風に說明せられて居つた。然るに近時ペアソン等の調査したる所に據ると、それは「アルコール」中毒が直接の結果ではなくして、寧ろ兩親の孰れかゞ「アルコール」に耽溺するといふやうな事を爲るのは、即ち業に已に其精神能力に關する遺傳質に異狀のある證據で、斯かる體質の缺陷が子孫に遺傳せられて精神薄弱者癲癇を現はすのであると云はれて居る。

（八）

病と遺傳との問題を論ずるに方つて、理論上又實際上興味ある事は、如何にして體質の異狀が起つて其子孫をして病的傾向を強からしめるのかといふ問題である。之に關して從來は矢張外界の影響に重きを置いて論じて居た。即ち何か外的變動の爲めに病が發生し、それが體質の異狀を喚び起して、其體質が後代に遺傳によつて繰返されて出て來ると論じて居た。若し果して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さうでありとすれば、斯かる病的關係の遺傳は全く兩親が一代の間に得た所の形質の變化が其子孫に遺傳せられると云ふのであつて、一般に獲得性が遺傳すべきや否やといふ事の大問題の範疇内に入る事になつて來る。實に此問題は單に生物學的理論的の興味を有つて居るのみならず、人事百般の實際生活の上に非常な深刻なる意義を有つて居る大問題であるが、昔はラマルク、ダーウィンの如き大家を始め、孰れも皆獲得性の遺傳するといふ事を初めから信じ、其進化學說を樹立して居つたのである。然るに之に反對して愼重なる態度を執つて獲得性遺傳說を批判駁擊したのはワイズマンであつた。而して輓近生物學の大勢は孰れも獲得性の遺傳を否定する事になつて居る。獲得性の遺傳をして一見合理的ならしむる事實は、ラマークが唱へたやうに不用に基く退化器官の遺傳である。而かも斯の如きは實質の獲得性の遺傳といふ事を考へずとも、ワイズマンの所謂パンミキシー、即ち淘汰作用に由つて調節せられ得る生殖現象によつて說明が付く。蓋し外界の變化に由つて一定の器官が不必要になると、該器官の發達の良否は直接生存競爭に對して何等の意義無きものとなつてしまつて、從つて其發達が非常に良いものも又非常に惡いものも、均等に該性質を遺傳すべき機會が與へられるから、子孫に於ける當該器官の品質は勢ひ前よりも下つて來る。文明人に齲齒や近視眼が多く出來て來るのは、決して一代の間に特別の事情から起つた此病的關係が遺傳せらるる爲めに起るのではなくして、未開人の生活に較べて文明人の生活に於いては、齲齒や近視眼は直接生存競爭の上に必要なる意義を有つて居ないから、パンミキシーによつて餘計それが子孫に現はれて來るのである。

第二に、獲得性の遺傳に關する多くの實驗的研究には、時としてそれを肯定せしめるやうな場合が無いでもない。就中一代間に蒙つた損傷の遺傳に關して熟く知られた例はブラウン・セカールの報告で、ブ氏は「モルモット」の脳髓に損傷を與へて其結果癲癇樣の發作を起さしめた所が、其親から生れた子供に矢張之れといふ損傷を與へる事無かつたにも拘らず、癲癇樣の發作を起した事實から、獲得性の遺傳を主張せんとして居る。然し之も獲得性の遺傳といふよりも、寧ろ劇しき損傷の結果一般の榮養障害を喚び起し、爲めに生殖細胞にも障害を起し、其結果種々なる神經症狀を起したものと見る方が適當である。實際一代に受けた損傷の結果が後代に遺傳する事は、多くの實驗的事實に據つて否定せられて居る。ワイズマンが二十二代の間繰返して鼠の尾を切斷した實驗を行ふて居るが、而かも其鼠の子孫には毫しも尾の短縮を示さなかつたのである。斯樣な關係

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は敢て實驗を行はずとも古くより經驗しつゝある事實に照して明瞭な事であつて、處女膜は代々損傷せらるゝにも拘らず其子孫には常に生成せられて居る。猶太人の包皮は代々之を切斷して居るが、それでも少しも短くはならない。支那人の纏足の如きも、歐羅巴人の「コルセット」の如きも、可なり長い間の習慣であるが、それでも先天性に足や胸廓に變形を具へて居るものは産れて來ない。

(九)

損傷に關する實驗よりももつと大切な意味を此重大問題に關して有つて居るのは、環境の影響によつて喚起されたる變化が一見遺傳するかの如き實驗的事實である。舊くはスタンドフォース・フィッシャー等が、蝶の或る種類の蛹に於て之を寒氣に曝露して、其爲めに蝶の翅に著るしく黒色の色素を増加したものを取つて交尾せしめた所が、それより生じた蝶の翅は、常溫の下に於て尚ほ翅の黒斑に同樣の變化を呈する事を觀察して、之に由つて一代間の獲得性が後代に遺傳するものと斷定した。又近くはサムナー、プシブラム等は、鼠大鼠について、其一半は之を高溫度の下に飼養し、他の一半は低溫度の下に飼養し、毛の厚薄・尾の長さ・外陰部等に變化を起さして、斯くして出來た所謂寒鼠若しくは熱鼠同士を互に交尾せしめて、それから生れたものは之を常溫の下に置いても、依然として寒鼠と寒鼠の間に生れたものは寒鼠と同じ變化を有ち、熱鼠同士の子は依然として熱鼠の特色を帶びる事を觀て、獲得性の遺傳を立證したと云ふて居るが、然し是等も眞に之を獲得性の遺傳とは云へない。蓋し此場合に於ては溫度の變化が體細胞に異狀を惹起したと同時に生殖細胞にも亦直接働いて變動を喚び起した結果であつて、斯かる場合生物學者は之に並行感應(Parallel Induktion)といふ名稱を下して、眞の獲得性遺傳と之れとを區別して居る。眞の獲得性の遺傳なるものありとすれば、其場合には外界の變動が體細胞に變化を起し、其變化が原因となつて生殖細胞に變化を起して、遺傳物質の變化に由つて親の獲得せる變化と同じものが後代に現はれるものでなければならぬ。換言すれば外界の變動は單に體細胞に働くのみで、直接に生殖にも細胞に毫も働く場合であつてはならぬ。而かも實際生殖細胞が直ちに外界の影響を受けて變動し得る事は、最近にタワーが「コロラド」蟲(カナブンブンの一種)に就いて行つた有名な實驗によつて證明せられた。今此甲蟲の蛹を取つて、之に異常の濕度若しくは溫度を與へると、之より化生すべき成蟲の色澤は著るしく變化する。而かも其際起る變化は單に其成蟲一代のみに限られて後代には遺

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

傳しない事を見た。次に夕氏は「コロラド」蟲の成蟲を取つて、其體内に於ける生殖細胞が將に成熟せんとする時季、即ち生殖細胞が最も外界の變動に感じ易き敏感期に於て溫度や濕度の變化を働かすと、已に出來上つて居る成蟲自個には何等の變化も示さないが、該成蟲の交尾に由つて生れて來た子には著るしき變化の現はれ來る事を見た。即ち前の實驗に於ては環境の變動が單に體細胞のみに影響し、生殖細胞には變化を及ぼさしめなかつたのに反し、後の場合にはそれと正反對に、既に發育を遂げた成蟲の體細胞には何等の變化を及ぼさないが、其敏感期にある生殖細胞には變化を惹き起したのである。然り而して蝶類では生殖細胞の成熟する敏感期が極めて早く既に蛹の時期に於てするから、體細胞の敏感期と生殖細胞の敏感期とが同一時期即ち蛹の時期に當るのである。隨つて蛹の時期に環境の變動を働かせると體細胞も生殖細胞も共に影響を蒙つて、獨り身體の變化を喚び起すばかりでなく、又生殖細胞の變化を起して、所謂竝行感應なる現象を示すのである。そこで一見獲得性が遺傳するかの如き混亂に陷らしめるのである。

（十）

其他本能變化の遺傳に於て見られる事實も、時として一見獲得性の遺傳するかの如き觀を呈する場合があるが、然し之も分析して見ると、或は淘汰の働きか或はパンミキシーの現象から說明が出來る。例へば其一例としてショーパンが「アホロートル」（蠑螈の一種）に就いて行つたものを掲げて見ると、元來「アホロートル」なるものは「アンブリストーマー」の幼生狀態を保つて居るものに外ならぬのである。「アンブリストーマー」なるものは普通變態を經つて老成すると鰓を失ひ、肺を生じて陸生となるのが普通であるが、さうでなくして依然水中に止まつて鰓を失ふ事無く幼生狀態を續けて成熟期に達する場合がある。此現象を「ネオテニー」（Neotenie）といふのである。「アホロートル」は即ち「アンブリストーマー」の「ネオテニー」の狀態に在るものであるが、ショーパンは一種の方法で水中の酸素攝取を困難ならしめて、「アホロートル」をして「ネオテニー」を廢めるべく餘儀なくさして、「アンブリストーマー」に變態したものを交尾さして、其の受精卵を水中に置いて酸素の供給を十分にした所が、酸素が十分であるにも拘らず、それから孵化した「アホロートル」は普通の「アホロートル」よりも遙かに容易く「アンブリストーマー」に變態せしめる事が出來たといふ事實を報告して居る。其等も一見すると一代間に外界の狀態から餘儀なくせられた「ネオテニー」廢止といふ本能の變化が次代に遺傳する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

やうに見えるが、然し之は次のやうに淘汰作用によつて說明する事が出來る。元來多數の「アホロートル」を見ると、「アンブリストーマ」にならうとする傾向は決して同一でなくして、或ものは強く或ものは弱い。そこでショーパンの實驗の場合には、其傾向の弱いものは皆死んで終つて、變態の傾向の強いもののみが生き存らへて「アンブリストーマ」に代つて生存を保つのである。故に斯かる子供は生れながらにして容易く「ネオテニー」を廢止する事が出來得る筈である。近時カンメレル氏等が行つて居る本能變化の遺傳に關する事實も、同様なる立場から獲得性の遺傳に據らずして說明する事が出來るのである。

して見ると所謂病の遺傳する場合に於て、一代間に親が外界の影響の爲めに病氣を得て、それが子孫に再び現はれたからと云つて、直ちに其獲得性が遺傳するものと云ふ譯には行かない。殊に既に述べたやうに先天性のものの必ずしも遺傳の病でなくして、胎內生活に於て病素に感染する場合、加之もつと其初に遡つて生殖細胞が病原菌によつて感染する場合を考へて見ると、所謂一代間に得たる病が子孫に再現する場合の多くは斯かる種類に屬すべきもので、之を眞の病の遺傳といふ事は出來ない。

(十一)

眞に病が遺傳的のものであるといふ事には、以上述べたる關係から其家系に屬せる遺傳單位が初めから異常であつて、其遺傳單位の受授によつて起るものでなければならぬ。即ち其判定の標準とたる事は、第一、或る病が屢々同一家系に繰返さるる事。第二、其病を起す爲に殆ど何等の外的條件の存在せざる事、或は外的條件は極めてそれに對して僅かなる價値を有するものなる事。第三には其病の現はれ來る原因として生殖細胞自體直接の關係を繫いで居つて、其遺傳單位に普通と異なれる狀態があつて、之に由つて普通と異なつたる發育をなし、生活機能の變調を起す事。第四には縦令其病が或る家系に比較的多く現はるゝとも、直ちにそれを以つて遺傳性にあらずと速斷してはならぬ事。何となれば病的關係は屢々劣性であるが爲めに潜伏狀態に於いて遺傳せられて一定の機會を得るまでは發現し難ない場合があるからである。

そこで若し或る病的關係が眞に內的遺傳的物質の異狀によつてのみ專ら惹き起されて、外的關係の價値は極めて少いものであるとしたならば、其病が遺傳的に後代に現れて來るに方つては動植物に於ける一般の遺傳と等しく、「メンデリスムス」の法則に從はねばならぬ筈である。併し乍ら人間の遺傳に於ては其研究が種々の理由から非常に困難で、今日の所、獨り病的

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の遺傳のみならず、凡ゆる形質の遺傳に關して動植物に於て見らるゝやうに、數學的の精確なる程度に於いて「メンデリスムス」を適用する事は困難である。從つて病の遺傳に關して遺憾ながら未だ十分に「メンデリスムス」の法則を適用する事は出來ないのであるが、眞に遺傳すべき病においては、恐らく「メンデリスムス」の法則を以つて之を律すべきものであらうといふ信念を抱かしむるやうな事實が、人間の遺傳に關する研究の材料が豐富になるに連れて益々多く見らるゝやうになつた。就中其點に於いて能く研究せられ、頗る奇妙な殆ど說明に苦んで居つた病的遺傳の現象が之に依つて奇麗に說明せらるゝやうになつたのは、色盲及び血友病に關する遺傳の事實である。而して此の兩者は略同一の關係に於て遺傳せらるゝものであるから、次に專ら色盲に就て其の關係を說明しようと思ふ。

（十二）

色盲とは色を識別する能力が普通の如く行はれない場合を云ふのであつて、それが輕い程度だと色神薄弱と云ひ、程度が高くなると初めて色盲と云ふのである。而して其中大多數を占めて居るのは、赤綠の二色を甄別する事の不可能なる場合で、其の人には此兩者は共に灰色に見える。之を赤綠色盲と云ふのであつて、男子には比較的多く、日本でも西洋でも約三乃至四[illegible]を占めて居る。然るに女子においては其數遙かに　子よりも少く、男子に比べて十分の一以下である。色盲に關する學問的記載は、自身赤綠色盲であつた英國の大化學者ジョン・ダルトンによつて端緒を開いた（一七九四年）。そこで赤綠色盲のことを「ダルトニスムス」と呼ぶに至つた。今色盲に關する遺傳的事實を概括して見ると次の如くである。

（一）色盲の男子と健康（色盲の遺傳なき以下同樣）なる家系の女子との間に生まるゝ子は男女共に悉く健康であつて色盲にはならない。

（二）色盲の父と健康なる母との間に生れたる色盲でない男子が、色盲に關せざる家系の女子と結婚すると　其子供は男女共に全く健康である。而して此健眼を有せる子女が他の健康なる家系の子女と結婚すると其子孫は又悉く健眼である。之に由つて之を觀れば、色盲の父と健康なる家系の母との間に生れたる男子の子孫は、其人が色盲の家系に屬せる人を配偶者とせざる以上、幾代代を重ねても苟しも色盲は出て來ない。即ち父の色盲は其男系には遺傳しない事が分る。

（三）色盲の父と健康なる家系に屬せる母との間に生れた女子で、自分自身は健眼を有する者が、健康なる家系に屬せる男子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と結婚すると、假令其配偶者自身は共に健眼であつても、其間に生れた男子の約半數は色盲を現はす。之に反して其女兒は悉く健眼である。之に由つて之を觀れば、色盲の家系に屬する女子は縱令自身色盲でなくとも色盲たるべき遺傳因子を保有し、從つて父の色盲は其男兒を通してでなく其娘（自身は色盲でなし）を通して男性の孫（約其半數）に遺傳するものである。斯樣な關係から女子よりも男子に餘計色盲が起つて來るのである。

（四）女子と雖も又全く色盲を起さないものではない。即ち共に色盲の家系に屬せる男女が結婚すると、それが女子にも現はれて來るのである。即ち色盲の家系に屬せる女子にして自分は色盲でないが併し色盲の因子を保有せる人が、色盲の男子を配偶者にすると、其遺傳因子が相重つて濃厚となる結果として、其子孫は男女共に約半數は色盲となる憂がある。而かも斯かる色盲者間の血族結婚は行はれる機會が罕であるから、從つて女子に色盲を起す事が少いのである。

（五）色盲の女子が色盲ならざる男子と結婚すると、其子の中男子は悉く皆色盲に罹るが、女子は皆色盲でない。即ち母の色盲は男子に傳はり、父の健眼は却つて女子に傳はる。斯かる場合を交叉遺傳と云ふ。

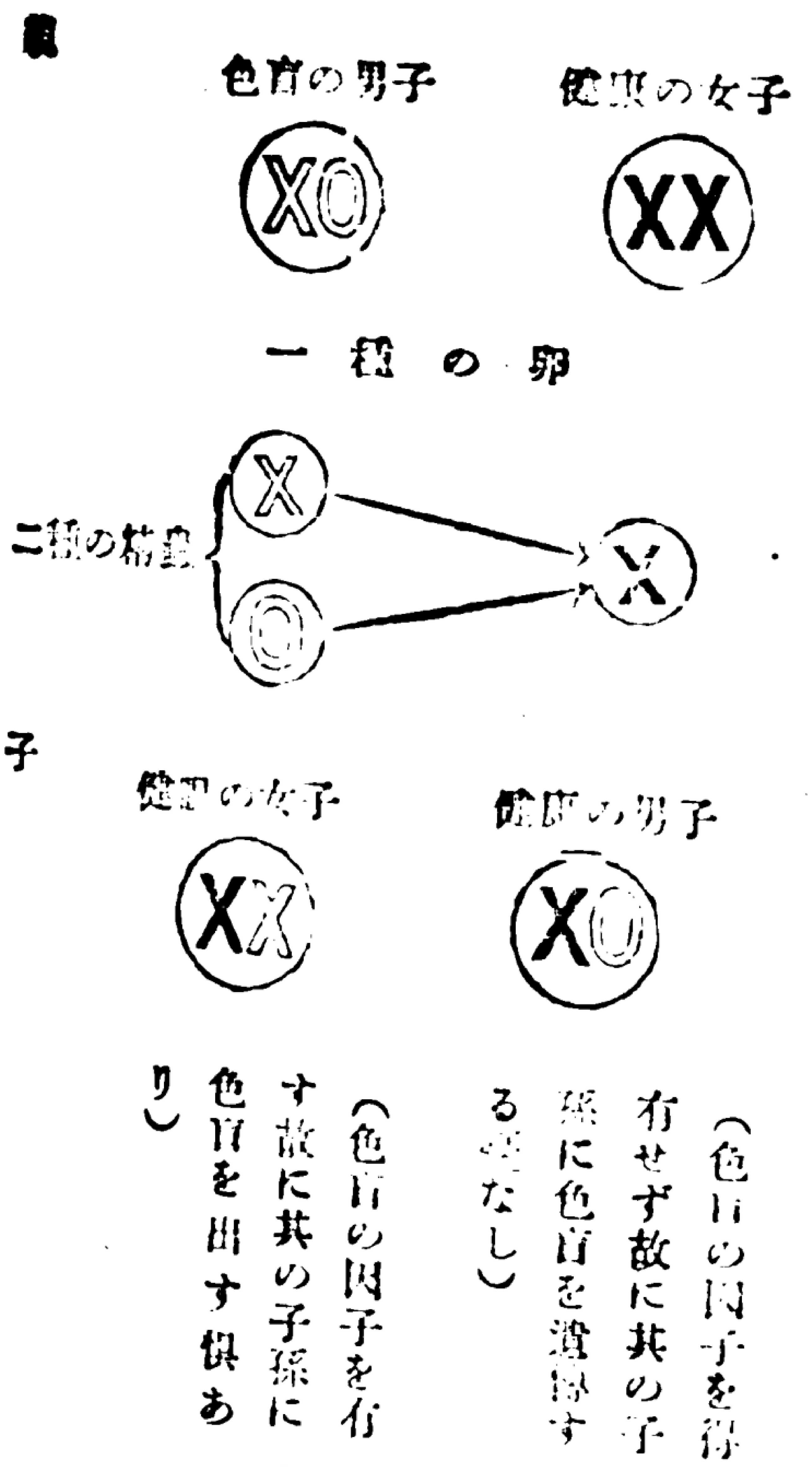
そこで以上述べた關係を見ると、色盲が遺傳に因つて現はれるは男子には多く女子には少い。而かも其色盲の素因を後代に遺傳する仲介を爲す者は、男子でなくして女子であると云はなければならぬ。此遺傳的關係を何う說明するかと云ふに、元來性別を決定する爲めに特別なる遺傳物質があるのであつて、假りに之をXなる文字で表はすとすると、其Xなるものが一つあるか、或は二つあるかによつて雄性となり、又雌性となるのである。斯樣な關係は單に理論的に考へられたのではなくし晩近の細胞學の進歩に由つて遺傳物質を擔ふて居ると云はれて居る生殖細胞の染色體に、其性別を決定すべき區別の在る事が分つて來たのである。染色體が唯一つある場合には牡を生し、それが二つあると牝となる事が分つた。次に又色を識別すべき能力を發揮せしむべき能力がある。それが有れば色盲者にはならないが、若しそれが無いと色盲者になる。斯う云ふ前提を設けて是等の遺傳物質が「メンデリスムス」の法則に因つて離合集散するものと考へると、上に述べた遺傳の事實が明瞭に說明が付くのである。

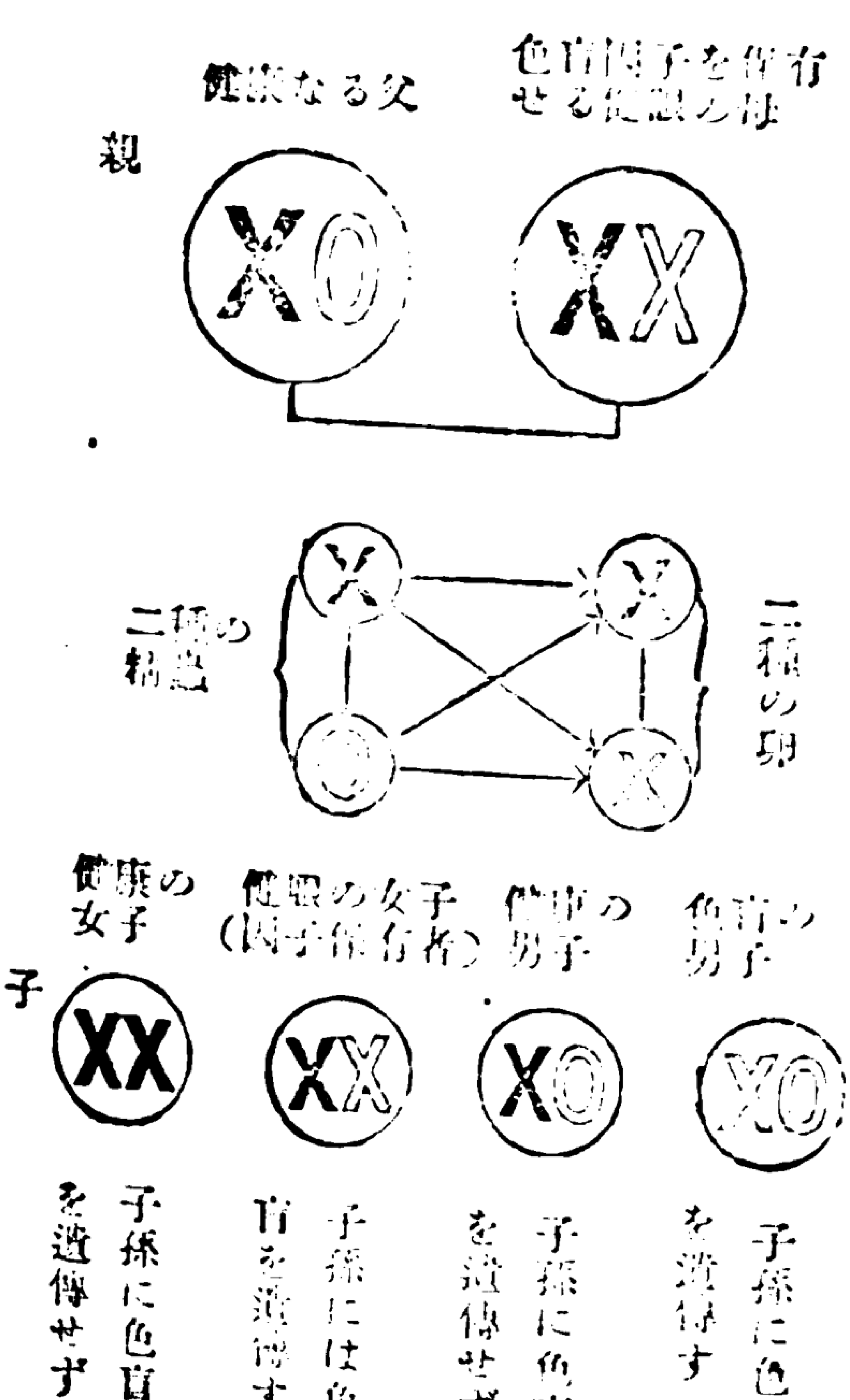
例へば已述の如く色盲の男子と色盲ならざる女子との間に生れた子は男女共に悉く健眼であり、而し其の中男子の系統には夫れが色盲の家系に屬せる者を配偶者とせさる以上皆健眼であるが、女子の系統にはたとひ健康なる家系の者と結婚しても其

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の男兒に色盲が現出する事實を說明せんに、Xが二個ある時女性を、Xが一個ある時男性となることを現はすものとし又色盲を起すに必要たる發育を續發に喚び起すべき遺傳因子を黑色に、て示し、之れが缺如して色盲となるものを白色にて示すと、XXに健康なる女性、XXは色盲の女性、XXは健眼なるも而かも色盲因子を保有せる女性に當たることになる。又たXOは健康なる男性、XOは色盲の男性に於ける遺傳物質の配列を示すことになる。そこで色盲の男子と健康なる女子とが結婚すると、其の生殖細胞が受精に先ちて成熟作用を行ひ、其の遺傳物質を半減する場合遺傳物質の關係に於て卵細胞には一通しか出來ないが精蟲には二通りが出來る。而して夫れが全く偶然に相互に自由なる結合を行ふとすると、略相等しい數の男女が生れて（實際人間に於ては統計上略同等しき數の男女の兒が生れて居る）兩性共に皆健眼になることは上圖に示す所によつて容易く分かる。

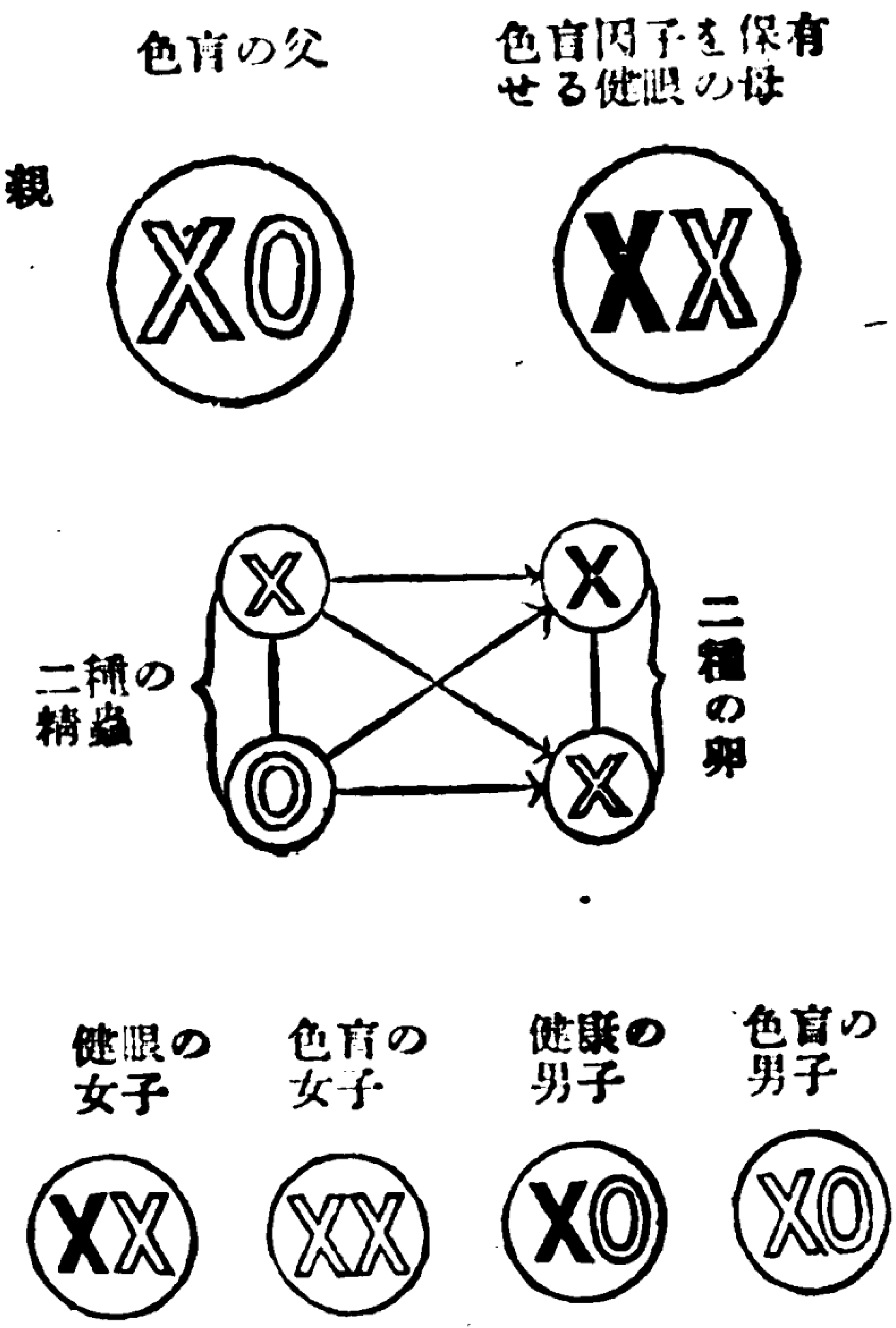
次に色盲の因子を保有しつゝ而かも自身は健眼である女子が健康なる男子と結婚すると次の圖に示す樣に、其の女兒は皆な健眼なるも其の男兒の半數は色盲となる。



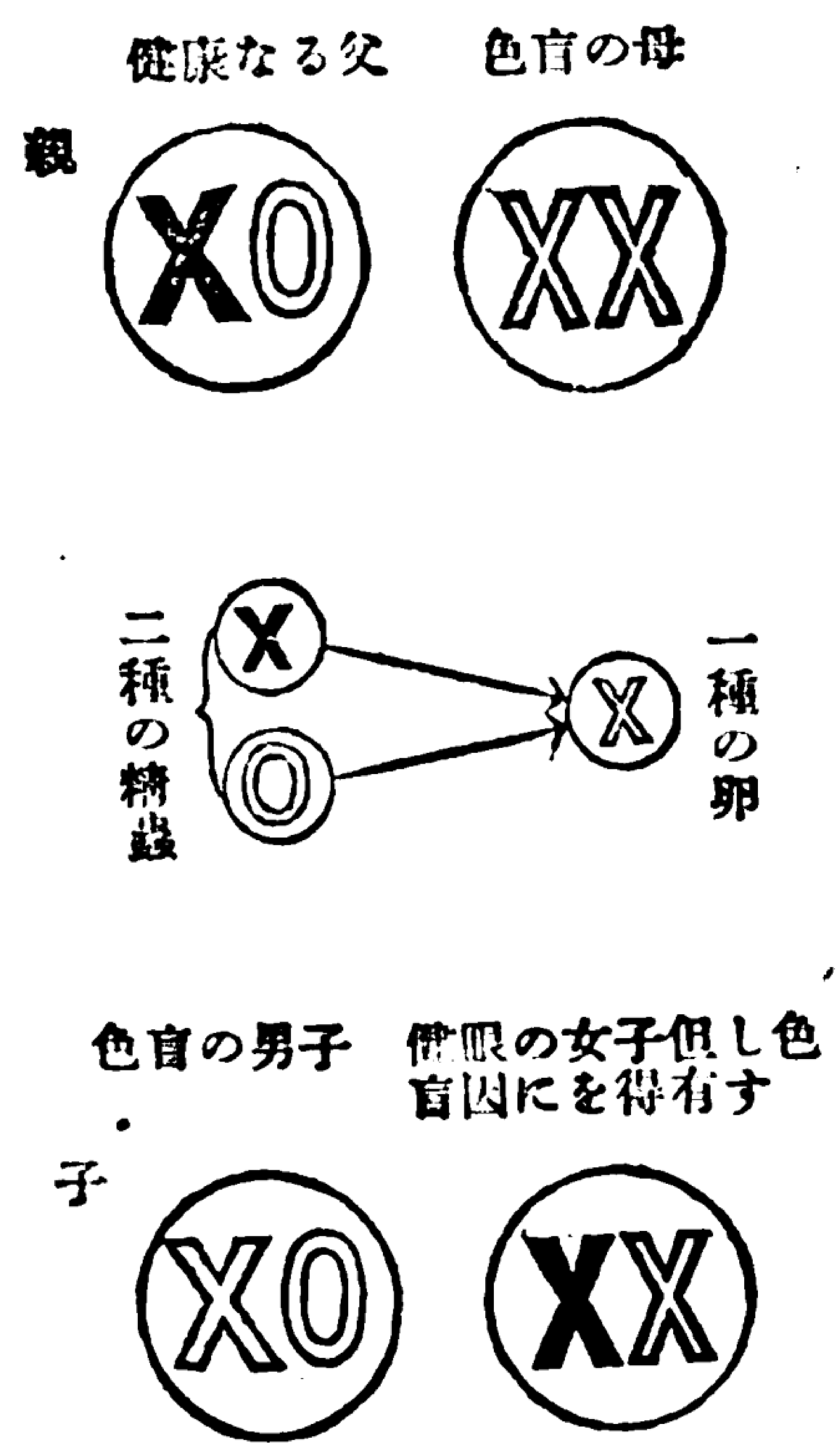


次に色盲遺傳因子を有する男女の間に結婚が行はるゝと其の兒は男女共に半數は色盲となる。即ち斯かる場合女性にも色盲が起る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



次に色盲の女子と健康の男子との間に生るゝ兒は男子は色盲となるも女子は健眼である。即ち父の健眼は女兒に、母の色盲は男兒に交叉的に遺傳すること（交叉遺傳）は次の圖で說明が附く



色盲や血友病等は、萬事此の調子で推して行くことが出來るもので、即ち夫れに關して知られたる一見不可解なる事實が、『メンデリスムス』によつて奇麗に說明せらるゝものである。

斯樣に色盲等の樣に、殆んど何等の外因なく純然たる內因即ち遺傳因子から惹起せらるゝもので、嚴格なる意味に於て遺傳性疾病乃至體質異常に屬するものを擧げて見ると、多くの畸形、或る種類の新陳代謝障碍例へば或る種類の腎臟炎、糖尿病の或る種類、或る種類の皮膚病や、眼病等が、夫れに數ふべきものである。其の他或る種類の精神病、神經病等を、之に算入せんとするもある。併しながら以上の諸疾病に在りては、たとひ內的素因が重きをなすとは云へ、其の間又た自から相違する所があり、或るものでは內的素因が特に重きをなすに反して、他のものでは外的影響が隨分大切な意義を有して居る樣な場合もある。

（十三）

そこで最後に環境と體質即ち病の外因と內因との關係に就て已に述べた所を參酌して病に一般的分類を試みると、次の如くである。其の中第一第二第三の分類に屬するものは、一般に體質性の病と稱せらるべきもので、何等之れと云ふ顯著なる外因

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

無くして起るので、從つて內因即ち體質が非常に重きを爲さねばならぬのである。

第一、遺傳性積極的變化 Erbliche Pulsvarouten である。之は遺傳物質は突飛性の變化に依りて何か加る、即ち多指症多乳房等である。是等の病は全く內因にのみ由るもので、何等外界の影響を考へる事が出來ぬ。

第二に遺傳性消極性變化 Erbliche Minusuasianten なるもので、普通有るべき或るものが缺けると起る病である。其の最も著るしい例は色盲の場合である。色盲の場合には有るべき物質が缺けて無いと云ふ事を考へねばならぬ。

第三には遺傳性變異 Erbliche Dysvarianten である。之れ遺傳物質に何等か性質が變化する結果である。血友病夜盲症の如きは其代表である。而して第一第二第三に屬するものは血友病にしても、色盲にしても、畸形にしても、孰れも生れながらにして先天的遺傳的に然かあるべき素質を有つて居る事は疑ない事である。換言すれば專ら內的關係のみで外的關係が非常に弱いものである。

第四には內的關係が重きを爲しつゝも猶は多少外的關係によつて現はれ來る病、即ち生活狀態の變化である。其の例として擧ぐべきは萎黃病とか近視眼の如きものである。之れは遺傳的に重きを爲して居る。後天的に外因が何等かの働きをする。即ち生れた後になつて始めて一定の誘因によつて近視眼が起つて來る。近視眼は近い物を見る時に、調節器が收縮するに方りて壓迫が加りて起る。此壓迫が加はりても甲の人に起り乙の人に起らぬのは何う云ふ譯かと云へば、甲の人は生れながら眼球の造り方が薄弱であるから、少しく壓迫が加はつても抵抗が出來ずして眼軸が長くなるのである。萎黃病の如きも同一の關係を有し、一定の年月を經過して始めから起るのである。斯う云ふ風に外界の影響が少しく加はるを云ふのである。

第五には普通の內的條件を具へつゝ生活機能が稍薄弱なる場合で、之れが多大の數に於て見る場合である。心臓が弱くとも注意すれば病に罹らず濟む。然し少し過勞すれば直ちに心臓病を起すが如きは之に屬する。第四に比すれば外界の關係が猶は餘計に重きを爲す點に在る。即ち生れながら或る器官が薄弱であるが、然し普通仕事には差支へない。但、其機能を餘り屢々繰返して居ると其器官が機能的の障碍を起して來ると云ふ場合である。精神病の如きも、勞動脈硬變神經系統殊に「ターベス」卒中腎萎縮の如きも、之に數へる事が出來る。即ち普通の機能が既に病因を爲すに足る場合である。故に其等に對し Anfbrauchs Krankheit といふ名稱を與へて居る。

第六は第五よりもつと外的關係が重きを爲すもので、多くの傳染病、疾患、中毒症の如きものが之に屬する。無論是等は内的關係も無いが、多くの場合外的關係が重きを爲すものである。例へば發疹の如き疱瘡の如き、誰も之に罹ると個人的抵抗力を増し、又は弱める場合もあるが、兎に角大多數のものが罹る。之れ外因が重きを爲すからである。然し少數のものが罹らぬのは外から働く毒性以外内的關係如何と云ふ事も之に關係する證據である。要するに内因が重きを爲すか外因が重きを爲すかによりて以上の區別を立てる事が出來る。其内、内的關係が重きを爲すものであればある程、先天的遺傳的關係が大切なる意義を有する事になる。されば疾病は多く外的關係を尋ねる事が大切であると同時に、内的關係を考慮するのが非常に必要である。

（十四）

晩近遺傳學の目覺しい進歩の結果として、從來專ら外的關係にのみ着眼して、教育さへすれば愚人を賢くすることが出來、衛生さへ行へば弱者を強くすることが出來、宗教や法律の力のみで惡人を善人に變へることが出來るものと信じて居た所の人間は、今や長い眠から醒めて如何に人間の稟賦の性質の重んずべきかと云ふ事に多大の注意を拂ふやうになつて來たのであつて、例へば法律にしても教育にしても醫學にしても、其他凡ゆる社會人事の問題に於て遺傳の理法稟性の價値が日一日と重視せらるゝに至つたのは寔に喜ぶべき事であつて、「ユーゼニックス」の運動の如きも今や英吉利亞米利加を中心として漸次世界の各文明國に波及せんとして居る。特に今囘の大戰爭によつて民族衛生の必要は最も痛切に國民の頭に響き亙つた。斯くの如くにして結婚の問題の如きも、今や單に位置とか財産とか云ふ外的關係のみならず、又單に感情生活に基く戀愛の關係のみな様ならず、冷靜なる遺傳學說の判斷によつて其の最後の解決を求めんとするやうになつて來た事は寔に結構な事である。併し乍ら前にも述べたやうに、兎角極端に奔り易い人の思想は、動もすると餘りに内的條件の尊重に傾いて、爲めに却つて謬れる結論に陷るやうな場合が起つて來たのは、最も愼重なる注意を要する事である。

「メンデリスムス」に基く遺傳の理法に據ると、内的素質は決定的のものであつて、從つて若し之を極端に擴充して考へて見れば、凡ゆる環境改善の努力は殆んど無效と云ふことになる。法律の如きも、教育の如きも、衛生の如きも、凡て從來人が努力し來れる環境の改善は非常に力が薄弱であて、行ふ價値がないといふ懷疑思想に陷る。が併し斯の如きは是れ其一を知つて

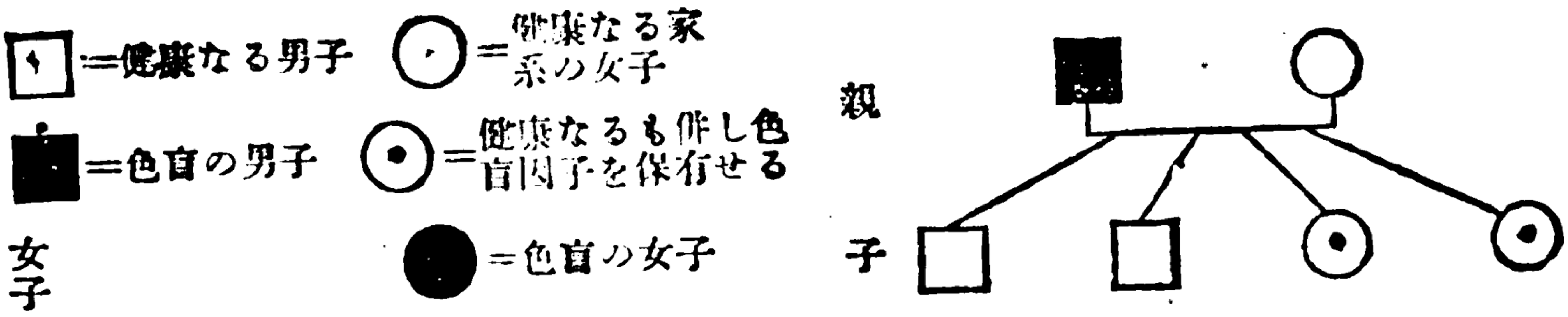
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

其二を知らぬ罪である。前に述べた如く、一事物の生起する場合に於いて、内的條件と外的條件とは共に大切なる價値を有ち孰れを偏重しても中斷を得たるものとは云へない。成程遺傳物質は變化しないものであるに相違ない。けれども遺傳物質は未發の狀態に在るものであつて、其未發のものを如何なる方面に開展せしめるかは、外的條件の即ち環境の如何に由るのである。勿論環境の力によつて、素質を全然變化さすことは出來ないのは言を待たずして明かであるが、併し未發の素因は、環境の如何によつて、或る程度迄は良く發現し來ることも、又た惡く開展することも出來得るのである。同じ種子でも、其培養宜しきを得ると得ざるとによつて、其出來榮えの上に非常な相違を起すは誰しも知つて居る通りである。内的種性は動かすべからずと云つて環境例へば培養法を忽諸にするのは、此明瞭なる理法を忘れ效果を無視した愚な行である。併し乍ら一面又外的關係のみに拘泥して、磨きさへすれば瓦も玉に變じ、鉛も金になるといふやうな古い考も、之れ亦誤つて居る事云ふまでもない。

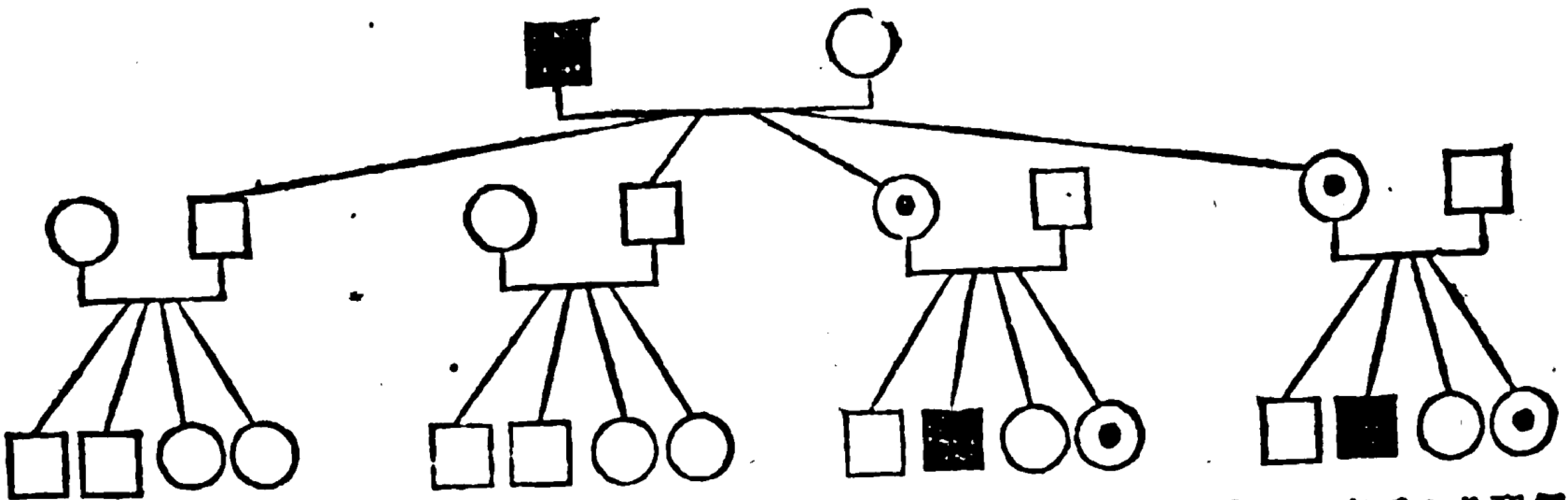
殊に注意を要する事は、結婚問題等に於いて單に一部遺傳の理法のみ拘泥して、或る遺傳病ありとすると直ちにそれに囚はれて、凡ての他の關係を顧慮する事を忘れて、全然之を恐れ之を避けんとするやうな極端なる内的偏重論の起ることとである。

例へば色盲の如き純然たる遺傳病で、殆ど内的條件の如何によつてのみ決定せられるものではあるが、併し乍ら若し單に色盲の遺傳的素質ありとの所以を以つて、其遺傳の出つて來る關係又其結果の如何なるものたるかを研究する事なく、徒らに之を避け、之を恐るるが如きは頗る誤れる内的條件偏重の罪であると云はねばならぬ。色盲の如き病的症狀は特殊の生活、例へば交通機關とか染色とか其の他色を取扱ふ職業に從事する者を除く外、比較的不便を感ずる事最も少きものであり、且つ身體の健康の上に、之れある爲めに何等惡影響無く且つ又精神の發達も、之が爲に何等沮害せらるゝことのない者であつて、現にダルトンの如き大英才其の他多くの知名の人が色盲であつたことを考へたならば、其の他の關係に於て優秀なる遺傳的素質を有する場合、拔群なる身心を具ふる場合、單に色盲と云ふ遺傳性疾病ありと云ふ理由の下に之を忌避するが如きは、最も愼まなければならぬと思ふ。況んや遺傳の法則によつて考覈して見ると、たとひ一旦色盲の遺傳的關係が或る家系内に入り來る事ありとするも、其配偶者にして宜しきを得る場合、代を重ぬるに從いて著しるしく其遺傳的關係を輕減する事が出來るに於てをやである。例へば健全なる男子と色盲の家系に屬する女子との間に結婚が行はれ、其間に各二人宛の男女の子供が生まれる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

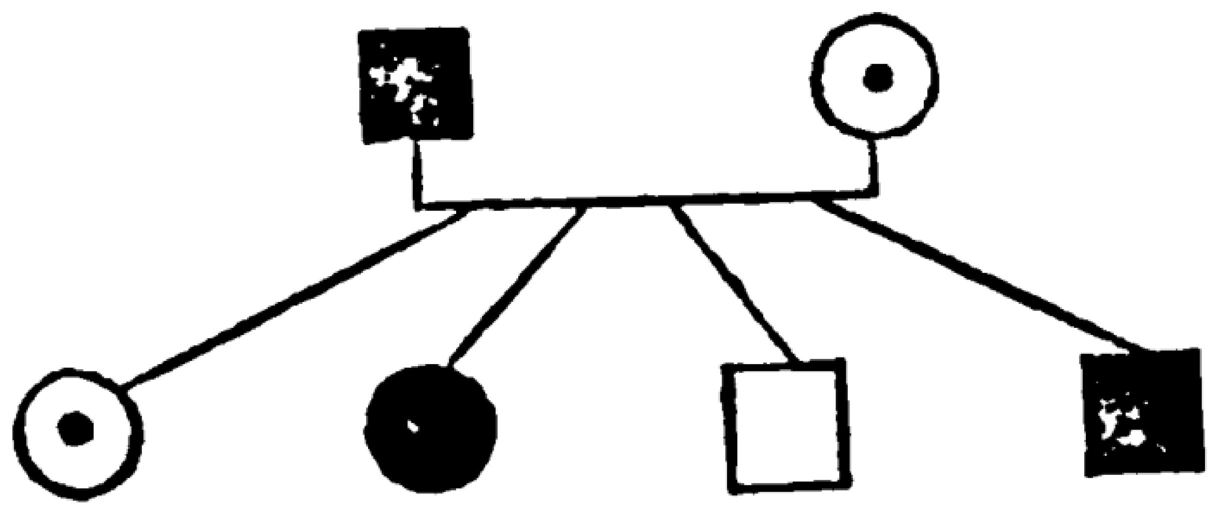


色盲の男子と健康なる女子と結婚する時は其の男兒は悉く健康にして色盲を遺傳することなきも女兒は皆色盲因子を保有し後代に色盲を遺傳する慎あること即ち父の色盲は男系には遺傳せず女系に遺傳することを示す

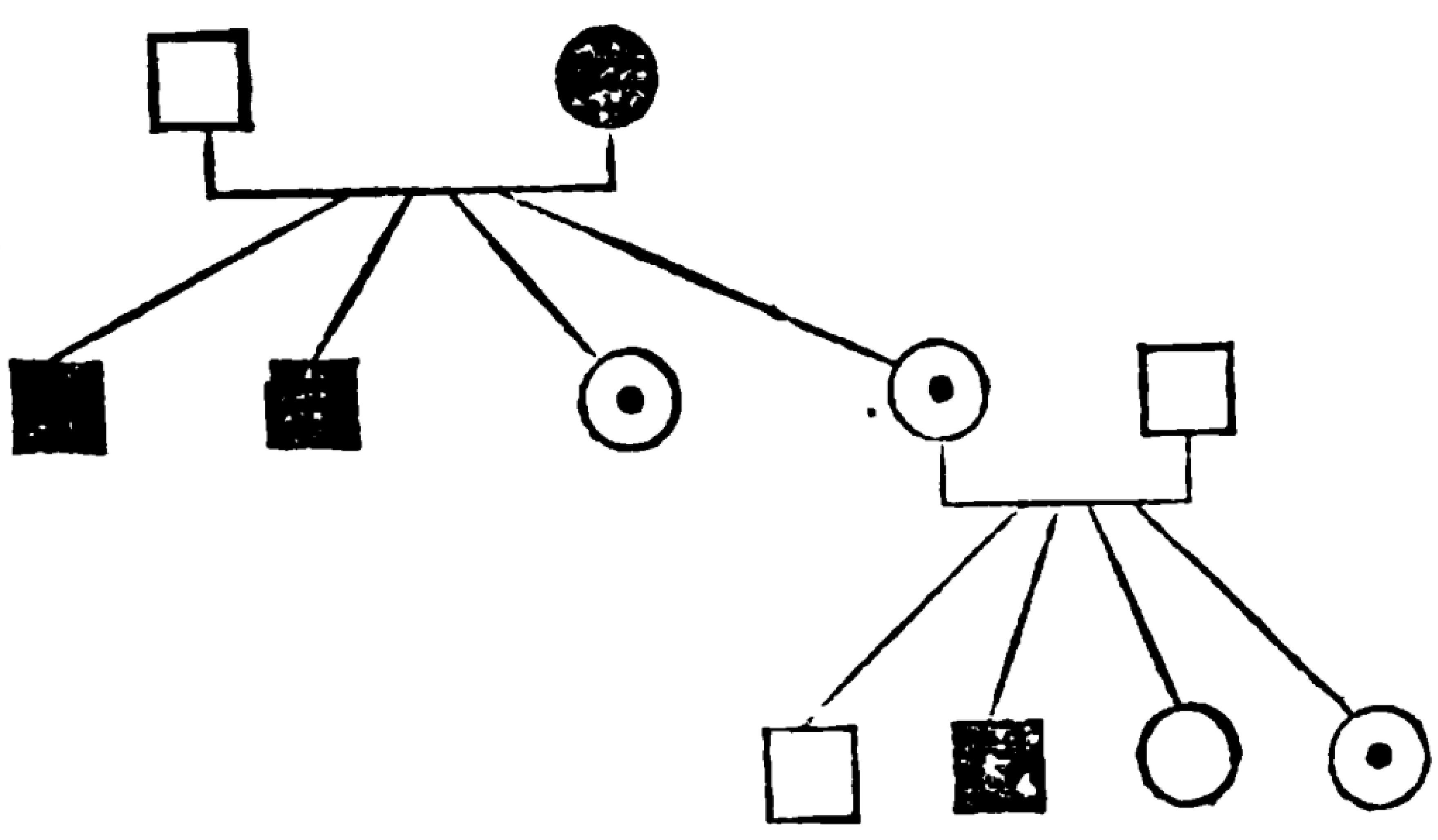


色盲の父と健康なる母との間に男女各々二人の子を生じ其の男女が健康なる家系より配偶者を得て男女各二人の子を產みたる場合十六人中僅かに二人の色盲男子が現はれ且つ該色盲者は皆な女系に於て現出することを示す

ものとして考へて見ると、其子供は皆悉く健全である。次で此の四人の子女が健康なる家系の人を配偶者として其間に男女各二人宛の子供が出來ると假定すると、總數十六人の男女の中、十四人は健全で二人が色盲になることを豫定すべきである。即ち健眼者七人につき色盲者一人を生ずる割合になる。次で其の十六人の子女が健康なる配偶者を得て男女各二人宛の子が生れたとすると、其の子は總數六十四人で中僅か二人の色盲者があるのみである。即ち三十一人に對して一人の割合になる。



色盲の男子と色盲因子を保有せる女子と結婚する時は男兒も女兒も其の半數は色盲となり且又健眼の女兒も色盲因子を保有することを示す即ち色盲者の家系に屬せる男女の結婚によりて女子にも亦色盲を生ずる機會を生ず



健康なる男子と色盲の女子との間に交叉遺傳を行ふこと即ち男兒は皆色盲にして女兒は健眼なることを示す。但し女子は皆色盲因子を保有し後代に色盲を遺傳す

斯くして更に其の次の代に入ると二百九十六人の中に僅に六人だけの色盲者を出すのみで、即ち四十一人に對して一人の割合になる。更に其次ぎの時代になると、一千二十四人の中色盲者僅かに十人だけで、即ち百人につき一人である。更に次ぎの代に至ると四千九十六人中二十二人の色盲者を出すに過ぎない。即ち百八十五人に對して僅かに一人の割合である。

斯かる譯であるから假令一旦色盲の系統が入り來ることとありとするも、代々色盲に屬せざる健康なる家系の人を配偶者とすれば、其子孫に色盲の現はれるのは極めて僅かである。殊に前述の理法によつて明かなる如く、色盲の父と健康なる母との間に於ては色盲の遺傳は其の男系には傳はらないのであるから男系を重んずる家族制度に於ては、愈々其點は深く顧慮すべき事ではない。右は唯一例に過ぎないが、徒らに病の遺傳に拘泥して大局を達觀することを忘れんとするやうな場合が屢々起るから、特に此點を以て、單に色盲ありと云ふ理由を以て、他の凡ての優越せる諸關係を排斥するが如きことがあつてはならぬ。若し斯の如きことあらば、是れ實に一大損失であり、一大不幸である。眞に邦家を思ふの士は、須らく大局を達觀し、愼重なる考慮を廻らすべきである。

（十五）

結核の如きも、遺傳病の一として最も恐れられて居る者である。結核に罹り易き體質が遺傳することは、疑ない事實であらうが、併し單に遺傳のみによつて結核病が起ると考へたならば夫は大なる過である。ワインベルヒ氏の統計によると、夫婦間に於て何方か一人に結核がある場合には、其の配偶者は自己の血族に結核患者がある場合よりも、遙に屢々結核に罹るものである。即ち自己の兩親が結核である場合よりも五〇%丈け、又自己の兄弟姉妹に結核がある場合よりも六八%だけ、餘計に結核に罹るものである。今若し結核になると否とが、一に體質にのみ因るならば、吾人は寧ろ反對の統計的事實を認むべき筈である。

又た近時の研究によると、結核の感染は最も屢々子供の時代に於て行はれ、長日月間潜伏して居て、一朝何等か體力を衰耗せしむべき機會があると、之れが勃發する場合が非常に多いのである。

結核に於て感染其の他一般環境の關係が、大切であることは例へば看護婦とか、紡績女工等が、屢々之に冐かさるゝ事實を見ても明かである。

癩病の如きも、蓋し結核と大同小異のもので、矢張感染が大

切なる意義を有つて居るものである。このことは、歐洲各國に於て、癩患者の隔離法が十分行き屆いた結果、今日では殆んど其の跡を絶つたことから見ても肯定せざるを得ない。然るに世人は、今猶ほ癩に關しては全然遺傳にのみ着目して、天刑病等と云ふ名目を附して、其の子孫迄も咒ふに至つては、實に慘酷の極である。斯の如き不正なる慣習は、宜しく今日に於て斷乎として改むる所がなければならぬ。

癌腫の如きも亦、屢々遺傳病として深く恐れらるゝものゝ一であるが、併し多數の統計的調査によれば、其の遺傳的關係は存外少ないものである。例へば胃癌の家系に胃癌が出た場合の即ち同臟器間遺傳の統計成績は、西洋の報告は或は四・八%(ポアス氏)、或は八・%(ヘーベルライン氏)、或は一一・九%(レーベルト)で、平均八・二二%に當つて居る。本邦でも東大病理の山極教授の報告された所によると、九・一二%で、西洋の平均價に一致して居る。胃癌よりも頻發の多いと言はれて居る子宮癌に於ては、西洋の報告の平均は一一・九二%であるが、山極教授の本邦に於ける調査の成績は、同臟器間遺傳は僅かに〇・四四%で、之に準同系臟器間遺傳即ち子宮に縁故の近い卵巣等に現はれた遺傳を加へても、猶〇・八八%に過ぎないと云ふことである。何れにせよ斯の如き成績でありとするならば、癌における遺傳の力は割合に薄弱なもので、之の遺傳があると云ふ故を以て、他に優秀なる諸關係ある場合に之れをも葬り去らんとするが如きことあれば、思はざるの甚しきものである。

勿論理想論よりすれば、遺傳性疾病のあることは、一の弱點で、出來得るならば之を避けるにましたことはない。さりながら自分の殊に揚言したいのは、餘りに遺傳的關係、夫れも比較的無害なる遺傳的疾病の爲めに捉はれて、其の他の大切なる諸點を考慮することを忘却してはならぬと云ふことである。理想としては完全無垢のものを欲するは無理ならぬことであるが、併し世の中に、果して完全無垢の者ありや否や、現實は悲哉何事も理想の注文通りには出來て居ない。事實問題としては、吾人は何事にも比較的の價値を考へて滿足せねばならぬのである。隨て結婚問題の場合に於ても、單に一部知られたる遺傳的疾病ありと云ふ故を以て、直ちに萬事を否定するが如き早計に陷つてはならない。殊に其の遺傳的疾病なるものが、無害のものである場合、或は從來考へられて居たよりも遙に力の薄弱なる場合に於てさうである。近時之に關して特に感を深からしむるものあり、聊か思ふ所を記して世の識者に問ふた次第である。

（完）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

與謝野晶子夫人著

評論及び随筆

人間禮拜

正宗得三郎氏裝幀（最新刊）（定價貳圓六拾錢 送料十七錢）

與謝野夫人の思想、多々ますます進化して已まず、各人の内にある人間性の尊嚴と全能とに對する極度の讃美禮拜、これ實に本書を一貫せる夫人最近の主張なり。この思想に據り多方面の問題に亘つて敏慧透徹の考察を下されたれば、現代に於ける何人の實生活にも觸れて、最も適切なる改造資料となるを疑はず。殊に男女を問はず若き人々の心胸は、之を讀んで豐麗なる感激の中に、各自の未來の堅實なる文化行程を豫見せらるゝならん。

夫人最近の寫眞（コロタイプ版）

與謝野晶子夫人著（價壹圓五拾錢 送料拾五錢）

（五版）

晶子歌話

與謝野夫人其熱と香味とに富む才筆により、短歌の作法を細叙し、特に象徴的短歌を鼓吹し、歌壇近時の常識主義・客觀主義・擬古主義の流行に反對し、専ら新理想主義・新熱情主義・新浪漫主義の創造を高唱せらる。其の短歌の作者と讀者、速かに一冊を手にせられよ。

與謝野晶子夫人著（價壹圓四拾錢 送料拾五錢）

（參版）

心頭雜草

今や世界は戰後の激變期に入り怖るべき大動搖の中に新しい生活の健全な秩序を確定しようとして男も女も最善の努力を試みて居ります。我々日本婦人たる者この世界の大勢の前に如何なる理想と實行とを以て順應すれば宜しいか。この實際問題に就いて本書は私自身の覺悟を述べたものです……（著者）

東京市麹町區飯田町壹の貳 株式會社 天佑社（電話九段長一一・七三番 振替東京一〇一二八番）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

商業偏重時代より工業中心時代へ

商業中心主義より工業中心主義に

法學博士　堀江歸一

農業中心主義の廢滅

日本は古來農業を以つて、經濟的立國の基礎に充てゝ居つた國である。農業は各種産業中の主位を占め、之に從事する農業者は封建尙武の時代に於て、各種職業中の最高位を占める武士の次にこそ置かれたが、工商よりも遙に高い地位を與へられ、農業者自らも亦斯うある可きものであると云ふ自尊心を懷いて居つたのである。一國に於て、國民生活の狀態が充分に發達せず、富の集積される高も少なく、國民の需要する物資の種類も亦狹な範圍であつて、衣食の絶對的必要を充せば足りると云ふような有樣であつたなれば、國民の生業として、最も貴きを置く可きものが即ち農業に外ならぬことも、敢て異とするを要しない。農業が或る程度まで行はれゝば國民の需要する食物殊に主食物は米にしろ、小麥にしろ、盡く一の農業から供給され、一方に國民被服に充てられる各種の織物も亦農家子女の農閑時に於ける副業に依つて、製出されるであらう。然らば一國には農業さへあれば、以つて國民の生活を繋ぐに足りると云ふ信念の起るのは、當然であり、又此反對に農業が缺けて居つては、如何にしても衣食の資料を國民に與へることが出來ないと考へられる。斯くて農業が一國の經濟生活に於て、最も貴重な産業であり又各種産業中の主位を占めるものと認められるに至つたのも、亦怪むに足らない。

然しながら農業を盛大にし、又之を盛大にする爲めに、國民の資本なり、勞力なりを成る可く多く農業に注入したならば、國民生活上に如何なる結果を生ずるであらうか。農業は其粗放的に行はれる場合に於ては勿論、集約的に行はれる場合に於ても、其産出する富の割合に、多量の土地を費さなければ　なら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ず、其土地も亦一年を通じて、常に利用されて居る譯でないのであるから、農業だけの力では、到底一國に多數の人口を給養することが出來ず、又之を給養する場合に於て、國民の生活程度の高く爲るのを望むを得ないのである。地方の農村に多數の人口が蓄住したならば、生活上に如何なる結果を生じるかと云へば、自他相率いて互に生活程度を劣等にするのは已むを得ない所であつて、老人を姥捨山に遺棄するとか、現に生存して居る者に多くの物資を與へる爲めに、新に生れんとする者に向つて、墮胎や、殺兒で、其生命を奪うと云ふようなことも、農村の限られた經濟生活に於ては、必然の勢と目されたのである。或は國の面積が極めて廣く、土地亦肥沃であり、如何なる物資であつても、之を國內に求めれば、直に產出されると云ふ狀態に居つたならば、農業ばかりに依賴して、或る數の人口を給養するに難くない、而して其等の人々は外部から强烈な刺戟を受けず、天然を伴侶として、生活をして行くと云ふことは確に國民經濟を立てゝ行く一の型式たることを失はないが、面積に限りある國に於ては、結局骨肉相食むが如き慘憺たる狀態を惹起せざるを得ない。是れは農業に收益遞減の法則の働き出す以上は、必然の勢としなければならぬ所である。

局面展開策

斯る、狀態の起つて來た、又其起ることの近づいた場合に、局面を打開して、國民生活の豐滿を期するものは、商業の發達に外ならぬ。固より農業時代に於ても、農業者の生活は必ずしも一個の家庭に局限されるものとは見られない。俚諺に「竹の柱に、茅の屋根、酒屋に三里、豆腐屋に二里」とあるのを見ても、農業家は生活上に必要の物資を盡く自ら生產しようとしても出來るものではなく、勢他に其供給を仰がなければならないことゝ爲るのである。さうすれば農村のような極めて狹い領域であつても、或る程度の下に、物資の交換が行はれるのであつて、而して此交換が商業と爲るのである。

商業が一ツの都會なり、又は一ツの郡村を單位として、經營されて居る場合には、其都會又は郡村の經濟狀態に大なる影響を及ぼさない、郡村に於ては勿論都會に於ても、農業と商業とが並立する餘地があり、商業の種類に依つては、農業の存立する影響を受けて繁昌するものがあるかも知れない。然し是れより一歩を進めて、一國と云ふ廣い領域を單位として、商業が經營されるように爲つたならば、一國內に必ず農業區域と商業區域との別を生ずるに至るのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

或る地方を農業區域と云ひ、又他の地方を商業區域と云つた所で、固より一國に屬する其れ〲の領域であり、又同樣に富の生産に從事するものである以上は、兩者の間に何等輕重の別を置く可き譯はないのであるが、農業と商業と相對立する場合には、自然商業が國民に依つて頂要視され、商業を以つて、立國の基礎とするような說を生ずる傾向が見へるのである。是れは何が故に生ずる現象であるかと云へば、第一商業は都會で行はれ、都會と云ふ比較的狹い地域に富を集中するので、商業こそ、國家を富まし、國民を豐にする捷徑であるやうに考へられること、第二商業に從事する者は農業者に比較すれば、其從う仕事に投機的分子が含まれ、又同業者間に於ける競爭の劇烈である爲めに、自ら各自の知能が練磨され、營業上に於て、將た又處世上に於て敏活に行動し、一國の經濟的文明は斯る人に依つて、代表さるる觀あること、第三商業家は狹い地域に居住する關係から、同業者としての利害關係が密接である爲めに、各自の間に團結を作り、聲を大にして、自己の利益を社會に宣傳もすれば、又之を發揚するに勉めることの三點に歸せなければならぬ。

商業偏重時代

斯る關係から一國の經濟生活に於て、農業と商業と併立する時代が來ると、必ず商業を偏重する時代に進むのであつて、而して一國が如何なる政策を施しても、商業を盛大にしようと努力するときには、之を名づけて商業主義即ち「コムマーシヤリズム」と呼ぶのである。一國が商業主義を以つて、經濟を立てようとする場合には、如何なる政策を必要とするであらうか。農業國が農産物を中心市場に運搬して、之を賣買したり、又其二部を輸出したりしたならば、農業の盛大なるが如く、商業も繁昌し、自然商業主義の實行されたものゝように思はれるけれども、是れは決して商業主義の必要とする條件を充して居らないのである。何故かと云へば、時勢の進步するに隨ひ、又新開國の農業の競爭を始めると共に、先進國の農業は必ず衰微せさるを得ない。是れは農業に收穫遞減、費用漸增の法則の働く以上は、已む得ざる事質であつて、現に古來瑞穗國とまで稱された我國の農業が外國米の輸入に依つて、其存立上に打擊を蒙るに至つたことに顧みても、事の一端を解するに苦まないであらう。既に然る以上は、斯る衰微の運命に居る農業を其礎として行はれる商業に對して、多きを望むのは、甚だしき矛盾であつて、商業主義で進まうとするには、他に道を求めなければならぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

或る國が商業主義で、國民經濟を營み、又其繁昌を謀らうとする場合に、何が必要であるかと云へば、國を開放して、內國商業の狹い立場から、國際商業の廣い立場に就く一事に外ならない。既に一國の農業に發達の限度が迫つて來て、斯業に資本勞力を用ひても、之に對する收利の步合が以前の如く豐でなく寧ろ以前に比較して、減少して來ると云ふことは、何を意味するかと考へれば、自然其國の面積が狹隘であるものとするのが自然の勢であるであらう。固より大陸國にしても、歐洲大陸に存在する諸國のように、本來國土の狹いものもあるが、假に今、問題に上つて居る國を以つて、純然たる島國なり、又半島國であるとしよう。其島國であり、又半島國であるの故を以つて、面積が狹く、随つて農業に依賴して、國民を給養する程度に限りあつて、土地なり、又は土地から產出される產物の力だけで、如何ともするを得ない場合と爲つたならば、國を世界に向つて開放するのである。國を開放すると云ふのは、外國人、外國物資、外國船舶、外國資金の來住、移動、出入を總て自由にし、之に對して何等の制限や、障壁を設けない意味である。さうすれば一國の國際經濟上に於ける關係は極めて濃密と爲るであらう、卽ち第一貿易上の關係から見れば、一國の農產物は外國で需要されるに随つて、輸出されると共に、外國から之に對して自國に於て絕對に、又有利な條件の下に產出されない物資が輸入され、輸出入共に自由である以上は、關稅其他の障壁が設けられて居る場合に比較して、輸出入は增進するに相違ない、第二既に一國の港灣が他國に向つて、開放されて居る以上は、各國の船舶が盛に出入し、碇繫し、航海中に必要な物資を購入するは勿論、船客船員等の費消する金錢も亦決して小額であるとするを得ない、第三一國が一の大陸と他の大陸との間に介立するような地位を占めて居つて、通商上の自由を認めたならば、其國は必ず一大陸に屬する國と他の大陸に屬する國との間の貿易の通過する通路と爲り、埠頭に倉庫業か起り、回漕業が繁昌し、鐵道業亦運搬す可き物資を增し、國全體に富を撒布するに至るのである。第四斯の如く商業主義の下に、一國が經濟上の政策を律して行く場合に、一ツの特徵と爲るのは內外國人の間に、住居に於て、營業に於て、財產其他の權利に於て、何等の差別を設けない、國家として內外國民を平等に待遇する事であり、其處で斯る國に向つては、諸外國の國民は來住して、生業を求めるであらうし、資本を投じて、其利殖を謀るであらうし愈々其交涉を國際的の廣きに及ぼすのである。第五斯の如く商業主義で國の經濟を立てゝ行けば、富も一國に集中されるし、國民も國內に於て、將た又國際間に於て、種々の刺戟を受ける

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

爲めにも、機敏にも爲れば、巧智にも爲り、眞に經濟的文明の極致に達したもの丶如くに考へられる。

商業中心主義の滅亡する理由

商業中心主義で、一國の經濟的發達を期圖した事例は敢て稀なりとしない。伊太利の如き、西班牙の如き、和蘭の如き、何れも一時經濟上に繁榮を極めたのは、商業中心主義の賜であつて、內に國民の力を商業に傾倒すると共に、外に海外殖民地を開拓して、商業主義の完成に勉めるのである。然しながら斯る商業中心主義の經濟政策は永く其國の經濟を振興し、又其繁榮を持續するを得たかと云へば、多くは所期に反し、一時は有利な事情を生じても、一朝或る事變が起れば、忽にして消滅すると云ふことは、常に吾人の目擊する所である。然らば商業中心主義は何故に斯く永續的繁昌の基礎を一國の經濟生活の爲めに築くに足らないであらうか。私は其原因を尋ねて、左の諸事實に歸したいと思ふのである。

第一、商業中心主義の下に、一國が商業の繁昌を求めることに爲れば、其國の人民は成る可く國內に座して、他國民の來つて富を散ずることを求める。種々の困難に堪へ、又色々の障害を凌いで、一ツの事業を完成すると違つて、其時の商業取引で、目前の利益を收めると云ふことは、國民をして自ら先見を缺き、耐久心に乏しき民たらしめざれば、已まないであらう。

第二、商業中心主義で、一國を他の諸國の爲めに開放し、諸國民の來住し、居住することを求めたならば、其國は果して如何なる狀態に爲るであらうか。一國が商業にばかり專念して、殆ど他を顧みない、而して商業取引に關係を持つ爲めに外國人が來住し、居住するだけに、止まるならば、他に何等議す可きものはないが、一國が商業隆興の見地から、外國人を國內に招致しようとする場合には、多く其等外國人の意を迎へ、彼等を歡樂の境に導かうとする。斯くて國民を擧げて外國人の奴僕たらしめ、婢妾たらしめ、侍者たらしめざれば已まない。或は是れは外國人から最も簡便に其有する資財を搾取する所以であつて、商業中心主義の目的を果す道と考へられるかも知れないが、實は國民の品性を傷け、其人格を破るの甚だしきものとせざるを得ない。

第三、商業中心主義の下に、一國の經濟が或る程度まで盛に爲れば、資金は自ら國內に充實し、金利步合も亦自ら低落せざるを得ない。其處で資本家は資本に對して、高步の利殖を謀る爲めに、其一部分を外國に輸出することゝ爲るが、何分

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

商業中心主義の下に、平生國內で商業に從つて居る商業家であつて見れば、資本を外國に輸出するに就て、直接に自家の力を以つて、企業を經營するが如きは、甚だ困難とする所であつて、結局外國の企業家に貸付けるとか、又は外國で發行される有價證券の類を買入れるとか云ふような方法で、利殖を期することゝ爲るのである。單に利殖の向きを求むると云ふ點から見れば、是等の方法は必ずしも不可なるものではない。然し一國の資本家が斯る風を以つて、資本の利殖を求めると云ふことは、詰り彼等を驅つて、一個の金貸階級たらしめるものに外ならない。金貸階級に對して、吾人が最も多く嫌忌する所は何であるかと云へば、彼等は何等直接に企業に關係を持たず、單に利子さへ獲得すれば、即ち足れりとする考へである爲めに、自然に其氣分が退嬰と爲り、其態度が保守的と爲ることに存するのであつて、斯る隱居然たる國民の增加することは商業中心主義の破滅を招く所以に外ならない。如何に一國に資金が充實し、其一部が外國に放下されても、其國が對外企業國と爲らず、一個の金貸國たるに安じたならば經濟上の發達は其時に於て、中斷されたものとせざるを得ない。

第四、商業中心主義に於ては、本國は其經濟的權勢を殖民地に及ぼして、自國の商業を發達せしめることに努力するのである。往昔「マーカンチリズム」の行はれて居つた時代には、此信念は凝つて、本國をして殖民地の富源を奪取する政策を敢てするに至らしめた。其後本國殖民地間の關係は自然の發展に任された時代もあつたが、今日に於ては必ずしも其然るを得ない、殖民地に動もすれば一方に本國の物資を購入する場所と爲り、他の一方に本國の爲めに、原料品を供給する場所と爲る傾向を存する。是れは本國の商業中心主義から打算すれば、必要の政策であらうが、同時に殖民地に壓迫を加へ本國殖民地間に當然結ばれ可き自然の關係を薄弱にし、又之を疎隔する虞れなきを得ないのである。

斯の如く考へ來つたならば、商業中心主義たるものが經濟上の見地から考へて、必ずしも利益ばかり伴うものでない、利益の存する一面に幾多の弊害があつて、其等の弊害が相集まつて國民經濟の存立を脅かすに至ることは論を俟たない。殊に商業中心主義の下に、人々が只管廉價な所に就て物資を買入れて、高價な所に之を賣却し、其間に價格の鞘を貪ることに熱中するような商業は假令其間に需要供給を調節する働きがあるとしても、更に一歩を進めて、當業者をして人爲的に價格を左右し、社會の利益は犧牲に供しても、尙は自己の利益を擧げよ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

うとする利己的精神を發揚する所以と爲り、又商業が次第に資本的經營に移り、例へば大資本を以つて、經營される「デパートメント、ストーア」の如きのものが少資本を擁する小賣商業者を壓倒し、折角獨立獨歩の營業に從つた者をして、居るに所なからしめる如きも、弊害の一ツとしなければならぬ。

我國の商業立國論

我國には從來商業立國論と云ふような議論の主張された時代があつた。議論は如何樣に行はれるとしても、兎に角我國の四面環海の島國である地位を利用し、盛に外國の國民、船舶並に資本を我國に迎へたならば、期せずして、我國をして東洋貿易の中心點たらしめることが出來るであらうと云ふのが論者の主張する要點であつて、其裏面には、我國工業の將來に於ける發達を見限つた悲哀の念の含まれて居ることを知らなければならぬ。是れも立國に於ける一ツの形式には相違ないが、斯くして國の經濟が律して行つたならば、結局國を舉げて、小賣商人の國たらしめなければ已まぬであらう。例を取つて云へば、海峽殖民地とか、香港と云ふような所は即ち之に當るのである。是等の殖民地に於ては、領土の如何なる方面に於ても、別に見る可き製造工業はない、産する所のものは主として天然の産物である。唯領土を廣く開放して、外國の船舶の寄航し、碇繋するに便宜を與へ、物資の積換、積卸を爲し、種々の物資を調へて、之を外國の船舶なり、乘客なりに賣却し、船員乘客の爲めに、種々の勤勞を提供すると云ふのが是等の兩地に於て經濟の營まれる所以であつて、商業中心主義を最も眞に發揮すれば、必ず此處に歸着するのである。海峽殖民地では、貿易を通過貿易と中繼貿易と實際貿易との三種類に區別するのを年來の慣例として居る。通過貿易と云ふのは、支那日本等に向う途次、新嘉坡に寄港する船舶に積載される貨物であり、中繼貿易と云ふのは新嘉坡で他の船舶に積換へる爲めに、一旦陸揚庫入れして、再び他の港灣に仕向ける貨物であり、實際貿易と云ふのは或は新嘉坡に輸入され、或は同所から輸出されるものである。さうすれば通過貿易とか、中繼貿易とか云ふようなものは、海峽殖民地全體の經濟生活には何等重大の關係を有するとは思はれない、然し是等兩種の貿易の行はれる結果として、新嘉坡の人民の勤勞を需要し、所在の設備を利用し、爲めに相當の金錢を撒布して、土地の繁昌に資することは、爭う可からざる數であるが左ればと云つて、是等の貿易で如何に繁昌したとした所で、吾人は一個小賣商人の國を其處に見出すだけの話であつて、此以外に經濟上の關係に於て、大なる意義の存することを信じ得な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いのである。

英吉利は小賣商人の國に非ず

時に人は英國の經濟狀態を貶稱して、小賣商人の國と云ふようである。是れは英國を輕蔑し、又同國の經濟生活の如何にも根據に乏しく、戰爭でもすれば、よし其れが短期間のものであつても、忽にして倒壞するやうな危機に瀕して居ることの感じを聽者に與へるには、一種の警句たるを失はないが、果して幾何の價値ありとするを得るであらうか。英吉利の狀態を皮相的に觀察すれば、如何にも外國貿易は旺盛であり、船舶の寄航碇繫するもの、萬を以つて數へる、保險業者、海運業者、倉庫業者、運送業者、各種の「ブローカー」と云ふやうな營業者が到る所の大都會や開港場に根據を据へて、營業をして居り、金融市場の中心地に爲れば、必ず手形引受業者とか、手形仲買業者とか、金融取引の仲介をする者もある、更に英國が歐洲戰爭前まで、諸外國に放下して居つた資本の總額は三十五億磅であつて之に對する利子收益は年々國內に回收された。固より斯く資本を放下した者の內には、海外に於ける企業に直接の關係を持ち企業の盛衰に利害を感じるものもあらうが、同時に利子や、配當金を食つて、安業に衣食しようと云ふ太平の逸民も亦少なしとしないのである。

是等の事實を綜合して考へると、英國は往昔の伊太利や、和蘭と同じく商業中心主義で、國の經濟を營んで居り、又國民產業の繁昌を謀つて居るものと思はれないこともない。斯くて英國を以つて、小賣商人の國であるといふやうな英國自身を貶した說も起らうし、又戰爭で少し經濟の根柢でも動かしたならば忽にして土崩瓦解すると云ふ觀察も起るのであるが、私を以つて見れば、斯の如きは英國の經濟生活に對する大なる僻見である。彼の重商主義が行はれ、又其後を承けて、自由放任主義の行はれた當初こそ、英國も一時商業中心主義に心醉し、之を能事としたかも知れないが、決して之に終始したのではない。同國は最も早く商業中心主義から、工業中心主義に推移することを以つて、立國の大道としたものであつて、此目的も十九世紀の央頃から後半期に於て、略ぼ成就された。是れは他の諸國の工業が技術の點に於て、原料蒐集の點に於て、將た又資金調達の點に於て、英國に比較して、幼稚であつたことの關係から、英國をして工業上の發達に於て、國際間に覇を稱せしめ、獨步の地位を占めるに至つたかも知れないが、同時に吾人は英國が工業中心主義に移り、其の主義の實行を全うするに就て、爲した工風や、苦心の大なること、拂つた犧牲の著しいことに注目し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なければならぬ。詰り英國の期圖する所は世界の小賣商人と爲るのではなくて、世界の工場主と爲ることとなのであつて、而して此目的に向つて、邁進し又之を達成するを得たと認められるのである。

英國の工業中心主義

私は商業中心主義の經濟政策を論ずるに當つて、專ら英國の實例を證據としたから、工業中心主義を述べる場合にも、矢張り同國の事實を材料に充てようと思ふ。唯最近の歐洲戰爭は英國の經濟狀態に容易ならざる變動を惹起し、戰後の今日に於ても、尙ほ舊狀に復しない程の次第であるから、姑く戰爭前の統計を基礎として、英國の國狀を窺はうと思ふ。千九百十三年に於ける英國の貿易統計を見ると、輸入七億六千九百萬磅、輸出六億三千五百十一萬磅、合計十四億四百萬餘磅と爲つて居る。貿易額に於て、英國に次ぐものは、獨逸の十億三千三十八萬磅と合衆國の八億四千八百二十九萬磅とであるが、兩國の孰れを以てしても、英國に及ばざること甚だ遠いのである。而して斯る巨大なる英國の貿易額は何が故に生じたものと見る可きであらうか。若しも英國が純然たる商業中心主義で、經濟上の關係を律することに終始して居つたとして、商業上の取引に就て、外國に與へる便利や、利益に對しては、必ず之に伴ふ商品の輸入の行はれるのは、當然であるが、其れにしても七億六千九百萬磅と云ふような巨額の商品が輸入されて、國民生活を豐富にするのは、何の故であるかと云へば、要するに英國が一個の製造工業國として、將た又世界の工場として、重要なる工藝品を製造し、海外に確實な販路を占めて、之を輸出すると云ふ事實に歸せなければならぬ。英國の千九百十三年に於ける輸出貿易が、六億三千五百萬磅に上ることは、前段に述べた所であるが、輸出品の種類は必ずしも多しとしない。試に其重なるものを擧げれば、千九百十三年の貿易統計に於ては、

石炭	五〇、七二七千磅
鐵	五四、三二八
綿布並に綿製品	一二四、六四六
被服品	一六、四二六
毛織絲並に毛織物	二六、〇一七
飲食料品	一五、六八七
羊毛	一三、五七四
機械	一四、八三六

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

計　　三一六、二四一

即ち英國輸出貿易の一半は石炭、鐵、綿織物、毛織物等の數點に依賴して居るのであつて、是等の物資を製造する事業が發達し、年々益々多額の輸出貿易を諸外國に爲し、其數量の殆ど動かす可からざるものがあればこそ、是れが貿易上の礎石と爲つて、一方に巨額の輸出を爲し、更に他の一方に外國から國民生活に、工業維持に必要な原料品や、食料品を輸入するに就て何等の苦痛を感じない道理であつて、右に掲げた諸物資の外に英國が諸外國の註文を受けて、製造する船舶の如きも、亦輸出品と共に、輸入貿易を決濟する一助と爲るものとしなければならないのである。斯の如く論じて來れば、英國々民經濟の基礎の鞏固であることは、畢竟輸出され可き物資を製造する諸種の事業があるからである。而して如何なる事業であつても、其産出する物資を以つて、内國の需要を充たすと共に、外國に輸出を行ふ譯であるから、英國の産業が以上の數量に於て、物資を輸出するに就ては、其産額の多大なることを要するのは、勿論であつて、英國の經濟的繁榮は製造工業の基礎の鞏固であることに存するものと斷定しなければならぬ。

基礎工業の說

所謂基礎工業――英國では Key Industries と呼ぶのであつて、直譯すれば、關鍵工業であるが、姑く基礎工業として置く――として、一國の經濟生活上に重要の關係を有する事業を選び、如何なる方法を施しても、是等産業の存在繁昌を謀らなければならぬと云ふ說は、戰後經濟策の一ツとして、近頃英國官民の間に主張されつゝあるようである。然らば何を以つて、一國の基礎工業とす可きやと云へば、國の地位、時勢の推移に依つて自ら異ならざるを得ないであらうが、英國に就て見れば、製鐵造船、綿布綿絲、毛織物、石炭諸業の如きは、即ち基礎工業として、許されなければならぬものであつて、是等の諸事業が發達した一方に、其産物が海外に輸出され、他國の競爭の漸く劇烈を加へつゝある時代に於て、尙ほ確實に其販路を維持し來つたことを以つて、英國經濟的繁榮の由來する根源としなければならぬ。戰前に於て獨逸が經濟上に於て、期圖して居つた所も亦實に工業中心主義に外ならなかつた。成る程、漢堡とか、ブレーメンとか云ふような開港場で其れ〴〵自由地區を設けて、船舶の出入、物資の移動を自由にして居つた場所だけに就て見れば、商業中心主義のようにも見へたが、獨逸をして歐州戰前彼れまでに强大な經濟的勢力を發揮させたのは、要するに商業都市の背後に幾多の工業都市があり、商業中心主義が國の一部

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に行はれて居つたとした所で、他の廣い場所を通じて、工業中心主義の施されたことを爭へないのである。

英獨米の經濟的爭覇戰

歐洲戰爭の原因に就ては、今日に至るまで、尙ほ種々の方面から說明され、幾ら說明されても、說明が不充分である。然し經濟上の方面から開戰の理由を求めると云ふ一段に爲れば、私はどうしても英國の工業中心主義と獨逸の工業中心主義とが次第に競爭して、其勢が火花を散すまでに劇烈に爲り、進んで一方を倒さなければ、自分の方が滅びると云ふ切羽詰つた狀況と爲つたことが兩國をして互に聯合國や、同盟國を率いて、干戈に訴へて、運命を決定せしめるに至つた所以と考へられる。而して平生工業中心主義の下に、兩國共に國際經濟上に於て、關係を深くして居つた、否兩國相互に關係の深きものあつた結果戰爭の爲めに、所謂兩虎の相傷いた如く、負けた獨逸は固より勝つた英國も容易ならざる傷痍を蒙るに至つたのである。啻に獨逸は戰爭の爲めに、經濟上に打擊を受けたばかりでなく、戰後聯合諸國から二千二百六十億馬克と云ふ莫大な償金の支拂を强要され、之を支拂ふ四十餘年の間は、國民をして償金支拂の財源を作り出す爲めに、餘分の勞働に當らしめなければならぬ。詰り此年間獨逸國民は其總てを聯合諸國に捧げる爲めに、一種の奴隷勞働に服するものであつて、折角多年の努力に依つて、築き上げられた工業中心主義も一朝の戰爭に依つて、崩壞し盡し、今や其跡さへ留めざるに至つたことは、誠に悲慘の次第である。

唯獨逸に代つて、今後工業中心主義で、世界に覇を唱へんとするものに北米合衆國がある。此國が如何に工業中心主義に推移しつゝあるかは、貿易統計の明に示す所であつて、試に千九百十九年の貿易表に據ると、輸入總額三十九億四百萬弗の内、原料品の輸入額は十六億七千四百萬弗であり、食料品の輸入額は十億弗である一方に、輸出總額七十七億五千萬弗の內、既製品の輸出は二十五億六千四百萬弗であり、半製品の輸出は九億二千二百萬弗であることの如き、即ち輸入品の内に農産物が增加し、輸出品の内に工業製造品が增加すると云ふ現象の生じ來つた證據があつて、工業中心主義の行はれつゝあることを語るものである。英米兩國が斯く同一の主義で、經濟上の政策を律しつゝある場合に、兩國の競爭が次第に昇り詰めて、恰も英獨兩國の間に於ける經濟的角逐に類するに至りはしないであらうか、英獨兩國が戰爭で最後の運命を決した如くに、英米兩國の將來にも矢張り斯る危殆な關係を惹起しはしないであらうか、其

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れでも英米兩國が工業上に於て競爭する範圍は自ら廣き領域に亘つて居る其間に於て、英國は東洋方面を重なる市場とする一方に、合衆國は南米中米を主たる販路とするやうな具合に、互に分野を定めて行つたならば、兩國は工業中心主義の下に、或る一面に於ては競爭しつゝ、他の一面に於ては妥協する餘地を持ちはしないであらうか、私は此問題に對する解決を姑く後日に留保しようと考へる。

如何にして工業中心主義を實現する

商業中心主義に據る經濟的發達であつては、砂上に樓閣を築くの類流であつて、何か事變が起り、變動が生じると共に、直に崩壞の運命に陷らざるを得ない。斯くて經濟的發達を期するには、工業中心主義を以つてし、工業の下に工藝製造品が輸出されたり、又工業の維持に必要な原料品や、食料品の輸入されたりするので、附隨的に商業の行はれると云ふ意味合で、商工併立の趣きを生じても、工業が何處までも嚴然として商業の背後に居り、又國民經濟の基礎とも爲り、柱石とも爲らなければならないのである。然らば一國は如何にして工業中心主義の經濟生活を樹立し、又完成す可きものであるか、私は此點に於て左の數策を必要とするものである。

第一、一國は自國の工業を維持するに必要な原料品、自國民を給養するに必要な食料品の供給を確保する政策を樹立しなければならぬこと。

第二、原料品や、食料品の輸入高の増加するに隨ひ、之に對する決濟の方便に就て、換言すれば自國工藝製造品の輸出なり、對外債權の取得なりに就て、確乎たる道を定めなければならぬこと。

第三、外國から原料品や、食料品の供給を受けるに就て、其自國に對する通路の安全であり、又確實である工風を講じなければならぬこと。

前段に論述した如く、農業中心主義は商業中心主義とも兩立したければ、工業中心主義とも兩立しない。工業が繁昌すると共に、地方農村の壯丁子女は次第に都會に集中し、工業勞働者として工場に於て就業の道を求めると共に、農業勞働者の供給を不足するに至らしめる。此點から農業衰微の端を發せざるを得ない次第であるが、此場合に若しも國家が農業に執着して、或る特殊の保護手段などを施して、農業の運命を保持しようとしたならば、必ず原料品や、食料品の價格を騰貴させ、工業上の生產費を加重するに至る爲めに、工業の發達に大なる妨害を惹起せざるを得ない。一國若し工業中心主義で、經濟を營み、又

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

其繁昌を謀らうとする以上は、原料品や、食料品は成る可く低廉の價格で、且つ豐富なる分量で供給される場所に就て、之を得る道を求めなければならぬ。斯る供給の便を確保するに就ては、殖民政策で領土を擴張するのが宜しいか、人口の移住、資本の放下で（經濟的權勢を及ぼすので足れりとす可きであるか、其れとも唯新開國の供給するに任せて、之を得るに止めるか、種々の政策に就て、可否の議論を生ぜざるを得ないが、要するに農産物の供給を確保することは、工業中心主義の成敗の分岐する所である。英國は從來此問題を解決するに就て、殖民政策の下に、世界到る所の方面に於て新開地方の富源を開發し、之を自國の用に供すると共に、殖民政策の及ばざる所即ち獨立の諸國に向つては、門戸開放、機會均等を主義として、之に臨み原料品、食料品の如き農産物が或る一國に依つて、獨占されるに至ることを防いだのである。

斯の如く一國が工業中心主義の下に、外國から原料品や、食料品を輸入するに至つたならば、輸入貿易は自ら增加して、餘程の數量に上るものと考へなければならぬ。之に對しては、何を以つて支拂の道を付けるかと云へば、其第一は輸出貿易に外ならないのであるから、一國が工業中心主義で、經濟生活を律する以上は、自國の工藝製造品に對する外國の需要を確實にし又常に販路を擴張することに心掛けるのが必要である。輸出增進の手段としては、未開地方の市場を開拓することも、其一ツであり、關稅權の協定に就て、外國に對して、優勝の地位に立つことも、他の一ツであるが、就中必要の點は生産費を節約する一事であつて、斯くして輸出される物資の價格を低廉ならしめる計を講じなければならぬ。第二に輸入品に對する決濟に對外債權の收入であつて、其收入は自ら物資の形態で回收される爲め、其れだけ幾ら輸入が行はれても、之に對する物資輸出の必要を節減することゝ爲る道理である。唯對外債權の收入を得る場合に、外國の發行する有價證券を所有したり、又は外國に對して担保付貸金をしたりするが如きは、國民として自然退嬰保守の氣風に陥らせ、商業中心主義の弱點を暴露するに至る虞なきを得ない次第であるから、一國が工業中心主義で立たうとする以上は、對外債權を設ける場合にも、國民をして直接に外國に於ける企業經營の衝に當らせるのが必要の條件であつて出來得るならば、自國の資本家が自ら資本を外國に齎して、事業を起し、此事業で生産された物資が更に原料品として、食料品として、自國に供給されることゝ爲るのが誠に萬全の策であつて、斯の如くして工業中心主義は其發達す可き所まで、發達したものと稱されるのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

歐洲戰後諸國の間にダムピング(人爲的廉賣法)が行はれるであらうと云ふことが隨分廣く、又永く傳唱された。現に日本でも輸出奬勵の方便として、此種の方法を行つたらば、宜しからうとの說もあつた。然しダムピングなるものは、內國で物資の賣却される價格よりも、低廉な價格で、外國に之を輸出しようと云ふことを眼目とするものであるから、行はれたとした處で偶々國內に產出された過剩產物を處分する位が効果の頂上であつて、若しも繼續してダムピングなどを行つて、輸出貿易の增進を謀つたならば、必ず其內國經濟上の利害と相背馳する點に於て、國內から非難攻擊の叢出するのは勿論、ダムピングを受ける外國市場も之に對抗する爲め、其國をして差別價格に相當するだけの輸入稅を加重し、以つてダムピングの効果を抹消せしめることに力を致す可き道理である。故にダムピングに依つて、輸出貿易の增進を謀らうとするが如きは、時代後れの政策であつて、輸出の增進には費用の節約と價格の低廉とを求めると云ふ正道を外にして、何等求め可きものあるを知らないのである。

工業中心主義の下に、一國が諸外國から原料品や、食料品の供給を受ける場合に、通路の安全と云ふことが最大の必要條件であることは、論を俟たないのである。今日の如く運輸機關の發達した以上は、平時に於ては、供給の安否と云ふことは必ずしも重大の問題ではない、唯供給國をして常に需要國の需要する分量に應じるだけの生產に從はせることを以つて、必要の條件とするのみに止まるのであるが、戰時に於て果して輸送の安全を期し得るやと云ふことは、一つの問題となる。英國の如き從來は自國の強大な海軍力に依賴し、戰爭が起つても、輸送の安全を得るもの丶如くに、自信して居つたが、今度の戰爭で果して如何なる試錬を經たであらうか。如何に強大な英國の海軍力を以つてしても、英國に原料品や、食料品を供給する地方が四方に散在して居り、一方に獨逸が潛航艇戰で、英國に對抗するように爲つては、輸送の不安全であり、又不確實なることは豫想外に甚だしく爲り、一時は獨逸をして潛航艇封鎖で、英國民を饑餓の狀態に陷らせ得るものであると云ふ自信を抱かせるに至つたのである。或は將來は國際聯盟の効力で、戰爭が絕無と爲り、世界的平和が維持され可きであるから、斯る事柄は掛念するに及ばないと云ふ樂觀說もあるかも知れないが、私は軍備に實質的減縮の行はれない、否名義的形式的減縮すら行はれない國際聯盟に世界平和を期す効果のあることに就ては、大なる疑念を挾まざるを得ない。國家の經濟政策を立てる場合には、斯る効果の曖昧なものに、信賴するのは大間違を生じる根元であ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るとしなければならぬ。隨つて工業中心主義の經濟生活を實現するに當り、原料品や、食料品の供給地を求める際にも、戰爭の發生に依つて、通路の安全の脅威される危險の存することに顧み、成る可く自國の軍事的勢力の及ぶ所に之を得ることが必要であると思はれるのである。

工業中心主義の弊

固より工業中心主義にも色々の弊害はある。工業が發達して一つの工業的大都會が出來上つたならば、其工業なり、又は附屬諸事業に從事する多數の人々が都會の狹い地域に密住することゝ爲る。工業が狹い面積の上に、多數の人を給養すると云ふことは、一つの特徵に相違ないが、此特徵は同時に國民の健康なり、又は將來に生れ可き小國民の健康なりを犧牲に供することに依つて、購はれるものである。隨つて一國が工業中心主義を持して、國の經濟を律する以上は、同時に國民保健の問題を解決するに就て、十二分の施設を講じなければならぬ。然るに從來工業中心主義の發展した經過に徵すると、各國共に此主義の齎す利益の大なることに眩惑して、一方に其發する餘弊を如何に防ぐ可きやと云ふ點に對する考に遺漏があつた。是れでは一方に工業中心主義が行はれて、却つて國民保健上に重大なる支障を生ずるものである。或は國民保健の見地から、工業中心主義を徹底的に行はず、工業的大都會の發達する他の一面に於て農村の存在するだけの餘地を設けて置き、工業的大都會に於ける年來の勞働で、身心の疲憊した都會住民なり、又は大都會に生れて、此處に成長し、其爲めに身心の虛弱であるような國民を地方農村に移住させ、一方に農村に於ける強健の人間を大都會に送り出すことにしたならば、自ら國の全體から見て、國民の健康を保全するを得ると云ふような折衷的意見もあるが、私は斯る妥協的態度には滿足しない。何處までも工業中心主義を徹底させると共に、之に對して國家が國民保健に就て、施設するを以つて、適當の道であると考へるのである。

商業中心主義の下に於ても、消費者の利益が傷けられる恐れのある如く、工業中心主義の下に、當業者が大資本を擁して、事業の規模を廣大にし、然も其廣大に爲つた者がトラスト其他の團結を作つて、市場を獨占する方針を取つたならば、消費者の利害は爲めに危險を覺へざるを得ない。之に對抗する爲めに吾人が最も必要と考へるのは消費者の團結である。消費者が團結して、最も大なる規模に於て、各自の必要とする物資を直接に公正なる價格で生産業者から買入れて、之を各自の間に分配する、其れでも尙ほ生産業者の實力なり、團結力なりが強大で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あつて、消費者に壓迫を加へて、已まないとしたならば、消費者の團體に於て、自ら物資を製造し、公正なる價格を以つて、之を組合に屬する消費者に分配したならば、自然生産業者の横暴を制肘するに足りるのである。

日本の工業中心主義

私は以上述べ來つた所を日本の實際問題に應用して、一先づ結論を得たいと思ふ。日本のように近隣に富裕であり、又商業上の取引の繁多である國の絕無である場合に、商業中心主義で國を維持しようとするが如きは、甚だ無理な註文である。日本の領土の如何なる部分が如何なる國の爲めに、通過貿易を行ふに適するかと云ふことを考へたならば、何人も其貧弱なことに驚かざるを得ない。日本の國中を開放して、果して外國人の爲めに、ブローカー流の仕事をする餘地は如何なる程度に存するであらうか。近來何々ブローカーと稱する種類の營業は餘程增加したように見受けられるが、裏面に存する物資の取引即ち工業發達の反映である物資の取引を離れて、存立するを得る實力があるとは思はれない。或は日本を世界の公園地にして、外國の遊覽客を招致し、彼等の費消金を利用して、國を富まさうとする說もあり、此說の如きは、商業中心主義と最も能く呼吸の合つたものであるが、斯る政策を實行することは、日本六千萬の同胞を擧げて、俗に云ふ伊勢乞食とするものであつて、假令ひ國は富むとしても、其流弊や、頗る恐る可きものありとせさるを得ない。吾人の同胞の或る者を外國人の婢妾とする、彼等の爲めに荷物持や、給仕人や、旅館番頭の雜役に就かせる、或は玩具や、似て非なる美術品などの製造に國民貴重の勞働力を費させる、斯くて得た富は幾何の價値があるであらうか、假に幾何の富を得たとした所で、國民の品性を害し、人格を傷けたならば、爲めに喪う所は決して其得る所に當らないのであつて苟も經濟と道德とを兩立させようとすることを志す者は斯る僻說に耳を傾けるを得ないのである。

或は眞實日本が工業中心主義で、國民經濟を發展させることが出來ないと云ふのならば、商業中心主義に退くことも亦已むを得ざることゝするの外はないが、私は決して斯く考へない、日本こそ工業中心主義を實行するのに、最も有利な地位に立つものと信ずるのである。私は本誌の三月號に於て、米價問題を論じて、日本今日の立場としては、米を一個の國際的商品とする方針を取ることが必要であつて、又斯くしたならば、以つて價格の調節を謀るを得るのは勿論、供給の豐富を望み得るものであることを斷言した。原料品に就ても亦同樣であつて、我が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

國が少しく經濟的眼光を大にし、我國自ら國内に原料品を得なければならぬと云ふような狭い意見を一擲し、支那なり、滿洲なりに組織的に資本を投下し、企業を經營して、原料供給地を是等の地方に求める、而して是等の地方が富源の開發されるに伴つて、消費力の增進するに隨ひ、内地で産出された製造工藝品を賣却する方針を取つたならば、我國としては、最も安全なる、又最も確實なる場所に原料供給地と製造品需要地とを併せ收めることの出來る道理である。一つの國を以つて、一個の經濟單位とし、經濟政策を律する基準に充てようと云ふことは、獨逸經濟學者の所說であるが、私は此說を日本に應用するとしても決して文字通りに解釋す可きものでないと考へる。文字通りに解釋すれば、日本の本土或は本土に滿洲朝鮮位を加へた領域を一單位とす可き譯であらうが、私は日本の經濟的發展を盛ならしめる見地から考へて、此單位の内には遠く滿洲から支那本土の或る部分まで加へ、斯く擴大された廣い領域の上に、日本國民の經濟的生活を營み、又經濟的活動を行ふ覺悟を立てなければならず、又、是れが本論に云ふ工業中心主義を我國に實行する捷徑であると信ずるのである。

早い話が幾ら工業中心主義を實行しようとしても、製鐵、綿絲、毛織物、製革、護謨等の諸事業で需要する原料品は總く外國の供給に係るものではないか、而して是等原料品の内には、距離の關係から、又政治上の關係から、我國權勢の到底及ぶ能はざる、又及ぼすを得ない方面から供給されるものもある。殊に今日私が我工業の將來に就て、憂ひつゝあるのは、相當に工業の發達した諸外國に於て、戰後の經濟的復興を謀る一つの手段として、自國に産出する原料品は勉めて自國に之を留保し、斯くて自國の工業を發展させる資に供しようと云ふ希望の熾烈と爲り來りつゝある一方に、現に日本が是等の國に就て、供給を仰いで居る原料品の少なくないことである。如何にして日本に供給される原料品を最も安全であり、又最も確實である狀態に置くかと云ふことは、我國の工業に取つて、死活問題としなければならぬ所であつて、其解決は前論の如く、我國の爲めに經濟的行動を爲し、又經濟政策を律する單位を擴張することに外ならないのである。

我國の現狀は如何

然るに、我國の現狀を以つて云へば、此問題は、一向解決されない、否解決の緒にすら就いて居らない。食料品自給の說は仲々有力であつて、凶作の際に、如何に國民生活を苦しめても殆ど之を顧みない、工業上の原料品の如きも、外國から輸入さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れるものは、輸入されるに任せて置き、一向に其供給を安全にする道を講じない、支那には始終排日熱が盛んであつて、國民をして内地の奥深い所まで立入つて、企業に從ふに就て、疑惧の念を懐かしめて已まない。生命や財産に危難を蒙るのは勿論折角基礎を築いた事業も何時利權回收を目的とする發虐なる制令の爲めに、其根據を動かされるかも知れない。然も我國の政府に排日熱を冷却させるに就ては、何事をも爲さないのである。然し假に支那に於て排日熱が消滅して、日本の資本、日本人の企業を迎へるとした所で、果して日本に之に應じるだけの資力と企業的精神とが備へられて居るであらうか、私は之を疑うことを禁ぜざるを得ない。歐洲戰時數年間日本は大に富んだと云ふ、然し其富の幾何が能く今日まで流動し、利殖して、生産的資本たり得るの狀態に居るであらうか。其一部分は輕薄なる成金輩の爲めに、浪費され、他の一部分は貪慾なる虚業家の爲めに、消耗され、固定されたのであつて、剩す所の幾何かゞ流動資本としての用を爲すに過ぎないものであるとしたならば既往數年間に於ける成金熱の高かつた割合に、我國に資本的實力の豐富なるものゝ存することを信ずるを得ない。殊に我國の事業家と稱される者は滿洲や、支那に於て抑も何の事業に特に興味を持つて、計畫をして居るであらうか。其多くは取引所であり、信託會社であつて、其名稱の如何を問はず、是等は商品や證券に就て、一種の空相場を試みる機關に外ならないのである。否彼等事業家はルーブル紙幣の賣買であらうが、富籤の取扱であらうが、苟も利益の爲めとあれば、何事を爲すことをも辭さないのであつて、投機的精神こそあれ、企業的精神は全く之を見るを得ないと云はなければならぬ。

斯く論ずると、我國は今日工業中心時代の經濟政策を樹立しなければならず、又樹立し得る狀況も亦略ぼ備はつて居るに拘はらず、之を實行するだけの自覺が國民の間に存しないと斷言するの外はない。戰前の獨逸には自國を工業中心時代に向けようと云ふ輿論があつた。戰前から戰後の今日を通じて、英米兩國にも亦同樣の輿論があつたし、又現にあるのである。其でも此主義を實行するに就ては、國内に種々の障害があり、又外國に反抗的勢力があり、終局の目的を達するのは容易でないのに我國に於ては其輿論すら確立して居らない、而して外國の工業中心を政策とする經濟的勢力の壓迫は次第に我國に加へられようとして居る。斯の如くして時日が經過したならば、或は我國は國際間に於て、經濟上の立脚地を失なひはしないであらうか、此殷の危險は幕末當時の黑船渡來にも比す可きものであつて、之に對する用意の一端として、私は特に聲を大にして、工

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

業中心主義の時代の來つたことを切言したいと思ふのである。

商業主義の批判

慶大教授　加田哲二

一

現代の經濟制度は「資本」を中心として動いてゐる。資本とは世の人々が、さうして經濟學者の多くが考へるやうに單なる生產の手段ではない。現代の資本家の所有する資本はマルクスの云ふ「餘剩價値を生む價値」である。これを平易な言葉で云ふと資本とは利益を生ずるところの價値である。卽ち資本家または企業家と稱せらるる人によつて、營利の目的によつて生產に用ひられるものが資本である。現代の經濟制度における一切の病弊は、かゝる營利を目的とする資本の使用によるものである。

現代における資本は之を工業資本と商業資本とに分つことを得るが、この資本が工業にあつても、商業にあつても、この圏内に來るすべてのものを支配する。さうしてその偉大なる勢力を以て、すべてのものを、その本來の目的のために奉仕せしめるのである。第十七世紀または第十八世紀における現代資本主義の創生時代から產業革命の洗禮を受けて、現代における爛熟期に到るまで、すべての經濟生活を爲すものは、この資本の增殖欲のために奉仕して來た。彼が眞の生產者であると、消費者であるとを問はず、この黃金の光を追ひ求める資本の虐げるところとなつた。所謂中世紀の「暗黑時代」には黃金のために黃金を求めるものはなかつた。彼等暗黑時代の人々は、自己の生活の手段として經濟行爲を爲した。之を反面から云ふと經濟行爲が一つの統制原理を持つてゐたのである。然るにこの「暗黑」の時代から文明の時代へ進んだときに、經濟行爲はその統制の原理を失つて、貨殖そのことが、經濟行爲の最後の目的となつた。こゝにおいて中世紀で行はれてゐたギルド制度は崩壞し、その中心的原理であつた「公正なる價格（ジャスト・プライス）」の觀念が失はれた。黃金は、それ自らのために求められた。さうして現代におけるやうな資本主義制度が確立し、從つて、資本主義的精神と云ふ一の倫理觀が樹立せられ、經濟生活において成功者たらんとするには先づこの精神によつて活動すべきことが敎へられたのである。

二

自己の欲望を自己の勞作によつて充足してゐた自然經濟にあつては、素より商業の介在する餘地はない。けれども分業の發達と共に自己の欲望を自己の勞働の生産物でもつて充足すると云ふ事が失はれると、こゝに經濟單位と經濟單位との間における商業が生ずる。さうして商業の起つたのは斯様な經濟單位と經濟單位とが、分業の結果接觸するに至つてからである。商業は一の經濟單位と他の經濟單位との間に介在して、一の需要と他の供給とを調節する。これが商業の本來の任務である。けれども商業はこの本來の任務である需要と供給との調節にのみ止まつてゐなかつたのである。商業の任務は更に擴大された。それは需要と供給とを調節するのみでなく、需要を新らしく喚起するにつとめた。新製品の有利にして、快適なることを廣告し、さうしてこの新製品に對する需要を發生せしめるのに務めた。斯くの如く商業は需要と供給との調和と云ふその元來の任務を超して進んで行つたときに、商業は文化發達の要素であつたと共に、一の危險を包含してゐたのである。この一の危險と云ふのは、商業が需要と供給との調節てふ勤勞に對して、一定の報酬を要求する以上に、貨殖のための貨殖となつたことにある。この貨殖のための貨殖こそ、近世商業主義(コンマアシヤリズム)の精髓であつて、先に云つた資本主義精神が商業なる一形態を採つて現はれたものである。故に現代の商業においては需要と供給とを調節すること、新需要を喚起すること、並に貨殖を計ること、この三つがその任務である。然し、こゝに列擧した三つの任務は何れを重しとするかを考へなければならない。商業に從事する者は、何故に需要と供給とを調節し、何故に新需要を喚起するのであるか。現代の商人が目指す商業の目的は、彼が大資本を擁する大商人であつても、または僅少なる資本によつて、僅かにその日の營業を繼續して行く小商人であつても、貨殖の一點である。金儲がその目的がある。彼は社會のために、需要と供給とを調節するのではない。また彼等は人類のために貨物を配給するのではない。彼等は黄金を求むるが故に、商業に從事するのである。私は商人の心理を斯くの如く解するものであるが、かゝる精神あるがために商業に需要と供給の調節をなし得ずとするのではない。ただその根本觀念が貨殖にあつて、貨殖し得るが故に、商人はその營業を繼續すると云ふのである。

三

斯様な精神によつて行はれる現代の商業なるものの結果は、餘りに吾々にとつて周知の事柄である。けれどもこの周知の結果に對して尚ほそれは、利益のあるものであると主張するものが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ある。彼等は商業が需要と供給即ち生産者と消費者との間に介在して、その調和を計ると云ふことから立論して、商業は供給なる所に貨物を買入れて、之れを高價なる所に賣却するので、自然に兩地間の貨物の存在量とその價格を平均する。それのみならず、商人は單に現在の需要及び供給のみを標準としないで將來における需要の消長を豫測して豫め之れに應ずる貨物を用意し、或ひは豫め生産者をして、その豫想した貨物を生産せしめて、貨物の時間的分配と空間的分配とを適合せしめ、結局において國民經濟全體の欲望と之を充足する貨物とを適合せしむるものであると。之を少しく經濟學的に云ふと商業は財に對して空間的(場所の)效用と時間的效用とを發生せしむるものであつて、吾々が發達した經濟生活を送るに必要缺くべからざるものである。かうこの論者は云ふのである。

私はこの說に對して、批判しようとするものではない。然しこれに對して一言すると、この說は、現在の經濟制度を動かすべからざるもの、進化し能はざるものと概念するものでなければ、この論に對して讚意を表することは出來まいと云ふことである。私は經濟制度は進化するもの、またこの進化の行程にさへ順應するならば、吾々の經濟的理想は、遂に實現し得べきものと考へる。從て私は斯くの如き商業讚美論に加擔し得ざるものである。然らば、現代商業主義の缺陷は何であるか。

四

現代の商業主義に對して最も痛烈な批評を加へたものは、詩人であり、畫家であり、裝飾家であり、さうして社會主義者であつたヰリアム・モリスであらう。彼は現代商業主義の俗惡と云ふことから社會主義へ入つた人である。私は彼の云ふところを聞きながら現代の商業主義についての自分の批判を試みやうと思ふ。

ある論者は現代の資本主義、從て商業主義を批判するのに、能率の點から之を見る。能率的に云ふと、資本主義は確かにバートランド・ラッセルも認めるやうに、制度として成功に近いものであらう。吾々が産業革命以前の商業を見た眼で、更らに生産に機械の應用せられ、あらゆる分業が適用されてゐる現代の生産組織または營利組織を見ると、その能率の顯著な差異に驚かざるを得ないのである。アダム・スミスが分業の效果を論じて、そは文明諸國の最も貧しい人々をして、野蠻國の帝王にも優れた生活を得せしめるものであると云つたのは、生産能率の上から、當時新興の資本主義制度を讚美した言葉であつた。さうして資本主義の制度の能率を增進せしめる上において、利己心

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を主たる目的とする商業が如何の寄與をなしたかはこゝに論ずる迄もない。けれども、こゝに注意しないければならない點は、この能率と云ふ意味についてである。現代の經濟制度は貨幣價値の増殖を以て生産的であると考へた。

貨幣價格、價値の増殖は必ずしも有用なる效用の生産ではない。吾々もジョン・ラスキンと共に「價値とは物の生命を與ふる力である。費用とは物を生産するに要した勞働の分量である。價格とは物の所有者がそのものと交換して得らるる所の勞働の分量である。「價値」は生命の維持に對して物が役に立つことを意味するのであつて、其の形態は二つである。即ち第一次的には固有の價値であり、第二次的には效果的價値である。固有の價値は生命を維持する物の絶對的の能力である。一定の品質と重量とを有する一定量の小麥は、その内に、身體を維持し得るある容量を得べき能力を持つてゐる。一立方呎の純粹な空氣は體温を保持する一定の能力を有し、一定の美しさの花は感覺と心とを引きたゝせ、之を活き活きさせる一定の力を持つてゐる。人が是等のものを拒んでも、または輕視しても、小麥、空氣または花の固有の價値には少しも影響されないのである。使用されても、されなくとも、それらの力はそのものにあつて、他のものにあるのではない。然し、それらのものの價値が效果のあるためには、之を受ける者において一定の狀態にあることが必要である。食物、空氣、または花が人間に對して充分價値を現はすためには、消化と呼吸と認識機能とが人間にあつて完成してゐなければならない。故に有效な價値の生産には常に二つのことが必要である。第一に特に有用な物の生産、第二に之を用ゐる能力の生産がこれである」(ムネラ・パルヴェリス)と云ふやうな經濟的、倫理的な立場を採ると、この資本主義の能率的優秀と云ふ點に多大の疑問が發生して來る。またが吾々がウヰリアム・モリスと共に各人の生活がその藝術的精神の發現でなければならないと云ふ生産者の製作を重んずる態度から、彼等の勞働が「第一にそれをなす價値のあること、第二に勞働がそれ自ら快樂であること、第三に斯様な條件の下において爲される勞働が過勞で、過度に心神を疲勞せしむるものでないこと」藝術と社會主義を要求した藝術的の立場から觀察すると、現代の競爭的商業制度が吾々の幸福の上に及ぼすべき影響如何と云ふことに對して普通の論者とは異つた結論に達するであらう。何故に斯くの如き立場から論じて見なければならぬかと云ふと、現代の經濟制度が貨殖のための貨殖と云ふことのために、理性の支配が他の點にまで及んでゐないからである。之を他の言葉で云ひ表はすと、スマアト教授も云つてゐるやうに、すべての經濟的

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

欲望が合理的のものでないからである。斯う云ふ倫理的の、または藝術的の見地から現代の經濟制度を見ることが、特に吾々の幸福を增進すべき經濟制度の改造と云ふ點から見て必要なことである。

五

生產者（卽ち勞働者）の經濟的福利如何と云ふ點から見て、現代の經濟制度が吾々の考へ得る最良のものでないのは多くの論者の既に說いたところである。利潤を最大ならしめやうとする資本家の要求は、商業市場において最大な販賣高を得ることが必要である。それで彼は競爭の許す範圍においては、消費者から出來る丈け高い價格を要求する。けれども市場における競爭が段々と激烈になるにつれて、販賣價格を低下する。販賣價格の低下と共に、利潤を得るためには、生產費の輕減を必要とする。さうして生產費を削減するに當つて企業家が先づ眼を付けるのは賃銀である。だから勞働者の狀態が、マルクスの主張するやうに資本の集積と共に、低落して行くことが眞實でないにしても、その狀態が資本家階級と稱せられてゐる人々の狀態に比較して見ると、その對照は可成に悲慘なものである。勞働者は常に餘剩價値を資本家によつて收得されてゐることは、この事實を見るものの認めなければならないところで、斯う云ふのに何も吾々はマルクシストたることを要さない。要するに經濟上から見ると現代の商業主義は、消費者、生產者の間に介在してゐて、兩者からこの利益を奪掠してゐるものなのである。

貨殖のための貨殖と云ふ目的によつて消費者と生產者とが共に奪掠されてゐて、それが經濟的に不如意の狀態に置かれてあると云ふ事だけならば、問題は重要ではあるけれども、解決は甚だ困難ではない。然し、消費者と生產者が奪掠されてゐると云ふのは、ヂー・デ・エッチ・コールの口吻を眞似て云ふならば、それは徵候であつて疾病ではない。商業主義の病弊はもつと深いところに潜んでゐるのである。この點を道破したのがウヰリアム・モリスの功績である。タウンシェエンド夫人がその著ウヰリアム・モリスと共產主義の理想において云つてゐるやうに、モリスは實際運動家として決して偉大なる人物ではなく、また社會主義者において、よく見るやうに經濟學的智識が豐富でもなかつた。然も尙ほ彼が社會主義思想史上において特殊の地位を占める所以は、彼が端的に商業主義の疾病を洞察するの明があつたからである。他の言葉で云つて見れば彼の觀察が吾々の生活そのものに食ひ入つてゐるからである。

モリスは冷靜を以て現代の商業主義を批評した。曰く「個人的

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

營利業者は勞働に對する必要ではなく、反つて勞働に對する障碍である」と。モリスは消費者の見地に立つと云ふよりは寧ろ生產者の見地に立つてゐるものである。彼は日常の生活に於て各人がその各々の製作において藝術を體現すると云ふことを以て尊きことと考へ、また幸福と思つた。然るに現代の商業主義の下にあつては、生產者は機械の奴隷であり、機械は利潤の獲得にのみ用ゐられる。勞働者が生產するところの無趣味な生產品は、單に之を生產する者を墮落せしめるのみでなく、之を使用する者の趣味をも低下する。かくの如く美しいものを作ると云ふ人間の藝術的熱情を壓迫し、美しいものを得んとする者に、使用して愉快なもの、心持のよいものを提供せざることによつて、現代の商業主義はすべての人の尊い創造的精神を蹂躪し去つた。かく一方富裕なる階級の間にあつては卑俗なる快樂主義を發生せしめ、生產者の間にあつてはその藝術的創造力を破滅に陷らしめた。この藝術的精神を蹂躪したと云ふことが現代の商業主義の最大の病弊である。「私は快樂藝術の問題が社會の大部分の幸福または不幸と云ふことを包含してゐる社會問題であることを特に指摘したいと思つてゐる。現代から快樂藝術を除くと云ふことは次の様な理由から不安であり、悲しむべきことである。即ち鬪爭のある商業が滋養しつゝある有識階級と墮落階級に人を絕對的に分つてしまふことを示すからである。」からモリスは云つてゐる。

六

斯くの如く人間の深奧なる精神的能力に對して、商業主義は致命傷を與ふるものであるが、その經濟制度として現はれたときは何であるか。それは生產者に對しては賃銀制度であり、消費者に對しては、市場の資本による獨占である。現代の商業主義はその市場へ供給する商品を安價に生產するために賃銀制度を發達せしめた。一七九二年のフランス大革命の人權宣言以來所謂文明國においては、すべての人は法の前に平等となつた。契約の自由はすべての人に與へられた。故に現代の勞働者が資本家と如何なる契約を結ばふと、それは彼等の自由であつて、そこには何等の强制がないのである。賃銀制度もまた契約自由の一發現であると云ふものがあるであらう。けれども彼等がこゝに觀過してゐることは、現代の勞働者は種々な强制的社會關係から充分な自由を持つてゐないと云ふことである。現代の勞働者である以上、彼は必ず賃銀制度の下に勞働しなければならない運命に置かれてゐる。然らばこの賃銀制度の特質は何であるか。私は、之を現代資本主義の病弊を賃銀制度に求めた周到な評論

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家であるエス・チー・ホブソンの名著「ナショナルギルツ」に求めやうと思ふ。ホブソンは賃銀制度の作用として次の三つを數げてゐる。一、人が其の勞働を賃銀に代へて賣つたときには、彼は其の生産物に對するすべての要求權を放棄する。二、彼は其の賃銀を受けることによつて、雇主をして其の仕事の條件を命令し、斯樣な仕事を完成せしめる權利を認める。三、彼は其の賃銀を受くることによつて、更に其の勞働力が彼より奪ひ他に與ふることを承認する。斯くの如き作用を有する賃銀制度によつて、勞働者はそのすべての個人的自由を奪ひ去られて、奴隷化せらるる。ギルドマンが現代の勞働者を呼ぶに賃銀奴隷と云つたのは過激な言葉として斥け得ざる現實の描寫である。かく賃銀制度によつて人々が自由を奪はるるときに、そこに何等の光輝ある精神生活もなく、また何等の休閒たる物質的安定の保證もない。かくて現代の賃銀制度が持續せらるる限り、勞働者の人格的向上の餘地はないものと見なければならない。

　更らに消費者の側から問題を眺めて見る。人間の多數は有産階級へ屬してゐない。從て無産階級がその大部分を占めてゐる。彼等が無産階級へ屬してゐることが既に消費において充分な貨物を得てゐないことを示してゐる。然し、斯な狀態を度外視しても、尚ほ市場において消費者は不利益の立場にある。最近の

主觀的價値論者は、舊正統學派派にその系統を引くものが財の供給方面を力說して、財の價値はその財の生産に投された勞働の分量または生産費であると云ふのに反して、財の價値はそが充足すべき欲望に對する效用の多少によつて決定せらるるとなして、需要側の要素を强調してゐる。この學說に從ふと、價値は需要者の要求に從つて決定せらるるが如くである。吾々は價値現象が評價の對象に對する欲望と云ふことを前提しない限り起り得ないことを認める。だからリカルドオにしろ、マルクスにしろ、その客觀的價値說を論述するに當つて、人が財を欲してゐること、換言すればその財が人間の欲望を充足し得ることを前提とした。さうして主觀的價値論に到つては、この人間の欲望てふことを以て、經濟價値論の全部を掩はんとしたのである。

　然り、價値は人間の欲望を前提とする。然し、一財の價値が價格として市場へ表はれるときには、そはすべての人に對して一樣である。その買手の欲望が價格以上の評價を持つてゐるならば、その程度の相違は問題ではない。この場合は市場に自由競爭の行はれてゐるとの假定の下に推論したものであるが、資本主義制度の下における市場においては自由競爭の行はるることは、極めて稀れである。さうして自由競爭と云ふ意味の中に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は市場は公開であり、賣手と買手とが需要と供給の狀態に通曉しており、さうしてその兩當事者は利益のある所に從つて行動すると云ふ含意がある。けれどもその假定は單なる觀念の上においてのみ存する事柄である。賣買によつて利益を獲得しやうとしてゐる仲介商人の場合には、是等の事情に通じてゐる人もあるだらう。けれども多數の消費者について見るとかゝる事例は殆んど見出すことが出來ない位のものである。從つて消費者は著しい損害を與へられない範圍において常に仲介商人からその所得の一部分を不正當なる價格によつて奪掠される。この事は仲介商人が生産者と消費者との間に介在して、故意に市場の需要供給の狀態を變化せしめ、動搖せしめることによつて事情に暗い消費者の利益を蹂躙するから起ることである。即ち彼等は買占めとか賣り惜しみとか云ふ一種のサボタージュによつて消費者奪掠の效果を擧げるのである。何故に然るかと云へば、商業的資本が彼等の手に獨占されており、さうして商品市場は、是等の獨占資本家の左右する所であるからである。憐れなる消費者は、この資本家の命令に絶對に服從するか、または命令を拒否して淋しくその市場を去るかの二途、その一を擇ばなければならない。

消費者の不利益は斯樣な經濟的奪掠のみに限らない。彼等消費者もまた、生産者と同じく藝術的精神を傷けられるからである。生産者は貨殖のために貨殖を行ふ資本主義、商業主義の命ずるところに從つて、藝術的に無價値のものを生産することによつて、その藝術的精神を失ふ如く、消費者は非藝術的なる製品を使用することによつて、人間本然の要求である藝術的精神を奪ひ去られる。かくて生産者と共に消費者も資本主義の野卑低調なる分量主義のために災害を蒙るに至る。

七

商業主義の吾々に及ぼす影響如何と云ふことは以上述べたところによつて大體了解し得たと思ふ。從つて、斯樣な商業主義の害悪を矯正すべきものは何かと云ふ問題が、今自分の前に提出されるところまで來たのである。私は云ふ。商業主義の病弊を矯正するためには、少くとも次の二つの事柄が必要であると。「公正なる價格(ジャスト・プライス)」の制定と勞働の藝術化とがこれである。公正なる價格とは暴利を許すことのない價格である。さうして公正なる價格によつて有用なる貨物を供給することによつて商業主義資本主義の營利(プロフィチアリング)を廢し、生産を有用なる貨物に限定する事によつて、その低調、卑俗なる分量主義と勞働に對する過度の疲勞を免れしめ、勞働の藝術化によつて勞働それ自身の苦痛を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

輕減し、あるひは之を化して快樂たらしめ、その藝術的精神の體現たらしめ、消費者には正當なる價格によつて良質の藝術的製産品を提供することによつて、その精神的滿足を深からしめるにある。以上私の言つた理想は極めて抽象的であつた。私はこの理想を實現すべき方法について具體的に語ることがなくてはたらない。

先づ生産者側について云ふと勞働組合の組織である。勞働組合にその組織の上から次の三種に區別することが出來るであらう。その第一は職業別勞働組合である。その純粹なる形式においてはある特種の技術を必要とし、共通の雇傭條件の下にある特別の職業に從事する勞働者のみによつて成立する。その第二は材料別勞働組合である。この組合は職業別勞働組合に甚だ類似點の多いものであるが、この組合組織は、勞働者の勞働する對象となる材料が同一であると云ふことによつて結合されたものである。例へば同じく木材を材料とする大工、製材勞働者等が組合を作つたものである。第三は産業別勞働組合で、この組合は勞働者が技術的には、その從事するところが異つてゐても同一産業に從事してゐる者ならば、その一切を一の組合に包含して行かうと云ふのであつて、現在の組合組織中最も有力なものとされてゐるものである。是等の三種の内勞働者の組織すべきものは第三の産業別勞働組合である。その一産業におけるすべての勞働者を包括してゐる勞働組合によつて、外には商業主義、資本主義に對して戰鬪を開始し、その産業の内部にあつては産業管理權を要求することによつて、自己の勞働條件を自己によりて決定する權利を得なければならない。かくすることが勞働の藝術化への第一歩の道程である。

次に消費者の側から見ると生産者と同じく組合を組織しなければならない。消費組合を組織することによつて、商業主義に對して幾分なりとも打擊を與へ、生産者の組合たる勞働組合と協力して、公正なる價格の樹立に努力しなければならない。

さうして第三に擧ぐべき方策は産業の公有である。現在において、水道、鐵道その他の事業は全く、または漸次に公有たらんとしてゐる。さうしてこの産業の公有によつて個人的營利を廢止して行くことである。けれどもこの際注意しなければならないことは、産業の公有を行ふに當つて、自治體なり、國家なりが充分民主化してゐることを必要とする。吾々は東京市の電氣鐵道が東京市の市有になつたことによつて、その從業員(生産者)並に乘客(消費者)が共に、幸福の狀態に置かれてないことを知つてゐる。また國有鐵道も、鹽專賣も少くとも日本においては成功したものではない。それは單にたゞ國家資本主義または

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

國家商業主義に過ぎないのである。故に產業の公有によつて個人的營利事業を廢止する場合には充分なる民衆の監督を必要とする。

斯くの如く是等三種の方法によつて現在の經濟制度を變革すべきであるが、その主要な理想は飽くまで現今の商業主義におけるが如く人間を物に從屬せしめることを止めなければならない。さうしてそは自由な人格の發展を基調とした理想でなければならない。換言すれば經濟生活をして、眞に人間に從屬せしめるやうな經濟生活に對する一の統制原理を樹立せなければならない。私は自由社會における經濟生活の原理として公正なる價格と勞働の藝術化とを指摘し、その手段として勞働組合運動と消費組合運動と產業の公有とを舉げた。私は斯くの如にして初めて經濟生活を合理化することが出來ると考へたからである。（一九二一・三・一七夜稿了）

生產者と消費者間の關係の改善

東京府產業部長　遠藤柳作

種々と吾々日常の生活を自省して見ると、不合理のことが頗る多い。固より何事も理論一點張には行かぬが、さりとて時勢の進運に應じて活動をしやうとするには、成るべく合理的に、事を處するの必要がある。乃ち生活改善同盟會の如き團體が起つて、國民の不合理な生活、呑氣な活計を、大に緊張させ、消極的方面からも、生活の安定を保證して行かうとするのは、極めて時代に適切な主張と申さなければならぬ。間違だらけな吾々の日常生活の中で、私が最も痛切に感ずるのは、

第一に魚菜其他日用必需品の御用聞の慣習である。御用聞とは謂ふ迄もなく、別に店舖を有する商人又は行商人が日々需要者の自宅に赴き、その日〳〵の商品々目を提示して賣買取引をする商慣習を指すのである。一々戸別的に其の日〳〵の需要を聞き歩くが故に此の名があるので、多くは朝の中に御用を聞き歩き、注文を一括したる後、改めて品物の配達を爲すのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

需要者は是によつて、別に買出しに赴く必要もなく、手數を省くの利はあるが、亦是が爲めに、一、良品選擇の自由を失ひ、二、價格不廉の二大損失を負擔せねばならぬ。一の場合は貨物に就き、選擇の自由がなく、一に賣主の手加減によつて供給せられ、吾々は又之に滿足せざるを得ぬのである。一體賣主が品物を選擇するといふことは、正當なる物價を支持するに於て非常の弊害がある。即ち良品には多くの需要者現はれ、價格は自然高くなるが、粗惡品は需要少き關係から低廉になるのは、理の當然である。然るに御用聞に依ると、どうしても商人の選擇に應ぜなければならぬ關係から、良粗の比較がつかず、從つて價格の一方的決定に滿足せなければならぬといふ結果になるのである。二の場合の價格不廉に至つては、固より當然のことで前陳の樣な商人の指圖に盲從するといふ理由の外御用聞に歩く者の勞銀と手數料を負擔し、且又御用聞による場合の多くは、掛賣と稱す習慣から、相當の利息を加算せねばならぬ理合で、店舖賣に比して、少くも約一割高は普通の樣である。若し又店舖に依り御用聞(配達)も店賣も同一値段であるか、又はその差額が少いとすれば、その店は御用聞の爲めに、店舖につき購求する所の直接需要者を犧牲に供して居るので、非常に不都合な事と謂はなければならぬ。何故なれば、御用聞の勞力と月末拂の利息とは見逃す可らざる餘分の營業費であるからである。右の如く御用聞に依る弊は吾々の生活安定を妨ぐる一理由となるのみならず、延いては日用品の正當なる價格を亂し社會的に禍することが頗る大なるものである。勿論商人が華客の信用を永遠に繼いで行かうとするには、品質の善良と價格の出來得るだけの低減とに注意することはあるべき筈であるけれども、是れは如上述べし傾向に對する非常に有力なる勢力とは謂ふことが出來ないのである。

第二に生産と消費との間に段階が多過ぎる、即ち仲買とか問屋とかの幾階段があるのみならず、同一種類、同一階級の小賣商人が必要以上に多過ぎることである。一般世人は米は農家から米屋に、米屋から吾々の口に這入り、呉服なら織元から市中の呉服屋、呉服屋から吾々の家庭に來ると、簡單に考へてゐるかも知れぬが、中々、さうは行かぬ。米なれば先づ農家から仲買の手に入り、仲買から深川とか神田川とかの問屋筋に移り、問屋筋から精米屋(白米商)、それから吾々消費者といふ經路を取り、野菜なれば農家から市場(問屋筋)、市場から小賣商人、それから吾々の臺所と謂ふ順序となり、呉服反物なれば地方によつて異るが、織物から仲買、問屋を經て呉服店の手に入り、それから吾々の衣服となる順序を普通とする。以上は現

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

今に於ける商業組織中の、最少限度の簡單なるものを抽出したのでなつて、是以上の複雜なのは、澤山である。以上の順序を踏んで吾々の手に入るまでに、如何なる步合で、仲間商人の懐を溫めるかといふと、野菜なれば生產者(卽ち出荷主)は其の總賣上の先づ一割を問屋に納める。小賣商人は大概最低問屋相場(引受相場)の三四割以上七割位迄の利益を見込み、吳服なれば、先づ仲買人が一分五厘位、問屋が一割五分位を懷に收めて、其の上吳服店が二割以上三四割位迄の利益を見込んで賣捌くのを普通とする。今之を數字の上に例示して見ると、一貫目二十五錢の甘藷は農家には二十二錢五厘這入つて吾々の臺所には卅五錢以上で這入ることになる。生產者たる百姓の賣値と吾々の買値との間に、十二錢五厘の開が生ずるので、琉球から來る甘藷でもあれば格別、隣接の農村から荷車で引いて來る野菜物が、五割以上も高くなつて吾々の口に入るやうでは心細い。尤も野菜の如き永く保存の出來ぬものは腐敗しを見越し、其の損失を補塡するの關係から勢高くなるかも知れぬが、然し之は國民必須の食料品で、苟くも商人であれば日々需要の程度は大概見當を付け得るものである。吳服物でも大體は同じ理合である。

以上は最少限度の簡單なる商業組織であつて尙且然りである。若し是以上複雜なりとせば値段はどんなものか、野菜の如き腐敗し易き關係上、止むを得ず、簡單な經路を通つて居るのであるが、他の其の日々のものでない物品は、大概是以上の複雜なる經路を經るの關係上、仲間商人が暴利を貪るのでなく、正當なる利益を得るとしても勢ひ消費者の手に高く入る步合である。乃ち生產と消費との間の段階に出來得る限り簡にするの必要は最早論を要せず、固より商人を排斥するのではないが、理論上不必要に介在する商人は是非除いて貰はねばならぬ。斯く見來ると、吾々の日用必要品の大部分は、此の改革を必要とするのである。

又私は一體日本には何種の商品を商ふ商人殊に小賣商が多う過ぎると考へる。例へば、八百屋に就て調査すると牛込の鶴卷町邊が戶數一千六百戶內外の處に十二軒、早稻田では戶數二百二十九戶に對して七軒といふ割合である。是はホンの一局地の例であるけれども、市內の他の地方でも、日本橋とか京橋とかいふ繁華な所で、容易に店舖を張ることの出來ぬ場所は論外として、大概は如上の例に似たものであると思ふ。

人或は小賣商人が多くて物價は此の位だから、商人の數が減つたら無競爭獨占的と爲り、一層高くなりはせぬかといふ疑問を起さるるかも知れぬが、是れは反對である。此の多數の商人は一定の需要者を多數の店から分配する結果として、需要者の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一店舗當りは極めて少數となり、需要少き結果は、各商人は果物の價格を高くせねば立ち行かぬ、卽ち高價販賣に於て一致する事となり、其の間競爭的販賣は行はれぬのである。何とすれば、各店とも最少限度の營業費を取得することを規約し、又此の規約に拘束せらるるのみならず、事實上の必要から此以下の販賣は出來ぬことに爲り、又多くの需要者は御用聞に依りて商人の指定に盲從するが故に低廉にする必要もないのである。このやうな社會的現象は今日の世智辛い日本に於ては、誠に遺憾なりとせねばならぬ。固より商人が悪いのではない。又商人必らずしも暴利を貪るとも斷言出來ぬが、この樣な氣樂な、我儘な、不合理な商業組織、習慣に甘んじて來た吾々が甚だ以て自己の馬鹿々々しさを愧ずる次第である。

然らば是が矯正の方法はどうしたら宜しいか。私は消費者各自の自省自覺と、完全なる公設市場の設置と、消費組合の普及にあると思ふ。各自が自省し自覺し、御用聞の如きは廢止して主婦自ら買出しに赴くこと、又府縣とか市町村とかゞ、各自公設市場を經營して一定の場處に一定の公價を付して日用品を供給すること(是には滿洲各地の配給市場は非常に參考に爲る)及び、同志相寄りて消費組合を組織し、自治的配給を爲すことなどにより依つて、先づ過剩商人の排除と商人の自省とを促すのが最大の急務と心得る。そして亦需要者は出來得るだけ進んで果物の生産費に對する研究を怠らず、又生産業者は府縣市町村の如きは、常に此の生産費を研究して公表し、介在商人の自省と消費者の覺醒とを促し、物價を公正に支持する事に努力せねばならぬ。大多數の俸給生活者の如きは此の改善に依るに非ずんば幾許手當を增しても畢竟鼬ゴッコである。物價高きが故に手當を增すべきか、手當增すが故に物價高まるか、場所にも依るが此の論斷は或は後者に落つるのを正當とするかも知れぬ。悪感がすると謂つて着衣ばかり增しても病氣は治らぬ、頓服藥一包でも病源さへ除けば、悪感は立所に去り得る譯合である。今や英米の日用品の物價は漸次戰前の指數に復しつゝあるのに、吾國今日の現狀はどうか、訓練された合理的商業組織と自覺ある生活とに待たなければ、生活の安定は到底望まれぬのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

商人の暴利防衛と產業組合

法學博士 上田貞次郎

（一）

世間に「商業主義より產業主義へ」と云ふ事になつて居るが、必しも商人が横着で生產者が常に暴利を受けると云ふ事は事實に於て認められない。譬へばビール會社は生產者である。市中の小さなビヤホールは商人と見なければならぬ。此場合に孰れが暴利を加へ、何れが之を受けるかと云ふに、ビヤホールは其建物を會社から借して貰ふ代りに他の會社のビールは賣る事はならぬと云ふやうな束縛を受けて居る例を見ると、先づ以て之は生產者が商人を壓迫するかの實例になりはせぬかと思はれる。電燈會社なども獨占事業で其營業振りは概して横暴であり、田舍などに於て殊に甚しい。で、其横暴なるがために迷惑を蒙る者は一般の消費者であつて、商人も亦其消費者の中に入る者である。商も電燈は小賣店にとつて營業上大切なる道具なる事は言を俟たない。其他鐵道が横暴で商人を苦める事がある。汽船會社、倉庫會社が横暴で商人の困る事がある。

概して云ふと小賣店と云ふものは餘り儲かる商賣ではないらしい。其證據には小賣店程閉業、開店の變化の烈しいものはない。畢竟經濟上の壓迫と云ふ事は、商人だから横暴であるとか、生產者だから横暴でないとか云ふ譯のものではなくて、一般に金と智惠を持つたものが專横に流れ、勞働一點張で行くものが負けると云ふ事になるのである。だから「商業主義より產業主義へ」と云ふよりも、寧ろ「資本主義より勞働主義へ」と云ふべきである。乍併兎に角此現象は善くない事であつて、今日の經濟界に於ける最大の弊害と云はなくてはならぬ。殊に大資本を有する商人は弱少なる生產者と消費者との間に立つて暴利を收むると云ふ事は今の世の中に有勝ちの事實である。歐洲戰爭で諸物價の標準がなくなつてから此弊害は特に甚しい。

（二）

そこで今此商人の暴利を抑へる方法は何であるかと考へるに、此問題に就いて現今普通の人は政府の取締りと云ふ事を先づ以て考へるやうである。或は政府が商人の暴利を完全に取締り得ないと云ふ事は當局者の怠慢であると云ふて責めるかも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

知れない。併し私の考へでは此一切萬事お上に頼る、警察に縋ると云ふ事は日本人の甚だ意氣地のない、惡い風であつて、こんな心がけでデモクラシーなどが實現されるものではない。加之政府の力を以て暴利を取締ると云ふ事は、一時は兎に角決して根本的に効能の擧がるものとは思はれない。仲小路農商務大臣が如何に恐い顏をして警告を發して見ても結局効果はなかつたやうである。昨今東京では蕎麥屋が儲け過ぎると云ふので、東京市社會局が自ら蕎麥屋を營業して之と競爭をすると云ふ事が新聞に出て居たが、あれも實際的効果は頗る疑しいのである。若しも東京市が蕎麥屋として普通の蕎麥屋以上の成績を擧げる事が出來るなら、寧ろ之を永久の制度として蕎麥の販賣をやつたら好いと云ふ結論になるではないか。要するに政府の力、警察の力と云ふものは餘りあてにならない。矢張生産者なり、消費者なりが自衛の策を講ずるのが根本的の遣り方である。即ち自治共同の組合を起して資本の力に對抗するより外に道がない。

（三）

然るに此自治共同の組合と云ふものは實際にやつて見るとなかく難しいものである。日本人は昔から人を治めるか、人に治められるか、其二途以外に出ようとする風が極めて乏しい。多數の人が相互共助、即ち共同の目的のために一の組織を作つて自ら治めると云ふ習慣が發達して居ない。市町村の自治體は市會議員や、市吏員の仕事に變つて了つて、市民と沒交渉になつて居る。彼の砂利喰事件などは其ために起るのだ。國の政治も亦國民の手を離れて議員と官僚の仕事になつて居る。議會が肝腎な國務をそつちのけにして珍品爭ひなどに熱して居ても國民は如何ともすることが出來ない。斯くの如き狀態であるから産業組合も矢張組合員の組合でなくして理事者の仕事となつて居るのが多い。全國に一萬何千と云ふ産業組合があると云ふが、數ばかり多くて組合らしい組合は極めて少ない。例へば小生産者が問屋の壓迫に對抗するために販賣組合を組織して成效したと云ふやうな實例も至つて少ないのである。唯だ兩毛の養蠶家が碓氷社、甘樂社など云ふ大きな團體を作り、生糸の共同販賣をやつて居るのが殆ど唯一の重要なる例である。此組合は外國の眞似をしたのではなくして、日本固有の發達を爲したものである。明治十二三年頃萩原鐐太郎と云ふ村長をして居た名望家が案を立て、非常な苦心を重ねて成功したものだと聞いて居る。斯樣な事は製茶に、果實に、又其他の産物にも必ず應用されて効能を擧げ得るものと思ふけれども、未だ多くの實例を見

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るに至らないのは甚だ遺憾な事である。

(四)

斯くの如く組合の成功したものが少いと云ふ事は自治共同の精神が乏いからだと思ふ。今例を轉じて消費者の側を觀察して見るに、所謂購買組合なるものは昔英國でロバート・オーウエンの弟子達が社會主義實行の手始として興したものであつて、其創始者は强烈なる組合精神に動いて居たのである。今日でも彼の國の購買組合には社會主義的精神が漲つて居るのであつて、此精神あつてこそ組合が成功するのであると思ふ。購買組合を作つて置きながら、組合員が掛け拂を要求したり、又支拂を怠つたり、又自分一家の購買高を豫定する事が出來なかつたり、若くは購買品の豫定を面倒がつたりするやうでは購買組合も名あつて其實がない。自然營業費が高くかゝつて組合が潰れる、若くは組合で買ふよりも普通の小賣商から買ふ方が安いと云ふ、甚だ心細い狀態に陷つて了ふのである。一體日本の政府は産業組合を奬勵するために産業組合中央會と云ふものを作つて、補助金を下附したり、又農商務省始め各府縣の役人達が先達となつて宣傳して居るが、何れも低利資金や官廳の援助に依て一時能率を擧げる事ばかり考へて、肝心な組合精神の鼓吹といふ事を無視して居るから、初めは景氣がよくても直ちにボロを出す。之は政府の見當が違つて居ると思ふ。靜岡縣あたりでは昔から精神的根據を持つた報徳社と云ふものがあるのに、縣廳から更に新式の産業組合を作らして之と競爭せしめて居るとの事であるが、これは私の甚だ感服せざる所である。如何にも報徳宗と云ふものは因循姑息な古物であるに相違ないが、それでも猶其處には自治共同の精神と云ふものが生きて居る。政府の無精神、無道徳、無生命な産業組合よりは遙かにましであると云はねばならぬ。

(五)

産業組合は單に物を安く買ふとか、或は高く賣るとか云ふやうな物質的な問題ではなく、それ以上の高い理想を持つて居なければならない。産業組合は自治共同の學校である。人は此學校に於て自主自立、勤儉貯蓄の風に訓練されるのである。勤儉貯蓄などゝ云つたら近頃の新思想家はブルジョア臭いなどゝ貶すであらうが、夫こそ生可通の愚論と自分は信ずるのである。蓋し資本主義が惡いと云ふのは資本が惡いと云ふ意味でなく、資本其物は大切なものであつて、從て勤儉貯蓄により資本を作ると云ふ事は文明の進歩のために必要缺くべからざる事である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

如何なる社會主義の社會が出來ても社會全體が共生産物の總てを消費して唯樂に耽すと云ふ態度を執つたなら經濟上の進歩はあらう筈がない。社會主義の世になれば社會全體として貯蓄が心要になるのである。社會を組織する所の各個人が勤儉貯蓄を嫌ふてサボターヂを極め込んだら其社會は保つて行けないに定つて居る。右に述べた所の産業組合は即ち此意味に於て健實なるでデモクラシーの經濟的基礎を作り出す事、言葉を換へて云へば斯くの如き經濟的基礎を作り出すに必要なる論理上、心理上の根柢を養ふべき使命を持つて居るのである。

（六）

要するに日本で産業組合の成功しない最大の原因は、自治の精神即ち眞のデモクラシーがないからである。今のデモクラシーは日比谷公園の國民大會のデモクラシー、若くは一杯機嫌のデモクラシーであつて、彌次馬的に一時熱狂する力は持つて居るが鞏固なる基礎の上に一大組織を建設すると云ふ程の持續性を持つて居ない。勞働組合でもストライキの時だけは騒ぐが、平生の素養がないから其力が弱い。つまり制度組織を改造すると共に人間を改造すると云ふ所へ氣のつかぬ間は到底ほんものにならないのである。蓋し制度組織は死物にして其中に動く所の人間が魂を有つて居る。如何に社會が改造されても之を組織する所の一人一人の人間が向上せされば何にもならぬ。又人間を改造せずして社會を改造することは絶對に不可能である。

商人階級の横暴の矯正

法學博士　河津暹

古は農工商業者即ち生産者と吾々消費者とは直接に交渉の有つたものであるが、經濟市場が廣くなり、隣保狹隘なる地域内に於て有無相通ずるといふだけでは滿足しないやうになつた結果、一方には生産者と其隣保の消費者のみを目的として生産する事が出來なくなつて來た。又一方には吾々消費者が土地の遠近、國の内外を問はずして需用する物を求むるやうになつた結果、生産者と消費者を聯絡する機關として商人階級が生じて來たのである。從つて經濟市場が廣くなれば、商人の階級が必要缺くべからざるものであるといふ事は疑を容れない。之れは現代の經濟社會組織を認めての上の話である。而して商人階級の内にも卸賣商、小賣商若しくは之の補助を爲す數多の分科が起つて來る譯である。是等の分科も亦必要なものであると云へる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が、此處に吾々が注意しなければならぬ事は、商業階級即ち仲介機關になつて居るものが、吾々消費者に接近して居る關係からして、經濟は云ふまでも無く消費者を眼目とする。消費者あつての生産である以上、自ら此仲介機關が非常な勢力を有つやうになつて來た。申さば此經濟社會の咽喉を扼して居ると云つても大した間違でもない。

是等の仲介機關が正當に其職分を盡くし、使命を完うして與れれば勿論問題は無い。所が形勝たる地位を利用し或は濫用して、其暴威を振ふやうになつて來た事は否認する事が出來ない。如何にして、如何なる形に於て、暴威を振ふやうになつて來たかと云ふに、最も著るしい點は、

第一には工業者等が資本に乏しい所である。所謂家內工業的組織の下に行はれて居るやうな所になると、是等の工業家が原料を仕入れたり、其他種々の用途の爲めに、流動資本の缺乏を憂へて商人階級に融通を乞ふ事が罕でない。又商人階級の方でも、是等の力の弱い工業家をして自己の命令に柔順ならしめんが爲に、求めて是等の融通をつけるの結果、經濟力の弱い工業家の如きは、全く商人階級に隷屬して居る狀態になる。我國に於ける勢力の小さな工業家と問屋との間の關係について見ても、此事實は容易に知る事が出來る。是等の小さな工業家は問屋の命ずるまゝに生産し、而して自らは生産をして居る物の用途をも知らず、又販路をも知らないといふやうなのが決して珍らしくない。而し是等の生産者が商人に自ら生産した物を渡すのに我國に於ては其代價の七割若しくは八割を其月末に商人から仕拂はれ、殘額は中元(ぼん)・歳暮(くれ)に之を仕拂はれる。一部分仕拂を延期して中元・歳暮に爲すといふ事は商人の與の手で、經濟界の景氣が好くなり、從つて品物が高く賣れるといふ時なら、其仕拂も今迄に行くが、一朝經濟界の景氣が惡くなり、或は他の原因により豫期の如く儲けが無いといふ場合に於ては、難癖をつけて其殘りの金額を値引くとか、又は渡さないといふ事に努める。小工業家の方から云へば、決して豐かな儲をして居る譯でないから、斯うされると非常に困る。併し乍ら經濟力が弱く且つは既に前金を取つて居る。或は今後必要があつた時、融通を乞はねばならぬといふ弱味から、所謂長い物には捲かれろと云ふ事になる。斯くして商人の横暴を憤りながら、涙を吞んで服從して了ふ事は常に起る事である。之が商人の横暴なる一つの證據である。

第二に、外國貿易には勿論消費者と生産者といふやうなものが直接に賣買取引をする事は出來ないから、商人が最も必要になつて來る。けれども、之れ一面に於いては、外國の製造

會社等は到底遼隔なる市場の様子を知る事は出來ないし、又消費者の方においても適當なる生産者を知る事が出來ないから、其間外國貿易に從事して居る商人等は、其優勝なる位置を利用して、割合に多くの利益を貪るといふ事は有り得る。且つ是等の商人は、我國の外國商館などの場合に於て考へて見る事が出來る如くに、歐米の優秀なる製造會社等を我國の商人又は消費者に教へる事を嫌ふ。其理由は若し之を明示する時は、是等の仲介機關を經ずして直接に取引きする者が多くなり、結局自分等が利益を得る事が出來なくなるからである。現に即く所に據れば數年前輸出品博覽會を上野に開いた時、參考として外國の品物を取扱ふ者をして陳列する事を許した。併し乍ら其處に陳列するには生産者即ち外國の製造業者の名を明示すべき事を條件とした。然るに我國の商業家は此條件を實行する上に非常な困難を感じて其撤廢を請求した爲め、遂に此條件を撤廢した。何が故に該條件の撤廢を要求したかと云ふに、我國の商人は外國商館から品物を買取る者が多いので、若し之を明示すると直接外國の製造會社と取引するやうになるといふ事を恐れたからであつた。即ち我國の商人は何れの會社等に於て出來たかといふ事を知らずに取引して居る狀態であつた。從つて博覽會當局者が極めて簡單であると考へた製造會社の名を明示するといふ條件が、事實に於てさう簡單に行はれなかつた譯であつた。外國商館が斯く直接に取引さるゝ事を忌む事は、裏面から云へば彼等の儲けを隱さうといふ事である。即ち彼等が其間に介在して多くの利益を收めようとした事である。斯く考へて見ると、商人階級は一方に於ては生産者を壓迫し、一面に於ては吾々消費者に多くの負擔を感ぜしむる原因となると云へる。

第三に、吾々消費者と直接の接觸あるは卸賣商業家でなく、小賣商業家である。彼等は吾々消費者に力が無く、且つ又經濟界の事情に通ぜず、商品の善惡に暗い事に乘じて、割合に多くの利益を貪る事は世人の熟知する所である。現に近頃我國に於ても卸賣相場が下落して居るに拘らず、小賣相場は一向に下落せず、場合によつて倘ほ騰貴せんとして居る。之れ畢竟彼等が其中間に處して成るべく多くの利益を貪らうとする事から起る。私の經驗した所に據ると、印度邊では小賣相場の如きは、小賣商人が一定の儲しか取らぬ慣習ありと見え、同じ種類の品物に於ても、付いてゐる正札が各々異ふ。吾々から云へば不便にも不思議にも感ぜられるが、其理由は仕入れ値段が、仕入れる相手によつて異ふ。其仕入値段に直ちに一割乃至一割五分の價格を加へて之を發賣する。從つて同じ種類の品物でも、小賣相場が區々になつて居るのである。事の善惡は別として、我國に

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

於て仕入先の如何・品物の優劣・仕入れ時の相違を問はず、出來るだけ利益を得ようと、一樣に高い正札を付けるのが多いのと好對照をなしてゐる。尤も大きな店と小さな店とでは自ら違ひが出て來る。大きな店は割合に高い價格を付し、小さい店は割合に安いのが普通である。之には力の問題でもあるし、又大きな店では廣告、設備等に資本が掛かる事から起る。

我國に於ては、昔から商人はお世辭が好くなければならぬ、好加減な事を云ふて多くの儲けをするを商人としての成功と心得て居る。眞面目に正直に取引をするより、寧ろお世辭等によつて客を騙して多くの儲をしようと考へて居る。ピューヘルの論文の中に、獨逸語の Täuschen は Tauschen から來たと云ふ事を云つて居るが、我國の商業就中小賣商業に於て、殊にその然るを覺える。殊に顧客の方で小言を云はなければ品物を落したり又は値段を高くする。小言を云へば品物を良くし、又値を下げる。況んや通り一遍の顧客とか外國人で事情に通ぜぬ者だと、公々然と欺瞞的行爲を爲す。神聖なる商業の道に外れて居るやうな事實は枚擧に遑が無い。

斯く考へて見ると、商人階級が生産者と消費者との間に介在して、咽喉を握り、暴威を振ふといふ事は、遺憾ながら之を否定し去る事が出來ない。勿論商人階級は必要で、之を撲滅し之を廢する事は出來ない。又商人階級に卸賣小賣の分科が行はれて居るのは惡い事ではない。然し其間に相當なる儲をするを以て滿足し、眞面目に其使命を果するやうにして貰ひたい。之れは固より商人階級の自覺自制に待たねばならぬが、又外部から之を促す必要もある。今日其兆が相當に見える。大工業家に於て、成るべく商人階級の手を經ずして、直接に消費者に接觸を試みんとして居るのが無いではない。適當な所に店舖を開き、自ら小賣を營むようになれば、勢ひ商人が暴威を振ふ事は出來ない。

小さな工業家は獨力では有勢なる商人に抵抗が出來ないから、組合を設ければ大工業家の場合の如き事が出來る。私共は或る程度まで此種の組合の出來る事を希望して止まない。此種の組合の經營はなか〳〵容易ではないから、さう簡單に之を作る事は出來ない。併し乍らかゝる方法で力を合す事になれば、以つて商人階級の横暴を抑へる事が出來ようと思ふ。又消費者階級の方でも消費組合等を作り、成るべく直接に生産者と接觸する方法を取れば、商人の横暴を抑へる事が出來る。其他公設市場の如き方法によつて、成るべく現今の商業組織を簡單にするやうにして、商人階級の暴威を抑へる工夫が進んで行つたならば、自ら商人をして自覺自制せしめて、其使命を過たぬやうにせしむる事が出來るかも知れない。要するに之等は商業者の

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

道德の問題でもあり、力の問題でもある。商業組織を改善する事によつて、初めて商人をして適當な程度に其力を振はしめる事が出來るのである。其出來ぬ間は矢張り商人は形勝なる地位を占める關係から、横暴が行はれると覺悟せねばならぬ。國家が種々の政策を用ひて之を抑へる事は、或る程度までは有効なれども、其效果は案外少いものである。寧ろ當業者の自制と外部からの力の對抗といふやうな事から發る影響の方が有效のやうに考へられる。



顯微鏡下の古事記●近代思潮の神髓

石川三四郎先生新著

四六判布製箱入
地圖寫眞挿入

定價金貳圓（送料十四錢）新刊

古事記の新研究

石川先生が滯歐八年間、唯一の愛讀日本書として常に古事記一卷を懷にし、且つ其の多くの時日を考古學、神話學、地理學大家ルクリン兄弟の家に生活し、乙具さに其の考究研鑽を重ね、遂に日本神代史に先人未發の一大發見をなしたるは世の既に喧傳する處也、本書は實に其の苦心の結晶にして、最も徹底せる先生の立場より古事記を論究して一々明確なる證據を提し、從來の疑點に明白なる斷定を與へたり。

西宮藤朝先生新著

四六判洋製瀟洒
舶來上等用紙

定價壹圓十錢（送料十二錢）新刊

近代哲學の主潮

最も手頃なる近代哲學を知る羅針盤として著者は本書の爲に半歳の努力を拂ひたり。即ち本書は文藝復興時代より啓蒙時代の哲學、カント及カント系の哲學、實證主義の哲學、プラグマティズム、新カント派の哲學、ベルグソンの哲學、新實在論——等所謂近代哲學の主潮は、明快に遺憾無く叙述せられたり。今日の思想界に思ひを潛める者は本書に依りて近代哲學に對する理解を求めざる可らず。

發兌　東京神田裏神保町六番地　振替東京五四〇〇番　三德社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

我が憲政を阻害する憂ふべき近時の諸現象

我が憲政斯くの如く夫れ危し

永井柳太郎

（一）

ヘーゲルは「立憲政治の眞髓は政治の公開に在り」と云ふた。彼は政治哲學者として、決して近代的ではない。彼は民衆を視る事頗る低く、到底今日に於ける我等の思想と一致するものではないけれども、議會政治の眞髓を以て政治の公開に在りと云へるは至言である。此場合に於て、公開と云ふ言葉は二つの意義を包含すると思ふ。即ち一は、政治は一人又は一階級の私事に非ずして天下公衆の爲に行ふ公事であると云ふ觀念で、二は之を行ふに一人又は一階級の意志に依つて專斷する事なく、天下公衆の批評に聽くべしとなす觀念である。現に世界に於ける議會制度の根源と稱せらるゝ英國議會を觀ても、千二百十五年初めて大憲章に依り其權限が規定せられた時、其規定中に、二十五人の高爵者を以て大憲章の保護者となし、國王と雖も、憲法に違反したる場合は、此等の保護者が兵力を以ても其遵奉を強制する事を得としたは、即ち政治を以て天下の公事となす思想の端緒なりと云ふべく、又國王は或特定の場合を除く外、總て共精臣の同意を經るに非れば、王室の經費を增加する能はずと規定した事は、之軈て萬機を公論に決すべしとする思想の萌芽である。故に議會政治の理想は、結局政治の民衆化に在りと云ふべく、議會政治を完成せんと欲すれば、ヘーゲルの所謂公開の精神を徹底せしめ、議會をして民衆の意思を發表する完全なる機關たらしむる事が何よりも必要であると云はねばならぬ。而して之がためには、一方に於て其議員を選擧するに當り、特權を有する一定の階級のみよりする事なく、人民の各階級より之を選出し、以て各階級の輿論を議會に反映せしむるに努むる

と同時に、他方に於ては啻に議會の內部のみならず、又其外部に於ける言論の自由を尊重し、以て政治に對する天下公衆の批判を出來得る限り盛にする事が急務である。此點より見る時は今日の我國に於ける議會政治は、其組織に於て、猶は頗る幼稚なるのみならず、議員自身も、政府も、又國民も、其精神に於て、政治の民衆化を喜ばず、動もすれば進んで公開の精神を蹂躙する如き態度に出づる事あるは、私の頗る遺憾とする所である。

（二）

第一に我國の議會は、法律上より之を見れば國民の意志を代表する國家の機關であるに相違ないが、事實上に於ては、貴族院も衆議院も、共に特定の階級を代表する機關たるに過ぎぬ。卽ち貴族院は其名の如く主として貴族、官吏、及び多額納稅者の利益を代表する者であり、衆議院も亦直接國稅三圓以上を納むる特種納稅階級の代表者を以て成立するのである。故に兩院共、其實質に於ては、猶未だ國民の上中流を代表するに過ぎないのであつて、國民の大多數は議會開設前の時代に於けると同樣に、政治上何等の發言權を有たぬ。若しサー・ヘンリー・メーンの云ふ如く、「民本主義の目的は各種の特權を排擊するに在り」と云ふ言葉をして眞たらしめば、今日の我議會は、貴衆兩院共に、其實質上に大改造を行はざる限り、到底民本主義者の要求を滿足せしむる事は出來まい。

今日の我國に於て議會政治を脅威するもの〻中特に顯著なるは、議會否認の思想である。此思想を抱く人々は、頻りに階級間の利害の衝突を高調し、社會に實在するものは掠奪者と被掠奪者との二階級のみにして、所謂國民的文化又は利益と云ふが如きものは一種の空想に過ぎないと云ふ觀念を以て、頻りに直接行動を唱道するのであるが、斯くの如き思想は、其根柢に於て、一大誤謬に陷つて居る。彼等は國家又は社會を觀察するに際し、只利害關係を異にして、常に鬪爭する二個の階級ある事をのみ認め、其二階級が各々其屬する國家又は社會の全體的文化を促進すべき共通の使命を有する事を信じないけれども、元來階級其者は社會を離れて存在するものでない。社會あればこそ其間に諸種の階級が發生するのであつて、階級のみ實在するけれども、國家又は社會の文化は一種の空想であるとなすが如きは、大なる誤解である。從つて各個人は其屬する國家又は社會の全體的文化を犧牲にして只自己又は自己の屬する階級のみの利益を增進する事は出來ない。殊に全社會を單純に掠奪者の階級と被掠奪者の階級とに區別し、所謂中間階級なるものは滅亡しつ〻ありと云ふが如きも、決して社會の實狀に合致した分類でな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い。何となれば、我國に於ては特に富豪と貧民との間に位する多數の者があつて、それが一種の中間階級を形造つて居るからである。譬へば農村を觀ても、三町歩以上の土地を所有する者は全農戸の一割に達せず、純粹なる小農作も亦其二割七、八分に過ぎずして、殘りは全部自作農、又は自作兼小作農である。又所得稅に關する統計を見ても、五百圓以上五千圓以下の所得者卽ち中等階級に屬する者は、毫も減退する事なく、却て年々增加しつゝある。明治三十九年より大正元年に至る七ケ年間に於ける我國の人口增加率は約九分五厘であるが、中等階級に屬する者の增加率は七割三分である。若し夫れ三百圓以下の所得者卽ち貧民階級に屬する者に至つては、同じ七ケ年間に於ける增加率僅かに一分九厘に過ぎぬのであるから、結局中等階級に屬する者の增加は、全人口の增加よりも約七倍早く、貧民階級に屬する者の增加よりも約三十五倍早いのである。最近の統計を調べる機會がないので其後の數字を知らぬけれども、大體に於て、大同小異の傾向ではないかと思ふ。無論、自由競爭が絕對に放任せられて居る社會に於ては、資本主義の弊害が次第に激烈となり、中間階級が漸次に消滅して、遂に資本家と勞働者との二大階級に分裂せんとする危險ある事は、決して否認する事が出來ないけれども、今日の我國を以て既に其危險に陷れるものとなすは誤解である。凡ての社會は統一性を有するのであつて、此統一性を以て出發點となし、各階級の利益を出來得る限り調和し、社會共存の倫理を基礎とする新文化を建設する事は決して不可能でないのみならず、又それが社會進化の要求であらねばならぬ。然るにも拘はらず、今日我國に於て階級戰爭を唱道し、議會政治を否認し、無產階級の專制政治を理想とするが如き思想が擡頭しつゝある事は、如何なる理由に基くかと云ふに、現在の議會其物の組織が不完全にして、動もすれば特權階級の小數專制のための機關たるが如き觀ある事が其重大なる原因であると思ふ。現に本年の議會に於ても米穀法案とか蠶絲救濟法案とか云ふやうな地主又は資本家に有利なる議案は殆んど滿場一致で通過したに拘らず、勞働者の利益を保護するが如き法案は殆んどなく、偶々提出せられても、其は僅に申譯的のものに過ぎない。如斯き事實は自ら國民に議會政治の價値を疑はしむるに至つた。固より私は只夫れ丈が議會否認の思想の發生に對する唯一の原因であるとは信ぜぬ。議會を傍聽する者は其言論が眞面目でなく、時としては車夫、馬丁と雖も口にするを憚る如き罵聲が交換せられ、甚だしきに至つては、禽獸の鳴き聲迄を眞似て個人の演說を妨害し其喧々囂々たるに驚くであらう。斯くの如き光景を目擊したる者が今日の議會政

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

治に對して一種の反感を抱くに至るは當然である。それと同時に彼のラムゼー・マクドナルド氏が「サンヂカリストは政治及び政治家に嫌厭たるが故に非國家的なるに非ず、彼等の哲學其者が非國家的なるが故に然るなり」と云ふて居る如く、學說上より階級戰爭を信じ、直接行動に依つて資本主義を一擧に覆すに非ずんば生産機關を勞働者の手に收むる能はずと信ずるが故に議會否認の思想を抱くに至れる者もないとは云はぬが、然し我國に於ける議會否認の思想を挑發しつゝある最も重大なる原因は、即ち現在の議會の組織が階級的であつて、而して階級的なるがために議會に代表者を有せざる階級の利益を顧ないと云ふ事實に存すると思ふ。議會否認の思想は、即ち直接行動の思想であり、直接行動の思想は、同時に又無産階級獨裁政治の思想であつて、結局憲法破棄の危險思想であるから、吾等にして眞に立憲政治を尊重し、政治の民衆化を徹底せしめんと欲するならば、議會否認の思想を撲滅するに努めなければならぬが、既に議會否認の思想の發生したる主要なる原因が現在の議會組織の缺陷に存するとせば、何うしても先づ普通選擧を實施し、今日議會に代表者を有せざる階級に屬する者をして議會は即ち自己又は自己の屬する階級の生活上の要求を訴ふるに缺くべからざる機關なりと云ふ事を信ぜしむる事が必要である。此點に於けると共に又、天下公衆と共に政治すると云ふ精神が徹底せざる限り、議會否認の思想及び之より生ずる各種の弊害を豫防する事は不可能であらう。

（三）

第二に我國の立憲政治は、議會の內部に於ても、又其外部に於ても、批判の自由を有せぬ。立憲政治の目的が政治の民衆化である以上、民衆が政治に對して批判の自由を有すべき事は當然であつて、批判の自由を有せざる政治は、假令其形式に於て議會政治の觀を具へて居つても、事實は專制政治に外ならぬ。ツーリッヒ大學のエッゲル教授は、嘗て現代自由論の講義に於て、「人類の歷史は自由の歷史に外ならず」と喝破し、當時種々の非難を受けたけれども、或意味に於て、確かに人類の歷史は自由の歷史である。宗教改革は何のために起つたか、奴隷解放は何のために叫ばれたか。或は信仰の自由に憧憬し、或は人格の自由を信じたるがためである。畢竟するに人類の歷史は舊き信條の束縛や、專制君主の壓迫や、又誤てる社會組織の脅威より自己を解放し、より大なる自由と、より高き生活とに猛進し向上せんとする努力の記錄に外ならないのである。ヘーゲルの如きも、或程度迄、此事を認めたるものゝ如く、現に其著「歷史哲

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

學」に於て「歴史上に於ける總ゆる進歩は自由の觀念の擴大を意味すと認むるを得べし。嘗て一人の自由を目的とする時代ありき。古代支那の帝政時代、又は古代ペルシヤの王政時代の如き之なり。嘗て或少數者の自由を目的とする時代ありき。ギリシヤ及びローマ時代之なり。然るに今や時代思想は全人類の自由を目的とす」と云つて居る。固より社會學者中には、人類の歴史に歸着する所パンを獲得せんとする歴史に外ならずと云ふを至當とすと主張する者もある。我等も亦、パンを獲得し、饑餓を脫出せんとする人間の要求が歴史上に於ける重大なる事實であつた事を否定する者ではない。併しそれと同時に自由を憧憬する熱情が、動もすれば自己の饑餓をも顧みず、生命をも犧牲としても戰ふ事を辭せざらしむるものある事實を看過してはならぬ。人間は單に食ふと云ふ事丈が其生活の全部でなく、感じ、考へ、又働くと云ふ事に於ても人生の大切なる部分がある。否、寧ろ人間は、感じ、考へ、又働くがために食ふ事が必要であるとも云ひ得る。故に苟も立憲政治を確立し、民衆の要求に忠實ならんと欲する政治家は、各種の自由、殊に言論、出版、集會及び結社の自由の如きは最も之を保障し、社會の各階級に屬する者をして自由に政治を批判せしみ、其生活上の要求を訴へしむるの機會を與ふる事に努めなくてはならぬ。言論、出版、集會、結社の自由がなければ、パンの缺乏を訴へ、饑餓より脫出するに必要なる各種の運動を起す事は到底不可能である。然るに今日の我國に於ける立憲政治が此等の自由を缺いて居ると云ふ事は、我國の政治家が猶ほ未だ立憲政治の本義を理解し居らざる證據である。政府の調査に依れば、治安妨害の廉を以て言論の處分せられたるもの大隈內閣當時に於て二百七十二件、寺內內閣當時に於て三百九十三件、原內閣成立後二十七ケ月間に二百六七十件と云ふ事であるが、斯くの如き事實のみに依つても我國に於ける批評の自由が如何に缺乏して居るかと云ふ事を想像し得る。殊に近來は宮中某重大事件とか、外交某重大事件とか、朝鮮某重大事件とか、重大事件の名を藉りて新聞雜誌に報道の自由を與へざるもの頗る多く、事實に於て、我國の出版、集會、言論、結社の自由は、專制政府の下に於けると多く異なる所がないのである。

固より帝國憲法の第二十九條に於て「日本臣民は法律の範圍內に於て言論、著作、印行、集會及び結社の自由を有す」と明記せられて居るけれども、事實に於ては、或は治安警察法の如き、或は出版法の如き、或は新聞紙法の如き諸種の法律ありて、自由の範圍を局限せるのみならず、之等の法律を適用するものは主として警察官であるが、其警察官中には法律の精神を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

十分に理解せずして之を濫用するが如き者も少くない。警察官中智識の低級なる者が少くないと云ふ事は、最近各所で行はれた採用試験の答案と稱するものを見ても分る。或は「歐洲戰爭の我思想界に及ぼしたる影響如何」と問はれて「未だ洋行仕らず、其間の消息を明にせず」と答へたり、「女中を一ケ月、△圓の約束にて某日より使用したりとすれば幾何を支拂ふべきや」と云ふ質問に對して、「薄給にて未だ女中を傭ひし經驗なし」と答へたり、或はクレマンソーを西洋の草花と解した者もあるさうであるが、假りに如斯き事は風評に過ぎぬとしても、警察官の意志に依りて恣に批判の自由が左右せられ得るが如き狀態では、到底民衆が自己の生活上の要求や政治上の理想を訴へんとするに當り、其意思を徹底せしむる事は出來ない。現に最近差止められたる宮中や、外交や、朝鮮等に關する記事の如きは、決して發表せられて治安を亂す如き危險あるものでなく、眞に宮中に宮中のみの宮中に非ず。外交は外務省のみの專らにすべきものに非ずして國民と共に行ふべきものなるを自覺し、又新領土の統治は獨り政府のみならず、國民も共に其改善の方法を講ずべきものなる事を知らば、寧ろ進んで之を發表し、國民と苦樂を共にすべきであるに拘はらず、それが發表せらるゝ時は政府のために不利益であると云ふが如き理由のために、口を秩序紊亂に藉りて、新聞雜誌の報道の自由を迄も濫に抑壓するが如きは、擧國人の耳目を蔽ふて政治を行ふものなりと云ふべく、實質に於て專制政治に外ならぬ。

之と同時に我等の甚だ遺憾とする所は、最近言論を抑壓する傾向が議會の內部に於ても益々甚だしからんとする事である。貴衆兩院議員は國民を代表して其意志を述ぶべき地位に置かれて居るのであるから、其言論の自由は最も尊重せられなくてはならぬ。之れ帝國憲法第五十二條に於ても、「兩議院の議員は議院に於て發言したる意見及び表決に就き院外に於て責を負ふ事なし」と規定せられてある所以である。然るに最近衆議院自身が、其尊重せられたる議員の言論の自由を自ら束縛し、自ら蹂躙せんとするが如き傾向の著しきもののあるは、立憲政治の發達のために甚だ遺憾とせざるを得ぬ。私が議員に當選した後即ち第四十三、第四十四の兩議會に於ても、其言論が議員の體面を汚したりと云ふ理由を以て懲罰に附せられたる者は少くない。而も其言論なるものを見るに、決して議員の體面を汚す如きものでなく、院外の演說會に於ては寧ろそれ以上の言論を聽く事は珍しくない。然にも拘はらず不謹愼なる質問をしたとか、無禮の言葉を用ひたとか云ふ事で、頻りに議員を懲罰に附するが如きは、議會自ら院內に於ける言論の自由を蹂躙するもの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

である。院内の多數黨が其多數を恃んで自已に不利益なる議論をする者を懲罰に附すると云ふ惡例が殘さるれば、院内に於ても亦批判の自由は消滅して、院外に於けると同様に、一種の專制政治が行はるゝ事となる。最近議院の中に於ては彌次が次第に墮落し、演説者の急所を突く如き警句を發し、又は演説の要旨に對する疑問を挾むのではなく、只だ罵に喧爭して演説をなさしめざるを目的とするが如き傾向がないではない。如斯き事だけでも議會の尊嚴を傷くる事甚しと云はなくてはならぬのに、議員自ら懲罰の濫用によりて批判の自由を局限する前例を捏造するに至ては、立憲政治の根柢危きこと今日より甚しきはなしと云はざるを得ない。斯く議院の内外を通じて言論の自由批判の權利を認めないと云ふ事が我國に於ける立憲政治の發達せざる重大な原因である。

(四)

併し今や政治の民衆化は時代の大勢である。苟も政治の民衆化が時代の大勢である限り、小數專制は永く繼續し得べきでない。ルッソーは「人の生るゝや自由なり。されど行く處として鐵鎖あらざるなし。此鐵鎖を作りたるは誰れぞ。專制的教會と專制的政府にあらずや。故に僧侶と貴族とは人類の敵なり。されば僧侶と貴族とを排斥するに非れば、自由の時代を迎ふる事能はず」と叫んだ。ルッソーの哲學を信ずる者も信ぜざる者も、共に其自由を憧憬する熱情が專制的教會と專制的政府とのために不當に抑壓せられたるを感ずるや、ルッソーと同じ叫びを發せずしては止まぬのであつた。人は政府の命令や警察の力に依り、言論、出版、集會、結社の自由を奪ふ事は出來るけれども、遂に不平、反抗、憤激、敵意の發生を抑壓する事は出來ない。而して其不平、反抗、憤激、敵意が深刻となり、熱烈となる時は反つて或種の過激なる思想を呼び起すのであるから、政治家は此心理に付深く警戒する所がなくてはならぬ。千八百七十八年ビスマークは社會黨を撲滅する目的を以て社會黨鎭壓令を發布し、其年十月より翌年の末に至るまで約一ケ年の間に勞働團體の解散を命ずる事百八十九、定期刊行物の發賣を禁ずる事五十八、出版物の配布を禁止める事二百十に及び、一時は社會黨全滅の觀があつたけれども、秘密の會合と結社とは之がために却て激增し、各種の出版物も亦ロンドンに於て發行して密かに國内に輸入せられ、社會黨の勢力は隱然として激增し、千八百八十四年の總選擧には社會黨の得票總數一躍五十四萬に上り、代議士二十四人を出し、一代の英雄ビスマークをして顔色なからしめた。露國に至つては最も苛酷なる方法を以て言論、出版、集會、結社の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自由を抑壓した。現にグレゴール、アレキシンスキー氏が其著「近代ロシヤ」に於て記せる所に依れば「千八百九十七年にロシア本國の監獄にある囚人のみにても七萬七千を越えたるが、千九百九年には十八萬一千人となり、而も其多數は政治犯なりき、若し夫れ政治犯の囚徒にしてシベリヤに流謫せられたる者に至つては之に數倍すべし」と云ひ、フイリップ・ストライス氏は千九百十二年に出版した「シベリヤ」と云ふ書物の中で「西部及中部シベリヤに於ける囚人犯追放者は全移住民の三分の一に達す、千九百九年にはシベリヤのエニセー州にても長短種々なる刑期の宣告を受けたる國事犯追放者は五十萬以上なりき」と云へるを見ても、露國の帝政々府が如何に多數の政治犯人を出し、其政治上の自由を壓迫したるかを推察する事が出來る。併し斯くの如き極端なる壓迫は反つて極端なる反動を喚び起し、今や帝政々府は亡び、曾て政治犯人として國外に放逐せられたる人々自ら政府の主權者たるに至つた。日本は其歷史に於ても亦國民的信念に於ても、獨逸や露西亞と同日に論ずる能はざるものであるけれども、然し國情が違ふからと云つて安心して居られぬ事は、最近米騷動や其他直接行動に似たる事が頻々として起り、議會否認の思想が次第に其根を張らんとしつゝある事に依つても分る。故に吾等にして立憲政治を大成し、公開政治の本議を實現せんと欲するならば、先づ一方に於て議會の組織を民衆化すると同時に、他方に於て批評の自由を確保し、以て國民をして汎く立憲政治が自己の生活上缺くべからざる必要條件なる事を知らしむる事が急務である。蓋し今日の我國に於ける議會否認の思想は、前述の通り主として議會が特權階級の取引政治の機關に過ぎぬと信ずる事から起り來るのであるから、一方に於て議會の組織が民衆化し、貴衆兩院が眞に國民中の特定階級でなく、各階級の要求と利益とを遺憾なく代表し、而して其代表者たる各議員が批判の自由を有する事になれば、議會否認の思想も亦自ら消滅すべき性質を有するのであるから、議會否認の思想は、譬へば專制と饑餓とに付き纏ふ黑影の如く、專制と饑餓とが消滅して自由と滿腹との世界に入るべき希望を生ずれば、其黑影も亦消滅すべき運命を有する。此意味に於て我等は貴衆兩院の組織を根本的に改造し、政治の民衆化の理想を徹底するに努力したいと思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

舊幕時代の遺習を脱せぬ我が憲政の現狀

文學博士　三宅雪嶺

今は國といふ國が殆ど悉く憲政國の名を冠し、純粹の專制國は阿弗利加の或る土地に見出す位である。然し等級を設ければいろ〳〵あり、最優等と最劣等との距離が頗る遠い。最優等とて理想に達せねど、比較的整つて居るを認める。支那でも憲政國であり、波斯でも憲政國である。日本は之に較べて確かに優つて居り、歐米列國の間でも左程劣つて居らぬけれど、決して優等と云へぬ。五千六百萬人中三百萬が選擧權を得、普選運動が力を得ぬ丈けでも、等級の高からぬのを示す。英國が人口日本より少く、而して婦人選擧人が六百萬なるのに比べて、如何に劣つて居らうか。選擧權擴張にケチをつけ、婦人參政を嘲るなど、何の理由があるにしても、等級の低いのに伴ふ。大正十年は廢藩置縣後五十年に相當し、五十年の進步として割合に早いと云ふのも滿足する位であらう。

そこで自づと舊藩の專制的遺習が露はれる。權力者は金モールの大禮服を着るけれど、烏帽子素衣の心持ちで居る。町人の分際として沙汰の限りと叱り付けるやうな事がある。舊幕時代に議會なく、少數の役人で事を定め、秘密の洩れるのを恐れる。支那で早くから謀は密を以て成るといふやうな事を云ふたのを、何かにつけて引用する。お上の事が世間に知れたとて赤くなつたり青くなつたりする。今日から顧みて滑稽に思はれる。今もその跡形無いでなく、無い所か餘り殘つて居ると云へぬ。戰爭ならば秘密にするも尤もであるが、政府として國民に對し、敵に臨むが如く秘密にするなど、解し難い事である。

而して世間の噂なんか何うでも可いと云ひつゝ、何でもないのに氣を揉み、取消したり、發表を禁じたりする。お上の御無理御尤もとて、何でも畏つて居らねばならぬといふ習慣に基いて居る。此の遺習が先入主となり、お上の御無理を御尤もと爲す、御無理とするものあれば、腹立たしく、何とか處分しようとする。昔は刀の柄に手を掛けたり、或は切つて捨てたりしたのであつて、それに比べて穩かであるが、隨分側な事がある。引つ張れとか、監獄へ抛り込めとかいふ事になる。年數を經れば漸次改まらうが、今は舊幕の遺習の相應に存在するを認めねばならぬ。腹立てるばかりでなく、獨り[illegible]して[illegible]を食ふので始末が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

思い。何程の事でなく靜かに處置して可いのに、これ大變と周章て出し、既に知れ渡つた事を差止め、差止めに氣づかなんだといふのを呼出し、或は罰する。威張るのと周章てるので、兎角餘計な面倒が起る。之も舊幕の遺習でさう早く革まるものでないと云へばそれまでゝあるが、今少しく氣をつけさうに思はれるが、さういかぬ物にや。

上の方で舊幕の手心を以てするので、下の方でも舊幕の調子に於てするのがある。何分にも時代の爭はれぬのであらう。舊幕時代にもそれ／＼相當に面白い事があり、威張り散らすのも、面白かつたらう。之と同じく陰謀を企てるのも、一種の興味を覺える。軍談には隨分陰謀が多く、由井正雪の話の如き、なか／＼面白い。威張り散らして居るのを物の見事に引くり返してやらうと云ふ氣分が愉快を伴ふ。支那で早くから民の口を防ぐは川を防ぐより甚しといひ、それで常に口を拝げよう／＼とした如く、日本でもさうなつて居る。後に言論の自由に重きを置くのは、防ぎ難い所もあれど、之れを安全辨とする方、比較的平穩なるを得るといふ實驗からも來つて居る。

然し氣にしたり心配したりしては際限なく、役人の小さい了見で、兎角世間で矢釜しく云ふのを嫌ふ。云ふだけ云はすが可いと云ふたりしながら、處分せずに居られなくなる。自ら位置が危くなつたりすれば、氣が焦立ち、無暗に押へ付けようとする。今でも内閣の出來掛けは、世間でも鋒先を向けぬ爲めか、寛大である。寛大を誇つたりする。漸く年數を經、足元が危くなれば無暗と差し止めたり、禁じたり、罰したりする。例の事かと思ふて過ぎれば、其内に内閣が變つたりするが、氣の早いものは待つて居れず、向ふで然う出るならば此方で斯う出るとて、何か變つた事を思ひ出す。時として政府の何の邊から思ひ立つたものか、無暗と促め、生命にも苦しましめるに至る。絕えず劍下げた者が立ち番をして居るとあつては、氣が安らかでなく、一種の精神病に罹らぬとせぬ。爲なくても可い事を爲るに及ぶ。

鼠が騒ぐのは煩さいけれど、それを驅り立てやうとして戸障子を破つたり、天井をめぐつたりしては、差引き鼠の騒ぐよりも損になる。政府で取締り役に居るものゝ、取締りの騒きの方が大きくなつたりする。集會で巡査刑事の方が多くなる事がある。西郷は江戸を燒き捲くるつもりで來たが、勝が之に會ひ、多く民家の並んで居るのを指し、之が燒けたりすれば惜しいものであると、いろ／＼話の末、何でも宜しく賴むと云ひ、一切を勝に任せた。勝は懸命に働いて、騒ぎの起らぬやうにした。大きい小さいはあるけれども、此邊の諒解で濟む事が、何れ程

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あるか知れぬ。クレマンソーが首相となつた時、鑛山に騒ぎが起つた。彼自ら馳せて赴き、説きつけて鎭めた。上の官吏が無精であり、何でも下の者を使ふので、下の者が餘計な事を爲る。上の者が勞を惜まず、面と向つて話せば埒が明く事が幾許もある。之を厭ふのは能が無いからであるか、何であるか。兎角下らぬ事で面倒が起る。多くの人の中で何人かゞ殺されたとて何程の事あるかと云はゞ云ふものの、舊幕時代そつくりの騒ぎの起るのは、大抵に廢める事が出來ぬか。双方より愼むべきであるが、力の強いと知られて居る方から思慮するのが順當であらう。

政界の陰謀と言論壓迫

法學博士　堀江歸一

一

陰謀の發頭人

我國の政界で、如何なる程度まで、種々の陰謀が行はれて、政界に波瀾を起すものであらうか、此事は政界に居つて、樣々の運動に關係して居る者でなければ、之を知るを得ない。然し私共のような政治と全然無關係の境遇に居る者にも時に政界の陰謀を耳にすることのある事實から考へると、此種の事柄は隨分頻繁に行はれるものと認めなければならぬ。私が政界の陰謀として最も惜んで居ることは、既往二十餘年ばかりの間に、二ツ三ツある。其一は憲政黨内閣が大隈板垣兩氏の手で出來た時に一派の人々が當時文部大臣であつた尾崎行雄氏の帝國教育會に於ける演說の言葉尻を捉へて、同氏を亂臣賊子でゞもあるやに非難し、遂に内閣を瓦解するに至らしめたことであり、其二は第一次西園寺内閣が社會主義者に對する取締に寛大であることを理由として、同内閣に手傷を負はせたことであり、其三は桂公の政黨を組織しようとする計畫を挫く爲めに、同公を内大臣に封じ込み、結局同公の政治的生涯に妨碍を加へたことである。

右の如き陰謀は主として何人が企てたものであるかと云へば、其發頭人は何れも官僚であり、軍閥であつた。第三に掲げた桂公の場合の如きは、即ち同志討ちを行つた譯であつて、桂公に對する同情の薄かつたことも、已むを得ないとしなければならぬ。本來立憲政治の下に於て、政界に勢力を持たうとする以上は、必ず議會に多數の黨與を持たなければならない。官僚とか、軍閥とか云ふような團體に此黨與を持たないのに拘はら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

す、政界に多年古來つた勢力を持續しようとするのであつて、其れには陰謀を逞うする外に、依る所を見出さないのである。何か機會があれば、政黨に難癖を付けて、其發達を妨げようと云ふのが官僚なり、軍閥なりの常に心掛けて居る所であつて、多少の難癖であつても、之を陰謀の材料にして、政權の爭奪を謀るのである。

言論を盛にす可し

我國に於て、斯く官僚やら、軍閥やらの陰謀が時に效を奏して、政權の移動を生じる一つの原因は言論の盛に行はれないことに存するものと思はれる。言論の自由が認められない、言論其ものが盛に行はれない我國の今日に於ては、多數の國民は今日政權に移動を生じるのが正しいことであるかどうかと云ふ點に就て了解を持たないのである。若しも彼等が此點に相當の理解を持つて居つたならば、如何に官僚軍閥が陰謀を行つたとした所で、國民の力を以つて、之を掣肘することが出來る筈であるのに、我國に於て此事の容易に求められないのは、吾人の遺憾とする所である。

一國が立憲政治の主義を徹底させようとするならば、官僚の如きは、純然たる行政官たることに、終始せしめなければならず、軍閥の如きも、亦護國の任に當る外に、何ものをも存するを知らない境遇に立たせなければならぬ。然るに我國に於ては、官僚が成上りに國務大臣と爲つて、政治に干與する、軍閥も亦一個の團體として、抜く可からざる勢力を持ち自己の閥に屬する軍人を陸海軍大臣として、閣班に列させて、公々然政治を支配して憚らないのである。軍政の如きは、軍令と違つて、一個の政務に外ならない。然らば政治家を以つて、任ずる者が之を担任するのは、當然の處置であつて、何も武人の力を藉りることを要しない道理であるのに、我國に於ては容易に此事實を實現させることが出來ず、依然軍人に國務大臣の椅子を與へて居るので、斯る軍閥を代表する大臣の意嚮で、時に内閣を破壞すると云ふような陰謀が行はれる。現に第二次西園寺内閣に於て、時の陸軍大臣が二個師團の增設を固執して、遂に内閣を瓦解するに至らしめたが、其陸軍大臣の背後に軍閥の控へて居つたことは、衆人の認める所であつた。何故我國では官僚を一個の行政官に止まらせるを得ないであらうか、軍人を一個の武人たらしめるを得ないであらうかと云へば、彼等に對抗す可き國民的勢力の微弱である爲めであつて、而して其微弱であることは、言論の不自由に之を因せなければならぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

言論に對する壓迫

此點に於て近頃私が特に遺憾に感じるのは、政黨政治を標榜する原内閣の下に於て、言論の甚だしく不自由と爲つたことである。固より言論に絶對の自由を認めることは、事實に於て不可能であらう。皇室の尊嚴を害したり、國體の基礎を危うするうな言論に對しては、嚴重なる制限を設け、之を侵した者に對して、嚴罰を課することに於ては、何人も異論なき所であるが、政府が自分の都合に着目し、多少なりとも政府に迷惑を及ぼすとか、又は政府の所爲を批議したとか云ふような言論に對して、壓迫を加へるようなことは、非常の曲事であつて、實に憲政の逆轉とせざるを得ない。

殊に私の感服しないのは、爰に或る事件が起つたとして、其顛末を洗ひ浚ひ、世間に公表したならば、輿論の攻撃が意外の所に及んで、時に政權の移動を生じるかも知れないと云ふ場合に、政府が一切を秘密裡に葬り去らんとすることである。幾ら事を秘密にしようとした所で、人の口に戸の立てられぬは、古今の金言であつて、其一端は世間に漏洩し、其れに尾が付き、鰭が生へて、意想外の風説を醸し、人心を動揺させる虞れなしとしない。暗黒裡であればこそ、人々は色々の恐怖を懐けば、種々の疑惑を持つことに爲るが、日光が輝いたり、電燈が燦々としたならば、是等の疑惧の念は一掃される。立憲政治と專制政治との異なる所は此一事であるのに、我國が立憲政治を標榜しながら、時に專制治下に於けると同樣の程度まで、言論の自由を壓迫するのは何とした事であらうか、是れでは樣々の誤解が國民の間に起るのも亦已むを得ないとしなければならぬ。

政府にも陰謀誘致の責あり

政界に陰謀の跡を絶たし、總て政治上の進退を公明にしようとするならば、私は當時政權を掌握して居る政府の當局者が政治上に於ける權力者として、深く反省しなければならぬ點があると思ふ。例へば今の原内閣に例を取つて、考へると、同内閣の内治に外交に施設して居る所のものは、多く機宜を失して、今や民心の離散したことは、掩ふ可からざる事實である。然も原内閣は衆議院に絶對多數黨である政友會を擁して居るのと、貴族院に多數を占める團體である研究會を懐柔して居るのとを恃んで、依然政權を壟斷しやうとし、國民の非難攻撃に對しては、殆ど耳を藉さない。原内閣を嫌ひ、政友會を悪む者が一の憲政會ばかりであり、一の官僚ばかりであつたならば、原内閣に對する反對は單に政治上の關係から出たものとも解されよう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が、斯る在野黨以外に、少しでも當世に思を懐く者が盛く原内閣の政策を非なりとして居る其場合に、内閣が政權に關聯した種々の手段で、作り上げた多數黨を擁して、何時までも政局を支配して居つたならば、或は國民の間には何か一種の陰謀でも廻らして、内閣を倒さうと云ふような者を生じはしないであらうか。少なくとも官僚などが或る陰謀で、原内閣を倒すような手段に出た場合に、國民は倒された内閣に同情を表せずして、寧ろ倒した官僚の方に道理のあることを認めはしないであらうか。陰謀に同意したり、共鳴することは、一種の錯覺であるが、國民をして斯る錯覺を懐かせる根元は責任の何ものたるを解せず、如何なる手段を廻らしても、政權を維持しようとする政府の態度に基くものとしなければならぬ。

從來の日本には元老と云ふ特殊の階級があつて、時に政治上に陰謀の生ずる淵源地とも爲つたが、今や某事件に關聯して、元老凋落の端が開かれたようであり、軍閥も其巨頭が相次いで物故した以上は、從來のような勢力を政治に及ぼすものとは考へられない。官僚中、政治に志ある者は政黨に加入して、抱負を伸すの外に道はあるまいし、其志のない者は一生行政官として、終りを全うす可きである。斯う爲れば政治は政黨の力で行はれ可き譯であるから、我々は如何にしたならば、此政黨を一個の朋黨たらしめずして、之を天下の公黨たらしめるを得るかと云ふことに意を拂はなければならぬ。其れには言論の力で、一方に政黨の爲す所を督勵すると共に、他の一方に於ては、國民の知識を啓發して、國民自己の意思で、政黨に對する向背を決せしめることが必要である。間違つた政治を行つた政黨に對しては、國民の信望が次第に消失して、政黨の勢力に打擊を加へるが、正しき方針で、政治を行つて居る政黨に對しては、人心自然に信用を與へて、益々其大を致すように爲つて、政黨と國民の利害とが始めて調和するものと云はれよう。而して此調和を得るには、普通選擧で、廣く國民をして政治に興味を持たせると共に、國民各自の意思が直に政黨の勢力に影響を及ぼす狀態を作り出すことの必要であるのは論を俟たぬ次第である。

言論壓迫の社會的損失

杉森孝次郎

最近革命が露獨に起こつて、英米に起こらなかつた原因は複雜だ。けれども、その有力なる原因の一は、露獨には比較的に言論の自由薄く、英米には比較的にそれが厚かつたにある。國

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の安定と進步を誠實に目的とする人は、その手段を明知しなくてはいけない。言論の壓迫は、意久地なき民の思想をば畏縮消滅させ、意久地ある民の思想をば、無聲の言論すなはち思想から、直ちに有形の言論すなはち行動に移す。

思想をして一とたび言論の形を取らしめる事は、爲政經世の手段としても貸價を有する。なぜかといふに、言論は、その言論者の心理に於いては、すでに或る程度の實行としての滿足を伴ふ。思想は、それの本質上、必ず表現を欲する。言論は、表現途上のすくなくとも第一步だ。實行と事業、もしくは動作と功績とはその第二步第三步だ。思想は健脚だ。健脚に第一步を踏みいだす機會をも與へないならば、その健脚は周圍の組織を破壞的に蹴るかも知れない。言論の自由は、それが聰明に保護される時には、思想懷抱者には實行的滿足を、安全瓣式に供給すると同時に、周圍の社會には、その言論的發表によつてその思想的內實を知り、その思想が、實行に移る前に、それに對する贊否の態度を決し、贊ならば助成し、否ならば教育しまたは警戒する可能を供給する。思が、言を經ずして行に移る事は、危險だ。その思が邪惡性のものである場合に於いてのみならず、正善性のものである場合に於いてさへも危險だ。周圍の理解を準備しないからだ。

最近わが國の社會に宣傳され、讀者をえつゝある英國の學者思想家の著作のなかには、彼我處を異にしたらば、到底發表の機會を與へられさうもない言論が多々ある。しかもそれらの言論は、研究的良心及び能力の結果としての意義を高度に持つてをる。こゝではそれらの署名と文字とを擧示しない。その必要がないからだ。當の英國に於いてさへも、それらの言論的主張が、直ちに實行的勢力を糾合大成すると知つたなら、驚惶と恐慌とを來たす人々が、その社會の中堅と上層の殆んど全部であるにちがひない。けれども、言論の自由を、すでに習慣的に鍛錬し且つ利用してをる英國の社會に於いては、思想と言論と行動との間に、かなり妥當な識別を半無意識乃至本能的に立てゝをる。言論には驚かない。恐れない。各人をして、思ふだけの事をば自由に語らしめる。思ふて言はぬ人をば危險視する。正當な事だ。意見を隱す人をば輕蔑しない。卑怯でなければ陰險だと見るからだ。これも正當な事だ。繰返して注意するが、言論壓迫の一弊は、微弱なる個性の思想をば窒息致死せしめるが、自覺強き創造的個性の思想をば、隙を狙んで手を動かす傾向を長ぜしめるにある。

英國を模範視するわけでは無論ないが、言論の自由を徹底し利用する學と術に於いて、比較的に成績をあげてをる一國とし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、具體的說明の便宜を今一歩進んで英國に求めよう。戰爭中でさへも、陰謀とか、黑秘密主義の祟りとか、暴力の爆發とか、暗殺とかいふたぐひの事件は、意義から總算すると、英佛二國、或は英佛伊米四國のうちで、英國に於いて最小であつたと略ぼ確實に判斷される。近頃の淺薄者から見、また遠方の粗觀者から考へては、あすにも革命が持ち上がりさうに、一見騷々しい英國の社會だ、足は足の節制を有し、手は手の制限を守つて、要するに安全に進步しつゝある原因も、一つには言論自由の積極政策にあるのだ。日刊新聞でも、モーニング・ポストやデーリ・メール、それからタイムスやデーリ・テレグラフからマンチェスター・ガーヂヤン及びデーリ・ニウスに例示される純右、修飾右、純左言論の自由發現に、言論統一または劃一の方針を強行する社會に住み慣れた人の目には、よくあれで實行上の兇行や騷動や內亂が起こらないものだと、不思議に思はれる位だ。旅館の喫煙室や食堂の如き場處に於いても、男女共に、いかに意見の發表に火花を散らすかに、威令と屈從、もしくは強壓と懾服とに社會生活の安寧術を、昔から限つて來た異邦人には、無用の紛爭とさへ感ぜられるほどだ。わが國の如き社會に於いては、意見の岐かれは、あらゆる意味に於いての仲間割れとなる傾向が強い。お互ひに言論的に發表しないからだ。かくの如き社會は、或る意味に於いて最も險惡な社會だ。そこでは、人が暗打ちをくふ機會が多いのだ。個人と個人、團體と團體、政府と人民との間に、あまねくこの惡機會が多いのだ。

各人にむかつて、その思ふ事をば必ず悉く言へと命令する規範は、わが思ふ事をば、必ず悉く言はねば不正直、非眞摯だと考へる人と同樣に、愚の一語で評し去つてよい。それはすでに言論の自由ではないのだ。社會の成員としての團體なり個人なりが、或ひは團體の成員としての個人が、自覺ある良心に基づいて、發表したく思ふ思想內容を、智識の背景を具備したる形の、すなはち眞の深慮遠慮なき秩序保護の興味に於いて不發表に終はらさうとする方針はその社會の進步を賊するのみならず、安定をも失ふ結果になる事理を、爲政者と經世家は特に明らかに辨へなくてはいかんのだ。思想の言論的發表が十分に保護される社會に於いては、革命すなはち暴力的變化は不可能な筈だ。

思想の言論的發表は、思想にむかつて、反省及び教育の機會を準備する。思想の言論的發表が自由に、あまねく解放された社會に於いて、信者を造る思想は、それだけの功績に値ひする本質價を有する思想だと見るべきだ。

純化された、批判された、持ちがひある實行と事業とを持つために、われらは、言論の壓迫を否定すべきだ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

言論の壓迫と暴力の使用を難ず

法學博士　吉野作造

昨今の政界に於て、言論の壓迫と腕力の使用とが政治の目的を達する爲めに行はれるやうになつたと云ふので、「中央公論」は頗る之を憂ひ、之が憲政の發達に及ぼす禍について、諸家の意見を徴する事となり、予も亦其一人に數へられた。格別纏つた意見は無いが、平素考へて居る一二の點を簡略に述べる。

言論の壓迫は官邊の方から來る事もあれば、又民間の方から來る事もある。或る一の意見に對して、之と反對の意見が如何に猛烈に説かれても、そは互に言論を戰はすのだから問題にはならないが、一度び一方が不法の暴力を以て相手方を脅かすといふやうになれば、玆に所謂言論の社會的壓迫といふ現象が現はれる。之は言論の國家的壓迫と共に、人文の進歩を遮ぐる事大なるものであるが故に、本來國家は此の如き不法の壓迫をば十分に取締らなければならないのである。之れ即ち近代國家が暇む一つの重要なる任務として言論自由の保障を十分ならしめざるべからずとせられて居る所以である。從つて言論の社會的壓迫の、若し少しでも行はるゝ事ありとすれば、之は取りも直さず國家が言論自由の保障といふ重大なる任務を怠るものと云はなければならない。此點に於て我々は今日の政府に多少の不滿はあるけれども、併し此方面ではまだそれほど大きな失態を發露して居ない。

けれども更に進んで政府それ自身の積極的言論壓迫の問題になると、數ふべき失態が頗る多い。政府が自己の計劃を批評さるゝ事を厭ひ、又は自家の計劃と反對の意見の發表を煩はしとするの傾向あるは、現在の政府に限らず、歴代の政府に通有の現象と思ふ。批評を面倒がるが故に何か新提案をしようと云ふと、いよ〳〵發表するといふ間際まで秘密にする。又例へば八個師團の完成に政府が苦心して居る最中だと、之と反對な意見でも述ぶる者があると、無理に之を押し潰さうとする。殊に政府部内にさういふ態度の人でもあると、直ぐに之を處分する。水野大佐の如きは恐らくかういふ考の犧牲となつたものではあるまいか。政府部内に統一はつくけれども、如何にすれば眞に國家の爲になるかの深い研究は斯くして全然阻止される。反對だらうが何だらうが、無遠慮な意見がどん〳〵發表さるゝやうにな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

らなければ、國の進歩が出來ない。何時でも人眞似をする事になる。世間で餘り氣が附かないが、斯う云ふ種類の言論壓迫の弊害は、從來頗る著しかつたと思ふ。

右は歴代の政府に通有の現象であるが、特に現政府に對して予輩の甚だ遺憾とするのは、政友會の立場に反對なる意見に對していろ〳〵の壓迫が加へられて居るといふ事である。之は何も政府の方針に出づる者でないかも知れない。出先の役人が政府に忠勤を抜んでんとして私意を以てやつた事かも知れない。が、何れにしても政友會の見て以て不利益とするやうな人々の言論の發表に對しては、間接に一種の力強い壓迫があるといふ事は、予自身多少經驗した事もあるし、又友人からも屢々聽いた事もある。併し之も露骨にやるのではないから、大目に見て置いていゝ。只此處に何うしても大目に見て置くわけに行かないのは思想問題に關する政府最近の言論壓迫である。殊に社會國家に對する評論に至ると、政府の取締りの手は頗る辛辣を極めて居る。之が我國人文の進歩の上に何れ丈け妨げをなして居るか分らない。

此問題に關する政府筋の表面の立場は極めて明白だ。即ち彼等は最近の思想界の新傾向を以て國家社會の爲め極めて危險なりとする深い確信を以て行動して居るからである。確信があるから露骨に壓迫するのであらう。又利害によるにあらず確信に基くのだから、それ丈け同じ壓迫でも惡意の存する場を諒とする丈けの値打はある。併しながら一度び裏面に入つて實際の情況を察すると、我々は言論の取締りに任ずる役人に決してそれ程の誠意を許す事は出來ない。何故か。

取締りの任に當る役人の内には、自分に確信があるのではない、命令の儘にやつて居るのもあるが、少くとも斯くする事が上官の意思だらうと忖度して決行するものもある。中には貴族院とか樞密院とか、あの邊から問題の起るを豫想して、之を防がんが爲めにわざ〳〵取締るといふものもある。自分自身に眞に取締を必要とするや否やの何等の信念が無くしてやつて居る者の多い事は、予輩の深く信じて疑はざる所である。其證據に貴族院邊で何か問題が起ると、何時でも政府當局は御尤御尤と恐縮して、何れ調査の上で處分しますなどゝ云つて居るではないか。曾て問題の事柄が處分に値するものなるや否やの點を實質的に研究して、應答した事がない。實際の事情が何うだらうが、兎に角問題になると直ぐに觸るといふやうな事は稀れでない。多くの場合はそれでその儘泣寢入になるけれども、時として其處分が餘りに輕卒だと云ふので却つて面倒な問題を惹き起す事もある。水戸の菊池校長の事件などは即ちこれだ。責任あ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る政府の高官が已に此態度である。屬僚が一々上官の鼻息を覗つて取締をやるといふのも略ぼ想像される。

先頃電車の中で一二年前に大學の法科を出た一青年に會つた。隨分成績が劣等なので卒業後いろ〳〵就職口を搜してやつたけれども無い。さぞ困る事だらうと大いに同情して居つたが電車の中で久濶振りで會つたので、昨今何を爲て居るかと聞いたら、某役所に勤める事になつたと云ふ。何の方面を擔任して居るかと聞いたら、思想問題の取締りをやつて居ますと云ふ。失禮だが昨今の思想界の事が分るかと聞いたら、實はさつぱり分りませんと云ふのが彼の僞はらざる答であつた。此役所の取締方針は右の青年によつて決せられるのではないのだけれども、お役所の思想取締りの大任を投つて居る者の中には、斯う云ふ人もあると云ふ事を予輩は責任を以て斷言して置く。

然し是等の前後左右の鼻息を覗つて事を爲るやうな者は、姑く問題以外に置いて可い。是等を外にして最も眞面目なる連中を取つて見ると、即ち其大多數は心から誠實に思想界最近の傾向を國家社會の爲めに危險なりとする人々である。そしてその憂國の至情から嚴重な取締りをやるのだから、其誠意は寔に之を諒とするけれども、予輩が此等の人々に一言したいのは、願はくば自分の意見丈けが唯一の眞理だとする信念を去られん事である。或有名な西洋の學者は、若し此の世の中に間違のない事がありとすれば、それは自分の考へが唯一の眞理なりと信ずる事が大間違だと云ふ事であると云つた。自分は斯う考へるが、併し事によつたら間違ひではないかと謙遜な態度を執る處に、自己を向上發展せしむる機會がある。今日の政治家が自己の化石した考を唯一の眞理と確信し、且つ之を社會に強制せんとするの態度は、啻に自分自身の考を自ら阻止するのみならず、又其一種の偏見を特に社會に横行せしめると云ふ事から、世の中の全體の進歩をも大いに妨げるものである。斯ういふ點に於て予輩は切に檢察官憲に警察當局の反省を促したい。

政治家が其目的を達する爲めに腕力を用ひると云ふ事は、いろ〳〵の形であらはれる。在野黨が國民大會など〻稱して殺氣立つた會合を催すのも其一の例であるが、殊に最近著しく我々の耳に觸れるのは、國粹會とか民勞會とか云ふ政府の隱然たる庇護の下に成立つた團體が、反對派の言論を壓迫する爲めに暴屬すると云ふ說である。國粹會、民勞會が果して此非難のやうな行動をして居るか何うかは知らない。けれども縱令事實に反するにしろ、右のやうな風評が行はれると云ふ事が已に甚だ憂ふべき現象であると考へる。何故ならば之れが爲めに民間に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

政府が已に斯くして我々を壓迫するなら、我々も亦反對の結束を作つて、自らを防衛しようと云ふ事になり、結局血で血を洗ふといふ恐るべき事に至らないとは限らない。政治家乃至民衆が興奮の餘り其目的を達せんが爲めに、時に常軌を逸した集團的行動に出づるといふ事は、固より恕すべき事ではないが、勢ひ之を禁じ難い場合がある。けれども斯くの如きは政府の力で十分に取締りが出來る。只政府の取締りについては、往々不法、過度の干渉なりといふ非難を伴ひ勝ちなので、臆病な政府は思ふ存分の態度に出で得ない事もある。併し乍ら若し政府が反對黨から加へらるゝ非難を避けんとして、表面からの取締の手を弛め、而して裏面から特殊の集團を造つて反對黨の壓迫に當らしむるやうな事があるなら、それこそ大變だ。諸國の革命史などを見ると、何處でも斯う云ふ事が天下擾亂の基となつて居る。即ち政府が何々會といふものを作つて、例へば社會主義者の壓迫に當らしめたとする。さうすると社會主義者も亦大いに奮激して之に對抗する方策を講ずる。斯くして殺伐なる爭闘が始まる。一度氣が立つて來ると後から制めようたつて制まらない。結局天下大いに擾れて、政府はもはや如何ともする事は出來ない。斯う考へて來ると、昨今の風說が若し果して眞實だとすると、實に恐るべき出來事と云はなければならない。よしんば幸にしてさういふ恐ろしい結果にならないまでも、斯くして物事を合法的に取扱つて行かうといふ考の段々薄らいで來る事丈けは疑を容れない。さらでだに昨今我國民衆の間には直接行動論は可なり勢力を得つつある。此の秋に方つて政府筋が若し斯のやうな計劃に少しでも力を入れて居るとせば、其志は多少諒とする事が出來ても、實際の結果は薪に油を注ぐものに外ならない。

以上與へられたる二つの問題について平素考へて居る事を述べたが、更に之を憲政の運用といふ事に引宛てゝ考へると、官僚の壓迫は、即ち憲政運用の根本たる民衆知徳の發展を阻げるものであり、暴力の使用は今日の代議制度を根柢から破壞し去るものである。今日の憲政は政府を議會が監督し、更に其議會を人民が監督するといふ仕組みであり、更に其監督の功を完うせしむる爲めにそれ〴〵定められたる法律上の約束がある。此約束の基礎の上に社會の進歩を圓滿確實に遂げしめんとして居るのに、暴力の使用は即ち此法律上の約束を全然無視せんとするのだから堪らない。我々は餘程用心して恐るべき風潮の流行を喰ひ止めねばならないと思ふ。

偖て之が喰ひ止め得たとして、次に問題になるのは、最後の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

監督者たる人民がぼんやりして居ては何にもならない。凡て政治には監督が要る。公の制度の公の監督（パブリック・コントロール・オブ・パブリック・インスチチウシヨン）は憲政運用に於ける第一の標識である。併し單にこれ丈けでは政權の運用に於ける弊害を喰ひ止め得るといふ消極的效果を奏する丈けに過ぎない。更に人民が最後の監督者であるといふ事が國家の利益になるのだといふ積極的效果を擧げしむる爲めには、人民の開發といふ事がなければならない。而して現代憲政の理想とする所は、憲政組織の運用の結果、又當然に人民の開發を期待する事が出來るのである。何故なれば憲政の運用は政治家を人民が監督するといふ點に重きを置くの結果として、一面に於て又此兩者の精神的連絡を密接ならしむるからである。而して兩者の精神的連絡を理想通り密接ならしむる爲めには言論の自由が無ければならない。言論の自由あつて人民は初めて各種の意見を聽き、其間大いに開發せらるゝ事になる。いろ／＼の意見を聞けば却つて頭が混亂して分らなくなるなどと云ふのは、目前一時の現象に拘泥しての觀察に過ぎない。

以上の意味に於て目今行はれて居る二大禍惡は憲政を遮ぐる事甚だ大なるものあるが、其他憲政の進歩の爲めに改革せねばならぬ點は尙ほ多々ある。之は尙ほ他の機會に於て述ぶる事にしよう。唯一つ昨今行はるゝ弊害の中で案外人の氣付かない事で尙ほ且つ最も大いなるものは各政黨の地盤政策である。此事は曾つて本誌時評欄に於いて述べたこともあるから、玆には繰返さない。唯當今の時勢に於いて非常に重大な事と信ずるから、此處に之を一言付け加へて置くのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

現代化せる東洋古典の精華

國譯漢文大成

卷末原文附

再版會員募集

全世界を脅威しつゝある思想界の大動亂は又我等を驅つて國民思想の一大危機を感ぜしめる。此時に當つて我が「國譯漢文大成」は、我が民族的特長の維持培養に絕對缺く可らざる經典たると共に、現代日新の頭腦を以てすれば、恐らく將來の世界を救濟すべき前人未發の幾多の大眞理をも其中に發見し得る無盡の寶庫である。而して當代最高權威の手に成る譯文の嚴正、註解の懇到正確、將た其收載書目の廣汎等に於て、諸他類似書の追隨を許さゞるは言ふ迄もない。又之が文學部に於て、其事の難き爲めに從來何人に依つても企てられざる戲曲小說の代表的傑作を漏なく網羅せることも此叢書の一大特色として擧げて置きたい。偏に淸鑑を仰ぐ次第である。

◎經子史部　十六册

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◎經子史部　十六册

四書、五經を始め、老、莊、韓非、荀子、新語、新書等の諸子十餘種、即ち所謂支那哲學に屬するものと、外に左傳、史記全編の二大史篇を收む。

◎文學部　十六册

楚辭、文選、八家文、唐詩選等詩文の外、西廂記、琵琶記、還魂記、桃花扇、長生殿、紅樓夢等各時代の代表的戲曲小說を網羅す。

編纂評議員

（イロハ順）

東京帝國大學教授 文學博士 市村瓚次郎
東京帝大教授、帝國學士院會員、文學博士 芳賀矢一
東京帝大教授、帝國學士院會員、文學博士 服部宇之吉
帝國學士院長、樞密顧問官、法學博士、男爵 穗積陳重
文學博士 幸田露伴
東京帝大教授、帝國學士院會員、文學博士 上田萬年
宮內省御用掛、貴族院議員、文學博士 小牧昌業
東京帝大教授、帝國學士院會員、文學博士 白鳥庫吉
東京帝室博物館總長、文學博士、醫學博士 森林太郎

執筆譯者

（イロハ順）

東京帝大教授 文學博士 服部宇之吉
文學博士 幸田露伴
東京帝大教授 文學博士 宇野哲人
學習院教授 岡田正之
東京帝國大學助教授 箭內亙
東洋大學教授 山口察常
第一高等學校教授 安井小太郎
公田連太郎
學習院教授 小柳司氣太
宮內省御用掛 文學博士 小牧昌業
東京高等師範學校教授 兒島獻吉郎
拓殖大學教授 後藤朝太郎
第一高等學校教授 佐久節
笹川臨風
拓殖大學教授 宮原民平
東京帝大教授 文學博士 鹽谷溫
東洋大學教授 釋清潭
平岡龍城

◎卅二册　沖田青楓氏意匠、菊判總クロース製、天金、一册紙數約八百頁

內 經子史部 十六册／文學部 十六册　兩部又は一部申込隨意

特製和裝は半紙判和紙刷、洋裝一册分を四册に分ち布製帙入とす

◎申込〆切は四月卅日限

略規

會費　各部每月金五圓（前金一時拂金七拾五圓）兩部每月金拾圓（前金一時拂金百五拾圓）（但特製和裝は各部每月金七圓一時拂金百五圓。兩部は此倍額）

申込金　各部金五圓、兩部金拾圓（和裝は各部金七圓）（但此申込金は最終月の會費に充つ（一時拂には申込金不用）

送本　來る六月より每月各部一册宛。但要送本料。

▣詳細見本及規定は御申越次第進呈

東京市神田區小川町一番地
電話神田三二六〇番
振替東京一八五七二番

國民文庫刊行會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

見よ！改造時代の精神を體現せる最優良の五大講義錄

早稲田大學講義錄

大隈侯爵指導――經營三十有餘年

新知識の供給に俟ざれば新時代の適者として生存しがたし

政治經濟科
十八ヶ月修了 第一號 四月六日發行

法律科
十八ヶ月修了 第一號 四月七日發行

文學科
十八ヶ月修了 第一號 四月八日發行

中學科
二箇年修了 第一號 四月三日發行

商業科
十八ヶ月修了 第一號 四月十日發行

葉書にて申込次第各科見本附規則書直ちに送呈す

東京牛込 早稲田

早稲田大學出版部

電話番町 三三二 四七四 五四二



特殊國及特殊人

荒井陸男

上海を出でた翌々日、私の乘つた加賀丸はだん〳〵日本へ近づいて來た。水天髣髴、一髮の青と見えた水平線の蓬萊島が、霞の中から次第にその現實を暴露する。孤燈淋しきホテルのベツドで、夢にあこがれた故國の山水は、しかし私に取つて外國人の空(から)世辭のやうに、左程に美くしいところだけが眼に着かなかつた。何たる不幸な幻滅(デスイリユージヨン)であつたらう。先づ近寄るにつれて明かになつたのは、日本の山にはひどく凸凹(でこぼこ)の多いことである。想像のヴエールが剝がれて、南九州の現實が刻一刻あらはになればなるほど、毎日歐羅巴で目擊して居たあの山とも、紅海や印度洋や南洋や支那海で、長い船路に見た山とも、全く種類を異にした山のたゝずまひである。世界の山の定義を以て、日本の山を定義し得ないかと思はれるほど、餘りに特殊國氣分を發揮した山ばかりである。一口に言へば山の有つてゐるのんびりした氣持ちがなくて、馬鹿にこせついて居る。皺(しわ)が多くて、方々に筋のやうなものが澤山出たり引つ込んだりしてゐる。いやにせゝこましくて、落ち着きのない氣分だなと思つた。外國の山は、何處となく鷹揚な趣があつて、のんびりとして居るから、せか〳〵いら〳〵したやうには見えない。成る程日本の島國的根性は斯ういふところから來るのかと思はざるを得なかつた。それと共に、未だ〳〵日本には文明的空氣が行きわたつては居ないといふ氣がした。日露戰爭以來、强國の仲間入りをしたとか何とか、私自身もつい數週間前まで歐羅巴に居る時

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は、[illegible]の際に何處の國いやうな大威張りもしたものだが、しかし近づいて見ると何となく無人島へ行くやうな氣がする。伊太利でも葡萄牙でも西班牙でも、海に沿つて船を走らせてゐると、山の麓には必ず村落があり、村落があれば必ずその邊を汽車が煙を出して走つてゐて、所謂文明の利器は津々浦々にも行き亙つて居ることを見るが、最初の印象を受けた日本國たる陸南土佐の地方には、たゞ僅に佐陀岬か何かに無線電信の高い柱が一本、淋しく突つ立つて、蓬萊島の夢の破れたことを示してゐるだけである。なるほど、よく見ると家がある。あるところではない、こせづいた山ばかりと思つたその山の下の方には、同じやうにこせづいた家（？）らしいものがうよ〳〵と群つてゐる。屋根が茅葺きなので、泥色になつてゐるところへ、貧弱な山も樹を伐つて虐待されるものだから、肌を露はして土色をなすから、家と山との區別がつかないのであつた。

ところが驚いたことには、家の原始的なのは草葺屋根ばかりでなく、歐羅巴の山村とは位置がまるで顛倒してゐることであつた。伊太利等にもこんな田舎家は隨分見受けるが、それ等は皆堂々と山の上に建てゝある。一番景色がよくて日當りがよくて、しかも生産的には餘り役に立たないやうな山の中腹か山頂へ持つて行つて住宅を營み、耕作地はその住居の麓の方へ設けるといふ場合が多い。然るに日本はそれと丁度反對で、自分達の住む場所は、麓のなるべく下の方の日の當らない、じめ〳〵したやうな所を選び、その耕作地が不足だとかこぼして、山をだんだらに切り拓いて、まるで三月の雛壇のやうな山畠を作り、猫の額ほどな土地をも惜しさうにして耕してゐる。實に悲慘なる滑稽だ！——と西洋人ならぬ私も一種哀憐の涙を湧かした。これといふのも、斯うした日本の田舎の人達が、まだ南洋あたりから漂着したやうな原始的氣分が失せないためでもあらうが——實際こんな光景はスマトラ半島あたりの土民生活を聯想させるに十分なものである。——一つには日本にまだ、物理とか化學とかの學術を應用した機械的生活が營まれて居ない爲に、山の上の高いところに住んでも、水を引き上げるに不便なからであらう。水草を追うて生活するといふ通り、吾々の生活に最も大切なものは水で、その水の近くに移住（ヒトルメント）するといふのは、最も原始的な生活狀態であるから、斯うした山の下の濕地に居るのも止むを得まいが、伊太利等では既に喞筒などで、自由に下から高い所へ水を引き揚げられるので、家の位置も自然に向上したわけであらう。

尤も、斯うけなしたからとて風光明媚といふ感じは確にあつて、限りない青い海と、限りない青い空との間に[illegible]のやうな

可愛らしい島山が浮んでゐるところを、帆を、けた小型の船がモーターの響をけたゝましくさせて、矢を射るやうに早く馳け行くのを見ると、"Sailing-boat ! How wonderful great country!!" などと、香港あたりからの外人客が嬉しがると、流石に私も痛快を覚えないでもなかつた。が、しかし西洋諸國の近海を航行すると、盛に大小の船舶に逢ふのを、土佐沖あたりでは、箱庭の船と言つたやうに、前に言つたやうな船が吁遇風流げに馳け行く位なもの、汽船などにはなか／＼出逢はない。海上が非常に閑寂であつて、日本は海までがさびしいのかと、それもこれも私の期待を裏切るものゝばかり。

兎角する中に夜に入つて、阿波の鳴門も波の彼方に、船は神戸の港へ入り込んだ。甲板に立つて眺めると、陸地にはいやに灯明が澤山きらめいて、相應に大きい市街のやうには見えるけれども、たゞ矢鱈　小さい燈火が螢の群集のやうに眼を掠めるばかりで、あのエニスの夜景は愚か香港あたりの華麗な夜の光景にさへ及ばない、矢張り島國根性　こんなところにも現はれるものかと思はれた。それよりも一層苦々しいのは、港内に少々風が強いために、折角船をもやつてもお客を降すことが出來ないことだ。波が恐ろしくて陸から迎ひの艀がやつて來ないといふのである、日本一二の貿易港にしてこれではと、そゞろに情けなくならざるを得なかつた。西洋の何處の港へ行つて、この位な風で港内の波がさは／＼騒ぐところがあらうか。況んや如何なる大船巨船でも、棧橋へぴつたり横着けだ。初めての西洋人は、港口に於て既に日本を見くびつて仕舞ふであらう。神戸港頭、西人をして排日心を懷かしむ、呼止んぬる哉だ、でもこゝで痛快なことが一つあつた。神戸の三菱造船所には、御自慢の浮船渠の大きいのがある。所がそれへ英語で"Floating Dock" と白く書いてある。それを見て、一英人が、「これは何故わざ／＼英語で書くのか、多分英人が資本を出してゐるからであらう」と、何處へ行つても己惚れの強いアングロ・サクソン魂をさらけ出す。すると傍に居た日本人が笑ひ出して「さうではない。あれは廣告の爲めに書いたのだ。外人の爲めに廣告をしたのだ、日本人は皆あそこに有名な大　船渠のあることは知つてゐるが、外人には知らない者もあらうから、特に廣告してあるのだ。つまりなるべく外國人から餘計に金を取らう　思つてのことで、それを君のやうに解釋するのは隨分己惚れた話だ」とやり込めてゐる。だがしかし、いざ上陸し一見すると、日本人もそんなことを言へさうにない醜態を彼方からも此方からも見せつけられる。

いよ／＼日本の陸地を踏んで、一番初めに感じたことは下駄

の音であつた。あの變な恰好をした木製の靴――さうだ下駄でも足駄でも、あれは履物といふ感じよりも、人間の危く躓つかつてゐる一種の姿に外ならない。その姿の、かいかいからんとか、こいこいころんとか、或はきいきいしく／＼とか妙な歇私的里的（ヒステリカル）な音が、第一に私の耳に來た。吾々も日本に居た間は、二十年からの間、あゝいふものを穿かされてゐたのかと、今更に妙な感じがして、色々な下駄の形に、しばらくうつとりと眺め入つてゐた。長方形のもの、小判形のもの、卵形のもの、中には鼎の表をくつつけたのもあれば、今にも折れさうな薄つぺらな歯をわざ／＼嵌め込んで、まるで鋼索のやうな歩きつ振りをしてゐる。それよりも奇怪なのは、鼻緒といふもので、趾（あし）の叉の間に、よくあの變なものを支へ得るものだ。日本人は手先の器用さを以て世界に知られてゐるが、あれでは足の趾も技巧の點では世界一だ。何しろ手足の尖端の不思議な國民であると思つて、本當に感心して見て居つた。

――だが、あの非常にやかましい、猫が鉄力板を引つ掻くやうな音だけは、たまらなくいやであつた、あの音のやうな總ての物が、日本人の心持をいら／＼させて、やるせなくさせて、いやが上にも神經質な小國民にして了ふのだとも考へた。

それから、今一つ大きい矛盾の驚きは、小さいごみ／＼した脆弱な家並の前に、ごみ捨場のやうな汚い路が通じてゐると、この上を電車が、我れこそは西洋生れの怪物（モンスター）だとでも言ひさうな顔をして、堂々と遠慮會釋もなく大きい図體（ずうたい）を走らしてゐる奇觀であつた。これは到底文明國では見られない光景だ、支那とか暹羅とかいふやうな、強國に侵略され蹂躙されつゝある地方ならば、斯うした侵略者が傍若無人を働いてゐるかも知れぬが、日本の六大都市とかいふ神戸の街上でこれを見るのは、奇蹟以上の奇蹟であつた。何しろ家が貧弱である。西班牙あたりの豚小屋だつて、第一種國道に面した大都會の三文見世より頑丈で、しかもきれいである。外國では、路傍の店舗、きれいである爲めに、日本を走る電車よりもずつときれいな電車さへも、丁度ごみためが走つてゐるやうに見えるのに、日本では宮殿がごみためを走つて居るに異らない位に以て奇觀であつて、小猿や小兎の群れてゐる村へ大象が飛び込んで來たといふ圖である。電車がちりん／＼と警鈴を鳴らすと、其處等の人間共の有様が又格別で、恐れおのゝき、驚きあわてゝ、すくむ、逃げる、立ち停る、わめく、西洋の電車通りの物靜かさ、平氣さに馴れて居た眼には、まるでフエアリー・テールズでも讀んでゐるやうな氣がする。

それから日本の道路はきたないばかりでなく、實に危險極まるものである。人力車や馬車の走るのを見てゐると、今にもひ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つくりかへりさうで、傍(はた)の見る眼がはら〳〵する。それもその筈、道路といへば、平坦砥の如きが理想であるべきで、又西洋諸國の道路は大體に於いて左様である。然るに日本へ戻つて踏む道路は何處でも圓の一片である。圓の一片をあの木屐といふもので歩いてゐる日本人は何處まで辛抱強いのか、又何處まで輕業師だか分つたものではない。しかしそれも止むを得ないことで、これが平坦砥の如くであつたならば、日本の道路といふものは、丁度外國では滅多に見ることが出來なくて、極東特有とも言ふべき畑の中へ水を溜めた田と同じやうな、一種の淺い泥沼に化してゐるべき筈だ。雨や雪が降れば、道路一面に水が溜つて沼になるのが當然であるから、止むを得ず道路技師はこれを蒲鉾形に造るのだ。恐らく技師の理想としては、道路を正三面形にして、人間共にはその二邊を高足駄で歩かせることであらう。平坦砥の如き道を、靴穿きで歩く西洋人の理想とは、如何に大なる相違であるか。それであつてさへ、丁度雨降り揚句であつた神戸の町は、まるでどろ〳〵で、汁粉の椀の中へ足を踏み入れたやうなものである。なるほどこれではあの變ちきりんな二本脚の高下駄でなくては日本の往來は通行されない筈だ。不圖(ふと)、私が子供の時に竹馬に乗つて、裏の辻町をよち〳〵と歩いたことを思ひ出した。事實、あの頃の東京の裏町には、子供でも老人でも女でも、竹馬に乗らなくては歩けないやうな通りが實在してゐたやうな氣さへする。

何うして日本の道路はこんなに圓の一片を製造してこへぬかるむのかと考へたが、それも當然の話だ、如何に排水に注意しても道路その物が泥ではないか。泥の上を足駄の齒で掘つくりかへして、それへ雨が降つて濕せば、泥沼になるのは當り前だ。日本人は自分達が履物の齒で製造した泥沼の道路の爲めに、自分達で苦しんでゐながら、見當違ひの蒲鉾道路を造つてあせつてゐるとは、恰かも資本家が、自分達で製造した勞働者の始末に困つて、溫情主義とかいふ不徹底なことを考へてゐるのと同じ見當違ひだ。何故日本人はこんな不徹底なことをしないで、道路へ敷物をしないだらうか？西洋だとて、道路の本質は泥に違ひない。隨つてその儘にして置けば、道路は日本と同じやうな泥沼に化してゐるべきだが、そこへはそれを豫防して早くから完全な敷物がされてある。何處の都會でも木か石かコンクリートで、ちやんと道路を固めてあるから、雨降りに草履や雪駄でも平氣なものだ。日本でも、少し費用をかけて、固い敷物をして置いたなら、お互にぬかるみを製造して、お互に困りながら、僅に蒲鉾道路でごまかしてゐるといふやうな、不徹底さを見なくてもよささうなものだ。現に今、何うしても日本人は不徹底な、上

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つ面だけを胡魔化して置く國民のやうな氣がする。――こんなことを感じながら私は、なるべく泥濘でないところを選んで歩いたゝ、やつと比較的　い一路を發見した。それは外でもない、道路の兩側の溝の縁である。こゝには、五寸巾位な狹い一條ではありながら、ずつと石が列べて敷いてある。これなら先づ〳〵靴や汁粉椀へ突つ込む苦痛からは免れ得るのだ。神戸で此の事を發見して以來、私は道路歩行上の唯一の避難法として、現に東京に於いてもこれを行つてゐる。が、考へればこれも果敢ない話だ。廣い天下の公道がありながら、吾々はその上を濶　する自由を有しないで、僅に、道路の中では一番きたない、下水溝の縁の五寸足らずの巾を、やつと歩くだけの自由を與へて貰つてゐるのだ。立憲國民たる我々は、せめて雨の日に道路を濶歩するだけの自由を得たいものだ。しかしさういふことを考へるのも、我々一平民に取つては非望であらうか？

次には一寸癪にさはらざるを得なかつたことは自働車が泥をはねかけること。日本の田吾作さんは、毎年泥の中へ手足を漬けて働いて居る上に、あの汚穢物さへもつていぢくつてゐるのだから、泥のとばつちり位　平氣であるかも知れない。又泥水稼業とかいふものも、隨分盛に行はれてゐるさうだから、日本國民は生れながら泥は厭ひでないかも知れぬ。中には成金様の自働車の餘沫を頂戴して、犬にあやかつて居る者もないとは限らぬ。だが然し、西洋の水を飲んで來た私には、これが可なりに不快であつた。自働車といふものがそも〳〵、日本の道路では電車以上のジャイアントだ。西洋の廣い通りを幾臺もの自働車が、縱横に自由に巧妙に狡驅してゐるのを見ると、何とも言へぬ心持のよいものであつたが、日本では全くその感じが違ふ。あの貧弱な小さく汚い家並の間の、狹いきたない見すぼらしい道路を一ぱいに立ちはだかつて、我物顔に走る自働車が時に怪獸のやうな呻き聲を發すると、腹の底から我れ知らず反感が湧き上る。ふと乘つてゐる奴の顔が見たくなつて車の中をのぞき込むと、貧弱な男、或は女が、函の中に乘つかつた一寸法師のやうに、見える。西洋人が自働車に乘ると、車と人との大きさが丁度調和して、玩具人形のやうな感じを起させないが、日本の自働車上の貧弱さと言つたらあつたものではない。それが得意になつてぶう〳〵言はせてゐるのだから、猶更反感が募らざるを得ない。――その癖、私にしても、自働車に收まつてゐると、その反感をけろりと忘れるばかりか、動もすると得意になることがある。そこが人間の淺ましさか知らん。――さてその自働車が、處嫌はずばつ〳〵と泥ばねをひつかけるのは、今もさうであるが、少々下等な話だがよく東京の大道の眞中で、馬が小

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

便の溜をはねかへしてゐるあの光景を思ひ出させる。しかし大道の馬の小便といふものは、撒水車の飛沫と同じやうに、一寸痛快なものである。あつけらかんと行く男女の行人達を物ともせず、泰然自若と、我が事こゝに在りと言はんばかりにしやあしやあはね返して、お召の美服の袖などを彩るところは、都にたゞよふアイロニーであるが、成金の自働車のはねはさういふ譯に行かない。反感その物だ、追つかけて行つてどやしつけてやりたくなる。所で、今一つ滑稽で憎々しいことは、當局の命令とかで、自働車に取りつけてゐる泥除けである。あれは又何たる玩具的の附屬物であらう。その恰好が日本人らしい間に合せの變ちきさである上に、あれは泥を除けるどころか、泥を飛ばす力を加へるやうなものだ。棕櫚製の、たわしのやうな泥除けなどは、實にたまらないものだ、犬が藁草鞋を口に啣へて振り散らしてゐるやうなものである。

それから今一つ私の問題になつたのは電柱である。山火事の跡のやうに、枝のない柱が市街を掩つて林立してゐる。一目見渡しても、その數幾百千本なるを知らない高い柱が、道行く人を壓してゐるではないか。電燈あり、電話あり、電信あり、電車あり、同じ電柱にしても、二三の會社が參差として柱を並べてその高さを競つて居るかと見れば、電話にも亦、公衆用の外、警察用あり、官衙用ありと、まるで道路一面に柱の行列である。何々といふ目貫きの大通りでも電柱の數の方が行人の數よりも多い有様である。況んや軒を並べた人家などは電柱に遮られて蔭さへも見えない。何しろあの貧弱な家屋と來て居るからこれも當然かも知れないが、斯うなれば都市の美觀も何もあつたものではない。今のところ、都市の美觀——否醜觀は電柱の行列に止めをさす。おまけにその電柱には俗惡な廣告が跋扈して居るに至つては言語道斷である。聞くところに據れば、日本の山林は將に衰滅に歸せんとしてゐるさうだ。何でも二十年を出でずして、建築用材は伐り出されて了ふと悲觀してゐる山林學者もあるさうなが、その大半の責任は此の電柱にあるような氣がする。立派な大黑柱になりさうな、鬱蒼たる杉の柾目の柱、それが斯うして無數に、惜しげもなく風雨に曝されてゐるのを見ると、山林の殘骸を見せつけられたやうで、痛々しさに堪へられない。

だが、更に眼を上げて、自分の頭上を見るがよい。其處にはその電柱に支へられて、蜘蛛手十文字に結び渡された夥しき電線の網があるではないか。そしてそれは丁度蜘蛛が網を張つて、飛ぶ蟲を待つて居るやうに、何時かは我々の上に落下して、生きの根を留めて呉れんと待ち構へて居るやうなものである。日露戰爭の時に、旅順攻擊に日本人を脅やかした重な一つに例

の鐵條網であつた。ところが、大都市の上には、我等の頭と數尺を隔てゝ、此の鐵條網よりももつと猛烈な電力が通じてゐる大鐵網が張り亘してあるのだ。無自覺なのか無邪氣なのか、脅かす恐ろしき者の下に、日本人のみは神の子のやうな顏をして往つたり來たり、遊んだり歌つたりしてゐる。一度、あの線の一本でも切れて、我等に觸れた刹那！我等は幾千ボルトの電氣に擲たれて、黑焦げになつて、仕舞はねばならぬのだ。何處の文明國に、こんな恐ろしい文明的釣天井の巷を所有したところがあらう。伊太利の片田舍へ行つても、市街に電柱が武裝兵のやうに立ち並び、電線網が惡人でない我々に天網をかぶせてゐるところはないのだ。何故日本人のみがこんなところを命からがら歩いて居なくてはならないのだらうか。人生は享樂だといふ、殊に都會生活は享樂の憧憬だといふではないか。だがしかし、電柱と電網で戒嚴令を施行されたところに何の享樂があらうか、實に日本の都會生活は脅迫その物だ。電柱でも、電線でも、道路でも、電車でも、自働車でも。よく斯ういふところへ、世界の公園だとか云つて遊びに來る西洋人があることだ。成る程こんな不思議な脅迫のなかつた何十年前の日本は公園であつたかも知れないが、今は、變態文明の日本である。あこがれて來た西洋人は、びつくり仰天して皆排日宗に早變りして逃げまらぬのが、よい仕合せと云はねばなるまい。

さて、神戸から汽車に乘つて東京へ行くことになつた。先づ、これも貧弱な、一等停車場とは何うしても思へない驛の構内に入つて、切符を買はうとする。切符賣り口へ立つて、「東京行」はいくらと訊くと、中からは女の聲で、横柄らしく何だかぶくぶつといふ。明瞭でないから聽き取れないので、今一度聽き直すと、極めて物臭さうに、又何とか言ふ。愛想も何もあつたものではない。これが西洋なら、切符賣の女が日本にくれば伯爵夫人位の品格でにつこり笑顏でも造つて、朗らか聲に愛嬌の一言や二言は交へて敎へてくれる。錢を渡せばニツト白い齒を見せて「サンキユー・サー」位は無論言つてくれる。ところが日本のお多福さんはさうは行かぬ。二三度繰り返して物をたづねた上に、「どうもありがたう」と此つちから言はせて置いてそ知らぬ顏だ。まるで主客の顚倒といふものである。兎に角斯ういふ風で氣を腐らしながら改札口へ行く。こゝはまた、切符を切つて貰はうと先を爭ふ群集が、日本人の公德心のなさを遺憾なく發揮してゐる。係員が一列に並べと、口を酸つぱくして叫ぶのも上の空で、隊列も何もあつたものではない。我れ先にと改札口へ押し寄せる。人の足を踏むやら袖に縋るやら、胸にぶつつかるやら、まるで修羅場の騷ぎであつて、しかもお互にそ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れが當然のやうな平氣な顔をしてゐる。人の足を踏んでも、自分がいたくさへなかつたら何でもないものと見えて、頭を一つ下げない、お佗びの片端もしないのだ。西洋に居る時は、日本にも近頃電車といふものが出來て、重寳だが、しかしその混雜は譬ふるに物なく、それに乘ることは命がけである。何でも氣の弱い人は水杯をして乘りに行くさうだと聞いたが、成る程汽車でさへこれならば、電車は以て思ひ知るべきだ。改札口の押し合ひへし合ひにさへも、乳吞兒などを連れては日本の汽車に乘れさうもない。だが、幸にして私は洋行歸りの日本男兒であつたから、何うにかして滿足にプラットホームへ出ることが出來た。

しかしその次に、いよ〳〵日本の汽車に乘るとなると、又一つ新しいおそれが生じた。一體、こんなあぶなつかしい日本國民の手で操られる汽車は安全だらうか、何處かで汽罐車が破裂したり、脫線をしたり、或は衝突をしたりしないことを誰れが保證し得やうぞ。勿論それは偶發的のことで、西洋だつてあり得ることだが、何だか西洋よりも日本の方にその機會率がずつと多さうだ。西洋に居つて時たま日本の新聞を見ると、よく鐵道事故が載つてゐる。正面衝突だの、踏切番の居睡りだの、隧道の閉塞だのと、西洋では滅多にあり得べからざることが、日本では尋常茶飯事かの如くに頻發するらしい、さう思ふと、そんな乘物に身を任せることが不安で仕樣がない。だが、止むを得ない、さうしなければ東京まで行けないのだから、意を決して乘る。乘つて見るとその汽車が又西洋とは違つてゐる。狹軌だから止むを得ないことであらうが、巾が狹くていやに長つ細くて、何となくこせこせして居る。汽車までが日本らしく神經質でいら〳〵してゐるのだなと思ひながら、乘つて居る人達の顏を見ると、驚いたことには、日本人の醜惡な姿、私自身の醜惡な姿を鏡の前で見せつけられたやうな、たまらない嫌な氣がする。私は、人間といふものは皆西洋人のやうな顏をしてゐると思つて居たのが、今斯うして黃色人種の、不思議な顏の集まりを、目のあたり見るとびつくりせざるを得なかつた、一口に言へば、これでは排日の聲がやかましいのも無理はない。此の面だもの、此の姿態(スタイル)で練り廻すのだものといふ心持であつた。それ程までに、私の日本人に對する第一印象は醜惡その物であつた。車中の日本人達の人相の惡いのは生れつきだから致し方ないとしても、あの不行儀千萬さは何といふことだらう、折から初夏のこと、午後の雨上りで草のいきれもむんとする蒸暑さである。左なくとも我々は不行儀になり易いところに、汽車の中と自宅との區別を知らず、且つ先天的に無作法なる彼等は、所かまはずけつをまくる。第一日本の衣服といふものが、重寳

といへば簡單に出來てゐるので、褌一本の上でも下でも、立どころに自由に裸にすることが出來る。此の意味で日本人は熱帯の土人と同じやうな半裸體國民かも知れぬ。兎に角、臑にけつまくりをやつて居る。おまけに、西洋式の猿股を穿かないのが多いから、木綿の丁字帶が露はれるばかりか、兎もするとそれ以上の失敬千萬な醜態もさらけ出さぬではない。それから胸を出す。中には乳部の毛のあたりをもじやもじやと露出するといふ。實に外國人ならぬ私でさへたまつたものではない。――斷つて置くが、私の乘つたのは二等車であつた。相當代表的人物の乘車する一等に於て現にこれである。他は推し知るべきである。しかし三等客はデモクラシーの普及と共に、近頃では大へん行儀作法が行き屆いて居るさうな。一番下等で何とも始末に行かないのは、不幸にして私の乘り込んだ二等車であるとのこと。しかし英國では上等と普通の兩級あるのを定則の如くしてゐる汽車のことゝて、私は二等ならば先づ無難であらうとこれに乘り込んだのだ。――

閑話休題、私は呆れながら見て居ると、今度は汽車の中で着物を着換へ初めた。何でも日本のお客は、長途の旅行――と言つても五十里か百里いことだが――をする時に、汽車に乘るまでは美々しく着飾つて乘り込むが、車の中では旅行着とでもいふものに着換へて了ふ、それから又降車する時には再び晴れ着に取り換へる。その爲め、日本人が汽車に乘つた時には、少くとも二回は脫衣しなくてはならぬのだ。隨つて、汽車中は臨時に脫衣場となる譯だ。勿論、私の乘つた車室の外に、特別な脫衣車などのある道理はない。彼等は、公衆の眼前に於いて、誰れ憚らず衣服を脫いで肌を露はしてゐるのだ。それは固より男ばかりではない、女もある。いや女の方が多いかも知れない。彼女等の肉體美――これは皮肉の意味だ。日本の婦人に肉體美などがあつてたまつたものではない。あの短矮な、黄色い肉體の持ち主で、殊に腹の皮膚の眞つ黑さなどは、ゴーガンのあこがれたタヒテイの女などの傍へもよれたものではない。――その立派な肉體を、心行くばかりに、我々の眼をして味はせてくれたのは、何と評してよいか、呆れ果てたものである。彼等はまつたく、汽車と旅館とを混同して居るのだ。汽車の中で着物を着替へるなどゝいふところが何處の國にあるものか。それなら一そ、特殊國の汽車らしく、便所の隣りへ脫衣室でも造つては何うか、惡い意味での改造好きな鐵道省の當局へ申し上げます。

それから日本人は汽車の中で、履物を脫いで座席へあぐらをかく癖の人が多い。これも生活の違ひで止むを得まいが、座席

は腰掛ける場所で坐る場所ではないのだ。それに皆が坐り得るだけの餘裕ある巾は取つてない筈で、おまけに狹軌車と來てゐる。しかも洋服姿の紳士達が、てんでに靴を脱いであぐらをかき始めるに至つては寧ろ滑稽だ。洋服姿が、靴をぬいで汽車の中であぐらなどいふのも、世界一のポンチ材料である。文明諸國では靴をぬいで自分の足などを出す時は寢臺に眠る時に限り他に人前で足など見せる事は大なる缺禮である。それから、私の向ひに、六七歳になる女の子供を連れた紳士がある。——左樣、紳士に違ひないと私は斷定する。着てゐるのは布哇歸りのやうなつんつるてんの洋服だけれども、日本のテイラーの腕としては先づ最上級だらうから、これを着た人は紳士とせねばなるまい。次には、八字髭を蓄へて、金縁眼鏡をかけてゐる。八字髭は西洋では電車の車掌の多くにもこれを見るが、日本では少くとも田紳以上の商標だ。金縁眼鏡も、近頃亞米利加の金に吹かれてからは、猶更紳士の一資格となつてゐるものだ。と想像して彼を紳士としたのだ。——ところでその女の子は、これもメード・イン・ジャパンの、餘り恰好のよくない子供洋服を着てゐるが、勿論表面の飾りだけで、内部まで洋服化して居ないのだから、足を何うとかして動き廻る度にスカートが上がる。するとの間の方がちよい／＼見えるのは、いくら頑是ない子供だからとて感心されたものではない。西洋では乞食の子だつて、スカートの下へ褌をして居ない者はないのだが、親父は一ぱしの智識階級の代表らしい面構へで、堂々たる髭だけは、カイゼルも跣足といふのであつても、令孃に至るとこれだ。其の開けつ放しといふ作法では、日本の紳士もいさゝかお恥かしい次第である。

それに、前にも申した顏の感じである。私も勿論日本人のこと、御面相に於いては餘り自慢も出來ないが、長い間西洋に居つて、好い面ばかり見て居たのだから、つひそれに馴れて、私すらも相應な面の積りで居たのだが、今斯うして日本民族のお面の出來具合を見ると、つく／＼情けなくならざるを得ない。先づその色が、しなびた橙のやうで、脂肪分の不足の爲めか、光澤のないくしや／＼顏の、それで居て顴骨だけはいやにしやちこ張つて、骨が肉をさいて外へ出たやうな恰好である。そして額は馬鹿に狹い。富士額とか言つて、女でも日本ではこれを美人にするさうだが、これはこせついた神經質國民の標象で、餘り智慧がありさうにも見えないことだ。眼はと見ると、中には井戸の底に鮑貝が光つてゐるやうに落ち凹んで、且つ一般に鋭い。それも炯々として人を射るといふ眼光の鋭さではなくて、物凄い、南洋か臺灣の土人と共通したやうな鋭さだ。そし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、多くの眼は釣り上つてゐる。眼尻といふものは、餘りに下り過ぎてゐるのも何とからしく見えて好ましくないが、日本人位に極端に釣り上つて居るのでは一寸交際ひたくない感じだ。芝居に出る曾我の五郎のやうな、神經走つて内容のない空威さでは何うもたらぬ。もう一つ、日本人の顔には顋がない。中には北澤樂天氏のポンチにあるやうな、顋ばかりかと思はれる人もたまにはあるけれども、それは例外の例外だ、多くは口から直ぐ喉へ來る、魚のやうな顔の持ち主である。額がなくて顋がなくて、顴骨が出しや張つて、その中央に釣つた眼と鋭い瞳と低い鼻とがあると思ふと、以て日本人の顔の貧弱さといら〳〵しさが知れるではないか、なんとなく柔か味がたりない。

その次の問題は耳である。日本人の耳といふものは、特別な發達――それも美しくではなく醜く〳〵――をしたものらしく、實にすばらしく嚴つい耳を所有してゐる。日本人の耳だけを見てゐると、人間といふ感じよりも兎か馬かを思はせる。たゞ、それ等の動物の耳は動くけれども、人間の耳だけあつて動かないといふだけの相違で、あの日本人の耳の堂々として後から前部へ向つて袖か何かのやうに張り出してゐる恰好はすばらしい醜態である。そしてこれは、私は最初は枕の故かと思つた。昔から日本人は、四角な材木のやうな枕をあてたもので、女は殊にさうであつたので、自然と耳朶が前へ出たかと考へたが、しかし横に寢ればべたんことになることもあるのだから、強ちさういふ理由でもあるまい。何れにしても、吾々畫家の眼から見ると、人間の顔の部分で、眼や鼻は皆美しいところがあるが、どうも耳形のだけは最も醜いものである。要領を得たやうな得ないやうな、出來たやうな、出來そこないのやうな、全く何とも言ひやうのない奇怪至極なものである。だから、昔からどんな大畫家でも耳に特別な興味を有つたといふ例は知らない。耳が美しいといふ名畫も見たことはない。そして服裝結髪の上からも、耳だけはなるべく隱すやうにしたもので、日本でも古來さうである。近頃は、馬鹿に兩鬢のぴんと張つた女の結髪法が流行つたりなどするので、耳を見せびらかすやうなこともあり、支那の婦人は耳に金環をつけたりなどしてゐるところを見ると、例外もあるか知らないが、先づ、耳はさう人前に威張つて出すべき所でないやうに思はれる。それがいやに眼立つて前へ出て居るので、さなくとも拜まれない日本人の御面相の輪廓線がこれによつて一層臺なしになつて居る。しかし考へて見ると、日本人が此の通りの不得要領な、醜惡な部分を有する國民ではないかといふ氣もする。殊に私の前へ座つた人達は、此の耳かい人達であつたらしく、どれもこれも、角行燈の兩翼を張つたや

うに耳が威張つてゐた。その爲めに、私の心には耳がこびり着いて居て、京都附近へ行くまで、こればかり氣になつた。

けれども、私の心を耳だけが占領したわけではなかつた。他に窓外の景色といふものがあつた。左様、窓外の景色と言へば、諸君は直ちにあの美しい京の山や水や、でなくとも攝津平野の茫茫たる田園、或は重たり合つて見える淀川の鐵橋であらうと思ふかも知れぬが、さうではない。もつと奇抜な景色があつたのだ、しかもその奇景に遮られて、田野も鐵橋も殘念ながら目には入らなかつた。所で、その奇景と申しても、恐らく關西の諸君には、何のことか氣のつかぬ程に、山に入つて山を見ざる程に馴れ切つたあの雑多な廣告なのだ。醜絡惡絶を極めた、あの俗惡の紛々たる廣告なのだ。大阪附近の鐵道沿線に見る廣告はその露骨なことに於て、俗惡なことに於いて實に天下無比であつて、日本の不名譽此の上もないと共に　また現代日本の一面を極めて雄辯に語つてゐるものである。見よ、そこ等一面の電柱と言はず、壁と言はず、立樹と言はず、乃至は、田の中、畑の中、小山の上、岩に白堊を以て記し、崖に赤色を以て塗つて、物としてこの俗惡な廣告に利用されないものはない、しかもその廣告にはどんなものがあるかと見ると、ビスマークの顔を描いて、その側に「[illegible]」と記してある。花柳病の廣告なのだ。勅任官の正装をしたのには「仁丹」とある。ビ公と梅毒、勅任官と仁丹、そこに何の必然的關係があることだらう。それから大學眼藥、アドラ、金鶴香水、中將湯、……いやあるはあるは、よくも斯う廣告の競爭をする根氣があることだ。しかもその何れを見ても、廣告らしい物になつてゐるのはない。俗惡な贅六趣味には或は適應するかも知れないが、考へて見給へ、此の鐵道は日本の幹線である、脊梁骨である。畏れ多くも聖上陛下の御通過になることは言はずもがな、嘗ては英國のコンノート殿下も此の鐵道を通られた、亞米利加のルーズヴエルトもこゝを通つた筈だ。さなくとも、日本をあこがれて來た歐米の人達は、何う思つて此の廣告博覧會の驚くべき醜態を眺めたであらうか。大阪人の鐵道ではなくて日本帝國の鐵道だ。その描かれた畫の藝術的價値などは素より論ずるまでもない、これを以て我等の心を傷め、折角の好風景を臺なしにして仕舞つた責任を何うするつもりか。それで居て日本を美の國だなどゝは[illegible]がよい。大阪あたりの市政當局も、美術館を建てるもよいが斯うした俗惡趣味に對して何とか工夫をされないものだらうか。

その間に京都も過ぎて琵琶湖あたりへやつて來ると、少し涼風が吹いて、日も西に傾いた。すると五時頃であるか、コツク

らしい男がやつて來て、頻りに銘々の方へ紙を蒔いて歩く。無闇にそこら中に、惜しげもなく蒔いて廻つたから、一枚拾つて讀むと、「夕食の準備が出來ました」とか書いてある。食堂車へ飯を食ひに來いといふ知らせらしい。その時に思つた。日本は餘程紙の潤澤な國と見える――その實、あとで聞くと紙が非常に高價で、書籍雜誌の價も戰前に比すると數倍になつてゐるさうなが。――假令潤澤であつたにしても、わざ〳〵こんなものを配つて紙屑を製造するには及ばぬではないか、屑の原料を製造する代りに、適當な場所に立つて、「食事の仕度が出來ました」と喚れば、それで濟むではないか、殊更に手間隙をかけて、紙屑配達は御苦勞千萬なことである。兎に角食事といふのだから、私は車中で知り合ひになつた西洋人と二人で、日本式洋食の珍味(?)を頂戴せんものと食堂の方へ出かけて行つた。あの量の少いまづい食物については今更申すに及ぶまい。兎に角二人で食事をしてゐる中に、遲く行つてゆつくり食べた爲めに、相應に時間がかゝつたから、一人去り二人去り、食堂に來てゐた人は皆居なくなつて仕舞つた。二人限りになつたものだから、私達は煙草を取り出て喫ひ初めようとしてゐた。するとそこへ變な顏をしてボーイがやつて來て、「あなた方、そこに No smoking と書いてあるではありませんか」と突慳貪なことを言ふ。無論、我々はそれを讀んでゐたからこそ、二人になるまで、欲しい煙草も我慢して、人の居なくなるのを待つて居たのだ。そこで私は、「しかし、今は誰も居ないからよいぢやないか」と言ひ返すと、「いゝえ、規則だからいけません。人の居る、居ないに拘はらず、食堂車では煙草を喫つてはいけません」と尙ほも剛情を張るのだ。私は再び、說明した。「一體、No smoking とやつたのは、要する西洋の眞似なのだ。西洋では、レディの前では煙草を喫はない、又喫ふ場合には斷つてから喫ふのだ。そのこゝへ來てゐる客の中に煙草嫌ひの人があるといけないから遠慮をするといふことになつてゐるのだ。しかしそこは臨機應變で、外に人が居なくなれば遠慮はないのだから、喫つても構はないのだ。その眞似をしてこんなことを書いて置く以上は、二人限りになつて他人に迷惑をかけなかつたなら、一向差支はない筈だ」と諄々として說いたが、遂に彼は頑としてきかない。「まあ君そんな融通のきかないことを言ふものではないよ。それも事によりけりで、大事と小事とを混同してはいけない。それよりも、失敬だがこれでも」と、幾らかの金を包んでやらうとすると、益々固くなつてそれを受取らうともしない。「いやに固つ苦しい不便な國ですね」と、私もつれの西洋人と共に苦笑してそこから出でざるを得なかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

再び座席に歸つて氣のついたことだが、車の中を矢鱈に掃除することである。我々が食事に行かうとする時にも、頻りに掃いてゐたが、歸つて來ると又やつて來て掃いてゐる。しかしこれも無理はない。日本の汽車の中は絶えず穢なくなるのだ。道路が汚ないのと、履物の性質からとて、乘降の度に車の中へ泥を落すのである。それと一つは、日本人は車の中では絶えず何か食つて居る國民である。西洋人はあゝまでぱく／＼やつて居ないやうに思つたが、日本人、殊に關西地方の人はいつも口の中をもぐ／＼させて居ないと氣がすまないと見える。そしてその蜜柑の食べ粕とか、林檎やバナヽの皮とかいふものを、別に一ケ所へ寄せて置くといふではなく、あたり構はずぺつ／＼と吐き散らす、放り出す、その上に辨當殼といふ厄介なものがあつて、これも到るところに堆積されるのだ。それ等を掃き集めて來てなくてはならぬのだから掃除の頻繁なのも無理ではない。今一つ眼につくことは、啖壺の多いことである。これに躓いたりなどして危くて仕方がない。それも止むを得ないのだ、日本人は啖唾をよく吐く國民である。見てゐると離れでも、しつ切りなしに咳をごほん／＼とやる。喉をげつ／＼と吐く、實にこれを見たゞけでもうんざりするが、要するにこれは、日本人が咽喉の惡いことを語るものである。さう思つて見ると彼等は又鼻汁をぐつと口へ吸ひ込んでかつと吐いて居る。そして多くの人は鼻を詰らかして、くん／＼言つてゐるのだ。成る程これでは、鼻も餘程惡いのだ。日本といふ國は、國家として耳鼻咽喉科の醫者が非常に必要であるわいと氣がつく。それにしても今食堂車から座席に歸つて來る時など、往來が危險で仕様がない。例の啖吐壺が出しや張つて居る、蜜柑や梨やバナヽの皮がぬる／＼と散らばつてゐる、おまけに下駄がある、靴が脱いである、きたない女の足袋なども其處に放り出してある。そこへ、狹軌の車を無理に速力を出すのだから震動が激しくて車は右往左往に動揺する。その間を彼方へ避け此方へ寄つたりして辿り歩くことは、醉つ拂はなくても容易な仕事ではない。

それから見て居ると、もう一つ面白いことが眼についた。それは、日本人は食事をしたあとで盛に小楊子を使ふことである。齒の隙間をしい／＼言はせながら、楊子どころか指まで突つ込んで、頻りに口の中の掃除に忙しい。そして、大抵の人が幾枚かの金齒を光らしてゐる。成るほどこれでは、耳鼻咽喉の醫者と共に、齒科醫が非常に必要な人種であるわい。齲齒（むしば）がある、齒と齒との間が隙いてゐる、それを小楊子と指とそれから巧妙に使用する舌端とをもつて、上手にちゆう／＼言はせながら、立派な紳士達が一頻り齒の掃除に餘念もない。二度三度の食事にあ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れだとすると、一日の中に歯掃除に消費する時間も決して短くはないだらう。まことに以て日本人は何から何まで厄介に出來た國民である。つく〴〵感心しながら見てゐると、今度は金歯の非常に多いことが氣になり出した。男でも女でも金歯を所有することを一つの誇りにしてゐるやうにさへ見える。金といふものは餘程貴いもので、歯にさへこれを使つてゐるのはすばらしいものだと、自分ながら貴族にでもなつたやうな、いゝ氣で居るものと見えて、權兵衞も太郎作もおぺそもおでこも得々然として金歯を輝かして見せるのだ。極めて罪のない、可愛いらしい國民と思へばそれまでだが、金歯といふものは、ヨーロッパでは滅多に見られないものである。餘程下等な人間、言はゞ中歐あたりの田紳とか、日本なら博徒とかいふやうな連中が、たまにやつてゐることがある。けれど、それも人前で光らかすのが御自慢では無論ないのだ。固より西洋でも歯の惡い人は隨分あるのだから、義歯を用ひてゐるけれど、彼等は日本人のやうに、金で歯を飾るといふ技巧——さう言へばお釋迦樣は金口であつたとか傳へるが、——を知らぬと見えて、義歯にもなるべく天然の歯に近いものを用ゐる。西洋人は何でも不自然がきらひで自然を尙ぶ——所が豈圖らんや、日本へ歸つて聞けば、東洋人は自然を尙べども、西洋人はさうでないとのことである。何が何やら私にも解らぬ——のだから、人造の歯も非常に發達して、一寸見るとその區別がつかないやうなものを應用してゐるのだ。それ故、歯が金色燦然たりなどいふ健康體は先づ西洋にはない。言ふまでもなく、人間の最も美しいのは健康體であつ、持つて生れた肉體の健全をその儘に保存してゐることであらねばならぬ。然るに歯にだけ金を矢鱈に入れて得々たるは、自分の歯は此の通り立派な不具であるといふことを證明するやうなものである。だから、歐羅巴では變り者か田舍者か、金のない人か、兎に角低級な社會の人に稀にこれを見るだけであつて、日本のやうに金歯の流行などは、昔も今もないことである。

さて、そんなことを考へてゐる中に、日もとつぷりと暮れかけて、殘照が比叡の山のあたりを染め出し、餘程東に廻つた琵琶湖の眺めは又格別であつたが、こゝに不思議なことに、私の想像してゐた琵琶湖とは餘程趣を異にしてゐる。ゼネバ湖とかヱニスとか、あゝいふ水の名所を見て來た私には、水の好景色を以て知られた場所で、殊に古來八景を以て有名な湖であるから、もつと觀光客の爲めの設備などでも充分に出來てゐさうなもので、例へば湖面にはヨットかモーターボートとか帆船とか、見物の爲め、或は遊ぶ爲めの舟なども隨分ありさうなものだと思つたのに、たゞ見渡す限り茫々たる湖である。時々帆をかけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た船が、隠見する位なもので、夏の湖とは何うしても思へぬやうにさびれ果てゝ居る。附近の山や野と同じことに蒼茫たる寂寞の境である。それが京都と隣り、大阪からも餘り隔たらぬ土地であるとは猶更意外である。

一つは此の邊から登り坂になる故もあつたらうが、急行の汽車に乘つて、停車しない通過驛にさしかゝると、その驛の名を書いた札の文字が明瞭に讀めるのであつた。こんなことも西洋ではまづないことで、普通車であつても、通過驛の名を讀むなどゝいふことは不可能である。況んや急行に於いてをや。これを以ても、如何に日本の汽車の速力が鈍いかといふことが解るだらう。誰れかゞ、汽車の速力でその國の經濟狀態が解ると云つたが、これでは日本もまだ〱である。汽車が米原へとまるとそこで又大變なことを發見した。それは驛名を呼ぶ聲と、賣物の聲である。私は日本の家を見、道路を見、電車、自働車を見、汽車に乘り、それから日本人の顔を觀、耳を見、咽喉や齒の惡いところまで觀察したが、その咽喉から齒の間を經て出て來る聲といふものには特別な注意を拂ふ機會に接しなかつた。それが、夜に入つて比較的他の物音の消えた中で、「まいばら、まいばら」と嗄がれた聲で呼ぶのを聞き、更に、「ビール、サイダー、正宗！」とか「大阪パックに滑稽新聞」とかいふ聲を聞くと、鷄が喉を締められるやうなたまらない感じがした。しかし考へて見ればそれもその筈だ、あの咳を吐く喉から發して、—あの齒くそをちゆう〱鳴らす所を通つて出て來る聲だもの、…あの位な汚ない聲はまだしもだ。だが、こんな下等な、非音樂的な聲よりも出すことが出來ないとは、我々の同胞は餘程情けない人類である。リファインされた感じといふものは、何處一點もないのであらうか。不得要領な、鷄のやうな聲がぼそぼそつと口から出て來る。食ひ足りない腹に力の拔けたやうな、幾日かの睡眠不足ですつかり元氣がなくなつたやうな、あんな聲を出してゐる國民は、今頃のドイツにもロシヤにもありさうもない。しかし考へて見れば、あの耳朶、あの咳を吐く喉、あの小楊子でほじくる齒、更には山の麓にかじかんでゐる百姓家、神戸の町にくづれてゐる店舗、汽車の窓から見た廣告、琵琶湖のさびれ方、方面こそ異れ、皆同じやうに、我が大正何年かの日本を示すもので、それが悉く此の聲に象徴化されてゐるのだ。………

その中に、私は夢に入つた。そして數時間の後には短い夏の夜があけると、既に車は靜岡の東に來てゐる。朝日を受けた富士の晴々しい姿が、すつくと私の眼の前に立つて居たのだ。それを見た時！私はすべての惡夢から醒めたやうな氣がした。こ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れだ！これこそ私が十幾年の歐洲生活の間に心に描いてゐた日本の姿だ！薩摩の南から神戸、それから、こゝまでのすべては夢！少くとも夢であれかしと私は願ふ。何う思つても此の瀨川だけは、昨日以來見た日本とは違つてゐる。伊太利あたりの光景を持つて來た！といふよりも、これがまつたくは日本の眞相であるのだ！けれども、一瞬の後には再び、昨日からのことが現實で、富士は現實でないやうな氣がして來た。少くとも、富士は日本の理想的な姿ではあるが、現在の姿ではない。今、本當の日本は、もつと濁つてゐる、もつと掻き亂されてゐる、もつと穢なくつて醜いのだ。言はゞ更生の苦しみにある日本なのだ。バタ臭い匂ひを嗅ぎ乍ら、肉を喰ひながら、そのバタの匂ひを嫌ひ、肉を呪ひ、何うしてよいのか分らないデレムマにかゝつてゐるのが今の日本と日本國民である。その間から生れ出でた畸形兒が、あの顔や、燈や廣告塔やである。早く此の畸形兒を何とかして、本當の健全な日本に更生したいものである。

などゝ思つてゐる中に、富士は何時しかその理想的な姿を消して、横濱へさしかゝつた。一哩、一鎖、汽車は刻々に眼さす東京へ近づく。が、私にはもうあこがれの心も消えて、ディスイリユージョンに胸も一ぱいである。東京驛へ着くと、日本宿屋へ入つて日本飯を食ふ氣は到底しないから、とあるホテルへと俥を飛ばした。俥！これがまた日本特有の妙ちきりんなものであつて、人が人に引つ張られるといふ日本式なところへ、俥夫なるものがまた、何う思つても變梃至極な人種である。をかしさを忍んで私は銀座といふ東京眼貫きの大通りを横切つたが、これまた想像の半分にも當らない貧弱さで、倫敦の場末も、こゝよりもつと都會らしいと呟いたことだ。

斯くてホテルに入ると、或る一つの小さな室にその夜は落ちつくことゝなつたが、そのホテルといふのが、日本では第一等に違ひなけれど、お客様に亞米利加人が多いためか、萬事亞米利加式で、冬になるとスチームを無闇と強くすると見えて、室内の柱や調度に皆、ぴちぴちと割れが出てゐる。その爲めに極めてお粗末な部屋の感じを與へたこともまた止むを得ない幻滅であつた。兎に角、その夜はその一室に小さくなつて、係累のない私は、初めて外國の地を踏んだやうな物淋しい、やるせない心持で、容易に寢つくことも出來なかつた。そして、夜中に、「あゝ、これが、二十何年滿足して居た、そして十何年間外國であこがれて居た、あの日本の東京といふ、私の生れ故郷なのか？」と思ひ出すと、何だか嘘のやうな氣がしてならなかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

愛のない國民

日本へ久し振りで歸つてから、一ケ月經ち二ケ月經ちして、だんだん樣子が解つて來るにつれ、日本といふ國が、餘りに今まで私の住んで居た西洋諸國と異つて居る――つまり特殊國であることに、面喰はさるを得なかつた。これが、嘗て私の產聲を擧げた國で、世界一の國民として自分ながら誇つた國民であらうとは思はれない。實に變挺な、不思議千萬な國であると、呆れ果てた次第である。

先づ、何う見ても日本人には人間性が缺けて居る。生れた儘なる人間らしい何物も日本人にはないと言つてよい。固より、人間として最も望ましいものは此の人間性であつて、人間性とはつまり、この人間であることの屬性に外ならぬのであつて、卽ち人間の nature である。refine された human nature であつて、これがあつて始めて人間らしいと言へるのであるが、日本人には何うもそれが缺けてゐる。例へば擲られても痛くないやうな顏をし、內心には腹が立つて居ても平氣な裝ひ、また不味いものを食べても不味くない風をするといふやうなことであつて、一つも人間としての自然な天眞爛漫なところがない。勿論それにも、忍耐とか忍從とか節制とかいふ色々な美德が伴ひもすれど、日本人は本當にそれ等の美德を理解して守つているのではなくして、たゞ、[illegible]な習慣か惰力かに依つて、無自覺にこんな不自然な生活をして居るのであるから、少しも感心は出來ない。

殊に の甚しいのは男女間などであつて、日本人には男と女との間に love といふもの 全然ないやうな氣がする。男と女の間だけではない、日本人には、基督 國、やうな愛の敎養が積まれて居ない爲めか、love は存在してゐないかとさへ思はれる。そして、此の love が いといふことは、人間 しては最も不幸なことで、丁度自然界に植物が生えて、花を開き果を結ぶことの出來ない沙漠と同じやうに、love のない生活は荒寥たる、落寞たるもので、そこには何の快樂も、愉安も希望もないのである。そして又、love がなければ respect といふものもない。相互の間に尊敬といふものも缺けて居る。これほど不自然な、これほど不快な生活が又とあらうか。而してその love の生活の源泉は、言ふまでもなく男女間の love である。美はしい男女間の愛がなくては凡ての生活はないのであるから、西洋では夫婦でも戀人同志でも、天眞に率直に互の love を表白して居る、また性的愛でなくても、男も女も大膽に各自の love の生活を主張して居るのであるが、日本へ歸つて見る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と、まるで男と女とは先天的に仇同士に生れたかの如く、全然その世界をさへ異にして、犬と猫とがその種類を同じくせざる如く、男と女とは存在を異にしてゐるやうに見える。大抵の集會へ行けば、そこには男子席と婦人席とが別けてある。結婚披露の宴會でも、劇場でも、ちやんと二種類の區別を設けてゐる。芝居でも活動でもさうである。中學校と女學校とが別れて居るのみならず、小學校さへも所に依つて男女の別を立てゝ居る。「男女七歳にして」何とやら言ふ昔の偉い人の遺した格言は、數千年後の今日でも、その儘に守られてゐる。滑稽なのは、專門學校や大學校で、今日倘ほ男女の共學が禁ぜられてゐる。恐らくこんな國は世界中で日本だけだらう、そのお蔭で、日本には婦人にして美術家を希望する者は比較的多いに拘はらず、彼女は官立の美術學校に拒絶されてゐるのだ。兎に角、男と女とは何時も同じ道は歩けないことになつてゐるのだからたまらない。

しかもその結果は何うかといふと、「男女七歳に」先生が一方でうまく言つて居るやうに、「食と色とは性である」、男女間の inter Course といふものは、本能性だから何うすることも出來ない。しかもこれを矯めやうとするから不自然にばかりなつて、愛のなき男女關係、愛のなき性欲滿足、或は曲げられたる love や秘密なる、若くは非倫なる love が多く行はれて、不自然に不自然を重ねて行くばかりである。そして又一方には love のない教育、love を殺す教育が行はれてゐるのだから、男と女とが面會した時でもその心持の悪いこと夥しい。日本には如何にも女らしい女は一人もゐないのかと思はれる程に、感じのない、情味のない、がさ／＼した女ばかりである。少くとも、男女自身でも、色氣を消さう／＼としてゐるのであるから、男女間の交際は少しも行はれないのだ。これは單に男女間のみでなく、男同士でもさうであつて、西洋人のやうな、雜な打開けた快活な交際は日本の男の間では行はれ難いが、これも要するに男女間の love の生活を殺してゐるのに基づくと思ふ。さうした日本の女であるから、妙に感情の方面がひねくれて、道端などで逢つたり、電車に乗り合せたりしても、西洋では女の方からじろ／＼と臆面もなく男の顏を見るのに、日本の女は男と擦れ違つても、化物でも通るやうにして、わざ／＼身を避けたり顏をそむけたりして過ぎ行くのである。お互にご面相が此の通りに醜いのだから、見るのも氣持が悪いし、見られるのもよい氣持がしたいといふこともあるかも知れないが、兎に角變である。

化物と言へば、實際西洋人には日本人が化物に見えたといふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

奇話を聞いたことがある。米國に在つて成功してゐる日本の某博士の令息夫人は米人であるが、日本人の細君になつて居る位だから、今は勿論よく日本人を理解して、吾々が會つても如才なく談話を交はしてゐる。その人が『私共の子供の時には、日本人を見ると、お化だと言つて皆逃げ出したものです』と笑ひながら語つた。外人はすべて奇異に見えるもので、日本でも西洋人のことを毛唐とか紅毛人とか、或は洋鬼とか稱するのだから變りはないかも知れないが、まつたく西洋人から見ると、日本人がお化に見えたのも無理はない。殊に兩方の顴骨の突出してゐるのは、西洋では[illegible]地顯る、人相とされてゐるし、眼の小さいのは性質が殘酷なしるしであるとさるるのだが、日本人の多くは顴骨高く、且つ眼が[illegible]い。[illegible]れで黄色い色をした小男が、變な様子をして歩いて居たならば、お化に見えるに違ひない。

——それは兎に角、人間性の缺けて居ること、一[illegible]のないこと、此の二つの點から日本人は不自然に見えもすれば、不自然な生活を營んでも居るのである。少くとも、愛らしい、率直な氣の措けない國民とは思はれないのである。動もすると、日本人が軍國主義者と批難され、又信用の出來ない國民と見られるのは、斯ういふ印象から來ることである。日本人はもつと自由に愛しあふ國民になれないものであらうか。

奥様と着物

日本人が、東洋と西洋とのちやんぽん生活をしてゐる爲めに蒙むる不利と不便とは少なからぬもので、食物、住宅、文字、その他日常の生活はその爲め非常に能率の減殺されつゝあること、私の歸朝以來、日に日に痛切に感じるところである。日本人は西洋人に比して、較的短命であつて、西洋人なら七十八十はまだ働き盛りであるのに、日本は『人生七十古來稀』とか稱して、七十の賀、六十の賀など〻、破格の長命者として祝つて居る。先づ五十歳を定命と見ると、その中、少くとも十年位は、生活上の不便から壽命を縮められてゐる結果になつて、實際は西洋人の半分よりも一生の仕事は出來ない譯である。況んや西洋人は、立派な體格を備へて、精力も日本人より遙に多い。或は日本人が一生になし得る仕事は、平均して西洋人のそれの三分の一に過ぎないかも知れない。斯う考へると情けないではないか。

それ等の不便不利の中でも、最も切實に感じてゐる卑近な例は衣服である。私は習慣やら經濟やら、又便利やら體裁やらの爲めに、歸朝以來常に內外共に洋服を着てゐる。日本服といふものは全然一着も所有しないのである。勿論、住宅も安普請

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

でこそあれ、すつかり西洋風である。實際、洋服を着つけた人には、日本服のだらしなさをしみ〴〵感ずるばかりでなく、洋服なら大抵の場合に背廣服一着で間に合ふ上に、外出するにもわざ〳〵着換へる必要もないが、日本服だと、やれ綿絣だ下着だ羽織だ、それも春夏秋冬とそれ〴〵に異るのみならず、袷の着物の場合、絆の場合、何だかだと實にうるさい。洋服でも形式に囚へられる人や、いゝめかしやは、同様に煩雜ではあるが、我々は一着の背廣服を以てすれば、經濟で便利なること此の上もない。加之、體裁である、日本服の體裁は、良い者が知らず、で、日本人には氣が附かないか知れぬが、實に妙なものである。袴を着なければ上も下も一枚のぞろりとした寢衣のやうものに、帶をぐる〴〵卷きにしてゐる。それに例の袖といふ變ちきりんな代物がぶら〴〵してゐる。あれは一體[illegible]の魚の鰭の眞似でもあるのか、東西古今を通じて、日本服だけに見る特有の附屬物である。日本服ほど實用に疎いものはあるまいが、同時に何等の美觀もない。寧ろ醜觀である。江戸趣味でも讃美する者の外には、先づ日本服を感心する者はない筈である。

所で、他人は兎に角、私のみ洋服主義で通さうとしてゐるが、さてたゞ一つ困ることがある。それは外出して日本の家で疊に坐らせらるることである。疊といふものが妙なもので、それに膝を折つて坐ることは一層不思議なポーズに違ひないが、何よりも折角の堂々たるズボンの膝が飛び上つて、左なくとも騎兵の馬の脚のやうた恰好の足であるから、膝だけが飛び上つた位で歩いてゐる恰好と言つたらない。實に西洋人が見たら噴飯に價する。それ故私は、訪問先が日本家屋である場合にはうんざりさせられる「あゝ、又膝か！」さう思つて座敷に通ることを躊躇するのみならず、近頃はあの家には西洋室がないから行くまいといふやうなことを考へるやうになつた。

であるが、しかし衣服問題で知らず識らず惱まされてゐるのは男でなくて女である。日本の女の意氣地のないこと、だらしのないこととの大半の理由は此の衣服にあるのだ。元來日本の女といふものは家の中にばかり居るべきもので、外へは出ないのが當然とされてゐたのだ。これは日本ばかりではな、、支那もさうであれば、西洋もさうであつた。希臘などでは、遊女と奴隷の女の外は、殆ど外出を嚴禁されてゐた。しかし西洋では早くからこの束縛は解かれてゐたが、日本では今尚ほさうは行かない。それはあの裾の長い、重い衣服と、胴體を締めつけた廣い大きい帶と發明してゐるのではないか。日本の女の着物は、家の中にばかり居る者の着るやうに作られてゐる。奧の樣や北の方と言つて、人の目に觸れない、所謂深閨の奧の奧に、日も

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

當らない陰の方に隱れてゐる人の着るものである。故にたるべく運動に不便な、じつと坐つてさへ居ればよいやうに、つまり人間の衣服としてよりも人形の纏ふ飾り物として出來てゐるのである。だから薄つぺらな絹か紗かで、少し運動をすれは破れるか切れるか縫ぶかして仕舞ふ。その上にやたらにぶら／＼と長い振り袖をつけて、まかり間違へば柱にでも結びつけるつもりだらう。そしてお引きずりと云はれた程に、裾に綿を澤山入れた長いものをぞろ／＼と引き摺つて、丁度箒で坐敷を掃いてゐるやうなものである。摸様の如きも、人形の衣服だから見る眼には實にきれいである。いつも遊女が床に居るやうな艶やかさであるが、さてその色は、少し光線に觸れば忽ち變色する。北の方で、太陽にあたらないで居ればそれでもよからうが、外出などは到底出來たものではない。況んや雨などがかゝつたが最後、着物はすつかり臺なしである。

ところで近頃は社會狀態も變つて來たので、日本の婦人もそれだけでは濟まされず、私共のやうに、細君同伴で外出でもしやうといふ氣紛れ者が出て來る。そこで亭主と一緒に一度位は出かけて見るが、途中で雨にでも逢へばそれこそ一大事である。あの美しい衣服は滅茶苦茶になつて、洗ひ張りをしたところでもとの面影を取返されさうにもない。さうなると細君も一度で懲りてもう二度と亭主の同伴をしようとはしない。益々其の様式になつて活動は鈍るといふ結果になる。その他、洋服を着た亭主と一緒に歩いたところで、あの服裝では速力が大違ひである。スーパー、ドレッドノートと、舊式の富士か八島かゞ同行してゐるやうなもので、亭主の方では豫定の速力も何も出せたものでないから、遂には細君同伴御免を蒙むるといふやうなことにならぬでもない。

然るに斯うなると問題は一層進行する。市中の散歩とか、一寸した訪問とかの場合ならば、亭主一人で出かけても先づよいが、數日間、或は數月間旅行でもするといふ段になると、細君を同伴し得ないことが種々の波瀾の原因となるのだ。早い話が、男性は女性を慕ひ、女性は男性を思ふは、人間生存上の眞面目なる事實である。殊に旅行にあつては非常に愁情を覺えるものである。こゝに於いて細君の代りの相手を求めることゝなる。その爲めに例へば藝者といふやうなものと關係を生ずる。會話をして、線香で時間を計つて金を取られるといふ、タキシーに乘つたやうな世界無類の珍制度も、これが爲めに必要となつて來るのである。その爲めに、自分の人格も傷ければ無駄な金も使ふ、且つ社會の制裁も受けねばならぬ。いやな思をして損をして、つまらぬ結果に終るのも、皆細君の居ない爲め、更

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

には日本の女の衣服が惡い爲めといふことになるのだ。

間に合せ主義

日本といふ國は、何から何まで間に合せに出來てゐる。政治問題とか社會問題とかいふやうなことは別として、家庭の生活狀態や學校の教育の有樣や、電車に乘つても道路を歩いても、買物に行つても友人と話をしても、間に合せならざるものはなしと言つてよい。日本の現在は假の國であつて、假普請であるといふやうな感じが直覺的にするのである。

例へば話しつゞきであるから與の樣であるが、日本人は體力でも精神でも、一般に言つて西洋人に劣るのは、第一、母性であるところの奧の樣、北の方から來ると思ふ。奧の方に引つ込んで、日陰で生活してゐる人の體力、精神は想像に餘りあるではないか。その人が胎んで、その人が産み落す子供の先天的運命は知れたものである。瓜の蔓には茄子はならない筈だ。間に合せの孵卵器の中から飛び出すヒヨツコに文句を言ふ前に、間に合せの孵卵器を何とかしなくてはなるまい。其處へ持つて來て、父親といふのがまたひどい。間に合せの身體と間に合せの頭とで出來てゐて、何事でも行き當りばつたりで滿足してゐるのだから、行き當りばつたりで種を蒔いて、行き當りばつたりの子供を製造するのを何うしたらよいか。こんなところによい人間が往んで居ようなどゝ思ふのは無理である。「諸行無常」とか觀じて、お釋迦樣以來東洋人は假の世の中に滿足してゐたのだから、科學も起らねば、文化の進步發達も鈍かつたのだが、我々も假の世で滿足して、間に合せの母親から行き當りばつたりの子供を製造して居るだけならそれでよいが、改造とか何とか人並に騷がうと思ふなら、先づこゝらあたりから改造してかゝらなくてはなるまい。

それよりも、一番滑稽なのは、間に合せと間に合せとの鉢合せ、そこから生ずる矛盾である。いたましき滑稽なる矛盾である。日本でもぼつ〳〵西洋館が澤山建つ、それ等の中には立派な鐵骨で數層の摩天閣を築き上げるのもあるが、多くは間に合せで、木骨でもない板骨にセメント塗り、表面は立派な大厦高樓だが、内實は燐寸箱に等しいのはまだしも、通りに面した所だけは三階か四階に組み上げたり、甚しきは畫を描いたりしてごまかしてゐるが、一寸側方から見ると、中は古建ての日本式二階家と言つたのが非常に多い、道路には下水の設備もしないで、上から石やコンクリートを敷き、帝劇へ行けば下足番とい、外國では見ることもない特別設備があつて、履物を細引の先に引つ括つて吊して置く。デパートメントストアなどいふ西洋

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の眞似物も出來て居るので、一寸そこらに買ひたいものがあるから立ち寄らうとすると、靴には何だか變なきれを被せなくては入れてくれない。やつとのことで這入らせて貰つて、買つて出かけようとすると、さあ入口からは出られないといふ、遠く方のずつと奥へ廻はされて、意外な場所に出口を發見すると、豈圖らんや其處が大へんな騒ぎの眞つ最中、暴發でも始まつたのか、それとも喧嘩でもやつて居るのかと覗き込むと、何事ぞ履いて出づべく自分の履物を取り返さんが爲めの群集である。これではデパートメントへ入るのも一と仕事、以後再び入るべからずと嘆息せしめる。矢張り間に合せから起る矛盾だ。

デパートメントもさうであるが、殊に汽車、電車、自働車などいふものは、奥の樣や北の方の住み給ふ國に持つて來るべきではなかつたのだ。皆、袖の短い活動に便利な洋服といふものを着て、靴といふ足にぴつたり合つた履物をはいて、土足の儘で十階の上へでも昇れる國民が發明して、男も女も老人も子供も區別なく、勝手に自由にこれを利用し享樂し得る國民の間に使ふたものを、僭越千萬にも、life も love も respect もない國に持つて來ても、最初からその結果や思ひやられたではないか。間に合せの社會を、現に破壞しつゝあるものは、過激派でも社會主義でもなくて、此の電車や自働車である、それにしても日本人は實に不思議な國民である。何が面白く、此の不便な不利な、おまけに危險な乘物に、輕業師が綱渡りをするやうに二本齒の板の履物で乘降しなくてはならぬだらうか、こんな木曾の棧橋を渡るよりも遥にむづかしい藝當をするよりは某子爵のやうに鳩豆でもかじつて、てく／＼歩いて居た方が安全で且つ早く目的地へ達せられるかも知れない。

先づ、日本人は、御自分では文明の利器を盛に用ひて、西洋にあるだけのものが何一つないものはないと思つて鼻をうごめかしてござるが、實はそれ等は博覽會場や共進會場に、種々雜多なものが持つて來てならべてあるやうなもので、その間に何等の有機的の整理も設備も行はれてゐないのだ。電車や自働車を通はせようとしても完全な道路がない、洋服を着て活動しようと思つても、それに伴ふ西洋室がない、洋食を常食にしようとしても、うまいパン屋がない。たゞ間に合せの物が雜多に押し合ひへし合ひして、あつちでもこつちでも鉢合せ、矛盾、衝突、その結果は破壞である。博覽會の陳列品は幸にして動いて居ない、使はれてゐないで、日本では陳列品が皆走つて居る、動いてゐる人間の生活に應用されてゐるからたまつたものでない。まあ斯んな國に生活してゐるには、毎日死ぬる覺悟で居なくてはならぬ。宜なる哉新東京の名所には、親知らず子知らず

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だの、三途の川だのといふ物凄い名稱が多いことも。

間に合せ物と云へば、お互に腹が立つほど苦い經驗を嘗めてゐる。Made in Japan はもう、世界到るところで、粗製濫造の、間に合せ物と相場が決まつた程の名譽を擔つて居るが、その不都合を感ずるのは、啻に西洋人ばかりでなく、日本人自身でも可なりに切實である。ナイフを一挺買ふ、體裁は一寸ごまかしてあるが、鉛筆も削れない、日記を一冊買ふ、到底半年と持てない。シャツは忽ちボタンが取れる、齒磨ブラシは毛が拔ける、牛の罐詰は脂肪許りで、砂糖の中からは蛆が出る。セルロイドの玩具は子供に持たせることが極めて危險で、家具類は使はぬ先からがたくしてゐる。實に何といふ徹底した間に合せの國民であらうか。

日本人は一體、順序を立てゝ根柢から物を仕上げるといふことが出來ないのであらうか。凡てのことが間に合せになるといふのも、順序と基礎とを知らぬからであらう。市街を造り、家屋を建てるにしても、西洋だと先づ上水道と下水道とを一番初めに完成する。それからその上へ、適當な區劃を造つて、相應した幅の、しつかりした道路を通ずる。そして後、道の兩側へ家屋を建築するのである。然るに日本ではさうではない。先づ野つ原へ家を建てる。お茶屋か曖昧屋か荒物屋かゞ出來るのだ。それから、不規律に、銘々勝手に家を建て並べるのだ。而して後、道路らしいものを通じるので、下水や上水などは勿論考案の中にありさうにもない。東京市でも大阪市でも皆斯うして出來たのだ。然るに人口が非常に膨張して來る、衞生上のことが問題になり出す、交通も頻繁になる、電車だの自働車だのといふ化物もやつて來れば、空を摩す大建築も起る。さあ事だ！道路を取り擴げる、石を敷く、今度はその石を又掘りかへして、電線などの地中埋設物をやる、すると上水だ下水だと、一つ處を數回となく掘りかへして、その度毎に道路が根柢からぐらつく。ところがさうなつて來ると、折角道路をやり直しても、又どんなことで根柢からやり直さなくてはならぬか解らないといふので、容易に手を出さない、益々以て間に合せといふことになる。斯うして明治大正に五十年も過ぎたのに、東京にも大阪にも道路らしい道路もないのである。況んや上下水の完全なる設備をや。やつと近頃になつて、建築物條例だとか、道路法だとかいふことが問題になつたではないか。

それにしても、日本人が道路の惡い爲めに損をしてゐることは夥しいものである。交通の率は減る、活動力は鈍らせられる。私自身でもしみく感じてゐる。米國のヴングリツプ氏は、東京の道路には稻を植ゑたらよからうと云つたさうな。又或る

外人は、立派な洋館へ入る時に、わざ〳〵靴をぬいだので、その儘でよいと言ふと、いや日本は道路が悪いからと答へた、眞面目なのか、皮肉なのか、兎に角恐縮の至りだ、私の如きも、雨が降つて來ると大抵の約束 いやになつて、つい外出を見合せて仕舞ふ。日本で約束違反の非常に多いこと、殊に時間遲刻は當然になつてゐることの責任は、此の道路の悪いことにたしかにある。又、園遊會の招待狀に、雨天順延と書くやう ことは外國には決して見ないのであつて、外國では雨が降つて來たからとて豫定のプログラム通り平氣でどし〳〵やつて行く。然るに日本では道路が悪い爲めにさうは出來ない。たま〳〵雨の結婚式とか野外の集合とかに臨んで見ると、そのみじめさと云つたらあつたものでない。それは雨に祟られる爲めでもあるが、雨の國なら國らしく道路などの設備が十分に出來て居れば何ともない筈である。

又道路の兩側の商店が、道路から蒙むる害も少くはない。雨が降れば、はねで汚される、天氣がよければ風が塵を上げて器物を埃だらけにする。東京の如き、雨の日の慘憺たる道路の有様は云ふまでもないが、風の吹き曝す日の慘狀も沙漠と選ばない。黄塵萬丈の文字通りに、沙塵の幕を張つたやうで、眼を上げて一寸先を見ることは愚か、礫のやうなものが、さら〳〵と顔を打つ、帽子は吹き飛ばされる、婦人は洋傘を折られる、例の不完全な衣服だから兩膝を引きまくられる、進退兩難に窮した妙齢の美女などの有様は、よその見る眼もあはれである。しかも我々は止むを得ず、此の風と闘ひ、雨と闘ひ、且つ有毒の黴菌の充滿してゐる塵を口からも鼻からもいやといふ程吸ひ込みながら、往來せなくてはならないのだ。それにしても、都會生活といふものは、何といふいやなものであるか。

思ふに、斯ういふ往來を所有する都會は、支那あたりは別として、廣い世界にも先づあるまい。殊に巴里とか伯林とか、西洋の大都會にては道路は都會生活者の愉安の場所で、公園よりも寧ろ道路を自由に散歩することに依つて、彼等の快樂の大部分を得るのである。勿論、頭上に張り渡した電線の網の脅威もなければ、街頭に並列した電柱の警戒もない。すらりと敷き固めた歩道を掩つて、並樹の緑葉は日を遮り、雨を防ぎ、風をゆるめてくれるのみならず、一望の美觀を添へるのである。その上、雨が降れば大通りの兩側からは雨よけの掩ひ物を空に張る。車道には絶えず自働車、電車が走つて居るけれども、恰かも舟の水を滑るが如く、音もなければ響もない、道行く人も、肩と肩とを常に擦り合つて、日本で想像も出來ない程の雜閙であれど、喧騒亂雜を極めた光景は何處にもない。皆 refine さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れた顔をして、refine された衣服を着、refine された表情をし、refine された言葉を交はして、飾り窓を眺めたり、新奇の品に眼を輝かせたりしてゐる。東京の人のやうに、車に追はれ、警笛に叱られ、しかも殺風景な巷を、がつ〳〵して飢えた痩せ犬のやうに、苦しげな、見すぼらしい顔をして、知るも知らぬもたゞとぼ〳〵と歩いて居るのと較べれば、地獄と極楽との相違と云つてよい。これでは都會生活ではなくて都會苦である。その爲め日本の人達の氣分にゆとりがなく、美がなく、love がなく、たゞせか〳〵と、きよと〳〵してゐることも少なくはあるまい。あゝ呪はれた市街と、つひ云ひたくなるのだ。

最後に、日本の市街の臭くてきたないことだ。西洋の何處の通りを歩いて居ても、日本ほど臭いところはない。殊に食べ物の臭ひが、恰かもこれが日本人の特別の嗜好であることを誇るかのやうに高く鼻を搏つ。例へば日本橋に立ち銀座に立つて見給へ。天麩羅、鰻、蕎麥、更には鰹魚、佃煮、汁の臭ひが、何處からともなく紛然として襲ひ來るに驚かぬ者はあるまい。それから、東京の通りには、盛に紙屑が落ちて居る。人氣の比較的乏しい午過ぎの町には、風のまに〳〵踊り廻つてゐる紙屑が、眼に見えぬ傀儡師の指につれて、如何に面白く、自由に、くる〳〵くると、或は地を離れてつむじを捲き、或は地をすくつて彼方へと這ふ有様の面白さ。すると、其處へは絶えず紙屑拾ひがやつて來て、その面白の一つ〳〵を背中の籠へ入れて行く。

もう一つ驚くべきは、東京中を練り歩くあの堂々たる肥料車の行列である。さらでも、小石川の砲兵工廠前、芝の赤羽橋邊を電車にて通過するさへ、紛々として鼻を掩ふの遑なからしめる汚穢臭になやまされるのだが、殊に場末の街路に立つては、糞尿桶の車の行列を通行せしめる爲めに設けられたかと思ふばかり。每日引つ切りなしに、ぞろ〳〵と連續せる行列に際會したが最期、何處まで行つても、此の數個聯隊に亘れる隊列から脱れる譯に行かない。これ東京の一名物にして、以て世界都會誌に一大汚點を印するものである。さるにても厄介千萬なるは都會人の排泄物の始末である。斯る大仕掛の行列や、船に依つて運ばれたる汚物は、更に一層の醱酵を經て近郊の耕作地に撒き散らされるのである。されば近頃唱導される郊外生活なるものは、日本に於いては決して理想的の生活ではなくして、都會人の排泄物の中で生活するも同じである。近郊の住民は、朝に夕にこれ等の紛々たる臭ひを嗅ぎ、あの黄金色を浴びながら暮さなくてはならない。加之、これ等の汚物の中には、腸窒扶斯菌その他の恐るべき傳染病菌を含んでゐて、或は河川に流れ込み、或は飲料水に混じて近郊生活者の恐怖の種であるばかりか、野

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

菜に附着して再び都會人の口に入り危險此の上もない。腸窒扶斯や赤痢は東洋病である。

私は嘗て某外人に、東京近郊の景色は何うか？と訊ねると、彼れ即座に苦笑して答ふらく「臭い、いゝ景色だ」と。まことに頷ち得たる言葉である。氣の毒なる日本人よ、おん身等は都會の享樂を所有せず、近郊の享樂を所有しない。嗚呼止んぬる哉、これより何處に行くべきであらうか。

地震、雷、火事、水、親爺

日本人の生活が間に合せであることには、色々の原因もあらうが、日本の國情、殊に地理とか風土とかの關係も非常に多いやうだ。即ち周圍の自然現象の關係からして、根柢のある落ち着いた生活が出來ないのかも知れない。早い話が家屋である。木材のみで家を造つてゐるところも日本の外には先づあるまいが、それは單に日本には木材が多くて、石や金屬が少いからといふ譯からではない、成る程日本は山國だから、材木は多からうが、スカンヂナビヤの半島や、米國は日本より一層多からうが、木材の家屋は割合に少いのだ。又石材の如きは、日本は豐富な國であるが、石造の家屋は昔から日本にはない。石の利用は僅に豆腐屋の挽臼と石垣位のものである。これは畢竟、日本人に家屋を永久的に營む考がないからである。といふよりも、周圍の事情が永久に營ましめないので、止むを得ずお雛、棺桶のやうなものを生木で造つて滿足して住んで居るのだ。それは、日本は島國だから非常に濕氣が多い。よく雨が降る上に、畠にも水を張つて水田にしなくてはならぬ程に本來の土地がじめじめである。冬期を除いては空氣が非常に濕つて居る。そんな所へ石や鋼の家を造ることは、進歩した煖房裝置や通氣採光法の助けを借りなくてはならぬが、其處まで科學的に進歩しなかつた日本では、餘儀なく木の柱、紙の戸の家に住んで、自然の氣溫や濕度と調節を保つ外はなかつた。が、それと共に日本人が永久的建築を行はなかつた他の重大な理由は地震である。「地震、雷、風水、火事、親爺」といふ、實にあの諺は面白いもので、日本人の生活脅威者を最もよく示してゐる。中にも日本は火山國であると同時に地震國であつて、古來大地震の記錄の多いこと、日本は伊太利と共に世界の覇者である。我々の一寸びつくりするやうな地震は一年に必ず數十回あり、大學の地震計では一年數百回を感ずる。それ淺間が破裂した、それ南洋の島が沈んだといふ度毎に我々は地震から脅かされる。そして十年に一度位は必らず大地震の洗禮を受けて、一地方がひつくりかへるといふ大騷動に際會する。私の記憶してからでも、濃尾の大

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

地震、三陸の大海嘯、淺間の數度の噴火、磐梯山の破裂、櫻島の大噴火、殆ど數へるに遑がない、その度に數百千の生靈を失ひ、住宅は亡ぶるのである。こんな國で、永久的な家屋を建てることは到底出來ない、先づ〳〵石や鐵をこつ〳〵積み上げるよりも、木に紙で間に合せて置けばよい。これが慣ひになつて、今の日本の萬事が一時的の間に合せの、落ち着きのない情態にあるのだ。

しかもこれを助けるものは火事である。殊に大都會と火事とは附き物で、昔の江戸では火事を以て花とさへ云つてゐた。名物どころではない、年々火事の花が咲かなくてはお江戸は繁昌しないとさへ云はれたのだ。それには建築が木材だからでもあらうが、またこんなに屢々火事のあるところでは、木材の假普請よりも出來なかつたのである。又木材の建築なればこそ、比較的地震の災害が少なかつたので、若し石や[illegible]の堅固な建築に、安政の大地震のやうなのがやつて來たならば、その災禍のおそるべきや、以て知るべき[illegible]ある。兎に角斯うして木で家を造り、紙で戸を張つて住んでゐた國民であるから 彼等の間に根強い、落ち着きのある、どつしりとした生活の根柢のなかつたことも亦止むを得ない、と云つてよい。

我々の生活に不安を與へるものは、地震と火事だけではない、雷がある、風がある、水がある、これ等も亦、國民生活を不安定ならしめる有力なものだ。雷の多いことも恐らく世界で有數であらう。希臘では神話に雷が盛に出るから、多いかも知れないが、先づ歐羅巴では和蘭に少しある位のもので、倫敦や巴里には殆どない。それが日本へ歸つて來ると、ある〳〵盛なものである。あの巴里で私も經驗したツエッペリンの空中襲撃のやうなもつと猛烈な霹靂火が紫電を放射して、轟々とやつて來る時には、子供ならでもびつくり仰天どころか畏縮してしまふ。外國人なら、それこそ魂消果てるであらう。その上に、これも人命を損ふ、家を燒く、たまつたものではない、とても落ち着いてなど居られさうにもない。が、更に猛烈なのは風である。日本には二百十日、二十日頃に例の颱風がある。これも亦歐洲へ持つて行つたら何のことか解らないであらうが、我々に取つては大なる脅威である。あの頃の日本人の、心の惱々たること、神經の末端まで尖り果てゝゐること、實にお話にならない。それもその筈で、大風の一過するところ、これには必ず水が伴つて、山を崩し、村を流し、樹を折り、橋を破り、田を荒し、道を損ね、その害の偉大なること、火事や地震以上であつて、年々、我々はこれが爲めに多大の犧牲を拂つてゐる。人畜の傷害、鐵道の不通、電線の切斷、――それよりも問題になるのは、この

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

颶風が一年の農作物を左右することである。二百十日の風の吹き方に依つて、吾々は食糧上の直接の脅威を感ずるのみならず、日本の經濟はこれに依つて何うにでもなるのだ。斯う考へると風と云つても、さう馬鹿にしたものではない。日本人は颶風の神の心持ち次第で、青くも赤くもなるのだ。

要するに、地震、雷、火事、水、おやじ、これは、西洋にはない、日本特有の不安である。menaces である。

日本の住宅

日本の建築物については、すでに繰返し述べたが、住宅なるものに關して、もう少し徹底的に批評を試みたい。前にも云ふやうに、日本人の住居といふものは、あれは西洋の家屋に住み馴れた者には、少しも家屋らしい特別なビルディングの感じはしないで、たゞ野つ原の連續を、僅に薄い紙一重で仕切つたやうなものゝ氣がする。西洋の片田舍の、百姓屋の物置き小屋と大した違つた感じはしないのである。否これにも及ぶまい。寒ければ寒いで、朔風が遠慮なく吹き込むし、暑ければ暑いで、烈日が燒きつけるやうに射し入る。まるで露天も同じである。その上に、雨が降れば疊がじめ〳〵する、風が強ければ、めきめきと家鳴り震動をやらかす。まるで化物屋敷にでも居るやうなもので、枕を高くしても低くして安眠することも、落附いて仕事をすることも出來たものではない。無闇にこせ〳〵して、しまりがなくて、不快此の上もない。十年も外國の半永久的ながつしりした、城廓のやうな家に住んで居つて、日本の土地へ歸つて來て、茶趣味か俳趣味か知らないが、此の紙細工の家に居ると、いつ何んな時暴漢の侵入をうけぬとも限らぬ、借金取りさへも追ひ返すに困難である、たしかに三日もすれば神經衰弱になつて仕舞ひさうである。

先づ第一、疊の上に座るといふことである。疊の上で座臥を擧げて、疊の上で大きくなつて、疊の上で二十四時間の大部分を過して來た從來の日本人に取つては、第三者の位置になつてこれを批評する眼などは勿論なからうが、考へ様に依ると、日本家屋の疊位、非文明的なものはない。先づ疊といふものは、一年に一度か二度の大掃除、煤掃の外には、これを清潔にする機會は餘りない。これを取り替へることも、一年か二年に一度位なものである。それも近頃は經濟的になつて、裏返しといふことを行ふ。埃にまみれて裏になつて隱れたところが、今度は表面へ出る。市區改正の爲めに大通りの商店が取り拂はれて、裏長屋の醜態が表通りになつたやうなものである、何よりもこんな不衞生なことはあつたものでない。理想的な消毒法でも施

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

したなら、それでも文句はあるまいが、奢式な頭の髪屋の手で、表替へをやられた日には、その不潔さや知れたものである、でなくとも、畳といふものは、實に穢い性質のものである。垢まみれのあかぎれ足や、ほこりだらけの足袋で勝手に踏むばかりか、時にはいろんな液體もこぼれることがあらうし、その他何が附着してゐるか知れやしない。しかも大抵のしみつたれた家では、一ケ月に一度も畳に雑巾がけなどをするものはない。しみやら、ごみやらで汚れ放題である。しかも日本人はその上へ直接に平氣で座るのだ。成る程座布團といふものもあるが、あの小ぽけなものを自分の領分として與へられても、やゝともすれば、足や膝が布團の外へ出ようとする。

それに此の、座るといふことが甚だ滑稽千萬なことで、恐らくこれも特殊國の名譽事項の一つであつて、世界中何處へ行つても膝を折つて、――然り七重の膝を八重に折つたりなどして、畏まる國民は先づ見ることが出來なからう。椅子に腰かける習慣の人間でなくても、座ることは餘り樂なものではない。實に窮屈である。伸ばして置くべき筈のものを、わざ／＼折り曲げて、しかも上半身の下に敷く。少くとも十貫目位な重量は、此の折り曲げられた脚部の上に載つかつてゐるのだ。何のことはない、昔の拷問に膝の上に石を抱かせられたと同じやうな苦痛を、吾々は習慣的に毎日やつてゐるのだ。近頃は各方面に自由解放の叫びを聞くが、先づ夫子自身の膝小坊主から解放してやつたらどんなものであらうか。殊に小さい座布團の上へ、ちよこなんと窮屈さうに座つた形といふものは、傍の見る眼も氣の毒なばかりか、餘り感心した恰好のものではない。あの、きちんと膝を揃へて、鹿爪らしく坐つた形では、本當は繪畫にも彫刻にもなるものではないのだ。だから日本でも昔から、きちんと坐つた座像は割合に少い。それでも昔は袴やら袍やらでごまかせたが、それでもゆつたりした落ちついた形體は、胡座か、床几曲彔といつたものに腰を卸した形である。先づ胡座なら、比較的足も拷問から解放されてゐるし、窮屈さうな不自然な外觀を呈しないから、却つて原始的な感じがあつて氣持がよい。日本人の同類(?)か、何うかは知らないが、アイヌ人でも、臺灣の生蕃でも、乃至はフイリツピンあたりの人間でも、大抵は胡座だ、日本人のやうに不自然な坐り方はしてゐない、支那人となると、そこは日本人よりずつと文化的だから、多くは椅子に腰を掛けてゐるのだ。昔の日本人でも、大抵の場合に椅子のやうなものを用ひたものだ。今日ほど退歩はしてゐなかつたのである。

さて、畳の上へ、斯んな窮屈な恰好をして坐る。坐るだけな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

らよいが、疊の敷いてある日本の室は、西洋の室とは全く意味が違つて居るから、居間が應接室でもあれば、客間でもあり、食堂でもあり、同時に寢室でもある。これは至極便利なことで感心すべきであるかも知れぬ。成る程さう思へば、西洋の下層社會でも皆これだから。例へば日本でお客樣に行つて、客間と思つて通されたところへ、食時の時間が來れば、お膳が運ばれる、お酒が出る。やがてそれを撤退されたかと思ふと、床を展べて、さあお休みなさいと來るのも、理想的な簡易生活であつて、一々食堂へ行つたり、寢室へ行つたりする西洋式よりも便利であらう。だが、今まで客間と思つたところへ、すき燒鍋のこんろが運び込まれたり、お酒や食物の雫が疊の上へ飛んだりするのを目擊すると、坐つてゐるだけに餘りよい心持ちのものではない。況んやだ。やがてそこが寢室に化するに至つては、いよいよ以つてあきれざるを得ない。疊の上にすわる、そこへ膝より低いお膳が出る。食物がこぼれる、今度は疊の上へ直接に布團を敷いて寢る、こゝまで來ると、野蠻人と日本人との區別も分らないやうな氣もするのだ。

住宅攻擊が何うやら疊と胡座問題に停留してしまつたが、第一日本の家屋は、人などの泊まれるやうに出來ては居ないのである。例へば招かれて一夜を泊めて貰ふことになると、今申す通り、食事をして居たあとで、例の不良性の齲齒を揚子の尖でほじくりながら、主客歡談といふところで、ほろ醉ひ機嫌位で大に興じて居るのを、一方で箒を打ち振つて盛に掃除を始める。折角の歡も興も盡きて、這々の體で便所へでも一寸失敬してゐると、何うか斯うか室の埃も收まりかけたやうだから、もとの室に入つて見ると、ちやんと舞臺が廻つて寢床となつてゐる。勿論、寢臺などはない、今まで坐つて居た疊の上に直接の床である。疊敷は、ご存じの通り硬いものである。スプリングは勿論ない。それへ綿の入つた、一枚か二枚かの布團が敷いてある。それから夜着といふ、胸部から咽喉部を馬鹿に壓迫するやうに出來た重い寢具をかけるやうな仕掛けである。宇都宮の吊天井が落ちたやうな重いものである。いやに壓迫氣分が多い。それで居て、案外に暖かみは少い。背筋の方が痛かつたり、兩肩がぞく〳〵と寒かつたりして、甚だ當惑する。さて、床にもぐり込むにはもぐり込んだが、容易に寢つかれない。あたりのことが色々と氣になり出す。緣側の方は、一重の紙障子があるだけで、それには鍵もなければ、しんばりもない。それから隣室との境界も、一枚の襖である。そこからは、何となく、人のひそ〳〵話も聞えて來るやうな氣がする。自分に寢るべく宛てがはれた此の室の中で、すべて周圍に安心して、ゆつくりと寢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

られさうにも思はれない。――西洋式なら先づベツドである。スプリングのついた心持のよい布團の上で、輕くて暖かいフウワリした毛布を幾枚かかけて、氣持ちよく眠ることが出來る。加之、扉をぴしやつとメめて、鍵を下して仕舞へば、此の一室が金城鐵壁であつて、他の物音は勿論、何等の不安なくやすやすと寢息を洩らすことが出來るのだ。――

そんなことを考へれば考へるほど、眼はます／＼冴えて來る。便所へ行きたくなつたから、やをら起き上つて、襖をあけると、こは如何に、隣室には家族の人達が眠つてゐる。けれども、不幸にして此の室を通過しなければ便所へ行く道路が他にない。赤ん坊でも踏みつぶしたら大變と思ひながら寢込みを尖敬して往復しなければならぬことになる。日本人は馴れてゐるから平氣か知らぬが、お互に餘りに不快なことではあるまいか。

まあ兎に角こんな風で、おつ／＼寢られもしない中に夜があける。眼が覺めてから氣づくと、何となく肩の方がすう／＼して、頭痛がする、鼻も詰まる、てつきりこれは風邪である。――何時ぞや、お醫者の話によると、日本の兒童の涕を垂らしてゐるのは、日本の夜具が惡いからである。矢鱈に咽喉部を壓迫するのみならず、肩から頸の方は常に露出同様になつてゐるから、直ぐ感冒をやる、そして咽喉から鼻を惡くして、涕つ垂らしになるのださうだが、まつたくこれなら風邪をひくのが當り前で、ひかない方が何うかしてゐるのだ、それに睡眠不足と來てゐる。病氣を作るために、一夜を泊まり込んだ結果になるが、固より泊めてくれた主人公は親切からで、さういふ文句を並べられた義理ではあるまいが、事實は全く斯くの通りに相違ない。

さて、眼が覺めてから起きようと思ふが、まだ隣室の人達も、靜まり返つて寢てゐる様子だし、お客様が眞先にのこ／＼起き出すのも異なものと差控へて、床の中で眼をぱちくりさせてゐる。それにしても、三十分、一時間と、睡くもないのに、窮屈な日本床の中にじつと我慢してゐるのは、なか／＼つらいものである。ふと頭を上げて見ると、戸の節穴からは、眞晝のやうな白日の光線が障子の上に幻燈を倒にした様な景色がうつつてゐる。何處やらでごそ／＼と人の起きた物音がするから、もうよい時分だらうと思つて、こつそり床を拔け出で、次の間へ出て見ると、豈圖らんや、家人達は疾つくの昔に起きて了つて食事の用意などはすつかり出來て、一旦煮えたお汁も冷めようとするのではら／＼してゐる時である。實にとんちんかんなもので、こつちが一時間も前から、起きたいのを我慢してじつと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

してゐると、先方の人達は、二時間も前に起きて待遠しがつてゐる。そんなら遠慮なしに、私をノツクしてくれゝばと思つても、こつちが遠慮して起きなかつた以上に、お客様を尊重して居たのだとは、さて〳〵不便極まる日本人の生活ではある。

やつとのことで洗面所へ案内されて行くと、そこは湯殿の中であつて、一方の浴槽には、昨晩の汚れ湯が、その儘に放置してあつて、ぷんといやな臭ひが鼻に來る。おまけに例の盥の中には、子供のきたない物などを水に浸してある。――いや、さう思つて見ると、お臺所から裏口へかけて、此の家の醜い方面がありつたけさらけ出してある。あの外面だけでも美しさうにした客室や、起すのをさへ遠慮した家族達の心づくしは、皆これで打ち壞した。こつちも見なくてもよいところまで見て不愉快だし、先方も、見せなくてよい物まで見せて餘りよい氣持はしないであらう。何れにしても、洗面所は客室か便所の附近へ取りつけて置くべきだ。

室へ歸ると、今や掃除の眞つ最中。先づあの、百雷が一度に落ちかゝつたやうな騷々しい物音に一驚を喫せざるを得ない。それは雨戸を繰る音だ、囂々然としてその騷々しさと云つたらない。支那の名文家にでも書かせたら、正に文章軌範の一章だ。から〳〵、どろ〳〵と、戸袋へ戸を仕舞ひ込む有様は一としきり我々の度膽を拔かすに充分である。況んやあのはたきと箒とを、大刀小刀のやうに構へ込んで、女中君が襷がけで始める戰爭、それから尻端折つての雜巾三昧と來ては、既に言語道斷だ。――折角のお客様も、二三十分は緣側にぽつねんと立つて、これを見物してゐるより外はないのだ。これがお客を遇する道とは先づ思はれない。

最後に、少し尾籠な話であるが、事實であつて、しかも餘り人が言はぬことであるから附け加へて置く。これも日本の建築の不備から來る一例である。それは便所が近いことである。西洋の便所ならば近くにあつても、或は差支ないかも知れぬが、日本のは例の溜り式になつてゐて、便所の中は常に一種の有機物醱酵場になつてゐる。こゝでは盛にアムモニヤ瓦斯か何かゞ製造されて絕えず、その不快なる臭氣を外部に洩らしてゐる。幸にして便所の外部には植物を植えたり、蹲踞石を置いたりして飾つてあるからよいものゝ、臭い者、身のほど知らずとかで、臭氣だけは用捨なく外へ洩れる。そしてお客の坐つたところに接近してこれがある場合には、勿論風の吹き廻しでぷんと來る。食事の際などに、一寸その方を聯想するやうな臭氣があるとか何とかすると、折角の御馳走も何となく臭いやうな氣持になる。鯛のお吸物も、鮪のお刺身も、いろ〳〵なことを想像

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しながら頂戴しては、一向ありがたくなくなる。若しそこへ便所内でぽちやんと地響きでも聞えたとしたら――。いやもうこれ以上は書くまいが、夏の頃、此の臭氣を嗅ぎ、此の響を聞き、そこへ一匹の蠅でも飛んで來た時には、お話になつたものではない。尚ほ、斯うまで書きたくはないが、あの便所から出て來たあと始末である。日本人の着物は、例の幌式であつて、裾の方はパッと開けつ放しで、しかも可なりの内容がある。あの中へ、便所内の臭氣を籠らした儘で座敷へ坐られると、つまりはふくらんだところへ臭みを十分に入れて、それをお客の前ですつかり放散するのであるから、瓦斯を發射すると同じ效力がある。お客になつてはたまつたものではない。

落ちた序に便所問題を添へて置く。これも住宅に於ける必要な一室である。臺所で注ぎ込んで吳れゝば、便所で後始末をして吳れるのが當然で、決して臭いとか穢いとか言つて閑却すべきことではない。ところで潔癖國民を以て任ずる日本人は、お上品であらせられる爲めか、一向斯んな方面には注意を拂はない、最近になつて、都市の糞尿問題もやつとやかましくなつたが、まだ住宅の便所は依然たるもので、日本住宅に洋式便所を取りつけた例も餘りきかない。臭い〳〵と云つて、我慢してゐる日本人は餘程變ちきりんなものである。これなどは、それこそ一擧手一投足の勞を以て何とでもなることだから、お互に考へて然るべしだ。

それにしても、日本の戸障子、襖は實に厄介なものである。日本家屋の改造中、最も急を要するのは、疊の全廢と、此建具の改造とではあるまいかとさへ思はれる、一體、建具なるものは、建築上の美觀を添へる目的も忘れてならないが、先づ雨露を凌ぎ、風を遮り、寒暑を調節するのと、同時に戸外又は他室との隔離の爲めに設けらるべき筈である。ところで、戸、障子、襖は、果してこれ等の使命を充分に果してゐるであらうか。成る程、前にも申す通り、日本は何から何まで特殊國であつて、濕度が非常に高く、且つ島國的氣候である爲めに、從來の科學的知識の幼稚な時代にあつては、木造の家屋に紙の建具を發明する必要もあつたらうが、障子の不經濟は繰り返して申すに及ばずとして、雨戸と襖の缺點はなか〳〵多い。こゝにはその一部分を述べて見よう。

雨戸の開閉は實に騷々しいものであつて、殊にあれが敷居を軋る悲鳴といふものは、まことにヒステリツクな、人をいらいらさせる音である。しかも戸袋から戸を引き出すことから技巧が入る。車の方向と對角線に、戸を引つ張り出さなくてはならぬのだから、大きな手では戸袋の中へ這入りかねるし、それな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

らとて小女などでは力が不足して數枚、甚しきは數十枚の戸を袋から繰り出すことは容易な仕事ではない。且つそれをがらがらどろ〳〵と軋らせて、曲り角へ來ると、今度はレールの入れ替へをやらなくてはならぬ。これがまた容易な技巧ではない。汽車のポイント・メンでもこれは上手に出來ない仕事である。何しろカーヴがなくて、直線と直線とが正直角にぶつつかつてゐるところへ、板戸を上手に一方のレールから他方のレールへ移すのだから、箸を揮つて、高下駄を履く、輕業の修養を積んで來た日本人以外には到底やれない藝當だ。こんなことを朝と晩とに繰返すのだから、日本家屋では女中君も容易ではないのだ。

　これが西洋であつたら、ぱちん〳〵窓を引いて、鍵をかつて、カーテンを引くだけだから、實に樂なものである。おまけに、西洋建築だと外部から直接襲はれる泥棒の心配などは絶對に要らないと云つてもよい。大抵な窓は、石や煉瓦を積み上げた、相當な高さの上にあつて、外部からは窓へ上るまでが容易でない上に、外部からの危險のある窓へは鐵の棒を通すとか何とかして防いである。それに硝子だから、それを破つて侵入することは鼠賊などには出來ない。然るに日本の家屋は、雨戸といふ板一重で、自由に內部に侵入される。かつてある栓を鋸き切ることも、燒き切ることも、何でもないのだ。少し巧者であれば、敷居下のつくを除いて、雨戸を取り外して這入ることさへ譯はない。——これ以上詳ると、泥棒の手引きをするやうになるが、要するに、日本家屋では外部から侵入することは、大した手數がかゝらないのである。

　それでは內部は何うかといふに、これは外部より一層ひどい。何しろ何處もかしこも、襖といふ紙細工で仕切つてあるのだから、開放自由、自分の室にして自分の室にあらずで、旅館などは、言はゞ共產主義の實行であつて、自分の物も他人の物も、勝手放題お盗みなさいと言はぬばかり。恐らく如何なる大旅館でも、茶室が離れのやうな特別な一室の外は、自分の室に鍵を卸して出入を禁じ得る設備のある客室は一つもないであらう。廊下に接した入口は、する〳〵と音もなく襖が開いたり閉つたりする。隣室とても同樣であつて、お互に隣室の客を尊重する爲めに勝手に開かないといふだけで、隣り同士何時でも開けつ放しにすることが出來るのだ。斯んな室に泊り合せて居つて、盗難に罹らないといふだけが野暮である。旅館に宿したならば、先づ泥棒が侵入するものと思はなくてはならぬ。盗難に罹るのが當然で、罹らぬのは寧ろ不思議である。「人を見たらば泥棒と思へ」といふ格言が、日本にはあるが、成る程、日本人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は皆さう思つて宿泊してゐるのであらう。それなら、時たま金時計や鞄やを持つて行かれたからとて、血眼になつて警察へ厄介をかける必要はないではあるまいか。それとも日本は武陵桃源のやうな國で、泥棒など一人も居ないとすると、前の格言がいさゝか矛盾する。どんなものであらうか。

宿屋の泥棒問題だけではない、吾々に一番不安なのは、こつちの室の樣子が、隣室へ自由に聞え、また隣室の樣子もこつちへ手に取るやうに解る不快である。睦語をしたり、密會したりする男女が、よく芝居などに出て來るが、果してあれで秘密が保たれたであらうか。なるほど、芝居ではまた屢々忍び聞きといふやつをやる。あれが本當なのだ。旅館で隣室のひそ〳〵聲になやんだ客は、恐らく皆御同感であらうが、實にいやなものである。宿屋に泊れば、自分の室だけは、絶對に自分の自由であらねばならぬ。それが大きい聲一つ氣兼ねをしなくてはならないとは、さて〳〵困つた日本ホテルではある。

だが、旅館以外の普通住宅に於いて此の感は一層深い。老人の室も、子供達の室も、若夫婦の室も、皆襖一重の隣合せである。一家族内で、互に事を秘し合ふといふのは考へ物か知らねど、人には皆社會生活と個人的生活とがあつて、他人に知られてはならぬことと、又知つてはならぬことのあるべきが當然である。然るに日本の家屋の構造——襖一重の室であつては、これは不可能である。若夫婦の室の右隣には姑が居る、左隣には小姑が居るといふのでは、豈非なからんと欲して能はざらんやである。解放すべきことを秘密的にし、秘密にすべきことを解放的にする、これが日本式のあべこべ生活とでも稱するのだらうが、これは餘り感心したことゝは思はれない。矢張り扉式にして、鍵を一室に卸すに限る。

斯うした日本の雨戸、襖式では、色々の點で不經濟なことと不便なことも多いが殊に人手を要することが夥しい。それは雨戸の開け閉て位なことではない。何よりも、一家を留守にして、皆で出かけて行くなどは、どうしても出來ないのである。入口に一つ、ぴんと錠を卸して、鍵を持つて出て行けば、何れの方面からも侵入される患ひはないといふわけにまゐらない。表口があれば裏口もある。高塀を越えれば座敷へは何れからでも入り込むことが出來る。實に危險千萬である。それ故、一夜泊りで溫泉へでも行くなどは固より、一寸三越へ買ひ物に行くにでも、誰れか留守居を殘さなくてはならぬ。玆に於いて日本の家庭では女中といふものが、必要以上に必要なのだ。最も近頃派出婦とか云ふて一日だけの留守居する職業もある。申すまでもなく、西洋では、普通の中流家庭では滅多に女中などは使はな

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い。またそれで用が辨ずるのは、細君にそれだけの働きのあるからだが、何にしても日本では下女でも置かないと留守居から困るのである。

それだけではなく、日本の家屋は始終人手を借りなければ住まへなく出來てゐる。例へば朝起きれば、例の技巧を要する戸を、大仕掛けに開けねばならぬ。それから掃除といふ厄介ものがある。西洋では、床を掃く、時たま窓拭きをやる位なもので、何しろ平素は閉めてあるし、埃の侵入する場所も少なければ、また、日本ほど埃の立たない爲めもあるが、臺所で煮燒きをして、火事のやうな火を三度三度焚くとか、火鉢に火を起して灰や煙を立てるとか、色々な機會で埃を製造するやうなこともないから、掃除は極めて簡單なものである。日本ではさうは行かない。疊といふやつが、何しろ中身は全部藁であつて、それも甚しきは數十年を經たもので、お祖父さんの代に新調したといふものさへある。その上へ、藺で編んだ、藁と同族の上被ひを取りつけてある。それが一面に敷きつめてある上に、おまけに坐ると來てゐる。その又御本人達の衣服は、植物性のもので、幾枚も重ねて、ぞろ〱と裾を引き摺つてゐる。それ等が摩擦し合つて、お互に埃の製造工場のやうな仕事をしてゐるのだ。住んでゐる人達は一擧一動に埃を生產する職工のやうなものだ。そこへ今度は夜具といふものがある。これも無論内部は綿で、上層の極めて薄い部分だけが布で包んであるのだから、それをばつ〱と敷いたり疊んだりすることに依つて、恰かも綿打工場の仕事と同じ仕事をする。これだけでも可なり埃の製造能率は高まるところへ、各室ぶつ通し、襖一枚の仕切りと來てゐるから、子供達は右往左往に飛び廻る、戶外からは、遠慮なく塵埃が風のまに〱吹き入るし、實に家の中は、ごみ棄て場と選ばない有樣である。

さあ、斯うして製造された塵埃を掃き出すのだから容易なことではない。一度位掃いたつて、なか〱隅々のごみがなくなる道理はない。そこへ外から風でも吹き込めば、何度掃いても同樣である。

ごみ掃きに先立つてまだ二つの手數がかゝるのだ。それは布團を疊むのと、はたきをかけると。寒い頃であると、少くとも一人について五六枚の夜具やら寢着やらを始末せねばならぬ。西洋室では、數枚の毛布を疊んで片附ける位な手數でよいが、あの重い布團を幾組も幾組も、埃を振つて疊んで、それを遠いところにある夜具部屋や押入れまで運ぶとは、これも女中君としては並大抵ではあるまい。次にははたきをかけはじめると、幸に洋間にはその必要がないが、明り障子といふものが、可なり澤山にあ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ろものだ。障子の細かい桟を一々はたいて行く、時には書院の小窓へ入り込んだり、踏臺に上つて欄間の障子も拂ふともあるだらう。これも西洋の窓の數は知れたもので、おまけに硝子扉の桟は大目である。日本のはたきをかけたり、疊を掃いたりする朝の光景を西洋婦人に見せたら呆れて眼をまはすであらう。

まづやつと、拂つて掃くことが終ると、次には雜巾がけ。こいつがまた容易ではない。これも西洋建築であると、壁や柱や敷居鴨居も塗つてあるし、板の間で居るところは殆どないのだから、女中君が手を赤く膨らしながら、バケツの冷たい水でごし〳〵やる苦痛を見なくてもよいのだ。然るに日本の建築では、白木を尊ぶと云つて、何から何まで木地の儘である。しかも板敷や廊下や緣側へは、埃が常にたまると來るから、拭すには置かれない。毎日毎日、甚しきは一日に三度位、はたいて掃いて、拭かねばならぬとは、何たる小面倒臭い建築であらうか。その上に一つの室が朝食の室になつて、次には應接間となり、お客が歸れば居間となり、或は子供の遊び場となり、やがて晝夜の食堂とも化して、最後には再び寢室となるまで、實に芝居の舞臺面よりも變化に富んでゐる。その室、若し心あらば、オヴー・ウオークの爲めに、身心消耗者になつて仕舞ひさうだが、同時にまたそこに女中の要る譯でもある。

その上に、昔の日本人の考へた住宅のやり方は、我々の考と餘程違つて居るので、一つの室をいろんな芝居の舞臺に使用するかと思へば、臺所と飯を食ふところとわざ〳〵離して置いてその間の長い道中をお大名の行列のやうにしてお膳を運んだりする。臺所の直ぐ隣へ食堂を取りつけて置いて、主人公も細君も、老人も此處まで出て來て會食すれば何でもないものを、わざ〳〵遠いところを別の室へ運ばせる。甚しきは主人夫婦は奥の室で別に食べる。他の一族は何處か遠方の隅つこの方で別々のお食事といふ、飛んだところで個人主義を發揮した家庭すらある。かと思ふと、平生はあんまり用のない、無趣味なだゞ廣い室を取つて置いて、いつも戸を閉めきりにして疊に黴を生やしてゐるといふやり方もある。一年に一二度の大勢のお客の場合より使ふ機會はないものを、無闇と廣く取つて腐朽させて置いて、その癖自分達は、一つの室で數幕の芝居を演じつつあるのは滑稽も甚しきの至りである。こんな次第だから、たつた三人の住む爲めに、十數人の下女や下男の手を要するやうな場合も生ずるのだ。しかもその下女下男達は、斯うした無駄な建築の犠牲になつて、無駄骨を折らせられるとは、經濟的に見ても、勿體ないことではあるまいか。

附け加へて置くが、女中はなるべく使はないがよい。病人そ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の他止むを得ない事故の爲めに、備ひ入れなければ働いて吳れ手のない場合以外は、自分の家に他人分子を入るのは、不快でしかも、危險であつて、衛生上にも餘りよくない。勿論、見ず知らずの他人である。夫婦などゝは違つて、家族と何等の交渉のない人が、賃金の爲めに他人の家で働くのだから、溫情などを求める方が間違つてゐる。さういふ人が家庭にあることは、何かにつけて波瀾と不快との素である。その上、一般的に言つて女中などをする人には修養が足りないから、衛生等も行きとゞかない。主人達がいくら衛生に注意しても、肝腎な食物等に女中の注意が足りなければ駄目である。殊に傳染病の危險等は女中の爲めに非常に多い。女中が感染して來る、或は媒介となると云つた機會はなかく多いもので、その他、女中に對する氣兼ね等もあつて、女中を置くことは餘り愉快なものではない。それを何だか日本の婦人達は、やゝもすると、女中を使ふことを一種の名譽と心得て、何とか彼とか文句を並べては女中を置かうとする。西洋風から言へば、これは却つて笑ふべきであつて、三人や五人の一家族を支へるのに、女中の必要があるのは餘程何うかしてゐるのである。細君の働きが足りないか、或は家屋の構造に缺點があるかするのだ。少くとも、上述の如く、日本の家屋には、女中を置かなくてはならぬ必要があるやうに思はれる。

日本人の食物

次には日本人の食物である。日本人は豐葦原の瑞穗の國とか言つて、お米を常食とすることを以て特殊國民の誇りとしてゐるが、こいつもまた考物ではあるまいか。私から見ると、住宅や衣服以上に、日本人の食物は貧弱である。日本人がお互に、こんな小ちぽけな薄弱な體格をしてゐるのは、餘り威張れた次第ではなくて、ちびのやうなチャップが、毛唐の中に交つてゐると、實に可憐な悲慘な感じを起させられる。その貧弱な體格は何處から來るかといふに、皆食物から來るやうに思はれる。一體、日本人は食物について割合に無頓着な國民であるのみならず、島國根性的な瘠我慢から來るのか、それとも元來の食糧不足に基くのか知らないが、粗食に甘んじる習慣を習ひ、これを以て豪傑ぶつたり、「武士は食はねど高楊子」などゝ自慢をして居たものである。如何に神聖的な日本武士だからとて、食はずして豪傑らしく構へて居たところで、最後には瘠せてへとへとになつて了ふではないか。

然るに斯うした誤れる食物觀念は、今でも日本人の頭を支配して居るのは困つたものである、デモクラシーや文化生活の思

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

根を一生懸命になつて鼓吹してゐる人達でも、一番大切な食物のことになるとけろりと忘れてゐる。握り飯に鹽で腹を拵へて、デモクラシー運動をやつたところで、結局何うならう。健全な精神は健全な軀體に宿るのは固よりで、どんなスーパー・ドレッドノートを造つたからとて、燃料を盛に供給しなかつたら、一寸も動かすことは出來ないのと同じ理窟である。食物もい、ろくなものを與へないで置いて、日本人に豪くなれ、豪くなれとけしかけたところが、それは矛盾した話である。

諸君は、日本人が如何なる粗食をして來てゐるかについて、諸君自身の三度の食膳を顧みられたら御解りだらうと思ふ。果して諸君の食膳には、諸君が日々の活動に要するエネルギーの消散を充たすだけのカロリーが供給されて居るであらうか。昔の禪宗坊さんは、澤庵や青菜を副食物として百歳の齢を保つたとか、大豆をかじつたり豆腐の糟を食べたりして大學者になつたとか、粗食主義者は直ぐさういふ例を引つ張つて來るが、それ等は固より例外であると共に、禪坊主や寺小屋の先生なら、それでカロリーの必要量を滿たすに足りたであらう。しかし、今日諸君が、偉大なる文學美術を生み出したり議會に立つて大聲叱呼したり、事務室で非常に忙しい仕事をやつたりするに當つて、豆腐の糟や澤庵で耐へ得られる道理はあるまいではないか。少くとも私自身には、澤庵や青菜は愚か、普通の日本食を以ては到底胃の腑の要求を充たすことが出來ないのだ。つまり現代的精神を發揮して、現代的活動を續ける原動力とする譯には行かないのだ。

玆に於いて日本食の研究になるが、日本食には何が一番多いかといふと、植物性纖維素である。勿論これには全然營養價値はないのだ。だから排泄物は非常に多い。西洋人の三、四倍も大便として放出するのだ。それから無闇矢鱈に鹽ばかり鹹くて、蛋白とか脂肪とかは極めて少い。つまり營養素のカロリーは量の割合から見て極めて少い譯になる。斯んなことは今更專門外の私が言ふべきことではないが、假に朝飯から批評して行くと、朝は大抵の家庭で飯に味噌汁、それに香の物、或は海苔か佃煮か煮豆といふやうなものが、ほんの申譯ばかりに附くのだ。打ち見たところ、味噌に若干の植物性蛋白質がある外、脂肪分を含んだものなどは全くないやうだ。そこへ行くと西洋では、普通にパンとバター、それにカッフェー位はどんな貧民社會でも朝飯に供へる。勿論そのパンは、日本の鋸屑を固めたやうなものとは全く異つてゐて、パンその物に蛋白質が充分ある。それに脂肪分の豐富なバターをうんとつける。英國あたりでは、朝からオムレツ・ボイルドポテト、茶にベーコンなどゝ、いろん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

な營養物をうんと詰め込む、最も英國式はあまり共鳴しない日本の朝食とは決して同日に談ずべきではない。晝飯となると、日本は殊に甚しい。普通の家庭ならば、主人公が居ないといふので、昨晩の殘り物か何かで、冷飯をつゝく位なもの、主人公だとて、ぶら下げて來た貧弱な腰辨を開くか、もりかけの二つ位で腹の蟲に間に合せをさせて置くに過ぎまい。西洋でもランチは比較的輕いものであるが、何しろ內容が違つてゐる、冷飯や蕎麥ではない、サンドウイツチとか冷肉とか、相當な營養分を取るのだ。大陸ではスープに大きな鳥や肉位は晝食とする。夕飯は、日本でも割合に奢る。けれどもいくら奢ると言つたところが野菜を主とするから知れたものである。たまに肉類を食べても、從來の習慣としては輕い魚類であつて、牛豚肉や鷄肉を食ふなどいふことは、昔の人は夢にも知らなかつたし、今だとて極めて限られた範圍と限られた量とに過ぎないのだ。斯ういふ次第だから、依然として菜食主義であるばかりか、淡泊な物の好きな國民性とて、たま〳〵肉食主義を唱へる人があつても、菜食主義者に反對されて、何も米と菜ッ葉を食つて五大國の一つになり得たものが、今更肉食を盛にする必要はないといふやうなことを云ひ出す。これは國粹主義者とデモクラシーの喧嘩のやうなもので、知る人ぞ知るといふ外はないが、少くとも現代の青年には菜つ葉や澤庵を食つて、活動をしろと云はれても首肯は出來ない筈である。

これは單に常食だけの問題ではない。日本の所謂御馳走なるものと、西洋のそれとを比較して見てもわかる。日本で御馳走となると、魚の肉だとか海老だか、或は野菜だとかいふものを、いやに技巧的に取り扱つて、實質の內容を豐富にするとか、カロリーを增加するとかいふやうな方面の料理でなくて、お刺身の切り樣が何うの、お吸物の實の取り合せが何うの、色取りとか形とか、汁の味とかいふやうな、極めて江戸式な馬鹿々々しい遊戲的方面の技巧ばかり凝らして、その實うまくもなければ、營養にもならないといふものを造つて、それで造る方も得意になつて居れば、食べる方も非常な高價を拂つて嬉しがつて居る。宜なる哉、近頃では、有爲の青年の飲食する所は洋食店か牛肉店に變つて、所謂料理屋は義理交際の宴會か、舊式紳士の會食場になつて仕舞つたとは。我々も、たまに日本料理の御馳走になつても、あつ氣なくて馬鹿らしくて、その上眼の玉の飛び出る程な金を拂はせられるので、びつくりするばかりである。尤もこゝに云ふ日本料理とは、現代人が勝手に製造する現代式料理であつて、純粹の日本料理ではない。純粹なものは、その內容も調理法も長い間の歷史に色づけられて發達したもの

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

で、まことに結構である。だがさういふ本式の料理は到底、今時我々の口に入れられることではない。所謂日本料理とは、たゞ火にかけて焼いたり煮たりして、僅にRaw materialを免れてゐるに過ぎないまでの、其處等の海や川や野から集めて來た、極めてお粗末な材料を出鱈目に並べて食べさせるものに過ぎない。それですら此の通りの高價なのだ。それよりも牛肉屋あたりで、うんと肉でも食つた方が、比較的安上りで、しかも營養分が澤山取れるのだ。また日本では、洋食を食ふといふと、常食以外の一種特別なものを食ふやうな氣で居るが、あれではいけない。日本人の常食が大體に於いて洋食化してしまつて、今迄はお米の副食物としてお菜を食つたのが、お菜の副食として飯を少しばかり食ふやうになり、そのお菜も、お菜でなくてお肉になつて、菜食主義から肉食主義にまで變化しなくては、新しい日本は建設されない。何うかすると、まだ若い紳士でさへ、野暮な牛肉は臭くてしやうがない、あつさりした洗ひか何かで一杯やらうといふやうなことを言ふ。我々から見ると、そんなことを云つてゐる者が、野暮の骨頂に思はれるのだ。

日本人は、食物だけでなく、食事その物を非常に虐待する。食事は、生殖作用と同じやうに人生の最も必要な且つ眞面目な仕事であらねばならぬ。その意味で、私は生殖の作用、生殖の氣分、生殖から分化した一切の事象、殊に藝術といふものを極力尊重すると共に、食物、食事、及びそれ等に關することを重大視する者である。その點で私は常に食ふことに夢中になつて居るが、それは當然であらうと思ふ。あの乾からびた道徳主義者を聯想させる支那の孔子様さへ、「色と食とは性なり」とおつしやつた。人間、食はずして何が出來よう、又食事を外にして何のたのしみがあらう。それだのに、日本人は食事に對して實に冷淡でる。のみならず、無闇に他人の前で食ひ物の話でもすると、食ひ意地が張つてゐるとか何とか賤しむ、間違つた話である。だから日本人の食事を見ると、犬ころと大した違ひはない。第一不潔である、殊に衛生思想などゝいふものはてんでない。これでは日本人が名譽ある赤痢だの、腸窒扶斯だの野蠻病を根絶する譯には行かない筈であるとつくづく思ふ。動ともすると日本人はお互に清潔好きだと自慢をするが、それは表面だけのことで、根本的にはさうでない。例へばテーブルクロスなども、昔から日本の食事には使用したものではない。膝より低い、脚の短いお膳の狹い上に、料理が載せ切れないで、半分位は疊の上に直接に並べてある。あのきたない疊の上にだ。それが近頃では稍進歩して、机だかチヤブダイだかの上へ一は

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い並べる様になつた。考へ様によれば、日本人がチャブ台を使用することになつたのは、明かに食事史上の一大進歩である。個人的のお膳が、社會的なチャブ台になつて、それを取り圍んで歡談し團欒するの興味も其處から生ずれば、その爲めに便宜も大へん多くなつた。けれども要するにこれも過渡時代の間に合せに外ならぬ。西洋の眞似であらうが、それにしても矢張り狹い、且つテーブルクロスなどは依然として用ひない。食事の後は、チャブ台の上を雜巾でさつと拭くことに依つて滿足して居る。だからチャブ台は、疊と同じて、きれいのやうで、その實餘りきれいなものではない。子供などはその上に落ちたものをつまんで食べたりなどして居る。又日本ではナプキンもなければフィンガーボールもない。況んや食事の前に手を洗ふなどいふことは考へても見ない。そして食事の順序が亂暴である。最初に出すものも、後から出すものも、習慣的には秩序立つてゐるか知れねど、我々の食慾の順序とは必ずしも一致しない。勿論最後にカッフィー、紅茶、果物、菓子、若くはそれ等の代用品さへも出來ないのだ。私は常にさう思ふ、せめて牛肉店などでも、ナプキンとフィンガーボールとだけは出してほしい、そして果物の一片位はお皿に載せてあつても惡くはあるまいと。

翻つて西洋の食事を思ふ。何よりも食堂の氣分が愉快である。日本には勿論、食堂からがないのだが、きれいな眞白いテーブルクロスをかけた上には、中央に時折の花が飾つてある。そしてそれを取り卷いて、食物皿から立ちのぼる湯氣は、暖かさうな、快よい匂ひを立てゝ、周圍に腰をかけた老若男女の食慾をそゝる。花があることだけでも、我々の心に特別な感じを與へるものである。そこへ、男達が愉快さうな顏をして座を占めると、女達もチャーミングな服附でもつて言葉をかはす。やがて鉛色のナイフとフォークとが動き出す、赤い色、白い色の酒杯が取り上げられる。これだけでも涎が出るほどにうまさうではないか。ましてやバターを惜しまず使つて煮たり燒いたりした肉類が、積極的な樣々の味を以て吾々をよろこばせるのだから、日本の貧弱な食事と同日の談ではない。そして、食べて了へば手を洗ひ口を滌め、果物にお茶位で最後の渇を醫するのである。これも澤庵に番茶の日本式とは兩極端の相違である。

さて、食事後の問題であるが、これも西洋人と日本人とは全く異つて居る。日本人は何うするかと思ふと、夕食を終るが早いか、褞袍などに着替へた身を、直ぐにごろりと横になる。すると間もなく、欠伸の二つ三つもうなりながら、何時間ともなく備の晩酌の醉ひが廻つて、高鼾をかき出す、まことに他愛もないものである。これは米の飯に澤庵のご膳で、日本人に精力がな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い爲めに、一日六時間も働いて家へ歸れば、もう享樂も苦痛もあつたものではない、ぐつすり疲れて寢込むのであらう。だが一體日本人は家庭を何の場所だと思つてゐるのだらうか、たゞ、鳥の塒のやうに、寢る爲めと、生殖慾を滿足させて、子供を製造する場所に過ぎないと思つて居るのであらうか。それなら或はこれでよからうが、西洋人は決してさうは考へない、家庭は一日の激しい勞働や事務を終つて、生命の洗濯をする爲めの、享樂の場所であると思つてゐる。日本人には、享樂といふと待合か料理屋か、乃至は芝居寄席でないと得られぬもの〻やうに考へられるが、西洋人は、享樂の主なる場所は家庭である。されば先づ主人公やその他一同が家庭に揃へば食卓には花などを飾つて、和氣洋々と食事をやる。それが終れば、家族打ち連れ立つて芝居や踊りに出かける場合もあるが、大抵は家族で音樂をやる。又は玉突や骨牌を闘はすのである。姉のピヤノに妹のヴアイオリン、細君も何か持ち出せば、亭主もこれに合唱するといふ風で、一座は忽ち音樂會場と化するのである。玉突や骨牌にしろ、皆家族達が一同で打ち興ずるやうなことをやつて、數時間といふもの、一切を忘れて、それこそ俗塵をすつかり洗ひ落してから、皆落ちついた快よい、深い眠りの安息の床に入るのである。これを日本の亭主が、チヤブ臺の隅で、まづさうにして晩酌の一杯も傾け、その儘臂枕で高鼾といふ殺風景とは比べ物になつたものでない。亭主はそれでもい〻氣嫌になつて寢込むか知れないが、他の家族達は實にみじめなものである。其處に何等の享樂があらうか、家庭の意義があらうか。恐らく亭主にしても、こんな殺風景な夕餉の膳に列んだのでは、鼾でもかいて寢るより外に所在がないのかも知れない。そして翌朝は、また詰らなさうな顏をして、味噌汁で飯をかき込むが早いか洋服に着換へて、煙草一吹喫まずにこつ〳〵とあはれつぽく家を出かけて行く。實にみじめなものである。東京といふ東洋一の大都會にすら、本當の娛樂機關らしい設備すらないと同じやうに、一生の一部分たる一日を、日本人はたゞ苦しみの外に何等の餘裕も何等の樂しみもなく明し暮してゐるのだ。彼等の事務所がドライで苦痛であると同じやうに、彼等の家庭もドライで且つ殺風景である。こんな社會で、こんな家庭で、道德も思想も皆地に墮ちて了ふのも無理からぬ話ではないか。兎に角、日本人は、もつと盛に肉を食はなくてはならぬ、バターを食はなくてはならぬ、バターの匂ひで家庭中を掩はなくては駄目である。バター臭い家庭で、バター臭い子供を生んで、その子供が社會へ出で、社會をバター臭くして仕舞はなくては、新しい日本の運命は開けて來ないのである。これが衞生學や醫學の事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

門家ならぬ私の、食物改造論であつて、同時に家庭改造論の第一歩だ。

日本の家庭

斯うなつて來ると、いよ／＼家庭問題に觸れなくてはならぬ。今までは、衣とか食とか住とかいふ、言はゞ外部的の家のことであつたが、更に進んで家庭の內情にまで突込んで行かう。その時に第一に考へられることは、日本の家庭は、家庭として餘程變てこなものであるといふことである。一體家庭といふと、一方では我々の休息所である、疲れた身心を休ませる場所である。それと共に、家庭は小さい社會である。家庭として團結すべき人達のみが集まつて、自然的に出來た、平和と安寧との下に、福祉を增進すべき一小社會であらねばならぬ、しかもその家庭の平和と幸福との爲めに、何より必要なものは愛(ラブ)と尊重(レスペクト)との本然的な結合に基くといふことである。少くとも西洋の家庭なるものは、さうである。 love と respect とのある夫と妻とが主要なる構成分子となつて、それに彼等の養育すべき義務のある子女と、彼等の家庭の仕事を助力すべき召使とだけで家庭は送られてあるのだ。ところで日本の家庭もさうであるか何うか。先づ日本の夫と妻とが、果して love と respect との結合であるや否や。次には姑とか小姑とかいふものが、家庭の構成に何れだけの必要があるものか？——私はこゝに大きい不自然があると思ふ。

思ふに、日本の家庭ほど、いつもごた／＼があつて、且つ悲劇の多い家庭はあるまいと思ふ。それは勿論西洋だとて、離婚もあれば一家の不和もある。が、しかし彼等は個人的の爭ひや不和をこそすれ、家庭的のごた／＼例へばお家騷動とか、嫁姑の仲たがひとか云ふことは殆ど耳にしない。尤もお家騷動は間違つた家庭的缺陷で、習慣的な家族制度、家長制度等から起るのであるが、直接間接には家庭的のごた／＼の重大なるものである。若しそれ嫁姑、嫁小姑問題の如きは、嫁と姑等とを同居せしめる不自然に基く現象で、西洋には例がない、更に夫妻間の悲劇は皆、 love と respect のない夫婦關係に基づくことは云ふまでもないのである。

元來日本では、男とか女とかいふ性的思想が根本的に違つてゐる。こゝに特筆するが、性的觀念の間違ひは、單に男女、家族、家庭などの問題に止まらずして、あらゆる日本人の生活狀態に大影響を及ぼしてゐるのだ、それは日本人が昔から、性も作用、性の現象を、何うすることも出來ない自然的事象と見ないで、誤れる佛教思想からか儒教思想からか知らないが、表面

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だけにこれを否定して、妙な變てこな思想をお互の頭の中に植ゑつけたことである。要するに日本人は社會的に性の要求を抑壓して來た。解放されて居ない、大びらでない。性慾を以て惡るいことゝいふやうな觀念を養ひ來り、性慾の實現を以て惡いことをこそ〳〵とやるといふやうな、卑屈極まる思想を持つてゐるのだ。勿論、人間には羞恥心といふ、高尚な本能があるから、犬や猫のやうに公々然と性慾作用を行はないのはよいことか知れないが、しかしその爲めに、性の觀念が妙な不自然な捉へられたことになり了つたのは遺憾である。

性慾は强烈なる人生の事實であるのみならず、男女の性的差別に基いて一切の人間感情は起ると誇張してもよい程である。家族間の love 社會的の love 更に には宗教上の love も、皆性的 love を出發點として居るといつてもよい、況んや藝術の如き、この性的 love がなかつたら存在しないのである。實に男女の性的愛がなかつたなら、人生は落寞極まる、荒野原の如きものであらう。男が女を愛し、女が男を愛することに依つて始めて畫龍に睛が點ぜられるのだ。これ莫りせば、固より子孫もない、人類もないのだ、況んや人間だけの事實でなく生物だけの現象でなく、陰陽相ひくは宇宙の原理にして、陰陽相ひくことに依つてのみ生々化育が行はれ、凡てが存在することは、二千年の哲學も、現代の科學も皆認めるところの大原理ではないか。

理屈は抜きにして、兎に角斯うした事實を否定して、日本の道德は男と女とを兩立し難い敵同士か何かの如く取扱ふ。先づ「男女七歲にして席を同うせず」といふ言葉がある。まるで男と女とは別々の種類のやうであつて、馬と牛、猿と犬位の差別があるやうに思ふ。いやそれ以上、近づく可からざる七生以來の敵味方のやうに思ふ。同じ人類であつて、しかも一方を缺くことの出來ない此の better half をば、斯ういふ風に取扱ふのだから、その儘に放任して置けば、互に愛しあふことは勿論、一結婚などをする機會に永久に與へられない。男と女と一緒にならうとするには、昔のやうに腕力に訴へて掠奪結婚でもしない限り、何うすることも出來ない。男の學生が、女の學生と話をしたと云へば、早速退校を命ぜられる、又お孃さんは何處かへ行くに、必らず看守附きであつて、此の頃の社會運動者と同類に扱はれる

それだから、日本には今のところ本當の lover の關係といふものは先づない。lover は皆野合として擯斥せられ、love のない者同士を他動的に勝手にくつ附けて置いて、これを結婚と稱して大神宮樣の前などで披露する。こゝにおいて日本の結

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婚のみは、love に基づかざる結婚となるのだ。親や兄弟や友人といふ、本人の性的 love とは全く交渉のない他人共が、結婚媒介といふお孃さん引つ張り出しの職業者の手に依つて、あつちからとこつちからと、まるで大工が材木を寄せて家でも建てる時のやうにして、一對の若夫婦を造り上げるのだ。何といふ滑稽極まることであらうぞ。自分の妻たる人は、自分の愛した人でなくてはならぬ。又先方も愛して呉れてゐる人でなくてはならぬ。妻の夫に對する場合も、固よりさうであるべきだ。でなくては、結婚といふのは無意味な筈である。愛し合つてゐるから一緒になるのであつて、何も愛し合はないものが一緒になる必要もなければ道理もない。それがたゞ一夜にして、他人に依つて手を握らせられる。何といふ馬鹿らしいことだらう、人格を無視されたことだらう。それも、例へば子供達が、眼かくしをして遊んでゐて、他人から双方の手と手とを握らせられて、名乘りあふといふやうなことなら何でもない。結婚は人生の大事件ではないか。それに依つて家庭といふ社會的の一單位が出來て、且つその間から新しい未來の人類が生れなくてはならぬのだ。それを、love がない、love がなければrespectもない者同士が自己の意志ならずして、他動的に手を握らせられることは大きい侮辱でなくてはならぬ。

斯う考へると、日本人の新家庭は實に妙なものである。今度俺の女房になつたのだが、彼女は一體俺に惚れてゐるであらうか、何う思つて居るであらうか。まあ泥棒でもなささうだから一緒に暮さう。――たゞそれだけで世帶を持つ。勿論お互に見ず知らずの他人であつて、彼女が今まで何んな生活をして來たか、何ういふ心持でこゝへやつて來たか、そんなことの解らう道理はないから、愛情などは露ほどもあつたものでない。それが一つのチヤブ台を圍み合ひ、一つの室内で寢るといふことは、餘程奇妙な狀態にならざるを得ない、たゞ二三ケ月間は夢中であるが、それでも男と女との間柄は妙であつて、何時の程にか夫婦らしい愛情が兩方から湧いて來ることもあるが、中には湧いて來ないこともある。相互の境遇、經歷、趣味性行の違ひから、所謂破鏡の嘆を見ることもあれば、理解のない間の儘で、怏々として樂しまざる一生を送り、つまり結婚の犧牲になるといふ場合もある。しかも斯かる破鏡の嘆、結婚の犧牲は、結婚者相互の知つたことではないのだ、親とか兄弟とかいふ他人が勝手にやつたことなのだ。

　こんな愛のない夫婦の間に子供が生れることは、實に恐ろしいことである。強姦者の子を姙孕すると同じやうに恐ろしいことである。何しろこんな夫婦間に生れた子供に、love の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

精神的遺傳などのあるべき筈がない、高潔な love の精神は、本能であると共に遺傳で色づけられなくてはならない。キリストの love を遺傳した人達の間には先天的にキリストの love が宿つてゐる。love なき結婚者の生んだ子には love がない。これは當然過ぎることだ。そして love のない生活が恐ろしい生活であるならば love なくして生んだ子が恐るべきことも當然過ぎるほど當然であらねばならぬ。斯くして造られる未來の日本國民は何うなるだらうか。要するに人生が love を基調としなくては平和も幸福も、本當の進歩もないものだとしたなら、先づ我々は love のある人間を製造しなくてはならない。love のある人間の製造所を設けなくてはならない。今の夫婦關係は、love のある人間の製造所であるとは何うしても云へない。これは單なる家庭問題ではないのだ。我々は常に我々の周圍を顧みて、love のない人間の多いのに心をくらくするが、それは皆 love-less marriage に基因することを思へば、先づ現在の結婚法を變へることに、お互に努力すべきである。

一體、日本人には love といふのものが昔からなかつたのであらうか。古事記や萬葉集を見ると決してさうではないらしい。古事記の中には大膽に男女間の性的 love が語つてある。萬葉集も其數多い歌の十分の九までは性的 love の率直なる告白だ。其後の歌集もさうである。源氏物語もさうである。日本の主なる文學的傑作は皆さうである。それ等は決して「男女七歳、同席せず」流の love 抑壓主義者ではない。たゞそれ等は、性的 love のみに止まつて、また博大なるキリストの愛や、社會的愛にまで擴充されない中に、儒教とか佛教とか、殊に佛教に依つて love の芽をちよん切られて了つたのだ。無論、儒教や佛教は love その物を否定してゐるわけではない、孔子樣の如きは事實として是認してゐる。佛教も固より慈悲の宗教だ、love が根源をなしてゐる。たゞ、儒教 後になればなるほど、因襲的な doctrine に囚へられて、自縄自縛式なものになつて、男尊女卑思想や、強制結婚思想になつて、性的 love の本能的發現を極力排斥したし、佛教でも女人罪障說のやうなものが勢力を得て男女間の love を一も二もなく卑しいものにしてしまつたのだ。そこへ行くと西洋の宗教道德は比較的 love について寛大であつた。キリストは、love を高唱こそしなかつたれ、肯定して居たのだ。Venus & Adonis のやうな、悲劇も時にはないではなかつたが、love の自然的發現には決して抑壓を試みなかつた。現代では勿論然りで、日本式の不自然な、他動的結婚などは行はれてゐないのだ。

此の love がない、love の理解がないといふことは、大に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

してはＨ本が對外政策に常々失敗する理由であつて、支那にでも米國にでも、その列國に對してもう少し日本人がloveの味を知つて居たならば、あんなにへまなことはない筈である。お互の間でもさうである。何うも日本人は、冷めたくて硬苦しくて、窮屈で仕様がないことは、西洋人ならざる私にでも物毎に感じられる。loveの洗禮を受けたことのない國民ほど始末に行かぬ者はないと、つくぐ思ふのだ。何をしてもこだはりがあつて、人情味が乏しく、氣味がわるいばかりで、打ち解けて話し合ふといふやうな心持ちにはどうしてもなれない。

こゝに於いて私は大に唱道したいことは、日本人はもつと大膽になつて解放的になつて、徹底的に性的loveの氣分にひたらなくてはならない。男と女との性慾を出發點として、何事でもそこからやる、その氣分でやるといふ思ひ切つたところまで行かなくては駄目である。性的loveに徹することだ。(當局のおもはくを慮りて以下三行削除) 男が女の香を忘れる時は、やがてloveのない時だ、社會的活動のなくなつた時だ。女もさうだ。性慾に徹せよ、(以下三行削除)さうするとそこからloveの太陽が輝やき出でるのだ。こゝまで行かなくては、到底、日本人は救はれる時がないのだ。徹底せよ！ 大膽に、性へ！ 肉へ！ 但し人格尊重の随行を忘れてはならぬ事を今更ながら此處にくり返してをく。

斯くしてloveとrespectとの兩性の香で日本が全く掩はれた時は、即ち本當の日本の實現した時である。家庭も眞の家庭らしいものになり、社會も眞の社會らしいものになる。そこには何等の不道德の分子もなくなつて、男は待合遊びをせず、蓄妾をなさず、女は運轉手と駈落をする必要もなく、大臣も臣節を全うすることが出來、二枚舌を使はず重大問題も起らなければ、殺風景な何物も一切此の世から消え失せて、春風駘蕩として天下安泰、國家隆昌といふ、めでたいことになるのである。而して斯かる社會こそ眞のユートピヤであり、眞の藝術境でなくてはならぬ。我等の理想的社會は、loveの世界であり、藝術の世界であつて、それが此の世の極致であると信ずるのだが、さてそれに到達するには、先づお互に性に徹する所まで行かねばならぬのだ。

家族問題が飛んだところへ脫線して、性的loveの高調になつたが、さて、loveに基づかざる結婚、その結婚から生じた家庭、その家庭で生れ育つ子供の不自然なることにまで言及して、次には嫁姑問題、更に廣い意義で老人と若年者との同居の弊害である。これは日本の家族制度の大なる缺陷であると思ふ。家庭の本來の意義から考へれば、相愛する二つの男女のみが、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭を結合すべきであつて、そこへ舅姑とか小姑とかいふ異分子のあることは不自然ゝ甚しい。現に西洋には、こんなものがあつて、それが何時も出しやばつて家事に干渉し、家庭の和平を攪亂するといふやうなことはない。尤もそこに個人主義の西洋と、家族主義の日本との區別があるので、家族としての舅姑、小姑の存在を認めなかつたなら、古來の美風たる家族制度は根柢から覆つて了ふ。そんな不屆き千萬なことをやつてはいけないと非難せらるべきは無理からぬ話で、これも現在の日本としては何うすることも出來ないだらう。しかし、西洋だつて日本と同じやうに、家族制度の可なり鞏固な時代があつて、その頃には日本ゝ同樣な舅姑も居たらしいが、だん〲進化するにつれて、相互の利害關係——必要上からそれ等は別居をするやうになつた。そしてその別居の理由は、やはり日本と同じやうな弊害を除く爲めであつたといふ。しかし餘り言ひ過ぎると、不孝主義でも鼓吹するやうに誤解されるから、此の位で止めて置くが、兎に角、若い夫婦が年寄と一所に置かれるなどゝいふことは、彼等に取つては罪人に看守を附して置くやうな苦痛を感ずることである。啻に若い夫婦の苦痛なるのみならず、その爲め、折角圓滿なるべき家庭を破壞する。家族主義を破るものは家族主義その物なりといふ結果になる。然らずとも、多くの個人の能率が、老人の直接干渉に依つて滅殺される。青春の力に依つて活動すべき能率が大に抑制せられるのである。

要するに日本の家族制度といふものは實に面倒臭くて、封建時代の遺風をその儘に踏襲してゐるのである。父母から、兄、姉といふ風に、順序に階級的である爲め、息子が結婚しても、その嫁になる者は、自分自身に依つて世を處し、事を行き得ないやうに、姑が干渉する。殊に小姑といふ妙なものが附き纏つてゐる。その爲めに一家を支配する立派な手腕があつても、常に抑壓されて、才能を充分に振ふわけに行かない。それどころではない、柔順猫の如き嫁でも、邪慳な姑から虐待されて、所謂嫁いびりといふやつをやられる。それが終に大事件となつて新聞の三面記事を賑はすやうなこともある。また幾らか姑に反抗して、能力を發揮しようとする嫁に、直ぐ家風に合はぬとか何とか、一家親類から攻撃されて離婚といふ浮き目を見なくてはならぬ。殊にこんな窮屈な家族制度の爲めに、各々の個性に對する脅威や、抑制は樣々な方面へ及ぼすのである。

考へて見れば、これ位馬鹿らしいことはない。天地を家として活動すべき人類が、家といふ蝸牛の殼のやうな小天地に、お互に寄り合つて居て、姑だの嫁だのと、くだらない爭ひをして、權利の主張か何かに日を暮して居るとは、馬鹿馬鹿しさは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も穩があつたものだ。西洋人はそこへ行けば實にさつぱりしたものである。息子が結婚すれば、必らず息子は息子で別に一家を持つ、然らずんば老親達は別居をして、隱居は隱居らしくして、お互に生活の內部に立ち入つた干渉は仕合はないのである。假令別居をしないにしても、扉でちやんと締めて別々な生活をしてゐるのだ。無論、親子としての感情は相變らず存在するから、親密の度に厚薄はないが、何も嫁をいぢめることを自分の仕事か又は道樂のやうに考へるやうな意地の惡い姑にならないまでゞある。そして若い者同士は若い者だけで働けば、隱居は隱居同士の友人があるから、その間で往來交際してゐるのである。老人は老人仲間、若い者は若い者の仲間で、何の氣兼もなく、平和に自分達のグループを作つて行くのだから、そこに何等の障碍もないのである。尤もそれならとて、日本のやうに老人は老人ぶらずに若い者と同格に一所に遊ぶこともあれば若い者も亦、老人をけぶつたがらずに、快く交はりあつてゐるから、何も老人と若者とが心持の上に特別の懸隔を設けてゐる譯でも何でもない。これは人間としての love と respect との有無の問題である。

尤も日本の嫁姑問題には、單純に解決出來ない樣々な理由があらう。殊に建封時代以來の家といふ觀念から家族はすべて家のつきもので、家長は家の絕對權利を有し、場合に依つては生殺與奪の權能さへあるものの如く考へ來つた習慣、制度に起因するので、もつと民法にも大改正を加へたりして、個人の自由を認めてからでなくては駄目であらう。同時に經濟問題も餘程關係してゐることだらう。殊に財產制度に於いて、日本の民法では戶主の財產權を認めても 家族の財產權については徹底的に認めない、その爲め、世襲財產はそつくり長男に讓つて、特別な場合の外、二男三男若くは戶主の妻に對してさへも遺產といふものを制定しないのであるから富豪でない限り、家族が個人個人に所有する私產は殆ど零である。隨つて、戶主の死んだ場合には、遺族達は第二の戶主と同居して、その扶養を受けるより仕樣がないことになる。さういふところから色々な缺陷が生ずることであらうと思ふが、何れにせよ、こんな家族制度は不自然極まるものである。斯ういふところから日本人の感情はひねくれる、love も respect も本當には現はれないし、隨つて、禮儀は皆虛禮であるし、道德は曲つて仕舞ふし、人間らしい生活がなくなつて、dry な味のない、そして野卑な殺風景な生活の殼、人間の形骸ばかりのごろ〳〵してゐる恐るべき世の中になるのだ。嫁と姑とを何時までも一つところに置いて喧嘩をさせるのは、西班牙の闘牛以上に殘酷だ。殘酷を通り越

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

した人道問題である。近頃はヒューマニズムが流行するけれども、こんな卑近なしかも切要な問題の少しも顧みられないのは何故だらうか。

日本の婦人

しかし、嫁姑問題などを論じて見たところで、考へて見れば一般の日本婦人はまだ〱西洋の婦人などゝ、到底太刀打の出來たものではない。何しろ日本で女の理想といへば柔順なこと、優美なことであるらしくて、その點も亦、封建時代そつくりである。無論女性の女性らしき一半は、柔順の德にあり、優美の情にあるのだから、强ちこれを失くして、スパルタの女のやうな、體操學校のオールド・ミスを理想とし給へといふ譯ではないが、しかし前にも述べた奥の樣、北の方などの、日蔭に生えた豆のやうでも始末に行くまい。これには男の責任も大にある。白粉をこて〱塗つて紅をつけて、しんなりしやなりと男の前で、しなでも造つてゐる女でなくては女扱ひをして來なかつたのだから、殊に男に對して媚を賣る外には、生きる瀬のないやうに虐待されてゐた日本婦人に取つては、飼犬が尾を振ると同じ心持ちで、たゞこは〱と男の前に膝を折つて、お辭儀をしてゐるばかりで、男の言ふ儘になつてゐる、意氣地ない動物(?)に化して居たのは、情けない次第ではあるが、また止むを得なかつたらう。

貧弱な日本の女

私は日本の女を見ると、よく龜の子を思ひ出す。女は龜と餘程緣のあるものと見えて、頭にさす櫛や笄には鼈甲をさす。殊に結婚の夜の萬髷飾には金釵銀釵に取り交へて、必らず此の龜甲製の大きい飾物を頭に載せなくてはならぬ。成る程これはいゝ思ひつきであつて、龜の子と女とはよく似たところがある。龜の子といふやつは、一寸いぢると直ぐ頭を甲の中に入れて恐縮してゐる。そして水を泳ぐにも陸を歩くにも、のろ〱としてゐる。日本の女もその通りで、たゞ〱恐縮しておとなしく世を渡ればそれでよいと思つて居るのだ。石垣のやうな甲を押しつけても、首や手足を出しもしないのと同じ感じを、吾々は日本の婦人から與へられるのだ。要するに簪や笄にこれを用ひるのは、當に龜の子にあやかつて居れといふのであらう。して見ると、日本の婦人は龜の子が假裝をして居るやうなものである。龜の子から、大政治家、大藝術家、大文豪などを生む筈もない、またちつぽけな池にこそ適したる可愛らしい動物かは知らないが、洋々たる春の海を渡る如き氣分の人間を生み出す筈もない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のだ。

一體、西洋人は、日本の女は美しいとか奇麗とかよく云ふ。私も屢々そんなことを耳にしたから、これは強ち例の西洋人の如才ないお世辭のみではあるまい。だが、私には何う思つても日本婦人は美しく見えない。日本人の肉體美のお話にならぬものであることは、一番初めに申した通りであるが、殊に畫家としての私は、日本のモデルも、西洋のモデルも使つて感じて居る。日本の女の肉體には何處といつて美くしいところを發見し得ないのである。日本の洋畫、殊に婦人を描いたものに見るに足るものがないのは、畫家も劣つて居るだらうが、滿足なモデルのないのが最も大きい理由である。展覽會へ行つて女の裸體畫を見ると、醜惡その物に接して居るやうな氣がする。あんなものは須らく警視廳が干渉して、速に撤退せしむべしだと思ふことがよくある。無論、それは頑迷なる守舊派の意見とは全然異つてゐる。裸體畫は大に奬勵すべしであるが、あんな貧弱極まるモデルを使用したものは、美術でなくて醜術だ。何しろ、吾々が西洋でモデルに接してゐると、婦人の肉體美が吾々を壓倒して來る、先方から吾々に美を押しつけて、脅迫するやうにさへ感じられる。それはルノワールあたりの作品を見てもわかるだらう。然るに日本では、モデルからわざ〱、美を發見すべく吾々は努力を要求されるのだ。折角使はうと思ふモデルだから、何處かに畫になりさうな美點がありさうなものだと思つて隅々を探し廻らねばならぬ。その努力や大したものであるが、しかもその結果は徒勞に歸する。日本の女の肉體に、美なんていふものは何處にもないことを最後に發見してがつかりする位が落ちである。實にたまつたものではない。骨がいやにごつ〱して、かじかんだ黄色な肉がそれにこびりついてゐる。背や腰やの肉の線も實にへんなものであるが、あの眞つ黒な腹に至つては、一見してうんざりする。嘔吐を催ほすやうだ。「これが何うして畫になるものか！」とは、誰れしも發する嘆聲であらうと思ふ。その上に表情がない。日本人は元來、表情の乏しい人間であるが、婦人と來ては表情の方法を全く知らぬかと思はれる。いつも詰まらなさうな顏をして、笑つて居るのか泣いて居るのか、しかも顏には思想的の内容などはちつともなく、眼には生きてゐる情のうるほひを有たず、一口に云ふと人間らしい感情の refine が少しも行はれてゐないことを示してゐるのみだ。こんなものを畫に描かうとするのが無理である。人或は言はんゴーガンはタイチの土人をモデルとして立派な作を描いたではないかと尋ねるかも知れない。シカシながらタイチの土人は充分なる love によつて出來上たところの人類であつた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

からである。

それに一體、日本の婦人には藝術的の素質が非常に乏しいと見えて、彼女等の趣味、好尙の低級なこともお話にならぬ。それは、劇場か吳服店に行つてる彼女等の外出姿を見るがよい。服裝でも持物でも、髮容でも全くなつて居ないのだ。無論、その背後に立つてゐる日本の男子の趣味が墮落した低級なものであることも大きい原因ではあらうが、一般に日本の婦人には、自發的に、自分自身を藝術化するだけの天分を缺いて居るのだ。だから彼女等には、如何にも、おめかしの、氣取つた服裝粉飾と思つてゐることが、吾々から見ると、滑稽で卑俗で馬鹿げてゐることばかりだ。

先づ、何より奇妙不思議な一例として、諸君は日本婦人の頭に注意して見るがよい。あの偉大なる丸髷といふもの、あれは一體何を象徵化したものであらうか。頂天を半月形に迫り上げて、兩側を翼のやうに張り出してゐる。如何にも不自然で、感じが硬くて、窮屈である。あれが何うして美しいであらうか。昔の人はいざ知らず、少くとも今の吾々には美とは感じ得ないのだ。丁度龜の剝製を頭に載つけて居るやうだ。それと同じ感じだ。その他の日本髷、それに近頃流行の束髮の如きも、丸髷と五十步百步である。それでも、日本髷中には、過去の情緒を殘してゐるものもあるし、束髮には時として面白い感じを與へるものもあるが、これ等も多くは西洋の女の居間や寢室に於ける姿を往來で拜見すると云ふ珍風情である。何となれば西洋の女はこの上に帽子と云ふ裝飾品をかぶるので自からその調子がとれるのである、丸髷に至つては大正の化物である。

一體、日本婦人が外出するに被り物をしないことは間違つてゐるやうに思ふ。昔の奧の樣ならば、あの重量の可なりありさうな丸髷を頭に戴いて、終日その重點をうまく取りながら坐つて居ればよかつたかも知らないが、今日はさうは行かない。殊に往來に出るとあの通りのごみである。身體には三枚襲ねか五枚襲ねか、一打以上の着物を着込んで、手には手袋、足には足袋を穿ち肩にはショールをかけ、それに手提袋やら洋傘やら、七ツ道具をぶら下げて出かけるくせに、頭のみはお化をまる出しでゐるとは、氣の知れない話である。しかも往來の塵埃は、先づ此の露出されたる頭髮へ眞つ先に振りかゝる。頭髮には油がこて〳〵と塗つてあるから、それに附着したごみは、忽ち堆くなるばかりで、はたきを以て拂つたとて落ちるものではない。しかも歸つてもその儘で、髮を洗ひもしないのだから、黴菌などに夥しいものである。西洋人は日本の女の髮の臭いのには皆弱つて居るが、我々でも電車の中などで、髮の臭い女と竝

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

んだ時には急に心持が惡くなる。昔の方が今より進歩して居たと見えて昔は、皆被り物をして居つた。藤原時代以後、市女笠其他の物があつたし、最近までおこそ頭巾といふものを皆被つて居たのである。それが、ほこりがだん〳〵多くなつた今日撤廢されたといふのは大きい矛盾である。

　髮と顏との釣り合ひなども、日本の女は少しも考へて見ない。それに顏が大きくて頭が大きくて、體軀に至ると丈が低くて小さい。それを丸髷とか高島田とかいふもので、偉大な恰好にして兩翼を膨らませるのだから、ます〳〵調和の取れない、妙な形のものになつて仕舞ふ。昔の浮世繪の美人にはこんな恰好を以て美くしいとしたらしいが、今では、縱と横との調和の齊つた、自然の形を以て美としなくてはならぬ。その他、顏の化粧の仕方や、着物の着方などを一々語れば際限がない。皆日本の女にはそんなことが解つて居ない。何よりも、衣服が運動に不適當なことは、日本の婦人を愈々益々醜の子にして仕舞ふのだ。彼女等が往來などを歩いて居るのを見ると、人間が歩くといふ感じよりも、反物が歩くといふ感じである。恐らく西洋人が日本の女を美くしいといふのも、女その物ではなくて、反物の模樣が美くしいのかも知れぬ。でなくば表情のない人形の顏のやうなのが美くしいのかも知れない。先づその位と思つて居ればよからう。

滑稽な日本人の潔癖

日本人は潔癖だ、きれい好きだとは、誰れでも言ふことだし、またお互にさう思つてゐるが、果して事實であらうか。先づ手近のことを考へると、衣食住である。衣服は西洋人は殆ど毎日下着を洗濯するが、日本ではさうでない。肌襦袢を毎日取りかへる人は、餘程の潔癖家なら知らぬこと、先づない。半襟の如きは、一月も二月もかけて平氣である。洋服を着て居る日本の紳士で、妙にカラーとカフスは汚れて垢がついても平氣な人が多い。西洋人は殆ど毎日カラー位は取り換へるのだが、日本人はさういふことに一向氣がつかない。足袋や靴下も、可なり穿いたと思はれるものを平氣で用ひてゐる。して見ると衣服できれい好きとは一寸言へないやうだ。若し言へたら表面へ見えるところだけをきれいにしてゐるに過ぎない。

　では食物は？　これが非清潔的なること、繰り返して云つた通りである。どんな玄關附きの美しい家でも、お臺所に入ると可なり不潔である。又ちやぶ臺にテーブルクロスもかけなければ、ナプキンも使はぬ。フインガーボールもない。食前食後に手を洗ふといふやうなこともやらない。すると、食事もあまり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

潔癖を自慢はされない。住宅も、その一例として寢具である。昔から日本にはシーツといふものがなくて、布團の上にごろ寢をしたものである。掛布團の襟に白い布(きれ)をあてるやうなことでも、西洋文明渡米以後のことである、枕覆ひの如きも用ひたものではない。宿屋の如きでは、毎日毎日、呉人越客の區別なしに、同じ枕に同じ布團で泊めてゐた。實にきたない次第で、その爲めに傳染病等の危險も隨分多かつたことゝ思はれる。

さういふことを一々考へて行くと、何うも日本人がそんなにきれい好きを自慢する資格はなくなりさうである。今でこそ衛生設備がやかましくなつて、理髪店なども大都市では可なりきれいだが、場末や田舍へ行くとまだ／＼お話にならない。昔の髮結床の如きは想像に餘りある次第だ。料理屋なども、今少し清潔の設備が欲しいと思ふ。手を洗ふ場所は便所の側にあるだけで、流石に用を足せば、手を洗はなくてはならぬとは知つて居つても、電車の吊革にぶら下つたり、工場の扉をあけたりして、一日には幾十回の、手を汚す機會にぶつかりながらそれを洗はないで何でもつまんで食べる。牛肉店へ飛び込んでも、料理屋へ上つても、先づ手を洗つてから箸を取るといふ殊勝な心掛けの人は見たことがない。東京市中のいろんな黴菌を附着した手で、お菓子や菓物をつかむに到つては、これを潔癖國民と見るわけには行かぬではないか。

たゞ、一寸考へて潔癖の資格のありさうなのは、例のお湯に入ることである。成る程日本人は世界に有名な湯好きの國民で、朝から晩までうで蛸のやうになつても厭はないのであるが。しかし入浴するからとて、必ずしも潔癖とは云へまい。それは入浴癖ではあらうが潔癖ではないと思ふ。何となれば、日本服の如きすきまだらけの日本家屋とよく相似たる胸、手、足、の部分の頗る開放的なものだから塵の入るように出來ていておまけにそれで世界第一の不潔なる惡道路を所有する國に住むのだから湯にでも盛んに入らなければ助からない。それに反して洋服は密閉的である。どんなに疾走したつて股などの開き出す事がない。その上サンゼリゼエーやリジエントストリートの様な清潔な道路を持つ國に住むのだから日本人の如く年中うで蛸氣分で暮す必要はない。日本の入浴制度は、あれは却つて衛生上危險な設備である。西洋人のバスタップに依つて一人一人別に入浴するならよいが、日本のは皆混浴である。錢湯でも、宿屋の湯でも一人限りで來てるのではなくて、何人も一つの湯に入るから、きたないことは言ふまでもない。大きい宿屋などへ行くと、まるで他人の垢でどろ／＼になつたやうな湯に入れられることがある。これでは、自分の垢を落すよりも、他人の垢を浴びるや

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

うなものである。お湯ばかりではない。洗ひ桶でも洗面盤でも皆共同であるから、何處に肺病患者の痰が附着して居るものか、何時に花柳病の汚物が殘つて居るものか知れないのである。下水の中で顔を洗へと云ふたとて、誰れもやる者はあるまいが、たゞ水の量が多い爲めに幾らか胡魔化されてゐると、いふだけで、下水と混浴の湯とは、大した違ひはないのである。それに日本人の身體の洗ひ方も極めて大ざつぱで、且つ間違つてゐる。日本人は、手などはろくに洗はないで、顔ばかりいぢくつてゐるやうなのが女にも男にも多い。手の方が顔よりも目立つもので、且つ食物などを持たなくてはならぬ。鼻や口では飯は食へないのだ。又爪の間などを一々洗ふやうなこともやらない。西洋人は爪々特に注意してきれいにして、藥品を用ひて磨いたりなどして、マニキユーアなる一つの職業になつてゐる位である、それに日本人は頭を洗ふ者も少ないやうだ。女になれば、滅多に洗ふ人を見ない位である。

斯ういふ次第では、折角の入浴癖も、以て潔癖ありとすることが出來ない。が、もう一つは大掃除である。苟くも掃除をするのであるから、きれい好きの一適例であると思ふと大間違ひ實は日本の大掃除といふものほど滑稽な矛盾したものはないのである。大掃除は寧ろごみ製造デーと改めた方がよい。當日になると、家中のごみを盛に引つ掻き出す。よくもまあ半年やそこいらで、こんなにごみが出來るものだと思はれる程、小山の樣に家々から出す。そして疊々往來にならべて、ぽん／＼叩くのだ。此の日は半日店を休んで、或る町は全くの營業停止の有樣である。三大節さへ休まない日本の商店が、此の日は朝から休業するのだから 殊勝千萬で、いかにもきれい好きらしく見える。だが、その大掃除の現場を目擊した者には、これが果して、潔癖を以て誇る日本人の清潔法だらうかと疑はざるを得ない。先づ到るところにごみの小山がある。臭氣紛々として行人の鼻を掩ふ。又到るところで疊を威勢よく叩いてゐる。旋風につれてそれ等のごみは往來に霞の如くたなびいてゐる。そこを通りかけた者に取つては、その日は一の厄日である。數町の間、息もせずに、全速力で駈け去らねばならぬ。しかも町の人々は水を撒いてごみを沈靜させようとするではなし、隣家のごみと自家のごみと、隣家の黴菌と自分の黴菌とを交換し合つて、それで清潔になつたやうな顔をしてゐる。黴菌にしてもが、折角隅の方や椽の下に屏息して、別に人間に取りついてやらうなど丶も思はなかつたのに、人間達が勝手に煽り出して、自分達が吸つて病氣になるといふやうな次第で、清潔法だか、ごみ製造法だか、黴菌散布法だか知れたものではない。まだろ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くに下水さへも完備させずに置いて、大掃除のやうなことをやるから、大不潔日を現出するので、今の日本に清潔などは思ひも寄らぬことである。此の日こそ潔癖面をしてゐる日本人の、不潔成分を遺憾なく發揮した日である。殊にこの大掃除の日に、巷に遊んでゐる子供を見たり、疊を叩いてゐるお菓子屋の店頭を通つたりすると、はらはらさせられる。

日本人の潔癖依つて件の如しとすれば、餘り大きな顔をして、西洋人の前などで云へた次第ではないやうに思ふ。毎日入浴りしなければ、大袈裟な大掃除もやらない西洋人は、本當の潔癖があつて、清潔法を心得て居るもののやうにも思はれるが、如何であらうか？

一時的形式的の日本

要するに日本人は、もつと此の不徹底な形式生活から脱しなくてはいけないのだ。たゞ表面の形式だけで、それに伴つた内容といふものは少しもないところから、色々な矛盾や弊害が生ずるのである。何事も上つ面だけの、假の世の中といふのが今の日本である。例へば新しい何かの設備をするにしても、根柢から本當のことをしては大へんな金がかゝるのだから、まあ一時間に合せにやつて置かうといふことになる。あんな戰爭見たいな大掃除をやる時に、往來などは決して掃除をしない。陛下のお通りの時の外は、東京驛前や日本橋京橋の大通りさへも、掃くことがない。西洋の大都會は必ず毎夜遲くなつてからポンプを持ち出して掃除をする。上水も下水も設備が完全してゐるから、さあつと水を流すとあとはきれいになつて仕舞ふのだ。假の世の中の日本では、水を出さうにも上水がない、掃いて流さうにも下水がない。またあの泥で固めた市街をポンプで洗はうものなら、兩側の建築は忽ちにして悉く倒壞するであらう。

先づその位な日本である。電燈をつければ、一燈毎に燭光で料金を取る。勿論メートルに依る法もあれど、一燈宛の方が需要者の方でも安直で、供給者の方でも手つ取り早いので、二三燈位な需要にはわざわざメートルを用ひない。ところが西洋ではそんなことはない、如何に一燈であらうとも、完全に計量器を取りつけて、ちやんとして置く。その方が正確で且つ經濟的だからだ。日本では假の世の中でよいのだから、そんな永久的な仕事は面倒臭い。又需要者もそれで滿足してゐるのだ。さうして結果は眞つ晝間に電燈をつけつ放しにしたりなどして、會社も損なれば、需要者もその爲に高い料金を拂ふといふ、まことに、不經濟極まることになる。愚も亦甚しい。イルミネーシヨンを白晝につけて、その金を市民全體が割前で出すといふ樣

な國はまづ日本だけであらう。七八九の三ケ月間、日本では扇風機の都合とかいふので、夜も晝も電氣を通じてゐるが、あの間に電力は勿論のこと、電球をスポイルするだけでも大したものであらう。

もつと馬鹿馬鹿しい間に合せは、日本人のお祭騷ぎである。日本人は一時の逆上性から何か、やたらにお祭騷ぎをやる國民であるが、その騷ぎの設備がすべて一時的であつて、假の世の中の精神をよく示してゐる。例へば博覽會でも祝賀會でも、早速凱旋門のやうなものを造る。戰勝祝の凱旋門は先づ當然として、何々祝だとなると、早速此の杉の葉か何かで急造した門を二重橋の前とか、東京驛頭とかいふやうなところへ造る。これはまあ一寸見たところきれいだから、けなすわけではないが、何でもこれを一つ造ると大へんな費用がかゝるさうな。御大典の際馬場先に造つたのには、數萬圓を要したとかいふが、惜しいことに、これは當日だけの用であつて、終れば翌日にも取り壞さねばならぬ。無論如何に數萬圓を要したからとて、材料は植物性の物ばかりである。杉や竹の葉をくつつけたり、木綿を張り廻したり、甚しきは金紙細工などをやつて居るのだから、一ケ月と保たれる道理がない。忽ちにして數萬圓がふいになる。これが一年に何度となくあるのだから、考へて見ると沙上に樓閣を立てるやうな下らないことをして大金を徒消するのは惜しいやうな氣がする。これを、巴里の凱旋門のやうな雄大な美術的のものを造るまでゞなくても、もう少し永久性のあるものを建てゝ置いたらどんなもんだらうか。一年に三萬も五萬も使ふのを四五十萬圓とか何とか、相當な永久建築にして置けば、ちよい〳〵旗などを取りかへて裝飾すれば、餘程經濟的に行くことだと思ふ。建てるのと、破壞するとの人夫代だけでも大したことにならう。どうも、一時性の日本人にはそのことがよく分らないから困る。

日本人その者に、永久的な力が不足してゐると見える。これは日本人の體格問題、食物問題に關係することがあらうが、一寸した坂を登るにしても、西洋人はうん〳〵云ひながらでも、登り切るまで休まず弛まず、一生懸命でやつつけることが出來るのに、日本人にはさうは行かぬ。僅々一二丁登つたかと思ふと、直ぐに息を切らしてはあ〳〵云ふ。忽ちそこらで一休みをやる。兎と龜との話ではないが、これだから折角馬力をかけて登つても、忽ち後の者に追ひ越されるのだ。これはしかし腹力が足りない爲めだと思ふと、お互に苦笑でもする外はない。しかしこれが日本人をして一時的たらしめるので、一時はかつとのぼせるが、直ぐ後が駄目になる。日本は明治維新以來長足の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

進步をしたとか何とか自惚れてゐるが、それも日清戰爭當時から、日露戰爭當時まで、僅に十年ばかりの間に、僅かの步度を伸ばしたに過ぎないのだ。その間はいかにも緊張して居つて、進步のあとも見えるが、惜しいことにそれも一時的である。腹に底力のない日本人には、もう日露戰爭に一つ勝つたかと思へば、がつかりして仕舞つて、その後の進步は殆ど遲々たるものであつた。こゝらで一寸一眠りといふところで、坂の途中でもうくたばつてしまつたのだ。日清戰爭から、日露戰爭までの進步と、その後の進步とは、物質上にも精神上にも餘りに大きい差があるやうだ。これだから日本人はいけないのである。その場限りであつて、永久的な仕事は、こんなことで出來るものでない。近頃のすべての政策やら施設やらが、此の日本人らしい一時的な、「假の世の中」觀から來てゐると思ふと心細くなる。早く永久的な凱旋門を建てたいものだ。電燈にメートルをつけたいものだ。

活用を缺いた規則づくめ

斯くの如き日本人は、假の世の中で、間に合せをすることが好きなのだから、何一つ根柢のある、內容のある生活は出來ないのである。されば表面だけ見ると、日本ほど秩序立つて、規則の正しい國はないやうであるが、それはたゞ規則づくめの外形を見せかけてゐるだけで、本當は日本人ぐらゐだらしのない、頓間な國民はないのだ。これも要するに日本人に love と respect とがない爲であつて、實に外國人ならぬ吾々でも日本人に最も不快を感ずることは、何事でも形式主義で、規則づくめにやることである。規則といふものは、生きた人間に依つて運用されるものだとは考へずに、日本人は皆が皆、此の規則の傀儡となつて動いてゐる。人間は死んだ一つの操り人形のやうなものであつて、規則の命ずる儘に間違ひなく動いてさへ居れば、それで忠義の臣民の樣に、我も人も思つて居るのだ。日本では、規則が主であつて人間が從である。規則は Apriori でもつて、人間はそれを遵守すべしといふ一つの哲學を有するのだ。

だがしかし、規則よりも人間が本位だと思つてゐる我々は、これがたまらなくいやである。何處へ行つても人間に接するやうな氣はしないで、規則といふ化物が、冷めたい、非人情な顏をしてゐるやうな氣がする。乘物に乘つても、道を步いても、買物をしても、他人を訪問をしても、またされても、あたりには規則のお化ばかり居るやうで、一向人間と立ち交つて居るやうには思はれない。無論、西洋にだつて規則はある。寧ろ、規

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

則は西洋が本家の筈だ。けれども、西洋では、何處にも規則第何條が歩いて居る姿などを見たことがない。日本では、郵便局へ行つて電報を打たうとすると、二分遲れた爲めに規則だから電報が打てないといふ。區役所へ行つて出生届を出せば、書式が違つて居るから代書人に書き直して貰つて來いとやられる。道路を歩いてゐると、夜更けてから交通も頻繁でなければ、車なども餘り通らぬ廣い道で、巡査が一々左側通行を勵行してゐる。一寸でも右の方へ足を向けようものなら「おいこら！」をやられなくてはならぬ。汽車の中では、この前に述べた例の食堂喫烟問題がある。或は入口に立つなと咎められる。近頃出來た新式ボギー車に乘つて、終點へ行つてから、乘る人もないのだから大丈夫と思つて入口から降りようとすと、規則だから出口へ廻れと、わざ〳〵數分を費して、相互の迷惑を厭はない。その最も甚しいのは、電車始發點の有樣である。電車が引つ返し線へ行つてポールをかけかへてゐるので、此の間に乘つたらお互の便利であらうと思つて車內に歩を入れかけると、「こゝは乘る場所ではない、あの赤い柱のところへ行つてから乘つて下さい」とやられる。しかも電車が動き出してからは、赤い柱まで引つ返さなくても、乘客はぞろ〳〵と乘り込む。勿論動き出してる電車に乘るのだから危險千萬な飛乘りである。飛乘りは規則外であるのに一向に車掌運轉手もそれを拒むわけに行かない。上野の三橋の引返しなどは、此の爲めに目も當てられぬ慘狀を呈したものだ。風が激しく吹き曝す、雨雪は冷たく降る。泣く子を負ぶつた女や、よぼ〳〵の婆さん達は、身を竦はせて電車を待つてゐる、そこへ故障のあつて後れるのを常とする電車がやつと光つて來た。皆は先を爭つて乘らうとしても、引つ返しだからとて乘せて呉れない。すると、電車がそろ〳〵動きかけると、蟻の群かつたやうに車に追ひすがる若者――洋服紳士や職工達は、猿(ましら)の如くに電車に飛び乘つてしまふ。その爲めに電車が赤い柱の所へ行つた頃には既に滿員となつて、あはれや女、老人達は乘ることが出來ないのだ。それが一臺や二臺ならまだしも、幾臺待つても同じことである。上野池の端あたりで毎晩數百人の凍死人が出來ないのをよい仕合せといふ有樣。これだから、日本人は皆規則の犧牲になつてゐるといふのだ。規則は規則であらうが、しかし皆の爲めによいことなら、そんな規則は速に變へるがよい。又電車の運轉臺に乘つてゐると怒られるが、しかし巡査と郵便配達とは、運轉臺どころか踏臺にやつとぶら下つて居つても、小言を云ふ者は一人もない。甚しいのになると、疾走してゐる電車に十人ばかりも、巡査やら配達夫やらが鈴なりになつてゐることがある。思ふに客も人間ならば巡査も人間

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だ。客に危險であつて巡査に危險でないといふ理由があらうか。客からは賃金を取つてゐるから、規則を適用することが出來ても、巡査からは賃金を取らぬから規則外なのか。さうして見ると、所謂規則は變なものだ。

こゝに海軍省のN氏から最近に聞いた話がある。N氏が講和會議に列席する爲め、ロンドン フオークストン間の直行列車（エキスプレス）に乘つた。フオークストンからドヴー海峽を渡る爲めであつた。ところが、此の列車は目的地まで一つも停車しないのだから、その中でうと／＼と居眠りを始めたN氏は、汽車がフオークストンに着いて、乘客は皆降りて仕舞ふと、再びロンドンに向つて走り出したまで眼がさめなかつた。ふと、氣がついて見るととんだことになつてゐるので、N氏はびつくりして、見るとそこに非常信號の爲め引つ張る綱があつて、猥りにこれを引けば五磅の科料に處すると書いてある。此の際、五磅には替へられぬ一大事だ。今フオークストンに下車して船に乘らねば、明日の講和會議には間に合はないと、突嗟にその綱を引つ張つた。汽車は忽ち停車した。すると直ちに車掌がやつて來て、「君が綱を引つ張つたか」と云ふ。「さうだ」と答へると、「降りて呉れ」と、直ぐN氏を降すや、他に故障のないことだから、降すと同時に、ピピーと呼子を吹く。汽車は數秒の停車だけで再びロンドンへ向つて疾驅した。その車掌の機宜を得た捷敏な行動は、日本の車掌達に見せたかつた――とN氏は語つた。が、さて一方N氏と車掌である。N氏は車掌に向つて、實は、居睡りして居つたのは、すまなかつたが、自分はこれから平和會議に行かなくてはならぬ。今の汽船に乘らないと時間の間に合はないので、非常信號を引つ張つた。しかし規則を犯したのだから、此の五磅を取つてくれと差出すと、車掌は「いや」と手を遮つて、「成る程、居睡りは原因であらうが、あなたはこれから人類の平和の爲めに會議に列席せられるのだ、若し時間が遲れてそれに列席することが出來なくては、あなただけではなく、人類一般の損害であるから、その五磅を申受ける譯には行かない。」斯う主張して、如何に押し問答をしても埒があかない。それではフオークストンの驛長に訊いて見ようと、二人は驛長の前に立つたが、驛長の云ふところも、此の車掌と同樣である。そこで結局、その二磅半を驛長と車掌とで預つて置くといふことに依つて鳧をつけたが、この場合、日本の掌車なら何うであらう。無論五磅は規則に依つて徴收するのみならず、汽車はそのまゝ止めてをいて巡査でも立ち合はせて、十分や二十分の取調べ、說諭といふやうなことをやるに違ひない。平和會議の何物たるかも、人類の幸福の如何をも、その場合彼等は毛頭考慮しないの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だ。それだから、日本人には love も respect もないといふのである。

又某氏は英國で、汽車のまさに出發しようとするところへ驅けつけると、最後尾に居た車掌がその一刹那に某氏を抱き上げるやうにして、自分の室に摑まへて入れてくれたと感心して居たが、それなども日本では、乘れるところでも駄目駄目と手を振つて乘せない。危ふく乘つかつても車掌達がさんざんに罵詈を加へて、その客を侮辱する位なものである、實に規則を楯に取つて、冷酷な沒人情なること驚くべしである。前に擧げた大掃除の如きも此の規則に囚へられた適例であらう。規則は知つても規則の運用を知らない、規則の精神を知らない。そして、規則を以て無上のよいものと思つてゐるから、それ以上のよいことがあつても、規則外であるから、皆惡いものと誤信して了ふのである。お役所の事務でも、學校の教育でも、その他何に限らず、規則のある爲めに餘計な仕事をし、また繁文縟禮にばかり流れて、とんと實際の成績は上らないのである。だから、日本には巧みに法網をくゞるといふ言葉があるが、規則ほど融通のきかないものはないのだから、これを巧みにもぐつて居れば、それ位に上手に世渡りの出來るものはない。また表面の規則がやかましいだけそれだけ、裡面の拔け穴も隨分多い。一寸やつに御馳走でもして進物でも贈て親密氣分でなんとかやらかして「うん」と云はしてやらう位の將へはおこりかねぬ。だから砂利喰ひや瓦斯喰ひや、疑獄、石炭を嚙る者が絕えない。これ皆、love と respect とのない規則づくめの世の中の弊害である。凡そ人間を支配する者は人間性のみである。love と respect のみである。それが解らないで、規則で何事でもやつて行かうとする日本人も亦、憐れなる哉と言はねばならない、實に助からぬ。

虛禮好きなお目出度い國民

規則を作つて規則に捉へられてゐると同じやうに、禮儀の習慣を守つて禮儀に捉へられてゐるのも日本人である。これが所謂虛禮である。日本人ほど虛禮好きの國民はまづあるまい。萬事が內容拔きの形式主義だから、虛禮が跋扈するのも當然であらうが、長い間東海の君子國と己惚れて、禮儀三千威儀何とやらいふやうなことばかり自慢にしてゐた、さてその禮儀は、實に虛禮に過ぎないと分つては、これも心細い一つである。日本人の一生には隨分うるさいほど虛禮がつき纏つてゐる。先づ日本人ほど矢鱈に目出度いといふ言葉を使ふ國民はないが、あれは事實、日本人がお目出度い國民なることを示すと共に、「お目出

度」なる言葉の、たゞ一片のお座なりに過ぎないことを語つてゐる――さう言へば、日本には隨分曖昧な、御都合主義な形式語が多い。「都合により」などもさうである。「都合により辭職」「都合により缺席」「都合により轉居」「都合により死亡……」などゝいふ人もあるまいが、兎に角都合といふ言葉は、虛禮的日本に最も適切な言葉である。實に都合のよい言葉だ。曖昧模糊として内へ難き裡に、一種の都合を意味してゐる。お目出度も同樣で、言ふ方でも言はれる方でも、左までお目出度く感じもしないで、お互にお目出度うをやつてゐる。それが人間の生れた第一日、一年の第一月からやるのだから、實に日本人はお目出度い國民である。

單に言葉についてだけではない。日本人がお目出度いとしてゐることの中で、どれとどれとが本當にお目出度いことであらうか。生れたのは死ぬる始まり正月は冥途の旅の一里塚と、一休氣取りをする譯でもないが、御當人に取つて一向目出度くもないことを無闇に祝ふ。それも、眞心をこめて本氣にお目出度く祝つてくれるならよいが、義理とか體面とかいふ、虛禮のみでお目出度がつて呉れるのは迷惑千萬な譯である。祝はれる方でも同樣で、たゞ虛禮でそのお祝ひを受けて居るに過ぎない。恐らく、日本人の支拂ふ税金の中で、この虛禮税が最も多いことであらう。出産の祝ひ、宮詣り、袴着、やれ卒業の祝ひ、やれ兵役逃れの祝ひ、それから例の結婚といふ大きいお祭騷ぎである。田舍には、一人の娘を片附ける爲めに、一と身代を棒に振るといふやうな例を屢々耳にするが、一本の帶、一枚の衣服に千金二千金を投ずるのだから、相當な身代位を吹き飛ばすのは何でもあるまい。しかもそれは、虛榮と虛禮の高價なる犧牲にして、身代を傾けた衣服調度も、流行おくれとなつて空しく箪笥の底に蟲蝕するに至つては愚の極である、凡そ何が愚であるかと言つても、日本人の結婚ほど愚なるものはない。知りもしない若い男と女とを寄せ合つて一對の夫婦を造るのさへ馬鹿げてゐるのに、それを祝ふなりと稱して、大宴會を催ほす。高砂といふ大時代なものを謡ふかと思ふと、お嫁さんは呉服屋の窓飾りの代りになつて、取つかへ引つかへ着物を着せられる。そして角かくしとかいふものを被つて活人畫のやうにすまして居なくてはならぬ。お嫁さんに取つてはこれが家庭生活に入る第一段の形式で、斯くして造られた新家庭は、虛禮の戲場であるのも寧ろ當然たるべしだ。實に馬鹿々々しい次第である。西洋の結婚式も、或る階級の形式を重ずる社會では、飾り菓子だの何だのと虛禮に似たこともあるが、一般には教會で牧師さんの前に誓つて、讃美歌を一節歌へば、それで一對の伉儷が出來

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るのだ。極めて簡易なものである。近頃はそれすらもだん〳〵やる者が少なくなつた。

その他日本にはお葬式といふ虚禮がある。甚しきに至つては、日蓮宗信者などで知識階級などでは勿論やらないが、ボンボコボンボコ團扇太鼓を叩いて練つて來るから、威勢のよい行列だ、何町のお祭であらうかと思つて見ると、お葬式である。お葬式といふものは、最も莊重な、最も嚴肅な、そして悲哀に充ちたものであらうと思つてゐると、日本のはさうではない。一つの Festival である。それから日本から海外へ旅行する時の見送りも、極めて形式的な虚禮である。大官や華族富豪などが外國行きでもする時、東京驛へ行つて見ると、まるで黒山のやうな見送り人である。あの中の果して何千人の一人が、本當に別を惜しんでゐるだらうかと思つて見てゐると、誰れも彼れもが、我れこそは誠意を以てお見送りしてゐると見せびらかさぬばかりに握手を求める、喃々する、ハンケチを振る、帽子を差し上げる、それは〳〵驚くべき光景を呈するのだ。

それから日本の贈答品も甚しく虚禮的だ。年賀状だの新年宴會だの、年末年始中元の贈答品皆何のことだか譯のわからぬことを仕合つてゐる。それに、斯ういふ贈答品や冠婚葬祭にお使ひ物を貰ふと、日本では必ずお返しをしなくてはならぬことになつてゐる。死亡者があつて香奠を貰つても、貰つた以上の價格の物を返禮しなくてはならぬさうだ。それでは折角貰つたことがまるで無意義になる。要りもしない品物を交換し合つて、それに空世辭のお添物までしあつて居るに到つては、何が何やら。又よく人を訪問する時、物を持つて行つたり貰つたりするが、その節貰つた人は、「ありがたう」と云つてその場であけもしない。又あけるのは日本では禮儀でないさうだ。だが、あけもせずに、中は馬の糞か牛の糞か解りもしないのに、ありがたうとお禮を述べて仕舞ひ込むのは間違つてゐる。それでは持つて行つた方でも不快であるべきだ。外國だと、その場で必ずあけて見る。菓子や果物なら早速出して自分達も食べ、持つて來た人にも食べさせる。草花などならば、その場の卓子に挿したりしてたのしむのである。又持つて行く方でも、「これは詰らないもので」など〻言つて人に出しはしない。詰らないものだと、本氣に思つてゐるなら持つて行く筈はないのだ。可なり内心では鼻をうごめかして、自慢のつもりで持つて行く癖に「つまらないもので」といふのはまだしも、來た時には何も持つて來たやうな風をせずに居て、歸りがけになつてそつと置いて行く。それも何か盜んだ物でも持つて來て、隱して置くやうに、こそ〳〵と置いて知らぬ顔をして逃げて行くのは、卑怯といふの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

か、解らずやといふのか。いや、日本ではそれを禮儀だと心得てゐるのだ。よいものを持つて行つてやつたといふ顔をするのを不快と思つて、わざ／＼卑下するのだ。實にひねくれるにも程があつたものだ。又貰つた方でも、その場は、あけもしないで、その癖結構なものをいたゞきましたなどゝ頭の百回も下げて置いて、客が歸ると早速内容をあけて見て、「まあこんなものを、能くも持つて來ようと思つて！　一體幾らの品物だらう？　二圓だらうか、三圓だらうか」といふやうな批評を始める。驚いた次第である。

殊に斯うした形體な儀式な女同士の間にはひどいものである。可なりな夫人と見える人達が、婦人會や結婚式の席上やでお辭儀をし合つてゐるのを見ると、チヤプリンの活動寫眞以上の喜劇である。おでこがかち合はぬばかりに馬鹿丁寧にお辭儀をする。十遍、二十遍、百遍、とても數へ切れたものではない。「遊ばせ」「ございます」を交換し合つて、斯うもよくまあ外行きの言葉を知つてゐることだと思ふばかり、齒の浮くやうなお世辭を交換してゐるのを見ると、たまらない氣がする。今止めるか、今止めるかと見て居ても、なか／＼止めさうにない。しかも彼等が心の中では、相手の衣服や、髮容やにばかり氣を取られて、口先ばかりで虚禮を交はしてゐるのだと思ふと、俗らしくさへもなる。

だらしなさ！　無作法さ！

こんな風に、形式だけでも禮儀を重んずるのだから、日本人は謙讓な几帳面な國民だかと思ふと、それは全く違ふ。日本人は内實、極めて不取締な、だらしのない國民である。道を歩くには左側を通行せよとの規則があれば、如何なる場合にもこれを適用しなければ止まない巡査が一方にゐるかと思ふと、如何なる混雜の場所で、巡査が聲を嗄らして叫んでゐる中でも、一向平氣で右往左往してゐる鈍感な通行人を見るのである。こんな鈍感な、質の劣つた國民には、規則一點張りでやらなくては何うも斯うもならぬかも知れないが、それでは情けない話である。歐洲で電車の混雜する所は、ロンドン殊に然りだが、如何なる雜閙してゐる十字路でも巡査が立つて、巧みに合圖をすれば自働車でも荷馬車でも、また通行人でも、巧にさつと行く手を開いて、交る／＼に通行するのである。これは巡査の頭に秩序があり、また自制心があるからばかりではない。國民に秩序と自制心とがあるからだ、長い間、社會的生活をして、公德心を養つてゐるのだから、斯ういふ場合には斯うするものだと、ちやんと一般市民の頭に刻まれてゐる。それが日本は何うである

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

らう。高が銀座尾張町や須田町の通りといへば、ロンドンの田舍位な騷ぎである。しかも、そこには電車の旗振りが一人と、巡査が五人位は居る。一人は例の、ローマ時代の十字架のやうなものを動かしてゐる。他の四人は、それ〴〵四つの道にがん張って、中央の巡査の信號につれて整理に忙しいのだ、それでも自働車を乘り込まうとする、馬の鼻先で人を押し分けようとする、叱ったって蹴飛ばしたって故障百出するのは、如何にも發的氣分を發揮してゐる。一つの十字路に巡査が二人も立ってゐるやうなところは、西洋では何處へ行っても見られない圖である。第一、日本人の步き方ほど無秩序なものはない。左側を通らないとか、人道と車道とを混同するとか位ではない。步調も揃はず方向も亂れてゐる。殊に、下駄、靴、草履、雜然として、行くのやら歸るのやら譯のわからぬ足つきの入り亂れたのを見ると、成程これでは巡査の硬くなるのも無理はないと思ふ。

だが、空間的にだらしないよりも、もっと日本人は時間的にだらしない。生き馬の眼でも拔くといふと、何んなに油斷のならぬ都會だかと想像するが、その實東京には、到るところにぼんやりして三人五人寄り集まって、何かを見物してゐるのんき者を見る。窓飾りに一羽の剝製の鳥が出してあっても、大道の隅で獨樂を廻してゐても、必らずそこへは時間を超越した哲學者達が群がってゐる。流石は東京だと長き春の日を思はせる。これは日本だけでなく、巴里や倫敦でもよく見ることで、却って面白いことである、しかしさういふ人達でも、いざ約束といふ時はきちんとやるのである。所が、日本では徹頭徹尾駄目である。例へば吾々が訪問を受ける。それは大抵の場合突然にである。日も時間も約束などはしてない。一面識もない人がぼかんとやって來る。幸に居ればよいが、これは居ないのが當然で、居るのは偶然であるべきだ。誰れもそんな人が訪ねて來ようとは思はない。又何かの用事をしてゐるところを、突然の訪問に依って邪魔をされることも勿論である。迷惑な話である。時間を考へない日本人といふ哲學者は、そんなことには一向お構ひなしで、何時と限らず何處へでも行く。

又、假りに時間を約束して置いたとしても、それを勵行してその通りきちんとやる人は、十人に一人位なものだ。これも前に述べたやうに思ふから、省略するが、二時間や三時間遲らすことは日本人には平氣らしい。またそれを見越して時間の約束をするやうである。何うせ四時と言っても、六時か七時に集まるのだから、四時の定刻で通知しようといふ風だ。お互に噓をつき合ってそれを本當のことにしてゐる。若し、西洋風に時

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

間を厳守して、定刻に出席しようものなら、馬鹿を見る話である。それから訪問した人が、なか〳〵話にだらしなくて、要談と閑談とのけぢめもつかねば、何時になつても歸らうともしない。訪問客が時も處も選ばずに、未明から深更まで押しかけて來るさへあるに、なか〳〵歸らうともしないのには閉口することがある。こつちが忙しくて外に約束があつて、出て行かなくてはならぬ場合でも、また隣室に他の客が待つて居ても、用事のある同席の客が坐つて居ても、そんなことには我れ不關焉と構へ込んで居るに至つては、まことに迷惑な次第である。又さうなると、折角こつちが他へ約束をして、何時までには必ず行くと云つたのも、守れなくなつてしまふ。時とすると、今日は忙しいからこれで失禮するといふやうなことを主人側から申し出しても、客は一向平氣なもの、洒蛙洒蛙然と煙草でも吹かしてゐる。これは昔から日本の餘程の弊害だと見えて、箒を逆さに立てるとお客が早く歸るといふまじないがある位だから、流石の日本人も此の慢性病は閉口し切つて居つたものであらう。殊に斯うべん〳〵だらりと雜談をされてゐる中に、食事の時間になつた場合など、豫想しない客の爲めに飯の仕度をしたりなど、てんてこ舞をやらねばならぬ。その外日本人のだらしのないことは、食べ物などでもさうで、朝と晝と晩と三度だけきちんと食べて居ればよささうなものを、始終間食をやる。それも矛盾した話で、食事の時には、極めてお粗末な榮養價値の乏しいものを突ついてゐる癖に、間食には、菓子だの菓物だのをやたらに食べるのだ。元來、菓子や菓物は、三度の食事の直後に食べるものなること勿論、間食などは西洋にはまづない。斯んなことが生活のだらしなくなる主な原因であらうと思ふが、家庭の生活には何一つ時間的に規律に從はないし、仕事の順序なども甚しく亂雜なものである。

次には日本人の無作法なこと、barbarous なことである。右の如く、日本人は一方で規則づくめで、虚禮的であると共に、内實は極めてだらしない。そして無作法、不行儀である。例へば日本人が雜談をして居ると、きたない鶩の啼くやうなあ〳〵といふ聲が、まるで喧嘩でもしてゐるやうに騷々しい。靜かな室の中で、二人又は三人で三四尺位な距離で話してゐるのに、其聲が非常に大きい。歐洲を旅行して居つて日本人のいやがられるのは、大きな聲を出して他人の會話を邪魔をするからである。話といふものは無論相手に分ればよいもので、他人に知らせる必要は一つもないのだ。演説をしてゐるわけではないのだ。支那人もさうであるが、とかく東洋人の聲は喧しく響く。會話の聲の大きくやかましくて、bark するやうに聞える のは、人間が

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

refine されない證據である。下等な人間程、聲が大きくてがあ／＼やかましく響くのは同じ日本人でも知れることである。何も演說をするのでないのだから、そんなに大きい聲を出す必要はないのだ。その癖、號令をかけるとか、演說をするとかいふ段になると、餘り大きい聲は出し得ないのだ——それは餘談であるが、こんなに日本人はやかましいけれど、演說となると貧弱で、實に聽かれたものではない。近頃では、公衆の會合とか、講演會とかゞ盛に行はれて、演說が盛になつたが、一體日本には昔は演說などゝいふ、公衆を相手にしやべる例は講釋師か何かの外にはなかつたものだ。西洋では二千年も前に、シーザーが演說をして殺されたといふやうに、ギリシャ以來盛に行はれて來たが、日本ではちよん髷時代に大演說家といふやうなものは無論出て居ない。自分の考を數千數萬の公衆の前で知らせることは少しも行はれて居なかつた。故に音聲の如きも、四疊半式であつて、二三人の人に知らせる程度ならばよかつたものだ。それが明治以後は、盛に政談演說などをやらかすやうになつた。それは結構な次第であれど、遺憾ながら日本人は energy が足りないので、聲量も貧弱である。その上、演說は文章と違つて、顏や姿が見える。風采、態度といふものが餘程關係するのに、これまた聲と同樣に貧弱極まる。その言語と態度

と顏との調子が少しも取れて居ないので、誰れか背後で聲色でも使つてゐるかと思はれる。何う考へても此の顏からあんな事が言へるとは思へない。だから、日本人の演說を聽いてゐると、餘りに貧弱なので氣の毒になつて仕舞ふ。これは日本人のがあ／＼聲とは正反對の、變な矛盾である。

さて、日本人は聲が大きくてきたないばかりでなく、いやに黑い毛が生えてゐる。西洋人は毛唐と呼ぶ位で、日本人より毛が少い譯でもない、殊にラテン人には毛が多くて、ロシヤ人などにも多毛性の人が多い。けれどもラテン人などは、赤色や褐色の毛が交つて變化が多いのに、日本人は揃ひも揃つて皆黑い毛ばかりである。芝居で上から下を見てゐると、一面に眞つ黑くなつて、海苔干し場をのぞき込んだやうな氣がする。これなども西洋人から見たなら、變化の乏しい、きたならしいものであらう。その癖、髯は割合に生えてゐない。英國人は比較的髯が少いが、佛蘭西でも伊太利でも、運轉手などに美髯を生やしてゐないのは一寸稀れである。馬鹿の大頭(がしら)とか言つて、日本人は頭髮は非常に多くて硬くて黑いが、髯はこの反對である。

次には日本人ほど無闇に耳糞と鼻糞とを掘る國民は一寸ない。人前を憚らず、まつちの軸などで、頻りに耳を掘つて、その糞を掌に並べて見たりなどしてよろこんでゐる立派な紳士

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日本には多い。鼻糞は、何うかすると西洋人にもよくやる人があるけれど、日本人のは御念入りである。それを丸めて丸薬をこしらへる、そしてこれを鐵砲玉のやうに指ではじく、これが日本紳士の藝當である、隱し藝である。それから頭の髮を矢鱈にかき廻してふけを取る。竹で造つたたわしのやうなふけ取りで、下へ新聞紙を敷いて置いて其の上にふけが澤山落ちるのを見てよろこぶといふ、一種の變態心理の人もある、その外、日本人は矢鱈に自分の顔をいぢくつて虐待する。幸にこれが他人の所有品でなくて自分の物であるからよいやうなもの〻、如何に自分の顔でもこんなに玩具にされてはたまつたものでない。爪の先の方を歯で嚙み切るかと思ふと、唇の皮をむく、爪の間の垢を掘り出す、眼を擦る睫をまさぐる、耳の穴へ指を突込む。今度は例の鼻ほじりだ。いやどうもたまつたものではない。動もすると意外なところへ手を突つ込んで、其の指を嗅いで居る人物もある。

亞米利加で、日本人の排斥される理由の中には、たしかに此の日本人の無作法、不行儀といふことがあつて、それが日本人の同化せざる一つとして數へられるらしい。幸に巴里や倫敦で亞米利加同樣に排斥されないのは、日本人の中の割合に上品な人種が集まつたからで、若し亞米利加同樣に一般的日本の天才を發揮したらば、同樣に排斥されるであらう。亞米利加に出稼をしてゐる日本のお百姓さん達は、カリフオルニヤの野つ原で、夏になると盛に行水をやるさうだ。日本の都會の生活の有樣さへ知らない彼等のことだから、夕顔棚の下涼みと洒落れて、屋外の庭先などへ盥を持ち出して、そこへ男も女も子供も素つ裸の行水をやるのだから、米人は抗議を持ち出すのだ。風儀を亂すといひ、子供の教育によくないと文句をいふのは強ち無理ではない。現に某氏の談であるが、紐育のセントラルホテルか何かで、日本の觀光團員――素より、富豪代議士、會社の重役と言つた知識階級だ――が宿泊して居た時のこと、或る夜某氏は外から歸りかけてホテルの庭に立つと、多數の米人が庭からホテルの内部を珍らしげに覗いて見てゐる。はつと思つて某氏も立ち留まつて見ると、觀光團の日本人先生達、室内でブラインドも卸さないで電光をあか〳〵とつけ、その下で眞裸になつて寢そべつたりふざけたりしてゐるではないか？ それを見ると、餘りに耻かしくて穴へでも入りたかつたと語つた。私自身もさうした經驗に接した。ロンドン滯在中のこと、某といふ日本人が宿屋に泊まつてゐると、近所から抗議を申し込んだ。それは、矢張り夜になつてブラインドを卸さないで、素つ裸になつて越中褌をだらりとさせながら身體を拭いたりなどしてゐる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ので、醜狀見るに忍びずといふので、先方から抗議が出した譯である。これが體格絶倫のギリシヤの古代彫刻の如き身體がやるならばまだしも out of proportion のきたない黄色い身體がやるのだからたまつたものぢやない。

それから、日本人に體質の惡いためか何うか知らぬが、あゝとかうゝとか叫んで、頻りに唸つたりのびをしたりする。實にやかましい落ちつきのない國民である。また寢床に居る時から、「あゝ」と大きい欠伸をついて、うんうんうなりながら、どたんばたり背伸びをして起き上る。起きたかと思ふと、手水使ひがまた仰々しい。があ／＼言つて痰を吐く喉の奥をごろ／＼鳴らす。今度はくん／＼言はせて鼻をかむ。顔を一つ洗ふのがどうもやかましくて仕樣がないのである。嘗てロンドンの日本人ホテルで、朝盛になつてゐるので、主婦さんは、自殺でもするのではないかと非常に心配したと語つたことがある。その外、斯ういふ不行儀から日本人が隣室の客より抗議を受けることは毎度である。それから、ロンドンの日本人ホテルなるメーダベルの主婦の話であつたが、日本人は實に食事が早い。今迄數十人の日本人と面識があるが自分と一緒に食べてゐて、自分だけの時間をかける人は一人もないと語つたが、日本人の食事は噛んで食べるのでなくて、呑み込んで仕舞ふのである。喉を這入ればそれで食事の能事は終つたと思つて居るのだから、味などは何うでもよい。丁度、犬や猫が食事をする時には、口一ぱいに頬張つて、ぐつ／＼と呑んで仕舞ふ。あれと同じことであつて、趣味も餘裕もあつたものではない。

斯うして在外日本人のあら探しをやれば際限りもないが、海軍の將卒なども、艦の内部ではなか／＼規律を嚴重に守り、立派な行動をして、大戰中もよくその任務を果して聯合國の爲めに努めたのであるが、しかし一度び陸上の人となると、隨分感服出來ないこともやる。地中海艦隊なども、上陸してマルセーユの町を歩くと、香水屋へでも這入ると、店頭に並べてある香水を一々手に取つて見る。見る位ならまだよいが、薫りがしないとか何とか言ひながら、一つ一つこれを振つて見る。きれいに店に飾つてあつたのを、手當り次第に取つては、そこらへ亂雜に置く。艦内の秩序も規律もこゝでは忘れられてゐるのだ。しかも彼等は最初から買ふつもりでなく冷かしに行つたのだから、老夫人が、モッシユーとか何とか愛想を振り撒はすのも聞き流して、さつさと出て行つてしまふ。勿論、香水の一罎も買ふことではない。こゝが西洋人と日本人の異ふところだ。西洋人なら最初から買はうといふ目的で行くのだが、日本人はさうでない。冷やかすのが目的である。Love と Respect とのある人間

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ただ、人間にはこんなところで違ふのだ。

又海軍々人はよく外國人と喧嘩をやる。これも日本人に多いやうだ。穿き違へた日本魂の發揮か何かであらうが、大に威張り散らして、結局は腕力沙汰となるのである。ツーロンでも、驅逐艦「×」の士官連中——尤もそれは主計官が多かつたが——外國の海軍々人に喧嘩を吹きかけて、新聞に書かれたりなどしてなか〳〵の大喧嘩となつた。又驅逐艦「×」の艦長某の如きは、醜業婦と自働車に乘つて、公々然と市街を走つて居た。無論西洋の軍人だとて、醜業婦と遊ばぬではないが、彼等は決してこれをよいことをしてゐるとは思はないから、内密にやつてゐる。それを日本の軍人は公々然とやる。つまりさういふことの差別を知らないのだ。もつと甚しいのは伊太利大使館附であつた陸軍士官某の如きで、彼は日本に正式に結婚した妻がありながら、或る伊太利の女と結婚をして、教會で式を擧げたのだ。後にその事が解つた爲めに、新聞に出されたりなどして、他の將校や高等官連から排斥された。その結果、日本へ招喚されたのであるが、斯ういふ例を擧げれば幾らでもある。斯くして、日本軍人は折角の海上で樹てた武勳も陸上で汚してしまつて、爪はじきされてゐるのだ。されば日本軍人は、政府や官憲の間には評判がよいけれども、地方人や輿論には非常によくない、これは單に軍人だけの話ではない。上に述べたやうな樣々な點から、誤解——いや西洋人から云へば正解であらうが——されてゐる。それは吾々に取つて非常に不利なことであると思ふ。

お祭騒ぎ其他二三

先づ大體はこんなものにして、あと四つ五つ氣附いたことを並べて置く。日本人はお祭騒ぎが好きだと前にも述べたが、これも著しい一つであらう。自然崇拜教を全然脱して居ない日本では、月や星のお祭までやる。お月見だの、七夕祭だの、その外一年中に隨分お祭が多い。家庭内の年中行事のお祭もあれば、一町村一部落内のお祭といふものも可なり多い。又國家的のお祭も決して少ないとは言へない。三大節を始め、一年中の祝祭にも隨分多い、此んなお祭騒ぎは全然つまらぬものだといふのではない。人間はさう〳〵働いてばかり居る譯にも行かないし、時には陶然としてお祭氣分に醉ふのも惡いことではない。しかし、一時的にかつとはしやぐ性質の日本人には、熱中して馬鹿馬鹿しい騒ぎをやるからいけないのだ。例へばお神輿を擔ぎ廻るやうなことも、今の時代には甚だ不適當なものである。兄い達が、絆纏に尻をからげて、木遣か何かで練り歩いた

ところで、時代錯誤(アナクロニズム)を見せつけられるばかりで、遊園扇や樽天王のやうな原始的なものまで持ち出すに至つては寧ろ國辱だ。殊にその結果が、町内から錢を集めてそれで酒を呑むといふやうなことで、醉つ拂ひと喧嘩とは昔からお祭のつき物であつたが、今もさうである。ギリシヤのバッカスの祭や、佛蘭西、伊太利のカルニバールのやうな罪のない、馬鹿馬鹿しいお祭騒ぎならそれでもまだしも、喧嘩をするのがお祭の神事の一つであつては餘りに蠻的である。何れにせよ、お祭騒ぎが多過ぎることは、國民を不眞面目にして、緊張心を乏しくするものである。國家が若し政策の一つとして、國民の心機を一轉させようなどゝ思つてお祭をやるのなら、それは餘りよいことではない、國民を胡麻化すものである、愚にするものである。

だが、何かにつけてお祭騒ぎの不眞面目さは脱して居ないのだ。日本の古い化物らしいものが、そこらあたりに眼につく中にも、お祭騒ぎの最も著しいものがある。それは、消防の出初式である。昔の火消の組織といふものが、今の大東京に殘つてゐることが、そもそも大きい時代錯誤にある。蒸汽喞筒、それも殆ど皆自動車になつた警視廳の消防隊の一方に、昔風な火消人足が纏ひといふへんなものをくるくる廻はしながら、木遣か何かで火事場へ繰り込んだところで、邪魔にこそなれ、消火の助にはなりさうも思はれない。今は戰爭でさへ人間がしないで機械がする世の中だ。如何に鳶の者共が江戸氣質だの、向ふ見ずだのと威張つたところで、郵便消火器ほどの役にも立ちさうにない。それにも拘はらず、あの出初式といふお祭騒ぎは何事だらう。一方にずらりと赤塗の自働車喞筒が並んでゐるところで梯子登の曲藝が開いてあきれる。あれをしもお祭騒ぎと言はずして何をか言ひ得んやだ。寧ろこれ等をまとめてアクロバクの一團を拵へて、ミュージックホールか何かへ現はれるが至當であらう。

先年、米國へ帝國軍艦の「××」が廻航してゐた時である。桑港か何處かで火事があつた時に、早速應援といふので、十九世紀式のハンドポンプを持ち出した。ハンドポンプも笑はせるが、それよりも奇拔なのは、高張提灯を持ち出したことである。日本では火消しには必らず高張提灯を出すことになつてゐるので、軍艦にもちやんとその設備がしてあつて、出火演習の際にはきつとこれを燈すことになつてゐる。軍艦の中に高張提灯は固より滑稽千萬であるが、それを陸上へ、しかも米國の桑港の大火へハンドポンプと一所に持つて行くとは、餘りではないか。米國では劍もほろゝの挨拶――ではなかつたとしても、何しろこんなものを持ち出されては却つて邪魔になると思つた

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のか、軍閥主義の化物にやつて來られては恐ろしいと思つたのか、兎に角體裁よくお斷りをしたので、「軍縮××」の高張提灯は物の役に立たなかつた、との奇談がある。我れも許し人も許す、文明最新式の機械たる最もハイカラな軍艦が、ハンドポンプに高張提灯で押し出すとは、實に情けない話ではないか、そこで、私もマルタで、地中海艦隊便乘中に、此の高張提灯が防火操練にうろつき出したのを思ひだす。無論該港の火事場には、數十臺の自動車喞筒が、筒先を揃へて居たし、電氣梯子を忽ちにして幾百尺の空へ打ち立てることも出來たであらう。そこへ、軍艦の高張提灯、返す〳〵も淺ましい次第である――が、お祭騷ぎの氣分の失せない日本人のやりさうなことではないか。

最後に日本の文字と言葉とである。それも、今更私が言はなくても、國語調査會、教育調査會もあれば、專門家、非專門家の間に頻りに議論の交はされることだが外國から歸つて、日本の國情を見ると、殊更に此の事を痛切に感じる。何は措いても、日本には漢字を全廢しなくてはとても新しい文化の國になることは出來ないと思ふ。今のやうなことでは文字を學ぶことに半生を費して、丁度徒然草にある馬乘りの坊さんの話のやうなもので、稽古の中に年を取つて了ふ。西洋では中學校二年生で、新聞を讀むに十分な普通常識を得られるといふが、日本では中學校を卒業した位ではとても新聞などは讀めない。實に古來、日本人はどれだけ文字を學ぶために苦しめられ、犧牲を拂つたか知れない。此の間も、海軍砲術學校の學生たる某少佐の所へその父がやつて來て、まだ學校へ行つてゐるのか、まだ字を習はなくてはいけないものかなと呆れたさうなが、學問といへば文字を習ふことゝ、昔の人は思つてゐるのだ。それ位に昔から文字に苦しめられて來たのだ。要するに文字といふものは、人間の使ふ言葉が、距離の遠い爲めに聞えなかつたり、長時間に保存して置けなかつたりする爲めに、その代用に出來たのだから、日常の會話と同じやうに、出來るだけ解りやすいものでなくてはならない、然るに文字に捉はれて非常に日本人が損をしてゐることは大なる間違ひである。詳細に論じたり、習慣や制度のことを考へたりすると、色々議論の餘地もあらうし、漢學者や和學者の反對等も起つて來るだらうが、大局から考へて、數萬の、しかもあんな字劃の複雜な、且つ一字で幾通りにも讀むといふ非文明的な文字を用ひてゐることの大間違なるは勿論であつて、苟くも日本の文化の進歩を欲するほどの人にして、これに反對する人は一人もあつてはならぬ筈である。我々はこんな文字を使つてゐる國民かと思ふと、我れながら

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ら恥かしくなる。そこで漢字の代用といふことになると、何人も假名とローマ字と、何れを採用するかを論ずるであらう。これも、西洋式に思ひ切つてローマ字を採用して、左から讀ませるに限る。嘗て横須賀から海軍士官が「近藤」を「こんどう」と横に書いて、汽車に托さうと思つて持つて行くと、あべこべに讀まれて、「うどんこ」は手荷物にならないと斷られたといふ奇談もある。又横濱で觀艦式のあつた時、分捕軍艦の「相模」(さがみ)を見て、「三笠」(みかさ)を觀たと喜んで歸つた人が多かつたと聞く。これでは折角の國字改良も不徹底であるから、改良するなら思ひ切つてローマ字にすることだ。それに假名では十分に發音を現はすことが出來ないから、人間の話をその儘には現はされない。またその方が、世界國際化の傾向にも應ずるのであるから、一足飛びで差支ない。文字はローマ字ときめて、それによつて、日本國民の教育を、少くとも二年や三年短縮しなくては、今日の急に應ずることが出來ない。

それから日本人の生活や文化が如何に貧弱であるかを示すものは、日本語には非常に語彙の少ないことである。色などでも、鼠色も、ダークグリーンも、ダークブリユーも、皆一つに鼠色といつてしまふ。赤でも、普通のレッドも、ライトレッドも、ローズも、バーミリオンも、ピンクも皆「赤」の一語で現はしてゐる。故に眼で見た儘を言葉で現はし耳で聞くことが出來ない。これは大きい不完全であると思ふ。哲學の爭ひは、要するに言葉の意味の爭ひであると言はれるほどに、言葉とその表現とは、完全なやうで不完全なものであるが、殊に日本のは甚しい。言葉の數の多少に依つて、その人種の下等なるか上等なるかを定めると言はれる位であつて、南洋の土人等の語彙は非常に少く、數の如きもタスマニアあたりでは六以上は數へることが出來ない。それより多い數は皆 too many といひ、二十三十になると到底彼等の言葉には入り得ないさうである。さういふ點で、日本人には語彙が貧弱であつて、吾々の思ふ、デリケートな思想や感情を表はし得ないのだ。文字は簡單に、しかし言葉は出來るだけ多く――斯ういつたことを一つの理想と云はねばならぬ。さて、一先づこれで打ち切つて、最後にバタ臭といふことについて、結論を與へて置きたい。

結論(バター臭くなれ)

私は日本へ歸つて以來、上に述べたやうなことを、時嫌はず誰れにでも、口癖のやうに言ふ。さうすると多くの人は、私が何か特別に間違つたことでも考へてゐるやうに、「君の意見は餘りにバター臭くていけない」といふ風に答へる人が多い。勿論、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

その筈には、バター臭いから日本には通用しない、或は適應しないといふ意味が含まれてゐるのだ。私はこれを却つて變だと思ふ。バター臭いといふことは、大によいことであつて、今のやうな日本は、もつとバター臭くさせなくては駄目である、日本國中にバターを塗つて、すつかりバター化してこそ始めて、吾々の思ふやうな日本を實現することが出來ると思つてゐるのだ。バター臭くないからこそ、こんな變挺な日本の現狀になつてゐるのだから、うんとバターを塗りたくつて、バターの日本にしてしまはなくてはいけない。日本の改造といふことは、一口に云ふと、もつと國民に根柢から Love と Respect を理解させ徹底させることであるべきだが、しかしその抽象的な二つを實現させるには、先づバター宣傳から始めなくてはならない。バター臭いことに依つて Love と Respect とを日本國民に理解させなくてはならぬと思ふ。

その上にだ。バター臭いのは決して私一人ではないと思ふ。新しい人は皆バター臭い筈である。またます／＼バター臭くすることを以て日本改造の理想だと思つて居る筈だ。いや、日本がバター臭いといふことが、今更私如き者が聲を大きく叫ぶまでもないことで、畏くも明治大帝が維新の大業を立てさせ給うたのも、新日本を經濟させ給うたのも、また數次の大戰に打ち勝たせ給うたのも、皆これ西洋文明を御採用なさつた結果で、即ち或意味に於てバターの臭ひを輸入せられたからではないか。明治初年五箇條の御誓文の中には明かに「廣く世界の智識を求め」と仰せ出しになつてゐる。そして維新匆々行はれたことは軍隊の改造であつた、行政機關の改造であつた。しかもそれ等は大部分、西洋の式に則つたもので、顧問として各方面へバタ臭い外國人が傭入れられ、そしてそれ等の外國人は、皆盛んに日本をバター化することに努めた。又彼等にバター化して貰ふことを、官民擧つて希つたではないか。またバターの臭みを嗅いだお蔭に今日の日本を見ることが出來たではないか。憲法發布もバター臭くなつた一つで、且つ國民はそれに依つて本當の自由を得たのだ、日清戰爭も、日露戰爭も、我々が少しでもバター臭かつたおかげで勝つことが出來たのだ。若し我々がバターの臭ひを嗅がないで、甲冑弓矢で戰爭をしたとて、先づ露西亞には固より、支那にも勝つことは出來なかつたかも知れない。また現に日本が、あの瘠世帶から何うやら斯うやら成り上つて、經濟界、殊に海運界などで世界有數の國になることが出來たのも、無論バターのお蔭であつたと言つてよい。今我々は、席末ながら五大强國の一に加はつたと言つて威張つてゐるが、これも何の爲めである。勿論バター臭い爲めである。如何に日

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

本が強いと言つても、富んでゐると云つても、六十年前のちよん髷時代の日本であつたなら、誰れが五大強國の仲間入りをさせてくれるものぞ。現に日本が、五大強國の一に入りながら、彼方此方で非難の聲を聞くのは、そのまだすつかりバター臭くならないところがあるからだ。バター臭くないところだけが非難の的になつてゐるのだ。カリフオルニヤの野原で行水をやらかすから非難されるのだ。これが若し、もつと徹底的にバター臭くなつて居たならば、恐らく非難を加へる者などは一人もないであらう。思ふに、日本に、バター臭いことを反對するやうな沒分曉漢がなくて、もつと早くから、もつとバター臭くなつてゐたなら、今頃はすばらしい日本になつてゐて、とても世界中で並ぶことの出來ない立派なユートピヤを實現してゐたかも知れないのだ。然るに、不幸にして、日本にはまだちよん髷の化物が大に殘つてゐるので、彼等の頑迷不靈なることに依つて、バターの臭みに國民が徹底してゐないのは殘念なことである。

この奇怪なるちよん髷の monster の中で、最も著しいやつは國粹保存の化物だ、國粹保存は結構である。日本にも日本だけのよい傳統があるだらうから、それを保存しようとする傾向は決して惡いとは云はないが、しかし、彼等の保存しようとするのは、國粹でも何でもない、守舊固陋の思想が國粹とか愛國とかいふ假面を被つて、人を誑かすものである。第一、國粹主義といふが彼等は何を保存しようといふのであらう、彼等は西洋人の發明したもので、日本には全然あつたこともない洋服といふものを着て、洋食を食つて、それから自動車や電車に乘り廻しながら、西洋人の眞似をしてビラ撒きをしたり、演說をしたりして、たまにはプロパガンダなどいふバタ臭い言葉を使ひながら、國粹熱を吹いてゐるのだ。まつたく川合芝居を見てゐるやうなもので、何が何んだかわからない、御本人達にも解つたものではない。丁度、明治初年の頃に「わしは斬髮は嫌ひぢや」とちよん髷で濶步しながら、手には洋傘を持つてゐた頑固爺と少しも變らない。だからこれ等は皆 monster だといふのだ。彼等の頑迷な思想を本當にする者は、今の若い者にはだん〳〵少なくなつたが、それでも多くの日本人は意氣地がないから、一方に彼等の頑迷を唱へると共に、まだ他方には、私のいふ程度のことさへもバター臭いと譏つて、兩面物は中庸を得るにあるとか何とか言つて、眞理に面接するのを嫌ふ卑怯者が多い。中庸を正しいと思ふのがそもそも間違つてゐるのだ。中庸は卑怯者の妥協的な姑息な easy going な道德であるのだ。眞理はいつでも、これ等の卑怯者の厭つてゐるところにある。バター臭くなるのは極端だなどゝ言つてゐる間はまだ駄目

である、もつと大きい眼をあけて見るがよい。

申すも畏れ多いことであるが、日本中で最も西洋文明を御採用になつた所即ち或意味に於てバター臭くておはしますところは、我が宮中であらうと拜察する。バター臭いと申すと語弊があるかも知れないが、何から何まで萬事西洋式をお取入れになつてゐる。恐らく明治天皇は、日本で一番早く洋服を召させられた方であらう。そして明治の初年から、誰れ彼れの厭ひなく、諸外人にも接近せられたし、何よりも著しいことは皇后陛下の御洋裝である。今でも、日本に於ける婦人の洋裝姿を想ふ時、最も聯想し易いのは、皇后陛下なり照憲皇太后陛下なりの御洋裝である。でなくても、日本で女の洋裝は上流ほど多い。華族の夫人、皇族妃殿下それに皇后陛下と皆さうであつて、陛下や殿下の和裝の御姿は、特に御接近仕つてゐる人の外には、殆ど拜した者はないであらう。その他、宮中の公けなる儀式は一切が西洋式なのである。

こんなバター臭い世の中に、國粹保存といふやうな化物が殘つてゐる爲め、何でもない、しかも眞理であることをいふ我々をば、バター臭くて日本の國情には適しないといふやうな、無反省な言葉で打ち消して了ふとは、何たる間違つたことであらうか。お互にもつと〳〵バター臭くなつて、その匂ひに徹しなくてはならないのだ。

（一九二一、三月九日）



假面と顏面

——能樂についての一考察——

野上豐一郎

一

假面を用ひることは能樂の最も著しい特長の一つであつて、能樂が普通の演戲と本質的に違つてゐる多くの點は此の一つの事からだけでも說明が出來る。併し、なぜ假面は用ひられることになつたのであらうか。役者の外的表現の道具のうちでも、恐らく顏面は一番有效なものであるべき筈なのに、なぜ其の顏面をば利用しないで、それを蔽ひ隱してまで假面を用ひることが必要とされたのであらうか。

一般に其の理由として考へられてゐる所に依ると、それは感情表現の抑制から來てゐるのではなからうかといふのである。卽ち假面に依つて顏面の生々しい表現を遮蔽することが能樂の演出に必要とされたものだらうといふ推定である。此の推定には相當の據り所がないでもない。何となれば、能樂は普通に感情を殺して見せるものだと信じられてゐるから。感情を殺すといふのは感情表現を抑制する意味である。之は能役者自らもさう信じて實演してゐる者が少くない。併しながら能樂の表現は果して感情抑制の根據の上に立つたものであらうか。先づ其の事から考へて見なければならぬ。

此處に一人きりの子供を攫はれた母親があつて、都から東國まで遙々其の後を追うて尋ねて來て見ると、或る川のほとりで其の子供は土饅頭になつてゐた。さうして土饅頭の上には春の草が青く伸びてゐた。その時の母親の絕望と悲嘆を表はす爲に能樂ではどんな表現をするか。役者は造り物の土饅頭の前に立つてそれを凝視しながら哀傷の心を靜かに謠ひ出す。さうして哀傷の絕頂に達すると、合唱部がその歌を受けついで、此の墓の土を堀り返して今一度子供の姿を見せて貰ひたいといふ母親の痛切な情を、それにふさはしい調子で謠ひつづける。その時

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

役者は塚の前に坐つて、兩腕を大きく擴げて唯一度土を掘り返す形をするきりで、それに續く慟哭の心はたゞ泣く形のみで示す。それも身體の他の部分をば絶體に動かさないで、兩手の掌を顏（假面）の前數寸の所まで持つて行くだけである。その場合、なぜ役者は全身をゆすつて泣き叫ぶ形を見せないのであるか、なぜ塚にしがみついたり、その前を轉げまはつたり、自分の髮の毛を搔きむしつたりするやうなしぐさをばして見せないのであるか。さうする事の方がどのくらゐ自然であるか知れないであらうに、なぜ能樂はその自然な表現をば選ばないで、一見甚だ人情に遠ざかつたやうな方法をば採用したのであらう。

之に關する一つの謬見は簡略を高尚と同義語に取つて、表現の手數を簡略にすることは感情表現の度合を輕減することになるから、之が即ち能樂を高尚な品位ある藝術にしてゐるのだといふ解釋の仕方である。實際、表現の簡略といふことは品位を保持する一つの要素であることをば認めなければならないけれども、但しそれは決して必要の領域を侵してはならぬ。若し母親の狂亂を示す爲に泣き叫んだり轉げまはつたりすることが必要であるならば、それを抑制して實行しないことは簡略ではなくて缺乏である。缺乏は一つの惡である。能樂の表現が假りに感情抑制の動機から出てゐるものであるならば、それは缺乏の藝術であり、惡藝術であると云はなければならぬ。

併し私の見る所に依ると、能樂には、その本質に於いて、さういつたやうな動機は認められない。表現の簡單なことは事實であるが、それは缺乏を意味する簡單ではなくて、必要からの簡單である。母親が土を掘り返して子供の顏を見たいといふ心持と、後はただ泣く形と、その簡單な二つの動作だけが其の場合に必要だからそれだけを演出するのであつて、その他の動作（例へば轉げまはつたり泣き叫んだりすること）は必要でないからしないのである。簡略することが高尚だと云つたやうな偏見からの省略ではない。その證據には、能樂では必要に應じて轉げまはることもすれば捉みかかることもする。例へば自分の子供の生命を或る武將の功名心の犧牲にされた母親は怨恨と憤怒から其の武將の威嚴を冒して捉みかからうとしたり昏倒したりする。また皇宮の高貴な婦人の虛榮心に弄ばれて失戀と憎惡の結果自殺した老人は幽靈となつて現はれて其の婦人の胸元を捉んで打ち叩く。また或る女は愛人のかたみの衣服を搔き抱いて泣いたり、狂亂の錯覺から松の木を愛人と思つて抱擁したりする。さうして此等の感情表現は皆甚だ大膽に行はれる。だから問題の子供を失つた母親の簡單な動作が決して品位に拘泥しての抑制若しくば省略から來て居るものでないことは容易に理解

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

されるだらうと思ふ。

　して見ると其の場合轉げまはつたり泣き叫んだりすることは一見いかにも自然に見えるやうではあるが、能樂に於いてはそんな風に寫實的に一々形に表現することは不必要と認められてゐることがわかる。若し能樂が十の動作を必要とする場合に二だけしか表はさなかつたならば、省略された八はそれだけの缺乏を意味することになるだらうが、此の場合は單に二を表はすことが必要であつて、後の八は想像が補つてくれるから初めから表はすに及ばないのである。表はされるものが二であることに於いては同じであるが、心持に於いては雲泥の相違がある。前の場合は十の中の二であり、後の場合は二プラス・アルファである。一方は抑制、中止、省略、缺乏を意味し、他の一方は進出、提示、暗示を意味する。私は此の意味に於いて能樂は決して感情抑制の動機から出た消極的な藝術ではなくて、暗示的な象徴的な簡單な表現法を持つ本質的に積極的な藝術だと斷定するに躊躇しない者である。

二

　能樂の假面についても同樣に、それが一般に習俗的に信じられてゐる如く感情抑制の一つの方便として造られたものだらうとは私には考へられない。さう信じてゐる人の普通に理由とする所は、人間の顔面は表情に富み過ぎるといふ假定であるやうだが、人間の顔面は演戲の上に於いて果してそれほど大きい效果を持つて居るものだらうか。それを知るには、人間の顔面筋肉はどの位の程度まで複雜に感情の微候を區別して表現し得るものであるかを調べてかからねばならぬ。心理學の實證する所に依ると、表現上の訓練を最も多く經驗してゐる役者でも自分の意志の力で顔面に表はし得る感情の種類は甚だ狹く限られたもので、多くの場合役者は感情を交へない模倣作用を以つて表現してゐるのである。感情の發作を一々顔面に呼び起し得る役者でも、必要に應じて顔を赤めたり青ざめたりして見せることは不可能とされてゐる。それは意志は筋肉や血管の運動を左右することが出來ないからである。嚴密に云つて可能なことは、ただ感情の外的表現からの反動作用（それをハルトマンは自動暗示と呼んだ）に依て神經中樞を器械的に出動させる事だけに過ぎない。但し之は餘りに器械的であつて我々の感情の微妙な微候を模倣し能はざる缺點があるが、それをば同情感染の作用が都合よく補つてやるやうに出來てゐる。同情感染とは役者が自分の扮する性格に同情して、その性格の當然持つてゐると想像される感情に感染する心的作用である。役者はこれ等の作用

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に依つて多くの複雜な感情を自分の顏面に表はすことに努力するけれども、その結果は喜悅、悲哀、恐怖、不安、憤怒、愛情、憎惡、嫉妬等の代表的感情をさへ一々區別することも出來ないほど極めて大まかな表情しか造り出せないのである。或る場合には恐怖と不安に對して全く同一の表現を用ひたり、不安と悲哀の表現を區別し得なかつたり、甚しき場合には我々は、笑つてゐるのだか泣いてゐるのだかの見わけさへつかないやうな表現を見せられることも珍しくない、それほど人間の顏面表情は無能である。而かも更に不都合なことには、人間は顏面を一つしか持ち合せてゐないから、圓い頬を細くすることも出來なければ、しやくれた顎を切り詰めるわけにも行かないで、有らゆる場合の有らゆる性格をいつも極まりきつた唯一つのミヂアムに依つて表はさなければならぬといふ不便に曝されてゐる。

此の不便から役者を救ひ出したものが假面である。假面の發明に依つて今まで演出上の障碍となつてゐた性の差別、年齡の差別、種族の差別といふものが析取り除かれた。男が女になることも出來れば、青年が老人に扮することも出來れば、人間が動物または超自然的生物に變形することも出來るやうになつた。また十分前まで艶麗な一人の白拍子として舞つてゐた役者が何等の困難なしに殺伐な武將の亡靈となつて出現することも出來れば、醜形の男を變じて忽ち凄慘な妖怪とすることも出來た。此の便利の程合をはつきりと知る爲には、假面の發明されなかつた場合を想像して見るのが一番である。能樂から若し假面の使用を除き去つたならば、今日までそれが保持して來たやうな藝術的價値が果して其の演出から求められたであらうか。我々は「羽衣」の天人のあの端麗な增の面(おもて)をはづして、或る役者の脂ぎつた平たい顏におしろいを塗つたり、厚ぼつたい其の唇に紅をさしたり、眼球を瞬間ごとに微動させたりしながら、いや僞は人間にありと謠つてゐる姿を想像して見ると、現に我々が能樂から與へられてゐるやうな精靈的な印象をそれから期待することは到底出來ない。故寶生九郞翁は「面(おもて)は能の精神である」(「謠曲口傳」)と云つた。之は昔から色々な云ひ方で多くの人の云つたことではあるが、實際假面は能樂の存在を最も有力に支持してゐるものである。

若し假面を用ひることに於いて不便な點があるとすれば、それは肉の顏面の場合の如く目が動いたり唇が動いたりしないことでなければならぬ。全く、動く筈の目が動かなかつたり、物を云ふ筈の唇が物を云はなかつたりすることは、表現の上の大なる損失に相違ない。けれども能樂の假面に於いては其の損失は補はれるやうに十分に研究されてゐる。即ち目は動かない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

代りに稍大きく見開かれて（癋見類鬼畜類は例外として一ぱいに大きく見開かれて）其の視線が何處まで行つても出逢はない二つの平行線を成してゐる。之は少し角度を變更することに依つて無關心の放視から強烈な凝視に轉ずるやうな創意である。併も（癋見類の固く閉ざされたのと鬼畜類の廣く開かれたのを例外として）半開に輕く開かれて、物を云ふ場合にも云はない場合にも不自然な印象を與へないやうに調節されてゐる。また鼻も種類に依つて形の差別はあるけれども、いづれも木彫から來る強い感じを支持するに不足でないほどの大きさが工夫されてある。さうしてどんな種類の假面でも、照らす若しくは曇らすと稱して、極めて僅かの傾斜を仰向けにまたは俯向けに與へることに依つて、一層明るい快活な表情ともなり、或は一層暗い陰鬱な表情ともなるやうに出來てゐる。その他假面で表はす性格の種類に依つて昔から使用の上に色々の技巧が工夫されてゐるが、一例を示せば金春禪竹の孫禪鳳の遺書の中に、「尉は力を入れず、顔を仰向く。修羅は直ぐに、力を入るる也。女はうつむきて着る。力を入れず。鬼はうつぶきて着る。きつと力を入るる也。その外は似合ふやうに心得て着る也。」（「禪鳳習道目録」、永正年中）と云つて居る。また普通におもてを使ふと稱して、假面を右または左へ極めて僅か振ることに依つて、その方向へ大きく視野が擴がるやうな錯覺を、見てゐる人に起させる方法がある。これ等は原則として假面には不動の姿勢を常に與へてゐる爲に、微細な瞬間的の動きからでも割合に大きな效果が生ずるのである。それには假面の持つてゐる表現が、中間的なものであるやうに工夫されてあることが原因をなしてゐる。云ひ換へれば喜悦ともつかず悲哀ともつかず、また喜悦にも悲哀にも應用の利くやうな表現が工夫されてあるのである。此の中間的表現を以つて木製の假面は肉の顔面に對抗して效果を競つてゐるのである。

此の對立は何よりも形の種類の雜多であり得ることに於いて先づ假面の勝利に歸した。一つの懸念はただ假面の表現は典型に固定してしまひはせぬかといふ點であつた。此懸念は全然謂はれのないものではなかつた。けれども周到の注意を以つてそれを生命あるものの如く使ひ活かす工夫が研究されて、遂に木の假面が肉の顔面の如く刻々にその表現を變へ得るやうになつた。我々は時々モナ・リサの脣のやうな微妙な微笑を能樂の假面で見せられることがある。また其の目が忽ち泣いたり忽ち笑つたり、嬌羞を含むかと思ふと怨愁を示したりするのを見る。それに較べると人間の顔面は實際憐むべきほどに單調であり無能であることを感じさせられる。目が幾ら敏捷に動いても要する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

にそれは二つの小さな狡猾な穴に過ぎず、瞼が幾ら巧妙に働いても詮ずるところそれは開いてゐるかつぶつてゐるかの二つを出ない。その動く目の代りに動かない目を用ひ、その開いたりつぶつたりする瞼の代りに半開の位の瞼を用ひた所に、私は假面製作の驚くべき價値があると思ふ。その價値は或る未知數を以つて他の多くの數を暗示させようと企てた大膽な創意から來たものである。

此處まで考へて見ると、其處に私は感情抑制の意志が手傳つてゐたとは思はれない。外の言葉で云ふと、人間の顔面が無能だから、それ以上の效果を持つべき他の顔面が發明されなければならなかつたのである。さうして發明されたのが能面だつたのである。

三

能面製作の經路を正確に辿ることは困難であるが、能樂その物の完成されたのがおよそ室町時代の初期であるから、能面もそれと同樣に約五百年の歴史を持つてゐると推定して差し支へないと思ふ。日本には其以前に於いて伎樂雅樂の假面が用ひられたことがあるから、能面とそれ等の假面との關係については尚は十分の研究を要するが、私の判斷ではその間に直接の影響はないやうに思はれる。伎樂雅樂の假面は全然外國系統のものであり、能樂の假面は全然日本的のものである。若し此の兩者の間に何等かの關係があつたとすれば、それは單に假面を使用することだけが傳來されたとは云へるであらうが、言葉の普通の意味での模倣と云つたやうな痕迹は認められない。

能面の創作者として聖徳太子、弘法大師、淡海公、春日、登利等の名前を列ねて、その遺作と稱する物を神作と呼んでゐるが、これ等は果してどの程度まで信用してよいのかわからない、恐らくは信用の出來ないものではなからうか。併し日光、彌勒以下、赤鶴、越智、石王兵衛、龍右衛門、夜叉、文藏、小牛、徳若、千種等の面打の名は世阿彌の「申樂談儀」（永享二年）にも記されてあり、實物も今日まで少數ではあるが保存されてある。文獻の證明する所に依ると、これ等が嚴正な意味に於いて最初の能面製作者であり、且つ最大の製作者でもあつた。日光、彌勒は時代も古く、殊に殆ど翁面、尉面のみの製作者として知られてゐるに過ぎないが、赤鶴は恐らく最も驚くべき技術者であつただらう。「鬼の面の上手なり」と世阿彌も云つて居る如く、飛出、天神、癋見、獅子口、蛇等の超人間的な強烈な怪異な表情の製作品に良い物を殘してゐる。その他、尉の類を面にすれば惡尉とか癋見惡尉とか、狂言面を打てば武惡とか昆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

沙門とか、一體にその趣味が強い若しくは怪異な方面に片寄つてゐた。之に對して軟かい美しい表情を作り出した面打の代表者としては、世阿彌に「女の面上手なり」と推賞された越智や龍右衛門などがあつた。技術に於いては赤鶴の方が上であつたとしても、赤鶴の作つた怪異な表情の系統は其の前時代の諸種の彫刻の中にも多少類似を見出し得る點に於いて、私は寧ろ越智、龍右衛門等の力を入れた女の面や若い男の面のやさしみと美しさにより多くの獨創的價値を置いた方が當然ではないかと考へてゐる。全く女の面と若い男の面には、能樂以外のものでは決して見出されないやうな、靜的な、圓味のある、特殊の美しさが一番多く見られる。此の方面の製作は其の後增阿彌、後れて孫次郎などの天才に依つて更に複雜化された。けれども戰國時代を經過して江戸時代に入ると、面打は一つの世襲的職業となつて、井關出目、大野出目、越前出目と、それぞれ門戸を張つて怪異をのみ重んじ、ただ家技として傳來の手法を踏襲するばかりで、何よりも大切な創造的精神を失つてしまつた。能樂その物も江戸時代に入つてからは成長を斷たれて、限られた範圍内でのみ動いてゐた。併ながら、能樂その物はとにかく其の範圍内で動きながら、技術だけは研究してゐたのに、能面製作の方は單なる模倣から模倣へ走つて、全く精神のない形骸のみのものとなつてしまつたから、此の點から云ふと、能面は室町文化の遺産であると云つても間違つてゐないと思ふ。

これを外の言葉で云ふと、能面製作は室町時代限りで滅びたと云ふことになる。なぜ、能樂その物は生きてゐたのに、能面の製作は死んだのだらう。さう思つて見るとちよつと不思議なやうでもあるが、併し能樂は一つの演戲であり、能面製作は彫刻術の一種であつて、本質に於いて全く別種の物であることを考へて見ると、此の二つの藝術が同じ進み方をしなかつたことに、それほどの不思議はない。江戸時代の制度と文化はすべての生命ある物の成長に不便であつた。生活力の强かつたものは抑へつけられ、弱かつたものは滅びてしまつた。伸びるものも眞直に上の方へは伸びないで、横にひねくれて撓め曲げられたり、小さく刈り込まれて端の方へ力が集められたりした。制度と形式が全社會を支配した。その中に引き入れられて能面製作の技術は早くその成長を奪はれてしまつたのである。

四

能面と關聯して一番に思ひ出されるものはギリシヤ古代悲劇の假面である。ギリシヤの悲劇はヂオニソス崇拜の春の祭から（冬の祭からは喜劇が）生れ、初めはヂチランボスと呼ばれた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

讃美の歌の合唱に舞踊を伴つた快活な牧歌的なものであつたのが、ドリス人の間で合唱隊と指揮者の對話を交へる形式となり、陰鬱な感情が快活な諧謔の中に入り交つて、遂に一方が高まり他の一方が低まつて、所謂アテナイのトラゴオヂヤ(悲劇)の形となつたのである。その形に初めて仕上げたのはイカリヤのテスピスの功績だといふことになつてゐる。テスピスは役者を使用することを發明した。但し役者の數は一人で、その一人の役者が別々の性格となつて幾度も扮裝を變へて登場した。對話の相手は合唱隊の指揮者であつた。(テスピスの功績が一般に認めらたのはクリスト紀元前五三五年であつた。)テスピスの次にアイスキロスが現はれて悲劇を完成した。彼は役者の數を二人に增した。(彼の最初の成功は紀元前四八五年であつた。)その次にソフォクレスが出て悲劇を更に完全にした。彼は役者を三人に增した。さうして對話を合唱よりも重要なものに變改した。(ソフォクレスの成功は前四六八年であつた。)扮裝についてはテスピスの頃はまだ簡單で、顏には白鉛または松葉ぼたんの一種を塗つてゐたといふことである。それがアイスキロスの完成に達するまでに、アテナイのケリルスの手に依つて假面が發明されたとも云ひ、一說にはまたケリルスは改良を施した人で假面の發明者にテスピス自身であつたとも云はれる。どちらが正しいかは分らないが、アリストテレス、スイダス等の書いたものから判斷しても、ケリルスが劇壇に活動してゐた紀元前六世紀の末から五世紀の初の時代へかけて既に假面が用ひられてゐたことは確實である。卽ちギリシヤ悲劇の假面は今から約二千四百年以前に發明されたもので、我が能面の製作に先だつこと千九百年以上であつた。

それほど年代の懸け離れた二つの物を比較するは不自然ではあるかも知れないが、併し興味のない對照ではない。何となれば、假面を使用する演戲として世界にギリシヤの悲劇と日本の能樂ほど完成されたものは外にないから。また、此の二つの藝術を最もよく代表するものは各その假面であると云ふことが出來るから。

けれども我々はギリシヤ悲劇の假面についてはポンペイの壁畫、ヘルクラネウムの壁畫、及びギリシヤの諸所で掘り出された古代の甁またはテラ・コッタの模樣畫などに依つて其の形の一般を想像し得るに過ぎないが、その品質若しくは使用の效果等についてはポルクス、フィロストラッス、ルチアン、アリストテレスなどの記錄から可なり詳細を知ることが出來る。それに依ると、悲劇假面の表情は一體に陰鬱で、中には凄愴を極めたものもあれば、怪異の甚しきものもあつた。能面も概して陰鬱な

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

表情をして花やかな若い女や男の面でも皆相當に憂愁の影を深はしてゐないものはない。天狗鬼畜類の面になると殆ど怪異その物である。斯類はギリシヤの方では悲劇の稍後期になつても二十八種しかなかつたことをポルクスは我々に告げてゐる。その內別を示すと、老人六、若い男八、女一一、從者三である。之に較べると能面の種類は遙かに數が多く複雜になつてゐる。分類は色々あつて一定しないが、例へば女面を小面、孫次郎、萬媚、増、深井、曲見、と此の程度に分けることを標準として數へて見ると、翁一、尉一三、男一五、盲目三、女六、老女四、妖女七、怪士四、癋見五、鬼畜一〇、神佛一二、計八〇種。(之は極めて大づかみの計算で、男面の中で業平は中將の部類に、敦盛は十六の部類に入れるやうにしての區分である。)最近に出版された『能面大鑑』(能樂書院發行)は現存能面の代表的作品として尉二三、惡尉一七、男四六、女五三、蠻女老女一四、鬼女二一、怪士二〇、癋見一五、鬼神二二、神佛三〇、計二六一面の寫眞を集めてゐる。尤も之は分類を主眼とするものでなく、作品としての代表物を集める意志から同一種類の同一型の物をも幾つも列べて數が多くなつてゐるのである。兎に角內輪に見積もつても能面の種類は八十種類はあるから、ギリシヤ悲劇假面より複雜になつてゐることは云ふまでもない。

此の複雜は能面製作の表現を非常に微妙なものに變化させた。同じ若い女の面でも小面と增との相違、同じ小面系でも普通の小面と孫次郎、萬媚との相違、更に一々の表現について松風、村雨、若草女、蟬の羽、いなのめ、まゆかき、と云つたやうな名稱が流儀に依り、また家々に依つて附せられて、夫れ夫れ特殊の性格に限つて使用せられる事となり、面の種類に依つて演出の位(品位)が必然的に定められるほどにまで進んでゐる。すべて藝術の此の末梢的な微妙な細かさは善い意味でも惡い意味でも日本的である。日本の物は皆細かく發達する。前に述べた能面の唇の微妙な開き具合なども、ギリシヤの假面には到底見出されない日本的の美である。ギリシヤの假面は性格の如何に關せず皆口を廣く開いてゐた。それは聲の自由に洩れる必要から來たものらしいから、我々は此處でラオコオンの群像に對するが如き見方で批評するわけには行かないが、實際ポンペイやヘラクラネウムの壁畫の模寫に就いて見ても、大きく開いたままの假面の口は絕えず叫び續けてゐる一種の樂器のやうな印象を我々に與へる。

此の大きく開いた不調和な口を是認させるものはギリシヤ圓形劇場の構造である。劇場は皆野天で、階段になつたアウデトリウム(見物席)が非常に大きく、例へばアテナイの劇場はド

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

クトル・デエルプフェルト及びライシュの計算に依ると一七〇〇〇人を定員としたらしく、其の他エピダウルス、メガロポリス等の劇場もほゞ同數の見物人を容れてゐたと推定される。プラトンは其の時代の木造アウヂトリウム（今日破壞しかけたまゝ殘つてゐる石造アウヂトリウムは前五世紀以後のもので、それまでは皆木造であつた）ですら三千人以上を容れたことを我々に語つてゐる。（「饗宴」）兎に角アイスキロス以後の役者は一萬人よりずつと以上の見物人を相手にして野天の舞臺で歌つてゐたことを考へねばならぬ。して見ると、聲が如何に重大な役目を勤めてゐたかが容易に想像される。その聲を自由に洩らす爲に口を大きく開かせて、假面の上の調和を破ること位は何とも思つてゐなかつたのかも知れない。ポルクスの書いたものに依ると、悲劇の假面には大膽な誇張された著しい線が施されて、遠い距離の見物人に對しても有效であるやうに出來てゐたとあるから、能面に見るやうな微細な中間的な表情などは見られなかつたに相違ない。材料は能面は木であるが、ギリシャの假面は（例外として木製もあつたけれども）大部分きれで出來て、頭部全體を包むやうに出來てゐた。さうして頭部をより大きく見せる爲にオンコスと稱して面部の上に圓柱形の一種の髷を架へてゐた。それに較べると小さい木の板一枚を顔面の前部に懸けさせるだけの能面の創意に實に簡單なものだと云はねばならぬ。女面などになると、面の下から赤黒い顎の肉のはみだしてゐる事がある。それでも巧妙にそれを活かし得る人は假面を顔面である如く思はせ、はみ出した顎のことなどは忘れさせてしまふ。但し之には性格に依つて樣々の假髪が用ひられることも一緒に考へられねばならぬ。

五

次に假面の使用に關して最も著しい一つの特色を擧げると、それは能樂では主演者（シテ）だけが假面を用ひるのを原則としてゐる。主演者以外にも女に扮する者は皆假面を用ひるが、之は主演者が用ひるのとは意味を異にしてゐる。即ち能樂は男の演ずるものであるから、男を女に見せる必要上から女はツレ役として舞臺の一隅にただ坐つてゐるに過ぎない場合でも皆假面を用ひるのである。またツレが鬼畜神佛の類に扮する場合も同樣である。併し、主演者が假面を用ひるのはそんな簡單な理由からではない。勿論假面の發明された最初の動機の中には、年齢、性、種族を容易に變化させるのに都合のよいといふ事が加はつてゐたに相違ないが、能樂が一種の劇として存在を主張するやうになつた時代においては、能面の使用は明かに一定の意

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

味を持つてゐたと思はれる。それは私が此の論文の初めの部分に於いて推定した如く、人間の肉の顔面では表現に不十分であることが認められたのである。それで主演者が假面を用ひることになつたものと思はれるが、例外として主演者が假面を用ひないことがある。所謂現在物は悉くさうである。能樂では、對話者（ワキ）として僧侶が出て、或る人の冥福を祈ると、その人の幽靈が昔の姿で現はれて或る所作を演じたり舞を舞つたりすると云つたやうな構想が可なり多い。併し主演者が幽靈でなくて生存中の人物に扮する場合にはそれを現在物と呼んで、自分の顔面（直面）で演ずるのである。その場合、演者は肉の顔面を木製の假面の如く使はねばならぬといふ矛盾に逢着する。昔から之はむつかしい事となつて、世阿彌も、「もとより俗の身なれば易かりぬべきことなれども、ふしきに能の位あがらねば直面は見られぬものなり」（「花傳書、物學條々」）と云つて居る。なぜ或る物に限つて直面で演じさせるのであらうか。若し幽靈と生存者との區別に依つて之を定めるとするならば、なぜ「自然居士」の演者は生存中の人物として登場するのに假面を用ひてゐるのであらう。若し説をなす者があつて、「盛久」や「七騎落」は直面で演じて「自然居士」には假面を用ひる理由を、後者の主人公は士分でないからと云ふやうな點に歸するならば、士分の者を主人公としない「蘆刈」や「土車」で假面を用ひないのをば何と説明するであらう。斯うなると能樂の直面といふことは無標準の制定の如く思はれるであらう。併し私の解釋に依ると、さうではなく、直面はすべて同情感染の自由に行はれ得る種類のものに許されてゐて、それ以外の物は皆假面の力を借りることになつてゐるのである。

役者は元來或る假定された原型の複製物として舞臺の上に立つのであるけれども、原型の微妙なる感情の微候を一々器械的に模造することは到底不可能であるから、之を補ふ唯一の道具として同情感染の能力が賦與されてゐるのだと見ることが出來る。その感染した同情の表はれ方は、併し勿論個人的なものであつて、其處に役者の表現の價値が生ずるのである。また流儀の主張と稱するものも多く其處から來てゐる。けれども押しなべて同情感染の比較的自由に行はれる物は、それだけまた自由に見る方の頭にも同情が移り易いものであるから、形の上から想像を呼び醒まさせる爲の假面の必要は少いわけである。上の例で云ふならば、「盛久」や「七騎落」や「蘆刈」などの主人公の感情は我々が容易に想像で複製することが出來るから假面の必要はないのである。極端に云へばどんな顔でも其處に一つ見えてさへ居れば、同情感染の力（必ずしも形に現はれる程度に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は比例しない）で盛久とも實平とも里人とも受け取られる筈である。併しながら我々の前に立つ人物が天人である場合とか天狗である場合とか、或ひは業平である場合とか小町である場合とかには、我々は或る役者の日常的な顔を見るよりも一層誇張された假面を見た方が想像を造り上げるのに便利である。今自然居士の場合についても、彼は本來一說教者でありながら、不幸なる少年を救ひ出す爲に一種の捨身の行として無漢の舟に乘り込んで、舞、編木、羯鼓等あらゆる遊藝をさせられて、そのなぶられを代償として成功するといふ不自然な異常な境遇に置かれた其の心持を表はすには、他のどんな人間の顔を持つて來たところで、あの愛すべき、とぼけたやうな喝食の面より以上に良く效果を收め得るものがあるだらうか。之は一例に過ぎないが實際人間の顔面では不十分である所に假面は用ひられてゐるのである。

六

問題は元に戻つて、それほど效果の多い假面がなぜ能樂では主演者（シテ）のみの專用とされたのであらうか。ギリシヤの悲劇では登場する役者は皆假面を用ひた。從者若しくは使者までが皆假面を用ひた。これは調和といふ點から見ると當然の行き方で、同じ舞臺の上に或る役者は假面を着用して立ち、他の役者は假面を着用しないで立つといふことは、理由なしには許されない筈である。ところが、能樂ではそれが許されてゐる。その理由は何であらう。能樂は元來一人の主演者（シテ）を中心にした藝術で、例外として、「谷行」「檀風」「羅生門」の如くワキの役目の方が重くなつてゐるものや、「安宅」「正尊」の如くシテとワキの役目の重さが殆ど同等になつてゐるものや、または「蟬丸」の如くツレの位が高まつて兩シテとも云ふべき有様になつてゐるものなどがあるけれども、要するに原則としては主演者一人の爲に出來たものであることは爭へない。その主演者が一人で假面を着用することは、丁度その主演者が一人で舞を舞ふのと同樣に自然なことである。即ち主演者だけが假面を着用するのは演出上の強調を意味するもので、演出がすべて一人の主演者の周りに集まつてゐるとも見られるのである、

ギリシヤの悲劇では之と反對に、演出が一人の周りに集まるといふ傾向は早く移つて、主演者が一人から二人となり、二人から三人となつて、戯曲的興味が複雜となつて、今から二千四百年以前に於いて既に近代劇の方向を暗示してゐた。之は驚くべき現象で、我々は非常に大きな尺度で歷史を溯つて見ると、時々、藝術の第一期は古代のギリシヤに來て、また第二期は今

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日始まつてゐないのではないかと感じることがある。それほどギリシヤの物からは、本質的に完成してゐたといふ感銘を與へられる。けれども能樂から與へられる感銘は殘念ながら別種のものである。能樂は形の上に於いては殆ど間然するところのない藝術だといふことが出來るけれども、根本に於いてはギリシヤの悲劇の如く其の演出を一つの纏つた全體として押し進めようとする意向を缺いて、興味を部分にのみ集め、其處に萬全の表現を期待するやうな傾向になつた爲に、中心の成長が早く止まつて、力がすべて末梢的に發達した。之は辯護の出來ない缺點である。私は我々の民族の過去の文化の遺物として能樂をば最も高く値踏みすることに躊躇しない者であるが、それが果してどの程度まで今日の我々の生活に交渉してゐるかに就いては、或る一部の能樂心醉者とは大いに見界を異にしてゐる。今能樂の價値を定めようとするにはそれが我々の生活、我々の生命に、どれだけの力を與へ得るかを調べてかからねばならぬものであり、またそれが唯一の價値の定め方だと私は信じてゐる。ところが前にも云つた如く能樂は部分的に末梢的に發達した藝術であつて、或る大きな永久的な中心生命を強く捉へて、それで我々を搖り動かすやうな現はれ方をしてゐないから、今日の我々の藝術であるには不十分である。云ひ換へれば、それに依つて我々の生活をより善くし、我々の生命をより大きく成長させるには、餘りに古くなつてゐる。寧ろ二千四百年前のギリシヤの悲劇の方が却つて我々に訴ふる所が多い。之はギリシヤの悲劇は正しい大きな進み方をして生命の永久性に觸れてゐるけれども、能樂は岐路に入つて其處で停止したからではなからうか。とにかく能樂があれだけ立派なあれだ善いものを澤山持つてゐながら、大きな全人類的な永久的な藝術になり得なかつたことは返す返すも遺憾である。之は假面を主演者一人に用ひさせるやうにしたものが、また能樂その物をも末梢的にしてしまつたのではなからうか。今にして思ふと、假面はギリシヤ劇の如く簡單な實用的なものでもよかつたのである。若しさうであることが能樂全體をもつと大きくもつと深く進ませる力となつたならば。實際、大切なものは全體であり、中心であり、生命である。能面はそれ自身で完全になることに努めて自分の目的を忘れてしまつたのである。丁度佛像が今日では拜まれるべき其の目的を閑却されて見るべき美術品として愛翫されてゐると同じやうに。

七

最後に能樂とギリシヤ悲劇の假面使用上に於ける今一つの著

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しい相違は、前者に於いては役者は同一性格に扮してゐる間は決して假面を代へることはないけれども、後者に於いては同じ曲の中でも必要に應じてはその假面を取り代へて登場した。例へば偶然の出來事の爲に或る性格者の狀態に變動が生じた時の如きである。ユリピデスの「ヘレナ」では美しく輝いてゐたヘレナがメネラウスの不幸を聞いて失望して、その次に髮を切つて舞臺へ戻つて來た時には、涙で濡れて青白くなつた假面をかぶつてゐた。またソフォクレスの「王オイヂポス」の主人公が恐ろしい自分の運命を咀つて兩眼を抉つて現はれた時には、今までの威厳のある聰明な表情の假面は撤せられて、その代りに盲目となつて頬に血の流れた假面に代へてゐた。ギリシヤ劇に於いては早くから寫實的な方法が採用されてゐたので　假面の變更は當然の事として承認されてゐた。

能樂でも假面を代へる例として、例へば「道成寺」の女は鐘の中から出る時は般若の面に變へてゐるではないかと云ふかも知れないが、それは性格が變化したからである。もはや白拍子ではなくて蛇體となつてゐるからである。「鐵輪」の後シテが橋姫の面をかけるのも、初めの女ではなくて女の生靈となつてゐるからである。その他一々例證するまでもなく、性格の變化しない限り能樂では假面を變更しないのが原則である。それが能面に中間的な表情の工夫されてある理由で、此の點から見て能面の表現は流動的、暗示的であると云ふことが出來る。決して固定した唯だ一つきりの表現を持つたものではない。

イギリスの或る劇評家は假面の表現の固定的なることを非難して、假面では「ハムレット」は演じられないと云つた。王子ハムレットの複雜な心理は假面では演じられないだらうか。私はさうは思はない。例へば能面の如き行き方で感情の流動的に表現の出來る假面が若し造られたならば、それに適した演出に依つてハムレットは立派に見られるだらう思ふ。或ひは能面(例へば邯鄲男の面)を其儘使つても「ハムレット」が演じられないわけはあるまいと思ふ。「ハムレット」よりもつと近代的なもの(例へばメエテルリンクの作品の或る物など)でも假面でうまく演出することが出來るだらうと思はれる。

私は此處まで考察を辿つて遂に此の論文の目的とする二つの提案に到達した。

その一は能樂が今日の我々の藝術である爲には內面的に改造を加へることの必要がありはしないだらうか、である。能樂は力が表現にのみ行つて、單に形の藝術となりかけてゐる。その中に盛られた內容は我々の內生活に觸れて我々を純化するには餘りに單純であり餘りに因襲的である。此の内容を新にすること

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とに依つてそれをもつと我々に近いものとすることは出來ないであらうか。
その二は、能樂から其の假面の使用法を借りて、それを能樂とは別な或る種の藝術に用ひて、我々の顏面で表現するより以上の效果を出し得ないであらうか。我々はギリシヤに歸る必要はない。室町時代に歸る必要もない。或ひは操人形などを模倣するにも及ばない。ただ我々の描く或る種類の演出は假面を用ひることに依つて最も有效に實現されはしないだらうかと思ふのである。
これ等に關する私の更に詳細な具體案は別の機會に於いて讀者の批判を仰ぐことが出來るだらうと期待してゐる。（完）

談話賣買處から買つた話

村松梢風

三月の月初めのある日の午後、私は一寸あの邊に用事があつて、丸の內有樂町の或る横丁を通りました。それは俗にヤマカン横丁と云ふ處で、どれもこれも同じく燐寸術を積み上げたやうな恰好をした赤煉瓦造りの建物の入口には、曰く何々商會、曰く何々株式會社、曰く何々創立事務所と云つたやうな眞鍮の表札が五枚から六枚、或ひは十枚も十五枚もズラリと掛かつてゐるのでした。往來の端にはタキシーが幾臺も並んで、甲羅が息ついたやうな恰好をして休んでゐる、かと思ふと、其の側では辻待ちの車夫が汚ない毛布を膝へ掛けて、鉈豆の煙管で莨を喫つてゐる、西洋料理の出前持ちが自轉車を突つ走らせて行く、通信社の袢纏を着た配達小僧が驅けて來る。其の中を日本人と外國人と七歩三歩位の割合で步いて居ります。其の人達の眼いろを見ると、事業だの金儲けといふ事が何れ位人間を昂奮させるものだかといふことが判ります。況んや哲學だの藝術だのが人間の生活要素をなしてゐるやうなどとは、寧ろ不思議な位に思はれて參ります。暦の上でこそ最早春であるにも係はらず、地

上のものは、人間でも樹木でも、總てが冬の儘の姿をして居りました。空からは、黄色い頼り無げな太陽の光線が落ちてゐる。可成り冷つこい風が埃を捲き上げて窓といふ窓を鳴らせてゐるのが、一層この横丁全體の氣分を慌ただしく感じさせるのでした。私は何氣無く歩いて居りますうちに、不圖、ある建物の高い處の窓に金文字で記されてある妙な文字を發見致しました。それは Story's Exchanging（談話賣買處）と書いてあるのでした。私は其の瞬間に「ハハア、是れだな」と、思ひ當つて足を停めました。そして猶も其の窓をば見上げて居りましたが、此の珍奇しい職業家に會つて見度いといふ好奇心が、最早一刻も私に躊躇してゐる餘裕を與へませんでした。私は用事の方は後日に延ばすことにして、直ぐ樣其處の石段を驅け上つて、重たい扉を押して中へ這入つて行きました。這入ると直ぐ右手の壁に部屋の番號札が掛かつてゐるのを見ると、三階の部の二號室といふ處に「談話賣買處」と書いてある札が眼に付きました。其處には粗末なテーブルを置いて詰襟の服を着た受付が出てゐたが、私はそれには斷らずに突き當りの階段をばドン／＼驅け上つて行きました。階段は二た曲り宛曲つてゐた。どの部屋からも、話し聲だの、電話の鈴がチリチリ鳴る音だの、算盤を彈く音だのが、騒然とした一つの音響になつて、私などの曾て知らない慌ただしく緊張した世界を暗示するかのやうに廊下迄溢れてゐるのでした。此の建物は三階がとめでした。其の一番上層の廊下の兩側を順々に見て行くと、どん詰りの處にある突き當りの部屋の扉の上に NO.2. とチョークで書いた札が掛かつて居りました。私は扉をコツコツと叩した。すると直ちに扉が明いて中から十二三位の少年が現はれて「何卒お這入り下さい」と云ひました。少年は通例役所の給仕などが着る詰襟の服を着て頭も五分刈りにしてゐるのですが、色が白くて、紅い唇と女の兒のやうな眸とを有つてゐる其の容貌から、私は何んとなく支那小説の中へ出て來る玉顏の少年と云つたやうな氣持を感じるのでした。少年は、四疊半位の廣さの其の取つ附きの部屋でお伽噺でも讀んでゐたところらしく、テーブルの上には赤い表紙の本が開いた儘で伏せてありました。私が默つて名刺を出すと、少年も默つてそれを受取つて閾を排して奥の室へ這入つて行きましたが、直ぐに引き返して來て「こちらへ」と戸口から私を誘なひました。奥の室は長方形をした隨分廣い部屋でした。其處には床一杯昔阿蘭陀あたりで織つたものだらうと思れる紅や黄や青色で樣々の不思議な型を染め出した絨毯が敷いてあつた。幾つかの窓には、褪紅色の天鵞絨のカーテンが程よく引き絞られてある。支那製の紫檀の大机だの、一つ一つ形の異つた安樂

椅子だの、七寶の花瓶だの、それから早春の氣を象徴してゐるやうな鉢植の木瓜だの、さうした幾分クラシカルな趣味に偏してゐる室内の調度の色や形が、元來殺風景な事務所風の部屋の中に不思議なくらゐ落ち着いた氣分を作り出してゐるのでした。主の談話賣買業者はストーブの側の椅子から起ち上つて「さあ何卒」と、掌を上へ返して自分の前の椅子の方へ差し伸べながら愛想よく云ひました。ストーブでは石炭がとろとろと燃えて居りました。私は外套と帽子とを少年の手に渡してから主と向き合つて椅子に腰掛けました。談話賣買業者は、鶴の足のやうに細い四脚の圓テーブルの上に置かれてゐる私の名刺と、私の顔との間に一二度視線を往來させながら眼尻に皺を寄せて「お名前は豫て雜誌で承知して居ります」と、すこし錆びのある聲で云ひました。談話賣買業者の容貌は大抵私が想像してゐた通りでした。可成り白髮は眼立つが齡の割りに澤山ある頭髮を長く伸ばして、それを左から品よく分けて居りました。血色のよい肉付きの豊な無髯の顔には剃刀が綺麗に當つてゐた。彼は、灰色の天鵞絨のヅボンとチョッキを着て、上にはジヤケツ型の黒天鵞絨の上衣を着てゐた。黑地の巾の狹いネキタイの結び玉と、左手の無名指に、大きなダイヤモンドがストーブの炎を中に吸ひ込んで美しく耀いてゐた。さうした彼の風采は何處から見ても藝術家で、是れが商人とは思はれぬのでありました。

「實は唯今下を通りかけて偶然お名前を發見しましたので、早速お訪ねしたやうな譯です」と私は云ひました。

「左樣ですか、よくお寄り下さいました。まだ開業以來日が淺いので世間の人も餘り澤山識つて居りません、時に「飲酒家の話」を拜見しましたが、あれは何んですな、彼等三名に私から談話二重賣りの告訴を提起する權利が御坐いませうな」

「否、あれは實は居酒屋の主婦から私は聞きましたのです。ですからあの善良な三名の者には少しも落度はありません」

「左樣でしたか、これあ私の手落ちでした、アハハハ」

談話賣買業者は恁う云つて隔意無く笑つて、テーブルの上のマドロスパイプを手に取つてパッと紫色の煙を吐きました。

「早速ですが、今日は一つたあなたから面白い話を賣つて頂き度いのですが」と私は切り出しました。

「ヘイ〳〵、承知致しました。が、お好みは何の邊で御坐いませうか？恁んな極めになつて居りますのですから」

談話賣買業者は傍らの壁の方を指差しながら恁う云ひました。私はさう云はれて初めて氣が付いて見ると、其處には黑塗りの板に金文字で記した「談話賣價表」が掛かつて居りました。それで見ますと、五分間以内の談話が拾圓、五分以上卅分以内の談

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

話が參拾圓、卅分以上一時間以内の談話が五拾圓としてありました。私は結局一番高い五拾圓の口を買ふことにしました。

「其で、談話の題目はどういふ方面を撰びませうか？人情、宗敎、科學、敎訓、滑稽、復讐、報恩、探偵、妖怪、詐欺、賭博其他の事でも御註文に應じて何んなのでも出しますのですが」

私は子供が玩具屋へ行つたやうに眼移りがして、どれもこれも面白さうに思はれて來て、急には極められなくなつてしまひました。

「實の處を申しますと、私は近來雜誌へ書く物の種が盡きてしまつて困つてゐるのです。で、あなたの處からウンと面白い話を仕入れて行つてそれで世間をあツと云はせようといふ考へなんです。ですから題目は何んでも構ひませんから、何かから非常に奇拔な、殆んど有り得べからざるくらゐ不思議な話が願へれば結構だと思ひますんですが」

「承知致しました。では其の樣な話を致しませう。が、どんなに奇拔な不思議な話と申したところで、有り得可からさる事などは絶對に無いものでして、通常人間の想像の及ぶ位の事柄なれば何處にでも轉がつてゐるのです。世の中には、吾れ吾れの想像だも出來ない奇妙な事柄までが立派に存在して居るのです。かういふ不思議な事實を搜索探究して、それを社會に發表するといふことは、科學者や藝術家の最も大きな任務であります。ですから科學者や藝術家の考へは常に常人の想像以上に突飛でなければなりません。若しも科學者にして在來の眞理や目前の現象に就て研究する事を以て能事とし、藝術家にして日常茶飯の人生を描寫する事を以て甘んじて居りますならば、それは彼等が自己の使命を正しく理解してゐるものとは申されません。處で、私があなたにお話し致します事なども、不思議と云へば不思議ですが、勿論有り得べき事柄で、而も是れは正しく在つた事實なので御坐います」

談話賣買業者は恁う云つて、折柄給仕が運んだ來た熱い番茶を啜りながら、偖次ぎの如く語り出しました。

談話賣買業者の話

一

東京の上野櫻木町邊に住居してゐる千種茂（假名）と云ふ紳士がありました。彼はまだ卅を一つ二つ出たばかりの血氣旺んの年齡でありました。彼の父親といふ人は、醫者で、明治十年頃に獨逸へ洋行して、歸來神田駿河臺に千種病院といふ大きな病院を設立して其の院長として社會的にも隨分名前を賣られた人

でしたが、彼がまだ七つか八つで漸く小學校へ通ひ始めた時分に働き盛りの齢を以て死んでしまひましたので、病院は他へ讓り渡して家族は櫻木町の本宅へ引き籠り、母親は唯一人の悴の茂を相手に淋しく暮らしてゐたのでしたが、其の母親も二三年前に世を去つて、只今では家族と申しましては召使奉公人を除けば主人公の千種と、彼の妻の綾子と、夫婦の間に出來た當年三歳になる光と云ふ男の兒と、僅かに此の三人だけなので御坐いました。千種は五六年前に帝國大學を卒業して法學士の肩書を有つて居りました。彼の學生時代の友人の大部分は、と云ふよりは殆んど其の全部が、或ひは辯護士を開業し、或ひは會社員となり、或ひは役人となり、或ひは少壯教授となり、各々方面を求めて社會に活動してゐるのでした。千種と雖も、何か職業を求め、自ら進んで世の中へ出ようと思へば幾らでも出られる資格が有り、事實さういふ機會も是れ迄に澤山あつたのでした。然るに彼は、未だ嘗て一度も就職をしたこともなければ、何等の事業に手を出した經驗も有りませんでした。彼は全く何もしずに遊んで暮らして居りました。何もしないといふことは、澤山事をする以上に辛敬しなければならないこともありますが、彼の場合はどうであつたでせうか？勿論、遊んでゐても食へるだけの財産が有るからだと云つて仕舞へばそれ迄の事で、强ち詮索を試みる要も無い譯ですが、併し、唯遊んでゐても食へるといふだけの理由ならば、世間には彼以上立派に贅澤に遊んでゐても食へる身分でありながら、其の日暮らしの貧乏人よりもあくせくして生活してゐる人間も有ることですし、且又、それが多少此のお話を進めて行く順序ともなることですから、一通りの說明を致す次第で御坐います。大學當時の彼の友人でも敎師でも、彼が可成り明哲な頭腦の持主である事を承認する點に於て一致して居ります。併し、頭腦の明哲といふ中にも種々あるものでして、例へば物を鏡に照らして觀るが如くに平面的に發達してゐる頭腦もあれば、眞暗い中から折り折り星の耀く如き銳い光を放つ頭腦もあるのです。で、千種の場合は何ちらかと云ふと其の後者の部に屬して居るのでした。是れは善く云へば天才的、惡く云へば病的とも云へるのでありました。此の傾向が、彼の性格や思想に影響して、境遇に似合はぬどこか暗い感じのする千種といふ人間を造り出してゐるのでした。元來彼の如き頭腦性格の所有者には、法律だの經濟だのといふ學問、或ひはさうした學問に關聯した事業は不適當でありました。彼は誤まつて大學の法科へ入つたやうなものの、卒業する時分には自身に於ても更にさういふ方面の野心も興味も有つては居らなかつたのです。で、彼は多くの同窓の中で唯一人取り殘され

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、殊更に社會の背後に隠れてゐるやうな生活をしてゐるのでありました。彼は餘程以前から頻りに文學書を漁つて讀みました。文學は彼に最も適して居るものでした。彼はオスカーワイルドの物や谷崎潤一郎の作品を最も愛讀致しました。殊に其の變態性慾的描寫が彼の官能を快く刺戟するのでありました。偖最後に、千種と其の妻との關係をすこしばかり説明して、愈本題に取り掛ることに致しますが、是れは一言に盡せば、至極平凡な夫婦と云ふの外はありません。とは云へ、彼等夫婦も過去に於ては熱烈な戀人同志であつた時代も御坐いました。結婚が人生に於ける陷穽であるとは古來云ひふるされてゐる格言であります。亞米利加の或る社會學者は是れに就て恁う申します。男でも女でも一度は結婚をして見なければ異性に對する眞個の理解は生れて來ない。然るに實際に於ては其の無理解者同志が結婚するのであるから、極めて少數のマグレ當りを除いて其の結果が悲劇或ひは悲喜劇的運命を招來するのは當然のはなしである。故に、此の人生の不幸を減少させるためには、須らく二回宛の結婚を奬勵するに越した策は無い、と云ふのが其の結論であります。彼は第一回の結婚に對して試婚といふ言葉を用ゐて居ります。又、私の識れる或る人は恁う申します。女は骨董屋だ。賣り度くて賣り度くてしようのない代物をさも賣り度くないやうな顔をして男に見せびらかす。そこでお客である男は矢も楯も溜まらなく欲しくなつて遂々だまされて買つてしまふ。買へば必ずガマセ物であるから、早晩箔が落ちて後悔するに極まつてゐる。議論や比喩の當否は別として兎に角一面の眞理を穿つてゐることだけは否まれません。餘談は偖措き、千種も結婚生活に對しては尠なからぬ失望を感じてゐる不幸な人間の一人でありました。妻の綾子は、溫雅な性質と、圓滿に發達した常識と、豐麗な容貌體格とを具へた婦人でありました。骨董屋だとすれば、甚だ美しいそうして上品な骨董屋なので御坐います。千種は彼女を愛して居りました。其の上にも一層愛し度いといふ氣持さへ持つて居りました。それにも關はらず、彼の心の底の何處かで慾求してゐるやうなものは妻からは得られないので御坐います。彼は其の缺陷を妻以外の相手に依つて滿たさうとも考へました。そういふ場合に世間の男達がするやうに遊蕩も試みました。けれどもそれは勿論失敗に終りました。商賣人と名づくる鑄型に嵌められた荒んだ女の魂や肉體から、多少とも心の糧に類似した物を求めようとするのは、磧で眞珠を探すに等しい振る舞ひで御坐います。

二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

或る日千穂は本郷森川町邊迄一寸した用達しに出掛ました。其の歸途を彼は電車に乘らずに、大學の構内を拔けてブラ〳〵散步しながら櫻木町の我家へ歸ることに致しました。構内の櫻樹は水々しい青葉を初夏の空に耀やかして居りました。ポプラの並木は凉しそうな陰影を規則的に地上に投げて居りました。樹木の間からは、煉瓦造りの建物が赤々と太陽の光に燃えて居りました。丁度教室が引ける時刻と見え、大道路や樹間の小徑から澤山の學生がゾロ〳〵續いて出て來るのに遇ひました。千穂は學生の群れを見ることに依つてほんの一瞬間自身の過去の姿をボンヤリと腦裡に描きました。併しそれは懷かしくも何んともないものでした。彼の念頭からは直ぐにそれも消えてしまつて、單に、自分に何んの交渉も無い多數の人間が步いてゐることを意識するだけにとどまつて、彼は全然別の事を考へながら步いて居りました。すると突然、其の中から一人の學生がツカツカと彼の前へ進んで來て「やあ」と云ひながら帽子を取つて丁寧に一辭儀をして、「どちらへお出掛けで御座います?」と、莞爾々々笑ひながら割りに慣れ慣れしい調子で申しました。千穂は尠し面喰らひました。何故かと云へば其の學生の顏に彼は見覺えが無いのでありました。學生は角帽だけは冠つてゐるが、身にはセルの着物を着て同じ物の袴をはいて居りますので、何科の者とも分りません。千穂は、其の赤い面皰のある、眉の太い莫迦に鼻の大きな感じのする學生の顏を須臾見詰めて居りましたがどうしても思ひ出せません。併し彼は是れ迄にも折り折り人の顏を見忘れてゐたために後で極りの惡い思ひをした經驗もあることだし、且つ又突嗟の場合に出端を挫く事も躊躇されたので、同じやうに帽子を取つて、輕く頭を下げながら「一寸其處迄來まして家へ歸るところです」と當り障りの無い有りの儘を答へました。すると學生は意外な面もちをして、

「おや、先生はこちらの方へお引越しになつたんですか?僕はちつとも知らずにゐました」と云ひました。

千穂は親の代から櫻木町に住んでゐるのでした。其の上彼は自身に對して「先生」といふ言葉を用ゐるやうな學生には一人も近付きは無い筈でした。最早先方が人違ひをしてゐるのだといふことが明かに判斷が付きました。

「失禮ですが、人違ひではありませんか?僕は櫻木町に居る千穂といふ者ですが」

すると學生はハッと驚いて、眼を皿のやうにしました。が、其の顏は見る見る赤くなつて、非常に狼狽し始めました。

「いや……どうも……失敬しました」と學生は吃りながら云つて、續け樣に二つ三つ頭を下げると、逃げるやうに千穂の前を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

離れました。些し歩き出してから千種が背後を振り向いて見ると、丁度向うでも振り返つて、まだ何んだか得心がいかぬと云つたやうに見える其の顔とバツタリ合ひました。

家へ歸つて千種は其の事を妻の綾子に笑ひながら話しました「まあ、隨分そゝつかしい人があるんですわね」と妻は呆れたやうに云ひました。

「うむ……」千種は先刻の學生の眞面目な眼付きを思ひ出すとそれを單にそゝつかし屋とばかりは解されないやうな氣持が致しました。「事に由ると何處かに俺によく肖た人間が居るのかも知れない」彼はふと怎んなことを考へて見ました。けれども、其の事は間も無く夫婦の間で忘れられてしまひました。

また或る時のことで御坐いました。千種は妻と二人で帝劇へ參りました。彼等夫婦が揃つて芝居見物に出掛けるなどといふ事は滅多に無い事でした。それは知り合ひの處から無理に切符を賴まれたので止むを得ず行つたのでした。千種は、幼少の頃から比較的多く演劇に親しむ機會を有つて來て居りながら小說と異つて、どういふものだか未だに其の趣味を眞個に解する事が出來ないのでありました。所謂型だとか舞臺の情調だとかいふものの味は彼には殆んど解りませんでした。ただ芝居を見て彼が面白く感ずる事は、白粉や紅をコテ〳〵付けた奇體な容貌を眺めることと、それらの人間が斬つたり張つたりするところの場面だけでありました。だから比較的上品で斬つり張つたりのしぐさが乏しく、顏の作りなどでも餘程寫實的の傾向のある帝劇の芝居は殊に彼には退屈なものであることを自分でも知つて居りました。で、今日も實は綾子に女中を附けて寄越して自身は御免を蒙るつもりで居りましたところが、間際になつて其の事を云ひ出すと綾子が承知致しません。

「わたくし、うめ(女中の名)と參るのでしたら止めます」

鏡臺の前に坐つて乳から上を露出して化粧をしてゐた綾子は怎う云つて白粉を塗る手を止めて、眼に泪を浮かべるのでした。千種は身に甘酸ぱいやうな快感を覺えながら、急に前言を取り消して自分も行く事にしたのでありました。が、劇場へ來て見ても千種には一向面白い事はありませんでした。多くの人々はしんそこから自分の幸福を味はつてゐるやうな明るい顏をして廊下だの食堂だのを往き來して居りました。綾子は勿論其の一人でありました。華やかな色彩も、香りの高い空氣も、千種には何等の刺戟を與へないのでありました。幾幕か濟んだ後の幕間でありました。千種は妻を獨り座席へ殘して置いて二階の廊下へ出ました。彼は壁に凭れ掛かつて、自分の前を通る澤山の人間を全く無意味な眼で眺めて居りました。するとだしぬけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に、彼を吃驚仰天させるやうな事件が其處に持ち上りました。それは向から孔雀のやうななりをした若い女が還つて來て、彼の顔を見るなり頓狂な聲を出して「あらッ！」と叫んだのが皮切りでありました。

「まあ——先生入らしつてたの——？ちつとも知なかつたわ、だつてさう默つてらつしやるんだもの、ずゐぶんだわ——あれ御覧になつて、岡本先生の？ちよつといい芝居だわね——あ、そうそう、あたしネ、先生にお話しし度い事があつてよ、だけど玆ぢや不可ないわね、食堂へ行きませうか？」

其の女は千種の側へ寄るなり殆んど一と息に是れだけの事を喋り續けたのでありました。千種は唯々呆氣にとられてキョトンとした眼で相手の顔を見守つて居りました。女は、頭の横つちよで分けた髮を耳の上で縮らせてゐました。思ひ切つて荒い縦縞のお召の着物を着て、銀色にピカピカ光る帶をしめ、半玉が着そうな派手な友禪模様の羽織を着て居りました。其の體は丈が高いので立派に見えました。肉付きが非常に豐で、眼がすこし細過ぎるのと口が少々大き過ぎるのが難と云へば難ですがその細い眼にも人を惹き付けるやうな光があつて、顔全體に何處となく生き生きした奔放な感じが溢れてゐるのです。それは一と眼見たばかりで女優だといふことが分りました。けれども其の女優が何者であるかといふことは、千種には更に見當も附かないので御座います。彼女は言葉が切れると同時に、両方の掌を胸の處へもつて來て、しなしなした十本の指を組み合せながら、着物の輪廓に蛇の蜒りのやうな曲線を幾つも畫いて、首をウンと右の方へ傾げ、宛然舞臺でする通りの表情をして、相手の返辭を待つ風をして見せるのでした。千種はそれを見るとうつかり吊り込まれて、危うく自分も相手に親しみをもつたやうな笑みを浮かべそうになるのでした。けれども彼は漸うそれを押し止どめて、ヘドモドした調子で申しました。

「失禮ですが、人違ひではありませんか。私は千種といふ者です……」

「あらッ！」女優は非常に強い驚駭の聲を發して叫んで、組合はせてゐた手をパラリとほぐして背後に引いて、眼を張り切れるほどに見開いて相手の顔を凝視めて居りましたが、軈て何物かにぶつかつたやうに視線を逸らせると、困惑と羞恥とで滿たされた、寧ろ悲しそうな表情を其の面上に漂はせました。彼女の薄い唇はぶるぶると生物のやうに動きました。そうして耳朶は眞紅に燃えて透明になりました。

「あたし、どうしやう……あなた御免下さいましッ」

彼女は恁う云ふと同時に兩方の袂を顔へ當てて、グルリと向

きを變へるが否やバタ〳〵其處を驅け出して、向うの階段から猶も下の方へと逃げて行きました。千種は夢から醒めた瞬間に似た意識で、今の女の幻影をもう一度明るい光の中に置いて見るのでした。座席では綾子が獨りで淋しそうにして居りました。彼は其の隣りへ並んで腰をかけると直ぐに今の出來事を話しました。

「そら、此の前も大學の中で學生に間違へられたと云つて話したことがあつたらう？今度で二度だからね——どうも考へて見るのに、何處かに俺とそつくりの奴があるだらうと思ふんだ」

「まさか——。他人の空似つてよく云ふ事ですわ」

「處が、他人の空似ぐらゐの程度ぢやないらしいんだ。實に間違へ方が念入りなんだからね。吃度俺と瓜二つといふ人間があるのに違ひないね」と千種は言葉に力を入れて云ひました。

「まあ、厭だわネ」と、綾子は美しい眉を寄せて申しました。自分がたつた一人の愛する夫と瓜二つに似てゐる男が他にあるだらうなどといふことを想像して見るのは、彼女に取つては何んとなく無氣味なやうでもあれば不愉快な事でもありました。

此の事件も矢張り其の場限りで彼等の話題には上らなくなりましたが、併し千種の念頭からは、帝劇の廊下であつた出來事と其の時の女の面影とが久しく消えずに殘つて居りました。千種はいつとなく、大學の構内の出來事と、帝劇の廊下の出來事とを同じ因果に結び付けて考へて居りました。大學生が間違へた相手と、女優が間違へた相手とが、同一の人物であるに相違無いといふことを、それには多少推理的の判斷も加はつてゐたが概して盲信的に信ずるのでありました。そして、自分に似てゐる其の男といふのは一體何をする人間だらうと考へて見ました。學生でも女優でも自分を呼び掛ける時「先生」と云つたところから見ると、學校の教師か、畫家か、醫者か、或ひは女優などに交際があるところを見ると文士かも知れないと彼は想像するのでした。相手は何者にもしろ、自分と全く酷似した人間が此の地球上にもう一人存在してゐるといふことは、彼が嘗て是れ迄夢にも考へて見たことの無い事實でした。しかも今やさういふ人間が此の狹い東京市内に實在してゐることが確かめられたとして見ると、それは非常に興味の有る問題となるのでありました。其處からは亞米利加物の活動寫眞を見るやうな奇怪な幻想が、蜘蛛の巣のやうに幾らでも糸を引いて擴がつて行くことが出來るのでした。千種は折り折りそういふ幻想を追つては自ら樂しんだり怖れたりするのでありました。

三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

年末で御座いました。千種は其の時銀座を歩いて居りました。道路に植ゑられた柳が、寒さに顫へた哀れな姿を薄い陽に曝して居りました。敷石の上に撒かれた水は忽ち凍り付いて、下駄の齒が觸れると軋るやうな音を發しました。通行人は隨分劇しく往き來して居りました。けれども何れを見ても、男達は二重廻しや外套（オーバコート）のポッケットに兩手を突つ込み、女達はショールの中へ顎を埋めて考へ深さうに胸先きで袂を組み合せ、賣り出の景氣付けや耶蘇降誕祭（クリスマス）装飾（デコレーション）を施した店窓（ショーウヰンド）に眼を注ぐ者も無く、往來は歩くものだと云ふやうにサッサと通り過ぎてしまふのでありました。千種はとある大きな食料店の前で足を停めて、其の店へ這入つて行きました。店の中には、拵らへ物の櫻や紅葉の樹が立つてゐました。高い天井の近くには、絲瓜だの、夕顔だの、朝顔だのが、金や銀の絲であつちこつちへ引つ張られて居りました。光線が樣々の色彩を帶びてゐました。客は足音を立てずに、店の中を靜かに動いて居りました。千種は買はふと思ふ品物のレッテルを讀んで見たり致しました。店の奥の方に大きな鏡がありました。それには千種の全身と、店内の一部分とが映つて居りました。彼が何心なくそれに眼を付けて立ち停まつてゐた時、何といふ不思議でせう？鏡の中の自分の姿が急に歩き出したではありませんか。「おやッ」と彼は聲を立てそうになりました。が、殆んど同時に、自分の姿が鏡に映つてゐると感じたのは眼の錯覺から來たことで、それは實在の他人だつたことが分りました。さう思つて見れば、帽子でも外套でも自分の身に着けてゐる物とは全く色も型も異ふのでした。しかし彼は更に駭きました。其の男の顔と千種自身の顔とは何んにも違はないのでありました。年齢も、丈の高さも、體の肥り加減も、丁度同じ位でありました。若し第三者が二人を並べて見るならば、同じ出來の人形に着物だけ異つたのを着せて見るのと更に變りは無かつたでありませう。突嗟に千種の腦裡には、大學の構内と帝劇の廊下とに於て自身が遭遇したところの二つの出來事が浮びました。其の出來事と眼の前にゐる人物とが意識の中でピタリと結び付くと同時に、「是れだッ！」と彼は心の中で叫びました。夢から現實へ飛び込んで、それから復夢の中へ舞ひ込んだやうな氣持でありました。何故さうしたのか彼自身にも判らないのでしたが、其の時彼は非常な素速さを以て、丁度野獸が人間を見て姿を隠す時のやうに、直ぐ側に出來てゐる狹い通路の中へヒラリと身を翻へして這入りました。すべてが全く無意識的に、殆んど一瞬間に行れたのでありました。向ふの男は他の物事に氣を取られてゐて、尠しもそれには氣が付かない樣子でありました。そしてウヰスキーの小瓶を一本と鑵

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

詰を少々買つて其の店から出て行きました。千種も直ぐに後を追つて外へ出ました。かの男は買ひ物を手に提げて、ちつとも寒そうな風もなく悠々と歩いて居りました。千種はそれと十間以上の間隔を保ちながら何處迄も蹤いて行きました。彼の心は探偵小説の主人公と同じ興味で緊張し切つてゐて、眼には其の男の背中だけが寫つて居りました。彼の男は、尾張町の交叉點を右へ曲ると、それから五六軒行つた處にあるカフエーへ這入りました。千種は往來から帽子を眉深にかぶり直して、襟卷を鼻ツ先きでグルグル巻きにして、そうして彼も其のカフエーの扉(ドア)を押しました。それは近頃出來たばかりのこじんまりした店で、這入ると直ぐにピカピカ光る階段が眼に付いて、其右手の土間には大理石のテーブルが十個(とう)ばかり並べてあります。見ると、例の男は一番奥の勘定臺の前のテーブルに向つて向うむきに腰を卸して、劇染客と見えて早やボーイを相手に何か頻りに話して居ります。其の側には白粉を澤山塗つた女給仕が二三人集まつて其の話を聞いてゐます。千種は往來に近い窓際のテーブルへ横向きに腰を掛けました。すると女給仕の一人が彼の側へ來ましたが、彼がウヰスキーを命じると、角瓶とグラスを其處へ持つて來て其の小さなグラスへぞんざいな注ぎ方をして、直ぐに向うの仲間へ立ち去つてしまひました。注いだ時に溢れた酒が純白の石の表面に透明に盛り上つたままで居りました。彼の男は何を話したのか、其の言葉が切れると同時にボーイも女給仕も一緒に「ハハハハハ」と面白さうに笑ひました。

「山村先生の芝居は何時からなんですか?」と、束髪に辮のある、眼が細く潤んだ、ねつとりとした感じのする女給仕は彼の男に向つて訊きました。

「明日が舞臺稽古で明後日初日を出すんだ。どうも僕達の芝居はろくな時やれないから閉口さ」と彼の男はグラスを口へ持つてきながら云ひました。

「六條春路さんも出演(でる)んでせうね?」と、今度は圓顔の島田が訊きました。

「ああ出演(でる)よ」

すると名々(めいめい)は顔を見合せて意味有りげな笑ひを浮かべました。六條春路——何んだか聞いたやうな名だと思つて千種は考へると、直ぐに頭に浮びました。その、お公卿樣の娘が踊りの師匠になつたやうな變挺な名前の持主は、確か新劇女優の一人でありました。ふだんは何處の舞臺へも出てゐるといふわけではないので世人の記憶から抹殺されて居りますが、年に二三回位三日か精々一週間ばかり何處かで旗上げをして、新聞紙上に其の名をとどめたかと思ふ間もなく、何時の間にか行衞が知れ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なくなつてしまふ三日月のやうなそういふ女優の生活といふものに對して、門外漢である千種はかねぐ〵尠なからぬ疑問を抱いて居るのでした。談話の樣子で、彼の男も矢張り新劇の俳優か又それに關係のある文士に相違無いことだけは千種にも略想像されました。が、それよりも彼が駭いたのは、彼の男の音聲でありました。千種は、高等學校時代から鼻の病氣に罹つて、爾來三年に一度位づつ大學病院で手術を受けてゐるのですが、今以てそれが全快せず、彼の鼻孔は其のために年ぢう不愉快に詰まつたゐて、自然音聲が普通の人の感冒を引いた時のやうな鼻聲になつてゐるのでした。處が、向うにゐる男の聲も矢張りそれでありました。彼は向うの男も自分と同じ鼻の病氣を有つてゐることを明かに知ることが出來ました。彼の男は、軈て椅子から起つと、「左樣なら」と威勢のよい言葉を後に殘して、黑のソフト帽子の頭を手で押さへながら出て行きました。千種も直ぐに女を呼んで、一枚の札をテーブルの上に投げ出した儘カフエーを飛び出しました。見ると、男は數寄屋橋の方へ向つて大跨にスツ〵と歩いて居ります。千種は氣取られぬやうに態と反對の側を同じ方向に歩いて行きました。數寄屋橋で彼の男は立ち停まつて電車の來るのを待ち始めました。千種はすこし離れた處で背後向きになつて濠の方を眺めて居りました。鉛のやうな濠の水に風が鱗のやうな小皺を作つて居ります。高架線の電車が風のやうに走り過ぎました。石橋の上をば絕えず電車や人が忙しそうに往來してゐる。見慣れてゐる此の邊の景色、今日に限つて千種には一種變つた感じを與へるのでした。好奇心と云ふよりは一層强い異常な昂奮に驅られてゐる千種の眼には寂寞とした平凡な風景までが何んとなく神秘的な色調を帶びて感じられるのでした「何んのために自分は此の男の跡を跟けて行くのだ?」といふやうな反省の聲は、此場合彼の心のどんな隅つこに於ても聞かれぬ聲でした。唯夢のやうに蠢いてゐた架空の人物が、ヒヨツコリ眼の前に現はれて來た事實が、却つて益彼の心を一層奧深い空想の窖へ追ひ込んでしまふのでありました。丁度物の陰影が實體に附き纏つてゐなければならぬやうに、彼も其の影のやうな運命に支配されて動いてゐるのでありました。

四

彼の男は飯田町三丁目で電車を降りると、猶半丁ばかり先迄歩いて行つて、其處から左へ曲る横町を這入りました。横町の口もとの邊りには、湯屋だの、魚屋だの、八百屋だの、そうした商家が多いのですが、約一丁ばかり奧へ行くと、片側には主

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に學校だの、病院だの、教會だのといふ大きな建物が眼に付いて、其の反對の南向きの側には、中流階級の勤め人の住宅と云つた家ばかりが並んで居ります。其邊には何の圍ひ内にも櫻の樹が植ゑられて、春から夏へかけての住み心地の善さを想像させるけれども、今は徒らに其裸のやうな枝を空に張つて、殺風景な無數の電線と共に薄い陰影(かげ)を地上に落として居ります。路傍にはコンクリートで固めた幅の狹い深さの割合に深い溝が樋(とい)のやうに通つてゐて、稍勾配を作つて居る其の底をば飴色のとろとろしたやうな水が、腐つた木の葉や紙切れなどと一緒に尠し緩流れて居ります。どの家でも門の前に花崗石を三枚位づつ並べて溝に渡してあります。と、彼の男は其の並びの一軒の家の石橋を渡つて門の潜戸を開けて中へ這入つてしまひました。千種は少し遅れて其の前迄參りました。門の柱には山村民雄(假名)と書いた表札が掛かつて居りました。家はまだ新らしい建物で、南に椽のある二間位の二階が附いてゐて、障子の玻璃越しに、部屋の中の書物棚などが、疎らな植込みの間から透けて見えて居ります。山村民雄といふ名前を見て、千種は始めて彼が如何なる人物であるかを確かめることが出來ました。それは新進の脚本作家として識られてゐる文士の一人でありました。山村が小說を書き始めたのはもう古い事で、以前から文學專門の雜誌などには折りふし其の作品も發表してゐたのですが、其の頃の彼は僅かに文壇の一隅に名前を識られてゐたに過ぎませんでした。然るに彼は近年小說に筆を絕ち、專ら脚本の創作に從事すると同時に、自ら新劇運動にも加担して、其の作になる社會劇などは折り折り小劇場の舞臺に於ても上演されるやうになつたところから、近頃メキメキ賣出して、「山村民雄」と云へば文壇でも劇壇でも相應に認められてゐるのでありました。文學に嗜好を有する千種は、餘り澤山は知らないが、一つ二つは山村の作品も雜誌で讀んだ記憶があるのでした。彼は暫らく其の門の前に佇んでゐた後で、元來た道を引き返しました。

「どうも不思議だ――」と、彼は呟やきました。彼の眼の前には、山村民雄の顏がハツキリと灰色の虛空に畫かれてゐる。それは丁度自身の顏を鏡に映して見てゐる通りに……。「俺が若し彼と同じ服裝をするならば、誰がどう見たつて二人の間に見境ひが付く氣遣ひはない」同じ人間が同時に此の世に二人存在してゐるのと些しも變りは無くなるのだ……。彼は、幼少の頃聞いたお伽噺の隱れ簑といふ物の存在を、大人になつてからも折り折り空想してゐるのでした。それとは事柄は違ふけれども自分が若し山村といふ戲曲作家と同じ服裝をすることに依つて人目を欺瞞する場合を想像して見ると、丁度隱れ簑を着て居る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

消してしまふのと同じ性質の興味をそれに對して感じるのでした。「そういふ事が出來たら何んなに面白いだらう？」大學の構内や帝劇の廊下で遭遇した出來事を更に深刻にしたやうな場面を彼は空想するのでした。無氣味な、身うちがムヅ痒くなるやうな快感が、その空想にさへ伴ふのでした。

半丁餘り電車通りの方へ出て來た處に、此の邊では目立つて古い二軒建ちの長屋があつて、其の一軒の家の二階の雨戸に「貸し間」と書いた札が貼られてあるのが千種の眼に映じました。すると或る計劃が直ちに彼の腦裡に浮かびました。彼は暫しの思案も用ゐずに、其の家の格子を明けて這入りました。入口の土間ははげしい凸凹を示してゐたが併し割合に綺麗に掃き淨められてゐて、粗末な女下駄が一そく脱いであるだけでありました。障子の紙は殆んど褐色を呈するまでに古びてゐるにも關はらず、破れ穴一つ明いてゐない事が、此家に子供の無いことを直ぐに千種に想像させるのでした。彼が案内を乞ふと出て來たのはやがて六十近いほどの年とつた女でした。

「お宅に貸し間が有るやうですが、お差支なかつたら私に貸して頂きたいと思ひますが、いかがでせう？」

老婆は千種の身なりを見て氣壓されたやうにモジモジしながら、

「ハイ、實は内は無人だもんですから何方かにお貸し申そうと思ちやあ居りますが、此の通り汚ない家で、とても旦那方がお住居になれるやうな座敷ぢや御坐いませんですよ」と云ひました。

「いや、私はお宅へ寢泊りをするのではありませんで、時々來るだけのことですから何んな處でも結構です」

「左樣ですか。ぢやあお上んなすつて、兎に角御覽下さいまして」

千種は靴を脱いで上へあがると、帽子だけ其處へ置いて外套を着た儘老婆の後へ隨いて、直ぐ取付きの階段を二階へ上りました。上は六疊と四疊の二間で、其の仕切りには紙の剝げた、ぺカぺカの唐紙が立ててありま。四疊の方には何やら此家の道具らしい物が置いてあります。

「こちらで御坐いますが」と老婆は六疊の方へ千種を案内すると、汚ない物でも隱すやうに慌てて境の襖を閉め切りました。

其の部屋は北向きで、往來へ向つた方には二尺位の腰かあつて、其處には短い障子が嵌められてあります。一間の押入れと三尺の床の間が附いてゐて、天井も、柱も、壁も、陰氣に、安つぽく煤び切つて居ります。併し千種はそんな處には少しも眼も付けずに、直ぐ樣前の障子を明けて外へ顏を突き出しました。丁度

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

反對の側になつてゐるので、其處から見ると、山村の家の門の全部と、二階の一部分が、遠くに見えました。

「御婦人の方でもおいでになるんで御坐いませうね？」

と老婆は云ひました。千種自身が泊りはしないと云つた言葉を、彼女は多分固い者でも玆に置くことに解釋したのでありませう。

「さういふ譯ではありません。少し必要があつて私だけ使ふのです。併し、決して御迷惑を掛けるやうな者ではありませんから御心配なく」

千種は自分の住所と電話番號とがは入つてゐる名刺を老婆に渡して、同時に先方の希望通り二箇月分の間代を前拂ひにして其の場で借り受けの契約を結びました。彼は其の歸途神保町の本屋へ立寄つて山村民雄の著書を三冊ほど買ひ集め、自宅へ持つて來てそれを翌日迄に全部讀了しました。其のうち二冊は小說集で、一冊が脚本集でありました。それに依つて千種は、山村の作風と、彼の有つてゐる思想傾向とか文藝上の主義主張とか云つたやうな事の一斑を知ることが出來ました。山村が初めて文壇へ顏を出した當時は青年作家の間に反自然主義運動が盛んに行はれた頃で、彼も確か仲間の一人だつたに違ひないのであるが、併し今にして其の作品を讀んで見ると矢張り未だ彼自身が自然主義の羈絆を脱却し得ない風があるのでした。其の上彼の小說に人氣が付かなかつた一番主な原因は題材が極めてジミで、其の頃流行の遊蕩文學の仲間入りが出來なかつたからでありませう。其自己の周圍を描いてある小說に依つて大凡彼の身の上を想像して見ると、彼は東北地方の田舍町の舊家の伜として生まれたのだが、父親が財產を蕩盡した揚句に病氣に罹つて死んでしまつたために其家は非常に零落して、彼は母親と弟と三人で隨分激しい苦勞を嘗めて來たらしいのです。それがためでもありませうが彼の思想には人並外れた懷疑的なところがあつて、其の思想でもつて肯定してゐる作中の主人公の性格には陰險、薄情、殘忍――と云つたやうな氣持が可成り濃く出てゐるのであります。戯曲集を讀んで見ると、彼の技巧の進步は十分認められる代りに、小說に於けるやうな個性の現はれは比較的薄らいで來て居ります。初期の物は殆んどイプセンの影響を其の儘に現はしたやうな作風ですが、近頃の作にはさういつた系統的の傾向は認められない代りに、文壇一部の流行と見えて極端な自我主義の哲學を取入れてあるところが著しく眼につきます。大體に於て、千種は山村の作品に對しては餘り敬意を拂ふことが出來ず、寧ろ其の點では世間の評判といふものを疑はずには居られなかつたくらゐでありますが、しかし今の場合は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

作品を觀賞するのが目的ではなく、山村民雄の人物を研究するための一つの手段に過ぎないのですから、そんな事はどうでも宜ろしいのでありました。山村の關係してゐる國民劇團の公演は其の翌日から五日間有樂座に於て興行されました。千種は初日にそれを見物しました。演し物は、二幕物の飜譯劇と、山村の作になる「山の別莊」と題する三幕物の社會劇とでありました。プログラムを見ると、山村自身が舞臺監督として一座の俳優や背景畫家と一緒に名前を並べてゐるのでした。年末であるにも係はらず、恁ういふ新劇の運動に共鳴する人間が社會に多くなつたのか、それとも唯木戸錢が拂つて劇場に這入るといふ事が有難いのか、相應に澤山の入場者がありました。けれども千種は、今日人に山村と間違へられることは少々都合が悪いので、廊下へも出ずに成る可く人眼を避けて居りました。「山の別莊」で女主人公(ヒロイン)役に扮する六條春路といふ女優の舞臺顏を見ると、千種は何處かで彼女を見たことがあるやうな氣がするのでした。が、暫し考へてゐるうちに彼は思出しました。それはいつぞや帝劇の廊下で彼を山村と取り違へて話し掛けて來た女に違ひないのでありました。何處となく奔放な感じのある春路の顏は、素顏で見るよりも、舞臺へ立たせると一層生き生きとして來て美しく見えるのでありました。

五

千種は毎日飯田町の例の家の二階へ足を運びました。そして其處を根じろにして、山村に關する一切の事柄を研究に着手しました。最も完全に山村を模倣して見ようとするには、先づ山村自身の本體を研究しなければならないことは勿論ですが、それと同時に彼の周圍をも十分に調査して鮮明にして置く必要が御座います。恁ういふ事に掛かると、千種の頭腦は意外な處迄働いて、極めて微細な意識をも忽せにしないのでありました。千種は專門の探偵家が用ゐる變裝具を買ひ求めて來て、折り〳〵それで巧みに變裝しては山村の後を尾行して、或は劇場に、或ひはカフエーに　或ひは料理屋に、さながら影の如く附き纏つて、相手の日常生活の狀態を研究すると同時に、其の會話の調子から酒や莨の飲みぶり、歩き方、其他一寸した身振りや癖のやうなものまで一々觀察して、それを自分の體に寫し取る工夫を凝らすのでした。一方山村の家庭の狀況を探索するには非常に好都合なことがありました。と云ふ譯は、彼が間借りをした家は、家庭と云つても老人夫婦二人ぎりの生活で、最初のうちは彼の不可解な行動に對して少からず不安と疑惑の念を抱いてゐた樣子でありましたが、何時か千種の身元を確かめて來

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たものと見えて俄かに態度一變して多大の尊敬をさへ拂ふに至り、其の上千種が時々過分な報酬を與へるところから一つは慾にも眼が眩れ、就中老婆の如きは千種の意を受けて山村の出入の商人から旨く事を聞き出したり、或ひは下女と懇意になつて家庭の秘密までも喋らせたりして、一々それを報告して、喜んで彼の手足となつて働くのでありました。千種は間もなく山村に關する一切の事情を、例へば家庭の樣子、收入の程度、交際關係、と云つたやうな事から、山村自身の性質、趣味、嗜好、習慣、素行、などに至るまで、殆んど自身の事も同じ程度に明かにすることが出來ました。山村の家庭は、母親と早稻田大學の商科生である弟と、下女と、それに主人公を加へて四人暮らしでありました。山村は卅を越した今日も猶獨身でゐるのでした。彼の家には隨分多種多樣の人間が出這入りしました。そして彼の日常生活は非常にズボラなもので、殊に時間の上に於て晝夜の見境ひの無いところは一般文士の例に漏れず、十二時過ぎ迄遊びに歩いて戻つて來たかと思ふと、それから徹夜で仕事に掛り、翌日はまた午后の三時位頃迄も二階の雨戸が明かないといつたやうな事はノベツでありました。彼には自己の携はる藝術以外に是れといふ趣味も無く、酒も餘り澤山はやらぬのでしたが、併し素行は隨分修まらない方でした。彼は尠くとも三晩のうち一晩は必ず家をあけるのでした。彼が泊つて來る場所は大抵神樂坂邊の待合でした。偶には赤坂あたりで遊ぶことも無いではありませんが、それは連れのある時で、一人の場合には殆んど極まつて神樂坂へ行くのでした。前にも申した通り、彼は青年期を窮乏の結果不自然な禁慾生活をして暮らしたため、今日物質上の餘裕が生じて來るに隨つて其の反動として、と云ふよりも無理に支へてゐた堤防が決潰して洪水のやうに遊蕩の世界に走り入るものと見えました。けれども、千種の調査したところでは、山村が今日多少賣り出したとは云ひ條未だ其の收入の點に至つては一般社會の成功者に比較する時はまことに微々たるものでありますから、あれでよく軍用金が續いたものだと、千種は感心もするし、又不思議にも思ふので御坐いました

斯樣にして、今ははや十分に山村其のものを究め盡したといふ。ところで、千種は愈々計劃の實行に着手したのでありました。まづ彼は山村と寸分違はぬ服裝を整へました。洋服、帽子、靴時計、ステツキの類は勿論の事、和服を一と通り、どてらとそれに重ねる浴衣地から手拭ひに至るまで同じ物を取り揃へました。猶其の上に頭髮や鬚も同じ恰好に刈り込み、爪の長さまで見比べて切りました。そうして彼は其の服裝を身に着けて姿見の前に立つて見て吾れながら驚きました。自分で自分の姿を見

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て居りながら、其處には最早自己の存在といふものは絶對に無くなつて居りました。自分ではなくて山村なのであります。彼は何んとも云へない愉快な、滿足な氣持になりました。それは俳優が最も完全に一箇の人物に扮し得た時の歡喜の心持を、更に一層強めて濃厚にしたものでありました。彼は往來へ飛び出しました。青い玻璃のやうに冷たく張り切つた空から靜かな冬の太陽が彼の體を照らして、撒き水のカチカチ凍つてゐる地面へ細長い影を曳きました。人が通る、電車が通る——それが彼には新らしい何ものかの暗示のやうに感じられました。彼は何處かへ行つて山村を知つてゐる人間に會つて見度くなりました。

「何處へ行つてみようか——?」

結局、山村が馴染の銀座のカフエーへ行つて見ることに決心しました。恁うして千種の冒險は開始されたのでありました。

千種はカフエーの扉を押して威勢の好い足取りで中へ這入ると、何時でも山村が好んで占領する勘定臺の側のテーブルの方へ進みながら「やあ」と自分から聲を掛けました。

「あら、入らつしやいまし」圓肥りで、眼差しのハツキリしたゴムのやうな皮膚をもつた女給仕は、非常な好感と親しみを現はした調子で云つて、白いエプロンを彼の體へ擦り寄せるやうにして近付きました。

「先生、暫らくお見えになりませんでしたね」と、ボーイは他の客に出す酒を小さなグラスに注ぎながら横眼で千種の顏を見て云ひました。

「ああ、此の頃は仕事が忙がしくつてね、家にばかりゐたのさ」千種は帽子を取つて空椅子の上に置いて、よく山村がするやうに、兩方の手で頭を抱えるやうにして髮を撫で上げました。

「何がお忙しいんだか山村先生のは分らないわ、おほかた赤坂邊りへお忙がしかつたんでせう」と圓肥りの女は燐寸を擦つて千種の鼻につけて遣りながら云ひました。

「冗、冗談云つちや不可ない、近頃そんな景氣は無いのさ」千種は空嘯くやうな眼付きをしてプーツと煙を吹きながら云ひました。

「隱したつて駄目よ、花房さんから聞いちやつたんですもの」

花房といふのは、國民劇團の幹部俳優である花房榮郎の事に相違無いと千種は直ぐに悟りました。それは地方の資産家の息子で、私立大學の豫科を何年も落第した揚句無論道樂で新劇俳優になつた男ですが、何しろ金廻りの良いところから一座の中でも立てられてゐて、山村などはよく彼を取卷いては赤坂邊りへ乘り出すらしいのでした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「花房は近頃ちよい〱來るのかい？」

「ええ、ゆうべも入らつしたわ。ほら、何んとかいふ女優さんね、そうそう、武智菊子さん、あの方なんかと御一緒でしたわ」

其處へ縮れ髪のねつとりしたやうな體つきの女給仕が他の客に出す料理を運びながら出て來て千種の顔を見ると「おや入らつしやいまし」と眼に愛嬌をもたせて云つて、それを向うへ置いて來ると圓肥りの女と並んで椅子に腰を掛けました。千種はウヰスキーをチビリチビリ飲んで居りました。

「先生、あの方はどうして？ちつともお連れなさらないのね」と縮れ髪の女は細い眼に薄笑ひを浮かべて云ひました。

「誰の事なんだ？」

「六條睿路さんよ」

「ウム、あの人とは近頃薩張り會はない」

「嘘でしよ、毎日會つてらつしやるんでしよ？」

「何故そんな事を云ふんだ？」と千種はさも意外らしい顔付きをして云ひました。

「だつて新聞に出てゐたぢやありませんか」

「まあそう？隨分お安くないわね——先生何か奢つて頂戴な」

「嘘だよ、新聞の書く事なんか當てになるもんか」

と千種は困つたやうな顔をして云ひました。鳥の羽で撫でられてゐるやうな快感が彼の全身を走り流れるのでした。

六

或る晩千種は神樂坂の「お多福」と云ふ待合へ行きました。それはつい近頃新築されたばかりの家で、玄關先きの植え込みの中には生新しい石燈籠などが立つてゐて、磨り硝子を嵌めた格子も夜眼に白々として木の香を放つて居りました。千種は、眞暗い洞窟の中へ踏ん込んで來たやうな不安やら恐怖やらに打たれるのでした。けれども待合の女中は友達を迎へるやうな態度で彼を迎へました。廊下を二度ばかり曲つてから階下の八疊の座敷へ彼を通して、そして急須に熱い茶を入れて持つて來て、紫檀のちやぶ臺の上に紅い血の差した腕を長く伸ばして艶布巾で拭き拭き

「隨分寒かつたでせう、外は？」

「ウン、實に今夜の寒さつてないね、又雪かも知れない」千種は外套を着た儘火鉢の上へおつ被さるやうにして答へました。

「厭だわねえ雪なんか降ると。二三日前に會つたら小福さんも風を引いたとかつてましたよ。そうそう、早くお銚子を持つて參りませうね」と云つて女中は起つて行きました。

女中が酒とお通しを持つて來るのと殆んど同時に「今晩は」と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

云つて年増の藝者が這入つて來て、火鉢の側へ座るとギスギス痩せた手を火に翳して炙りながら女中と無駄口を話してゐたが唐突に千種に向つて「ヤーさん、それ明けて頂戴 寒くてしようが無いから」と云ひました。千種は慌てて盃を乾して藝者にさしました。藝者は女中に酌をして貰つてそれを一と口に飲んで千種に返しました。そして今度は帶の間から莨入れを出して煙管の脂を簪の足でほじつてから火鉢の中でぷつと吹きました。彼女は痩せてゐるので眼が餘計大きく凄いやうに見えました。千種が默りこくつてゐますと、

「あちら今日は大層温和しくてゐらつしやるのね」と女中が不思議そうに云ひました。

「ええ、此の人はね、すこし口が利けない理由があるのよ」と云つて藝者は其の大きな眼でヂロリと千種の顏を見て、嘲けるやうな笑ひを口邊に浮かべました。千種の胸はドキリと鳴りました。彼は劇しい不安に襲はれました。自分の惡戯を後悔しました。「此の女は俺が山村の替へ玉である事を看破してゐるのだ」と思ふと、彼は自分の顏の青ざめたのさへ分るやうで、益言葉は出なくなつてしまひました。女中は銚子の替り目を持つて來て又向うへ行つてしまひました。二人はお互に默つてゐました。

藝者は手酌で二三杯續け樣に呑みました。

「貴郎に尠し伺ひ度い事があるわ」藝者は鋭く千種の顏を見て云ひました。色の褪せた唇が微かに顫へてゐるやうでした。

「何んだい、そんなに改まつて？」と、千種は態と平氣を裝つて答へました。彼は遁れられるだけは遁れて見ようと決心しました。すると藝者は云ひました。

「貴郎、一昨日の晩何處へ行つて？」

意外な質問に千種はドギマギしてしまひました。其の夜は彼は自宅にゐたために山村に關する動靜は一向知らないのでありました。彼がマゴ付いて居る樣子を藝者は痛快さうに眺めて居りました。千種は漸う出鱈目の答へをしました。

「一昨日の晩は、確か急ぎの原稿があつて家に居たと思ふが……」

「嘘仰つしやい！」と藝者は肝癪玉が破裂したやうな聲を發しました。「人が知らないと思つて好い加減な事云つて胡麻化そうとしたつて駄目よ。妾ア何も彼もみんな知つてるんだからね。貴郎が竹廼家へ行つた事も、そうして小しんさんと何をしたかも……」

「そ、そんな事があるもんか」と、千種は自分の事のやうに驚いて云ひました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「まだ隱す氣なの？こつちにやあネ、ちやんと生きた證人があつて見て來てゐるんですよッ！」

藝者は非常に立腹して、さも口惜しくて溜まらぬやうな形相をして、いきなり千種の胸倉を取つて二つ三つ小突き廻しました。千種は呆れて物が云へませんでした。彼は藝者の爲すが儘に委せて小突かれてゐました。すると藝者は益好い氣になつて裏店のかみさんのやうに猛り立つて、劇しく畳み掛けて相手の不實を責めました。「ただの藝者とお客ならそれァ何をしようと勝手だけど、妾だつて是れ迄に隨分お前さんのためにやあ出來るだけの事を盡してゐるぢやあないか。よくもよくもそんな薄情な眞似が出來たものだ」と藝者は殘念がつて云ひました。「義理知らず、」だの「人でなし」だのと彼女は散々千種を毒突きました。さうかと思ふと彼女は最後にはオイオイ聲を出して泣き始めました。

千種は山村が家にゐる晩を確かめては其の後も時々「お小福」へ出掛けました。彼は小福といふ藝者を相手にする事に依つて曾て經驗したことの無い異樣な興味と滿足とを獲得するのでした。同時に山村が神樂坂へばかり足を運ぶ理由も判明しました。小福には日身を自前にして呉れた恩義のある旦那が付いてゐるにも係はらず、彼女は其旦那に隱れて山村と會つてゐるのでした。そんな風で待合の勘定なども大概小福が拂はせられてゐるのでした。然るに千種は自分の行つた時の勘定だけはキチキチ拂ふので「貴郎近頃景氣がいいのね」などと云つて小福は喜ぶので御坐いました。けれども度び重なると妙な矛盾が其處に生じないわけにはいきませんでした。小福は恁んな事を云ふ時もありました。

「ヤーさん、貴郎近頃すこし變ね」

「何故？」

「だつて　ないだの晩なんかあんな事を云ふんだもの、其の前に會つた時の事を知らないなつんてさ、俺は來た覺えは無いなんて強情張るんだもの、氣味が惡かつたわ」

「うん……あの晩は些し頭の具合が惡かつたんだ」と千種は苦笑をさへ噛み殺しながら答へました。

「餘り頭を使ひ過ぎるからよ、すこし氣を付ける方がいいわ」と、小福は心配さうな眼つきをして云ひました。

七

或る日千種は例に依つて變裝をして山村が出て行く跡を尾行しました。すると山村は神田の神保町で電車を降りて裏通りの西洋料理店へ這入りました。千種もすこし遅れて其の家の客と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なりました。其處には二階に幾つもの小間が仕切つてありました。千種が通された室は、丁度山村が這入つた室の隣りでありました。兩方の室の境には高い腰羽目があつて、其の上には磨り硝子を嵌めた引戸が立てられてありました。室の眞中にはテーブルと椅子が四脚備へてあつて、其のほかには裝飾も何もありません。隣室の方には、山村よりも前から來て待つてゐた客があると見えて話し聲が聞こえて居ります。千種は足音を盜んで硝子戸の側へ近付きました。そして何處かに穴でも無いかと思つて見廻すと、偶然にも、戸と柱との間に歪みが生じたものと見えて上の方へ行き次第五分位の隙き間が出來てゐるのを發見致しました。千種は其處から覗いて見ました。山村と卓に對き合つてゐるのは女優の六條春路でありました。山村の方は向うむきで背中だけしか見えない代りに、六條春路の姿は眞正面に見られるのでありました。二人は睦まじそうに話しながらナイフとフオークを動かしてゐるのでした。六條春路は、ふだん着らしいけれども一とめで職業柄が知られるやうな派手な着物を身につけて居りました。頭髮はいつものやうに横で分けて耳の上で縮らせて居りました。彼女は愉快そうに絶えず眼で笑ひながら、大きな口をあいて肉の切れを食べました。細い三日月形の眉が、笑ふ度びに愛らしく眉尻を下げました。椿の花のやうに紅い薄つぺらな唇で白い歯を包んでゐる大きな口でも、テーブルの上に載つかつて動いてゐる二本の肥つた腕でも、彼女の肉體のどこの一部分にも、若い女が持つてゐるだけの惱みと魅力とが現はれてゐないことはないのでありました。

「相談つて先生何アに?」と彼女は男に訊きました。

「二人だけで一と晩泊り位で何處かへ行き度いと思ふんだが……あんた都合は出來ない?」と山村が云ひました。

「そうねえ……でも、あたしの家やかましいんですからねえ」

彼女は考へるやうに首を傾げて申しました。

「何んとかなるでせう、一と晩ぐらゐは。ちやあ斯うしたらどうです?徹夜で稽古をするから俱樂部の方へ泊るつて事に云つて置いては」

「行くとすれば何處へ行くつもりなの?」

「箱根がいいだらうと思ふね」

「箱根は寒かないでせうか」

「もう寒いもんか、それに湯があるからちつとぐらゐ寒くたつて平氣だよ。ね、そうしよう」と、山村はもう決めたやうに云ひました。

「何時がいいでせう?」と彼女もいつとなく同意して云ひました。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「明後日あたりが都合がいいでせう、丁度稽古が休みだから。それからと、汽車は十二時のにしませう、東京驛で待ち合はせることにしてね。僕は十二時十分前位に行くから」
「ぢやあ、あたしも同じ時分に行くわ」
「そうして呉れたまへ。ぢやあ屹度間違ひなくね」
「大丈夫よ——」と云つて六條春路はにつこり笑ひました。
千種は靜かに室を出て、階下へ降りてから勘定を拂つて外へ出ました。彼の眼先きには六條春路の顔だの表情だのが譯も無くチラ付いて居りました。
「何とかして山村の幸福をこつちい横取りする工夫は無いだらうか——?」
空氣がぬるぬるとゆるんで、惱ましい感じを人に與へる夕暮れが、此の惡魔の體を包んで居りました。

其の日が來ると山村民雄は約束の時間より廿分も早くから停車場へ行つて、大きな翼を擴げたやうな圓天井の下をあつちこつち歩きながら、絶えず外を眺めたり時計を見上げたりして居りました。けれども其の時間迄はまだ可成り間がありました。彼はしまひに尠し草臥れた體で、もう一度外を眺めてから、二等待合室の中へ這入つて行つて、柔かな腰掛けの上に體を投げ出すやうに置くと、もう間近に迫つてゐる自身の幸福を眼の前に描き出して獨りで微笑んで居りました。丁度其の時、此の大きな建物の外壁にピタリと身を寄せるやうにして、眼を光らせて車寄せの方を見張つてゐる一人の男がありました。それが千種であつたことは申す迄も御坐いません。濠端を走つてゐる電車が留る毎に降りる幾らかの人が、遠くからこちらを差して歩いて來ます。と、幌を掛けた一台の車が車寄せに梶棒を卸ろしました。眞紅な蹴込みの上から空氣草履と派手な女の着物の裾とがチラと現はれた時、千種はそれが六條春路であることを殆んど直覺的に悟りました。案の定春路の晴れ晴れした顔が續いて現はれました。
「春さん、此處々々」と千種は聲を掛けました。
「そんな處に待つていらつしたの?」春路は彼を目つけるとにこにこ笑ひながら側へ來ました。
「實はネ、丁度此の汽車で僕の識つてる人間が一人發つ奴がゐるんだ。其奴とぶつかつては具合が惡いから途中迄自働車で行く事にしたんだ」
「あらそう?」
千種は待たして置いた自働車を手で招きました。自働車は直ぐに彼等二人の前へ來て停りました。運轉手が扉を開けると千

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

種は各路を背後から押し込むやうにして、自分も續いて乘りました。自働車は直ぐ様大きな弧を畫いて走り出しました。

八

斯うして千種は常に不思議な自分の立ち場を利用しては異常な歡樂を恣にして居りました。彼は自分ほど世に幸福な人間は有るまいと其の都度自惚れて居りました。けれどもそれは、物事には夫れ〴〵應報（むくひ）があり、又必ず天の配劑といふものが行はれてゐることをば忘れてゐた彼の愚かな心からでありました。其の譯は、次ぎの事柄に依つて十分に證明されるのでありました。

千種は山村の跡を尾行する事に依つて又もや何か意外な收獲を豫想するのでありました。で或る日も彼の跡をこつそりと跟いて行きました。すると山村は靜かな横丁へ這入つたが、其の時何か彼の傍からヒラヒラと地に舞ひ落ちた物がありました。千種はそツと拾ひ取つて見ました。それは一枚の紙片に「醜恐ろしき影よ、惡魔よ、されど余も亦爾に復讐する事あるを知れ」と書いてあるのでありました。千種は顏色を變へて其の場へ棒立になつてしまひました。それきり千種は山村に尾行するのは勿論、例の二階へも「お多福」へも足踏みをする事をしなくなりました。彼は絶えず山村からの復讐を恐れて、外出する時などには身邊の警戒をさへ怠らないようにして居りました。併し何時迄經つても何事も無いのでありました。彼は其の紙片に書いてある文句も、單純な脅迫に過ぎないと思ふやうになりました。と同時に彼は、あの無氣味な、鳥の羽で體中を撫でられるやうな快感に身を浸して見度い慾望が強く起つてまゐりました。で到頭或る晩決心して、山村の動靜を十分に確めた上で「お多福」へ行きました。小福は直ぐに這つて來ました。けれども彼女は相手に對して何の疑念をも挾んではゐないのでありました。千種は久り振りで、憬れてゐた歡樂を十分味はつた上で、翌朝午前十時頃になつて漸く我家へ戻つて參りました。彼が玄關から上つて行くと同時に、奥から妻の綾子が出て來ましたが、

「おや貴郎何かお忘れ物？」と綾子は夫の顏を見ると云ひました。

千種の顏色は見る見る草のやうになりました。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

談話賣買業者は斯く語り終ると、私の顏を見て「ハヽヽヽヽ」と哄笑しました。

「如何でした、ちつとは面白う御座いましたか？」と彼は訊ね

ました。

けれども私は即座にはそれに對する答へも出ませんでした。私の頭は其の時も猶奇怪極まる幻覺を以て滿されて居るのでした。面白い面白くないよりは、私はそれに依つて、Story といふ物に對する自分の觀念を今迄とは餘程變つたものにされたやうに感じるのでした。私が其の事を話すと、

「何恁んな話はほんの序の口です。まだ〳〵幾らでも變つた話があります」と談話賣買業者は笑ひながら云ひました。

私は規定の料金を拂つて暇を告げました。美少年の給仕が廊下へ面した扉を明けて私を待つてゐるのでした。六つの階段を一と息に驅け降りて往來へ出ると、會社から退けて出て來たばかりの會社員が屋根の上まで夕暮れの迫りつつある横丁をゾロゾロ歩いて居りました。

ウオルムス議會の獅子吼四百年紀念に方りて

ルーテルを憶ふ

マスター・オブ・アーツ　村田勤

上、改革者ルーテルと現代の日本

一

一五二一年四月十八日ルーテルがウオルムス議會で獅子吼をしてから、本年は恰も四百年目に相當する。彼が個人判斷の自由と良心の權威と聖書の明文とを根據として、羅馬法皇の權力に反抗し、カトリック敎會の傳統的敎權に宣戰し、宗敎大會の判決にさへ誤謬ありと斷言した事は、實に人文史上驚天動地の大事件であつた。彼が首唱した宗敎改革の氣運は一朝一夕に勃發したるものでなく、百年も二百年も以前から徐ろに兆さしつゝあつたのである。一番近く又一番著しい彼の先驅者が十四世紀の末（一三八四）に死んだ英國のウヰックリッフと、一四一五年コンスタンツの會議で異端者として焚刑に處せられたボヘミ

アのヤン・フスであつた。一五一七年ルーテルが名高い九十五箇條をウヰッテンベルヒの城附敎會の門扉に掲示するや、直に印刷されて二週間内に獨逸國内に、月餘にしてヨーロッパ諸國に配布された。一本のマッチで滿山忽ち焰に包まれた形狀(かたち)であつた。ルーテルの呼號は反響を生じた。獨逸は云ふに及ばず、スウヰツルランド、フランス、イタリー、イギリス、スコットランド、ネザーランド、ポーランド、スウェデン、デンマーク、ノルウエーの諸國にそれぞれ改革運動が起つた。又ルーテルの外にツイングリー、カルヴァン、ノックスその他の改革家が號出した。一五一七年から三十年戰爭の終りを告げた一五四八年までの三十年間歐洲に起つた出來事はその政治・外交・軍事・社會・文藝いづれの方面の事相たるに拘はらず、殆ど宗敎改革と大小遠近の關係を有さないものはなかつた。改革の反動として反改革が生じた。ゼスイット協會は反改革が生み出した一大運動である。天文十七年に日本に渡來したザビエーは即ちゼスイット協會創立者七勇士中の一人で、又實に英邁の人物であつた。舊新兩敎派の爭はネザーランド獨立の直接原因であつた。歐洲本土に於て互に反目嫉視して居た西班牙と和蘭は、日本に來ても氷炭相容れず、その結果は著しく天草の亂の際にあらはれ、幕府の和蘭船特遇となり、蘭學流布の端緒を開く因緣となり、西洋の學問藝術が輸入さるる便利を供へた。かくの如く原因結果の脈絡を追ひ索めて考へて見ると、日本現代の文化は四百年前の改革者ルーテルに交渉があることを看過することができない。

更らに見地を更へて思想の方面から見ると、吾人は一層ルーテルと因緣の深いことが感じられる。カーライルの剛健な言葉を借用しよう。『一五二一年四月十八日ウオルムス議會にルーテルの臨席したる事は近世ヨーロッパ史上最大な光景と考へられる。その後の文化の全歷史はこゝを起點として出發した。英國の清敎主義、英國とその國會、亞米利加と二百年來の大事業、佛國革命、ヨーロッパと現今到る處にあらはれて居るその事業、これらの事實の種子はすべてウオルムス議場に立つたルーテルの辯論の中に含まれて居る』。米國の一歷史家は若しネザーランドの獨立と一六八八年の英國革命がなかつたら、米國獨立戰爭は起らなかつたであらうと言つて居るが、若しプロテスタント主義が勝利を得なかつたら、ウヰリアム默公は一五六八年にフヰリップ二世に叛いて自由戰爭を起さなかつたであらう。又十七世紀の半以後英國に續發した自由民權の大活劇を見なかつたであらう。この英蘭兩國の變革は合衆國の獨立を促進し、この三者又合して佛國の大革命を誘起し、その後七月革命二月革命が起る毎に、必ず歐洲列國に波動して世界における自由民權思

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

想の潮流を起し、著々民主々義に向はしめたのである。その際如上の思想運動に對して風馬牛であり、寧ろ反對の步調を採つたものは、亞細亞の諸國の外には、ロシアとトルコ丈けであつた。久しく封鎖された日本が門戶を開放して世界の文化と接觸するや、上擧の思想は洪水のやうに浸入して立所に靑壯年の頭腦を支配し、自由民權論となり、民選議院開設の運動となり、明治二十三年の國會開設に至つて、一段落をつげた譯けである。日露戰爭後專制主義の最後の金城鐵壁であつたロシアも後れ馳せながら立憲政體となり、トルコ、ペルシヤもこれに倣つたが歐洲戰爭未だ收まらざるに、ロシアの帝政は粉碎され、立憲共和政治ですら喰いとめれらず、急轉直下して現今の如きボルセビキ政府の樹立を見るに至つた。しかしながらボルセビキは未だ世界の思潮と見るべきでない。但し民主々義は十六世紀以來宗敎・政治・思想・學問・社會制度の中に浸潤して種々なる變革を生み出したものである。現代の我々は今尙その波瀾の中に立ち、その空氣を呼吸して居るのである。今頃デモクラシーを危險視する者はユートピア國の外にはなからう。而してこの主義がルーテルの首唱したプロテスタント敎義の中に胚胎したものと見れば、我等は彼と因緣淺からぬことを認めさるを得ない。少くとも現代文化の淵源を溯らうとする者は、彼の人格・思想・信念に對して感興を催さゞるを得ないやうに思ふ。

予が上擧の二點に增して、我邦の最新知識階級を形造つて居る讀者諸君の注意を仰ぎたいと思ふ事は、四百年前の獨逸と大正の日本との比較である。二十世紀に生きて居る我々同胞は十六世紀の前半の獨逸國民に比べて、どれほど進步して居るか、何ほど多く思想判斷の自由を享樂して居るか、法律上我等の人格が何ほど多く重んぜられ、我等の權利が何ほど明かに認められて居るか。予は事實を陳べて諸君の比較判斷を請ひたいのである。更に一段深く注意したい事はルーテルの反抗事件にあらはれた獨逸國民性の發露である。予はルーテルの勇氣を賞すると同時に、獨逸國民の思慮と寛容とを讚美せざるを得ないやうに思ふ。

二

名高いウオルムス議會は、佛國のフランシス一世王と選擧競爭の結果、七選帝侯の協贊を得て、獨逸皇帝の位に卽いたカール五世帝陛下がアーヘンでの戴冠式を擧げた翌年、初めて召集した議會であつた。ハプスブルグの血を承けたカールは實に幸運兒であつた。八家の領土は勿論、西班牙とその屬領及び殖民地、ブルグンド、ネザーランド、ナポリ、シチリアもその支配に歸

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

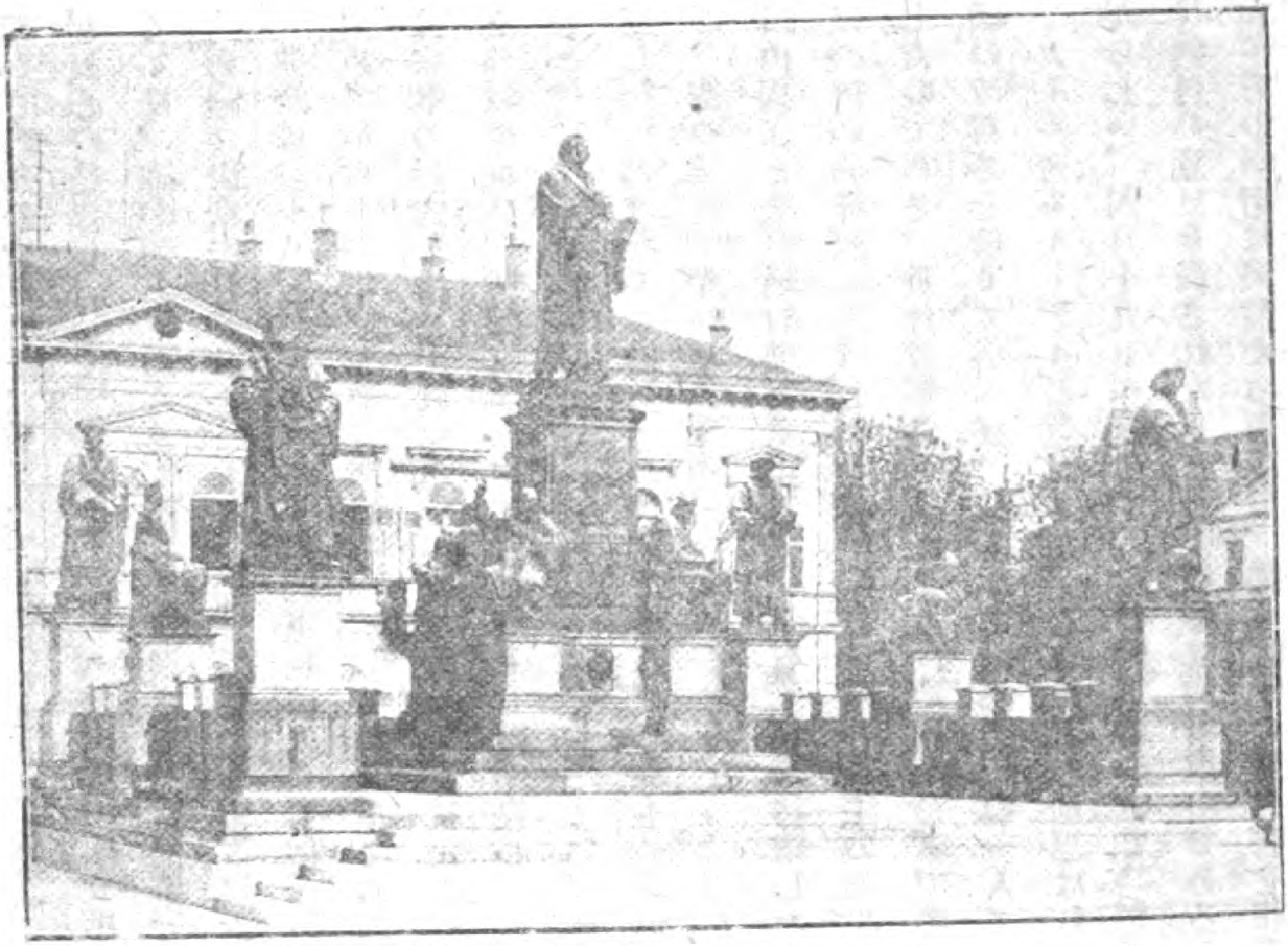
した。その上僅か二十一歳で獨逸の帝位を簒據したのを視てはフランシス王の燒きもきしたのも無理でなかつたらう。帝は一五二〇年十一月一日に召集令を發し、同二十八日ライン河畔のウオルムスに著いて、諸侯や市の代議員の到着を待たれた。議員の集り方は流石昔し風で悠長であつた。大小の諸侯がいづれも多勢の家來を連れて來るのであるから、中々一方ならぬ騒ぎであつた。ヘッセンのフィリップ伯でさへ六百の騎士に護られつゝ自身も馬上で花々しくやつて來た。この議會召集の爲めウオルムス市は大變に賑ひ、宿料その他諸物價の暴騰を來した。フリードリツヒ選擧侯ですら、到着後二十日も經たぬ中に早や四千グルデンを費したと、弟君への書中にこぼされた。扨この議會がいろ〳〵の事情に由つて延引し、愈々正式に開かれたのは一五二一年の一月二十七日で、五月二十五日まで續いた。それも疫病が起り、帝の重臣まで感染し或は死するに至つたので、餘儀なく閉會を急いだのであつた。議事問題は多岐に亘つたし、ルーテルを召喚すべきや否やといふ事すら永い間決しなかつたが、兎に角議論が最も沸騰し、獨逸國民注意の焦點となり、又文化史上永久的の興味ある題目となつたのは、やはりこの事件であつたように思はれる。ルーテルの處分問題が何故それほど込み入つたかといへば、過ぐる三年半の間にこの事件が意外の發展變遷を遂げた爲め、もはや單なる宗教上の論爭でなくなつた觀があつた。大名は大名、小貴族は小貴族、僧侶は僧侶、農民は農民、皆銘々の見地からこの問題を解決し或はこれを利用しようとした。政治・經濟・社會あらゆる關係がその中に加味されて來た。羅馬教會の專制主義打破といふ一事については貴賤を問はず殆ど全國民の輿論で、加特力派の諸侯すらその爲めにはルーテルを後援する態度を取りかねなかつた。法皇の勅使として早くから獨逸に來て形勢を視察して居たアレアンドロが、二月八日羅馬に送つた書中に『今や全獨逸は擾亂の有樣である。十人の中九人まで「ルーテル」と呼び、殘り一人はルーテルの言ふことには傾著しないが、少くとも「羅馬法皇廳を倒せ」と呼んで居る』と報告した。法皇レオ十世の對ルーテル策は固より一貫して動かなかつた。既に前年公布した破門令の勵行を皇帝の威力を藉つて徹底するにあつた。アレアンドロはその旨を奉じて皇帝に取り入り、極力ルーテル召喚に反對した。カール帝は弱年に似合はぬ深慮の人であり、又聰明な顧問に取り卷かれ、又特に七選帝侯の意見を傾聽され、とりわけルーテルの擁護者なるザクセン選帝侯の意見を重んぜられた。抑もフリードリツヒ聰明侯は先帝マキシミリアン(カールの祖父)の 御後帝位に擬せられたのを、自ら辭してカールを推した關係上、カールは特

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

にこの人を頂んぜざるを得なかつたのである。フリードリッヒはじめ他の有力な諸侯はとにかくルーテルを召喚して自說を取り消すや否やを質した上で、愈々應ぜざる曉に、斷然ルーテルを處分するが穩當であらうと提言した。見方によれば、羅馬側がこれに反對して穩當過ぎるといつたのも無理でなかつた。法皇はすでにカエタン僧正を派遣し、特使ミルチックを送り、エック博士と討論せしめて、ルーテルの意見を確め、且一の說の取消に應ぜぬことを確めたのであつた。カール帝一個としては忠實なる加持力教の信仰に養はれた人であるから、ルーテルの異端者たることを明かに信じて居られた。しかし爰に政策上考慮すべき重大問題があつた。それは法皇とフランシス王との提携である。この兩者はヨーロッパにおける權力の平均を保持して、ハプスブルグ家の跋扈を防ぐ上から、利害を同ふしたのであるが、法皇は爲めに大の苦手であるルーテル處決問題に就いては、どうしてもカールに手を下げざるを得ない場合であつた。帝のウオルムス滯中西班牙にも騷動が起り、フランシスも動もすると、帝に挑戰せんとして居た。この上うま〱と法皇の手先きに使はれて、異端問題を片付けた揚句に、法皇が敵側に廻はられては馬鹿の骨頂であるから、こゝは緊褌一番、ルーテル問題を逆に利用して法皇の言質を取つておかう。それには勅使等（アレアンデル氏の外に今一人カラッチォロが居た）の言ふ通りにせず、獨逸側の要望を容れ、彼等をちらして法皇に頭を下げさせるが得策であると考へたのであつた。帝が斷然ルーテル召喚の事に決心されたのは前年の十二月十七日の事であつた。フリードリッヒ侯の秘書で、ルーテルの親友であつたスパラチンは、早速この事ルーテルに內報し、彼は同月二十一日の手紙に、勅命に應じて出席する決心であることを同人に返答して居る。これ實に彼が法皇の破門狀を焚いて斷乎たる決心を示してから、僅か十一日目のことであつた。彼は例の調子で、若しその頃病に罹つたら寢臺に載せられてでも、ウオルムスへ行くと返答に及んだ。

ルーテルが到るところ凱旋將軍の如き歡迎を受けつゝ、ウォ市を出てから十五日目に、同行者三名と共にガタ馬車に揺られつゝ、ウオルムス市に著したのは、四月十六日の午前十時頃であつた。ルーテル最負の貴族ジッキンゲンに百名許りの騎士を送つて彼を市の門外に迎へしめた。市街は彼の風貌を見ようとする群集で充滿した。彼が議場に出たのは十七日の午後四時頃であつた。彼はカール帝・法皇の勅使・選帝侯・諸大名・自由市の代表者・諸外國の使臣、二百五十名許り居並ぶ前に佇立した。エック（この人はエック博士と別人）陛下の命令によつて机上に積み上げた二十冊餘の書籍を指しつゝ、彼の著書に相違なきやを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



ウオルムスに於けるルーテル紀念像

確めた上、その書中にかいてある意見を取り消す意志の有無を尋ねた。その時彼は即答せず猶豫を請ふた爲めに、その決答は一日保留されることになつた。

何故ルーテルが十七日の午後即答しなかつたか。これには種々の說がある。未だ甞つて見たことのない壯嚴な議場に召し出され、カール帝はじめ品位あり權威高き諸侯高僧等の面前に立たされた爲め、流石剛膽な彼も、思はず恐縮したのであらう。その證據には意氣頗る揚らず、音聲も低かつたと云ふ人がある。しかし彼の平生を考へ四箇月前からの決心に徵して見ると、この說は眞相を穿つてゐるやうに思はれない。議場の答辯については、彼自ら熟慮したのみならず、彼の親友や保護者からも、種々の忠告や助言を受けたであらう。此場合躊躇逡巡する必要は毫もない筈である。要するにエックの尋ね方が彼に取つて意外であつたであらう。取消すか取消さぬか。然りか否か。どちらだといはれたのには、一寸面喰つたであらう。言ひ換ふれば彼はモット多く答辯の餘地が與へられるやうに想像したであらう。十八日の答がこれを證明して居る。何人もこれほど長い辯明を聽くべく期待してゐなかつた。だから最後にエックは簡短直截に明答せよと詰り氣味で迫つたのである。召喚することにさへ反對した羅馬敎の連中は、全く聽くことを欲しないお談義を

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

聽かされたのであつた。彼の意見は數言で盡くすことができる。我が良心の是認し、我理性が正當と判斷し、且聖書の明文に符合する事は、誰が何と言はうとも斷じて取消さぬ。法皇は愚か、宗教大會議の決議にどうあらうとも、取消さぬといふ事に誓言する。

彼時に三十八歲。エルフルトの修道院に入つて信念の基礎を定めてから十六年。九十五箇條を揭示してから三年六箇月。彼は宗教の形式を排して眞相を捉へた。神の言葉に由り、キリストの敎に從ひ、祈禱瞑想の中に神に咫尺した。良心の命を神の聲と信じ、キリストの言を神の默示と信じた。彼の剛勇と徹底した行動はたゞこの信念の發露である。しかも一方からいへば、彼の態度は實に大膽不敵といはざるを得ない。個人判斷の自由獨立とその絕對權を主張して、千有餘年來持續した羅馬法皇の傳統的權威に反抗し、世界的宗教會議の決議の效果を無視したのである。彼は改革者といふよりは寧ろ革命者である。近頃の流行語を借りていへば、彼も亦危險思想家の一人であらう

カール帝もルーテルの傲岸さが、これほどとは思はれなかつたらしい。四月十九日の議會で、その對策について、先づ獨逸代議員の意見を徵されたところ、彼等は尙考慮中であると答へた。その時帝は決然たる態度で、然らば予の意見書を諸君に披露せんとて、陛下自ら起草された佛文の意見書を朗讀され、獨逸の譯文と共に議員達に配布せしめられた。皇帝の態度に絕大の注意を拂ふて居た者は議員丈けでなく、國民全體であつた。否西歐全體であつた。ウオルムスとその附近に集まつて樣子如何と待ち構へて居た者は殊に熱心であつた。若しルーテルの一身に危害を加ふる者があつたら、それこそウオルムスは忽ち修羅の巷と變じ、獨逸國内に戰爭が起つたであらう。皇帝の護衞としてお供した西班牙人や、法皇の勅使に隨伴した伊太利人も迂濶に彼に手出しすることはできなかつた。物騷な噂は絕えず人心を不安にした。十九日の夜中、所々に貼紙された。羅馬方のマインツ大僧正の宿や皇帝の行在所の室の戶にまで貼られた。その中に四百の騎士が起つだらうとか、八千の軍兵を以て戰を開かうとするとかいふ文言があり、又弱年のカール帝を呪ふやうな語さへあつた。實際何か好機會があらはれたら、直ちに武力に訴へようと身構へてゐたルーテル贔負の貴族ジッキンゲンとフッテンは、ウオルムスから一日程の處にある城內に控えて居たのである。ルーテルは途中この城に一泊するようにと手厚い招待をうけたが、立寄らなかつた。これらの貼紙の中の脅どし文句は幸ひ實現しなかつたが、皇帝及び議員等の心を動かしたことは確實であつた。そこで今一度調停を計つて見ようといふ穩和策が容れられた。トリエル、ブランデンブルヒの兩

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

選帝侯を筆頭として八名の委員が選ばれ、二十四日にルーテルを引見したが、彼は頑として自說を曲げないので、その翌日皇帝から公けにウオルムス退去を命ぜられ、廿六日歸途に就いたのである。帝の旅行保證券には二十一日の猶豫が與へてあつた。ルーステは途中で說教することを禁ぜられたに拘はらず、神の言葉は人によりて束縛せらるべきものでないと放言しつゝ、到る處に說教をした。フリードリッヒ侯の賢明なる秘策によつて、彼は五月四日の夜から侯の所領なるワルトブルヒ城に匿くまはれる事になつた。五月二十六日カール皇帝は遂に異端者としてルーテルを處罰する勅令を天下に發布した。しかしその日附は五月八日になつて居る。この日は帝が法皇と同盟を訂結した日であるから、その意の存する所ほゞ察すべきであらう。勅令は出ても、これを遂行する中心は、諸侯及び自由市の行政者の掌中にあるのだから、その效果は甚だ覺束なかつた。五月上旬から代議員はボツ〳〵散じ初めたが、カール帝のウオルムス退去は五月三十一日であつた。

三

ルーテルのウオルムス議會臨場は彼の生涯における極めてドラマ的の晴れの舞臺であるばかりでなく、プロテスタント主義の最も目覺しい實例あつた。十八日の晩、宿に歸つて自分の室に入るや、彼は左も愉快さうに『やり通ふしたぞ。やり通ふしたぞ』(『Ich bin durch! Ich bin durch!』)と繰り返し叫んだ。

ウオルムス議場に直立したルーテルの背後には獨逸國民が控えてゐた。大諸侯(貴族・僧侶・農民の大多數は一齊に彼を後援した。當時歐洲列國の人心に芽ぐみつゝあつた國民の獨立心は彼に共鳴した。教權の專横に虐げられつゝ個性の自由解決を渴望した人士は、彼に於て偉大な代言者を見出した。僧侶の壓迫から脫出せんことを願ふてゐた人文學者も、遠方からこわ〳〵彼にチーアを送つた。彼はこれらの後援者共同者贊成者に扶けられたに相違はないが、その後彼等が交はる〳〵彼を棄てゝ離れ去つた曉にも、彼は磐石の如く泰然とし動かなたつた。ウオルムス議場から歸つた時『やり通ふした』と叫んだ彼は、一五四六年二月臨終の際『貴下は貴下が永年說かれた信仰を今も持せらるゝか』と親友ヨナースの問に對し、ヤー(然り)の一言を殘して去つた。彼の主義精神はどこまでも徹底して居る。

彼が六十三年の生涯の中で、その最盛時期は一五一七年から一五二三年までの七年間である。而して一五二一年の四月はその絕頂であると言はなければならぬ。その四年間における彼の一言一行一舉一動は獨逸の人心に痛快な反響を喚び起した。彼

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は左顧右眄しなかつた。利害を打算したかつた。政略や野心はどこを探しても彼の心の裡になかつた。彼は神を畏れて人を恐るゝことを知らなかつた。時には大恩人なるフリードリッヒ侯の命にさへ逆つた。彼はたゞ信念と獨逸魂の權化であつた。『神と倶ならば誰れか能く我に敵せんや』といふのが彼の意氣込であつた。左はいへ彼には豫言者の識見と國民の指揮たる常識があつた。彼は無意識に同胞人民の心琴に觸れた。彼はその時勢とその國民性から生れた健兒であつた。

四

思想言論の自由の許されない國には偉大な學者思想家發明家の出ることを望まれない。創作的才能や先人未發の學說を考案する人物を産出することも極めて稀れであらう。平均していへば、日本人は知識學問藝術に於て歐米人に劣つてゐない。しかしどの方面にも非凡な卓出した者が寡い。世界的の學者世界的の偉人が出ない。我邦古今の歷史を通じて、文化の要素を形造つたものは大抵舶來品で、土着のものが殆どない。支那朝鮮から輸入したのでなければ、歐米人から學んだものである。幾分かそれに工夫を加へたり變化を與へて適應せしめた功勞はあらうが、全然日本人の頭腦から創造されたもので、諸外國に推稱され或は採用され、世界文化を資けたといふほどのものはないやうに思ふ。手近い例をいへばノーベル賞金を贈られるほどの人が我邦にはまだなささうだ。孔子孟軻に比すべき者は誰れであらう。王陽明に當るべき人があらうか。莊子に似た者があらうか。仁齋・藤樹・徂徠・鳩巢などを並べて見ても、どう贔屓目に見ても、段が違ふとしか思はれない。學問の方で西洋大家の名を並べる必要もなからう。して見ると美術の一部門丈けが、日本人のオリヂナリティーの最もよく發揮された點であらうかと思はれる。こゝに我々の疑問も生じ又希望も存する。それは美術にあらはれたオリヂナリティーが、何故他の方面にも發揮されなかつたかといふ事である。美術は(文學と詩を除外すれば)安全地帶にある。政治と無關係であるから、何等危險の恐れがない。言ひ換ふれば、美術家はいかなる虐政の下にでも、自由の別天地を見出すことができる。この點で能く日本に似て居るのはスペインである。自由のない處には創作的才能は發生しない。たとひ鸚鵡のやうに人格々々と呼ばはつても、事實人格人權の無視されて居る國には百世の師や世界的偉人は活動ができない。スペインとトルコはその適例である。專制主義のロシアでは偉人天才が文學に避難所を發見した。隱れ場を見出し得ない思想家は外國に逃がれてその生命を全ふし、その意見を發表した。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

民主々義の正反對に立つて居たロシアに過激主義や無政府主義が蔓延したのは、何たる皮肉であらう。一見パラドックスのやうで、實は極めて合理的な結果であらう。

いかなる暴虐壓制を以てしても、押し潰されないものがロシアの國民性の中にある。將來ロシアが進歩發展する力はそこにある。我國民性にそれがあるだらうか。

五

由來我邦には自由の太陽が照らさなかつた。人權が平等でないのみならず、非常な差別があつた。治者の目から見ると、被治者は奴隷同樣であり、時として物品同樣であつた。德川時代に少しでも新奇の説を唱へたり、世間並みでない行動をするものは、何等の裁判を經ず、辯護の機會も與へられず、當局官吏の認定次第に處刑されたのであつた。朱子學以外の學説を禁止したのがそれだ。蘭學の漸く盛ならんとするや、蠻社の説と稱して渡邊登、高野長英等の人材を刑したのがそれだ。山鹿素行・熊澤蕃山等も等しく壓迫されて、その才鋒を收めた。かくの如く思想學問の上で少しでもその頭角を露はさうとした者は片端から抑へられた。世は泰平を謳歌し、幕府は權威を維持したが、自由人權の太陽は深く黒雲の中に埋れてしまつた。

ルーテルの異端事件は十六世紀における思想問題であつた。羅馬方から見れば極めて重大な危險思想の問題であつた。然るに彼は一日も未決監に拘束されたことがなかつた。又罪の有無を決定しようとした原則が寛大で合理的であつた。カエタン僧正の取調べで殆ど有罪と定まつて居たのに、更にエックと對論せしめた。この時彼は法皇の權威を否定した上に、宗教大會の決議すら否定することを明言したのであつた。然るに重ねてウォルムス議會に召喚するといふは何たる寛大さであらう。その時ですら自説を取消すといへば無罪になつた筈である。飽くまで彼の權利人格を尊重して意志の自由決定に任かして居る。陪審制度を採用して居る歐米諸國の法律では、大抵有罪と決しない者を拘束しない。罪の判決權は判事になく、陪審官にある。陪審官の選擧法は多少國によつて違ふが、その原則は民意を代表し人權を擁護する主旨に基いて居る。我邦ではその權力が事實上少數官吏の手中にある。一場の演説一篇の論文でも、當局がそれを危險と認めるか不敬と見込んだら最後、これを取消すことは愚か、これを辯明することも殆ど無效である。大辯護士の辯論も、地位德望ある友人の力添へも、法官の認定を覆へす力はない。刑則嚴縮の山である。將に實現されんとして瀨戸際で、どこかに迷子になつて居る陪審制度法案がせめて政治犯人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

及びその嫌疑者丈けにでも適用されたら、國民はその恩澤を蒙るであらうと考へられる。要するに現今我邦の裁判制度は主もに形式の進歩で、その内容精神は德川時代と大差ないのではあるまいか。今日の英國に比し、否四百年前の獨逸に比べて見ても、根本的に相違して居るように思はれる。

ルーテルの事件は政治外交樣々の事情がからまつて居るから暫らく措かう。彼がワルトブルヒに隱匿中、元彼の先輩でウ大學の教授であつたカールスタットと彼と同意見の黨がウ市に來り、過激な説を吐いて市民を騷がしたことがあつた。メランクトン初めルーテルの友人等もその凄まじい勢に呑まれて手出しができず、市の當局も選帝侯も何等制裁を加へずに傍看の姿であつた。この難局を收むる力倆ある者はルーテルの外になかつたのである。その爲め彼は一五二二年の三月ウ市に歸つた。彼は毫も法律の力を藉らず警察權をも用ゐず、唯穩健な言論を以て危險思想家を論破してしまつた。これは彼がウオルムス議會で自説について要求した事を、自ら他のものに實踐したのである。思想は思想を以て、言論は言論を以て結果をつけた好實例であるから、こゝに略敍した次第である。

扨その人心に及ぼす結果はどうかといふに、ドクマ主義、形式主義、劃一主義、曲學阿世主義の全盛である。虚僞・虚禮・情實・派閥・黨閥・門閥・學閥・閨閥の跋扈である。偉人天才は此の國に生れても育たない。育つても活かして置かぬ。眞理の研究と創作發明の才能は此の國に禁物である。但し國家に無關係若くは國家を利する眞理の探求丈け自由であらう。教育はシツケカタと見られて居る。天賦の才能を引き出すのではなく、チャンと出來上つてゐる註文通りの典型に嵌めることである。要するに教育家は盆栽作りである。國民全部が盆栽になりはすまいかと案じられる。ルーテルは盆栽でない。彼は野生だ。大々的の野生樹である。横に張り竪に伸び亭々として天に聳した。否天をも突き破りさうな勢であつた。我邦二千五百七十餘年の歷史上どの時代を探がしても、彼に似た人間を見出すことができない。實は彼の如き人物を生ずべき環境がなかつたのだ。

偉人を出す國民にはやはりどこかに偉人性がある。寛容性がある。短氣性急で、幅の狹い奥行の淺い人民の中から偉人は出ない。コセ〳〵した兩親から鷹揚な人間が生れないのと同樣である。我々は米國のリンチを非難する。これは確かに彼國の恥辱だ。しかし純アングロ・サクソンの住んで居る新英州には殆ど見ない事實である。日本にもリンチがある。暗殺がそれだ。一種の私刑に外ならない。思想でも言論でも暴力を以て壓服するのである。中世の獨逸ではこれを拳權と稱した。我邦には今

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

でもこの拳權を振舞はす手合がある。維新前後には盛んにこれを用ゐて澤山の志士人材を倒ほした。水戸の赤合羽や熊本の神風連はその合同運動であつた。近頃の△△會といふ連仲も同一系統に屬する。これらの暴力家、刺客は惡人かといふに、決してさうでない。多數は善人正直者である。天に代つて惡人を誅するといふ信念を有つて居たものもあつた。しかもその行爲の結果は國家民族の爲めに取り返へしのつかぬ損失になる。前にもいつた通り、古來我邦に偉人が出なかつた。生れても殺してしまつたかも知ない。昔しユダヤに現出したやうな豫言者は我邦の歴史に見えない。若し出たにしても殺してしまつたに相違ない。伊井直弼・横井小楠・佐久間象山・大村益次郎・大久保利通・森有禮の如きは、いづれも拳權主義者の手に橫死した。

米國のリンチは惡い。しかしその被害者に卓出した人物は稀れである。我邦で暗殺毒殺に逢ふた者はいづれも英邁の人物か非凡な先覺者である。國家の損失から見ると、彼と此とは殆ど比較にならない、若し我國にソクラテースが生れたとしたら、どうか。耶蘇が生れたとしたら、どうか。ルーテルが生れたとしたら、どうか。大正の今日に於ても、キツと獄に下されるか或は死刑に處せられるであらう。偉人と創作的天才と神を畏れて人を恐れないやうな義烈な人間は日本に大禁物である。錯と木剪と針金とを以て盆栽を作る心得で青年を教育する方針を墨守する限りは、上述の如き危險人物は滅多に出ないであらう。表面丈けは天下泰平を祝すべきであらうが、日本は永久に世界的國民となることはできなからう。義人を殺し眞人を迫害し、無辜を苦しむる國民――而して物質的快樂と人爵のみを追求する國民の前途に、赫著なる進展を期待することができようか。吾人は憂慮に堪えない。

下、ルーテルの性格と生活振

一

予は茲に人、人情の温かな人間味に充ちた人、人の中で傑出した者、偉人としてのルーテルの性行と生活振の大要を紹介しよう。修道僧・神學者・改革者などの有りふれた名稱に彼の全人格を掩ふことができないと思ふからである。眞の偉人は世界的のもので、人類共有の寶であり誇りである。一地方若くは一國民の專有すべきものでなからう。その人の思想及び事業の感化は世界大であり人類すべてに及んで居るからである。

彼の誕生は一四八三年、即ち我が文明十五年義尙將軍の代で銀閣寺落成の年に當る。一五四六年(天文十五年)足利氏がその

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

實權を失ふて群雄將に蜂起せんとする頃、ゼスイツトの傑僧ザビエーが薩摩に上陸する三年前に世を去つた。父は農業の傍ら鑛夫として稼いだ。後にはやゝ裕福になつたが、ルーテルの青年時代には甚だ不如意で、學資も碌々送ることができなかつた位である。ルーテルは兩親から貧苦の中に鍛え上げた頑丈な體格と不屈不撓の意志を遺傳した。父が生活狀態を進めようとして三度も移住した事、又苦しい中から長男を教育しよう、とりわけ法律家にしようと欲した事と考へ合せて見ると、父の胸中に功名心の動いてゐたことがわかる。然るにルーテルはエルフルト大學を卒へてマスターの學位を受け、これから進んで法律を修めようとした矢先きに、異常な煩悶に出遭ひ、宗教心を發起し、父にも謀らずに修道院に入つてしまつた。時に二十二歳であつた。在院四年の後やはり僧籍のまゝてウヰツテンベルヒ大學の講師に聘せられ、それより七年の後圖らずも宗教改革の曉鐘を打ち鳴らすこ　になつたのである。彼が半生の略歴はこれ丈けの要概に止めておかう。

二

吾人はルーテルや彼の兩親や妻子を始めとして彼の保護者であつた三代のザクセン侯、彼の事業を翼佐した友人或は敵に在るまで、當時の人々の肖像に接することができる。殊にルーテルのものは幾種類も遺つて居る。それは彼の友人ルカース・クラーナッハが描いたものである。この人はフリードリッヒ聰明侯お抱への畫家であるが、傍ら藥舖を開き又書籍出版業を營んでゐた。一時はウ市の市長を勤めたこともあつた。ルーテルの著はした澤山な本は、大抵クラーナッハの店で出版販賣したものである。當時の習慣として著者は一切報酬を受けなかつたからクラーナッハはルーテルのために大した利得を收めたが、ルーテルも亦非常の便利を得たのである。クラーナッハは木版彫刻にも巧みであつた。ルーテルの小冊子に附いて居る挿畫や風畫の意匠は彼がルーテルと相談の上で作り、彫刻は彼の手に成つたのである。この人の傑作は壯年時代のもので、ルーテル及びルーテル兩親の肖像が卓出して居るとの定評である。當時獨逸第一の畫家であり、又クラーナッハと同じくルーテルの熱心な敬慕者であつたアルブレヒト・デューレルが、ルーテルに會ふてその肖像を描き殘さなかつたのは、千古の遺憾である。尤もデューレルはルーテルの譯した新約聖書の中の默示錄の部に挿畫をかいて居る。

ルーテルの體格については詳しい記錄が遺つてゐない。第一身長がどれほどあつたかさへ記したものがない。三十歳を越ゆ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るまでは瘦せてゐたが、その後追々肉づいて五十歳の後は殊に肥え太つた。實際會見した人々が彼の目について言つて居るとが一致しない。或所は彼の眸子が黑かつたといひ、或者は茶褐色であつたといひ、又或ものは薄黑くてその周圍に黃色い輪形があつたと記して居る。兎に角眼光が人並外れて鋭かつた事と顏付が何となくライオンに似てゐた事は、誰れも一樣に感じたらしい。晩年頭髮が灰色に變つたが、髮が脱けて禿げたことはなかつた。又老後多病であつたに拘はらず、何時でも若さうな又力に充ちた容貌をしてゐた。先きのライオンに似てゐたといふ事で思ひ出した一挿話がある。故三好退藏氏が昔し獨逸に行かれた頃、一夕ビスマークと晩餐を共にされたことがあつた。


ルーテルの肖像

一友人がその時の感想を氏に尋ねたら、氏はどうもライオンの側に居たようであつたと答へられたさうである。ビスマークとルーテルの容貌はどこか似たところがあるやうに思はれる。

三

服裝に關するルーテルの趣味は極めて單純質素であつた。寧ろ無頓着であつたといふべきであらう。彼の平常着は俗人の用ゐるジヤケツと無細工なヅボンとであつた。時折古ぼけた補綴したものを著てゐたことがある。それも自分で補綴することが毎度であつた。結婚後の事であるが、ルーテルが自身のヅボンに補布する爲めに息子のヅボンの布を切り取つたといふので妻君から大に小言を喰つたことがあつた。『イタリー人は裁縫が上手だが、ドイツ人は下手だ。どのヅボンでも一つ形に拵らへてあるから、自分に能く合ふのは滅多にない。永く持たせるには補綴をせねばならぬ。諺に「短いコートを著たザクセン人が鵲のやうに飛び廻はる」といふが、コートとヅボンの間から背中のチラホラ見えるのは、全く以て目ざわりである』と、彼は言つて居る。

儀式のときと說教する時に、彼はガウンを著た。祝宴に臨むときには、金鎖を首に懸けたこともあつた。又銀の指輪は一つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

丈は何時でも彼の指に光つてゐた。その頃の文明人であるローマ人やパリ紳士から見れば、いかにも滑稽な田舍ハイカラに見えたであらう。

起床は季節で違ふが、總じて朝は早起きであつた。午前中は病氣でなければ大抵講演か說教をする習ひであつた。十時に午餐をすましてから、書きものと他の用事に取りかゝるのである。五時に夕食をしてからは會話讀書などに耽る。何か差支の起らぬ限り、九時にはキツと寢室に入ることを常とした。しかしかうした規則正しい生活は結婚後の事で、獨身時代、殊に四方八方から非難攻擊を受けて、盛んに應戰した頃、彼は衣食の事に全く無頓着で、食を廢した事又續けさまに徹夜した事などは一向珍らしくなかつた。又食事の用意のない時は、唯水とパンですました事も珍らしくなかつた。(後年妻君ができて美味が食卓に上るようになつてからは、それを適度に止めゝ事ができず、屢ゝ食べ過ぎて胃を害することがあつた。)寢台やシーツなども一年に一度位しか洗濯や掃除をしなかつた。彼の書齋は荒野のやうで、机・物置臺などの上に書籍・原稿・書翰などが秩序もなく散亂してゐた。おまけに彼の愛犬が折々書齋に來て書類をかき廻はして騷動を惹起したことがあつた。

四

ルーテルが人文學上の功勞は莫大である。

我等はルーテルと宗教改革全體に何ほど感謝すべきであるか、全く知らぬ位である。我等は心靈的飾感の羈絆から解放された。我等はその後進展した文化のお蔭で、文化の淵源に溯り、且原始時代の純なる基督教を理解することができるようになつた。我等は我等の足で神の大地をしかと踏まへ、神が我等に賦與された人性を我等の裡に感知することができるような氣分を回復した。我等は漸々言語と信仰の基督教を離れて、思想と行爲の基督教に移るであらう。

とは深くルーテルを敬慕した文豪ゲーテの讚辭である。

若しルーテルが書いたものを殘らず出版したら、百巻以上の書冊を成すであらう。生前彼の友人等がその出版を勸めたが、彼はこれに應じないのみか、できるなら悉く焚いてしまいたいと答へた。更にウヰッテンベルヒとアウクスブルヒの市民が、同じ事を願つたとき、彼はやはり彼の書籍を全滅させてほしい。たゞ聖書丈け讀んでくれれば本望であると答へた。然るに晩年にやうやく承諾を得て出版にかゝつたが、彼の生前に二巻丈しか出なかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼が用いたものは拉丁語と獨逸語の二通りであつた。シセロその他の拉丁文豪を憧憬して、その典雅流麗な文體に倣はうと努めて居た當時の人文學者から見ると、ルーテルの文章は粗野にして文學的價値がなかつたらう。有名なエラスムスの如きはその中でも特に卓出したものであるが、ルーテルはたゞ達意を旨としたので、内容のみを注意して文體には全然無頓着であつた。當時の歐羅巴諸國に、共通の言語はこの語の外になかつたから、餘儀なくこれを用ゐたのである。彼もその拉丁文の拙いことに氣づいてゐた。『この野蠻なマルチンは鵝鳥の仲間で喧すしく鳴く丈けである』と或る人文學者へ贈つた書中にことはつて居る。しかし彼の特徴である新鮮味と元氣とはその拉丁文の中にも著しくあらはれて居つた。因みにいふが、彼がウオルムスでした演説も拉丁獨逸の兩語を用ゐたのであつた。

獨逸語は彼の得意とするところで、缺點はあるにしても、彼を獨逸文學史上第一流に置かざるを得ない。著しい缺點をいへば折々重複に渉ることゝ、組織の立たないことである。その點ではメランクトンが優つて居る。思想の上から見て、論理整然として能く組織立つて居た點では、當時の改革者中カルヴヰンとメランクトンの右に出づるものはなからう。ルーテルは開拓者であつた。荊棘を切り拓き、岩石や大木の根を掘り返すには、彼の大斧鉞を要したので、細かい仕事は他の適任者を待たなければならなかつたのである。シェキスピーアに一貫した哲學がないと言はるゝ如く、プラトンにも前後矛盾の非難がある如く、ゲーテのファウストにも脈絡を缺き統一が周到でないと評せらるゝ如く、由來偉人は均齊合致といふ事に對して無頓着である。この事を最も痛切に論示したエマーソンの數節を引用しよう。

馬鹿らしい合致（前後矛盾のないこと＝Consistency）は小政治家・小哲學者・小神學者等に崇拜される小人共の幽靈。偉人は合致に關して一切無頓着である。壁に映ずる影と同様に見做して居る。君が今日考へることを的確に語れ、明日は明日考へたことを再び的確に語れ。今日語つたことゝ悉く矛盾してもかまはぬ。さうすると君はキツと誤解されるだらう』。誤解されるのは左ほど惡いことか。ピタゴラスは誤解された。ソークラテースも、イエスも、ルーテルもコペルニクスも、ガリレオも、ニュートンも、凡そ肉體を具へたあらゆる純潔、聰明な精神は皆誤解された。偉人になるには誤解されるのが當然だ。

勿論ルーテルの主義精神は終始徹底しては居るが、往々矛盾を免かれなかつた。農民の亂に對する態度、ヘッセン伯の重婚許可、晩餐禮に關するウヰングリーとの論爭の如きには、その

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しい實例であらう。

ルーテルの文を草するや、文字通りに一氣呵成であつた。彼が一論文を草し一反駁文をかきはじむる時は、眠食を忘れてこれを終はるまでは休止しない。彼は一旦筆を下した文章を讀み返さない。推敲訂補などをしない。いはゆる書き流しである。一論文の後半をかき終はらない内に、その初めの部分はすでに植字工の手に廻はつて居るといふ有様であつた。今日の新聞社では日常茶飯事であらうが、四百年前の昔しでは眞似のできない事であつた。

彼の行文の迅速であつた著しい例は、新約聖書の翻譯である。彼がワルトブルヒ城に幽せられて、退屈の餘り憂欝に沈んだことがある。聖書翻譯は、親友メランクトンがその邊の事を案じて、彼に勸めたのであつた。彼のワルトブルに滯在は僅か十箇月であつた。新約聖書を譯し初めたのは十二月で翌年の三月ヴ市に皈つた頃、ほゞ譯了されたのであるから、百日餘りの仕事と見なければならぬ。全く人間業とは受取れない位である。(新約聖書二十七卷私の所藏する菊版獨逸語聖書中新約の部丈けで二百八十頁。日本改譯の新約書は四六版で六百三十頁ある)。そして同年九月クラーナッハ印刷所から出版されたのである。その上ルーテルは全體の序文の外に、各卷のはじめにもはしがきを書き、又可なり澤山な脚註を加へて居る。晩年彼を悩ました種々なる疾病の中、胃病・坐骨神經痛・眩暈・耳鳴。不眠症などが彼を苦しめ初めたのが、ワルトブルヒ逗留中であることを思ふと吾人は愈ゝ彼が精力旺盛なるを驚かざるを得ないのである。或人はルーテルの翻譯以前幾多の獨逸譯ができて居たから、さして困難でなかつたらうといふ者がある。いかにもその通り獨逸譯の新約聖書は十八種もあつた。それらの譯は大抵羅馬法皇の承認を受けた拉丁語聖書に基いて、成るべく拉丁語から變化した獨逸語を用ゐて譯したものであつた。ルーテルはギリシヤの原版から譯さうとしたのである。當時の獨逸語は高獨逸(北)低獨逸(南)に大別されたのみでなく、南方でも北方でも、ものゝ四五十里隔たると了解に苦しむ位、各ゝ異つた方言を用ゐて居た。幸ひ獨逸の中心に人となつたルーテルは、多くの方言を知り、貴族仲間に行はるゝ言語にも、又平民語にも精通した。各州の政廳で用ゐる公用語を根據とし、成るべく純粹な獨逸語を用ゐて何人も理解し得る平明な而も勁健な文體で譯したのである。在來の譯本は彼の參考とはならなかつた。彼が翻譯の採取つた理由は、かねて聖書に通曉してゐた事と、今一つは一五一六年にエラスムスが公刊したギリシヤ語新約聖書の註釋書があつた爲めであらう。聖書は今や古今數十個國の語に譯されてあるが

一人で而も上述の如き短時日で譯した實例は、どこにもなからう。彼は改版毎に訂正を怠らなかつた。生前に改訂することと十回に及んで居る。

舊約書は數名の友人等の助力を得て、一五三四年に完成した。ルーテルの聖書飜譯は獨逸語統一の上に大功があつたと同時に國民的情操を統一する上に大感化を及ぼしたのであつた。カーライルは彼の文體を評してかういつて居る。『予はいかなる書籍の中にも、ルーテルのそれ以上に雄健なものは見當らなかつた。人間の雄健な能力と高潔な能力が、これほど著しくあらはれて居るものを見なかつた。粗野にして正直な淳樸と單純。粗野にして純良な常識と豪壯。彼の身邊から光輝を放射して居る。彼が自在に用ゆる熟語と成句は事物の神髄に割り込むやうに思はれる。快活更に又温情。高潔と深奥。この男はまた詩人にもなることが出來たらう』。一五三〇年の六月天下の大事が議せらるるアウグスブルヒの會議を前に控えながら、コーブルヒから當時四歳になる長男ハンスへ送つた書翰を讀み、ライプチッヒの討論會場に花束を携へて立ちし彼を想ひ、ワルトブルヒから友人等に送つたユーモアに充ちた書翰を見て見ると、カーライルの評も強ち不當であるまいかと思はれる。

五

十六世紀に輩出した改革者の中でルーテルが一番大きい。彼は學問にかけては、弟のやうな(十四歳若い)メランクトンに及ばないし、頭腦の明晰犀利なことゝ、組織的手腕に於ては、カルヴィンに劣り、雅量坦懷と經世的識見からいへば、ツヰングリーと比べものにならなかつた。過失缺點は彼等より多く、文才趣味や紳士的の都雅(リファインメント)に至つては、エラスムス、トマス・モーアの膝下にも及ばなかつたに拘はらず、吾人はどうしても此の木強漢を第一位に置かざるを得ない。彼は修道士となり、神學博士となり大學教授となつたが、もと〳〵ツーリンギアの森林に近いメーラ村の百姓の息である。彼自らも少しもこの事を隱くさうとしない。『俺は百姓の息子だ。俺の父も祖父も曾祖父も皆百姓であつた』と。三つ子の心百まで、どう贔負目に見ても、彼は高潔であつたが、上品ではなかつたやうだ。小さい時分から父に打たれ母に打たれ學校の先生にも能く鞭韃されたものだ。上品ではないが剛毅であつた。豪邁であつた。彼は阿諛を知らず虚禮に習はず、眞實・質朴と角力ひながら、人となつた。彼は羅馬教會を虚禮虚偽のかたまりであると看取した。しかもその内部に腐敗あることを知つた。キリストの說いた基督教と相違して居る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

點を發見した。こゝに於て彼は猛然として蹶起した。挑戰した。カエタンの威嚇、ミルチッツの猫撫で聲、エックの雄辯も、この百姓の息子を壓服することができなかつたのである。敵味方の別なく、當時の風習は粗野であつた。辯舌でも論文でも隨分劇しい熱罵惡口を交換した。舌戰筆戰どちらにかけても、ルーテルは豪のものであつた。彼一たび筆をとれば風雨[illegible]立所に生ずるの概があつた。しかし彼は一本調子でない。或時は秋霜烈日の如く、或時は和氣藹々の趣があつた。一五二〇年に著はした三書の中でも、羅馬教會のバビロニヤ囚捕は前者に屬し、基督者の自由は後者に屬し、又獨逸諸侯に送つた公開狀は極めて謹嚴壯重であつた。

六

人に對して言ふべからざることなしと司馬溫公はいつたが、ルーテルのやうに開放的な人は他に比儔がない。彼は四十三歳のとき、二十六歳になる元尼であつた一婦人と結婚したが、彼等の家はルーテルが獨身時代から住み慣れた修道院であつた。(勿論修繕はしたが)。この僧庵は君侯からルーテルに下賜されたのである。ルーテルの家の一部は成るべく昔の形を失はないやうに手入をして、今日迄保存してある。家が廣い丈けに多くの大學生を下宿させてあつた。尤もこれはその頃獨逸に學の習慣で、ルーテル一人に限つた譯けではない。その外ルーテル家には親類・縁者・學生・貧僧などの食客が隨分多かつた。ルーテルは晩食前にビールか葡萄酒を用ゐる習慣であつた。それ故夕食の時及び食後暫らくの間は、彼が得意に快談する時刻であつた。一五三一年の夏アウストリアの一學生が彼の談話を筆記する事をはじめたのが例となり、その後交はる／＼これに倣ふものが出できて、約十五年間續いた。ルーテルの卓上物語はかくの如くして出來たのである。その中にいろ／＼の問題について彼の話した事柄が悉く載せてある。家庭を公開して開放的な男が一杯機嫌で話した事を玉石混合殘らず筆記したのである。英譯本にはところ／＼譯し得られないで省いた個處がある位である。おのろけから夫婦喧嘩のせりふまで載つて居る。一例を擧げると三代目の最も勤勉な筆記者ラウテルバッハの事について、『博士よ。あの人達に無報酬で教へなさいますな。あれ達は筆記で中々儲けるのですよ。ラウテルバッハは一番上手で一番沢山儲けます。』夫『わしは三十年間無報酬で教へ又說教した(獨逸の大學では今日でも行はれて居る通り、年俸の外に學生が教授に出す謝禮の金がある。ルーテルはこれを取らなかつたのである)。今更この老いぼれの年齢になつて[illegible]られないぢやないか。

ルーテルの生活法も亦開放的であつた。彼の俸給は長い間一百グルデンであつたが（我一百圓に當る。しかし購買力から見ると、一千五百圓以上であらう）結婚した年二百グルデンになり、一五三二年に三百グルデン、一五三五年には四百グルデンに增された。その外種々な贈品があつた。英國のヘンリ八世王も一五三五年に五十グルデンを贈られ、デンマルク王からも五十グルデンの年金を賜はるとになつたが、その年彼は世を去つたのである。彼の晩年は決して貧乏でなく、不動產も動產も大分の多額に上つた。しかし理財の事は全く妻の功勞で、ルーテルは萬事彼に一任して居つた。彼はこの點にも開放主義で、前に言つた通り、幾人でも食客を養ふたから、月々の支出は莫大であつた。彼は友人の結婚などに祝ひ品を贈つた。金がないと他から贈られた品物を利用した。氣の毒な人には惠與する。これも金がないと、室内の裝飾でも、食卓用の品でも、無頓著に施してしまふ。彼は情に脆ろく、少し眞實さうに事情を訴へると、直きにほろりと同情する。その爲め人に能く欺されたのである。彼は困つて居る友人に金を貸した。持ち合せがないと裏書をした。裏書をしてひどい迷惑を蒙つたことが度重なつたので、富裕な友人等は氣の毒に思ひ、ルーテルの裏書無効の申合せをした。家庭では辣腕な妻に引しめられ、外部では上述の如き同盟が成立したので、流石の開放主義者も金錢の事では不如意を歎ずるに至つた。

ルーテルは性の要求についても僞はらなかつた。妻帶する前年の十一月の末親友スパラチンに送つた書中にかう告白して居る。『予は木ではなく石でもない。予が結婚の意志なきは人情を缺いで居る爲めでない。異端者として殺さるゝ事を每日期待して居るからである』。彼の妻カタリーナは不縹緻な女であつたのみならず、優しい女らしいといふ點が乏しく、俗に云ふ八釜しい山の神で、口數の多い方であつた。その上ルーテルの精神的なると正反對に物質的に傾いてゐた。しかし中々力倆者で、とりわけ蓄財貨殖の事に長じてゐた。偉人も妻の饒舌に閉口したと見え、一日かう言つたことがある。『お前の長い說教の前に祈禱をしてくれんか。その祈禱は成るべく長いがよい。さうすると、說教がダン／＼短かくなり、遂に中止になるだらうからね』。又一日ルーテルの庭園で二三友人等が會した時、ヨナースがその頃の新しい女の問題に說き及んで、婦人が男子の司權者にならんとする傾向あるを慨いた。主人公は默つて聽いてゐたが、おしまひに『だが我々は讓つた方がよい。さうしないと家庭の平和が保たれまい』と言つた。しかしルーテルの家庭生活は幸福であつた。彼はその妻を敬愛し信任して一遺言の中にも資產全

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

部を彼に委任して居る。財産總額は時價七千グルデン位のものであつた。ルーテル夫妻の死後(一五六四年)その家は三千七百グルデンで市大學へ買ひ取られた。因みにいふが、ウ大學は今から百五年前ハルレ大學に併合された。

修道院に居た十數年間は難行苦行の中に禁慾主義を勵行したが、彼は決して西行のやうな厭世家でなく、寧ろ耶蘇に似た自然享樂主義の人であつた。神の子等は神の律法に從つて人生を享樂し得るものと信じた。少い頃から音樂を好み歌も可なり上手であつた。笛は一番得意であつたらしい。酩酊することは堅く禁めたが、ビールと葡萄酒を飲んだ。旅行先きから妻君へ送つた手紙の中に、能く酒の品評をして居る。カタリーナは自家用のビールを醸造したが、その手際が中々旨かつた。或る牧師等は反對したが、ルーテルは舞踏や演劇をも是認した。勿論宗教上の教訓を補はうやうなものを良いとしたのであらう。これらの點は英國の清教徒と非常に違つて居るやうに思ふ。大切な主義主張の爲めには生命を賭してゞも譲らなかつた彼は、融通の利かぬ道學先生ではなかつた。成績の優くれない學生等をも親切に誘掖した。一忠僕の爲めに家土地を買つてやつたこともある。彼が四十七歳の時兩親は前後して死んだが、その訃に接したとき、彼は小兒のやう人目も憚らずに泣いた。彼は六人の子を得たが、長女は夭折し二女は十二歳の可愛い盛りに永眠した。愛兒の死を悼んだ彼の悲歎は非常であつた。今日まで傳はつたルーテルの子孫は三男パウロ三女マルガレータの末裔である。

七

かくの如く直情徑行天眞爛漫であつたルーテルは本來陽氣な性質であつた。勿論病の爲でもあらうが、一つにはその反動として折々憂鬱に陷ることもあつた。彼は頓智に富み能く戯言を吐いた。烈火のやうな赤誠と呑氣な滑稽趣味とが、彼の肚裡に中よく同棲した。親友メランクトンも彼のはしやぎ過ぎるのを餘ほど苦にしたようである。ルーテルの結婚は彼が平生の開放主義と無頓着とが祟りを爲して、少し取り急いで行はねばならぬ譯けになつたが、メランクトンはそれを見て私かに喜んだ。今度こそは御大も少々參つたらしいから、今後は彼の諧謔も慎むだらうと言つたさうである。煩悶憂鬱に陷り易い一青年にかき送つた彼の言葉が殘つて居る。『そんな場合には君は成るべく友人等を訪ふて快談し、平生よりも聊か餘計に飲み、馬鹿話や戯談を試み、その他何にも愉快な事を遣るべしである。僕が快談馬食、無遠慮に放談するには、大に理由がある。惡魔が僕を窘め、僕を嘲弄はうとする時に、こちらから逆襲して、先きを著

めるのも、一策と思ふからである。飲む方は危險としても、陽氣にやる方は安全だ。僕の言つたことを能く諒解してくれたまへ」。雜馬方の連中はルーテルを大酒家放蕩者の如く惡口したがこれは彼の僧侶に似合はぬ磊落豪放な生活法を誤解したのであらう。ヨハン・フリードリッヒ侯は實際酒が強く、時々過ぐされたことがあつたので、ルーテルは諫めたことがあつた。

ルーテルの死因は腦溢血か心臓病か不明であるが、最終二十餘年間には屢々病に罹つた。その病氣の種類を一々算へると十二三種もあらう。强壯な彼の身體を害した重なる原因は前半生の禁慾主義と過度の勤勞であらう。しかしその多病の身を以て彼が爲し遂げた事業の多種莫大なるを想へば、吾人の如き比較的無病な者の働きの乏しきを耻ぢざるを得ないように思ふ。

犯罪の變遷と捜査の進歩

寺田精一

一　自然犯罪人爲犯罪

犯罪が、一つの社會現象である以上、其の社會の狀態の變遷に伴つて、又變遷を生ずることはいふまでもない。如何なる國の法律の發達も、先づ最初に刑罰法規から進んで居ることは、頗る興味のある事實であつて、吾々の共同生活に對する保全と繁榮とが企てられ始めると、そこに第一に其の共同生活の侵害者に對しての問題が考察されたのである。かくて社會の統制的機能が現はれると共に、犯罪者の發生を見るに至つたのであつて、然かも其の犯罪と見做す根本思想は、共同生活に對する保全と繁榮との侵害に置かれてあつた。

けれども其の共同生活に對する保全と繁榮とは、何時も同一經路を以て進められたものではない。即ち其の時代により又其の社會によつて、種々異つた途が採られた。この種々異つた途の採られたことは、やがて或時代或社會に犯罪と認められたことが、他の時代他の社會に犯罪とされぬはかりでなく、却つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

賞讃されることともなつた。極端な例を擧げるなれば、尊族親を殺害することは、一般に極惡のこととされて居るけれども、老衰者の生存が求食防敵等の爲めに原始民族に於ける社會的負擔となつたことから、古代のインドゲルマン族は、瀕死の兩親すらも殺害し外に晒(さら)して死に至らしめ、古代ギリシヤのケオス島では、六十歳以上の老者をして毒を仰いで死せしめる法律習慣を有し、古代のプロシヤでは、老いたる兩親を僧侶の宣言に基いて縊死せしめる風習があつた。尤もかかる事實は、宗教的意味が加はつて、生の苦悶を脫却し得るとの念から喜んで行はれたことも爭はれない。次に、或時代或社會で普通事とされて居つたことが、他の時代他の社會で犯罪として問はれるやうなこともあつた。酒は何人でも任意に造ることが出來たのであるが、我邦の今日は國家の政策上それを許されない。或に又自分の畑で作つた煙草の葉を許可を受けない場所で乾燥したり藏してすらも專賣法の行はるる今日では罪とされる。

そこで犯罪行爲として認められるのは、時代により又社會によつて必ずしも一定しない。けれども人間の本來の生活に反したやうな殺人や竊盜や詐欺や貞操犯の如きものは、極めて特例を除いては、何れの時代でも何れの社會でも犯罪とされた。それをガロファロは自然犯罪と呼び、これに對して或時代に限り又或社會に限つて犯罪と認められるやうなものを人爲犯罪と呼んだ。而して社會の事情が複雜化し、人類の欲望が多樣化するに伴つて、單純な軌範では社會の保全と繁榮とが期待されないことになる。從つて只以前に犯罪とされなかつたやうな行爲が犯罪とされるやうになつたり、又從來見られなかつた特殊な行爲も、然かもそれは刑罰法規で禁止しなければならないやうなものを生ずるのである。この意味で、人爲犯罪と呼ばるべきものは、次第に其の種類を增加する傾向があるといはねばならない。

二 偏異者の增加

文化の程度が、其の社會の各個人に特殊な傾向を與へることとはいふまでもないことである。殊に素朴な文化を有する社會のものに、均一性に富んだ單純な性質を見易く、これに反して發達した文化を有する社會のものに、差異性に富んだ複雜な性質を見易いことは明かな事實である。この事實は、これを反面からいふならば、素朴な社會の生活者は、常態的性質を去ることの遠くないものによつて、其の多數が占められて居り、又發達した社會の生活者の中には、常態的性質を離れることの遠いものが、少からず含まれて居ることもあるのである。この常態的性質を離れることの著しいものが、普通にいふ變り者で、私

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が偏異者と呼ぶものである。

かかる偏異者は、現代のやうに愈煩瑣な生活に入る社會に於て、益多く現はれ勝ちといはねばならない。それは所謂文明の生んだ特殊な慾望の昂進や、特殊な欲望を誘發する事實の增加や、生存に對する過度な努力による疲勞や衰弱や、自己中心的欲求の滿足を追ふ爲めの誇張や調子外れや、普通な現はれ方や一般的事實に對して刺激や感興の失はれ易いことなどから生ずる結果であつて、然かもこれ等は、所謂現代文明によつて益著しくなりつゝあるのである。かくて神經衰弱者や精神病者を多からしめる原因となり、自殺者を多からしめる原因ともなり、又戀愛藝術愛好者の發生となり、迷信惑溺者の續發となり、或は又遊蕩者や賣春婦や痲醉物嗜好者や異常な形式をとる生活者の頻々たる顯出ともなるのである。然かもこれ等は、何れも偏異者といふことがある。

前項に述べたところは、社會の複雜化や人類の欲望の多樣化から、刑罰法規の多くの規定となり、それに伴つて人爲犯罪を增加せしめ、結局社會の方面から犯罪者を多からしめることとなる場合を擧げたのであるが、今述べた偏異者の增加の場合は前者と異り、個人自らの性質の方面から、結局不良行爲や犯罪に至り易いものを多からしめることとなるのである。

而してこの偏異者の增加することは、犯罪の性質殊に其の行はれ方を、頗る複雜多樣ならしめるものであつて、古代人の想像だもしなかつたやうな行爲を現はし易いこととなるのである。例へば窃盜は、古代に於ては生活に必要な物資を得る爲めに行はれたのに、今日に至つては、門札を窃取し門札會を開いて樂しむやうなこととなつて現はれるに至つた。或は詐欺は、他人の財物を詐欺して自己の利慾心を滿足せしめるのが本來の性質であつたのに、中毒性藥物殊にコカインやモルヒネなどの濫用が行はれ易くなつたことから、これ等の藥物に中毒し、其の中毒症狀の苦惱を脫せんが爲めに、金錢を所持するが如くに裝つて、醫師にそれ等を注射して貰ふやうな形式となつて現はれるに至つた。

固より何れの時代に於ても、偏異者の存在を否定することは出來ないけれども、然かも現代の如くに、それをして現はしめ易い條件に富んで居つたことはないのである。從つてこの點は確に犯罪の變遷として注意しなければならない一つの主な方面といふことが出來る。

三　纖細的と粗暴的

間々いはれることであるが、文化の程度の低いものに於て現

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はれる犯罪は、總べて直接的で粗暴的であるが、文化の程度の高いものに於て現はれる犯罪は、總べて間接的で纖細的であると。それは明かに一面の眞相は捕へて居る。即ち同時代の同じ社會のものによつて行はれる殺人罪であつても、文化に多く浴して居るものは、頗る殘忍な方法を以てし易いのに、文化に多く浴して居らぬものは、さうでないことがある。けれども一般の事實は、必ずしもこれを肯定しては居ない。復讐的に行はれる殺人罪が、殘忍な形式を採るのは當然なことであつて、これを論外として見るも、利慾の爲めに行はれる場合で、敎育あるものが然らざるものに比して、殘忍な方法を用ひないとは決していはれない。米穀商をバットで撲殺した某官吏の如きは其のよい例である。

そこで實際上では次のやうにいはねばならないのである。即ち文化による生活が、吾々をして偏異的傾向に至らしめ易いことは、一方に於ては極めて纖細な官能や慾望の要求を起さしめると共に、他方に於ては普通のことに何等の刺激を感じなくなる結果として、大懸りな誇張的な調子外に至らしめ、極めて粗暴な官能や慾望の要求を起さしめ易いのである。この兩方面は頗る矛盾したことのやうであるけれども、偏異の傾向は中庸を離れた兩方の極端に至るのが當然であつて、それが却つて自然の進み方といはねばならない。

「このやうな現代に於ける兩方面の存在に、やがて犯罪にも二つの極端な性質のものを發生せしめて居る。即ち異性に關係ある物品を所持して、そこに特殊な性的の興奮と滿足とを味はんが爲めに、故らに妙齡の婦女子の懷中や袖から、汗や脂肪にしとしとした手巾や、鼻汁に滿つてぐちやぐちやした鼻紙を窃取したり、或は髮油のにじんだリボンや、香水白粉などのついて汚れた紙入などを盜み取つたりすることがあるが、これ等は決して利慾によつたものではなく、それ等によつて得られる異性關係の官能殊に嗅覺から得られる官能の滿足を追ふものに過ぎない。この程のものは、今日不良少年と呼ばれて居るものの間で頗る多く行はれ、何れも纖細な現はれ方といはねばならない。尤もこの種のものが現代にのみ見られるのではないけれども、然かも現代に於て一層珍しからぬこととなつて居るのである。

このやうな纖細な現はれ方が見られる反面では、殺伐な粗暴な傾向の現はれが、樣々な形式で見られて居る。先づ比較の便宜上矢張り性慾的のものを例に擧げやう。即ち特殊な粗暴なことをしなければ、何等の性的の感興や興奮や滿足の得られない爲めに、故らに異性を街路に襲つて負傷せしめるやうなことが間々行はれて居る。甚だしきは、この要求の爲めに異性を死に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

至らしめるやうなことも行はれて居る。これも亦現代のみ見られることでなく、人類に現はれ易い傾向が程度を逸して現はれたのに過ぎないけれども、然かも現代に於ける偏異者の增加は異常な刺激の廣い方面に特殊な享樂を求めしめるものを多からしめる結果、自然かかる粗暴な現はれ方をなすものをも、多からしめて居るのである。

四　刺激要求性

而してこの異常な刺激の強い方面に特殊な享樂を求めやうとして居る現代人の傾向は、犯罪と關係せしめて尙少しく述べなければならない。

現代の人は、自然的生活から餘りに人爲的生活に偏して居る。然かも文化が人の創造によるものなる丈け、最も文化の取り入れられて居る境遇例へば大都市の如きは、最も人類が憧憬し誇りとして居るものであるが、其の大都市は最も人爲的生活に偏した狀態となつて居る。固より人爲的生活が、吾々人類の發達向上の爲めに、至大の影響を與へたことはいふまでもない、けれども其の人爲的生活に調子に乘つて又は已むを得ず深入りした時に、知らず識らず吾々の自然から與へられた本性を失はしめ勝ちな運命に導いた。その運命は、やがて又吾々をして人爲的に特殊な境遇に導かなければ、滿足の出來ないやうな落付かぬ不安な物足らない心理を得せしめることとなつた。其の落付かぬ不安な物足らない心理に對する焦々しさや性急や興奮は、穩かな靜かな平凡な有り來りの刺激を顧みなくなつて、平穩ならぬ騷々しい變態な珍らしい刺激をのみ注意せしめ易くなつた。この心の狀態は、概括して刺激要求性といふことが出來る。

現代の人々の興味を惹くもの、流行として取り入れて居るもの、殆んど皆この刺激要求性に滿足を與へるものである。而して吾々自ら感興を惹くものが、自らの行爲の對象とされ易いことは、自然の傾向である。現代人が刺激要求性を有し、刺激を與へるものに感興を持つことは、やがて又現代人をして刺激性なことを好んで行はしめることともなるのである。勿論、犯罪のやうに吾々の道德的感情に背いたことであり、且社會的制裁を受けることであると、假令それに感興を惹いても、自らが實行者となることは少いといはねばならない。けれども或特別な原因から、犯罪するやうな心理に陷つた場合には、其の現はれ方が、自己の日常感興を惹くやうな形式に現はれ勝ちなことも決して不自然なことではない。

かくて現代に行はれる犯罪の現はれ方には、往々この刺激要求性を有する人の行爲として肯定され易いやうな形式を採つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

居ることがある。例へば、うら若い少女が、白粉をつけ顏を包み兇器を持つて强盜を敢てするが如き、相當な家庭に成育した靑年が、何月何日にまで某處へ金百圓持參しなければ、全家を鏖殺するといふ脅迫をなすが如きそれである。かかる點から犯罪の劇化といふことも起り、不必要な潤色が行はれ、不自然な誇張が試みられるのでもある。

但しこれ等の劇化や潤色や誇張は、時に氣短かな現代人の一つの特徵である虛榮心滿足の爲めに行はれることも少くない。即ち一般の人々が刺激要求性であつて、普通な平凡な犯罪では注意しない爲めに、同じく犯罪をするならば、常軌を逸した現はれ方で試み、新聞紙などで大騷ぎされて居るのを、人知らぬ心地よさで喜んで居やうといふやうなことも間々あるのである。

五　文明機關

これまで述べたところは、主として社會狀態の變遷から精神狀態に特殊な影響を及ぼし、其の結果犯罪の方面にも亦特殊な變遷を生じた方面を見たのであるが、次に文明に伴つて現はれた樣々な機關が惡用されて、犯罪の補助となつて居る方面を觀察したいのである。

名刀が侵害者を殺傷することによく役立つと共に、又人を侵害する上にも著しい効果があると同じやうに、文明機關が吾々の生活を發達向上せしめる上に至大の役目をなして居ると共に、又それが吾々の共同生活の保全と繁榮とを侵害するやうに、惡用されて居ることも少くない。即ち文明機關の現はれなかつた時代には、思ひもつかなかつたやうな性質の不良行爲や犯罪が、文明機關の現はれた爲めに、頻々として行はれるやうになつた。例へば嘗て東京で自働電話を用ひ、二三の大きな官省へ向け、中央氣象臺からとの觸れだしで、其の日の夜半に東京全市の破壞されるやうな大地震が起るからと通報したものがあつた。

それが爲めに只に其の通報を受けた官省のみならず、それから次第に各方面へ通報され、外出先の家人を尋ね一族するやら、逃げ出す準備を初めるやらで、中流以上の家庭の狼狽は、恐らく前代未聞であつたであらう。私などは一高の寄宿舍に居て、東京に家や親戚を持つ人々が、電話で呼ばれて續々と歸るのを羨望しながら、半信半疑ではあつたが然かも不安の念を懷いて、殘つた同窓のものと夜半に至るのを永い心持で淋しく待ちあぐんだのである。このやうな不良な、さうして多數の人々を混惑せしめる行爲も、自働電話なるものがあつてこそ、無責任に平然と行はれ得たのである。或は又、貴族院の或政治團體の幹部が、政府に迎合して意氣地なきを暴露するを見て、其の

幹部の死亡通知を黒枠つきにし、時の首相を友人總代として掲げて發送したるが如き、印刷機の發達や敏速な郵便制度があつてこそ、易々と企てられたことである。

或は又、或種の文明機關の中には、其の使用者に或價値をつけるものがある。この種のよい例では、我が邦の現在で先づ自働車を擧げることが出來る。即ち自働車に乘り得る人は、常識的に相當に財力の豐かな人といふことになつて居る。そこで美しい貸自働車を雇つて、それに名士然と乘りすまし、大きな商店などへ行つて、信用ある人なることを感ぜしめ、堂々と詐欺するが如き、自働車の見られない時代に行はれない形式のものである。或は近來次第に多くなりつつある貸事務所の發達で、大建築の中に幾つもの事務所が置かれ、然かもそれ等の事務所は何れも信用あるものとされ勝ちなところから この大建築の内部の複雜して居るのを惡用して、物品を買ひ釣錢を持たして商人を誘ひ、箱拔け詐欺をするが如き、又かゝる大建築のない時代に見られないことである。

このやうに文明機關が一つ現はれると、それが又惡用されることも少くない。市街電車のやうに、短時間の間多數の人々と同乘して、何時にても雜鬧の中へ逃げ得られるものは、それを惡用して猥褻な惡戲や掏摸のやうなものを起さしめ易い。タイプライターのやうに便利なもので極めて多く用ひられて、然かも何人が印刷したかの不明なものが出來ると、それで僞造文書などが作成され易い。或は又刊物を介しての廣告といふ都合のよいものが發達して來ると、それを惡用して、二三十年前に少しも賣れなかつた維新の三傑のことを書いた書物を、夜明けまでと改題し、其の上これを讀んだものは男でも女でも興奮しないものがあらうか、送金次第密封發送すなどと附け加へ、人の弱點を捕へて多大の利益を得るやうな惡事も出來たのである。かくて文明機關の續出と共に、嶄新な不良行爲や犯罪が續出することとなるのである。

六　法人

社會の組織が單純であつた頃に見られなかつたもので、然かも現代に於て最も多く見られるものに法人がある。この法人の中、利益を中心とし一つの獨立した經濟主體の形式を採つて居るものに會社があるが、この會社が經濟的機能の發達と運營とに好都合なものである丈けに、吾々の生活を改善し得たと共に罪惡に誘ふ機會をも少からず與へた。殊に會社の中でも、株式會社は其の最も典型的なもので、株主は自己の全人格を保留し株金以外に何物をも提供せずに居り、然かも純益はこれを要求

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

するものであるから、その運營が利益を主とするはいふまでもなく、これが運營の任に立つ責任者執務者も、株主には株金以外に人格的の聯絡を見て居ないのみならず、對社會的には法人の名の下に働くから、吾々が未知者の中に混在して居る場合と相類し、責任者執務者としての道德的態度が鈍麻し易く、自己中心の利益の爲めに、より大膽に、より無恥にかゝる法人の惡用されることも珍しくない。

財界の好況に臨んで居る時に、種々な泡沫會社が計畫され、それが成立して愈々事業に着手する頃になると、創立計畫者は權利株を賣拂つて我れ關せずの態度に出で、會社は不完全な目論見によつて直ちに窮迫に陷るやうなことは、何人もよく知つて居るところである。かゝるものでなくとも、法人を惡用して不當な自己的利益の得られる契約をなしたり、好都合の時には自らの所得に轉ぜしめ、都合あしき時には法人に損失を嫁したり、放漫な執務に少からぬ不利を與へたりして、株主のみならず其の會社との直接又は間接の關係から、極めて多數の人々に少からぬ損害を加へるやうなことは、吾々の耳目に決して耳新しくはないのである。

社會の人々を騷亂すやうな大規模な犯罪や不正は、この法人の蔭に潜み易く、假設會社と呼ばれ幽靈會社と呼ばれるやうなものゝ多くが、そこに見られる。かくて法人の認められなかつた時代に見ることの出來なかつたやうな犯罪や不正は、この法人が認められるやうになつてから、頻々として現はれ出した。のみならず會社が多くは個人の營業より大規模であつて、其の關係する範圍の廣い丈け、會社自らの又それを介しての不正行爲によつて受ける社會的損害は、外の不正行爲や犯罪に比較もされない程の極めて大きいものといはねばならない。

そこで吾々が犯罪の變遷を考へ、又現代の犯罪を考へる上に於、どうしても法人により又はそれを介して行はれる犯罪を、一つの注意すべきものとして擧げねばならないのである。

七 群衆

群衆は、決して現代に限られて居るものではない、けれども現代の如くに群衆が様々な社會事實に關係して發生することは少ない。即ち現代は、色々な方面に相類した利害を有する團體生活者を生ずるに至つた、就中勞働者や學生の集團の如き其の主たるものである。それと共に民衆の覺醒から、多數者による對抗が、特權者へ向ふ場合の有利なものと解され、弱者と自認するものは群衆の力に訴へることゝなり、其の上一定の組織と秩序との下に作り上げられて居る現狀に於て、正面より漸次に

人の力で進むことが、頗る多くの時間と努力とを費す割合に、其の效果の比較的に少いことに氣づいたものは、又群衆の背景を持つて花々しく然かも急速に目的を達せんとするに至つた。換言せば民衆自らが群衆に頼らんとすると共に、野心家や煽動常習家や政治狂奔家や先覺自認家や自己の虛榮や利慾を中心として働くものなどが、又群衆に頼らんとする傾向となつて居る。かくて民衆と其の指導者とは、相關的に益々群衆としての運動を生ぜしめ易いことゝなつて居る。一二の英雄や豪傑が活躍しやうとしても、多數の民衆を手中に收めねば、自己の本領を發揮することは出來なくなつた。そこで二十世紀は、英雄や豪傑の時代でなくて、何事も群衆によつて起され、又群衆によつて解決されねばならないといはれるのである。

このやうに現代の一つの特徴に群衆の活動といふことがあつて、それが各種の社會事象に深い關係を持つて來るやうになつた丈けに、從來では餘りに見られなかつた形式の犯罪をも多からしめるに至つた。例へば民衆を前にして不穩な言辭を漏したといふことで、民衆を煽動したといふことで、或は群衆を引きつれて脅迫したといふことなどから、先づ群衆の中心人物が問題とされ、次に附和雷同して暴行したとか、官吏に抵抗したとか、調子に乘つて思はずも無責任な過激な言行を敢てしたといふやうなことから、群衆の中に加はつたものが問題とされることなどは、極めて頻發することである。

尤も我が邦などでも、昔から百姓一揆といふやうな形式で、群衆運動の見られないことはなかつたけれども、然かもそれは頗る稀なことであつた。然かるに今日に於ては、殊に都市に於ける政治季節や財界動搖期や選擧期などに、其の性質の善惡は第二として、少くも取締を受け制裁を受けるものが頗る多くなつた。

而して今日のやうに通報機關や交通機關が發達して來ると、一つの群衆運動の發生に於てそれが一般民衆の要望に合致することであるか、又は煽動が系統的に行はれる場合であると、其の擴大性流行性を著しからしめ、若し社會の保全と繁榮とに逆くものである時には、其の影響するところは、普通の個人によつて行はれる犯罪の場合よりも、甚だしいといはねばならない。のみならず吾々は群衆の中へ投ずると、相當の思慮あり教養ある人であつても、頗る容易に群衆心理に捕へられ、自ら思はざる行爲に陷ることは、興味あり又注意すべきことである。殊に其の群衆心理は、感情性を主とし暗示感性を高めるものであつて、各個人を單純化する爲めに、兒戲に類した事實にも感興を招き、破壞性殘忍性を昂進せしめ、自己犧牲に至らしめ、往々

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

豫期に反した結果に導くことが少くない。

これ等の意味で、犯罪の變遷を考へる時には、現代の一つの特徴である群衆の犯罪をも亦等閑視することは出來ない。

八 知能の發達

ここまで述べて來ると、更に私は何人も心づく問題である知能の發達と犯罪との關係を述べなければならない。

知能の發達と犯罪との關係は、二つの方面に注意しなければならない。即ち一は、如何にして被害者を巧みに陷れて、自己の欲望を滿足せしめ得るやの點であり、二は、如何にして自已の犯罪の發覺を逃れんかの點である。但しかかる方面の細かな點は、社會道德上筆者としての私が、謹しまねばならぬものが少くないから、其の輪廓にのみ觸れることで許されたいのである。

自己の知能を用ひて被害者を巧みに陷れるには、主として詐欺や僞造といつたやうな所謂知能犯に於て試みられる。かかる種類の犯罪は、古くからあつたことではあるが、現代のやうに社會の狀態が極めて複雜となつて、何人も自己に密接な關係の方面は熟知するが、それ以外の方面に向つては何人も疎いのが常である。けれども今日の吾々の生活は決して單純な關係にだてのみ過すことは出來ない、熟知しない種々な事實との關係にも自ら觸れなければならないこととなるのである。この事實が上述のやうな知能犯のつけ込むには、誠に好都合な條件といはねばならない。且かかる場合に、何人も利己を度外視して居ることは少いから、其の利己的な欲求を以て釣られることになると、頗る易々と陷れらて　まうのである。詐かれるものに一分の罪があるといはれるのはそれである。從つて素樸生活をして居る慾深な田夫が、先づ都會の不良漢に誘はれ勝ちである。色々た詐欺賭博や泡沫會社の株劵で地方の人々が、一年の辛勞によつて得られた繭や米の賣上代金を失ふるのは多くそれである。

次に自己の犯した罪が、發覺しないことを欲するのは、犯罪者として固より普通のことである。即ち罪跡を湮滅し何人が行つたか明かでないやうにすることが、犯罪者の一つの努力といはねばならない。それには先づ犯罪の仕方を注意しなければならないから、多少の計畫や顧慮を費す餘裕のある場合であると犯罪者の知能はそこへ集中される道理である。例へば殘酷な形式で行はれる殺人は、一般に怨恨か嫉妬によるものであるから單純な利慾の爲めに財物强奪に侵入して殺　した際に、故らに殘酷な形式を裝つて置くとか、或は一人で物盜に入つたのに拘

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

らず、食ひ散らした形跡では二三人であるやうに装つて置くが如き、一つの現はれ方である。

其の他、知能の發達したものは、同じく犯罪をなすのにも、勞少くして効果の多いやうに、又は危險の少いやうに努められることも自然である。この事實は教育普及の程度を異にする朝鮮と内地とを比較して見ても、明かに知ることが出來る、今其の一例を示さう。

犯罪の種類		大正元年	二年	三年	四年	五年
通貨及び有價證券僞造の全刑法犯に對する百分の比	朝鮮	○・一七	○・○九	○・二八	○・一八	○・一三
	内地	○・二八	○・三一	○・二六	○・四一	○・三五
窃盜の強盜に對する百分比	朝鮮	一二・七	一○・八	九・九	七・九	五・九
	内地	二・二	二・○	二・四	二・七	二・七

即ち通貨や有價證券の僞造は、知識のあるものでなければ巧みに出來難いと共に、僞造中の危險の少い割合に効果の多いものであるが、それが教育程度の高い内地に於て著しく多く行はれて居る。これに反して同じく他人の財物を奪ふものである窃盜と強盜とを比較して見ると、強盜は特別の考慮を費さなくても出來るのに窃盜はさうでない、のみならず強盜は直接に被害者に向ふのであるから危險性の多い點で窃盜に勝つて居る、この強盜が窃盜に對する割合は、教育程度の低い朝鮮に於て著しく多く現はれて居る。これは當然なことであるが、具體的に例を擧げられ得るところに興味がある。

かくて社會の人々の知能が發達すると、それに應じて犯罪の行はれ方が巧みになり易いと共に、狡猾な勞力の入らない危險の少い效果の多いやうな性質の犯罪が、故らに選ばれ易くなるのである。

九　焦心、錯誤、不注意

而して現代は、益一般の知識が向上することになつて居り、爲めに犯罪を捜査し又防備するといふ上にも、種々困難な點を生じて來ることは爭はれない。けれども好都合なことには、如何に知能のあるものであつても、それが犯罪をする場合には、殆んど常に焦心や錯誤や不注意から、思ひも寄らぬ手がかりを殘して置くものである。

即ち如何に周到な思慮の下に計畫されて行はれるやうた犯罪であつても、それが正々堂々と行はれない行爲であり、秘密を守らねばならぬものであり、時機を逸しないやうに急がねばならぬものであり、道徳的感情の多少に拘らず加はるのを普通と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

するものである以上、善良な公然な行爲を企てて居る場合のやうに、沈着や注意を見ることが困難であつて、或程度の焦心や錯誤や不注意を經驗し勝ちなものである。そこで犯罪者の有する本來の知能に比較して、頗る考慮の足らないことを試み、或は罪跡發覺上有力な物件を遺留し、行爲の前後に平生と異つた顯著な或態度が心ならずも現はれ易いのである。犯罪の搜査は多くかかる點に有力な端緒が得られて居るのである。況して知能の秀れて居ないものである場合には、一層この關係が甚だしくなるのはいふまでもない。但し特殊な犯罪に對しては天才的知能を有するやうなものは、普通の日常行爲に於ては頗る用意の周到を缺き易いものであつても、其の犯罪に對しては頗る注意深く行はれ得ることがあるが、それは寧ろ例外である。

この焦心や錯誤や不注意は、其の犯罪行爲に關する方面に極めて專問的知能を有するものに於ても現はれ易い。例へば米穀商を撲殺した某農學士の如き、死體に關する知識は頗る豐富であるに拘らず、最も重い頭部を切り取つて胴部と別にし、各に防腐劑を用ひるにまでも用意は試みたけれども、胴部のみを一つの革鞄に入れて投水せしめた如き、早晩死體の腐敗に伴ふ瓦斯の發生から、水よりも遙かに輕くなつて居る胴部が一層輕くなつて、水面に容易に浮び上がることに對する注意は怠られた。而してこの事件は胴部の革鞄の浮び上がつたことに、其の發覺の端緒が得られたのである。

次に突差の場合に行はれることであると、可成りな用意や思慮が回らされて居ても、それが犯罪の發覺上重要なことであるに拘らず、知らず識らずの間に、自らを暴露せしめて居ることがある。例へば閔元植刺殺事件に於て、加害者が閔氏との談話中、自己の住所を問はれたるに對し、それまで姓名職業を詐り又住所をも詐つて、自ら本郷區湯島天神町六十二番地と記した。然かるに湯島天神町には六十二番地のないことが明かとなり、そこで東京全市に渉つて六十二番地といふ番地のある個所を調査したところ、六十二番地のあるところは所々にあつたが、其の中で早稻田鶴卷町に一ケ所あつたばかりでなく、然かも犯罪の行はれた翌日から行衛不明になつて居る朝鮮人の住宅が發見された。而してそれが事實上の加害者の住宅であつたのである。

このやうに犯罪者自らの方面に、搜査の手かがりになるやうな事實を留め易いことのあるのは、搜査上好都合なことである。けれどもかかる偶然的な錯誤や不注意をのみ當てにしては、複雜な關係に於て發生する犯罪を搜査することは容易なことではない。そこで犯罪の搜査に關する新しい努力の必要が起ると共に、この方面の科學が他の學術の發達に伴つて起るに至つたの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

である。

一〇　周密な觀察

犯罪の捜査が、周密な觀察を俟つべきは勿論である。殊に犯罪の行はれた現場の臨檢や被害者の研究は、最も注意しなければならないものである。特殊な科學の力を借らなくても、周密な觀察のみで、よく迷宮に入り易い犯罪を、容易に發覺に導くことが出來るのである。

曾て群馬縣の某村の或農家の土藏を破り、衣類七十餘點を窃取した犯罪者があつた。然かるに其の土藏の入口には古手紙で作られし袋と、木の椀とが遺留されてあつて、其の袋には米と挽割麥とを入れ、木の椀には一厘錢と文久錢とで合計一錢五厘入れられてあつた。尚木の椀の傍には、煙草の小量を紙に包んだものが添えてあつた。此遺留品から推察すると、何人もこの犯罪者が乞食によつて行はれたことを信ずるのであらう。けれども現場を臨檢したものが、よく其の袋を調べて見ると、其の古びて居る割合に、それの握らるべき個所が少しも手垢で汚れて居ない。のみならず木の椀の縁には、里芋の赤い毛のやうな纖維が附着し、平素農家で里芋を掬ふに使用した痕跡が、歴然として留められて居た。そこでこれ等の遺留品は、捜査官の眼を晦まさん爲めに、犯罪者が故らに企てたものであることに注意され、程なく其の附近の農家から犯罪者を發見することが出來た。

又輕井澤で避暑中の宣教師が殺害されたことがあつた。事件のあつて後程なく、犯罪者の着用せるものと思はれる血染の古洋服が上下一着、輕井澤から岩村田町へ通ずる里道附近の草叢から發見された。捜査官が其の洋服を詳細に檢すると、其の裏に「四十三・３６１３」の數字が捺されてあつた。而して其の洋服は、普通に職工の着用するものであつて、然かも三千人以上の職工を使役して居る工場に勞働して居たものであらうと推察され、先づ東京市電氣局について調査したところ、帳簿上で其の洋服が四十三年十一月第三六一三號車掌田某に交付したものと判明した。そこで車掌田某が調べられたところ、某は下谷區年町乙某質店へ入質したことが知れ、更に其の乙某はそれを流質として、神田區岩本町丙某古着店へ賣却し、それが又更に横須賀市汐留町丁某古着店へ賣却し、丁某が最後に犯罪者某に賣つたことが明かとなつて、遂に某を捕へることが出來たのである。

これ等は何れも犯罪者の捜査の例であるが、又次のやうに興味のある例がある。曾て英國の或田舍で一人の紳士が、安樂椅

子に凭れたまゝ獵銃で打たれて死んで居た。然かるに紳士を打つた獵銃は、何時ものやうに壁に掛けられて、室内は少しも取亂されて居ない。被害者は睡眠中打たれたらしいけれども、外部から侵入した形跡もないので、遂に其の家の下男が嫌疑者とされた。一方で屍體の檢査から衣囊に入れてあつた懷中時計が銃丸の爲めに破壞され、午後の或時を示したまゝに止まつて居ることが見出された。翌日其の時刻になつて見ると、窓から射入した太陽の光線が、机の上にあつた硝子の水瓶に投じ、水瓶がレンズの作用をなして一つの燒點を生じ、恰かもそれが獵銃の火口に當つて居つた。そこで獵銃に火藥と彈丸とを裝塡し、元の位置に掛け、安樂椅子に假りの人形を傍へ置いたのに、太陽の光線が丁度水瓶へ投じて獵銃の火口に燒點を結ぶと思ふ刹那、獵銃は轟然と響を立てて銃丸は人形に命中した。かくて下男は許された。

二　指紋法

このやうに周密な觀察が、犯罪の捜査上肝要なことはいふまでもないけれども、それ丈けでは不充分なことが少くない。それには科學的に研究された根據から出發した捜査を以て進まねばならない。私は以下其主たる種類について簡單に述べやう。

其の中で近來注意されるやうになつたのは指紋法である。指紋が十本の指共に、異つた人に同樣に現はれて居ることは、極めて稀であつて、其の爲め個別識別に頗る好都合なものとなるのである。

英國で或時に、一人の勞働者が或雜貨屋へ強盜に入つて、數點の物品を奪取した事件の嫌疑者として、バーミンガムの巡回裁判に附せられた。この事件の證據物件としては、被害者の家の手提箱に印されて居つた拇指の指紋である。そこで嫌疑者の指紋と比較されたのに全く同一の樣式をして居つた。然るに嫌疑者は、犯罪の行はれた當時、その地方に居なくて或町へ旅行して居つたから、其の町の或居酒屋の雇人某を呼んで貰ひたいと請求した。然かるに裁判者は、若し其の證人が來て詐であることが明かとなると、この事件の外に僞誓罪に對する刑罰をも受けなければならぬがよいかと注意したところ、嫌疑者は直ちに自白してしまつた。

我が邦でも小田原所在の或寺へ、三人組の強盜が押し入り、多額の金品を強奪し去つた事件があつた時、現場へ臨檢した一警察官は、其の寺の附近で、半ば食ひかけになつて居る大福餅の捨ててあるのを發見し、それを詳細に檢して見ると、指紋が歴然と印せられてあつた。そこで其の指紋を携つて司法省の鑑

獄局へ送附し、指紋の原帳との對照方を依頼した。然かるに其の指紋は、其の前年の大赦令で、札幌監獄から假出獄を許された其の指紋であることが判明した。かくて其を捕へて取調べたところ、其等の行爲であつたことと、大船餅は犯罪行爲前に、寺の附近の駄菓子屋で買ひ求めたことをも自白するに至つた。

指紋は、これが遺留されて居る時にも、若し其犯罪者が未だ官廳に於て指紋を撮られて居ないものであつたり、又は未だ嫌疑者をも捕へることが出來ない場合であつたりすると、捜査上困難なことが少くないけれども、それ以外の時には頗る有效な材料として取扱はれ、これによつて嫌疑者が眞の犯罪者として確認されたり、僞名者の前科を發覺せしめるには、有力なものとなつて居るのである。

即ち個人の識別には、人相も風采も寫眞も大に參考にはなるけれども、然かも精細な分類と其の檢出とに難點があるが、指紋は一定の方法による配列で、この難點を避けることが出來るのである。

一二　警察犬

犯罪者の發覺には、それを追跡することが必要である。そこで何等かの手段で適當な追跡法が案出されれば好都合であるのであつて、かかる方面に嗅覺の鋭敏な天性を持つて居る犬が使用されるやうになつた。これが警察犬である。尤も警察犬は、單に犯罪者の追跡のみでなくて、警察官の危險を救ひ、警察官が高い所へ登る際に踏み臺になつたりする役目も果たすものである。

我が邦で、警察犬が如何なる程度に犯罪捜査上役立つて居るか、私は未だ明かに知らないけれども、少くも歐洲に於ては次のやうな興味ある實例がある。

モスコウでは、大戰前犬が竊盗の被害物品を見出す爲めに、頗る組織的に使役され、屢注意すべき成績を擧げた。例へば或時モスコウの一紳士の家で銀行の手形と銀板とが竊取された。そこで警察犬は、被害者の家の臭を充分に嗅がしめられた。すると犬は幾つもの街を越えて、日の暮れかかる頃に漸く一軒の粗末な宿屋に到着し、丁度其の家に泊つて居た一人の舊工の外套に向つて進んで行つた。そこで警察官が捜して見ると、果して盗まれた銀行の手形が現はれた。次に犬は其の宿屋を出でて、或古金銀商の店へ行つて止つた。そこで其の店を捜して見ると果して又盗まれた銀の板が現はれた。

一三　分析と檢鏡

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

毒物が斯のやうな場合に、飲食物や胃中のもの或は排泄物が分析されて、斯界の研究されるのはいふまでもないことであるが、犯罪者の遺留した物品に對して、精細な化學的分析や顯微鏡的研究が行はれて、好效果の擧げられることが少くない。

明治四十四年に時の獨逸檢事官が窃盜者の爲に負傷せしめられたことがあつた。其の際、犯罪者は現場に麻製帽子を遺留して逃げたので、其の帽子に向つて精細な研究が試みられた。先づ其の帽子の裏に附着して居た泥と、麻繩に附着して居た汚點とを分析して見ることになつた。而してそれ等のものの中の主な成分は、二酸化炭の粉末と、牛脂七分に豚脂三分の割合よりなる動物性脂肪とであることが明かにされた。然かるに日常用ひる帽子に、かかる物質を附着せしめ易い職業は、いふまでもなく西洋料理人である。かくて西洋料理人といふ限られた職業者の搜査から、極めて容易に犯罪者を捕へることが出來たのである。

獨逸の例にも次のやうたものがある。或犯罪事件のあつた時に、其の現場に一枚の勞働服が發見されたけれども、外見上如何なる職業者のものなるか不明であつた。然かるに其の服を敲いて附着して居る塵を落し、精細に顯微鏡的檢査をしたところ其の塵は主に細かに挽き碎かれた木材の粉末であることが知られ、大體上其の勞働服の所有者の職業は、指物師か大工職か鋸輪挽な取扱ふものでなければならぬこととなつた。倘幸なことには、其の微細な木材の粉末に混じて、極めて細かな膠質の含まれて居ることが明かとなり、大工職や鋸挽機を取扱ふものは膠を用ふることがないなら、必ず指物師の所有に相違ないと推定されて、搜査の端緒が得られたのである。

又同じく獨逸で、或年暗夜に他人に重傷を負はしめて逃亡した事件のあつた時に、一犯人の頭巾が遺留品として得られた。それを最も精細に檢して、二本の毛髮が附着して居るのを發見した。そこでこれを顯微鏡の下で觀察したところ、其の毛の髓組織には、相當な色素細胞のあるを認め、且又其の毛の切口は頗る鋭くなつて居り、毛根は著しく滋養分に缺乏し毛の上皮層には汗の爲めに生じた多くの塊狀の突起物があるのが發見された。そこで其の裁判時は上のやうな事實から推論して、犯人は身體の壯頑丈であつて、肥滿した中年の男子であり其の頭髮は黑と灰色と相混じ、もはや禿げかけて居るもので、且つその事件のあつた近くに理髮したことのあるものだといつて大に搜査の便宜を與へた。

我が邦でも、嘗て一人の老婆が絞殺されて居た事件があつた時、其の屍體の附近から落ちた一つの紙片が發見された。恐ら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

く犯罪者の遺留品であらうといふので、それを檢鏡して見ると淋菌が附着して居つた。然かるに嫌疑者とし捕へられた男は、淋病を患つて居るものであつた。但し不攝生な生活をして居るものの間に、淋病に罹つて居るものは少くないから、これのみで確定することは出來ないけれども、有力な一つの證據事實たるは爭はれないことである。

而して犯罪者の排泄物などは、個人識別上頗る便利なものであつて、且特殊な顯微鏡的檢査を行はないでも、頗る有力な材料となることがある。例へば嘗て埼玉縣で七人組の强盜事件があつた。現場臨檢の結果、犯罪者等が被害者宅へ侵入した通路に沿つた籔の中に、一塊の糞が遺留されてあつた。然かるに其の糞を拭つた紙は、墨痕の新しい浦和町の或旅館から客に渡した受取書であつた。のみならず其の糞の中には、刺身や栗や豆などの殘滓が混じて居ることが明かとなつた。そこで其の旅館について、刺身や栗や豆を食した客を調査したところ、其の客人は二人であつて、其の年齢や人相の大體を知ることが出來てそれによつて遂に東京に於て犯罪者を取押へることが出來たのである。

一四　血液檢査

犯罪の中特に人の身體に關する犯罪に於ては、血液の檢査が頗る重要なこととなるのであつて、これは醫學の發達と共に頗る有效に利用されるに至つた。

英國では既に一八五七年に犯罪に關しての血液檢査が行はれた。即ちその年タウントン巡回裁判所で審理された刑事事件がそれであつて、一人の男が咽喉部を切られて殺害され、その加害者として一人の男が捕へられた。其の捕へられた男は一個の小刀を携へて居たが、それには血液らしい汚點が附着して居た。然かるに其の男は、それを數日前に牛肉を切つた血だと主張した。そこで其の汚點に對する化學的檢査が行はれた結果、生きた血液でなければ說明されないやうな凝結狀態を呈して居ることと、其の赤血球の大さが、牛や豚や羊のそれではないこととが證明された。

而して血液檢査の最も綿密に行はれるやうになつたのは、血清試驗法が案出されてからのことである。これによつて從來不完全に行はれた人の血液の檢査が、極めて確實に行はれるやうになつた。これが初めて刑事事件に利用されたのは、一九〇二年佛蘭西に於てである。即ち嫌疑者は、問題とされた或汚點を、單に家兎の血液の附着したのに過ぎないと述べたけれども、初め家兎の血清を以て試驗された結果、正しく家兎の血でないと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を明かにされ、次に人の血清を以て試驗されたのに、忽ちにして血清が反應を示して、確實に人の血による汚點であると證明されたのである。

其の他血痕に對する研究も大に進んで、床や壁に印された血の飛沫の形で、犯罪の行はれた狀態や、加害者や被害者の負傷後に於ける動作の幾分も推知し得られるやうになつたのである。

一五　足跡識別

足跡の性質は、犯罪者の性質を定める上に、種々な便宜があるので、又注意深く研究されて居る。

即ち現場近くに殘されてある足跡で、歩行して居たか走つて居たか、立つて居たか跳んだのか蹲んで居たのか等の知れるはいふまでもなく、其の大さや歩幅や歩み方などから體格や男女や特殊な職業の大體が知られ、其の他普通にない特徴から、臨月近き姙婦や負傷者や酩酊者や疲勞者や老衰者や魯鈍者や跛者等をも幾分推知することが出來る。

けれども足跡が捜査の上に注意されるものなる丈けに、又假裝の試みられることが少くない。或時獨逸で、二人の竊盜が巧に四人の靴跡を殘し、其の内の一人は女の靴であるやうに欺いた。然かるにこの女の靴跡に、普通の女の歩幅と著しく長く現はれて居た、そこでこの跡が先づ怪しまれ、慎重に研究された結果、犯人は二人であることが斷定された。我が邦でも嘗て雄
用賀の或農家の土藏を破つた犯罪者があつて、雪の上に大きか
ら庭を廻して道へ出でた草鞋の跡があつたが、それは草鞋
に履いて侵入したものであつた。

同一犯人の足跡の追跡が、時には犯罪者を推定する上に貝
ある事實を提供することがある。嘗て獨逸で或火災のあつた際に、其現場から一つの畦畔を越えて數分間追跡された放火犯人の足跡を發見したところ、其の足跡は一農家の前に至つて不明となつて居た。然かも其の足跡の現場に近い約半分は、歩幅が百センチ米もあつて極めて廣いのに、其の農家に近い半分は僅に六十センチ米に縮小して居たので、その放火犯人は、逃亡し初めは一心に疾走したけれども、自分の住居近くになつて心を安んじ、徒歩したものと推定され、其の農家のものに相違ないことが知られたのである。

而して今日に於ては、足跡や履物の跡が明瞭な場合に、これを型にして其の形狀をとり、何時までも保存する方法が考案されて居るから、それ等の痕跡に關係あるらしきものが得られた際に、比較上頗る多くの便宜が與へられて居る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一六　兇器鑑査

殺人や傷害などのやうに、人の身體に或傷痕を殘すものは、それより兇器の推定を下すことが肝要な問題となる。殊に兇器が棍棒狀のものか角のあるものか、鋭利なものであるか然らさるものか、刄の薄いものか厚いものか、尖つたものか然らざるものか等は、最も必要な注意點とされて居る。いふまでもなく兇器の推定は、時には犯罪者の職業を、時にはそれの最近に買求められ、古道具屋や刄物屋などの方面を知らしめ、捜査上頗る多くの便宜が與へられるのである。

嘗て或一家鏖殺事件のあつた時に、犯罪人並に兇器の捜査に全力の盡されたに拘らず、被害者の傷に關する方面の鑑査が幾分忽にされた爲に、比較的に容易に犯罪者の職業系統を知り得られたのを、少からざる時日と苦勞とを徒に費さしめたことがあつた。然かるに被害者は、東京で普通に用ひられて居る刄の厚い重い薪割りで頭部其他を打たれて居たのであるから、其頭蓋骨には明瞭に、其の兇器の大體を推知せしめる形狀性質を留めて居つたのである。要するに科學的の力の稍等閑に附せられたことが、犯罪の發覺を遲延せしめたのである。これは失敗の例であるけれども、この方面から成功した例は極めて多く存して居る。或は又兇器に現はれた特徴が、捜査上有力な手がかりとなることも少くない。獨逸のドレスデンであつた例に、次のやうな興味あるものがある。或時肉屋が自分の妻を長い肉切庖丁で刺し殺して逃亡した事件があつた。けれども犯罪者は狼狽した爲めに、其の庖丁を刺したまゝにして置いたのであるが、其の庖丁は既に數年間も使用され、鋸のやうな特殊な研ぎ減り方をして居つた。一般に肉屋は、自己の使用する庖丁は、自ら研ぐ習慣のあるものであるから、上述の鋸のやうな減り方をして居る庖丁が有力な證據品とされた。加害者は捜査の結果嫌疑者として捕へられ、初めは極力否認した。そこで其の嫌疑者の使用して居つた他の庖丁を取り寄せて比較して見たのに、何れも遺留してあつた庖丁と同じやうな減り方をして居つた。これと共に他の多くの肉屋から集められた庖丁には、何れも遺留されて居つた庖丁とは、明確な相違ある減り方をして居つたのである。かくて嫌疑者は眞犯人として否認されないこととなつてしまつたのである。

一七　文書鑑査

前に述べたやうに、一般に知能が發達して來ると、勞の少くて利益の多く得られ易い詐欺、犯罪に於ても現はれ勝ちであつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、其の結果は種々な文書の變造や僞造が行はれ易いこともあつた。從つて現代的に犯罪の搜査には、文書の鑑査を充分にしなければならなくあり、その方面も頗る發達して來た。

かかる方面の研究には、筆蹟や印章や墨色や紙質や變造個所の異常等が主な點であつて、從來の單なる鑑定家の試みるやうな經驗的觀察に俟つのみでなく、或は顯微鏡的檢査をなし、或は化學的檢査をなして、普通では見ることの出來ない僞造や變造の點を判定するのである。尤も時には注意深い觀察のみで、よく判定を完了することもある、次の如きが其のよい例である。

或事務所の書記と共謀して行はれた事件があつて、其の證據として一通の手紙が得られた。其の手紙はタイプライターで印刷されてあつて、一見何人の作成せるものであるか決定することの困難なものであつたが、それを精細に觀察すると、其の文書には文字の印され方に、特殊な癖が現はれて居た。そこで疑はれた事務所のタイプライターで印刷された他の文書を取り寄せて見ると、全く同樣な癖が現はれて居た。のみならず其のインキの色も、同一色素を含んだ紫色のものであつて、且其の二枚の文書の用紙に漉き込まれてある製紙會社の記號も亦同一なものであつた。かくて得られた證據文書が其の疑はれた事務所で作成せられたことは、もはや疑問の餘地のないこととなつた。

けれども單にかかる精密な觀察のみでは、僞造や變造を知ることが出來ないで、他の方法を俟たねばならない場合も少くない。その一二例を示さう。

嘗て英國で一人の婦人が死亡したことがあつて、其の婦人の書いた多くの小切手の、何れが古く何れが新しいかを決定することが事件の進行上必要なこととされたのに對し、インキ鑑査法で確められた。それは二三年前にインキで書かれたものを醋酸や蓚酸で取扱ふ時には、直に變化を現はすけれども、それよりも古いものであると其の變化が極めて少く、顯微鏡下で特に明瞭に見ることが出來るのである。

又我が邦でも、鉛筆文字を消して、其の上に墨で文字を書した私文書僞造行使事件があつた時に、初め鉛筆で書かれた個所に凹んだ痕跡があつて、そこに墨色の異常が明瞭に見られて、其の僞造たることが暴露されたことがある。即ち初めに鉛筆やペンで書かれた場合には、假令消しても幾分凹みの線があるから、墨を多量に用ひられた時には特に濃く、墨を少量に用ひられた時には特に薄くかすれて現はれ、又顯微鏡を以て檢すると初めて書かれて居た個處にのみ、他の部分と異つた色素粉末を殘留して居ることがあるので、比較的容易に看破することが出

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

来るのである。

一八　犯罪と捜査

このやうな科學的な捜査の方法の研究されなかつた頃には、只嫌疑者を精細な觀察を以てのみ捜査し、捕へたならば拷問然かも見るに忍びざるやうな極めて殘忍な方法で、自白が強要されたものである。けれども心理學の應用方面の研究は、訊問の仕方で答が變化し、直接に經驗した事實も決して正確に記憶に留まるものでなく、又故意ならぬ自白の中にも錯誤が加はり、又假令自分の行爲であつても特殊な場合例へば感情激昂の場合などには、明確な記憶を缺き易いといふことなどが、實驗上明かにされ、單純な自白をのみ頼りにすることは、決して正當なものでなく、他に其の犯罪と緊密な關係にある證據を、主に物品の證據を得なければならないといふことになつた。然かもこの要求に滿足を與へるやうに、恰かも近世の科學が影響した。それが即ち犯罪捜査術である。

初めにも述べたやうに、犯罪者たる各個人が其の社會の狀態に影響を受けて居ることから、社會の變遷に伴ひ、文明の發達に連れて、それに應じた又それに誘はれた特殊な方法による特殊な形式の犯罪が行はれるやうな傾向を示して居ることは爭はれない。而して一つの特殊な方法により特殊な形式による犯罪が現はれると、捜査に新たな努力と考慮とを費さねばならないこととなる。之は社會の多くの事象が先づ發生して、然かる後にそれに對應する策の講ぜられると同じやうに、犯罪が起つて後に、それを捜査し又防備する方途の研究され勝ちなのも、已むを得ないことである。只私は最後に、犯罪の方面に新しい文明の影響して居るを認めると共に、捜査の方面にも亦斯る多種な新しい文明の取り入れられつつあることを述べて置きたいものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

遲日小品

田中貢太郎

淺春記

六つになる女の兒にねだられて、十軒店へ雛を買ひに行つた日は、冷たい雨が午後から降つて來た。それは二月の二十七日であつた。私は犬曳の官女を買つて、その歸りに「山本」へ寄つて海苔を買つて來た。

三日の雛の日は、夜になつて雪とも雨ともつかない物が降つた。その晩、食傷新道の家庭食堂の小集へ行つてゐた私は、風邪を引いたやうだから、四日五日と二日寢通して、六日の朝になつてみると、氣持が好くなり、長い間こはばつてゐた體が延々として、熱もとれてゐるやうだから、起きて表二階の方の雨戸を開けた。銀の針金を張り合はしたやうに、ぴんとなつてゐた空氣が弛んで、朝陽の光が螺燈の火のやうにとろとろと燃えてゐた。私は久しぶりにゆつたりした氣分になつたので、朝飯をすますと、煙草を口にしながら中敷の所へ行つて、庭の方を見た。

二坪たらずの狹い庭には、杉板を三方に立てて、それに土を盛りあげてこしらへた花壇があるが、もう二三年も手入れをせずにそのまゝにしてあるので、板は割れ、土は崩れて、見る影もなくなつてゐた。私の眼は、その花壇の右端へと行つた。其所には出たばかりの蕗のとうが二つ並んでゐた。私は不思議に思つたが、直ぐそれは、男の兒が何處からか持つて來て植えた蕗から出たものだと知つた。左の方を見ると、嫁菜ぐらゐしかないこぼれ種の菜種が三四本、綠の褪せた葉を立ててゐた。佛の座らしい草も見えた。庭の左隅の電柱の下にも、いぢけた大根が一二本生えてゐた。

春は何時の間にか庭に來てゐた。私はその花壇に、昨年の春菜種の花や大根の花が一面に咲いて、白い蝶が日々やつて來てその周圍を飛んでゐたことを思ひだした。私は菜種か大根を蒔いて置かなかつたことを殘念に思つた。私は物種を蒔いてみる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

氣になつた。

『何か物種があるのか、』と云ふと、妻にちよと間を置いて、『さうね、朝顏と大根種が殘つてゐるやうよ、』

『朝顏はいたづらに蒔くのは惜しい、大根種を蒔いてみやう、』

私は大根種を蒔くことにして、庭下駄を履いてをり、鍬と大根種を取つて貰つて、土を掘り返し、割れてゐた支切板を代へて、それが出來ると、大根種の包みを調べてみた。調べながら向ふの二階に眼をやつた。朝早くから大聲で新聞を讀む小學教師の家だが、もうとうに學校に行つて留守になつてゐるので、ひつそりとしてゐる。その教師から連想して、節分の晩に、その教師の息子が、『鬼は内』と云つて豆を撒いて、隣の者を笑はしたことを思ひだした。右隣は百軒長屋になつて、直ぐ左に見える陽の當つた二階に、近頃細君を連れて來た知り合ひの職工がゐて、それが細君と何か話してゐる聲がのんびりと聞える。

種を蒔いてしまふと、私は赤ん坊を負ぶつて掃除をしてゐる妻の方を見て『水をやりたいが、凍る恐れがあるからやらずに置かう、この勢なら、直ぐ生えるぜ、』と云つた。

翌日は恐ろしい風だ。窓かけの端を捲つて硝子戸越しに見ると、崖の上になつた寄宿舍の櫻の裸樹が、狂人のやうに枝を振つてゐるのが見えた。

正午頃思ひ出して、製本にやりたい書籍を風呂敷に包んで家を出た。五六回製本を頼んだことのある製本屋が富坂の上にあつた。ひどい土雨がして、顏を伏せずには步けなかつた。それでも風はぬくかつた。行つて見ると製本屋は戸が締つて、引越しの貼紙をしてあつた。私はふと年末に『忌中』と書いた紙の貼つてあつたことを思ひだした。亭主でも沒くなつたので、店をしまつたのではあるまいか、と云ふやうなことを思ひ思ひ、淋しい氣になつて歸つて來た。そして又敷きつ放しの床の中へもぐり込んだが、忘れてゐた漢詩を作つてみる氣になり、韻字に關する小本を二三冊押入から引き出して、何を考へて居たが、一句も出來ない内に厭くなつて、句の脇に●點と○點のついた文字が、頭の何處かでちらちらしてゐると思つてゐる間に眠つてしまつた。

初午がやつて來た。深川へ行つての歸りに、暫く見ない淺草公園をぶらつく積りで、吾妻橋から電車を降りた。風の無い大川の上には、夕陽が流れて、あげ潮のやうな白く泡立つた水の上に、藁屑や菜つ葉の屑の浮んでゐるのが見えた。橋の下を潜つたらしい二羽の鴎が、川下の方へと水の上をすれすれに飛んで行つた。

傳法院の淺草區役所を斜に見附けた門が開いて、子供が出た

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

り入つたりしてゐた。何かあるだらうかと思つて這入つてみた。其所に柱を朱塗にした小さな神門があつて、その向ふに舞臺を構えて、笛を吹き、太鼓を鳴らしてゐた。舞臺は老木の銀杏の樹の下にあつた。

私は直ぐ初午と云ふことを知つた。神門を抜けると、子供を負ぶつたお神さんや、小娘などが舞臺の方を見ながら立つてをり、その間を男の兒が縦横に縫うて騒いでゐた。其所は稲荷の境内であつた。向ふに小さな拜殿があつて、中に蠟燭の火がちろちろしてゐた。三寶に載せて供へた大きなお鏡餅も見えた。左側には潜門があつて、入口に小屋を構へ、寺男らしい二三人の男が、金泥を塗つた瀬戸物に小さな狐を並べた三寶を前に控えて坐つてゐた。右側の舞臺の後ろには木柵があつて、傍へ寄つて行つて覗き込む者があるので、私も行つてみた。傳法院の泉水で、渓のやうに遥か向ふへ續いた長い長い池が見えた。池の右側には寺院の軒が参差として見え、左側は築山になつて、老木の欅の裸木が其所此所に立つてゐた。築山の後ろは土塀。

木柵に沿ふて拜殿の方へ寄つて行つた。青黒い青木の枝があつて、その中から赤い實が覗いてゐた。拜殿の後ろになつた稲荷の本堂は、新らしく建て直した物で、面白い形の岩を土臺にして、その上に四方棟の瓦葺の小社を載せてあつた。

公園はこれから人が出盛やうと云ふところであつた。私は池の傍を歩いてゐた。赤い青木の實が池の縁になつた垣根の際にも見えた。池の中にはビール色をした水が一ぱいに溢れて、その水の上へ、未だ芽をふかない柳の小枝が音もなく垂れてゐた。活動寫眞館のある方から池の中の路を横切つて、山の中と這入つた。

もう陽が入つて、空には樺茶色の鈍い光があつた。水族館の裏手になつた茶店の前を左に折れた。私は梅のこと思ひだしてゐた。小米花のやうな盛りを過ぎた花のしがみ付いた梅の枝があつた。そんな枝は他にも二本ばかりあつた。

十二階の裏手になつた汚い通路に這入つてゐた。私が神田邊の下宿にうろついてゐる時に好く出掛けて來た所で、その時分にゐた肥つたお神さんは、もう亡くなつて、そのお神さんの親類だと云ふ若い女が二代目のお神さんになつてゐた。其所には白粉をこてこて塗つた若い女が六七人もゐた。私の前へビールを持つて來た女は、栃木縣の者で、神田あたりの下宿屋に去年まで奉公してゐた者であつた。

『ちや、下宿屋からお馴染の好い人が來るだらう、』

女はすつかり馴れて來て、側の物にまで手をつけるやうになつた。食卓の上には蜜柑と林檎を盛つた籠があつた。女はその

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

蜜柑にも手をつけて、朋輩にもやり、自分にもとつた。口の廣い壜の中には、袋に入れた食物があつた。女はその食物にも手をつけた。袋の中には辻占が這入つてゐると云つて、それを讀んでくれた。

『只今、貴君の爲めに出たる卦は、離爲火と云ふ卦で、これを判斷して、御話し致しますと、離の卦は、始め附いて、終りに離別する、首ありて尾はしの象で、貴君も表面は盛んですが、裏面は種々心配がありますから、平常の業より他へ進みますと却つて難儀となります。又、物事途中にして、損毛が出來ますから、必ず、進まず沈着き、時節をお待ちなさい。今、何程心配しても、却つて破れる計りです。今より五ケ月目をお待ちになると、日増に安泰になります。兎に角、人と共同して、組合又は、會社事業をなさると吉です。』

『もう他に無いか、』

『願ひ事でも、緣談でも、何でもあります。』

『おや、緣談はどうだ。』

『緣談ですか、……緣談は、末に整ひます。末に整ふんですつて、』

『そいつは好い、ぢや金談は、』

『金談ですか、金談は、……金談は整ひますが、すこし遲れます。すこし遲れるんですつて、』

『そいつは困つたね、』

『旦那は商人、株屋さん、』

『まあ、そんなものだ、好く見てくれ、すこし手を出したものがある。』

『賣買ですね、賣買もあります。賣買は、……賣買は日増しにあがります。あがるんですつて、』

『よし來た、あがると儲かるぞ、』

『旦那、戀がありますよ、』

『どうだ、戀は、』

『かなひます。』

『や、賣買が日増しにあがつて、戀がかなひますか、こいつは一ツ祝盃でも擧げるかな、』

郵便配達が來て一封の手紙を食卓の端へ投げて行つた。傍に立つてゐた女の一人がその手紙を手にした。それは私の相手になつてゐた女へ來た物であつた。ところで、その女は、二階へあがつた馴染客の所へ顔を出しに行つた所であつたので、手紙は私の前へと置かれた。銀座あたりの新聞社の社名が刷りこんだ封筒であつた。

其所へ女が歸つて來た。女はその手紙を見ると、急いで封を

切つて讀み出した。
「[illegible]あなたいさかあつた、[illegible]はあらあつた。女は青い罫のある円行紙に目をやつてゐた。
「見せろ、何に稼いだ、見たつても、何もしやしない、見せろ。」と云つて見てやらうとしたが、女はなかなかよこさない。で、「[illegible]や、その中の一枚を見せろ。」
女はとうとうその内の一枚をよこした。それは三枚ある中の一枚であつた。
十時頃になつて歸りかけた。[illegible]町の停留場から電車へ乘る積りで、小さな路次を歩いてゐた。小さな飲食店のある路次であつた。左側の住居の木戸口らしい所に幟が立ち、その下に火の入つた地口行燈が二つばかり見えた。矢張りお稲荷さんだらうと思つて、幟へ眼をやつた。正一位[illegible]稲荷大明神」と書いた文字が朧ろに見えた。
十一時頃になつて、自分の家の近くまで電車で歸つて來たが、何だか物足りないので、停留場の傍の行きつけの酒場へと這入つた。僅に四臺の食卓しか置いてない狭い店に、十人ばかりの客が來てゐた。隣の鍛冶屋の亭主の顔も見えた。鍛冶屋の亭主はひどく醉つてゐた。
「私は今度九十六番地の襲撃をすることになりました、大いにこれからやりますよ。」
「九十九番地だと雑貨の商賣に行きますが、六番地や[illegible]に[illegible]することが出來ませんね。」
「雑貨なんかどうでも好いぢやないか、これから若者[illegible]から市會議員を出します。その時は、あなたが好いと思ふすから、あなたに頼みます。これから大いにやりませう、やつてくれますか。」
「やりますとも、私も一度は市會議員になつて、砂利を賣つて見たいですよ。」
九月の夕方、私は上野の精養軒へと行つてゐた。[illegible]の下で電車をおりて、不忍の池の方へと行つた。空には陽光が殘つてゐたが、電燈はもう點いて見た。鉛色に光る水の上には、[illegible]と打つたやうに鴨が浮かんでゐた。上野の方を見ると、[illegible]のやうになつた上野の森から谷中の方へかけて、樺色の[illegible]が[illegible]つてゐる。た向ふの岡の方に見える大きな煙突から出る煙が、[illegible]れに崩れて、其が靄靄の中へと交りあつて一色になつて見えた。
私は池の傍のからたち所に沿ふて歩いた。櫻の樹が飛び飛びにからたちの垣に沿ふて植はつてゐた。櫻の下の[illegible]になつた所には卓が脊んでゐた。上野の方から來た鳥の群が、[illegible]になつて見えてゐたが、辨天堂の上あたりで[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て行つた。私の足が觀月橋にかゝつた時に見ると、鳥の群は方向をぐるりと變へて、明神の森の方へと體を重さうにして飛んでゐた。橋の傍の骨ばつた蓮の枯莖の間では、鴨が物に驚いたやうにがあがあと啼いた。

その夜はほかほかして暖かかつた。食事の後で話してゐると鐘の音が崩れるやうに鳴つた。朝になつて、やつと眼が覺めかけた所で、崖の方で鶯の聲がした。鶯が啼く程であるから今日も靜かな天氣であらうと思つて、起きて窓かけを除けて見ると崖の笹の葉や裸になつた雜木の小枝が頻りに動いてゐた。

十二日の朝は吉野村の梅見にゆく約束があるので、六時頃に眼を覺ました。前日から曇つてゐて、空模樣がおかしかつたので、平生より天氣の心配があつた。私は戸外を見やうと思つて神經の靜まるのを待つてゐた。と、屋根の瓦の方で、ポツリポツリと云ふ音がした。私はがつかりしてその音を聞いた。ポツリポツリの音は次第に多くなつて來た。しかし、すこしくらゐの雨で晴れさうであれば行くと云ふことになつてゐたので、もしやと思つて起きて見た。小さな雨が隈に降つて、霧がかゝつたやうに四邊がぼうとなつてゐた。枯草の間から覗いてゐる土は、もう雨で眞黑に濡れてゐた。其所には黄色な蕗のとうが、何かの徽章でもあるかのやうに、其所此所に光つてゐた。

花嫁

上元の節が來た。昔の雜店の子女の野へ出る日がやつて來た。王子服はいとこの呉と一緒に歩いてゐた。それは風の凄い暖かな日で、人家に添ふた畑には、桃の薄赤い花を見せてゐる所があつた。屋敷構への或る家の塀の上からは、白い李の花が僅かに覗いてゐた。路の三叉になつた所では、野へ出て行く三人連の若い女を見かけた。その女達は向ふからやつて來て、すれ違ひさうになつた處で、野の方へ通じた路へと折れて行つた。路ぶちの草の中には、たんぽぽの花が咲いてゐた。

村はづれへ行つた所で、呉の家の下男がやつて來て、用事があると云つて呉を連れて行つた。王はこれから一人になつて、瘦ぎすな色の白い體を野の方へと運んで行つた。

野には霞が靆つてゐた。その日の來るのを待ち焦れてゐた女達は、其所此所に群をして遊んでゐた。小鳥の群は胡麻の實をまいたやうに、その女達の頭の上を飛んだ。嬉しさうな圓韻な叫が聞えて來る。若い男達はそれを見やうと思つて、彼方此方から集つて來た。王もその男の一人であつた。

十五六に見える脊のすんなりした女が、一人の女中を連れてやつて來た。女の手には梅の花の小枝があつた。王はその女の

顔に眼を注けた。熱情的な彼の眼は女の顔から離れなかつた。女の顔は笑つてゐるやうであつた。女は行き過ぎた。王は立ち止まつて、その眼で女の顔を追ふてゐた。女の顔は女中の顔と斜に向き合つた。

『彼の人の眼は泥棒みたいね、』

女の笑ひ聲がそれに續いた。王は顔を赤くして躊躇した。

二人の女の遠ざかつて行く靴音が聞えた。王は眼をあげた。女の立つてゐた所には、今まで女の手にしてゐた梅の枝が落ちてゐた。王は曳きずられるやうに歩いて行つて其枝を拾つた。

二人の女の後姿は遠くなつてゐた。

王子服は病人のやうになつて寢室から出なかつた。その日も朝食に呼ばれても起きて行かずに、壁の方をぼんやりした眼で見ながら寢てゐた。いとこの呉が其所へやつて來た。

『君はあれから寢てゐると云ふぢやないか、』

呉は籐椅の傍にあつた椅を引き寄せて腰を掛けた。

『おゝ母さんも大變心配してゐるが、どうした。』

王はこちへ寢返りして呉の顔をじつと見た。

『どうした、何か面白くないことでもあるのか、』

王は眼をつむるやうにしてゐた。

『別に何も無い、たゞ起きてゐるのが苦しいから、斯うしてゐるんだ。』

呉はいとこの秘密を見極めやうとでもするやうに、血の気の無い面白い顔に注意した。

『それなら好いが、上元の日から斯うだと云ふから、野で何か惡物がしたぢやないかと思ふが、自分ではこんなになつた原因がわからないのか、』

『別に自分では氣が附かん、そんなことは無からう、』

『さうか、』呉は首を傾げながら王の顔をぢつと見てゐる。『君は何か上元の日に見たものでも無いのか、別にわざわざ見なくつても、澤山若い女が出てをつたから、君の趣味にかなつた者でも見なかつたのか、』

王は顔を赤くした。

『見たものでも無いのか、あるなら云はふぢやないか、』

王はきまり惡さうにして微笑した。

『梅の枝を持つた女に會つたんだ、女中を連れてゐた、十五か六だらう、』

『さうか、何姓の女だ。』

『訊いて見なかつたからわからない。』

『商賣をすると直ぐわかる、どうせ外へ出る女だから、家柄の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女ぢない、許嫁になつてゐなければ、直ぐ纏るし、許嫁になつてをつても、金さへ出せば、どうにでもなる、どんな顏の女だ。』

『尻子な、眼の晴れ晴れした女だ、脊も高い方だ。』

『直ぐわかる、おつ母さんとも相談して、直ぐ詮議をしてみよう、』

二三日して吳が又やつて來た時には、王は榻の上に坐つてゐた。彼は吳の來るのを待ち兼ねてゐたのであつた。

『どうだね、體の具合は、』

『體は好い、食慾も出來た。』

『それは好かつた、それからあのことだがね、』

『あゝ、世話かけたね、わかつたのか、』

『わかつた、わかつた、』吳はちよと躊躇しながら、『あれや、君僕の叔母の子供だよ、だから、君にもいとこだよ、あまり血の近い嫁はあるが、君がどうしても欲しいと云ふなら、くれないことは無いよ、』

王は喜んだ。

『さうか、いとこか、何時か、おつ母さんの姉さんのことを聞いたように思ふが、その子供だらうか、何所にゐるんだ。』

『西南にあたる山の中だ、三十里位はあるだらう、』

『さうか、それぢや、君に交渉して貰へるね、』

『好いとも、僕が交渉するよ、』

吳は王の寢室を出て次の室へと行つた。其所は王の書齋になつてゐた。王の母が其所へ來て待つてゐた。吳は叔母さんの傍へ行つて小聲で囁いた。

『川まかせなことを云つときましたよ、だから、早く、綺麗な嫁を貰ふが好いんですよ、』

王は吳の返事を待つてゐた。母親は吳と打ち合はしてあるやうに、他から好い嫁を貰つて、梅の花を持つてゐた女の事を忘れさせやうと思つて、王に嫁を貰へと勸めたが、吳の云つたことを本當にしてゐる王は、母親の言葉に耳を貸さなかつた。

五六日しても吳の姿は見えなかつた。王は手紙を書いて、吳に來てくれと云つてやつたが、吳は忙しいと云つて來なかつた。王は吳を恨んでじれた。母親はやつと治りかけた病氣が、又後戻りせられては困ると思つて、しつこく嫁を貰ふことを勸めたが、王は頑として聞かなかつた。

吳はとうとうやつて來なかつた。王は不信ないとこに見切りをつけてしまつた。彼は自分で西南の山村に住んでゐる叔母の家を訪ねやうと思つて、ぶらりと家を出た。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

路は野から山の中へと這入つて、登りの緩い山の脊を一つ二つ超えた。そして、谷底の窪地に人家のまばらな小村を見つけた。人家の前には花の枝が仄白く見えてゐた。

王は谷の下へとをりて行つた。草葺の瀟洒な家が二三軒見えて來た。王は人が來たら訊いて見やうと思つて、人の來るのを注意してゐた。叔母の家を訊くためであつた。ところで、叔母の縁付いてゐる家の姓も、叔母の名も知らないことに氣が附いた。

北向の家があつた。門口には柳が緑葉を着けた枝を垂れ、垣の内には、桃の花と李の花とが綺麗に咲いてゐた。長い長い竹も生えてゐた。大きなつるつる光る石が家の前にあつた。王は疲れた體を運んで行つて、ぐつたりとそれに腰をかけた。

『仕方が無い、引返して出直して來よう、』

王は足が痛くもあれば、飢じくもあつて、さつさと引返して行く勇氣が出なかつた。

門の中で若い女の聲がした。王は顔をあげた。若い女が東の方から出て來て、李の花の小さな枝を折り、それを髮にさしながら、ふと眼をあげた拍子に王と顔を見合はした。それは上元の日に會つた彼女であつた。女はにつとして、もう花の枝を簪にすることを止めて、それを手に弄りながら行つてしまつた。

『いとこの云ふことが本當だと、此所が叔母さんの家だ。』

王は救はれたやうに思つたが、叔母さんの家の苗字も名も知らないので、訊ねに行く手蔓が無い。家の人が出て來たなら訊いてみようと思つてゐたが、人の出て來る氣配がなかつた。

王は石を離れてその邊を歩いた。今の女の顔が時折花の間から現はれて、王のさうした容を覗くのが見られた。

夕陽が花の枝に燃えてゐた。杖をついた老婆が門口から出て來た。王はこの家のことを訊かうと思つて待つてゐた。老婆も王の方を向いてやつて來た。

『お前さいん、さつきから來て、此所にをるさうだが、何か御用でもありますか、』

『親類の者を訊ねやうと思つて、やつて來ましたが、わかりませんから、仕方無しに斯うしてゐる所です。』

老婆は耳が遠いのか、王の顔を見詰めながら、首を彼方此方と振つて見せた。

『親類、親類がどうしたかね、』

王は大きな聲をした。

『親類を訊ねてゐるんです。』

『何と云ふ苗字だね、』

『その苗字を忘れたもんですから、困つてゐるんです。』

老婆は笑ひだした。

『苗字がわからないで、何んと云つて尋ねるかね、それよりか汚ない所でも、今晩は私の所に寢て、明日歸つて、よく苗字を訊いて來なさるが好い。』

王は老婆の後かり隨いて行つた。彼は自分の思うてゐる女がゐるので、その家へ這入りさへすればよかつた。叔母の家であつてもなくても、そんなことはどうでもよかつた。

白い石疊の路が門の中にあつた。路の兩側は花で飾られてゐた。花は廊下にも散つてゐた。西へ曲つた所に又一つの室の入口があつた。其所の庭には、紫色の豆の花を匐はした棚があつた。窓の所には海棠の花が垂れさがつてゐた。

室の中へ這入ると、老婆は王の家柄を訊きだした。王は老婆によく聞えるやうにと大きな聲で話した。

『ぢや、お前さんの家の、母方の苗字は、呉と云やしないかね。』

『さうです、呉です。』

王が返事をすると、老婆は驚いたやうにして王の顏を見た。

『ぢや、お前さんは、私の甥じや、お前のおつ母さんは、私の妹じや、違のいてゐたから、わからないのも尤もだが、それじや、お前は私の所を探しに來たかね。』

『さうですよ、苗字をつい聞かずに來ましたけれども。』

『私の苗字は秦と云ふんだよ、本當の子供は無いが、妾の子が一人あつてね、その母が再縁したもんだから、私が世話してゐる、今、お前に會はすよ。』

王はいとこの云つたことは、本當だなと思つた。

女中が食事の支度をして持つて來た。それは上元の日に見た女中であつた。王は打ちくつろいだ氣持になつて飯を食つた。

『今、嬰寧を呼んでおくれ。』

女中は食事の道具をさげて出て行つた。王は老婆と話してゐた。

人の跫音と一緒に笑ふ聲が聞えた。

『嬰寧、お出で、お前の叔母さんの家の兄さんに、會はせるから。』

笑ひ聲は止まない。女中が戸を開けて、尻込みしてゐる女を無理に内へ入れやうとしてゐる。

『馬鹿笑ひをするもんぢやありませんよ、笑はれますよ。』

老婆は叱つた。それでも女は笑ひ聲を止めない。

『十六にもなつてこれですよ、私の娘が惡いだらうが、困つたもんだ。』

老婆は斯う云つて王の顏を見た。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『私より一つ下ですね、』

『ぢや、お前は十七かい、もう嫁があるね、』

『ありません、』

『お前のやうな男が、何故貰はずにゐるんだ、嬰寧の方も未だ約束がしてないから、お前と丁度好いが、あまり血が近いね、』

王は顔を赤くしながらそつと嬰寧の方を見た。女は女中と小聲で囁き合つてゐた。そして女は、又大聲を出して笑ひだしたが、袖で口を押へながら行つてしまつた。

朝起きると王は家の後ろの方へ歩いて行つた。半畝ばかりの草の綺麗に生えた庭があつた。其所には四阿屋のやうな、草葺の屋根があつて、そのぐるりには花の枝が重なり合つてゐた。王がその傍を歩いてゐると、枝がザワザワと鳴つて花が揺れた。嬰寧が木にあがつて、花の間から顔を出してゐる。嬰寧は又おかしくつてたまらないと云ふやうに體を振つて笑つた。

「あぶないよ、落ちるよ、」

王も笑顔をして立つた。嬰寧は笑ひ笑ひおりかけた。地べたが近くなつた所で、とうとう手が辷つて落ちてしまつた。王は走つて行つて抱き起した。起した後でそつと腕を撮んだ。女は木に寄りかゝつて又一頻り笑つた。

やつと嬰寧は笑ひ止んだ。王は袂の中から花の萎れた小さな梅の枝を出した。

『これを覺えてゐるの、』

『覺えてないわ、何、そんな枯れた枝を何にするの、』

『これは、上元の日に、お前の捨てたもんだよ、』

『そんなものを何にするの、』

『お前のことを忘れなかつたから、持つてゐたんだよ、』

『親族だからでせう、』

『親族と云ふことは後で知つたよ、この花を持つてゐたのは、そんな意味ぢやないよ、』

『どんな意味、』

『お前と夫婦になりたいからさ、』

『夫婦とはどんなことなの、』

女中がそつとやつて來た。王は周章てゝ逃げだした。

王と嬰寧とは老婆の室で落ち合つた。

『御飯もたべずに何處へ行つてゐたんだね、』

老婆は斯う云つて嬰寧に訊いた。

『庭の方で、兄さんと一緒に話してゐたのよ、』

『どんな話をしてゐたんだね、』

『兄さんが、私と夫婦になるつて、云つてたのよ、』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

その言葉は老婆には聞えなかつたが、老婆は王と嬰寧の話してゐたことを精しく聞きたいやうな風であつた。王はつまらぬことを嬰寧に饒舌られては困ると思つて小聲で叱つた。

『そんなことを云ふもんぢやない。』

嬰寧は笑つた。王は女の痴鈍なのが物足りなかつた。

飯がすむと王はぶらりと家の外へ出た。王の家から王を探しに來た男がやつて來た。王は迎への男を連れて老婆の所へ行つた。

『叔母さん、家から迎ひが來ましたから、歸らなくちやなりませんが、一緒に嬰寧を連れて行かうと思ひますが、どうでせう。』

『それは私から頼まうと思つてゐた所だよ、私の方は心配はいらないから、彼れを連れて行つて、面倒を見てやつておくれよ。』

老婆に嬰寧を呼んで來ました。

『兄さんが、お前を連れて行つてくれると云ふから、一緒に叔母さんの所へ行くが好い、そして、叔母さん所で、女の入ることを習ふが好い。』

嬰寧は違はなかつた。彼は王に連れられて山を下つた。

王は嬰寧を連れて母の前へと行つた。母は見知らない綺麗な女の子を見つけて眼を見張つた。

『その方は、誰だね。』

嬰寧はもう笑ひだした。王はあまり馬鹿げた笑ひ方を見せて母から輕蔑を買はしたくなかつた。

『叔母さんの家の小供ですよ、秦家へ行つてゐる叔母さんの娘ですよ。』

母親は不審さうな眼をして容間を見詰めた。

『私の上の姉さんが、秦家へお嫁に行つたことは本當だが、もう、とうに歿くなつてゐるんだよ、それに、與がお前に云つたことは、あれや嘘だよ、お前が病氣になつて、悲觀してゐたから、氣休めに出まかせを云つたんだよ。』

『與の云つたことは、出まかせかも知れませんが、私は叔母さんに逢つたんですよ、逢つて、一晩厄介になつて來たんですよ、それや、間違へつこの無いことです。』

『どうもおかしいなあ、それに、叔母さんには、子供が無かつたやうだよ。』

『さうです、この嬰寧は、叔母さんの本當の子でなくて、妾の子だと叔母さんが云つてましたよ、叔父さんが亡くなつて後に、妾が再縁したから、叔母さんが世話をしてゐたんですよ。』

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

王のことを心配して、呉がやつて來た。嬰寧は呉の姿を見ると、それを憚るやうにして、急いで次の室へと這入つて行つた。

「あれは誰かい、」

呉が不審して訊いた。王はその譯を話した。

「そいつは不思議だ。」と云つて、呉は何か考へてゐたが、何か思いだしたやうに、『ぢや、彼の女は、嬰寧と云やしないかね、』

『云ふよ、嬰寧だよ、十六になるよ、でも、君はどうして、嬰寧と云ふ名を知つてゐるんだ、』

『それには、變な話があるよ、君のおつ母さんも聞いてゐる筈だが、秦家へ行つてゐた叔母さんが沒くなつた後で、叔父さんが一人で鰥暮をしてゐると、狐が憑いて、それが爲に叔父さんは死んぢまつたんだ。ところで、その憑いてゐた狐が、叔父さんの子を生んで、おしめに包んで、床の上へ寢かしてあるのを家の者は皆見たと云ふんだ。なんでも、その子供を嬰寧と云つて呼んでゐたさうだ。それだらう、その子供かもわからんね、狐は叔父さんが沒くなつた後も、時々やつて來たが、皆が怖がつて、御符を貰つて來て張つたんで、それから來なくなつたと云ふんだ、どうも、それらしいね、嬰寧と云やそれだらう、』

次の室から大聲で笑ふ嬰寧の笑聲が聞えて來た。母親は女を連れに行つた。嬰寧は笑つてゐて振り向きもしない。

『まあ、あつちへおゐでなさい、いろいろ話したいことがある。』

嬰寧は壁の方へ向いて笑をこらえた。やつと笑ひが止まつたので、母親に隨いて出て來たが、呉の方へお辭儀をしたかと思ふと、又笑ひがこみあげて來て、おかしくてたまらないと云ふやうに、もとの室へ逃げて行つて笑つた。

素性に疑はしい處はあるが、第一我子が病氣になるほど思ふてゐた女であるから、母親も嬰寧を家へ置くことに異議を唱へなかつた。

王のいとこの呉は、秦家の叔母の家と云ふのが不思議でたまらないから、山の村へ調べに行つたが、それらしい家に行きあたらなかつた。呉は怪しいと云つて、それを王の母親に話したが、傍にゐた嬰寧は笑つて聞いてゐた。

母親は嬰寧に仕事をさしてみた。仕事は非常に上手で丁寧であつた。附近の若い女は嬰寧の傍へ集つて來た。王の母親は道士を招んで無緣の佛の供養をさして見たり、ある時は、嬰寧が日向に立つてゐる後からそつと行つて、影が有るか無いかを覗いたりした。影があれば幽靈でも無い。女には立派な影があつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。

母親は日を選んで王と嬰寧とを夫婦にした。嬰寧は相變らず笑ふので、眞面目な儀式はとうとう出來なかつた。

嬰寧は何時の間にか家の周圍に花を植えはじめた。家は花で飾られた。庭の隅に木香の木があつた。嬰寧はよくその木へあがつて花を弄つてゐた。

西隣の家の若い悴は、ある日、木香の木にあがつてゐる嬰寧を見つけた。嬰寧は笑つた。悴は女が自分に氣があると思つたので、何時までもその顔を見てゐた。嬰寧は垣の下へ指をさした。

『今晩、あすこへ來いと云ふんだな。』

夜になると悴は女の指をさした垣の傍へ行つて待つてゐた。北隅には一本の枯木が仆れてゐた。悴の體はその木に觸れた。悴は不意に恐ろしい聲をだして叫んだ。父親が驚いて來てみると、悴は地べたへ仆れて、うんうんとうなつてゐた。

悴の嫁や母親などが、火を點けてやつて來た。枯木の腐れ穴に小鍋ほどある蝎がゐた。悴はその蝎に刺されたものであつた。

父親は蝎を殺して、悴を家の中へ擔ぎ込んで手當をしたが、その夜の中に死んでしまつた。

父親は嬰寧が悴をたぶらかした結果、こんなことになつたと思つて、王を訴へて出た。邑宰は王子服を知つてゐたので、却つて隣の父親を鞭で叩かした。

王の母親は、ある日、嬰寧を傍へ呼んで戒めた。

『お前が人を見て笑つたりするもんだから、こんなことになつた、これから好く注意しなさい。』

『私が惡うございました、これから、決して笑ひません。』

嬰寧はそれつきり笑はなかつた。併し綺麗なその顔は人に好感を與へた。

嬰寧はある晩、王を見て泣きだした。

『どうした、何か苦しいことでもあるのか。』

王は不思議に思つて訊いた。

『苦しいことはありませんが、お願ひがございます。私は今まで默つてをりましたが、本當はあなた方が疑つていらつしやるやうに狐の生んだ子ですよ、私の母が他へ行く時に、私を沒くなつてゐる叔母さんに頼んで行つたので、私は叔母さんの世話になつて、大きくなつたんです。私を可愛さうだと思つて下さるならどうか、叔母さんのお祭をしてやつて下さい。』

翌日嬰寧は柩を擔つて、山の方へと行つた。王が一宿したと思つたところには、家は無くて、草が生え、それに木の花が淋

しまうに散つてゐた。草の中に白骨があつた。嬰兒はその白骨にとり縋つて泣いた。それが叔母の白骨であつた。二人それ取り收めて歸り、叔父の妾氏の墓の傍へ並べて葬つた。

玉はある時、嬰兒の世話をしてゐた女中のことを思ひ出して訊いて見た。

『彼れは私の母が殘して行つた狐ですよ、彼れが始終食物を取つて來て、私を養つてくれたんですよ、もう彼れもお嫁に行つたさうです。』

それは『聊齋志異』に載つてゐる話である。

梅花村

學者もゐた。教育家もゐた。文學者もゐた。雜誌記者もゐた。

十二三人の者は、四時間ばかり汽車で運ばれて、多摩川の右岸になつた谷間の小驛におろされた。それは三月の末であつた。停車場の上手には、切り碎かれた石山が、正午の陽の光を遊赤く反射してゐた。

マッチ箱のやうな輕便鐵道の箱からおりて、改札口を出ると、待つてゐた有志が集つて來た。驛の前には天幕を張つて、その下に高机を並べて席がこしらへてあつた。一行は共所へ腰をかけた。有志の内には、郡長、警察署長、町村長、役場員などがゐた。色の黒い警察署長は、土地柄だけに、演說演說のやうな固くるしい挨拶をした。

共所は青梅鐵道の終點になつた二俣尾驛であつた。多摩川の流れは、藥研の底のやうに深く落ち込んで眼の前を流れてゐたが、水の色は見えなかつた。御馳走の挑發は、吉野村へ行つて出ることになつてゐたから、私は茶菓子に出してある名物の餅をかじりながら、早く先方へ行つて、一杯やりたいなと思つてゐた。

二俣尾はもと桃の名所として知られてゐたが、もう桃の木はなかつた。やがて出發して川下の方へと行つた。左手の山の麓に赤瓦の建築物が見えた。海禪寺と云ふ寺だ。大きな山が左右から離れて來て、平地は川の兩岸にしか見えなかつた。

吉野村は前岸になつてゐた。一行は河原へおりて行つた。溝のやうな狹い谷川の流を船で渡つた。河原をあがつた所に、わさびの畑があつた。小石を敷いた畝に葵の葉の形をした小さな植物を植えて、淺い溝には綺麗な淸水が流れてゐた。

『わさびを作るには、かうしないといけないです。』と、有志の一人が教へてくれた。

『なる程、かうして作りますかね、一つ智惠がつきましたよ、』と私に云つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

川風が岸に生てゐる淡竹の葉に動いてゐた。數本の梅の花が人家の近くに見えた。路をあがり詰めた所に社があつた。其所にも梅が白かつた。

吉野村の梅は、四百年前に實を採るために植えたものであつた。山裾の人家の庭にも、畑にも、其所に一二本、此所に七八本と云ふ風に花をつけてゐた。從つて木は皆大きかつた。その木の大きいのと、枝ぶりの好いのが災をなして、近年東京橫濱方面へ持つて行かれるので、內務省あたりから補助金を得て、それを保存しやうと云ふことになり、之の運動の第一着手として一行が招待せられたのであつた。

機織る梭の音がぱつたん、ぱつたん、と何所からともなく響いて來た。石を割る音も聞えてゐた。目的地までは半路ばかりあつた。ほかほかと暖かつた。行く路で一軒の家の庭園を見物して、一時近くなつて、やつと吉野村の中心地となつてゐる梅園へと着いた。小山の麓で、高い所に茶店があつた。其所には梅が多かつた。その梅の根本には、黃色な草花が群がつて咲いてゐた。それはこの地方から東京方面へ送られる青梅草で通つてゐる福壽草だ。

一行は茶店から一段下になつた所で休んでゐた。名物のかす漬にした黃熟しない青梅そのまゝの色をした梅漬を、茶菓子の代りに持つて來た。すつぱい物の嫌いな私は、傍でその梅をぼりぼりとかぢる音をきかされて、齒が浮いて仕方がなかつた。私の先輩の俳人は、名刺へ何を記入してゐた。陽にすかれた梅の花がほんのりと香つて來た。

宴會の支度が出來て、一行が狹い茶店の坐敷へひしこ詰になつて坐つたのは、もう一時半であつた。坐つてから向ふの方を見ると、前岸になつた石垣寄の方に、日向和田の石灰石が光つて見えた。石を割る響はその方からも聞えてゐた。芋、豆腐、わさび漬と云ふやうな肴を盛つた大きな皿鉢が前に置いてあつた。席は二つに分れて、招待せられた客が上手に坐り、有志が下手に坐つてゐた。

銚子が廻つて來たが、上手の方へは直ぐは來ない。丁度、下手のお流れを頂戴する形だ。續いて蕎麥が出たが、下手の方から半が出るので、上手の方へ廻つて來ない。やつと下手の方に手が出なくなつてから來はじめた。

『やつと行りつけるか。』

下手の方では、もう聲が大きくなつてゐた。そして、役場員らしい男が、もう好い機嫌になつて歌ひだした。

『ほう、これは。』と私は隣にゐた先輩と顏を見合はした。

『一つ歌つて下さい。お客さんに歌つてもらひたい。』と云ふ者

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

がある。

「まだ歌ふほど酔はないよ。」と云つてやりたいと思つて、咽喉元まで出たが、後で又桂月翁に叱られると思つてやめた。

下手の方では、もう坐が亂れて、赤い顔をしておりて行く者が出來た。一行もそれを見て坐を立つた。

青梅町まで一里ぐらゐの路を歩くと云ふことになつてゐた。一行は有志と入り交つて、離れ〴〵に河下の方へと歩いた。梅の花は至る所にあつた。土地の青年會で設けた危險物を入れる公德箱があつた。瀬戸物のカケラが一杯になつてゐた。その箱に梅の花が散つてゐる所もあつた。それは梅にそぐはない物であつた。私は亡くなつた俳人のことを知人と二人で話しながら歩いてゐた。夕陽は暖かつた。

鐵橋を渡つた。多摩川の流れは、遙に下の方で瀬の音を立てゝゐた。橋の向ふは青梅町の人家だ。停車場が其所にあつた。停車場に着いて見ると、有志はもう一人もゐなかつた。

『村長さんが病氣になりまして、』と、何人かが云つたことを聞いてゐたが、病氣になつたのは村長さん一人でないらしい。

暗くなつたから一行は、立川の停車場のプラットホームで八王子の方から來る東京行の汽車を待つてゐた。一行はもう別れ別れになつてゐた。私達は二三人一緒になつてゐた。

一時間ばかりも待つて、やつと汽車が來た。私達は急いで乗らうとした。二三人の洋服を着た男達が、手を張つて垣をこしらへ、自分達一行の子供や女を先に乗せやうとした。それは青梅から立川へ來る輕便の中で、酒を飲み、歌を歌つて傍若無人に振舞つた一行であつた。私達はそれに反感を持つてゐた。私の知人の一人は、それを押し除けて中に這入らうとした。腕力の強さうな洋服の手は、知人の頭に來た。知人は片手を汽車の窓にかけたなりに、後のめりになつた。洋服の手は二つ三つ續いて閃いた。知人の帽子は落ちさうになつてゐた。私は洋服の胸を突いた。洋服は後ろにたぢろいた。洋服は知人を捨てて立ち直つた。洋服の手と私の手は一二回頭の上で絡んだ。

若い學生風の男が私に突つかゝつて來た。洋服の一行らしい。洋服は私を捨てゝ女小供の方へと向いた。私は若い男の腕をぐつと掴んだ。

『けしからん奴だ、こんな時には、止めてくれるが人間だ。こつちへ來い。』

私は力を極めて引いた。若い男はよろけた。はじめの洋服をはじめ三四人の男が、叫びをあげて私を目がけに進んで來た。私は驛の壁板の方へと退いた。敵は追つて來た。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『こいつは困つたぞ、』
私は當惑したが仕方がない。兩肱を張つて擬勢を示しながら何人か止めに來てくれると好いがと、仲裁人を待つてゐた。
『さあ、早く、早く、汽車が出ますよ、』と驛夫の云ふ聲がした。
敵は皆私を捨てて汽車へと走つた。私はほつとした。
『君か、何人が喧嘩してゐるかと思つたよ、』
桂月翁が前に來て立つた。私は翁に隨いて汽車に乘つた。

日米他流仕合を觀て

佐々木指月

米國、ライト、ヘヴイウエイト、チヤンピオン、レスラア。アド、サンテルが、日本へ來ると云ふ話しは、久しい前からあつた。

そのうちに、サンテルの支配人、増子と云ふ人が、米國から頻りに、日本の各方面の有力者へ交渉してゐると云ふことが、私の耳へ、はいつた。それは丁度去年の十一月末だつた。私はその時、ははあ、サンテルも、愈々日本へやつて來るなと思つてゐた。

すると、本年の二月末になつて、米國から私によこした友人の手紙のうちに、サンテルが日本へ行くので、在留の日本人が彼れのために。送別宴を開いてゐるといふことが書いてあつた。さうして間もなく、東京の新聞は、彼れが横濱へ上陸したといふことを知らせた。そのうちに、都下の各新聞は、彼れがいよいよ九段招魂社境内に於て、日本の柔道家と仕合をすると云ふことを告げた。

私はその時、ははあ、いよいよ、サンテル對、日本の柔道家の仕合か。いづれ、まあ、講道館の連中が應戰することだらうが、これは少し、日本柔道家にとつては、苦手だなあと思つてゐた。

なぜなら私は米國にゐて、日本の柔道家がサンテルに、ひね

りつぶされるところを見てゐたからである。

然し私も、大きに今度は心配した。何しろこれは、日本古来の妙技、柔道い名譽にかゝはることであるから。

そこで、サンテル對、講道館選手の仕合があつた三月五日の日。何にともあれ見ずんばあるべからずと思つて私は見に行つた。

その日は、幸ひにいい天氣だつた。九段の上で電車から降りると、もう靖國神社の前には、その石燈籠の數より多く、人がぞろぞろぞろと、つながつてやつてくる。

場所は境内の角力場で、天幕張りに、紅白の幔幕。なかへ這入つて見ると、二萬人も、はいれさうな、大きな小屋掛け。地面は盃のやうに自然と中央が低くなつてゐて、その一ばん低いところに四本柱の土俵があつて、その土俵場の上へ三尺高さの床を張り、疊敷の上へ厚い帆布が張つてある。十六尺四方にしきつた二た筋の太い綱は、床から一尺五寸づゝ三尺の高さに張りまはされて、四本柱にからんでゐる。天井の屋形の下には紫の幕がしぼられ、日米の國旗がそこに交叉されてゐる。場内の柱はすべて、紅白のだんだら巻き。觀覽席は升で蓆。正面の一番高いところは招待席で、椅子が並んでゐる。

陸軍の軍樂隊は、米國の國歌を奏して先づ景氣をつけてゐた

午后一時から開場と云ふ前觸れであつたが、一時半になつてもまだはじまらない。「すしや、すし。蜜柑にラムネ。」と、仲賣りが賣りにあるく。人々は仕合のはじまるのを待ちかねて手をたゝく。「國際競技に時間を勵行しないのは日本の恥辱だぞ。」と罵次が怒鳴る。その間にも觀客はどんどん這入つて來た。

澁澤さんのにこやかな顏が、正面招待席の中央にあらはれる。元の太刀山が、二重廻しに包まれて、のこのこさいさいとやつて來た。まるで牛が稲村を背負つて立つて來たやう。これには流石のサンテルも驚いたと見えて、はるか向ふの溜りの外に引きまはした幕の陰から、目をまはるくして見てゐる。「おりや何だい？日本にも莫迦に大きなヤツがゐるなあ。」と、思つたらしい顏つきをしてゐた。わきにゐた日本人が何か説明すると、初めて日本の力士だと判つたらしく、トレーナアのウエヴアと二人で口をあいて眺めてゐた。

そのうちに、鳳がやつて來る。國見山がやつてくる。サンテルと、この日の選手、永田三段が握手して寫眞をとる。サンテルは、キャップに毛皮の襟のついた外套。永田三段は、黒鈕ボタンの學校服と云ふいでたち。どこかの小學校の生徒から、永田氏に贈つた花輪が、仕合

場のマットの上に飾つてあつたが、それが撤せられると、フロックコートの人見氏が挨拶をのべる。

午后一時五十分、ウエヴア、對、増田二段の仕合ひがはじまる。

この時すでに觀客はさしも廣い天幕のなかに滿ちてゐた。

さて、マットの上に現はれたウエヴアを見ると、ウエヴアは六尺もあらうと云ふ大男、黄色い髮の毛を短かく刈つて、淡藍色の目をしてゐる。體格はと云ふと、ロダンの彫像が現れ出たかと思ふやうな逞しさで、それに、ぴつたり合つた、競技用の股引をはいて、ゴム底の運動靴を穿つてゐる。さうして何だか窮屈くさうに、日本の柔道着を着てゐた。

増田二段はと云ふと、その丈も五尺そこそこで、筋肉も別に發達してはゐない。頤のとがつた青年だつた。然し目には鋭い光があつた。

二人を較べて見て、私は悲觀した。おやおやこれは駄目だぜと思つた。

勝負は、三番勝負、一番が二十分間、一番ごとに十分間の休憩と云ふきめである。

『始め!』の、鈴が鳴つて、日米選手は互に握手するより早く一歩さがつて、いよいよ戰鬪狀態となつた。

背廣服のブラウン氏と、禮服着用の山田四段が、東西にわかれて審判をする。

最初の攻手は増田二段からはじまつた。二段は足をあげて掬て身に行つたが、敵は何しろ大兵だからたまらない。二段の膝がくづれるところをウエヴアは、上から乘りかゝつて捻り倒した。

私は丁度その形を後ろから見てゐたが、まるで大人が子供をかゝへて寢かしつけてゐるやうだつた。

私はもう絶望した。これは勝負にならないと思つた。二人の審判者は、しきりに増田の顏を見てゐる様子。今まで『増田!増田!』と聲援してゐた見物も、聲をひそめてしまつた。

そのうちに、ウエヴアは縮めてゐた足をだんだん伸ばして、その大きな體軀は、増田二段を、全くマットの上に粘りつけてゐる。二段の片足だけは、ウエヴアの腹の下に、はいつてゐるが、他の片足は浮いてゐる。ウエヴアは何でも二段の頸を攻めてゐるらしい。

二人は遂には、動かなくなつた。

なにしろ力が違ふから仕方がない。増田はもうやられてしまつたと、誰れしも思つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

審判者に、組みついてゐる二人を分けた。が、この時、不思議なことには、勝つたはずの、ウエヴアがぐつたりしてゐる。

おやおや。はて變だなと思つたのは目ばかりでない。見るとウエヴアの顔は、紫色にかはつてゐる。目は明いたまゝ上つてゐる。おや、ウエヴアは落ちたなと氣がついて、増田二段の方を見ると、二段は、にこにこしながら、マットの隅に、ちよくなんと座つてゐる。

『やあ！増田二段が勝つた。』と知つた觀客は、鬨の聲をあげた。喝采の音はしばらく止まなかつた。

ウエヴアはまだ息を吹き返さないらしい。目のまはりはもう青くなつて、時には死の蔭がさしてゐた。私のゐたところから少しはなれたところに見てゐた西洋人の子供は、慄えながらその父親にすがりついてゐた。實際、私も見てゐて、あんまり氣もちはよくなかつた。

日本側の審判者、山田四段が、うしろから背筋のところを蹴飛ばして活を入れると、ウエヴアさん、やつと氣がついたらしく、ぼんやりとして、そこいらをうろうろ見てゐる。

『はてな、こゝはどこだつけ。米國ではないらしい。さうさう俺は日本へ來てゐたのだつけなあ。』と思つたかどうかわからないが、何しろ先生、よつぽど不思議な感じがしたらしかつた。

あはれ、ヘンリー、ウエヴアは、日本へ來て、地獄の入り口を見やうとは思はなかつたらう。何んでも、あすこはこの世の中ではないと、思つたに違ひない。それにしても柔術と云ふ術は恐ろしい術だと、先生は思つたらう。

いや、ウエヴアが思ふばかりではない。見物人はみんな『恐ろしい術が日本にはあるなあ！』と思つた。

増田二段は組み敷かれながら、下から敵の襟を取つて、十字に絞り上げたのだと云ふ事である。

審判者ブラウン氏の報告によると、この勝負は、一分と六秒であつたさうな。

軍樂隊の合奏が起つて、十分の休憩時間に入る。

ウエヴアは、餘程、へこたれたと見えて、四本柱の一方によりかゝつて、足をなげ出して荒い息をついてゐる。

増田二段は、その邊をまごまごしてゐたが駒下駄を引かけてどこかへ行つてしまつた。水でも呑みに行つたのか、それとも小用でもたしに行つたのか、選手ともあるべきものが、ああ、ちよこちよこ動くやうでは仕方がないと私は思つた。もう十分の休み時間が、盡きかかつてゐるのに、まだ來ない。見物に氣を揉んだ。

さうして、第二回戦は、増田二段の負となつた。

だがこの勝負は割り合ひに面白かつた。それは、小さい増田が、大きいウエヴアを、ぽんぽん投げたからである。巴投げとか、大外刈りとか云ふ手で、何でも四五回投げつけた。

然し考へて見ると、これはつまらないことだ。米國のレスラアと云ふものは、倒れることが商賣で、平生の練習のときにも頭をマットについて、くるくる倒れることを稽古してゐる。丁度、獨樂が、その心棒をついてあちらこちらへ倒れるやうな、倒れ方を、彼れ等は平氣でやつてゐる。だから柔道家に投げ飛ばされた位ゐでは、びくともするものではない。また投げ飛ばされたとて、なかなか敵につけ入られるやうな、そんな隙は見せやしない。却て投げた方が疲れて損なくらゐなものだ。

ウエヴアは一回戦に襟を取られて懲りてるから、今回は胸を突張つて、襟元を充分用心してゐる。田舎者が淺草へ來て、巾着切りを恐れるやうな格好である。しきりに懐中を氣にしてゐる。それ故自然、足がお留守になる。そこをねらつて増田二段が、大外刈をかける。それだから、流石の大男が、ばたん、ばたんと倒れる。

倒れると見物は、わいわい云ふ。私の目から見ると、増田二段は、倒すために倒してゐるやうに見えた。敵をころばすのを道樂にしてゐるやうに見えた。たゞころばすだけでは仕方がない。よせばいいにと思つてゐるうちに、二段が掛けた蹴股の殘つたところを、ウエヴアすかさず、襟をつかみ、送り込んでの勝。

仕合ひの時間は、二分と十八秒。また十分の休憩に入る。

三回目の戰ひには、増田二段は、疲れてゐた。これに反してウエヴアは、あせりはじめた。

ウエヴアは柔道の手を知らないから、たゞもう無茶苦茶に攻勢に出る。増田は、體を躱しに行つたけれども、もうきかない。敵は、二段の手頸を持つて、くるくると振りまはす。さうして抱き上げては、マットの上へたゝきつける。けれども増田二段は、まるで猫のやうなもので、どう叩きつけられても起き上つて來る。二段は稽古着の前を直しながら、逃げまはる。敵はそれを追ひかけて、引き倒し、馬乗りになつて咽締めをかける。一向きかない。ウエヴアは額の汗を手で拭ひながら、場内の景氣を見る。「はい今日は。」と、云はないばかりの様子である。

二十分の規定時間がだん〳〵、迫つて來るにつれて、ウエヴアは猛然として最後の攻撃を開始した。最後の二分間と云ふ聲

がかかつた時には、増田は、ウエヴアに肘をとられて、逆に兩腿の間へはさまれてゐたが、うまく逃げて時間となる、勝負は引き分けとなつた。

然し勝負が濟んだあとでも、増田二段は、一寸立ち上ることが出來なかつたほど、疲勞してゐた。もう二三分長ければ、きつとウエヴアにやられたに違ひないと誰しも思つた。

次は、サンテル、對、永田三段の立ち合ひである。

私はここで話しの順序として、アド、サンテルを少し、くはしく紹介する。

抑も、アド、サンテルは、世界でのライトヘヴエイウエイと云ふクラスに屬してゐるチヤンピオンで、彼れは米國の西部に於ての人氣者である。體重は、百八十六パウンドと云ふから、日本の約廿四貫目と百八十匁ばかりになる。

私の手元にある米國レスラアのレコードによると、彼れは、十三ケ年間に亙つて、二百六十回の勝負に、唯だ一度後れを取つたのみである。

有力なレスラアで、彼れに負けたのは、露西亞の巨人と云ふ綽名をもつてゐるロマノフ。それから、波斯の虎と云ふ綽名をもつてゐるビルカン。それから、米國のコロラド州からワイオミング州にかけて荒しまはつてゐた獅子とよばれたネルソン。市俄古のチヤンピオン、ステインソン、及び、デヴイス、コオトなどである。

米國にゐた日本の柔道家で、彼れに負けたのは、最初に野口某と云ふ自稱八段。次に伊藤五段。次に坂井四段。次に高橋二段。次に岡山の武徳會の、これも八段、三宅太郎など、いづれも仆されてゐる

彼れの腕力は、日本の力士で云へば栃木山と云ふところであるが、取り口の紳士的なところは伊勢が濱にも比すべきである。

元來、彼れは獨逸人で、今では米國に歸化してゐるが、米國へ來る前から、日本に憧憬れてゐて、常に日本人の氣性を好愛してゐた。彼れは、海岸などで、日本人を見付けると、『お前は柔術を知つてゐるか？』と聞いて、『知つてゐる。』と云ふと、すぐその日本人を相手に柔道の手を研究してゐたものだ。

そこで、いよいよ時間が來て、サテンルと、永田三段は、マツトの上へ現はれた。

握手をして、すぐに仕合にうつる。サンテルの方が、ウイヴアよりは、少し體は小さいが、技は、ウイヴアなぞの遠く追ひ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つくところでない。紫紺の縫取股引をはいた足は、輕くはこんで、柔道の手の、足拂ひを、時々、永田三段の足にかける。濃いブラウンの髮の下には、青黒い目が、ぎらりつ光つてゐる。深く敵の右襟を差して、右の手で術を施さうとしてゐる。

永田三段は、中央大學と銘太に書いた稽古股引を、ゆるく着けて、微笑しながら敵に對した。然しその微笑には何となく衒ひの氣味があつた。

私は日本人だ、直きに笑ひ顔をするのが大嫌ひであるが、殊にこの際、いやだと思つた。少なくとも世界のライト、ヘヴエイウエイトチャンピオンを相手の勝負である。そんな、微笑のために費やす精力があつたらば、もう一層その精力を注意の方へ費やしたらいゝだらうと思つた。

だが兎も角も、永田三段は悠々と敵に當つた。餘程、寢業が得意な人と見えて主に寢業に出た。

然しサンテルは、得たりと永田の頸を攻め立てた。三段はよく防いだ。サンテルは氣を苛つて、永田を壓して揉みつけて、疲れさしてからどうにかしやうとしたらしかつたが、永田は、マットの上に仰向けに寢てゐて起きない。『お前の方から攻めて來なければ、僕はこゝで、一と寢入りやらう。』と云つた態度である。

サンテルもこれにはこまつた。仕方がないからサンテルは、永田の上へ乘りかかつて三段の頭を腿で攻めながら、『はていい手はないか知ら』と、後ろと前を見まはす。昔の三遊亭圓遊がやつたやうに、鼻をつまんで、鼻のあたまから出た汗をマットの上へなすりつける。觀客は笑ふ。サンテルのお尻のところから顔を出してた、永田三段も笑ふ。

そのうちに、どう云ふ隙があつたものか、三段は敵の股をくぐりぬけ、後ろからサンテルの背に乘りかゝつて頸締めにかかつたがきかない。またまた、サンテルが上になつて、永田の左の肘をとる。丁度二十分の時間が來て勝負なし。

然し、三段が、はじめて敵の上に乘りかかつた時には、觀客は、わいわい云つた。その前からも各新聞の寫眞班が來て、例のマグネシユームを焚いて、仕合ひの寫眞を取つて居たが、いつでも日本側が下になつてゐるところばかり取つてゐた。ところが今度はじめて、米國側が下になつてるのに、寫眞班はぼんやりとしてゐる。『莫迦！ なぜこゝを寫さないか？』と怒鳴る野次があつた。

入場券、檢査人が來て、私たちの入場券を集めてまはつた。私たちのゐた席へ、三等の入場券を持つた人がまぎれ込んだりしてゐた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

サンテル、對、永田の二回戰は、三時三十分をきつかけにはじまつた。

永田三段は、はじめから寢てかゝつた。寢ながらまだ笑ひ顏をしてゐる。私はその笑ひを見るのが厭だつた。

この十分の休みのうちにサンテルは、今度はどう云ふ手で行かうかと考へてゐるらしかつた。マットの下に立つてゐたウェヴアとも相談してゐる樣子だつた。

然し、その十分の間に永田三段は、笑ひ顏をして方々を見てゐた。私は西洋にゐて隨分色々な仕合ひを見たが、選手が休憩中に笑ふやうなことは滅多にない。尤も、この時のは、サンテルが永田三段の顏を見て一寸笑つたので、三段は、それに應酬するつもりで矢鱈に笑ひ出した。けれども、私には、なぜサンテルが、一寸笑つたか分つてゐる。私には西洋人の表情がよくわかる。サンテルの笑ひは、考へた末、何かに思ひ當つた笑ひだつた。

永田三段は恰も猫が、じやれるやうに、手足をわやわやさせながら、仰向けに倒れてサンテルを待つてゐる。サンテルは、三段の、顎を目がけて、飛びかかつた。さうして一二應いどみ合つた。

永田の右手がうしろからサンテルの頸にかかつて大きく卷きつくと見ると、サンテルの左り手が、永田の頸に卷きついた。永田の顏はサンテルの左肩の上に乘つてゐた。

あつと思ふ間に、サンテルは腰を浮かして伸びた。

私は見てゐて、冷りとした。あの勢ひで蜻蛉返しを打たせられたら、その上から押へ込まれないまでも、頸動脈なんぞは切れてしまふ。あれはレスリングの方で有名な、ヘッドロックと云ふ手だが、永田三段もあれにかかつては溜るまいと、思つたのは後のことで、そのとつくの前に、永田三段は手を打つてしまつた。

坂井四段が、米國で、サンテルにやられたのも、あの手だつた。

若しサンテルの金剛力で、永田三段の頭にまいたあの腕を、下に引いたらどうなる。三段の頸が『ぽきり。』と、音がしたやうだつた。三段が手を打つたのは無理もない。

私はそれを後から見てゐたのであるが、前から見てゐた人の話しによると、その時、サンテルの、右の手が、前から三段の股にかかつてゐたとも云ふ。さうして上下から押へつけたのださうな。

すると、日本側の審判者山田四段は顏色を變へた。さうして

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

サンテルの前へ來て、『あの今の手は？』と、日本語で云ひ出した。山田先生も餘程面喰つたものと見えて、サンテルに日本語を持ち込んだところは振つてた。

流石のサンテルも之れには小々閉口したらしかつたが、結局米國側の審判者ブラウン氏と、山田四段との間の物言ひとなつた。

柔道の方から云ふと、これは頸の逆となる。ところが凡ての逆手はこの勝負では禁じてある。それは競技規約に書いてあると云ふので、日米審判者、互ひに規約書をポケットから出して見たが、それはなんでも、日本人の書いた英文がサンテルには判らなかつたとか云ふことで、サンテルはこの勝を讓つて勝負を繼續することにした。

だが永田三段は、頸の骨が『ぽきり。』と云つた、その次の瞬間から、もう眞青になつて、今しがた迄の笑ひ顔はどこへやら頗る悲観してゐる。私はその時、同情も表したが、然し、可笑（をかし）くもあつた。三段の頸は、大分内傷を起してゐるらしかつた。

審判者、山田四段は、觀客に向つて左のやうな報告をした。

『サンテル氏は、このまゝ勝を讓つて勝負を繼續しやうと云はるゝが、』野次は、騒ぎ出した。『否々（イーイー）』と云ふのもあるし『諾（イエス）』と云ふのもある。

『然し、逆手を先へ出した方は、勝敗にはかゝはらず負けと云ふことに、初から約束してあつた。』『その通り。』と野次が云ふ。

『故に、本來から云ふと、この勝負は、サンテル氏の負であるが、』『諾（イエス）』『否々（ノーノー）』

『英譯規約書の文面より來つた誤解とすれば、これまた止むを得ない。』『逆手をつかつて誤解とは言ひぐさが太い。』と、野次もなか〳〵しやれたことを云ふ。

『依て、我れ等は日本武士道の精神を以てこれをサンテル氏の爲に宥す。』『然り武士道の精華だ。』と、野次も武士道を高潮する。

『なほまた、永田三段は頸部に内傷を起してゐるから、この上の立ち合ひは出來ない。故にこの勝負は、痛み分けとする。』

『宜しい、審判員御苦勞。』と、野次もそれで滿足した。

サンテル、對、永田三段の仕合は三分と三十五秒だつた。フロツクコートの山田先生はマツトを下つた。

西洋では、凡て競技は、スポーテングである。つまり遊戯である。然るに武士道の國、日本では、武藝の仕合ひは禮儀である。セレモニイである。だから米國側の審判者は背廣服で、山田先生は、フロツクコートと云ふことになる。これが平民主義

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と武士道との相違だ。

ところが、前の仕合の濟んだあとで、サンテルと、ウエヴアが、レスリングの模範仕合をはじめると、日本人は妙な武士道を發揮した。それは、四等席、三等席の見物人が、土煙を立てゝ特等席と、一等席へ雪崩込んだことだつた。一萬からの群衆が、てんやわんやになつて、狂氣の如く押し合ひへし合つてゐる。「莫迦野郎！」「座れ！」「帽子をとれ！」と怒鳴る、わめく。蜜柑の皮を抛る。壽司のたべかけを叩きつける。なる程、武藝を禮儀と心得てるフロックコートの武士道の國は違つたものだと、私は大ひに感心してしまつた。

サンテルとウエヴアは、立ち騷ぐ日本人等の下駄が蹴立てる塵をあびて、秘術を盡して戰つてゐた。私は氣の毒でたまらなかつた。

彼れ等は、大半は、この本式のレスリングを見ずに、歸りかけてゐる。彼れ等は、凡て競技と云ふものは勝ち負けを主意にしてゐるものであると思つてゐる。然らざれば武士道の鼓吹か？　なぜ、彼れ等は、その勝負に行くまでの、力と術と體との美妙な、また壯麗な進行を見て樂しむとが出來ないだらう。要するに彼れ等には、まだ本當のスポーテングの意味は分つてゐないんだ。

あゝ、あゝ、東洋の一等國は、まだ駄目だなあと私は思つた。サンテルと、ウエヴアの勝負は、十五分五十九秒の後、ウエヴアは、サンテルのために、兩肩と頭とを平らに、倒さにマットへ立てられて負けた。レスリングの勝負は、この三つの點が、マットにつけば、負けである。午後四時廿分に至つて閉場した。場内の入り口も出口もたつた一ヶ所だつた。私たちは、出るときにまた押し合つて、死ぬ苦みをした。

その翌朝、私しは、青山南町一丁目にゐる、坂井大輔を訪れた。シヤトルのオレゴンワシントン停車場で別れたぎり逢はないから、その後どうしてゐるかと思つてゐたが、最近になつて住所がわかつたので、急に逢つて見たいと思つたせいである。

坂井四段は門構への家に住んで、天下の國色を細君にしてゐた。

「どうだいサンテルが來たではないか。」と私が云ひ出すと、「やあ、敗軍の將、兵を語らずだ。」と、彼れは答へた。

さうして、そろそろ彼れは語り出した。彼れの云ふところは斯ふだつた。

若し日本の柔道家が、サンテルの持ち出した條件を容れて、本當にレスリングのルールで仕合ひをしたならば、日本の柔道

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家のうちで恐らくは三分間と耐え得るものはないだらう。

たとへば若しサンテルが、柔道の稽古着を着ないで出て來たとしたなれば、日本の柔道家は、どうするか。

今度の勝負なぞも、七分以上は、サンテルの方がこちらの要求を容れて、殆んど柔道のルールで立ち合ひをしてゐるのだ。尤も、彼れは柔道も二段ぐらゐなところはやる。然し日本の柔道家が、彼れに、そんなハンデキアップをつけて置いて、勝つたところで、大したことでもない。

元來、講道館の柔道と云ふものは、體育に重きを置いてゐて敵を仆すと云ふことには重きを置いてゐない。捨身業のうちの裏投げなぞと云ふ手は殆んど禁じてある。

柔道の投げ手と云ふものは、敵を仆す上から云ふとなかなか有効なもので、あれが若し往來の、アスファアルトか、セメントコンクリイトの敷き詰めてあるところで投げたとすると、それでもう敵にはなかなか痛手を負はしてゐる。また投げて置いて蹴りを入れたとしたならば、それはもう直に敵に對しての致命傷である。

だから、さう云ふ手を殘らず使つて、双方が若し眞劍でやるとすれば、少しは見られる勝負が出來るだらうが、兩方の、特長を封じて置いての勝負では致し方がないわけだ。

だが、サンテルは何も世界一のチャンピオンと云ふのではない。まだまだ、米國には恐ろしいのがゐる。プレステイナなぞと云ふレスラーは體量二百二十パウンド。日本の約二十八貫六百目からある。一度、サンフランシスコで、プレステイナが、サンテルと勝負をしたとき、プレスティナは、もしも二十分間以内にサンテルを負かすことが出來なければ、自分の負けであると云ふ條件でやつた。その仕合ひでは、流石のサンテルも問題にはならなかつた。

その外に、まだ、ステツカアがゐる。ストランゲラア、ルイスがゐる。デヴイス、コオトもゐる。みな、二百パウンド以上の眞正のヘヴェイウェイトである。若し、さう云ふ連中が日本へ來たとしたならば、日本の柔道家はどうするつもりだ。

一度、プレステイナアが、シヤトルの柔術道場へ遊びに來たときに、某三段はプレステイナと立ち合つて見てゐる間に締められてしまつた。てんで相手ではなかつた。尤も、宮澤と云ふ初段が、プレステイナの後ろからぶらさがつて、彼れを落したことがあつたが、それは、決して、立ち合ひのつもりでやつてゐるのではなかつた。

兎も角も、日本の柔道家は、もつと腕力と云ふものに重きを置かなければならない。それから體を鍛錬することを一日も怠

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つてはならない。米國ではレスラアでもボキサアでも、凡て、競技上の專門家たちは、なかなか攝生を重んじて、さうして營養と云ふことに就ては科學的に研究してゐる。

たとへば、ランニングをやるにしても、卵を呑めばどの位ゐ息が續くとか、ポテートをたべればどの位ゐとか、牛乳ならばどれだけとか、色々その方の專門の知識をもつてゐる。大仕合の始まる前などには、四ケ月も女を遠ざけてゐて、酒も呑まなければ煙草も喫はない。さうして毎日練習をかかないやうにしてゐる。日本の相撲取りなぞは大酒を食ふのを力士の名譽と心得てゐるが、あんなことではとてもしかたがない。向ふの運動家が、運動と云ふものは身命を提供してかかつてゐるところは實際見上げたものである。

サンテルは、他のレスラアに比して割り合ひに頭腦がいい。それから柔道と云ふものをよく理解してゐる。けれども、あゝ何もかも封じられて、しまひには、頸の逆も封じられては、サンテルは實際手が出せないだらう。尤も、あのヘッドロックに引つかかるやうでは、柔道家の方もさう大したものではないのだ。

今日はサンテルがこゝへ來ると云ふのだがまだ來ない。多分勝負が濟んだあとで來るつもりだらう。

と、かう、彼れは、私に話した。それから私は、彼れとサンテルとが向ふでやつた勝負の實感に就て色々と聞いて見た。

この日の午後、私は、また九段の相撲場へ出掛けて、二日目の立ち合ひを見た。

この日の勝負は、日本側では選手を入れかへて、前日よりは幾分有力な柔道家を出したらしかつた。

昨日の勝負のことに就て書いてある朝刊の新聞を見ると、日本側が少し優勢だなぞと書いてある。私は片腹痛かつた。どうしてもまだ日本人には、國民（ネーシヨン）としての觀念をはなれてから云ふ國際的のゲームなぞを見ることは出來ないのだと思つた。日本人が養成しなければならないものは、武士道の精神ではない。國際（インタナシヨナル）的な精神である。コスモポリタニズムである。何と云つても、新聞までが、まだまだ日本人贔負をしてゐる。

講道館にしたところでさうだ。サンテルは商賣人だから、武士道の精神を重んずる我れ〱は勝負はしない。したものは破門するとか何とか、どつた返したやうだ。

サンテルは商賣人と云ふのは何の意味だらう？興業師と云ふ意味かしら？して見ると、俳優なぞも興業師だから武士道の精神に悖るわけだ。だから川原乞食か？然し今では、日本の俳優も藝術家のうちに這入つてゐる。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

俳優が表情の藝術家ならば、サンテルは力業(ちからわざ)の藝術家である。藝術家では講道館の武士道に低徊するわけか？

日本では、藝を賣り物にはしないとか、或ひは術を見せて金は取らないとか云ふやうな不徹底な言ひぐさで通るか知らないが、米國あたりでは、その人が、その人の持つてゐる藝術によつて生活するのは最も尊いことにしてゐる。彼れ等は他の事は一切なげ捨てゝ藝によつて活き、藝によつて生れんとしてゐる。

日本では昔は、武藝の師範なぞ、殿様から養はれてゐたから藝は賣り物にしないなぞと太平樂をならべてゐられた。然し、米國あたりでは自分の藝を賣るより外に、自分を活かして行く方法はない。日本の武藝者が殿様をなくしてから以來、その武藝が衰退したのはあれは何う云ふわけだ。

なる程、日本國民の思想としては、武士道を擔ぎ出して、サンテルを商賣人と罵しれば、一寸人聞きがいいやうでもある。然し、商國(インタアナシヨナル)と云ふものゝ上に立つた思想から考へると、殆んど問題にならない。

たとへば、日本の力士が外國へ行つたとすると、外國人は、あれは日本の商賣人だからと云つて莫迦にするか？前には今の出羽の海、その頃常陸山が渡米した。後では、大阪の朝日山一行が渡米した。就中、常陸山の行つた折なぞは、時の大統領ルーズベルトが親しく一行を白堊館に招じてゐるではないか。日本の武士道も、もう少し徹底しないと實際寶の持ち腐れになる。

一時になつてから、ウエヴア、對、清水四段の勝負は、はじまつた。

清水は、腕挫ぎで二本取つて、絶對優勝を示した。何しろ、ウエヴアは、昨日の一回戰で懲りてゐる。またあんな其土(やいと)の入り口なぞを見せられてはかなはないと思つてゐるものだから頗る用心してゐる。おまけにウエヴアの頸には、彼れ等レスラアの着つけない柔道着がぶら下つてゐる。まるで頸を締させるために、自分から襟を頸に卷きつけて勝負をしてゐるやうなものである。こんな割の悪い話はない。さうして自分は、柔道の手は、まるつきり知らない。のみならず、自分の方は得意の手はアームシゾルも、ヘツドロツクも、トオホールドも皆んな封ぜられてゐる。それでは手の出しやうがない。お人好しのウエヴアは負けるのを待つてゐるより外に道はなかつた。

流行の日本人も、ウエヴアの間ぬけた態度を氣の毒だと思つたか、大いに一視同仁の大和魂を發揮して、ウエヴアに聲援し

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。『ウエヴアさん一寸どうしたの？』、なぞと、ひやかす野次もあつた。

だが、清水四段も、なか〳〵どうして強かつた。釣り込み腰だの、背負投げだので、敵を綺麗になげた。それに此人は少しもわざとらしい笑顔などを作らぬのも私の氣に入つた。二回目の勝負なぞでは、清水四段が寢て待つと、ウエヴアさん、何となくきまりの惡い顔をした。さうして二度とも腕をとられた。初めの勝負は五分と十秒。後の勝負は、十三分と二秒。

次の三回戰は、サンテル、對、庄司四段の取り組みである。或る新聞には、大きに大和魂を發揮して、庄司四段は、サンテルを手球にしたなぞと、書き立ててゐるが、手球にされたのはどうも庄司四段のやうだつた。

なぜならば、庄司四段は、少しもサンテルの得意の手を見返らない。サンテルの得意の手と云ふのは、寢返りを打つことである。

四段がなげると、サンテルはなげられる。付け込んで來た庄司四段を下から摑むと、すぐ、寢返りを打つて上になる。

それは實際、筆で書くより、もつと早い。投げられたはずみで、くるりと上になる。だから四段はいくらサンテルをなげてもなげても、始終サンテルの下になつてゐなければならない。

これはサンテルに限らず向ふのレスラアは誰れでもやる手だが、つまりサンテルは、これを意識的に、柔道の投げ手に對して用ひてゐるわけだ。これは彼れが、米國で日本人と戰ふ場合にも、この手を始終用ひてゐた。

だが、サンテルも庄司には一寸てこずつた。彼れの上手な巴投げや、内股には、幾分氣勢を挫かれた。それからまた、サンテルが庄司の頸を攻めやうとすると、そこにきつと、一本、手がはさまつてゐる。腿で頸を締めやうとすると、庄司の手は二本ちやんと這入つてゐる『日本人は拜むのが上手だ。』と、サンテルが思つたかどうかそこはわからない。

また第二回目の時には、庄司四段は金剛力を出して、サンテルをさかさに釣るし上げて、マットの上へ、彼れの頭を突からうとした。それは、三宅太郎がシヤトルで彼れにやられたその時の手によく似てゐたが、サンテルも手を庄司の膝にからんで、自分の頭がマットの上につく前に、四段をうしろに倒した。

そのうちに、四段は、敵に右肘の關節をとられて、だいぶ苦戰の態に見えた。

三回目の勝負の時、サンテルが襟深く庄司の左へ指し込んで閉めつけなから押して行つた、その眼光は凄かつた。マットへ

上つてから、近眼鏡をとつたくらゐな、四段の目とは較べものにならなかつた。然し庄司は、その時には決死の色を現はしてゐた。仕合ひの最中、サンテルはそのゴム底の靴で、庄司の膝の關節を逆つて横から蹴つた。四段は一寸仕合ひを中止して、そこのところを揉んでゐたが、痛みを押して、足踏をして、猛然としてサンテルにかかつて行つたところは、勇ましかつた。サンテルは四段の足を抱え込んで倒し、いいトオホールドのチャンスがあるのに、それは禁じられてゐるからとることもならず、こまつてゐたが、とうとう、四段の、今度は左の腕をとつて、強引きにかけた。私の方から見たのでは、サンテルの兩脚が、四段の上に伸びてゐて、四段の首は、彼れの股にはさまれてゐるやうに見えた。

　庄司四段は、自分の手頸を、自分の右の手で握つて懸命にサンテルの強引きを防いだ。四段の手が若し伸びて、一文字にサンテルの胸に當つたら、この勝負は、日本側の負けである。これはレスリングの方で云へばアームロツクだ、サンテルは益々兩脚を踏みのばし、庄司四段は必死になつて防いでゐる。私は見てゐて、はらはらした。庄司四段の手は、どうでもこれは伸びるかなと思つた。

　その内に、廿分は經過して、この勝負は引き分けとなつたが庄司四段は一時は、すぐに立ち上ることも出來なかつた。サンテルも四段の手を取つて引き起した。『よくこの青年は防戰した。』と云はないばかりの表情をしてゐた。『有難い！庄司四段』と感謝の意を表してゐた野次もあつた。

　實際、彼れは、日本柔道の名を辱かしめず防戰したのだ。日本柔道の名譽の爲に奮闘した庄司四段が、喝采裡に送られて溜り場へ引き返さうとすると、溜り場の方から、紺の小學校の制服を着た十一二の少年が出て來て、庄司四段の手にまつはつた。庄司四段は、しばらくは少年の顏を見てゐたが『おゝ』と云つたその聲は、ふるへてゐた。さうしてやがて、その少年の肩を抱いて、並んで溜り場の方へ歩いて行つた。

　多分兄弟であらう。兄さんと、外國のチャンピオンとの晴れの勝負を、どんなにこの弟は、小さい胸を痛めながら見てゐたことであらう。また、あゝした奮闘のあとに、かく可愛い弟に出迎へられた。四段の心はどうだらうと、觀客はこの兄弟の胸中を察して、皆、ほろりとした。

　實際これは、この荒くれた、血戰のあとに起つた一つの哀話である。

　サンテル、對、庄司四段の仕合ひの後、また昨日の如く、ウ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

エヴアとサンテルのレスリングの仕合ひがあつた。丁度、十九分程二人で挑み合つてゐた。

若へて見ると、サンテルは、一時間にわたる血戰ののちに、また十九分戰つて、ウエヴアをひねつてゐる。最も、彼れは、米國に於ての仕合のレコードで見ると、三時間は、平氣でやつてのけてゐた、若し庄司四段との戰ひだ、もう二十分のびたら、どうなるだらう。私は一寸、庄司四段には軍配はあげかねる。

この日の仕合ひに、米國側の審判者となつた渡邊勇次郎を、私はその翌日の午后になつて、彼れが今寄寓してゐる、有樂町の桝引事務所に訪れた。

ここで一寸、彼れを紹介して置くが、彼れは、米國にゐて、十四年間、黑人の拳闘家ルーフス、タアナアに師事してゐた。彼れの左の耳は叩きつぶれて、その鼻の骨は折れて少し左りに曲つてゐる。彼れは、米國に於ては、ウエルタア、ウエイトの拳闘家である。

彼れはこんなことを私に話した。

日本では、まだ、レスリングとボキシングの區別さへ知らないらしい。今度の仕合ひなぞにも、『米國拳闘選手と、日本柔道家の試合』なぞと云ふ、記事を出してる新聞がある。

サンテルのは、レスリングだ、拳闘とは違ふ。拳闘と云ふのは、當身業専門の競技だ。日本の柔道にも當身と云ふものはある。然し柔道家は、その當身の研究はして居ない。だから型だけの事で實戰になつて有效だかどうだか誰れも試みたものもない位なものである。

ことに柔道家の腕力は屈筋の方にあつて、伸筋の方にはない。突くと云ふことになると柔道家の手は伸びない。伸さうと思ふと肩のところが、ぎごちなくなつてしまう。

だがこちらは突き專門だ、何んでも急所々々を目がけて突くのだし、また、それを防ぐことも研究してゐる。歐米の各國どこでもこの拳闘をやらない國はないが、日本だけはまだやらない。古い、發達しない、相撲や柔道を墨守してそれでいいと思つてゐる。だから今度のやうにサンテルでも來ると、對々の勝負は出來ないではないか。先方に有利な手は拵んなとめてしまふ。さうして、とうとう頸の逆まで止めてしまつた。

『今度は、體へ觸れずに勝負をしろと、日本人は云ひ出すぜ。』

と、サンテルは云つてゐた。全く、あゝ何もかにも封じてしまつては仕合ひなんか出來るものではない。

尤も、サンテルも、今度は日本內地での試合ひだから、餘程遠慮してゐるところもある。米國でやつた時には、なかなかあんなものではなかつた。あの時の强引なぞに、サンテルの全力

で、來たら、どうなつたかわからない。

それは、桑港で一番最初にサンテルとやつた野口八段なぞは柔術と云ふ術に於ては、全く日本にもあの位な人がないかも知れないが、何しろ、凡ての競技は地力が本位だからなあ。日本の柔道家なぞは、これから大ひに體力と云ふものに重きを置かなければならない。術ばかりでは永續した勝負になつては續くものではない。

兎も角も、日本では重に學生などが柔道をやつてゐるらしいが、然し、日本柔道をして若し世界的のものたらしめやうとするならばやつぱり、その道專門のチャンピオンを作り出さなければならない。西洋人が、この種の競技を專門に研究してゐる態度は、實に立派なもので、今では百萬圓の富を作つたウイリイ、リツチなぞと云ふ拳闘家は、八九年前までは實に貧乏で、私たちにも、よく金を貸せなぞと云つたものだ。

それから日本の柔道家の段と云ふものは頗る妙なもので、年功とか、品行方正とかで、段が上つてゆく。老年になつて弱くなつたにもかゝはらず段が下がらないのは頗るをかしい。廣瀬中佐なぞは講道館四段だつたが、戰死してから六段になつてゐる。死んでから强くなると云ふのは變ぢやないか。

本當の力量で行くべきはずの競技上の等級が、そんな虚禮に流れるやうなことでは實際駄目だ。實際段では柔道なぞの上手下手がわかるものではない。

私は今度の歸朝をきつかけとして、拳闘道場をひらくつもりだと、彼れは云つてゐた。

二日目の仕合が、すつかり済んだあとで私は、サンテルの溜りへ這入り込んで行つた。間がよくば、彼れと話すつもりであつたが、もう日本人が、そこへもぎつしりつめかけてゐて、サンテルは服を着換へる事も出來ないやうな有様だつた。

彼れと、ウエヴアとは、何か話し合つてゐた。私は何を話してゐるかと耳をすましたが何しろ野次がつめかけて西洋人をもの珍らしさうに見てゐるので近かよれない。

ウエヴアが、『ホワイ、ドンチユー何とかかんとか』云ふと、サンテルが、『アイ、何んとか、かんとかチエントルマンリー』と云つた。それは、『私は。何んとかかんとか紳士的に』云ふ意味である。

何とか、かんとかは、野次馬の騒ぎで私の耳へは這入つて來なかつた部分である。殘念なことをした。そのうちに私は野次どもに押し出されてしまつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼れの今度の取り口が紳士的だつたことはそれは米國にゐて彼れの仕合ひを見たものゝみな背ふところである。

三宅太郎と、彼れとが、シヤトルの、ヒツポドロムでやつた時には、彼れは、太郎の襟を左に掴み、右に太郎の股の間から手を後ろへまはして帶を取り、太郎を倒さに引きあげて、その頭をどんと突いた。太郎は目をまはした。坂井四段が行つて活を入れて、太郎は息を吹き返したが、もう戰鬪力はなかつた。

初め太郎はサンテルにのしかゝられて、頸をしめられたが、太郎が巴投げに行かうとしても、サンテル體を落してゐて、なかなか、かからない。サンテルの手は長いから締めはよくきく三宅の呻く聲を聞いた日本人の見物どもは、『我慢しろ！我慢しろ！』と、怒鳴つた。日本語で怒鳴つた。

あとで聞いたら、あゝ呻かないと、まだ締まらないかと思つてサンテルにもつと締込まれる。あの呻くのはこちらの手だと、三宅は云つてゐた。然し聞いてる日本人の身になるとあんまり肩身はひろくはなかつた。

だが三宅太郎だつて、決して弱い柔道家ではない。今は死んだが、その頃のヘヱヴヱイウヱイト、チヤンピオン、レスラア、ガチチが、經營で、仕合の餘興に、『若し、俺と一時間相手になれるものがあつたら、五百圓やる』と云つた。然し、誰れもそれに應ずるものはなかつた。すると三宅が觀覽席から服を脱して出て來たので、觀客が、『あの日本人は氣狂か？』と思つた。『よせよせ、一分間たたないうちにひねり殺されるぞ』と云ふものもあつた。

ところが、三宅は、マツトの上を、あつちへ逃げ、こつちへ逃げ、一寸ガツチの手がさはると、それを拂つて、こつちへ逃げ、また、あつちへ逃げして、とうとう一時間逃げ通して、五百圓貰つて、『サンキユー』と云つて、また、もとの觀覽席へ歸つて來たと、云ふ糀のしれものである。

講道館の伊藤五段が、三宅に仕合ひを申し込んだと云ふことだが、太郎は、五段を敬遠して、勝負には應じなかつた。

伊藤五段と、サンテルとの最初の仕合ひは桑港の、ドリイムランドでやつた。

最初、五段はサンテルを得意の膝車で大きくあげて、サンテルの後ろから、送り締めに締め込んだ。サンテルの顏の色はだんだん變つて來たが、彼れの右の手が五段の足頸にかゝると、彼れは左手をうしろにまはして、五段の頸にかけ、立つて、何か考へてゐるやうに、一二た振り三振り體をゆすつて、後ろへどうと倒れた。五段は頭をマツトへ打ちつけて氣絶した。桑港の

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

黒澤ドクトルなぞは、ひどく心配して、早速勝負を中止さして五段を自分の病院へ擔ぎ込んだ。

然し、その後、伊藤五段は一年と有餘ケ月猛練習の後、サンテルに對して雪辱戰を申し込んで、南カリホルニヤ、ローサンゼルス市の、シライン、オブ、オーヂトリアムに、て、その大仕合は開かれた。伊藤五段は、その頃、百六十パウンド、約二十貫からの體重をもつてゐた。

私は、この勝負は見なかつたが、何しろ在米の日本人は、その前からよるとさはるとその話しでもちきりで、私たちは、そこから二千哩もはなれたところに居ながら、何だか自分の一身にかかはる事のやうに氣を揉んで、勝負の電報の來るのを待ち焦れた。

實際白状するが、日本へ歸つてこそ、コスモポリタンの何んのと、駄法螺を吹いてゐるが、一歩、足を外國へ踏み出すと、日本人の不名譽はつまり日本の不名譽である。日本の不名譽はすぐ自分の不名譽になつてくる。だから外國にゐる間は、どうしても國民(ネーション)と云ふ觀念を捨てることが出來ない。日本へ歸れば國民(ネーション)と云ふ觀念を持つのがつまらないやうな氣がするが、まことに以て矛盾した話だ。

かう云ふわけで、私たちは、何とも云へない不安な念に驅はれながら、伊藤五段の勝負や如何にと待ち詫びた。友人のなかには、『もうどうせ負けだよ』と云つて、やけ酒を呑んでゐるのもあつた。

電報は來た。それは、夜るの一時過ぎだつた。『伊藤五段勝つた。咽締めで。』と、云ふことで、それだけは分つた。私たちはやつと胸をなぜ卸した。

あとで、二三日たつてから來た、日本字の新聞を讀むと、その咽締も、甚だ危ないものだつた。だがともかくも勝つには勝つたのだ。

然し、伊藤氏と、スミスと云ふレスラアとシヤトルで戰つた時なぞは、スミスは見てゐるうちに落ちてしまつて、スミスの花嫁は觀覽席から、大聲を出して、泣いた程だつた。その時、スミスは二度とも締められて、全敗だつた。

伊藤五段、對、サンテルの最初の仕合ひの時に、五段は、氣絕したまゝ、溜りへ抱き込まれたが、氣がついてからあとで、『私はどうしましたか?』と、脇に立つてた人に聞いたさうだ。サンテルに勝を打たれて負けたと云ふことを知つた時に、『あの私が、サンテルに負けましたか?』と云つたさうだ。

そのくらゐ、サンテルの術は、突然に來たのである。この手なぞは、日本だつたらば、無論物言ひがついて、やつぱり封じ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

られる手であらう。

坂井四段は『敗軍の將兵を語らず。』と云ふのだから、私も、そのつもりで多くは云はない。

坂井、對、サンテルは、最初の廿分は引きわけで、第二回戰へ這入てから、四段の咽締はかなりにサンテルを苦しめた。だがどう云ふものだか、四段は手を放した。その時サンテルが起き上つて、ヘッドロックで、四段を參らした。

四段に云はせると、咽締がきいたと思つたとき、鈴（リン）が鳴つた。それは廿分の鈴だと思つたから手を放したのだが、それは十五分の知らせの鈴だつた。尤もあの時、敵を落して置かなかつたのは、こちらのぬかりだつた。と彼れは云つてゐた。

野口八段と云ふのは、五十ばかりの痩せころげた先生で、サンテルの股にしかれて、後ろから顔を出し『とてもかなはぬ。』と、ぺろりと舌を出したと云ふ。膽の太い先生だ。

日本人が術に自惚れて、力を輕く見るからして、かう云ふ目に合ふ。舌を出したぐらゐで命のあつたのは見つけものだ。

拳闘と柔道と云ふものは、初から仕合ひにならない。柔道は組まなければ勝負の出來ないもので、拳闘は組んでは勝負の出來ないものである。

如何な柔道の名人でも、向ふの、ジアック、デンプシイのやうな第一流のチャンピオンに下顎を一つ下からつき上げられたら、それでもう、花とさらして音樂だ。日本の意味に直せば、お陀佛である。

下顎を下からつき上るのは、アッパラカットと云ひ、まつすぐに突くのが、ストライト。それから左右の横から這入るのがスウイング。どの手でもかまはない。一つ喰つたら、八段も九段もあつたものではない。

突いてくる手を取つてるうちには、他の手で水落ちでも突かれたらそれでぎやふんだ。尤も昔し、或る柔道家は、へちやめちやに突かれたが、とうとう敵にしがみついて、しがみついたと思つたら敵を締めてゐたと云ふ話しがあるが、その敵は多分あんまり強い敵ではなかつたらうと云ふことだ。

先年、常陸山一行が、米國を巡遊したとき米國のレスラアもボキサアも、立ち合ひを申し込んだ。

その時、常陸山は、丁度白堊館に招ぜられてゐたので、そこで、他流同志の下稽古をつけて見て、若し仕合ひの出來る可能

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

性があるならば、改めて仕合をしやうと云ふことになつた。

その時、白亞館に集つたものは、時の大統領をはじめとして日本駐米大使、大使館付武官、米國々務卿、その他朝野の名士、一行の力士連等、凡そ百名に及んだ。

競技場は館内の大廣間に設けられて、その時のワシントン、デー、シー、での、拳闘選手、ヲルタア、アダムスと云ふのが向ふことになつた。

常陸山は、腹を突かせると云ふ約束で立ち合つた。『腹だけならばいくら突いてもいい、ほかはつかれては困る。』と云ふわけだつた。

向ふの拳闘家は手にグローヴを、はめて戰ふ。グローヴは野球のキヤツチヤアがはめるのよりも、もつと大きく丈夫なものである。

常陸山に、立ち合つた、アダムスは、グローヴをはめた右の拳を反して前へ突き出して、體軀をあとへ引くよと見えたが、全體の力を腕へ送り込んで、眞直ぐに常陸山の腹をめがけて突いて來た。

常陸山の便々たる腹の皮はだくりつとたるんでゐた。アダムスの拳がその腹にもぐつたかと思つたとたんに、アダムスは、はねとばされて、彈みを打つてひつくりかへつた。

アダムスの拳が、常陸山の腹の皮にぶつかる拍子に、常陸山の腹はその全身の力で、ぴんと張つたからである。ぶつかるのと、膨らむのと同時だからたまらない。アダムスは痛快にひつくり返つた。

『もう一度來るか？』と常陸山が云つたらば、アダムスは『もうこりこりだ。』と云つたさうだ。

大統領はこれを見てゐて面白がつた。それも外の大統領とは違つて、例のダッディの事である。『よしそれならば俺が行つて突いて見やう。』と、立ち上るところを、時の國務卿ノックス氏が、『一國の大統領ともあるものが、それではあまり輕卒である。』と云つてとめたさうだ。

レスラアと常陸山との立ち合ひは、常陸山が、トオ、即ち足の指を取られて、『あ痛！痛！そんな無茶な手があるものか』と云つて負けたさうだ。

米國人は、日本の力士が丁髷を結つてゐるのを見て、皆、女だと思つたさうだ。日本には恐ろしい女があるなあと思つて、膽をつぶしたさうだ。

それから、常陸山が西洋の寢風呂へ這入ると湯が皆こぼれてしまつて一滴もなくなる。ところがあれは鑄物だから、ちやんと鑄型で大きさがきまつてゐる。いくら注文したところで、一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つや二つは注文に應じない。常陸山もこれには困つてゐると、大統領がこれを聞いて、特別な命令で、ピッツバアクの鐵工場へ注文して、四倍がけの寢風呂を鑄させたさうだ。その寢風呂は、日本力士常用の寢風呂として今でも、ワシントンにあるさうである。

常陸山が外を通ると、向ふの子供たちが面白がつてついて來た。常陸山は、肩から腕へ、子供を一ダアス程、積んで笑つて往來を歩いたさうだ。これには、流石のワシントンの人たちも呆れ返つたさうだ。

今度も、梅ケ谷とかに、サンテルが勝負を申し込んださうだが、梅ケ谷は『もつと下のものを平げてから來い』とか、返事をしたさうなが、私の考へでは、日本力士も、どしどし、仕合ひを引き受けて、やつて見たらよからうと思ふ。



想華

厄年とetc.

吉村冬彦

氣分にも頭腦の働きにも何の變りもないと思はれるに拘らず、運動が出來ず仕事をする事の出來なかつた近頃の私には、朝起きてから夜寢る迄の一日の經過は可也に永く感ぜられた、強ひて空虚を充さうとする自覺的努力の餘勢が却つて空虚その物を引延ばすやうにも思はれた。此に反して振り返つて見た月日の經過は又自分ながら驚く程に早いものに思はれた。蒼漠な廣野の果を見るやうに何一つ著しい目標のないだけに、昨日歩いて來た途と今日との境が付かない。たま〳〵記憶の眼に觸れる小さな出來事の森や小山も、どれといふ見分けの付かない唯一抹の灰色の波線を描いて居るに過ぎない。其の地平線の彼方には活動して居た日の目立つた出來事の峯々が透明な空氣を通して手に取るやうに見えた。

それが爲に、最近の數ケ月は思の外に早く經つてしまつた。衰へた身體を九十度の暑さに持て餘したのはつい數日前の事のやうに思はれるのに、もう血液の不充分な私の手足の末端は、障子や火鉢位で防ぎ切れない寒さに凍えるやうな冬が來た。そして私の失意や希望や意志とは全く無關係に歳末と正月が近づきやがて過ぎ去つた。さうして私は世俗で云ふ厄年の境界線から外へ踏み出した事になつたのである。

日本では昔から四十歳になると、すぐに老人の仲間には入れられない迄も、少くも老人の候補者位には數へられたもののやうである。併し自分はさうは思はなかつた。四十が來ても四十一が來ても別に心持の若々しさを失はないのみな

らず肉體の方でも此れと云つて衰頽の兆候らしいものは認めないつもりで居た。それでも或る若い人達の團體の中では自分等の仲間は中老連など、名けられて居た。

飾り鏡といふものを見る機會のない私は、或朝偶然椽側の日向に誰れかゞはふり出してあつた手鏡を弄んで居る中に、私の額の邊に銀色に光る數本の白髮を發見した。十年程前に或る人から私の頭の頂上に毛の薄くなつた事を注意されて、いまに禿げるだらうと豫言された事があるが、どうしたのか未だ禿頭と名の付く程には進行しない。禿頭は父親から男の子に遺傳する性質だといふ説があるが、それが若し本當だとすると、私の父は七十七歳迄完全に濃はれた顱頂を有つて居たから、私も當分に禿げる見込が少ないかも知れない。併し其代りに何時の間にか白髮が生へて居た。

それから後に氣を付けて見ると同年輩の友人の中の誰れ彼れの額やこめかみにも、三尺以上距れて居てもよく見える程の白髮を發見した。未だ自分等よりはずつと若い人で自分より多くの白髮の所有者もあつた。或時適々逢つた同窓と對話して居た時に、其人の背後の窓から來る強い光線が頭髮に映つて居るのを注意して見ると、漆黑な色の上に浮ぶ紫色の表面色(サーフエースカラー)が或るアニリン染料を思ひ出させたりした。

又或日私の先輩の一人が老眼鏡をかけた見馴れぬ顔に出會した。そして試に其の眼鏡を借りて掛けて見ると、眼界が急に明るくなるやうで何となく爽かな心持がした。しばらくかけて居て外すと、眼の前に蜘蛛の糸でもあるやうな氣がして、思はず眼の上を指先でこすつて考へて見た。それから氣が付いて考へて見ると、近頃少し細い字を見る時には不知不識眼を細くするやうな習慣が生じて居るのであつた。

去年の夏、子供が緣日で松蟲を買つて來た。そして椽側の軒端に吊して置いた。宵の内には鈴を振るやうな音がよく聞えたが、しかしどうかすると其音が丸で反對の方向から聞こえるやうに思はれた。不思議だと思つて懷中時計の音で左右の耳の聽力を試驗して見ると、左の耳が振動數の多い音波に對して著しく鈍感になつて居る事が分つた。のみならず雨戸をしめて後に寢床へはひるとチンチロリンの聲が聞こえなかつた。すぐ横にねて居る子供にはよく聞こえて居るのに。

私の方では年齢の事などは構はないで居ても、年齢の方では私を構はないで置かないのだらう。兎も角も白髮と視力聽力の衰兆と此れだけの實證はどうする事も出來ない。此れだけの通行券（パスポート）を握つて私は初老の關所を通過した。そてしすぐ眼の前にある厄年の坂を越えなければならなかつた。

厄年といふものは何時の世から稱へ出した事か私は知らない。どういふ根據に依つたものかも分らない。多分は多くの同種類の云ひ傳へと同樣に、時と場所との限られた範圍內での經驗的資料と或る形而上的の思想との結合から生れたものに過ぎないだらう。例へば二百十日に颱風を聯想させたやうなものかも知れない。尤も二百十日や八朔の前後に亙る季節に、南洋方面で發育する颱風が一旦北西に向つて後に拋物線形に曲つた線路を取つて日本の陸地を通過する機會の比較的多いのは科學的の事實である。さういふ季節の目標として見れば二百十日も意味のない事はない、併し厄年の方は果してそれだけの意味さへあるものだらうか。

科學的知識の進步した結果として、科學的根據の明でない云ひ傳へは大概他の宗敎的迷信と同格に取扱はれて少くも本當の意味での知識的階級の人からは斥けられてしまつた。勿論今でも未開時代其儘の模範的な迷信が到處に行はれて、それが俗に所謂智識階級の或る一部迄蔓延して居る事は事實であるが、それとは少し趣を異にした事柄で科學的に驗證され得る可能性を具へた命題迄が一からげにして掃き捨てられたといふ恐れはないものだらうか。そのやうにして塵塚に埋れた眞珠はないだらうか。

根據のない事を肯定するのが迷信ならば、否定すべき反證の明でない命題を「否定」するのは少くも輕卒と云はれやう。分らぬ事として筆の先に吊して置くのは愼重ではあらうが忠實とは云はれまい。例へば厄年の如きものが全く無意味な命題であるか、或は意味の付け方によつては多少の意味の付けられる者ではあるまいか。

此のやうな疑問を抱いて私は手近な書物から人間の各年齡に於ける死亡率の曲線を搜し出して見た。凡ての有限な統計的材料に免れ難い偶然的の偏倚（デヴィエーション）の爲に曲線は例のやうに不規則な脈動的な波を描いて居る。併し不幸にして特に四十二歳の前後に跨つた著しい突起を見出す事が出來なかつた。此れだけから見ると少くも其の曲線の示す範圍內では、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

四十二歳に於ける死亡の確率（プロベビリテイ）が特別に多くはないといふ漠然とした結論が得られさうに見える。

併し統計程確なものはないが、又「統計程嘘をつくものはない」といふ事は爭はれないパラドックスである。上の曲線は確に一つの事實を示すが、此れは必しも厄年の無意味を斷定する證據にはならない。

科學者が自然現象の周期を發見しやうとして被與材料を統計的に調査する時に、或る短い期間については著しい周期を得るに拘らず、餘り期間を長く採るとそれが消失するやうな事が往々ある。そのやうな場合に、短期の材料から得た週期が單に偶然的のものである場合もあるが、又さうでない場合がある。或る期間だけ繼續する周期的現象の群が濫發的に錯綜して起る時がさうである。

此れは唯一つの類例に過ぎないが、厄年の場合でも材料の撰み方によつては或は意外な結果に到着する事がないものだらうか。例へば時代や、季節や、人間の階級や、死因や、さういふ標識に従つて類別すれば現はれ得べき曲線上の隆起が、各類によつて位置を異にしたりする爲に、凡てを重ね合すことによつて消失するのではあるまいか。

此のやうな空想に耽つて見たが、結局は統計學者にでも相談する外はなかつた。しかしそんな空想に耳を傾けてくれる學者が手近にあるかないか見當が付かなかつた。

それは兎に角として、最近に私の少數な十に足りない同窓の中で三人迄、僅かの期間に相次いで亡くなつた。いづれも四十二を中心とする厄年の範圍に含まれ得べき有爲な年齡に病の爲に倒れてしまつた。

生死といふ事が單に銅貨を投げて裏が出來るか表が出るかといふやうな簡單な事であれば、三返續けて裏が出るのも、三返つゞいて表が出るのも、少しも不思議な事ではない。もう少し複雜な場合でも、全く偶然な暗合で特殊な事件が續發して、プロベビリテイの方則を知らない世人に奇異の念を起させたり、超自然的な因果を想はせる例はいくらでもある。それで私は三人の同窓の死だけから他のもの丶死の機會を推算するやうな不合理を敢てしやうとは思はない。

そうかと云つて私は又全くさういふ推算の可能性を否定してしまふだけの證據も持ち合せない。

例へば或る家庭で、同じ疫病の爲めに二人の女の兒を引續いて失つたとする。そして死んだ時が二人共に同歳で月

迄も略々同じであり、其上に死んだ時季が同じやうに夏始めの或る月であつたとしたら、どうであらう。此の場合には最早偶然或は超自然的因果の境界から自然科學的の範圍に一歩を踏み込んで居るやうに思はれて來る、

さういふ方面から考へて行くと、同時代に生れて同樣な趣味や目的をもつて、同じ學校生活を果した後に、又同じやう。な雰圍氣の中に働いて來たものが多少生理的にも共通な點を具へて居て、そして或る同じ時期に死病に襲はれるといふ事は、全く偶然の所産としてしまふ程に偶然とも思はれない。

此のやうな種類の機微な吻合が屢々繰り返されて、そして其の事が誇大視された結果として所謂厄年の説が生れたと見るべき理由が無いでもない。

或る柳の下に何時でも泥鰌が居るとは限らないが、或る柳の下に泥鰌の居り易いやうな環境や條件の具備して居る事も亦屢々ある。さういふ意味で所謂厄年といふものが提供する環境や條件を考へて見たらどうだらう。

「思考の節約」（ゲダンケンエコノミイ）といふ事を旗じるしに押し立てゝ進んで來た所謂精密科學は、自然界に於けるあらゆる物や其變化と推移を連續的のものと見做さうとする傾向を生じた。事情の許す限りは物質を空隙のないコンチニウムと見做す事によつて其の運動や變形を數學的に論じる事が出來た。あらゆる現象は出來るだけ簡單な數式や平滑な曲線によつて代表されやうとした。其の同じ傾向は生物に關する科學の方面へも滲透して行つた。そして「自然は簡單を愛す」と云つたやうな昔の形而上的な考が未た漠然とした形で或る種の科學者の頭の奥底の何處かに生き殘つて來た。

併しさういふ方法によつて進歩して來た結果は却つて其方法自身を裏切る事になつた。物質の不連續的構造は最早假説の域を脱して分子や原子其上に電子の實在が動かす事の出來ないやうになつた。その上にエネルギーの推移に迄も或る不連續性を否む事が出來なくなつた。生物の進化でも連續的な變異は否定されて飛躍的な變異を認めなければならないやうになつた。

水の流れや風の吹くのを見てもそれは決して簡單な一樣な流動ではなくて必らずいくらかの律動的な弛張がある、此れと同じやうに生物の發育でも決して簡單な二次や三次の代數曲線などで表はされるやうなものではない。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

例へば昆蟲の生涯を考へても、卵から低級な幼蟲になつてそれがさなぎになり成蟲になるあの著しい變化は、昆蟲の生涯に於ける目立つた律動のやうなものではあるまいか。

人間の生涯には、少くも母體を離れた後に此のやうに顯著な肉體的の變態（メタモルフオシス）があるとは思はれない。しかし或る程度の不連續な生理的變化が或る時期に起る事もよく知れ渡つた事實である。蠶や蛇が外皮を脱ぎ捨てるのに相當する程目立つた外見上の變化はないにしても、もつと内部の器官や系統に行はれて居る變化が矢張り一種の律動的弛張をしないといふ證據はよもやあるまいと思はれる。

其のやうな律動の或る相（フエーズ）が人間肉體の生理的危機であつて、不安定な平衡が些細な機緣の爲めに破れるやいなや、加速的に壞滅の深淵に失墜するといふ機會に富んで居るのではあるまいか。

此のやうな六つかしい問題は私には到底分りさうもない。或は專門の學者にも分らない程六かしい事かも知れない。

それにしても私は今自分の身體に起りつゝある些細な變態の兆候を見て、内部の生理的機能に就いても或る著しい變化を連想しないでは居られない。それと同時に私の心の方面にも或る特別な狀態を認め得るやうな氣がする。それが肉體の變化の直接の影響であるか、或は精神的變化が外界の刺戟に誘發されてそれが或る程度迄肉體に反應して居るのだか分らない。

厄年の厄と見做されて居るのは當人の病氣や死とは限らない。家庭の不祥事や、事業の失敗や、時としては當人には何の責任もない災厄迄も含まれて居るやうである。

街を歩いて居る時に通り合せた荷車の壓搾瓦斯容器が破裂して其爲に負傷すると云つたやうな災厄が四十二才前後に特別に多からうと思はれる理由は容易には考へられない。併しそれ程偶然的でない色々な災難の源を奧へ／＼と搜つて行つた時に、意外な事柄の繼起によつて、それが厄年前後に於ける當人の精神的危機と一種の關係をもつて居る事を發見するやうな場合はないものだらうか。例へば其人が從來續けて來た靜平な生活から轉じて、危險性を帶びた或る工業に關係した當坐に前述のやうな災難に會つたとしたらどうであらう。少くも親戚の老人などの中には此の災難と厄年の關

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

業との間に或る因果關係を思ひ浮べるものも少くないだらう。しかし此れは空風が吹いて桶屋が喜ぶといふのと類似の詭辯に過ぎない。當面の問題には何の役にも立たない。

併し兎も角も厄年前後が多くの人の精神的危機であり易いといふ事は可也に多くの人の認める處ではあるまいか。昔の聖人は四十にして惑はずと云つたさうである。此れが儒教道德に表はれ來つた吾々の祖先の標準となつて居た。現代の人間が四十歳位で得た人生觀や信條を何處迄も十年一日の如く固守して安心して居るのが宜いか惡いか、それ共死ぬ迄も惑ひ悶へて衰頽した軀を荒野に曝すのが偉大であるか愚であるか、それは別問題として、私は「四十にして不惑」といふ言葉の裏に、「四十は惑ひ易い年齡である」といふ隱れた意味を認め度い。

廿歳代の青年期に蜃氣樓のやうな希望の幻影を追ひながら脇目もふらずに藝能の修得に勉め來た人々の群が三十前後に實世界の鬪技場の埒内へ追ひ込まれ、そこで銘々のとるべきコースや位置が割り當てられる。競技の進行するに從つて自然に優勝者と劣敗者の二つの群が出來てくる。

優者の進歩の速度は始めには目ざましいやうに早い。しかし始めには正（ポジチヴ）であつた加速度は段々減少して零になつて次に負（ネガチヴ）になる。さうして丁度四十歳近くで漸近的（アシムプトチツク）に一つの極限に接近すると同時に速度は減退して零に近づく。そこで共儘に自然に任せておけばどうなるだらう。たどり付いた漸近線の水準を保つて行かれるだらうか。此のやうな疑問の岐路に立つて或人は何の躊躇もなく一つの道をとる。そして爪先下りのなだらかな道を下へ〳〵とおりて行く、或る人は何處迄も同じ高さの崖傳ひに安易な心を抱いて同じ麓の景色を眺めながら、思ひがけない懸崖や深淵が路を遮る事の可能性などに心を騷がすやうなこともなしに夜の宿驛へ急いで行く。併し少數の或る人々は此の生涯の峠に立つて蒼空を仰ぐ、そして無限の天頂に輝く太陽を掴まうとして懸崖から逆さまに死の谷に隕落する。此等の不幸な人々の内の極めて小數な或るものだけは、微塵に碎けた殘骸から再生して、始めて得た翼を虚空に羽搏きする。

劣者の道の谷底の漸近線迄の部分は優者の道の倒影に似て居る。そして谷底迄下りた人の多數は共儘に麓の平野を分けて行くだらうし、少數の人は此處から又新しい上り坂に取りつき或は更に失脚して再び攀上る見込のない坑に落ち

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るのもあらうが、其のやうな岐れ路がやはり略々四十餘歳の厄年近邊に在るのではあるまいか。

× × × × × ×

此のやうな他愛もない事を考へながら兎も角も三年に亘る厄年を過して來た。厄年に入る前年に私は家族の一人を失つたが、其後にはそれ程著しい不幸には會はなかつた。尤も四十二の暮から自分で病氣に罹つて今でも未だ全快しない。此の病氣の爲に生じた色々な困難や不愉快な事がないではなかつたが、併しそれは厄年でなくても不斷に私につきまとつて居るものと餘り變らない程度のものであつた。それで兎も角も生命に別條がなくて今日迄は過ぎて來た。

それで結局此れから私はどうしたらいゝのだらう。

× × × × × ×

厄年の峠を越えやうとして私は人並に過去の半生涯を振り返つて見て居る。もう晝過ぎた午後の太陽の光に照された過去を眺めて居る、そして人並に愧ぢたり悔んだり惜んだりして居る。「有つた事は有つたのだ」と幾百萬人の繰返した言葉を更に繰返して居る。

過去といふものは本當にどうする事も出來ないものだらうか。

私の過去は自分だけは知つて居ると思つて居たが、それは噓らしい。現在を知らない私に過去が分る筈はない。原因があつて結果があると思つて居たが、それも誤りらしい。結果が起らなくて何處に原因があるだらう。重力があつて天體が運行し林檎が落ちるとばかり思つて居たが此れは逆さまであつた。英國の田舍で或る一つの林檎が落ちてから後に萬有引力が生れたのであつた。其の引力がつい近頃になつて瑞西の或る猶太人の鉛筆の先で新しく改造された。

過去を定めるものは現在であつて、現在を定めるものが未來ではあるまいか。

それとも又現在で未來を支配する事が出來るものだらうか。

此れは私には分らない、恐らく誰れにも分らないかも知れない。此の分らない問題を解く試みの方法として私は今一つの實驗を行つて見やうとして居る。それには私の過去の道筋で拾ひ集めて來たあらゆる寶石や土塊や草花や昆蟲や、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

假令それが蚯蚓や蝨蟲であらうとも一切のものを現在の鍋に打ち込んで煮詰めて見やうと思つて居る。それには古人が殘してくれた色々な香料や試藥も注いで見やうと思つて居る。其の鍋を火山の火にかけて一晩おいた後に、一番鷄が鳴いたら蓋をとつて見やうと思つて居る。

蓋を取つたら何が出るだらう。恐らく何も變つた物は出ないだらう。始めに入れて置いただけの物が煮爛れ煮固まつて居るに過ぎないだらうとしか思はれない。併し私は其鍋の底に溜つた煎汁を眼を瞑つて呑み干さうと思ふ。さうして自分の內部の機能にどのやうな變化が起るかを試驗して見やうと思つて居る。若し私の眼や手に何等かの變化が起つたら、其の新しい眼と手で私の過去を見直し遣り直して見やう。そして其上に未來の足場を建てゝ見やう。もしそれが出來たら「厄年」といふものゝ意義が新しい光明に照されて私の前に現はれはしまいか。

かう思つて私は過去の旅行カバンの中から手捜りに色々なものを取り出して並べて見て居る。先づ色々の書物が出て來る。大概は汚れたり蟲ばんだりしてもう讀めなくなつて居る。様々な神や佛の偶像も出て來るが一つとして缺け損じて居ないのはない。茶褐色に變つたげんげやばらの花束や半分喰ひ缺いだ林檎もあつた。修學證書や辭令書いやうなものゝ束ねたのを投げ出すと黴臭い塵が小さな渦を卷いて立ち昇つた。

定規いやうなものが一把程あるがそれが皆んな曲りくねつて居る。升や秤の種類もあるが使へさうなのは一つもない。鏡が幾枚かあるがそれ等に映る萬象はみんなゆがみ捻れた形を見せる。物差のやうなもので半分を赤く半分を白く塗り分けたものがある、私は此の簡單な物差で凡てのものを無雜作に可否のいづれかに決するやうに教へられて來たのであつた。骨牌のやうな札の片側には「自」反對の側には「他」と書いてある。私は時と場合とに應じて此の札の裏表を使ひ分ける事を教へられた。

見て居る内に私は此の雜多な品物の殆んど大部分が皆貰ひものや借り物である事に氣が付いた。自分の手で作るか、自分の勞力の正當な報酬として得たものゝ餘りに少いのに驚いた。此れだけの負債を辨濟する事が生涯に出來るかどうか疑はしい。併し幸か不幸か債權者の大部分はもう何處に居るか分らない。一卷の繪卷物が出て來たのを繙いて見て行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

く。始めの方はもうぼろ〳〵に朽ちて居るが、それでも所々に比較的鮮明な部分はある。生れて間もない私が龍門の鯉を染め出した縮緬の初着につゝまれ、未だ若々しい母の腕に抱かれて山王の祠の石段を登つて居る處があるかと思ふと、馬丁に手を引かれて名古屋の大洲觀音の廣庭で玩具を買つて居る場面もある。淋しい田舍の古い家の臺所の板間で、袖無を着て寒竹の子の皮をむいて居るかと思ふと、其次には遠い西國の或る學校の前の菓子屋の二階で、同郷の學友と人生を論じて居る。下谷の或町の金貸の婆さんの二階に間借りしてうら若い妻と七輪で飯を焚いて暮して居る光景のすぐあとには、幼い兒と並んで生々しい土饅頭の前にぬかづく淋しい後姿を見出す。ティアガルテンの冬木立や、オペラの春の夜の人の群や、或は地球の北の果の淋しい港の埠頭や、さうした背景の前に立つ佗し氣な旅客の絢姿に自分の或る日の片影を見出す。此のやうな切れ〳〵の繪と繪をつなぐ詞書きがなかつたら、此れが唯一人の自分の事だとは自分自身にさへ分らないかも知れない。

卷物の中には處々に眞黑な墨で塗りつぶした處がある。併し其處にあるべき筈の繪は、實際繪に描いてあるよりも幾倍も明瞭に墨の下に透いて見える。

不思議な事には卷物の初めの方に朽ち殘つた繪の色彩は眼のさめる程美しく保存されて居るのに、後の方になる程繪の具の色は溷濁して、次第に鈍い灰色を帶びて居る。

繪卷物の最後にある繪は餘程奇妙なものである。そこには一つの大きな硝子の蠅取壜がある。其中に閉込められた多數の蠅を點檢して行くと其中に交つて小さな人間が居る。それが此の私である。壜から逃れ出る穴を上の方にのみ求めて幾度か眼玉ばかりの頭を硝子の璧に打ち當てゝ居るらしい。未だ幸に器底の酢の中に溺れては居ない。自由な空へ出るのには一度壜の底をくゞらなければならないといふ事が蠅にも小さな私にも分らないと見える。尤も壜を逃れたとしたところで、外界には色々な蠅打ちや蠅取蜘蛛が覗つて居る。其れを逃れたとしても必然に襲ふて來る春寒の脅威は避け難いだらう。さうすると壜を出るのも考へものかも知れない。

過去の蔵袋から取り出される品物には殆んど限りがない。此れだけの品數を一度に容れ得る鍋を自分は持つて居るだ

らうか。鍋はあるとした上でも、此れだけのものを沸騰させ煮つめるだけの「燃料」を自分は貯へてあるだらうか。

此の點に考へ及ぶと私は少し心細くなる。

× × × × × ×

厄年の關を過ぎた私は立止つてこんな事を考へて見た。併し結局何にもならなかつた。厄年といふもの丶科學的解釋を得やうと思つたが失敗した。主觀的な意味を求めて見たが、得たものは唯取り止めの付かぬ妄想に過ぎなかつた。

併し、誰か厄年の本當の意味を私に教へてくれる人はないものだらうか。誰か此の影の薄くなつた言葉を活かして「四十の惑」を解いてくれる人はないだらうか。（十、三、五）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Patent
NO. 49606
Registered Trade Mark
Meijo Ball

新案特許
名譽ボール



日本少年野球協會公認指定靴製造
發賣元

營業目錄送呈ス

登録商標
光輝運動靴

新案特許
運動靴
ランニング靴
少年
野球靴



ズック表ゴム底
黒白色

東京市神田今川橋
明治足袋合資會社
東京出張所
電話西神田九二一
振替東京二七四五七

登録商標出願中
大學鞄

新案出願中
學生鞄
肩掛
手提
二種

營業目錄送呈ス



ズック製
黒白色

本社 大阪北寳源寺町
明治足袋合資會社
電話西 二一二二
振替大阪三四八六

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

時論

法學博士　吉野作造

側面から議會を觀て

議會に於ける勝敗の數は初めから決まつて居る。多數黨は理を非に曲げても反對黨の言ひ分に耳傾けない。討論に理議を盡す丈け馬鹿げて居る。實の所今日まで可なり重要な問題が數多く取扱はれたけれども、正面から觀て兎や角評論すべき程の議論に接しない。故には側面から一瞥を與へて議會政治の運用を誤る二三の例を指摘し、讀者と共に議院政治監督の參考に供したいと思ふ。

總理大臣の答辯

人の頭腦は俄かに變るものではない。專制的政治思想の極度に強く支配した近代日本から、眞正の立憲政治家の輩出を望むは無理である。何處の國でも專制政體から立憲の新政に移る際には、何時も新らしい形式を舊い頭腦で運用すると云ふ變態時代を可なり長く經過するを常とする。日本は今や將に此時代に立つて居るのである。

專制時代に於ては、政治家は人民を强制して手足の如く從はしむべきものと教へられて來た。今日の立憲政治に至つて、人格の尊重だ、一般民衆も亦政治家と同格だと口には云ふが、今迄盲從を强ひて來たものに、俄かに此方から頭を下げて協賛を求むると云ふ氣には一寸なれない。西洋のやうに基督教的同胞觀念に多年馴練されて居る所は格別、階級制度で數百年の安眠を貪つて來た日本に於て、政治家が腹の底からデモクラチツクになれないのは怪むに足らない。

それでも立憲政體の採用は世界の大勢だと云ふ。世界の大勢として我々も之を採用しない譯には行かない。斯くして我々は新らしい政治形式を採用した。舊い着物を脱いで新らしい着物を着る丈の努力である。併しながら初めて洋服を着た人がシツクリ身體に合ふ迄には可なり長い時日を要するが如く、新らしい形式を新らしい精神で運用する迄には一通りの骨折りではな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い。殊に政治の事に於ては世代を代へつゝ始めて之を期待し得る。初めの間は舊い頭腦で新らしい形式を運用さして置く。而して此種の人は如何にして民衆と共に計ると云ふ新政體を運用するか。曰く、彼等の採る所の手段は只一つである。相談すべき人に協賛を強制する即ち是れ。

みんなと相談して遣れと云ふから相談をして多數の協賛を得た。立憲政體の形式的要求は斯くして滿たされる。けれども一々協賛を得るのは面倒だから多數の有象無象に之を強制する。即ち專制的精神を捨てない。而して彼等は如何にして協賛を強要するか。一つには腕力によつてである。一つには金力によつてである。總じて之を云へば或種の力によつて民衆及び其代表者を威嚇することである。此誤りには流石の伊藤公も陷つた。晩年大いに其妄を悟つたらしいけれども、憲政創設の當初超然内閣主義を振り翳して頻繁に解散を斷行した事は人の知る所である。それでも彼はまだ腕力と金力との露骨な使用を憚かつた。而して腕力を最も露骨に使用したものは松方侯の一派であり、金力を最も露骨に使用したものは山縣公の一派であると云ふものがある。何れにしても頭腦を專制に固めて居る政治家は、此等先輩の故習に倣つて弊毒を現代に流した事は我々の遺憾とする所である。政友會内閣の如きは此點に於て特に甚しく心ある國民の呪咀の的となつて居る。

斯くして日本の政治家は段々議會に多數を作ることを覺えた。作つた多數で横に車を押し切らうと云ふのである。それでも時勢は段々進んで、民間の批評が鋭くなる。之に後援されて少數黨の反對意見も相當に強く響く。此邊から議會に於ける辯難攻擊が國民の興味を惹くのであるが、此頃では之を面倒だと思うてか、白を黑といひ黑めても、反對黨の批難を物を言はせず突つ放すと云ふ風が流行つて來た。此點に於て今度の議會に於ける原總理大臣の答辯の如きは最も代表的な逸品といつていゝ。

尤も答辯にもならない答辯で亂發・突手を亂發する點よりいへば高橋藏相の方が一枚上だ。併し之は圖々しさと横着さに於て一日の長ありと云ふに止まり、原首相答辯の多少の機略と多少の粉飾とを有するに比べて殆ど比較にもならない。高橋藏相は聽く所によれば他の隱れたる方面に眞似がたい獨得の才能があるとやら、さうでもなければ到底人の風上に置ける代物ではない。原首相の答辯は之に比べては幾分の技巧ありとは云ふものゝ、心要なくして本當の答辯を避くる點に於ては同様だ。例へば斯く〳〵の計畫では來年はどうすると質問するとする。首相の答はキット政治家は未來を語るべからずと逃げるに相違ない。それでは餘りに無謀ではないかと云へば、政府は蘭か思

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はずと嘴いて了ふ。それでは國民に濟むまいと云へば濟まない事はないと答へる。不都合だと呶鳴れば意見の相違だと逃げる。然らば政府の意見はと問ひ詰めると、此處は學校でないから討論はよそうと云つて取り合はない。右を衝けば左に逃げ、左を衝けば右に避ける。要するに所謂暗中模索の姿で正體を分らせずに追ひ返すのが政治家として最も腕の勝れた所と考へて居るらしい。

抑々議會に於ける質問應答は本來事實の眞相を明かにせんが爲のものである。事實の眞相を明かにして初めて議員各自が何れかに其意志を決定することが出來る。此點に於て英吉利の議會などは最も羨望に堪へない。議會の質問應答によつて一切の出來事の眞相が赤裸々に國民の前に展開される。假令こゝまで行き難い事情があるにしても今少し親切に答辯することが出來ないものだらうか。尤も之は首相並びに政府のみがわるいのではない。質問するものも又相當の禮を盡さない場合が多い。そこに多少の齟齬は止むを得ぬことであらうが、それにしても政府の答辯が不當に不親切を極めて居ることは事實だ。殊に原首相の答辯の如きは總理大臣と云ふ國家第一人者の地位を甚しく傷ける底のものであることは我々の甚だ遺憾とする所である。

我々は歴史的に觀て、今日のやうな變態的時代を止むを得ないとする。原首相のやうな舊い頭腦で新らしい政體を運用する鵺的政治家の出現をも止むを得ないとする。けれども之は今日のやうなセチ辛い世の中に詐僞窃盗の存在するも止むを得ないと云ふ意味で是認するので、原首相の態度其のものを寬容せんとする考は毛頭無い。歴史家として今のやうな變態時代には原氏のやうな政治家が必要だと信ずるが、國民の一人として國家を思ふ誠意から原氏があゝした態度を續くることには全然服せざるものである。過度的變態時代たる點に於て今日の我國は一八四〇年時代の佛蘭西によく似て居る。時の首相ギゾーも、作つた多數に協贊を強要する點に於て可なり陰險な手段を弄したが、併し今日、我國の總理大臣ほど亂暴ではなかつた。ギゾーは金と力と並びに彼の巧妙な策略とで、八年の少康を保ち得たが、焉んぞ知らん民衆の離叛は遂に爆發して四十八年の二月革命となつた。日本は固より佛蘭西と全然國情を異にするから彼の例を以て直ちに我を律することは出來ないが、原氏があゝした態度を續ける事の結果、日本の將來を如何の狀態に持つて行くか、此點について少しく反省して貰ひたいものだ。

無用なる言論の拘束

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

文相彈劾問題で上院に於ける研究會は分裂した。自由行動の除外例を要求した數名の士は脫會した。研究會は貧乏華族を集め幹部が平常彼等の日常生活をまで世話すると云ふ所から、多年堅い結束を保ち得て來たと惡評するものもあるが、何れにしても團體の大きい事と、結束の鞏固なることゝを誇つて來たのに、今や數名の有力な硬骨議員の脫會を見たのは、一面に於て議會に於ける政社集團が、統一節制の名の下に如何に議員の言論を拘束して居つたかを示すものである。之と異曲同巧の例を尾崎田川氏の脫會に觀ることが出來る。兩氏脫會の事情は多少違ふけれども、其本當の理由は之れ亦憲政會が、黨の節制の爲め度まで個々の議員の自由行動を許さゞらんとしたからである。に極流石に政友會は此點については一段と巧妙である。地方制度改正案に於ける階級別撤廢の可否について議論二派に分れ、大いに紛擾を極めたが、辛うじて分裂を免れた。併し分裂を免るゝが爲めに政友會が如何に大いなる犧牲を拂つたかゞまた想像に餘りある。何となれば彼は之を廢すべきか存すべきかを理論的に決定するを避け、双方の面目を立て得るやうな案をと云ふ譯で、鵺のやうな變なものを作り上げたからである。自由行動の除外例を認めると云ふ事は斯く主義を犧牲にしてまで避けねばならぬものだらうか。如何なる問題についても政黨は一致の行動を執るべきものとする考の如何に強いかは此一事によつても明かに分る。

此時に方つて三月一日發の倫敦電報は、最も興味ある報道を我々に與へて居る。曰く、下院に於ける追加豫算案の採決に方り、政府黨は十票の差を以て辛うじて敗北を免れた。政府黨側にも反對の投票をしたものがあつたと。事柄の內容はよくは分らない、只政府黨と雖も政府案に反對することがあるといふ點に我々の學ぶべき點が存する。

日本の政治家通有の頭腦から考へたら、英吉利の政黨が如何にも統一がないやうに見えるかも知れない。政府黨でありながら、反對の投票をするなどゝは餘りに無節制だと考へる人があるかも知れない。けれども凡そ世界の政黨の中、訓練あり、節制あり、秩序ある點に於て英國の如く發達したものはない。然るにも拘はらず尚前記のやうな妙な出來事のあるのはどう云ふ譯か。之れ外でもない。議員に自由行動の除外例を認むる場合が可なり多いからである。

英國に於ては尤も人の自由を尊重する。意思の自由と其發表の自由とは人格の基本であるとまで考へて居る。只政黨として一致團結の行動を執るには自ら節制し一幾分自由の拘束に服せない譯には行かない。けれども自由の尊重が大事だから、其拘束

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は必要なる最少なる範圍內に限らなければならない。必要以上に拘束するのはいけないとなつて居る。故に結束的行動を實質的に必要とするにあらざる限り、英國の政界には自由票決の問題とさるゝことが珍らしくない。近年此點で最も著しい例をなすものはアスキス內閣時代に於ける婦人參政權問題であつた。同じ內閣に列しながら首相アスキスと外相グレーが火花を散らした論戰は當年の一大偉觀であつた。而して斯う云ふやうな事は不幸にして我國の政治家に諒解されて居ない。

我國では問題の如何に拘らず黨員各自に少しでも自由を與へない事になつて居る。すべての問題が黨議となつて確定され、其確定議には例外なく贊成すべきものとされて居る。問題の實質は問はない。兎に角一度自由を與へると癖になつて後日の節制を邪魔すると云ふのであらう。一から十まで馬の如く頤使し、自由に行動せしむることが得策でも之を認めない。問題によつて何れの主義を採るがいゝかを決定するのではない。すべて幹部が右に行けと云つたら右に行く習慣をつけて置かなければならないと云ふのであらう。よくいへば軍隊式であり、わるくいへば幹部の體面の爲めに黨員を奴隷視するものと云つてもいゝ。要するに我國では道德上議員の人格を認めない、又議員に道理によつて動くことを要求しない。幹部の指示するがまゝに馬の如く盲從すればいゝのである。

今日の議員の智識道德の程度が馬相當の程度なら致し方もない。けれども彼等を一個の人格として取扱ふ時に、我々は必要に應じて彼等に自由を與へても節制を紊る恐れはない筈だと考へる。何となれば彼等の理性は如何に自由を與へられても必ずや自ら其止る所を知つて居るだらうから。

斯くして議會に於ては器械的劃一の弊甚だ深く根ざして居る。從つて言論にも精彩がない。創造的自由はすべての議員に全然封鎖されて居る。若し其間に一つでも開放されて居るものがありとすればそは昨今紛々擾々の種となつて居る低劣な野性の發揮のみである。

思想問題の取扱方

二月末水戶中學校長問題が貴族院の委員會の問題に上つた。其中で我々の何時もながら注意した點は二つである。一つは質問者が皆初めから菊池校長の講演を怪しからぬ、不都合だと斷定した事であつた。只少しでも多く質問して政府を困らす爲めであつたか、或は眞に不都合なものと信じて居つたのか分らないが、あの問題はどう云ふ事かと質問するものは一人も無くして、皆恐くあゝいふ怪しからぬ問題をどう取扱ふかと尋ねるも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のばかりであつた。もう一つは之に對する政府側の答辯である。政府の答辯も亦講演の實質につき其當不當を說明することは避けて、同じく不都合なものと云ふ豫斷を斥けない。して見るとあの種類の問題については、政府も議員も事の實質につき內容的に之を批判することは避けて、世間の噂を其まゝ據り所として居る。兎角あゝいふ問題は、不都合だ、危險思想だと批難的態度に出づるのが一番無難であるからでもあらう。

併し政府は不都合でないとは爭はないが、さればとて又全然不都合だと斷定もしない。之れ亦政府の常套手段だ。何故なれば不都合だと決めて了へば、之に伴つて又いろ／＼の面倒を惹き起すからである。政府としては要するに此上面倒な問題が起らなければいゝのである。故に斯う云ふ場合に於ける政府の答辯は何時でも決つて居る。曰く、政府は決して之を不問に附してはゐない。一生懸命調査中だがまだ報告が來ない、と何時まで經つても此態度を續けて結局問題其物の眞相を不明の儘に濟まさうとする。其中に段々世間に其眞相が傳つても、政府としては飽くまで調査中を楯に取つて事勿れ主義を固執する。其方が一番安全な取扱方であるからであらう。

要するに斯う云ふ態度で貫かれてるのだから、此種の問題は議會でも取扱つたと云ふ事によつて、多少の昏迷を世間に與へたに止まり、眞相も分らなければ、之に對する政府の態度も分らない。斯くの如きは獨り思想問題ばかりではない。外交問題についても同じやうな事が頗る多い。我々は此種の問題ももつと自由に議會に於て論議せられんことを希望する。

實業家の打算的軍備制限運動

武藤山治氏を委員長とする大日本實業聯合會委員會が、大阪に於て軍備制限運動を開始したことは、或意味に於て我國將來の國防史の上に重要なる意味を有するものとなるかも知れない。

彼等の直接に目的とする所は、貴族院を動かして今次議會に提出せられた豫算案を修正し、軍事費に大削減を加へんとするにある。而して其理由とする所は、一つには豫算面に於ける歳入見積りの過大なることであり、又一つには軍事費支出の尨大に過ぐることである。軍備偏重の斯くの如き豫算を此儘に認めては之を負擔する國民が堪らない。國力の疲弊衰退を救はんが爲めには是非とも所謂軍備制限を叫ばなければならないと云ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のである。

以上の理由の正否が何れにあれ、又其方法につき適否の論ありとするも、兎に角實業界に於て有力な地位を占むる此等の人々が、率先して軍備制限の聲を擧ぐるに至つたのは大いに注目すべき現象である。殊に從來我國の實業家が動もすれば官憲の庇保により、其結果軍備擴張論の後援者であつたと云ふ從來の情勢と比較すると、玆に我々は何か知ら實業家連の間に思想なり打算なりの變化が暗々の間に起つて居るのではないかを思ひ運らさゞるを得ない。

武藤氏一派が掲ぐる所の理由は、至つて簡單だ。併しながら我々は之によつて彼等が單に此理由のみによつて初めて此運動を起したと考へてはいけない。凡そ人は或る內部の要求に動かされていろ〳〵の運動を起すが、併し多くの場合に於て、其動因の何たるかを明白に意識しない。假分意識しても其全部を數へ擧げない事があり、又其最も主要なるものを不思議に逸し去ることも少くない。甚しきに至つては知つて居つても故らに僞めにする所あつて他の理由を擧ぐることとすらある。何れにしても本人が斯く〳〵の理由によつてと言つたからとて、其人が眞に其れ丈けの理由で動いたものと觀るのは歷史家乃至社會評論家の最も戒むべき所である。斯う云ふ立場から予輩は武藤氏の擧ぐる所一々尤もとは思ふけれども、彼等をして彼が如き運動を開始せざるを得ざらしめた所以については、彼等の自ら云ふ所の外に、もつと深い何物かが存するのではないかと考へる。

顧つて思ふに、從來我國の實業家は、何れかと云へば、戰爭を謳歌した。少くとも戰爭を熱心に後援した事は爭ひ難い。之れ一つには彼等が專ら官憲の保護によつて居つた爲めでもあらうが、又一つには戰爭の結果が常に彼等の事業の發展と利益の膨脹を來たして居つたからであらう。戰爭の起らんとするや政治家は軍費の調達を彼等に謀る。彼等は爲めに經濟界の蒙る至大の壓迫を擧げて誠に困ると愬へる。けれども結局彼等は軍事行動を援けた。戰捷と共に彼等は洩れなく巨大な利益を得た。斯くして彼等の間には戰爭と云ふものはわるい商賣ではないと云ふ信念が深く植ゑ附けられた。

けれども戰爭は無條件に何時でも實業家に利益を齎らすものと限らない。否、事の性質から云へば戰爭と經濟とは寧ろ利害相容れざる筈のものである。されば西洋でも、經濟を主たる着眼點とする人は多くの場合に於て非戰論に傾く傾向があるとさへいはれて居る。然るに獨り日本に於て戰爭の經濟家を悅ばし

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

めた所以は何か。之れ日本の從來の戰爭は相手が支那であり或は露西亞であり、從つて戰捷は直ちに獨占的勢力範圍の設定に便利あつたからであらう。即ち斯う云ふ特別の事情が日本在來の戰爭をして經濟的利益の擴張を伴はしめた所以である。斯う云ふ特別の事情がなければ經濟家の戰爭觀が、從來のやうなものであり得ない事は云ふまでもない。

然るに戰爭と云ふ事を念頭に置いて我國將來の國際的關係を考へるならどうなるか。從來の對手は支那であつた。又は露西亞であつた。而して此兩者は今日の所最早や我國にとつて何等怖るべきものではない。若し今後我々が戰陣の間に見えねばならぬものがありとすれば、夫は或は亞米利加であり、或は英吉利でなければならない。我々は固より近き將來に於ける對英米の戰爭を豫想するものではないけれども、強いて考れば此兩國を假想敵とでもする外に考へ樣はないではないが。さて若し假りに英米　對手であるとすると、我國の經濟はどうなるか。戰爭に勝てねば其結果の怖るべきは素より云ふを俟たないが、負けないとした所我國今日の經濟界は英米との開戰にさへ堪え得るかどうか。經濟的に徹頭徹尾英米に隷屬してゐる我國の立場としては戰爭と云ふ事を考ふるさへ戰慄に値する重大事である。元氣のいゝ壯士的空論としては斯んな事に拙してはいけないなど丶云つても見るが、實業家などの立場としては、此點について最も鋭敏に或は起り得べき結果を思ひ運らさずには居れぬだらう。利害の打算に鋭敏な丈け斯う云ふ點について最も早く彼等が眼を開くと云ふ事は怪むに足らない。

斯くして從來動もすれば戰爭を喜んだ我國の實業家は、之からの新たなる時勢を前にして一轉して非常に戰爭を呪ふ態度を執るやうになつた。利害の打算と云へば品が惡く聞えるけれども、要するに今后我々は戰爭と云ふものに對して如何なる態度を執るべきかは、いろ／＼の方面から論ぜられねばならないので、實業家がまた其專門　打算的立場から、我々と同じ結論を取るに到ると云ふ事は決して尤むべきことではない。

實業家は今日の所恐らく未だ此邊の事情を十分に理解し意識してゐないかも知れない。從つて軍備制限論を唱ふるについても、彼れか此れかと考へていゝ加減な理屈を數へ立てるかも知れない。けれども彼等は今日兎に角動かす可からざる力に支配されて軍備擴張論者と反對の方向に趨らざるを得ざるやうになつて居る。彼等は今や軍閥者流と從來の永い提携を絶つて新たなる境涯に入らんとしつゝある。一葉落ちて天下の秋を知るべくんば我々は此一事に於て時勢の變を十二分に看取することが出來ると思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

支那留學生問題

貰つたものを大事にせぬ癖に、呉れないと怒ると云ふのが人情だ。支那の留學生を從來可なり冷遇して居つたのに、此頃だん／＼減少するやうになつたと云ふので、世間では大騷ぎして居る。殊に毎年一定數の官費生を、一高、高師、高工、千葉醫專に收容するの文部省對支那政府の特約を本年を限り罷めようと云ふ風說が傳つてから更に一層問題は矢釜しくなつた。支那留學生優遇に關する一建議案も議會に於て近く問題にならんとして居ると云ふ事である。六菖十菊の嫌ひあれども若し此等の俄か造りの努力によつて少しでも優遇の實が擧るならば、一つには留學生の利益の爲め、又一つには我國民の對支思想の開發の爲め悅ぶべき事柄と云つていゝ。

支那留學生の減少を憂ふる我國論者の中、日本を去つた學生が轉じて歐米に遊ぶのを馬鹿に氣に病むも、あるが之は取らない。日本を去つて歐米に遊ぶは、概して之を之へば支那學生界の悅ぶべき一現象である。中には日本が癪にさわるからとて面當てに米國邊に行くものも絕無ではなからうが、併し單に之れ丈けの理由で高い金を使ひ、多くの不便を忍んで遠方へ出かけるものはさう澤山はあるものでない。して見れば歐米に遊ぶのは皆相當の理由あり又相當の決心と相當の準備とがあつて行くのだから、支那人自身の開發の上に誠に結構な事ではないか。我々日本人だつて歐米に勉强に行く。支那人も我々の眞似をすると言つて何も嫉妬を燒く必要はない。若し此現象について我々に問題とすべき點ありとすれば、歐米諸國が支那の學生を歡迎するにいろ／＼努力して居るのに、日本のみ少しも此方面に意を注がない、甚しきは冷遇の結果彼等の滯在を不愉快ならしむる點があると云ふ方面であらう。

我々は支那の青年が續々外遊するのを悅ぶ。歐米に遊ばんと欲するものに向つてはそれも大いにいゝ。遠慮なく行き給へと勸める。それと同時に我々は又強いて彼等を歡迎するの設備を大いに整頓する事に骨折りたいと思ふ。何となれば支那は今日尙大いに日本の教育機關を利用するの必要がある。歐米に行くものは其行くに任かしても尙大多數の青年は日本に依らざるを得ざる實際の必要があるからである。

支那が今日尙大いに日本の教育機關を利用せざるべからざる理由は、主として次の三點にあると思ふ。

第一は支那自身に於ける教育事業の贖殘である。最近數年い、

中央政府も地方政府も、一切の力を擧げて兵員の維持並に増加に費したので、さらでだに財政が極度の困難を極めて居る。教育事業の如きは最つ先に廢止されたのである。高等の諸學校は云ふ迄もなく、目前の急には代へ難いとて普通教育すら捨てゝ省みない。日露戰爭後一時支那は大いに教育の振興を計つたけれども、あの際に作られたいろ〳〵の新らしい學校は、今日跡形もなくなつた。斯くして學校は無い、然れども時勢の要求は人才の輩出を促して止まない。玆に於てどうしても外國にたよらざるを得ない譯になる。然らば何處へ行くかと云ふに、一番便宜な所が我が日本である事は云ふを俟たない。

第二に日本は留學に便宜である。物價も安い。尤も此頃は段々高くなつて西洋と大差はない。否、爲替相場の關係から歐羅巴方面は却つて安いと云ふものもある。が、併し大體から云へば日本よりも少い金で大丈夫だと云ふ譯ではなく、又莫大の旅費もかゝる。資力の豐富でないものは矢張り西洋には行けない。のみならず日本は近い。イザと云ふ時には何時でも歸れる。餘り僻遠の出身でない限りは夏冬の休みにも歸れる。さう云ふ所から餘り遠方に行きたくない。又遣り度くないと云ふ連中でも日本に留學する事なら大した面倒とも思はないのである。

第三に同文であると云ふ事がまた非常な便利である。日本に來るのでも正式に勉強すると云ふ段になれば、言葉は習はねばならぬ。日本語の熟達は外國語の練習と同じ程度の苦しみではあるが、併し單に讀む丈けの事なら日本語の方はわけもない。假名を覺えれば大抵の本は讀める。斯う云ふ點から日本で勉強すると云ふ事は少くとも早急の間にに合ふ。又歸つて何か取調べをするにしても、日本に學んだものなら日本の材料を直ぐ用立てることも出來る。報告を書くにしても、日本にある材料を基とし、假名を取つて字を置き代へれば、早速の間には合ふ。斯う云ふ點から日本で學問をすると云ふ事は將來の爲めにも非常な便利である道理である。

斯う云ふ理由で若し他のすべての條件が同一なら、支那の外國留學生の大部分は皆喜んで日本に來る筈だ。優秀なる才能を有し、好運な境遇に在る少數のものは姑く別として、現代の支那が要求する多數の靑年は、放任して置いても日本に來るに極つて居る。假令歐米諸國が留學生招致の爲めいろ〳〵便宜を圖るとしても此點に於て日本を凌駕し得る筈はない。然るにも拘らず事實日本の留學生は適當以上に減少しつゝあるはどう云ふ譯か。之れ畢竟日本政府が對支政策を誤つて、支那の靑年を排日運動に激成せしめた爲めではないか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

若し日本が多數の支那留學生を招致せんとならば、政治方面に伏在する根本的原因を取除かなければならない。之れ以外の他のすべての案は畢竟するに末流をいぢくるものに過ぎない。併し之は一朝一夕の問題でないから其解決を姑く他日に讓るとして、差當つては支那留學生の教育の爲めに我々はも少し便宜を與ふる方法を講ずることが必要であらう。此點については官民一致の協力を必要とするは云ふ迄もない。

之について民間には團匪事件賠償金還附を唱ふるものがある。卽ち亞米利加の故智に倣つて支那の靑年に恩を賣れと云ふのであるが、之は頗る適當な方策である。只今日の政府が果して此金を斯う云ふ目的に支出し得るや否やが實際家の間に一つの問題となつて居る。使ひ樣によつては、又何にもならない事もあるが、要するに此金を基本として留學生の便宜を圖ると云ふ事は主義として誠に結構な事に相違ない。次に文部省と支那政府との支那留學生收容協約を繼續すべしと云ふ論もあるが、之は必ずしも我々より強ふべき事ではないと思ふ。向ふより要求があつたら大いに便宜を圖つてやるべきだが、之を全然先方の自發的行動に任かしていゝ。

民間の議論の中で最も有力なのは、門戸開放の要求である。官私立を通じ、日本の學校はもつと廣く支那人に門戸を開放すべしと云ふのである。之も遣り方如何によつては甚だいゝ。只支那人なるが故を以て過分の便宜を留學生に與ふると云ふ事を意味するものたら之は支那留學生自身の爲めでもなければ、又學校の教育的目的にも背くものである。予輩は支那人なるが故を以て日本人と一所に勉强せんとするものに對し、特別過分の便宜を與ふる必要はないと思ふ。日本人と同じやうにやらうと云ふなら全然同じ步調を取らせ、其間に何等の情實を認めない。此點に於ては飽くまで嚴重であつていゝ。又斯くする事が其支那人自身の爲めにもたるのだ。けれども前に述べた通り、日本は國が近い丈けに支那から速成の目的を以て來る人も多からう。殊に年も老つたから餘り長く外國に居れないとか、又今から六つかしい外國語を稽古する暇もないとか云ふ類ひの人で、而かも本國に何等の便宜が無い爲めに日本にでも行かうと云ふやうな人も多からう。斯う云ふ人は靑年と一所にコツ／＼やる必要もなければ又學校から矢釜しい試驗などで難癖する必要もない。斯う云ふ人々には只聽講の便宜を與へてやればいゝ。斯う云ふ所から所謂聽講生の制度を大いに擴張する必要はないかと考へて居る。文部省が指導者となり各高等諸學校當局者を集めて此點を計られたら至極結構だらうと考へて居る。卽ち我輩の意見としては廣く門戸を開放して我國教育機關を利用するの機會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を彼等に與ふるはいゝが、速成の目的を有するものには聽講生の制度を設け、其他の學生は全然日本學生と同樣に取扱ふべく、其中間の制度を採つてはいけまいと考へる。聽講制度のやうな樂な方法で日本の學生と同樣の特權に與らんとするやうな要求は日本の教育界の名譽の爲めにも、又支那留學生の修養の爲めにも斷じて排斥しなければならない。

終りに予輩は民間の有志に向つて此處に二つの事業を勸告したい。一つは寄宿舍を作ることである。日本の學校も寄宿舍には困つて居る。況んや外國の留學生に於てをや、中にも最も困つて居るのは婦人留學生だ。此方面に民間有志の大いなる活動を望まざるを得ない。但し遣り方の如何によつては全然勞して功無き結果に至ることもあるは豫め警告して置く必要がある。もう一つは獎學基金の設定である。昨今記念事業の一部として大學などに獎學基金を寄附するものが多いが、未だ曾て支那留學生の爲めに此美擧あるを聞かない。歐米諸國には外國人の爲めにする此種の基金が少からずある。日本人でも米國などで此金を利用して勉強した人は甚だ多い。いろ／＼な點に於て最も關係の深い支那の爲めに有つて然るべき此種の美擧が未だ曾つて無かつたのは我國富豪の怠慢と云はなければならない。聽く所によれば昨今我國二三富豪の中に此點を計畫して居るものがあるさうだ。果して然らば之れ實に眞、日支親善の一助となるのみならず、最も品のいゝ方面に於て日本人の對外的高義を示すものとして甚だ賞讃に値する事柄だと考へる。

小題小言五則

世界の學校兒童の聯合

マリア・ヴオルテアース女史の熱心に計畫しつゝある世界の學校兒童の聯合は、豫期通り出來るや否やは別問題として、日本の兒童に國際的精神を植ゑつけ、やがて世界の平和に貢獻すると云ふ働きをなす上に、見逃すべからざる大事業である。隱れたる人の根強い運動程一時は目立たなくとも眞に深い感化力を有するものはない。女史の計畫によれば日本中の學校兒童に毎月五錢づゝを出せる。之に對して印刷された繪畫を一枚呉れる。本の形に之を保存させる。やがてそれを各國の兒童と交換し合ふと云ふのである。豫期の如く行けば一ケ年の收金全額が五百廿五萬圓で繪畫印刷代百八十萬圓を差引いて三百四十五萬圓殘る。之を積立てゝ置いて不幸な運命に居る兒童の救濟に使はうといふ　である。斯くして一つには所謂救濟事業を撥け、又一つには兒童の時から四海同胞の精神を養はうと云ふのである。斯くの如き方法が適當か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

どうか、又一人の力で出來るものかどうか、無論大いなる疑問であるが、只止むに止まれずして立つた一人の誠意は決して何等の印象を殘さずして濟むものではない。澁澤子爵などを中心として計畫さるゝ、いろ／＼の慈善事業のやうに莫大の資金を集め、それ／＼の專門家を網羅して事を初めるのも一つの方法だが、止むに止まれぬ熱情の士が無一文で而かも無計畫で初めた所から偉大な結果を産むと云ふ事もある。よしんば其人の事業は遣り方がわるい爲めに失敗に歸したとしても、後から其精神を受け繼いで更によりよき方法を以て出て來るものがないとも限らない。此意味に於て我々は方法の適否如何を問はず、兎に角女史の事業を後援すべき義務を感ずる。殊に女史の斯くの如き計畫をなすに至つた直接の動機は、兒童の救濟である。或は戰爭の爲めに、或は天災の爲めに、何の罪とがもなくて哀れなる運命にある兒童を救濟すると云ふ事が本來の動機であり、又差當りの目的でもあるやうだ。聽く所によれば、女史は兒童の友として全生涯を挙げて盡して來た。兒童の爲めに心身を獻ぐると云ふのが女史の生命である。先年東北の饑饉の際にも巨額の寄附金を集めて、災害地の兒童の救恤に盡力した。昨年は支那の饑饉地の兒童の爲めに又大いに盡力したが、目下は戰亂の爲めに衣食にすら窮して居る中歐諸國の兒童の爲めに盡さんとして居る。而してそれを一時的の仕事でなく、將來又起ることあるべき諸國の兒童の不慮の災害を救ひ合ふと云ふ繼續的の仕事とする爲に今度の聯合を作つたものらしい。女史自身が兒童の友として災害に苦んで居るものを見殺しにすることが出來ないと云ふばかりでなく、世界中の兒童のすべてをして常に天使のやうな平和な氣持を持たしたいと云ふのが、即ち其熱情の迸る所である。事業の性質は獨り日本の兒童のためのみのものではないけれども、殊に此仕事が日本に於て企てられたと云ふ點に於て、最も多く此仕事の道德的感化を受くるものは日本の兒童である。「或一人の兒童に五錢を人から得ると云ふ事の代りに、人の爲めに五錢を出すと云ふ事を敎へた時に此兒童の心に僅かな此五錢は如何に多くの美くしい優しい人道的な犧牲的な感情を育む材料となることでせう」と云ふのが女史の標語である。我々は我々の兒童の心の開發の爲めにも女史の仕事を援てやりたい。

●國際平和協會の創立　國際平和協會は三月二十一日帝國ホテルに於いて創立大會を開いた、朝野の名士百數十名來會し、宣言綱領並びに事業要目を發表した。我々は同會が國際聯盟協會や、他の平和協會等と提携して、國際平和の促進の爲めに大いに盡力せられんことを希望する。事業要目として揭

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぐる所を見るに、最初主として力を注ぐ所は政治家、學者、宗教家、實業家、新聞記者等社會の有識者を海外に派遣し、言論講演によつて日本を紹介すること、及び電報文書等の方法を以て同樣の目的を達することとである。其外海外の輿論の趨勢を日本國民に知らすとか、其他目的遂行上必要なる一切の施設をなすと云ふ事も揭げられてあるが、併し主としては日本の紹介に骨折ると云ふ事は發起人の演說によつても明白だ。之も無論必要であらう。日本は世界に於て道德的に孤立して居る今日の悲むべき場合に於て、日本のよりよき一面を紹介すると云ふ事は、日本に對する誤解を解くに確かに良好な方法である。併しながら眞の國際平和は平和と云ふ事に對する眞實の紹介から初まらなければならない。不幸にして我國には有力なる階級の間に反平和思想が相當に根強く蟠つて居る。之と勇敢なる戰を戰つて日本國民の思想其物を平和的に征服するの確信と勇氣となくしては未だ國際平和を眞實に語ることは出來ない。海外に於ける事情に通ずるも必要である。殊に外國に於けるいろ／＼の施設の眞の平和的意義を理解することは最も必要である。が併し差當り我々が眞に世界の平和に貢献せんとならば、平和思想をして先づ日本に於て勝利を得しめたければならない。故に平和運動は或意味に於て國內に於ける思想的戰爭から初まらたければならないのに、此點を閑却して只徒らに日本が本來侵略的の國民ではないなどと云ふ辯解のみに苦心するならば、それは[illegible]の廣告と一般、俗人を瞞着して識者の顰蹙を買ひ、而して眞に病根を癒するの働をなさない。平和協會に此遺憾ありと斷言するのではないが、之に關係ある二三有力な人の言論が何となく斯う云ふ傾向があるやうに見ゆるので、敢て苦言を呈する次第である。併し斯う云ふ會の段々設立せられて、熱心に運動さるゝことは悅ぶべき現象と云つていゝ。

●議會の世界と民衆の世界　多年勞働運動に盡力して居つた某君が、先頃來訪していはるゝには、此頃勞働者の前で普選運動などを唱へると馬鹿にされます、議會に愛想を盡かした爲めでもありませうが、所謂議會主義を否認した上の議論でないとテンデ聽いて呉れませんと。之と相前後して予輩は政友會の有力な某氏が次のやうな事を述べたのを聞いた。去年は普選即行の民衆的運動が頗る猛烈であつたが今年は火の消えたやうに誰も騷がない。厭きたのか悟つたのか。要するに昨今の民衆の思想は普選即行を必要と認めざる點に於て我黨と態度を同じうして居ると。此兩君の話によつて予輩に、議會の世界と民衆の世界と如何に隔つて居るかを知ることが出來る。勞働者は議會主義を否認して直接行動に據らんとするの勢を示し、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

所謂隱健なる非革命論者は昨今勞働運動から振り落されんとして居るのに、政治家は此勞働者の舊い立場を捨てゝ十歩先きへ進んだのを、十歩後へ退いて自分達と同じ思想になつたものだと考へて居る。お目出度いのも程があると云はなければならない。尤も議會には、政友會ほど保守的でないものもある。けれども獨立の生計と云ふ條件を置くか置かないか、又例へば地方制度の改正に於ては階級別を撤廢するかどうかと云ふやうな閑問題に青筋を立てゝ爭つて居る。而して民衆の世は之より數十歩先へ進んで居るのだから、彼と此とは殆んど數世代の隔たりがあると云つていゝ。玆に思想的に一つの大いなる禍が伏在する。如何にして此間に調和を發見して圓滿なる國運の發展を策すべきであるか。

●**憐むべき日本の學生**　規則が變つて高等の諸學校は、四月を以て學年を始むることゝなり、今が恰度青年の試驗期だ。高等學校の入學志願者は例によつて夥しく採用定員を超過し、少くも三人に一人、多きは十數人に一人の割合だと云ふ。併しすべての入學希望者を滿足せしめ得ず、一々試驗をすると云ふ現象は高等諸學校に限らず、中學でも、甚しきは小學校でも同じやうな現象があると云ふ事だ。而して此試驗と云ふ事がかよわい兒童の心を如何に惱まして居るか、從つてまた第二の國民たるべき青年の元氣を如何に沮喪頽廢せしめて居るかは云ふ迄もない事で、今や天下の輿論は悉く此間に根本的研究を加ふる必要を認めて居る。一體國家が特殊の必要を認めて特別の設備をするものについては其必要に應じて一定員數を選拔すると云ふ事は止むを得ない。けれども敎育は苟くも人として一般に必要とするものであるから、之を受け得るものと受け得ざるものとを選拔によつて決定すべきものではない。敎育はすべての人に之を與へなければならない。中には之を面倒がるものもあらう。かゝる人に對しては其本人の意志に反して強制しても構はない。之れ義務敎育の制ある所以である。強制はしないまでも少くとも奬勵すべきものであると云ふ事は敎育の本質から來る當然の要求である。然るに何事ぞ我國の敎育制度は、進んで入りたいと云ふものに事實門戸を閉鎖して、それの十の一をも滿足せしめないとは。こんな不都合な制度を有つて居る國は世界中何處を搜してもない。此點に於て日本は國民の生命に第一の必要な設備を缺いて居ると言はなければならない。然らば何の爲めに斯くの如き不都合な現象を生じたか。其原因を數へ立てたならいろ／＼の項目を並べることが出來るが結局の所金が無いと云ふ事に歸する。否金がないのではない、國費の大部分が敎育以外の事に使はるゝが爲めに金がないと云ふ事にな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るのだ。是に於て我々は教育界の爲めに、又其不完全な所から苦しめられて居る日本の多くの青年の爲めに、過度に膨張せしめられて居る軍備を呪はざるを得ない。抑々没理想の實際政治家は、形を尊んで精神を蔑ろにし、軍備の充實の爲めには教育費の大削減を省みない。支那で各省の督軍が尨大な軍隊を養ふ爲めに、財政の困難を感ずるや、第一着に止めたものは學校である。恰度日本の或る成金が不景氣のために手先不自由となるや第一着に多年貢つて居つた苦學生に對する給費を廢したのと同樣である。斯う云ふ連中は奬學的給費を第一に罷め、次には使用員の給與を減じ、而して最後まで倹約を躊躇するのは酒色の料であるを常とする。當今の識見の政治家が軍備の充實擴張を國家第一の急務と見做して、教育機關を等閑に附するのは恰度此成金と同一の低級な心理狀態を暴露するものである。政治家の思想の低級なるはどうでもいゝ。只之によつて日本の青年の向上發展の希望の妨げらるゝのが座視するに忍びない。

●**廣東の新政**　支那は南北統一の失敗後、北には安直の內訌あり、南は孫岑兩派の暗鬪があつたが、之が濟むと勝つた直隷派が更に奉直の爭となり、勝つた孫派が又孫陳の不和と云ふので、南北各々頻繁に內訌の報道を供給して居る。今の儘では何處まで行つても小ぜり合ひは絕えない。斯くして一番式の政治家は漸次壞滅する運命にあるものであるが、其間に所謂各省自治主義が起りつゝあるのは　那の將來の政治的安定の爲めに兎も角一道の光明を放つものと思ふ。昨今南は雲貴、湖南、福建、浙江、江西の聯絡成るの噂あるけれども信ずるにも足らねば又出來たとしても多大の望を繫ぐべきでもない。北に統一の實なきは無論の事、斯くして何とか纏めよう〳〵と云ふ有點から云へば支那の現狀は正に絕望だ。併しながら支那は決して統一の完成から復活すべきものでない。各省が先づ其纏つた範圍に、或は各省內の都會部落が、更に小さい纏つた範圍に自治的政治を確立することから、漸次改革復興の機運が作らるべきものである。自治主義の最近の流行は此點から見て大いに刮目に値するものである。就中最近頻りに新聞に報道せらるゝ廣東の新政の如きは、夫れ自身大いに注目すべきものたると共に、又各省自治運動に一種の目標を提供するものとして恐らく重大な意味を有つに至るものでないかと考へらるゝ。陳炯明は曾て彰州に於て突飛な社會主義的施政を實行して內外の毀譽褒貶の的となつた。一部の人は過激思想に感染れたものとして非難した。日本でも彰州方面から來た支那人を一途に露西亞の過激派政府と連絡あるものなるかの如く解して嚴重に監視した事もある。併しながら後に至つて彼が社會主義の理想に動かされて隨分思ひ切、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つた改革を斷行した事が明かとなつて、識者の注目を惹いたのであつた。而して今や彼は廣東に據り、千萬元の財源を失ふことを意とせずして賭博の禁を斷行した。阿片其他の悪習の禁絶も眞面目にやつて居るさうだ。乏しき財政の中から以前に數倍の巨費を教育の振興に使つて居る。而してすべて此等の内政事務を管掌するものは、馮自由君である。馮君は支那に於ける有數の青年思想家で且つ又社會主義の理論に最も精通する人である。此人が誠意を以て事に當ると云ふのであれば、我々は廣東の新政に對して相當の敬意を表して可なりと信ずるものである。支那ではまだいろ〳〵の事が整つてゐない丈け、遣らうと思へば隨分自由に思ひ切つた事も出來る。成功するか失敗するかは分らないが、事によると廣東の新政は、東洋に於ける最も新らしき施設の第一の實行地として大いに注目すべきものとならぬとも限らない。支那僻遠の地の出來事として之を輕々に看過してはならない。



武者小路實篤氏著

生きんとする者

‖新刊出來發賣中‖

四六版特製
紙数五百頁
定價金貳圓
郵送料拾錢

武者小路實篤氏の藝術の價値は、今更説くを須ゐざる可し。本書は、第一選集「小さき世界」に次ぐ可き第二選集にして、「ある家庭」より「日本武尊」に至る七篇の戯曲を收む。作者の所謂現代物、空想物、歴史物の代表作を網羅して劇作家としての作者の面目を盡せるもの。孰れも、劇壇の新機運を導ける名作ならざるなし。而も、氏の戯曲は、永遠の舞臺に活く。總ての生きんとする者の胸に響いて、高朗の韻を永久の未來に傳ふ。戯曲の形を借りたる眞人の眞藝術を看よ。

武者小路氏
――著書――

■小さき世界
二つの心、わしも知らない、二十八歳の耶蘇、或る日の一休等、小説戯曲十四篇を收む。
定價金貳圓 送料拾錢

■一本の枝
世評高かりし『A夫婦』『へんな原稿』を始め、著者の内生活を端的に語れる小説脚本を收む。
價壹圓四拾錢 送料八錢

■新しき村の生活
價八拾五錢 郵送料八錢

■新しき村の勞働
價九拾錢 郵送料八錢

■自己を生かす爲に
著者の評論感想集也。眞に生きんとする人は、苦しめる、すぐれたる魂の告白を聞かさる可からず
價八拾五錢 郵送料八錢

東京牛込矢來三番地
振替東京一七四二番
新潮社
電話番町 八〇九番 八九九番 九三六番

世界文藝全集

第二編

ゲエテ著　中島清氏譯（四月八日發賣）

ヰルヘルム・マイステル

全二册、前編發賣――總洋布天金、四六版六百頁、價貳圓五拾錢、送料拾貳錢

「光源氏」にも比す可きマイステルが多彩眼を眩せしむる戀愛小說にして云ふ迄もなく世界稀有の一大傑作也

ゲエテは世界古今の文壇を俯瞰する一大天才。其の作頗る多くして孰れも神品の稱あるが中に、劇詩『ファウスト』と並んで、その全作中の冠冕たるものを『ヰキルヘルム・マイステル』となす。才貌世に稀なるマイステルが、幾多の女性に慕はれて、多情多恨の戀に身をつくすの情景を描き、紅紫繚亂、眼もあやなる濃艶の情史をなせるもの。これをゲエテが自傳と見て興味ある可く、又、この絕大の文豪が女性觀戀愛觀を披瀝せるものとして、頗る深長の意義を藏す。ゲエテを知らずして世界の文藝を語る可からず、本書に就かずしてゲエテを知る可からず。これ大叢書『世界文藝全集』の第二編として公刊する所以にして、中島氏の嚴正なる原文直接譯は、よく原作の眞趣を傳へ得たり。

第一編

ボヴリイ夫人

フロオベル著　中村星湖氏譯

第四版

價貳圓五拾錢　郵送料拾貳錢

東京牛込矢來三番地　振替東京一七四二番　新潮社　電話番町八〇九番　八九九番　九三六番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人公論

春期特別號要目

櫻咲く國の女號

(特價)七拾錢 郵稅八錢 ◎ 東京市本郷區西片町十 振替口座東京三十四番 中央公論社

■(題言)櫻咲く國の女へ……主幹 島中雄作
■尼港の牢獄に咲いた花一輪……藻岩豐平
■日本婦人の美點……與謝野晶子
■日本婦人讚美論……近松秋江
■内外婦人比較論……坪内士行
■嫁入支度節約論……棚橋源太郎
■世話女房推奬論……岸邊福雄
■出戻り女優待論……巖谷小波
■貞操國の女・お蝶夫人……寺田四郎
■三越の休憩室……村松梢風
■(川柳)花見衣……微笑
■新しい女の忠臣藏評判記……生方敏通
■外國の女を觀た眼に映る櫻咲く國の女……山本・木村・佐藤・山下・深瀬・山田・石井・三島・吉江・片上
■小説に描かれた日本の女……楠山正雄
■日本美人の衣裳と化粧……佐々木指月
■親鸞上人と日本の女性……山中峯太郎

金玉の文字 公開狀
◆平塚明子氏へ……山川菊榮
◆山川菊榮氏へ……山田わか
◆棚橋絢子様へ……西川文子
◆山田わか様へ……奥むめお
◆野上彌生様へ……中條百合子
◆伊藤野枝氏へ……富本一枝
◆高安安子様へ……網口冬子

■青春期に於ける日本女性……寺田精一
■日本婦人の美徳としての貞操の根據……富士川・中島・安部・永井・杉森・羽太
■父に別れる迄の頃……九條武子

ハイカラ家庭の悲劇
■お互に自由な夫婦……水島多市
■縱令思想と端唄……波山欣三
■お茶を出さぬ家……芹澤左入
■ハイカラ夫人の煩悶……坂井一紅
■自由戀愛の失敗……智恵子
■外國婦人と結婚……川浪澄子
■子の無い夫婦……吉野臥城

【創作】
■(長篇小説)冷涙……正宗白鳥
■(童話)馬鹿者……島崎藤村
■(童話)お晝寢……北原白秋
■(感想)ある手紙……武者小路實篤

中央公論第卅六年春期大附録號創作

女家主……正宗白鳥
一つの家……野上彌生子
影繪のごとく……室生犀星
亂世……菊池寛
鴉……宇野浩二
子爵と三人の女……長谷川如是閑
奇遇……芥川龍之介

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



女家主

正宗白鳥

　裏の二階家と、海岸の漁夫町にある一棟の平屋とを、彼女は貸別莊にして、その家賃を一年の生活費に當ててゐた。夫の遺産として外に數百坪の地所があるし、現金をも二三千圓は持つてゐるのであつたが、親も子もない一人ぼつちの彼女は、さういふ者に手をつける必要はなかつた。

　大通りに面した小さな家を綺麗に磨いて住んでゐた。左右を高い家で挾まれてゐるので、日當りが惡く風通しもよくないのだが、あたりが淋しくないのと、便利なのと、用心がいゝのとで一人住ひには適してゐた。

　夫が長い間肺を患つて、數年前に激しい惱みを續けて藻掻き死にをした後、彼女は看病疲れや、舅姑や義姉義兄など大勢を相手にした後仕末の爭ひのために、自分の頭も身體も衰弱混亂を極めて、今にも打倒れて夫の後を追ひさうな氣がして、いつそさうなつた方がいゝやうにも思はれたが、やうやく一身の處置が極つて、亡夫の故郷の沼津在から大磯へ歸つて來ると、淋しい涙のうちにも新たな希望が何時となしに目の前にちらつきだした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

まだ四十にはちよつと間のあつた彼女は、死別の打撃のためにもさう長くへたばつてはゐなかつた。夫の病氣が傳染したのかと氣遣はれるほどに弱つてゐた健康が、次第に回復して、横になると骨が擦れて痛くなるくらゐに痩せてゐた腰に肉がついて、目が淀んで青褪めてゐた顏にも紅い血が通つて艶がついて來るにつれて、まだ老朽ちるには早い自分の身が頻りに顧みられた。

「そのうちお前を迎へに來るよ」と云つた亡夫の聲や、執着の思ひに堪へて握り合つた時の亡夫の痩細つた手などが、むしろ無氣味に思出されることが多くなつた。

彼女は流行の衣類をも新調した。毎日風呂屋へ通つて化粧にも注意した。何もしないで暮すのは退屈ではあるし、亡夫の親兄弟と爭つた時から燃えだした慾念が、じつとしてゐるとますます盛んになつて來たので、知合ひの質屋の隱居の口添へのあつたのを幸ひに、小金の信用貸をはじめた。銀行へ預けて置くよりは利得が多いばかりでなく、そんなことに心を使つてゐると氣が紛れて、日を暮すのに張合ひが出來た。運惡く貸倒れになつたことも、はじめのうちに二三度あつたが、そのために彼女は失望しないで、却つて利殖慾に油を注がれた。

世間の好景氣が續いて、年々避暑避寒の客が殖えて、彼女の持家も賃貸が二倍になり三倍になつた。地所の値も出て、彼女の身代はめきめきと太つた。

が、寡婦として一生安んじてゐる氣はないのに、第二の夫は容易に得られなかつた。先方から思はせ振りを見せて親しくして來る男は二三人あつて、彼女の心が動きかけることもあつたが、そのたびに彼女は自から戒めて冷かに身構へした。身代が太るにつれて、あたりの男がみんな此方の財産を狙つてゐるやうに思はれて油斷が出來なかつた、で、質屋の隱居にだけはいろいろな相談を持掛けることがあつても、他の男には立入つた何事をも打明けなかつた。屢

邪でも引いて身體の加減の惡くなつた時とか、大掃除の時とかには、おたまといふ近所の知合ひの娘に臨時の手傳ひを賴んでゐたが、平生は他人を當てにしないで、貸金の事でも家の雜用でも、みんな自分一人の手で取運んでゐた。

貸別莊の家賃も外の家が値上げするたびに、負けないやうに値上げをしてゐたが、どうかして夏や冬に、十日でも二十日でも、自分の家の借人（かりて）の極りが他所より遲れることがあると、見す〳〵損をしてゐるのが氣になつて惡くすると今年は空いたまゝで季節を過しはしないかと案ぜられたりした。さうしていら〳〵してゐるところへ、別莊搜しの客が來て、うまく値切つたりなんかすると、この鳥を逃がしてはならないやうな氣がして、押問答の末に、先方の附値（つけね）を不承々々に受入れることもあつた。安く貸した後では、契約の期限が濟むまでその事が氣になつてをり〳〵借人に向つていやがらせの一言や二言は云はないではゐられなかつた。

借家人が立去ると、後に殘して行つた物は、一本の箒でも一足の古下駄でも、役に立たないやうな破れ傘でも、みんな自分の家の物置へしまつて置いた。都會から來る避暑客のお蔭で、町が賑はつて豐かになつてゐる大磯では、外の有名な避暑地と同樣に、商人はじめ土地の人々の心が狡猾にも卑屈にもなつてゐるが、しかし、都會人の氣心は吞込んでゐて、貸別莊や貸室は住みいゝやうにして、次の夏にも借りて貰へるやうに心掛けてゐるのであつたが、この女家主の貸別莊には二度と同じ客は入つて來なかつた。物干竿一本でも先の客が買調へて、立際に殘して行つた物は、ちやんと自分の家へ仕舞込んで、決して後の人の用に立てないといふ風で、魚屋でも八百屋でも、自分で周旋料の取れない商人の出入はいろ〳〵な文句をつけて差留めた。そして、板塀の節穴からよく裏の貸別莊を覗いた。

ある夏成金然たる男が四五人の家族を連れてこの貸別莊に避暑に來たことがあつたが、僅か一月あまりしか滯在しないのに、自費で硝子障子を取換へたり、大きな納涼臺を新調したりした。女家主はホク〳〵喜んで頻りにおべつかを使

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つてゐたが、それでも、下女の粗相で茶の間の古疊が二枚燒焦をされてゐるのを見ると、立際に修復料を請求することを忘れなかつた。

板塀を隔てたゞけの裏隣の生活振りは、住人（すみて）が變ることに彼女にさまざまな印象を與へた。可愛らしい子供が海岸の夏を樂んで面白さうに騒いで遊んでゐるのを見ると、一生子供を持つ望みのない自分の身の上が顧みられて、ふと涙のこぼれることがあつた。肺患者にちがひない中年の男が若い女と睦じさうに住んでゐるのを見ると、死んだ夫のことが新たに懷かしく思出された。

ある日、井戸端でその若い女と世間話をしてゐるうちに、知らずしらず自分の過去の不幸な生涯について述懷をして、若い女の同情を得た。

「匹偶（つれあひ）に死なれゝば、男だの兄弟だのと云つても赤の他人も同樣なんですからね。他人よりも却つていけないくらゐですよ。そんな所に愚圖々々してゐて針で突かれるやうな思ひをしてるよりや、一人でゐる方がどれほど氣樂だか知れません。でも、どうかするといろんなことが思出されて淋しくなつて、夜つぴて眠られないこともあるんで御座いますよ。一人だと鼠にまで馬鹿にされますから、餘程氣を確かり持つてゐなければなりませんです。此間の晩あなた方が東京から終列車でお歸りになつた時にも、路次にお二人の足音がするまでは氣になつてどうしても眠られませんでした。自分のことだけでもあり餘る心配があるのに、人樣のことにまで氣をつかつたりして、私は餘程苦勞性なんで御座いますわね」

「あなたは毎日朝がお早いやうで御座いますね。私どもは明日は早く起きて涼しいいゝ空氣を吸はうと、毎晩寢る時にはさう思つてるんですけど、どうしても早く目が開かないんですわ」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「さうで御座いませうとも」と、女家主は事々しく口を利いてニヤリと笑つて、「旦那様もまだお若いやうで御座いますね。旦那様といくつもお違ひにならないんでせう」

「さう見えますの？。……主人は去年が厄年だつたのです。年中お藥を絶やせないほどに弱いんですけど、厄年を無事に濟ましたから一安心してゐるんですよ」

「いゝえ、まだ御油斷がなりませんよ。私の匹偶(つれあひ)は四十三で亡くなりました。後厄が却つて怖う御座いますよ」と、女家主は意地惡く云つた。

「でも、潮風を吸つたお蔭で、主人も私も大分丈夫になりましたよ。此間東京へ行つた時にもみんなにさう云はれました」

「本當は、一二年續けて住んでゐらつしやらなければ、轉地の利き目は御座いますまいよ」

彼女はその時の機勢(はずみ)で頑なにいやがらせを云つて井戸端を離れた。海岸の空氣も養生も亡夫の病氣には何の效果もなかつたことを思出すと、裏の家の主人の病氣にも效果のあらう筈はないと頑なに思はれた。……早晩あの人の病も重つて、亡夫と同樣の苦しい死に方をするのだと、その樣子があり〳〵と目の前に浮ぶやうであつた。

獨り數年の間に、四十の坂を越した彼女は、以前よりも胴體がいくらか肥つたほどであつたが、目は乾涸びて、淒味を帶びて、昔は多少柔しいところのあつた面相もいやに嶮しくなつた。小鼻の黑子も際立つていやらしくなつた。男の心を惹く力は身體の何處にも無くなつてゐたが、彼女はまだ自分の好みにかなつた第二の夫の得られる望みを棄ててはゐなかつた。歳よりもお若いと云はれるたびに悦しさに胸が鼓動した。鏡に映る自分の顏を見て、不斷氣づかない老の影に驚いて胸の潰れる思ひをすることもたまにはあつたが、土地の知人は云ふまでもなく、都會から來るいろ〳〵な婦

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人に比べても自分の容色をさして見窄らしくは思つてゐなかつた。一人寢の寢床へ入る折に、屢々電氣の光で自分の滑らかな肌を見詰めた。

三十の聲に驚いて、もう老婆になつた氣がして悲しくなつた昔も、四十の聲に驚かされる今も、老いを感じる氣持にさしたる變りはなかつた。「何事も面白いのは若い中ですよ」と、若い者に向つてをり〳〵歎息を洩らすこともあつたが、そんな時にも「まだ〳〵これからだ。これから先きに本當の面白いことがあるのだ」と、腹の底では思はれてゐた。

彼女はおたまなど近所の娘を誘つたり、あるひは自分一人で活動寫眞を見に行くことがあつた。土地の芝居小屋ばかりでなく、平塚の劇場へも時としては出掛けることがあつた。冬は鰤の大漁があつて濱が賑ふと急いで見に行つた。春は地曳網を屢々見に行つた。溺死人があつたり、自働車が犬を轢殺したりした時にも、見物人の中に屢々彼女の姿が見られた。……それほどに歳を忘れて人中へ出て行きたがるくせに、東京や横濱へ芝居その他の興行物を見に行くことはしなかつた。何かの用事があつて東京へ行つた時にも、用事だけ濟ますと、誰れも待つてゐる者はないのに、急いでその日のうちに歸つて來た。

「主婦(おかみ)さん、大變なのよ」と、松の内のある日、おたまが表の硝子戸の間から内を覗いて、慌たゞしく聲を掛けると、火鉢の側で年末に買つた新式の帳簿に書入れをしてゐた女家主は、咄嗟に珍事を豫期しながら玄關へ駈け出た。

「今ね、兵隊さんが刀を拔いて平塚の方から走つて來たのよ。警察署から巡査が大勢で出て來て追付いてつかまへようとすると、兵隊は海濱館の前から海の中へ飛込んだのですつて。私これから行つて見るわ。主婦さんも後から見に入らつしやいな」

おたまはさう云つて戸の側から姿を消した。女家主は火鉢の火に灰を掛けて、コートを着て足袋を穿き替へて、[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はかけないで引寄せたゞけで出掛けた。町の辻々には事ありげに人が集つて何かの噂をしてゐた。防波堤の側には隙間なく人が並んで沖の方を眺めてゐた。

濤龍館の側の石段を下りると、活動寫眞見たいな光景が直ぐに彼女の目に映つた。軍服を着けて投身を水面に露して沖の方へ泳いでゐる男の後を追つて、裸體の男が泳いでゐた。幾人もの巡査を乘せた漁船が、四ケ挺も櫓を仕立てゝ乘出した。風の無い温かい日で、水の上に動いてゐる光は春のやうに麗かであつた。

「狂人だよ。茅ケ崎から驅出して來たんださうだよ。花水橋の側で蜜柑屋が斬られたつてことだ」

「だつて刀に血がついてゐないぢやないか。脱營兵だよ」

「脱營した者が眞晝中に刀を拔いて歩くものか。茅ケ崎には軍人上りで發狂してる者が一人ゐるんだよ」

「あの巡査は危いぜ。……狂人にしちやよくあんなに泳げるもんだ」

「この寒さに御苦勞樣だな」

見物は面白がつていろ〳〵な噂をしてゐた。船は兵士の側へ漕寄せられて、櫂や竿が水の中へ差下ろされたが、兵士はそれを突きのけては逃げ廻つた。船の下を潜つて向ふへ現はれたりした。その動作の巧みなのに磯の見物は感歎した。ひとりでに脱げた軍帽は潮に牽かれて沖の方へゆら〳〵と漂つてゐた。暫くして刀が叩落されて、輪に結ばれた綱で兵士の首が引懸けられて船の中へ引上げられて活劇が終つたが、やがて船が磯へ着くと、兵士は梯子に縛りつけられて、大勢の手で警察署の方へ運ばれた。うめきながら藻掻きながら左右を睨んでゐる兵士の目は凄かつた。

その晩女家主は警察署の小使から、事の顛末を聞いた。この兵士は除隊後發狂して座敷牢へ入れられてゐたので、家人の監視の隙を見て脱走したのであつたが、發狂の理由は入營前に言ひかはしてゐた女が、知らぬ間に他の男のところへ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

緣付いてゐたゝめであつた。

「女の子一人に嫌はれて氣がちがふなんて意氣地のないことだ。いゝ身體をしてやがるくせに一生みんなに迷惑を掛ける　だから、いつそ海で死んぢまつた方がよかつたんだ。骨を折つてあんな穀潰しを助けてやるには及ばない」と、老いた小使は打切棒に云つた。

「だけど、それほどに思つて呉れる男に不實なことをするつて法はないよ。その女もこの先いゝことはないね。男の罰があたるに極つてらあね」

女家主は世間見た兵士の無氣味な目顏を思出して、さぞ怨んでゐるのだらうと思遣つて、女の仕打に對して義憤を起した。彼女自身は今までに男に怨まれたこともなかつたし、男の不實を怨んだこともなかつたのだが、世間の色戀の縺れを耳目に觸れるたびに、自分の身のまはりの淋しさが新たに顧みられて、「お前を迎へに行く」と、亡夫の云つた薄氣味の惡い言葉が、涙ぐまれるほど懷かしく思出されたりするのであつた。

彼女は水中の兵士を見た夜、おそく、亡夫の位牌に線香を上げて禮拜した。何時ものことだが、しんとした冬の夜、亡夫の位牌に心を注いでゐる時には、彼女の慾念も衰へて、何のためにアクセク金を殖やしてゐるのだらうと、自分の心根が淺ましく思はれた。貸金などは帳消しにして、貸別莊や餘財は一切、從妹とか甥とか、平生滅多に音信は取りかはさないが血緣は續いてゐる者に分けてやつて、自分は、半座を空けて待つてゐる亡夫の側へ行つた方がいゝ、夢のやうに考へた。さういふ夢に浸つてゐると、芝居見物だの金儲けだの、外のさま〴〵な樂み事からは得られないやうな、何とも云へないいゝ氣持がした。夜廻りの太鼓も平生とちがつたいゝ音を傳へた。

この冬は不景氣のためか、寒さが遲れたゝめか、裏の貸別莊の塞がつたのが、年末も押詰つてからであつた。二十數

を大分過ぎてゐるらしい痩せた貧相な女と、その弟だといふ蒼白い顔した男とが、僅かな荷物を持つて來て其處に住まつた。溫い日に濱へ散歩に行く外には、家の中でひつそり暮して、食物も大抵は近所の仕出し屋や蕎麥屋から取つてゐるやうであつた。二人とも世間馴れないで、をり〳〵顔を合せる家主にも、餘計な口を利くことはなかつたが、たゞ二人が時々言合ひをしてゐるのが、女家主の耳に留つた。すでに十日あまり隣同士になつてゐるのに、笑ひ聲や賑かな話聲はその家から一度も洩れて來ないで、敏い彼女の耳へたまに入つて來るのが、姉弟の爭ひの聲であるのを、女家主は不思議に思つてゐた。

狂人を見た翌朝、彼女は井戸端で、洗ひ物をしてゐる裏の女に會つたので、昨日の水上の活劇を話して、「あなたは御覧になりませんでしたか」と云ふと、

「そんなことがあつたのですかね。私はあの時濱の方へ出てゐましたの。大勢が騒いでゐたから何事があるのかと思つたのですけど、行つて見ませんでした」と、裏の女はそんな話には興味もなさゝうに答へて、急いで洗ひ物を片付けて自分の家へ入つた。

女家主は相手があまりに無愛想なのに、少し呆氣に取られた形で女の後を見送つたが、間もなく裏の家から怒りを含んだ男の聲が聞かれた。先日から好奇心を起してゐた女家主は、バケツを井戸端に置いて、忍び足で窓際へ近寄つて立聞をした。

卵が腐つてゐると云つて弟が怒つてゐた。「こんな者を食べちや轉地した甲斐がない。少しの金を惜むくらゐなら、こんな所にゐない方がいゝんだ」

「安いから腐つたのを買つたんぢやないよ。僻んでそんな無理を云ふのなら、これからあなたが自分で何でもするがい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゝさ。私は關係しないよ」

「僕の世話が出來ないくらゐなら、姉さんは何のために隨いて來たんだ。僕は一日も早く健康を回復しなきやならんのだからね」

「さう焦つたつて神經をいためるばかりで、病氣は癒る時が來にや癒りやしないさ。あなたの氣分の惡いのを私の所爲にされちや、私も溜らないよ」

「ぢや姉さんだけ東京へ歸つたらいゝぢやないか。僕は一人になつたつてかまやしない」

「三日でも一人でゐられて？。あなたにそれだけの決心でもつけば大したものだけど」

「さう云つて僕を冷かすんだね。ぢや見てゐるがいゝ」

詰らない言合ひをしてゐると、女家主は可笑しく思ひながら、却つて二人に對して親しみを覺えてゐたが、自分の家の方で人聲がしたので、急いで窓際を離れた。

訪ねて來てゐたのは、山辰といふ請負師であつた。法外にやすい地所の賣物が出たから買はないかと勸めに來たのだつたが、彼女は何時ものやうに詳しいことを訊くだけの興味さへ失つてゐるやうに、

「それどころぢやない、私は自分の持家も地所も賣つちまひたいと思つてるよ」

「そんなことも云つて見るんだね」と、山辰は笑つて、「ぢや、今日は賣買の話なんか持つて來るんぢやなかつた。大安だからいゝかと思つたら、此方ぢや日が惡かつたのだね」

「戲談お云ひでないよ。私はお前さんにでも相談して、一切合切持物を賣飛ばしたいとしみ〴〵思つてたところなのさ」女家主は急込んだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「主婦さんも時々そんな氣になるのかね。だけど今はいゝ買人はなささうだね。春になつたら人氣が立直るかと思つてたらます〳〵いけない」

「私も覺悟して賣るとなつたら、値段なんかに、拘りやしないさ。奇麗さつぱりと人手に渡したら、重荷が下りてさぞいゝ氣持だらうと思はれるよ」

「さうかも知れないね」山辰は迂散くさい目をして相手の顏を見て、「主婦さんも時々はそんな氣になるのかね。それも氣保養になつていゝだらう」

「まあ見といでな。お前さんも吃驚しないやうに今から用心しといでよ」

「だけど、お前もまだ後生願ひをする歳でもないがなあ」

山辰は話に身を入れるでもなく冷かすでもなく、煙草を二三服吸ふ間町內の噂などをして、靜に出て行つた。

女家主は、自分が慾張り婆々として、山辰にでも誰れにでも思はれてゐるらしいのを忌々しく思つて、亡夫追善の施行でもして、みんなを驚かしてやらうかと思つたりしてゐたが、亡夫の身內とあれほどに爭つてやうやく、僅かな財產でも自分の物にしたことを思出すと、全身の血が湧立つて來るのであつた。

松の內は期限の延びた貸金の催促にも行けないので、彼女の衰へた心を引立てる由緣がなかつた。おたまなどは正月相應の陽氣な遊び所が外にあるのか、この頃は滅多に寄りつかなかつた。彼女は所在なさに風呂屋へ行つて、洗ひ場一杯に賑はつてゐる中へ割込んで、知人と取留めのない笑ひ話などして來ると、溫まつた身體を冷たい夜具に包んで早寢をした。いゝ氣持でぐつすりと眠入られたが、眞夜中の怪立たましい犬の聲に目が醒めてからは、再び眠りが呼べなかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

夜番の太鼓の音が止絶えて、犬は裏の家の垣根のあたりで何時までも吠え止まなかつた。何か事がありさうに思はれてならなかつたので、彼女は元氣を出して勝手口から出て行つた。星さへ見えない眞暗な夜だつた。シツ／＼と犬を制しながら、目を見据ゑてゐると、あたりがいくらか見えだしたが、變つたところは無かつた。

安心して家へ入つて、戸締りをよくして、再び寢床に就いたが、數年の一人住ひに、今までは一度も泥棒なんかを氣に掛けなかつたことを考へると、自分が神經病みになつたのが可笑しく思はれた。

翌朝表を掃いてゐる隣の主人に向つて、「お宅のシロは昨夕大變吠えましたね」と云ふと、

「この頃はどうしたのだか、毎晩騷いで仕樣がありません。まだ雌を追驅ける時節ぢやないんですがね」と、主人は笑ひ／＼答へてから、聲を潛めて、「昨夕は店先で私の家内に主婦さんのことを訊いて行つた人がありましたが、お宅へ寄りましたか」と訊いた。

「へえ。どんな人です？。」

「私は奥にゐたからよく見なかつたのですがね。三十前後の背の高い男の方でしたよ。話の樣子ではあなたとは以前御懇意だつたらしいやうですよ」

「變ですね。……昨夕は早く戸を締めたから、それで訪ねて來なかつたのかも知れませんがね」

「さう／＼。沼津邊の人ださうです」

「へえ。さうでしたか」

女家主は眉を顰めた。三十くらゐな沼津の男といへば、亡夫の實弟かも知れないが、何しに大磯へ來たのであらうと疑つて、その男の云つてゐたことを熱心に訊ねたが、隣の主人は知らないのか故意に隱してゐるのか要領を得なかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此方の身代がよくなつたと聞いて、何かの目算があつて、様子を探りに來たのではあるまいかと、彼女は警戒する氣になつた。そして、若しかすると、今にもその男が訪ねて來るかも知れないと心待ちにしてゐた。あの弟があの頃まだ獨身だつたので、亡夫の死後の爭ひの渦中へは入らないで、ひとり淡白に事の成行を見てゐたことは、彼女も快く記憶してゐたので、今訪ねて來たなら、當時の苦勞やその後の苦勞を話したり、いくらかの自慢もしたり、先方の家の有様をも訊出したりしようと、朝餐の後長い間火鉢の側で、自分の云ひたいことを頭の中で忙がしげに繰返してゐた。が、待設けてゐた男はつひに訪ねて來なかつた。

松が取れると、彼女はまた貸金の催促をはじめた。強張つた貸しのある蒲鉾屋へ行くと、相手の歎願をも斟酌しないで烈しい口を利いた。さういふ時には「女だつて馬鹿にされてなるものか」と、興奮するのが例であつたが、今度は言葉こそ不斷通りに強くつても、腹の底から不斷ほどの元氣が湧いて來なかつた。

其處を出て、寒い風に吹かれながら、家へ歸つて來る途中で、目がクラ〱して、胸が逆ついて倒れさうでならなかつた。「去年の暮から近所の漁場では大漁が續いてゐるので、この土地でも今年は見込みがありさうだといつてゐる。鰤網が一二度當りさへすれば、何を置いてもあなたのところへお返しする」と、蒲鉾屋の云つてゐた言葉が、あの世の言葉のやうにボンヤリ思出された。

これではならないと、彼女は歯を喰ひしばつて急いで自分の家へ入つたが、閾を跨ぐや否や、土間へ打倒れた。辛うじて匐つて玄關へ上つた。

夢見たいにあたりの有様が彼女の目に映つてゐたが、手足は自由にならなかつた。最初に見つけた裏の家の女が、隣

の家へ知らせて、おたまをはじめ近所の者が大勢入つて來て、病人は寢床へ移された。醫者が來たり、親類中へ宛てて電報が打たれたりした。

口を利かうとしても言葉の出なくなつた彼女は、鈍い眼を開いて目のさきにちらつく者を見、幽かに聞える周圍の物音を耳に入れてゐた。

「そのうちお前を迎へに來る」と云つた亡夫は、臨終の際と同じい顔をして細い手を伸してゐる。裏の別莊の若い男も亡夫と同じやうな顔してその側に立つてゐる。

「主婦さんの從姉に當る人が川上村にゐるんですよ。滅多に來たことはないんですけれど」と、おたまが云つた。

「早く親類の人が來て呉れなければ、買物のお錢を出すことも出來ないから困るよ」

病人は用箪笥や手提金庫に入つてゐた貸金の證書や紙幣などが手近い所へ漂つて來るのを見ながら、手で掴むことが出來なかつた。何時の間にか亡夫と裏の若い男とが、病人の方から目を轉じて、それ等の證書や紙幣を奪ひだした。

「お醫者さんは見込みがないやうなことを仰有るんだけど、早く親類の人が來なけりや、どうすることも出來んぢやないか」

病人はこのまゝ自分が死ぬるのか知らんと、ふと自分の境涯を意識に浮べた。そして、死ぬる前に、そこらにゐる人人に云つて置きたい。せめて一言でもみんなに向つてハツキリ口を利きたいと思ひながら、言葉は喉へつかへて出なかつた。

やうやく眸だけが微かに動いた。思ひを眼に籠めて見据ゑてゐた。が、様子を見に來たおたまは、顔を覗くと直ぐに怖い者から逃げるやうに逃げて行つた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

やがて證書も紙幣も何處へか消えてしまつた。他の人の聲も聞えなくなつた。「お前を迎へに來た」といふ夫の言葉が、次第に暗くなつて行く世界の唯一つの聲として彼女の耳に聞えた。

彼女はその聲に身をまかせて闇の中へ入つて行つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



一つの家

野上彌生子

伊藤の家が家主の大村から、支那に行つてゐる息子が急に歸つて來ることになつたので、四月一杯でその家を明け渡して貰ひ度いと云ふ交渉を受け取つたのは、一月の末に近い或日のことであつた。丁度住宅難の聲が世間に叫ばれかけた初期で、三四年前ならばたゞ家具を移すと云ふ煩累と、それに伴ふ幾らかの物質上の損失ですんでゐたことが、今では明らかに一つの恐怖として現はれて來た頃であつたから、彼等の當惑と狼狽は想像以上であつた。

『今時空いた家なんぞありはしない。』

『さうでなくたつてもう家探しは懲々ですわ。』

細君の弓子のこの嘆聲は、それを味はつてまだ三年にもならない同じ種類の辛い經驗を語る言葉であつた。彼等はそれまで長く北方の郊外に住まつてゐた。庭が廣くつて、古い大きな樹木の澤山あるその家は彼等を滿足さしてゐた。彼等は建前のがつし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

りした古風なその二階家を愛した。彼等は殊に庭と樹木を愛した。森の一部分をその儘切り離したやうな野生的なその庭は、彼等に自然と親しむ心を深くさした。一本の枝、一枚の木の葉、一莖の草、一摘まみの苔、所々にかたまつてゐる叢、そのかげに這ひ廻つてゐる小さい昆蟲の群、または樹と樹の間を終日遊び場にして歡ふ小鳥たち。これ等はもはや家族以外のものではなかつた。彼等はまた近所の人たちとも親密にし合つてゐた。植木屋の上さんや、乳屋の主人は彼等の氣兼のない隣人であつた。それ等の人々との質朴な交際を、彼等は悦んで續けてゐた。よい家とよい隣人を持つてゐると感じてゐた。彼等はいつまでもその家に住み、その土地で暮らす積りにしてゐた。が、併し、家主の方に生じた偶然な些細な一つの事情は、小屋に寢てゐた浮浪人を追ひ立てる程の容易さで、彼等をその家から追ひ立てた。——結局、その家は彼等の家ではなかつたのだから。彼等はあはてゝ新しい住居を探し求めて歩いた。春から本郷の或る小學校の一年生として通つてゐた上の男の子が、轉校しないですむ距離、と云ふことを主な條件にしてゐたので、餘りにかけ離れた土地には希望をかける事は出來なかつた。同じ郊外から本郷、小石川、公園寄の下谷の一部、でなければ田端。それ等を目あての場所とした。これ等の土地のどの一點かに、親子四人に一人の下女を交へた小さい家族の住む家を見つけ出し度いとあせつた。けれども思はしい家は中々見つからなかつた。而して探せば探すほど困難な探し物だと云ふことが分るのみであつた。もう冬の初めで、外は寒かつた。夫の友三が冷たい雨に濡れて、落膽して、重い足を引きずつて歸つて來る夕方などは、弓子はつい涙ぐましい氣持にさへなつた。

『今日は學校を少し早目に出て本郷臺を一軒殘らず覗いて歩いた。三軒あつた。』

『三軒。』

弓子は思はず叫んだ。が、その後を聞くと二倍の落膽をした。一つの家は百圓近い家賃であつた。あとの二つは長屋

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

であつた。

彼女自身もよく探しに出掛けた。

『いゝお家を探して來ますから、玉やとおとなしく待つてゐらして下さい。』

小さい男の子に斯んなことを云ひ置いて出て行く時には、弓子は自分が熊かなんぞであつて、他の力強い敵のために穴を奪はれて、荒漠たる森の奥の方へ新しい穴を探しに出掛けるやうな氣持がした。實際彼女は熊のやうに至るところの通りをうろついて歩いた。家並の揃つた屋敷町は公園の如くに美しく靜かであつた。斯う云ふ場所が目の前に現はれて來ると、無駄な歩みで疲れ憔れてゐた弓子の心が、急に鞭で打たれるやうに緊張して來た。而してその奥の方に激しく打ち綻ふ或物が生じた。彼女は一つの門の前に目を光らして長く立つてゐた。又或る家の前庭を犬のやうに覗き込んだ。――皆んな何んと云ふ美しい廣い家を持つてゐることだらう。私たちは斯んな立派な家を欲しがつてゐるのではない。これ等の家の二分の一、三分の一、四分の一、五分の一の家だつて容易に滿足するであらう。――それにこれ程毎日探し歩いても、一軒の適當な家をさへ見出すことが出來ない。――この瞬間の彼女の心持はもう單なる羨望ではなかつた。それは飢えであつた。豊富に食物を持つてゐる人を見る時の乞食の悲しみであつた。

『これが家の問題である代りに、若しパンの問題であつたならば――。』

弓子は斯んなことまで思つて歩いた。ジャン・バルジャンの最初の罪であつたと云ふ、あの名高い小さい盜みのことがふと思ひ出されたりした。あの夕方、あのパン屋の店先に立ち留つた時の彼はたゞ耳と目のみであつた。而し、その耳は幼い弟たちの飢を訴ふる聲で塞がつてゐた。目の前にはパンの山があつた。事件はたゞ、それだけである。――この場合、誰がジャン・バルジャンでないと斷言し得る人が幾人あるだらう。弓子は歩きながらパン屋の厚い板硝子を突

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

き破つて、パンの一つを掴んだ粗い血だらけの大きな拳を目に見るやうな氣がした。而してまたその拳は彼の拳であると共に彼女の拳でもあつた。相違はたゞパンが家に變つたゞけである。而して彼女が彼のやうに牢屋へ送られないで、夫や子供たちのところへ無事に歸つて行くことの出來るのは、その僅かな相違のために過ぎなかつた。

「パンは掴める。併し家は掴めないから。」

弓子は怖ろしくなつた。毎日斯んな思ひをして町をうろつき廻ることは地獄だと思つた。彼女はその場所から足を返しながら、もうどんな家でも見つかり次第引越さなければならないと云ふ決心を堅くした。けれどもいよ〳〵となるとさうも行かなかつた。單に趣味から生じたことで、虚榮心ではなかつたけれども、矢張り一寸した庭のある位な家が欲しかつた。時には選擇に於て夫と妻の意見が違つた。或る家を見に行つた時には、同じ原因から――と云ふよりは、二人がその頃めい〳〵の胸に持ち扱つてゐた、苛立たしい、遣瀬ない感情が、その一つの事に形を借りて、激しく脹れ立つて吐き出されようとして、二人を爭はせた。二人は涙を流し合ふと同じ心持で腹を立て合つた。而して子供らしくいつまでも意地になつて、歸りの道も成るたけ遠く離れて左右の道端を別々に默つて歩いた。――最後に現在の家を本郷の片隅に見つけ出したまでには、斯う云ふ日が一ケ月半以上續いたのであつた。

彼等はこの家でお正月を二度迎へた。三男はこの屋根の下で生れた。斯うして約千日に亘る彼等の生活は、その間に生じた新たな出來事や、特殊な經驗や、又それに伴ふ聯想、追憶を以つて彼等をこの家に固く結びつけた。彼等の着物が彼等の着物であると同じ意味に於て、この家の一つの窓、一本の柱、一面の壁、一枚の疊も彼等から切り離すことの出來ない彼等の窓であり、彼等の柱であり、彼等の壁であり、彼等の疊であつた。郊外に較べると騷々しく、無氣味に入り亂れて見えた環境にも十分馴れてしまつた。懇意な家や顔見知りの人も多く出來た。今は彼等は完全にその家の主人であ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

りた郡區××町××番地の溫順な住民であつた。彼等は安心して其處に住むことが出來た。取り分け引越の時に重な條件にしてゐた、長男の學校が、十分もかからない距離にあることは何よりも彼等の悦びであつた。

然るに家主の一片の通告は、その家を立ち退けと云ふのであつた。熊のやうにまた町をうろついて他の家を探し歩けと云ふのであつた。一日に三遍も盜人の心になれと云ふのであつた。家の有無の問題ではなかつた。日限までにはあらゆる填充物を押入と戸棚から引つ張り出して、その家を空にしろと云ふのであつた。而して彼等の生活の目に覺えぬ記錄で埋まつてゐるそれ等の親しい戸や壁や柱に別れて、ジプシイのやうに、家具を車に乘せて、馴染のない、知らぬ土地に、先住者の好奇心と盜み見と耳こすりの的になつて行けと云ふのであつた。二年前の騷ぎを——人口の膨脹に比例しない住宅の缺乏で、一層の深刻味を加へて來た地獄を——今一度繰返せと云ふのであつた。——結局、その家は彼等の家ではないのだから。

『思ひきつて家を建てようか。』

二三日すると友三が突然斯んなことを云ひ出して弓子を驚かした。

『それが出來さへしたら。』

弓子は冗談だと思つてゐたのであつた。けれども彼の說明を聞くと共に、彼女の頰は輝き出した。彼女は非常に熱心を持つて彼の計畫に耳を傾けた。或る資產家が三四年前から北の方の郊外にある自分の所有地に□□町と名づけて田園都市のやうなものを拵へてゐる。會社組織になつてゐて、住む人は好みの設計に依つて家を建てゝ貰へる。而してその建築費も年賦にして地代と共に家賃代りに支拂へばよいといふのである。丁度その會社に深い關係を有つてゐる實業家のM氏は、友三の子供の時からの友達なので、彼に依つてその土地に一つの家を得ようと云ふのであつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「いつだつたかM君から、その話があつたのだけれども、今から家なんぞ建てゝ收まつてしまつちやたまらないと思つて問題にもしなかつたのだが、斯う云ふ時節になつて見ると、思はくを變へなくちやならない。何しろ、浮つかりしてると今に寢るところもなくなると云ふ騷ぎだからね。」

　彼の意見はその儘彼女の意見でもあつた。實際今日までの彼等は家を建てようなぞとは夢にも思つたことはなかつた。故郷の古い家を、古い思想、古い習慣、古い樣式と共に後に見捨てた以來、彼等の居住の問題は常に借家を目當としたものであつた。それは彼等に金がなかつた爲でもあつたらう。勿論それが重な原因ではあつたが、それのみではなかつた。今一つは、矛盾の多い考へ方ではあるが、もつと精神的なもので、彼等のやうに頭の中に何かから多くを詰め込まうとあせりながら、財布の中は絕えず空にしてゐる階級の一部を根深く支配してゐる或る思想であつた。――貧しさを自負するやうな痩我慢と、小金でも出來れば直ぐ家でも建てゝ、小さい、安易な生活の中に逃げ込むと云ふ世間の常習に對する反感と輕蔑であつた。

　けれども一つの家のために度々斯う云ふ目に逢はされて見ると、彼等の心持は一變しないではゐられなかつた。殊に彼等が人の家を借りて住む間は、同じやうな不快な出來事はこれから幾度繰返されるか分らないのだと云ふ不安があつた。彼等は今は素直な謙遜な希望を以つて、自分の家と云ふことを考へ始めた。その一つをさへ持つてゐるならば、彼等はもう犬のやうに追ひ立てられることもないであらう。その度に人を恨んだり、他人の持つてゐるものを羨んだりしなくもすむであらう。漸く親しみかけたものを後にして出て行く悲しみも味はないですむであらう。この大きな都會の中で、水草を追うて移住する遊牧民のやうな生活をすることもそれで結末を告げるであらう。――自分の家と云へるものを持たなければならなかつた。彼等の所有慾は急に激しい勢で湧き起つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二月に入つてから友三はM氏を訪問した。M氏は最上の友情を以つて彼の依賴を引き受けた。實を云ふとその時はもうM氏はその會社とは表面の關係は持たなくなつてゐたのだけれども、出來得る限りの盡力を惜まないと云ふことを誓つた。彼等は近いうちに一緒に敷地を見に行く約束をして別れた。

『M君もまだどんなところだか行つたことがないのださうだ。』

『まあ、それで重役だつたのですねえ。』

彼等はM氏の實業家らしくもない、呑氣なところのあるのを知つてゐた。同時にそれは彼の善良な性格の半面を示すもので、全く違つた道に志してゐる友達を昔の儘の友情で引きつけてゐるのも、その一點に外ならなかつた。

その日から弓子には樂しい一つの仕事が生じた。それは家の圖引であつた。自分の家を自分の趣味と工夫で設計すると云ふやうなことは、彼女に取つては意外な出來事であつたゞけ、それだけ珍しい樂しみであつた。彼女は、初めて巣を作ることを考へた小鳥の悦びや、洞穴を捨てゝ、初めて丸太を組み合せ、草を葺き、壁を塗ることを工夫し出した我々の先祖の民族の最初の天才の藝術的感激がよく分るやうな氣がした。彼女は暇さへあれば畫洋紙の上に子供の手工用の曲尺を使つて、自己流の設計圖を幾つも描いて見た。彼女はまた書齋の棚から建築に關するあらゆる種類の書物と雜誌を探し出して來て、その中に挿入されてある外國の古代から現代に亘る種々な樣式の代表的建築物——宮殿や、寺院や、城や、公會堂や、また花園に取り卷かれたり、森や果樹園を控えたりしてゐる當世風の洒落た住宅に眺め入つた。彼女にはこれ等は決して初めてのものではなかつたが、けれども、その唯美の心持には、今までとは違つた直感に伴ふ强い感激があつた。古代の建物は、時間と勞力と金とを超越して、その時代が示し得る限りの威力を、その時代が持ち得る限りの藝術的表現で築きあげられてゐる點に於て、また現代の建物は科學のあらゆる力の利用法に依つて、適所に働

く者も前掛一つ汚さないですむやうな便利な、自由な設備に於て、どちらも彼女を引きつけた。而してそれ等の建築物に比べて思ふ時、丸太と板と、僅かな土と石と瓦で、暖房の裝置一つなく無造作に出來上る自分たちの家の貧弱さを憫まないではゐられなかつた。實生活の上の貧乏人で、趣味に於ては貴族であるものの感ずる矛盾が其處にもあつた。彼女は中世期風の最も美しい塔の一つを畫洋紙の端に丹念に描き取つて、それを神秘的な湖の縁に置いて見たり、また白い波の打ち寄する絶壁の上に建てゝ見たりすることに依つて、僅にその空想を慰めた。

けれども約束に依つて、或の日友三とM氏とが連れ立つて土地を見に行つて歸ると同時に、弓子の製圖も終に中止になつた。土地は殆んど塞がつてしまつてゐて、新築の望みはないと云ふのであつた。

『百坪あまりの地所が二ケ所だけ殘つてゐるのだが、一方にはもう所有權があるのださうだ。後の一つは場所が惡い。』

併し友三はまだ全然失望するには及ばないと云つて彼女を慰めた。

『併し家がある。會社では土地だけで家は持たない方針だから賣るのださうだ。M君はそれを安くさせて買へと云ふのだ。勿論月賦拂ひで。會社の係りの人も來てくれて一緒に見て歩いた。三軒あるが、稍有望なのは一軒だけだ。』

と云つて友三は貰つて來たその家の圖面を擴げて見せた。それは百坪ばかりの地面に建てられた二階家で、九室あつた。

『入つて見ないのだから中のことはわからないが、外から見たゞけでそんなに好きな家ではない。』

彼は餘り氣に入らないらしかつた。

『どんなところですか。』

『場所はいゝところだ。××線の終點からS――山へかけての斜面だから日當りがいい。水は共同の井戸から水道のや

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

うな装置で配つてゐるらしい。いゝ屋敷町だよ。近いうち一度行つて見ようか。』

彼は斯う云つた。けれども弓子が毎年二月になると癖のやうになつて引く風邪を又引き込んで、長く外出の機會を失つてゐる間に、日は遠慮なく立つて行つた。彼女はそれを思ふと、ぢつと寢てもゐられない氣がして來た。

『家の方を早く何んとか極めておかなければなりませんね。』

『あの家でよければいつでも出來るのだから周章てることはないさ。――それにしても中を一遍よく見ないぢやね。』

『まだ空いてないのでせう。』

『まだ人がゐるんだ。』

『ぢや見る譯には行かないでせう。』

『會社の方ぢや差支へないから見せると云ふのだ。』

『いやですわね。人がゐるのだとすると、圖々しいやうでお氣の毒ねえ。』

『餘んまりいゝ氣ぢやないが、併し中の樣子を見ないで買ふ譯にも行かないからな。』

『それはさうですとも。』

『僕が買はなければ、會社は他の人に賣るのだから、どちみち誰かゞ見に行く譯にはなる。――それに早晩賣る家だと云ふことは借りてゐる人も知つてゐるのださうだ。』

『それならまあよござんすけれどもねえ。』

二人はこれ以上は話し合はなかつた。けれども口に出す代りに默つて隱し合つた或る物があつた。而してそれは非常に巧妙に包まれてはゐたけれども、あれほど欲しがつてゐた自分の家と云ふものを漸く手に入れようとする場合に於て

お互ひの悦びの純粋を曇らす一抹の陰影であつた事は爭はれなかつた。

友三が家を見に行つたのは、それから間もなくであつた。友達の工學士から紹介して來た一人の若い棟梁が、家の價値に就いて専門的の研究をするために彼について行つた。

『たゞ岩丈一方の家だ。下手に氣取つたことをしてあるより厭味がなくていつそいゝかも知れない。併し建具などは中々立派なものが使つてある。一二日中に棟梁が委しく値踏みをして寄越す筈だ。』

彼は歸つて來ると斯う云つて、間取りや部屋の模様を弓子に説明して聞かせた。外から見た時よりも幾らか氣乘りがして來たやうであつた。

『併し氣の毒だつた。Oさんと云ふこの間の會社の人が一緒に行つてくれたので、向ふぢや僕たちをも會社のものが、修繕の下見にでも行つたとでも思つたらしい。何處が洩るの、彼處がどうのと云つて直しを頼まれたのには困つた。買ふとも買はないともまだ確定しない以上、打ち明けた話をする譯には行かないし、ちよつといやな氣持だつた。』

と云つた。

『ではいよ／＼買ふことに極まつて、引越して貰ふ時には、なほといやな思ひをしなければならないのね。』

『さうだ、僕等がやられる通りのことを人にするのだから。併しあの家は隱居所とかで、主家は神田の方にあつて、何か店を持つてゐるのださうだから、引越すにしたつて我々ほど困りはしないだらう。』

『それだといゝ鹽梅ですね。』

『併し變な家だよ。五十恰好のお神さんらしい人が一人ゐるだけで他には誰もゐなかつた。道具らしい道具もなくてどの部室もがらんとしてゐる。二階は雨戸を一枚も開けないでであつた。今日だけかと思つたかれば、いつも大抵さうで、表

門なんぞは開いたためしがないさうだ。』

『でもそのお神さんが一人だけで住まつてゐる譯でもないのでせう。』

『他におぢいさんと小さい息子とかゞゐるのださうだ。――現に僅二人や三人ではあの家は廣過ぎて却つて困るだらうよ。』

『神田邊の人たちならまあ別莊へでも行つてる積りなのね、此度。』

『さうかも知れない。』

二人は斯う云ふ風に思つた。それをまた斯う云ふ風に細かに口に出して語り合ふことは、未知の家族に對する場合の普通の好奇心や興味とは非常に違つた心持からであつた。それは畢竟その家の買入れと共に當然起らなければならないその家族の迷惑が、なるたけ輕い程度ですみさうな條件を探り合ひ、確かめ合ふことに過ぎなかつた。それ故家族の數が二三人だとか別に本宅があるのだとか云ふ事は彼等の大きな氣休めであつた。

家の價格見積表は二日目に屆いた。而して、若しその價格で買ひ得るならば、それは有利な取引だらうと云ふ工學士の意見が添へられてあつた。友三はそれを持つて會社を訪問した。彼は何んにも隱さなかつた。正直に友達の作つてくれた價格を示して、それでよかつたら買ひ度いと云ふことを申込んだ。M氏の友情は此處でも彼の味方をした。會社は可なりな讓歩をして、すべてを彼の希望通りに應じようと云ふことを明言した。

『さあ、これでやつと一つの巣が出來る譯だ。――併し最後の調印をするまでに一度お前が見なくちやいけない。萬一非常にいやだつたら遠慮なしに止めにしてもいゝ。僕だつて決して好きで買ふ家ぢやないのだから。』

彼は話をつけて會社から歸つて來ると、この事を一番に命令するやうに云つた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

或る雨上りの朝、彼等は連れ立つて家を出た。美しく洗はれた空から降りそそぐ三月上旬の外光は、久しぶりに表に出た彼女の目を悦ばせた。彼女は快活な氣輕な心持で、街路樹のあざやかな芽の色を眺めたり、またいつとなしに花見の風俗になりかけたやうな若い娘たちの派手な色彩を振り返つたりしながら、電車の乘場へ急いだ。彼等は××線の終點まで電車で運ばれた。

『此處いらのごた／＼が何んとか片づかないといけない。――此處が□□町の玄關なのだから。』

電車を下りると彼は斯う云ひながら、案内者らしく先に立つた。ひどい泥濘み道であつた。その道を挾んでどこの場末にも共通の粗末な、安つぽい店屋や、小さい格子戸の家が並んでゐた。その上丁度その町の下水工事をしてゐるのだとかで、道の一方が深く堀り下げられて、生々しい地層が露出してゐたり、砂利が積まれてあつたり、積まれた砂利が崩れて泥水の中に散亂してゐたり、その間を白つちやけた灰色の大きな土管がごろ／＼してゐたり、すべてが未完成のものの持つ醜い不秩序の光景であつた。而してそれが雨のために一層醜く、汚れて泥まみれになつて現はれてゐる有樣を見た時、弓子は輕い失望を感じない譯には行かなかつた。

『斯んなところとは想像しなかつたわ。』

彼女は口に出して云つた。

『斯んなところぢやないさ。此處は別な町だ。』

斯んな町の續きに何んの美しい町があり得よう。――けれども彼女はもう何んとも云はないでおとなしくついて行つた。泥水の流れてゐる二間幅位な川があつて石の橋がかかつてゐた。それを渡ると友三は眞直な廣い通を行く代りに左に折れて川に添ふ道を取つた。この方が近道だと云つた。二人でやつと並んで歩かれる程の狹い道で、左右の家も道

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に相當する小さい、見すぼらしい家のみであつた。昨夜の雨に濡れて跡つたらしい仕事着が干してあつたり、髪を振り亂した神さんたちが井戸端で大話をしてゐたり、その周りを汚ない子供たちと瘠せた犬が泥をはね反して駈け廻つたりしてゐた。表通りに比べると一層みじめな、むさ苦しい裏町で、すべてのものゝ上に煤けた暗い荒廢と、貧しさの齎らした憂鬱とがあつた。而してそれがその場所のあらゆる存在物の上に一種の相通ずる色と匂ひになつて、漂うてゐた。

『まだ遠いの。』

弓子は一分でも早く此處を通り過ぎようとして足を早めながら尋ねた。

『もう直ぐだ。』

弓子はその返事が却つて心配であつた。斯んな場所の近くにどんな町があると云ふのだらう。――けれどもそれから三十歩と行かないうちに、彼女は驚いて目を見張つた。彼女の前には突然夜が晝になつたやうな明るい、廣い立派な一筋の道路が現はれた。

『此處からが□□町だ。』

友三は斯う教へた。それから、

『まあ此處いらを見てお出で、家の方は後でいゝだらう。』

と云ひながら彼はその通りを眞直ぐに弓子を導いた。兩側の家は悉く新しく立派で、大きかつた。赤い屋根の洋館からはピヤノの音がしてゐたり、また或る家の風雅な窓からは冴えた琴の音が洩れたりしてゐた。而してどの家の表門も堅く閉ざゝれて、たま〳〵さう云ふ樂器の響でもする以外には、物音一つしないでしんと靜まり返つてゐる中を、廣い、立派な通路が白く輝やいて堂々と横はつてゐるのであつた。彼等より外には通る人もなかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「成ほど別莊町見たいなところですね。」

弓子は好奇心に充ちた目を左右に投げて行つた。同じやうな廣い道と同じやうな美しい家並が至るところにあつた。また一つの大通りは郵便局、小さい醫院、車宿、料理屋、雜貨店、菓子屋、八百屋、と云ふやうな種類の店でその大半を形作られてゐた。弓子はそれがその町の唯一の市場であることを知つたと共にそれ等に共通の著しい特長を見逃すことは出來なかつた。ペンキの壁はどの壁もまだ塗られたばかりであり、店はどの店も出來上つたばかりであり、どの品物も擴げられたばかりであつた。而してすべてが小さいなりに明るく小ざつぱりと整頓されて、場末の町のさう云ふ種類の建物や店にあり勝な貧しげな影や、無氣味なかび臭いやうな混亂は何處にも見られなかつた。

『斯う云ふところまで出來てゐるのねえ。何んでもありますわ。』

彼女は珍しいものを見るやうに店先の臺所道具や食料品に目を注いで歩いた。同時にまた、怖ろしく高いことだらう――と思ひながら。

その通りの中央にある四つ角を突切ると道はだん／＼傾斜して終に一つの廣い坂になつてゐた。彼等はその坂道を上つた。坂の上にはまた一つの平坦な土地があつて同じやうに正しく廣い道路が縱横に通じてゐた。家々は坂の下の方で見て來た家々よりも、一層大きく、美しく、立派であつた。而して高い崖になつた北の一方から遠く開けてゐる關東平野の擴がりは、その一廓の土地に廣々した大きな眺望を與へてゐた。斜面の下の方にも以前は同じくあつたに相違ないが、開拓上の整理のために未練なく切られたのであらうと思はれる古い大きな樹が、此處では所々の邸内や路ばたに多く殘されてゐた。而して彼等が昔の森の時代から持ち續けてゐる神秘的な威嚴を以つて、他のものでは決して與ふることの出來ない品位と風情をその土地と家とに與へてゐた。樹木の好きな弓子にはこれは何にも増して心を引かるゝもの

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

であつた。それ故これ等の樹木の古い搖籃を手入れして保存したとも云ふやうな小さい公園に導かれた時には、彼女は悅びの聲をあげた。それは斜面の中央に作られた松を主とした木立の一區劃で、地面は綠色の芝生で蔽はれ、芝生には可愛らしい細い道がついてをり、また高低に應じて石の段々が設けられてあつた。花の木も可なりあつて、頓て咲きさうにしてゐる枝もあつた。その他低い灌木の茂みにも、叢にも、草にも、代赭色の土の肌にも、寒い風と霜の下に忍んで貯へて來た力の急な躍動が現はれてゐた。彼等は吹き得る限り數多くの芽を吹き、染め得る限りの美しい色を染め放ち得る限りの强い芳香を放たうとしてゐた。而して一齊に光り、輝き、搖れ、躍つて、春の復活を悅び稱へようとしてゐるかのやうに見えた。雀の群は彼等に調子を合せて、樂しげな叫び聲をあげてゐた。聲を持たぬ蟻は歌ふ代りに默つて感謝しながら、暖まつた土の上に早くも自分たちの仕事を始めてゐた。

二人は芝生の一隅に据えられた木のベンチに腰かけて暫く其處に休んだ。

『子供たちがさぞ悅んで遊ぶことでせうねえ。』

弓子は頓てその松の木の枝にぶら下つたり、芝の上で角力を取つたりするであらう子供たちの姿を心に描いた。その小公園はまた主としてさう云ふ目的で、その町の子供等のために作られたものであつた。其處から眺めるとその公園を取り卷く家々と、坂の上の一部の家々、及び下の方に續くその町の大半の家々が一と目に見渡された。而してそれ等の家々が、斜面の上に建てられた家にのみ見られる變化ある角度と面をそれ〴〵に持つて、眞晝近い大きな春の太陽の下に輝いて連つてゐる光景は見事であつた。而してそれ等のものから受取る印象は——美しい家並と云ひ、立派な道路と云ひ、可憐な調和ある小公園と云ひ、その他門の板一枚にも、石垣の石一つにも富と豐滿を現はしてゐないものはないやうに感じられた。斯う云ふ家々の間に立ち交つて住むのかと思ふと弓子は少し不安になつた。同時にまた郊外と云ふ位

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

置から推して、今少しの素朴と、靜かに沈んだ侘び住ひをも想像してゐた心に輕い失望を禁じ得なかつたことも事實であつた。要するにこの土地は餘りに開け過ぎ、便利が善過ぎ、明る過ぎ、輕快過ぎることに於て、彼女の豫想を裏切つたのであつた。然るに、それ等の家々は、如何に大きく立派であらうとも、結局は曠野に張る牧人の天幕以下のものに過ぎなかつた。彼等はその住家を載せてゐる土に對しては、その一と握りの所有權をも實際は持つてゐないのであつた。その廣い、美しい土地のすべては、悉く□——氏と云ふ一箇人の物であるのだと云ふことに不圖考へ及んだ時、當り前の何處にもある分かりきつた世上の事實が、變な不思議なことのやうに彼女を驚かした。而して彼女は丁度これと似たやうな驚きを以前にも一度何かで味はつたやうな氣がした。直ぐ思ひ出した。それは日本と露西亞との國境を印するために、樺太の森林中で北緯五十度に相當する場所に、筋を引いたやうに一直線の溝が設られてあると云ふことを聞いた時であつた。物の所有と云ふ問題が暫く彼女の頭を一杯にしてゐた。

『神様は一つのランプと一つの天井をしか造らなかつた。』

弓子は斯う思ひながら太陽を仰ぎ空を見廻した。たつた一つしか與へられてない家の中で、人類は餘りに多く、爭ひ過ぎ奪ひ合ひ過ぎ、片よつて持ち過ぎることを思はないではゐられなかつた。途中で見て來た裏町の暗い貧しげな光景が目の前に浮んだ。而してそれがこの明るい美しい町に直ぐ隣つてゐるのだと云ふ事實は、不自然でならないことのやうな氣がした。

上つた坂道とは反對の方向に今一つの坂道が開けてゐた。彼等は公園を出るとその坂道の方から下りた。するとその坂道の右手の緣全體を高い石の壁で圍つて、更に北の方へ廣く延びた一つの素破らしく大きな住宅が目に入つた。考への續きから、それは特別に彼女の注意を引いたのであつた。

『あれは誰の屋敷でせう。』

弓子は口に出して尋ねて見た。

友三は、日本人であれば恐らく誰でも知つてゐる金持の一人の名前をあげて、その人の別邸だと説明した。

『道理で。――それにしてもあんな人たちは一體幾つ別邸を持つてゐるのでせうねえ。ちよつとした場所だと思ふと、きつとあんな人たちの家があるのですもの。』

友三は笑つた。弓子はその笑ひ方で彼も彼女と同じやうなことをずつと考へてゐたことが分つた。彼等の問題の家は、丁度その坂道を下り切つた道りの左側にあつた。

『あの向ふの家だ。』

斯う云つて敎へられた時、弓子は道を隔てゝ斜に眺められる位置に立つた一つの二階家を熱心に見詰めた。

『おや、また石の柱の門ですね。』

今の家の門柱も花崗石であるので、彼女にはそれが一番に目についたのであつた。よく〳〵石の柱に縁があるのだと思つておかしかつた。併しその花崗石も今の家のは唐草模様の鐵の扉がついて相當の調和を保つてゐるに反して、これにはぶつつけに廣い二枚の杉の扉がついてゐるだけで、而してその扉の上から亂けづりの石の柱が大きな寒天の棒のやうな恰好で突つ立つてゐるところは、誠に唐突で無様な感じを與へた。この門一つだつて、若し自分の手で建てた家ならば決して斯うは建てなかつたであらう。――けれども彼女は直ぐと思ひ直した 自分たちが家を求めてゐるのは賃借のためではなかつたのだと。――同時にこの家一軒のあてがあつたらばこそ、今まであれ程多くの美しい家を見て歩いても、以前家探しに歩いた時のやうな淺間しい苦しみを味はないですんだのだと云ふことが痛切に感じられた。またさう思ふこと

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に依つて、たゞ大きいばかりで何の面白味もないやうなその一つの建物が、非常に有難いものにも考へられた。

『どうだい。』

『結構ですわ。』

弓子は本統にさう答へた。

『相變らず雨戸が締まつてゐるな。——どうしたのだらう。』

『人手がなくて面倒だから開けないのですわ。多分。』

『さあ。——この家も木でももつと植ゑたら幾らか見直すだらう。』

『さう云へばちつとも木がありませんのね。』

『庭の方には少しはあつたやうだ。——兎に角入つて見ると存外表から見た樣ではない。』

『いゝえ、それ以上のことを望んではすみません。』

二人は斯んな言葉を交しながらその家の前を一遍通つて、それからまた引返して通つて見た。弓子はその家の中の人たちに對してひどく氣が咎めた。彼女は一度も立ち留まらなかつた。

家は終に買ふことに極まつた。新しい所有に就いての法律上の手續もすべて完全に果されて、三月中旬には彼等は既に希望通り一つの家の持主であつた。彼等は悦び合つた。この家こそもう誰にも決して追ひ拂はれることのない家だと思つて安心した。M氏の友情をも新たな心持で感謝した。けれどもその家の現住者に對して始めなければならない交渉のことを考へると、彼等は一方に重たい氣持になつた。殊にこの家を引き拂ふ時までに向ふの家を明けて貰はうとすれば、僅かに一月餘りの時日しか與へることが出來なかつた。そのことが又彼等の心を惱ました。丁度その時分であつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。家主の大村の使が再び彼等のところを訪ねて來たのは。友三は留守で、弓子が逢つた。

『――こちらの家を四月までに明けて頂くやうに申して置きましたが、息子さんの都合でもう一年ほど歸りが延びることになりましたので、――』

小柄な狡猾さうな目つきをした四十男が斯う話し出した時には、弓子は救はれたやうな氣がした。餘計な空騒ぎをさせられたと云ふ不平などは、この場合に一月でも二月でも多くこの家にゐられると云ふことの便宜のために十分打ち消されることであつたから。けれども使の男の役目はそれだけの口上では終らなかつた。彼女が單純に、一と安心した氣で悦んでゐる顔色を伺ひながら、その後の要件を持ち出した。結局、息子の歸つて來るまでは住まつてゐても差支えないが、その代り家賃をあげると云ふのであつた。――暮の内にあげたばかりであるのに。その上、更に三割近い値上がつけ加へられると云ふのであつた。

『折角ですけれども――』

彼女は怒つた心持を現はすまいと注意しながら、出來るだけ落着いた調子で答へた。自分の家でも一軒の家を手に入れたこと、併しその家には住まつてゐる人があるのでその人たちの引越すまではこの儘此處にゐなければならないが、先方さへ引越せばもうこの家には住む必要がないこと、從つて二三ケ月の間にそんな値上をすることは不當だと思ふ、と云ふことを話した。相手は時々へえへえと云ふやうな返事を投げ入れるのみで極めて冷淡な顔で聞き流してゐた。別に意外な様子を見せるでもなければ、買つたと云ふ家に就いて興味を示すでもなかつた。その癖たゞ一つ大事な家賃の問題だけには確つかりと釘をさして歸ることを忘れなかつた。

『――兎に角大村の方ではさう申してをりますので、四月一杯にお引拂ひがございませんければ、お家賃のところはど

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

うかさう云ふおつもりになつてゐて頂きます。」

弓子は彼の狡猾を憎んだ。同時にまた、聞かれたらば事實の十倍も二十倍も立派な家のやうに威張つてやりたかつた自分の子供らしい期待が見事に裏切られたことを苦笑しないではゐられなかつた。

「ひどいことを云つて寄りましたよ。」

友三が歸つて來ると彼女は使の顚末を話した。

「驚いたな。」

若しかしたら支那から歸つて來る人などは初めからなかつたのかも知れない、と云ふ疑問が二人に起つた。

「浮つかりしてゐるとどんな目に逢ふか分りませんのね。」

「恐ろしい世の中だ。」

二人は冗談のやうに笑つたけれども、考へると氣味が惡かつた。併しすべてがもう暫くの辛抱だと思はれた。

友三はいよ〳〵□□町の方の家の借主（それは寺井と云ふ人であつた）に當てゝ、その家を今度自分が買取つたと云ふことゝ、それは自分の住宅としなければならないので引越して貰ひ度いと云ふこと、及びその他の事柄について手紙を書いた。引越の期日は、一變した事情のためにさう急がなくともよくなつたし、先方にしても一日でも遲い方がよい譯なので、約五月の時日を見込んで八月十五日までに引越して貰ひ度いと頼んだ。八月末日までにと云はなかつたのは、二學期の始まりまでに少しでも子供をその町や附近の道に馴れさせ度いために外ならなかつた。學校を變へないためには、小さい小學生は四十分以上の新しい道を歩かなければならなかつたから。

普通の手紙ではなかつたので、それは書留郵便で送られた。返事は來なかつた。けれども彼等はそれに就いて別に心

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

興はしなかつた。月が變つた。若井からは矢張り何んとも云つて來なければ、又その月から當然こちらへ屆けて來なければならない筈の家賃をも屆けて來なかつた。その時彼等は少し氣になり出した。

『どうしたのでせうね。』

『家賃に困るやうな家でもなささうだがなあ。』

『手紙の返事位來てもよさゝうだと思ひますわ。』

『さうさ。――』

彼等は斯んな風にさへ考へた。決して惡い解釋をしようとはしなかつた。月末に家賃を持つて行くことには馴れてゐても、自分の方へ持つて來させると云ふ經驗は全然持たなかつたので、家賃の支拂と云ふ點に關して普通の家主の持つてゐるやうな敏感を缺いでゐたのかも知れなかつた。兎に角彼等は至つてぼんやりとその問題を見過したのであつた。

五月になつた。庭の樹は皆んな青葉になつた。この庭は後にある高い崖に續いてゐて、崖の樹木は悉くその枝を庭の方へさし出してゐるために、晩春から夏にかけては陰鬱な位の綠に蔽はれるのが常であつた。それがまたその家の唯一の魅力でもあつた。

これ等の盛んな樹木の成育の姿を見てゐると、彼等は□□町の方の家の裸で立つてゐるやうな露骨な淋しい光景を思ひ出さないではゐられなかつた。樹木を植ゑるとすれば今が丁度よい季節であることも分つてゐたので、出入りの植木屋へハガキを出して來て貰つた。

『左樣でございますか、それはお目出度いことで。』

新しく家を買つたと聞いて彼は改まつて祝辭を述べた。それから

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「そんなことでしたら樫でも植ゑたらようございませう。一先づあちらへ行つて樣子を見て參りませう。」

彼は斯う云つて□□町の方へ行つて、その家の前に立つて研究して來た。前の塀に添うて一列に植ゑるだけでも十二三本の樫が要ると云つた。横にも少しは植ゑなければなるまいと云つた。而して又門の側に大きな松でも植ゑ度い樣子を見せた。その善良な植木屋は、月賦で買つた家を金に飽かせた普請をして、その上庭木の好みでもしようと云ふ人たちの場合と同じに取扱はうとしてゐるのであつた。彼等はくすぐつたいやうな、微笑み度いやうな氣持ちですべてを聞き流した。兎に角樫だけを十五六本買ふことにして、

「序でにこちらの方の植木も持つて行つて置かなければなりますまい。八月のお引越ですと土用の最中ですから、とてもその時は植木をいぢる譯には參りません。」

それで、さう云ふことになつた。

明けの日には植木屋は一人の若い下職を連れて來て、二年前彼等が郊外から引越して來た時に持つて來た樹木を堀りかけた。藤棚が取り放づされて軒が明るくなつた。垣根に這はしてあつたれんぎやうの長い枝は帆綱のやうに大きく卷かれた。その他幾株かの山吹、幾株かの萩、木瓜、木蓮、つゝじ、紫陽花、芙蓉、高價なものはなかつたけれども、一つ一つ何かの思ひ出や記念の意味の添ふことに依つて、彼等に取つては大事なものばかりであつた。堀り出されたところを見ると、どれも其處へ持つて來た時よりも根が大きくなり、株がはびこつてゐた。斯うしてやつとその土に馴染んで、手を伸ばし、足を踏めしめて、めい〳〵の生命を擴げて行かうとしてゐるところを又堀り出される彼等も可哀相であつた。すべてが堀られ、根を堅められるに二日かかつた。庭は荒れて、淋しくなつた。大きな穴があいてゐたり、木ぎれが散らかされたり、繩が投げ出されてゐたりしてゐる光景は、俄かにもう物が動きかけたと云ふ感じを起させた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

三日目は、植木屋は取り纏めた樫を□□町の方へ持つて行くことになつてゐた。その植ゑ付けが終つてから、此方の庭樹へはかかる手筈であつた。

『大勢でやりますから譯はないと思ひますが、悪くすると樫の方が二日になるかも知れませんから、さういたしますとこちらは明後日の仕事になります。——何あに、斯うして置きさへすれば、誰でも中に載つけて引張つて來ればよろしいので、若い者でも間に合ひませうから。』

彼は斯う云ひ置いて歸つて行つた。その時友三は彼に一つの手紙をことづけた。庭の手入れのために植木屋を入れるからよろしく、と云ふことを寺井老に書いた手紙であつた。

次の日は朝から晴れた氣持のよいお天氣であつた。本郷の家では、□□町の方の仕事のことを思ひやつて、

『お天氣でよい鹽梅だ。』

と云ふやうな噂をしながら朝飯をすました。其處へまだこちらへは用事のない筈の植木屋がやつて來て、突然

『どうも非道いことを申します。』

と叫ぶやうに云つて彼等を驚かした。

『一體どうしたのです。』

友三は見てゐた新聞を投げ出して彼の方に向き直つた。

『あそこの家の神さんが、樹木を植ゑることは出來ないつて頑張つてゐるのです。』

彼は一本氣で、幾らかいひどもりであつた。それに意外な出來事に逢つて興奮してゐるので、一層どもるのをもどかしさうに、激して話した。

『今朝は早くからお約束の櫻を車二臺に積みましてね、私に下職の者が四人と都合五人がゝりで押して行つたのです。それで旦那のお手紙を渡しまして斯う〳〵だつて申しますと、あの年取つた神さんが、私は留守番で何にも分らないから兎に角庭に手をつけることは出來ないと云ふのです。併し、留守番にしろ何にしろ、大家さんの方で庭をいぢらうと云ふのにあなたの方が文句を云へた譯はないぢやありませんか。それも植わつてゐる木を拔いて行くとか、庭を潰すとかじやなし、木を入れて立派にしようと云ふのに苦情はありますまい、つて申してやりましたら、理屈はどうだか知らないが木は植ゑさせないと頑張るのです。私も癪に障りましてね。まあ考へて見て下さい。植木と云ふものは生き物です。堀り出して植ゑるばかりにして來たものを、この熱い天日の下で長く曝らされちや根がもたない。植ゑたつてつくものぢやありません。それでは樹木も可愛想なら旦那にもすまない。私だつてこれだけの植木を枯らした上に、下職の手間賃から何んからしよひ込んだ日には大きな損だ。詰らないことを頑張つて若しかそんなことにでもなつたらばどうしてくれるのですか。と私はこれまで云つて見たのですが、どうして聞くもんぢやありません。一と通りの神さんぢやありません。』

友三はぢつと植木屋の話を聞いてゐた。

『さうですか。では行つて見ませう。』

彼は着換へをして、植木屋と連れ立つて出て行つた。

二時間ばかりかかつて彼は一人で歸つて來た。

『どんな模樣でしたの。』

急に、非常に心配なことが湧いて出たやうに思はれて、伊予は夫が出掛けてゐた間ぢう一人で胸を一杯にしてゐたの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

であつた。

『氣をつけないと相手が惡いね。』

彼の殘したこの一言は、自分たちがその家の現住者に對して抱いてゐた今までの呑氣な考へ方を急に一變しなければならないことを意味するものであつた。

『僕が玄關から行つたら勝手へ廻つてくれと云ふのだ。話をすると留守番で分らないと云つてすましてゐる。』

『本統に留守番でせうか。』

『留守番なものか、白らばくれてるのさ。それで丁寧な言葉を使つてお辭儀ばかりしてゐる。あんな年寄りの女を相手ものにを云ふのは一番不快だ。』

人に對して滅多に怒らない彼が斯んな調子で話すのを聞いて、弓子はその婦人がどんな風な人で、またどんな取扱を彼にしたかが想像された。彼女も腹立たしい氣がした。

『それで木は。』

勿論樹木は植ゑることになつた。けれども茶の間に面した前庭には秋草の種が蒔いてあるのを堀り返さないで呉れと云ふ注文なので、其處に植ゑる筈の數本は裏の方に假り植ゑにする事にしたと云ふことであつた。

『まあ大概のことは云ふ通りにさせて置いた方が氣持がよい。』

『それはさうですとも。』

併し秋草の咲く頃まであの人たちはあの家にゐる積りなのだらうかと思ふと、弓子は不安が増した。明けの日は約束の通り下職の男が車を引いて纏めてある樹木を取りに來た。彼は樣子を尋ねて見た。

「もう八釜しいことは云ひませんか。」

「えゝ。」

下職の男は生返事をして笑ひながら、樫の根に注ぐ水を取りに行くといやな顔をするとか、お茶になつてもお茶一つ貰ひ出せないとか云つてこぼした。

「意地になつてゐるのですね。」

夫婦は後で斯う云つて噂をし合つた。家に就いての苦しみを深刻に味はつて來た彼等には、その年取つた婦人の心持は十分同情の出來る心持があつた。若し位置を換へて自分たちが今その婦人の立場に置かれたとしたならば、同樣の感情を隱しきれたかつたかも知れなかつたから。彼等は肝癪を起しながらも單純に怒ることが出來なかつた。この心持が彼等の胸を二重に重くした。

その後月は二度變つた。けれども寺井の方からは何の音沙汰もなければ、相變らず家賃も持つて來なかつた。彼等は段々心配になつて來た。友三は一度その家の主人に逢つてよく話をして見度いと云ふ氣があつた。彼は手紙を書いて出した。けれども返事はなかつた。□□町の方を訪ねると、いつもの年取つた婦人が、非常に丁寧な、而して非常に冷やかな、而して少しも要領を得ない應對で彼を不快にさせた。

丁度その頃の住宅問題は、春の初めに彼等がそれに就いて頭を惱ました頃よりは又一層險惡な狀態に變化しつゝあつた。それは今では悲劇であり、掠奪であり、戰爭であつた。每日の新聞紙は家や家賃の凄しい暴騰を報ずると共に、家を貸してゐる人と、借りてゐる人との間に釀し出されつゝある醜い恐るべき事件に就いて書いた。不當な家賃を貪らうとする家主、他の借手から得らるべきより且多くの利益のために、現在の借家人をその家から不意に追ひ立てようとす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る家作持は、大きな活字で責め憎まれた。彼等は事情は違つても自分たちも今は憎まれる側の人であることを思うた。——激しく憎む側の人でありながら。人を憎まないで住めるやうになるために求めた一つの家が、人に憎まれる因緣となること、自分たちが再び追ひ拂はれないですむために、人を追ひ拂はなければならないことを考へる時、心が痛んだ。けれどもまた寺井の方の正しくない、横着な態度に反感を持たないで忍び得る程寛い心は持てなかつた。事情の許さぬことでもあつた。彼等が持て餘まして、當惑してゐるのを見て、

『そんなことは相手に依ると、とても素人では埒のあくものぢやありません。誰か辯護士にでも賴んで見たら如何です。』

斯う云つて勸める人も出て來た。或る人はまた辯護士などに賴んで若し裁判沙汰にでもなつては却つて事件が長引いて面倒になると忠告してくれた。彼等は迷つた。訴へると云ふやうなことは元より考へも及ばないことであつた。と云つて斯う云ふ切迫した問題を間に置いてゐながら、その相手の顏さへ知らないで當途なく待つてゐると云ふことは堪えられないことであつた。而して彼等ののろい手ではその人に逢ふ機會を捕へ得ないとすれば矢張り誰かに賴まなければならなかつた。同時に斯んな仕事を賴まれて迷惑しない人は、それを職業としてゐる人より外にはない筈であつた。友三の學生時代の友達の中にK——氏と云ふ若い辯護士があつた。友三はその人に話して見る氣になつた。彼は直ぐ引き受けた。

『K——君がすつかりやつて吳れるさうだ。』

彼はその日學校から歸ると斯う云つて弓子に話した。

『まあ。左樣ですか、K——さんなら乾度旨く片附けて下さいますわ。』

若いけれども彼が非常に腕の利れる辯護士だと云ふ噂は弓子も耳に挾んでゐた。二三度面識もあつたので彼女は一層

安心した。而して彼の厚意を心から謝した。

實際彼の仕事は敏捷であつた。友三があれ程骨折つて捕へようとしても捕へ得なかつた若井との會見の機會を一週間とたたない中に立派に作りあげた。彼等は三人でK――氏の家で逢つた。

『見たとこではおとなしさうな男だよ。』

友三は歸ると委しい様子を弓子に傳へた。

『併し僕等が初め思つてゐたやうな生活でもなささうだね。』

『本宅だつて云ふお店は。』

『それはあるにはあるのだ。而してあちらは矢張り隱宅だ。老人夫婦と小さい弟がゐるだけださうだ。』

『それぢや當分一緒にゐることにでもしてくれゝば、明日でも引つ越せる譯だと思ひますがねえ。』

『それがさう云ふ譯には行かないのだ。』

何故だらう。人の家の中の事情で彼等には分らなかつたがその時たゞ一つはつきり分つたことがあつた。それは彼等が最初その家の移轉に就いて抱いてゐた考へ方は、輕卒で、無思慮で、自分たちに都合のよいやうにのみ事件を曲げて見てゐたと云ふことであつた。

『兎に角K――君は契約書まで書かせたし、本人も必ず來月の十五日までには家を探して引越すと斷言してゐるのだから、大丈夫だらうとは思ふが、併し家賃はとても取れないね。』

『引越し料を取られたと思へば諦らめられないこともありませんわ。』

併し五月の家賃は彼等に取つては決して少しの金ではなかつた。且つその家からの收入を失つても會社への支拂を怠

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ることは出來なかつた。その上現在住まつてゐるこの家に對しても拂はなければならなかつたので、結句二軒分の家賃を負擔してゐるやうなものであつた。彼等の餘裕のない收入に取つては、これは到底長く支へることの出來ない重荷であつた。

「お店では一體どんな商賣をしてゐるのでせう。」

「雜貨商ださうだが、その他にも色んな事に手を出してゐるらしい。それがおかしいのだ。何か特許を出願中のものがあつて、少し資本があると旨い金儲が出來ると云ふのだ。その話でK――君とすつかり妥協が出來て、家の話なんぞはそこ〳〵にして二人で大に儲ける相談を始めた始末さ。」

「おや、おや。」

その内に家主の大村からは三度目の使が來た。彼の都合のために引越の僅かな日取りを知らせて吳れと云ふのであつた。

「向ふの家が八月十五日には空く筈ですから、さうしたらば十六日には引越します。」

彼等はきつぱり斯う返答した。

その八月十五日ももう四五日だと云ふ日が間もなく來た。彼等は半分の安心と半分の疑惑を持つた。念のために寺井の方へ聞き合せると、家がないからもう一週間待つてくれと云ふ返事であつた。彼等は忍び難い心を忍んで待つた。

「今度は大丈夫でせうか。」

「さうさう出鱈目も云ふまいぢやないか。」

彼女は兎に角朝夕に必要なものだけを殘して、その他の纏められるものはすべて纏めて置かうと決心した。二三日も

すると一つの部屋は縛られた行李や、箱の類や、大きな包みなどで一杯になつた。押入を開けて見ても、戸棚を覗いても、部屋の隅を見ても、あつた場所にその儘あるものはもう一つとしてなかつた、悉く空つぽで、埃臭く、急に荒れてしまつた。而して家全體が動揺して見えた。その感じは彼等の心持に忽ち強く響かないでは措かなかつた。坐つても、立つても彼等はもう落つけなかつた。仕事などは元より手にもつかなかつた、たゞ長い、暑い夏の日の一日一日を念じ縮めるやうにして寝て起きるだけであつた。それ故漸く約束の一週間に達しようとする前日になつて、K――氏の手からもう一度の猶豫、それも二週間の延期が申込まれた時には、彼等は絶望した。

友三はK――氏を訪問した、併し何んにもならなかつた。寺井は商用で何所か地方へ旅行してゐるのださうであつた。

『人を馬鹿にしてゐる。』

大概なことでは怒らない友三がこの時には本統に怒つてしまつた。

『何故嘘を云ふのだらう。十五日に引越せないのなら、初めからさう云へばこつちだつてその積りになつてゐる。――それを此場になつて一週間待ての二週間待てのと失敬極まる。』

斯う思ふことに依つて彼等は一層腹立しく感ずるのであつた。その上僞はられるのみではすまなかつた。その度に彼等は自身がまた彼等の家主を僞はることになつた。

寺井の方で二度延期すれば、彼等もまた大村に對して二度の延期を乞はなければならないのであつた。これは實に不快なことであつた。殊に一つの理由がそれを一層堪え難いものにさせた。

『今度はこの家が七十圓になるのださうでございます。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

斯んな話が彼等に傳はつたのであつた。これは殆んど七割に近い値上げであつた。而かも彼等が引越しさへすれば新たな借家人から容易に取れるであらうから、彼等がその家に一日長く居ることは、家主の損耗を一日多くすることでもあつた。彼等はその家の皮肉な冷たい顔をした老主人の舌打ちを耳許に聞くやうに感じた。そのことを考へると彼等は片時もこの家に留まる氣がしなかつたのであつた。

「K――さんも少し無責任ですね。」

弓子は終に斯う云はないではゐられなくなつた。友達の間の仕事で多くの金にならないから不熱心なのだと云ふやうな邪推をさへした。

「併し、六つかしい仕事でもあるだらうからな。」

と友三は云つた。この問題に對しては彼等は或る場合奇妙な態度で向き合つてゐるのであつた。友三が肝癪を起して怒る時には、弓子はなるたけ反對な考へ方をするやうにしてそれを宥めた。弓子がじれ出してヒステリイを起しかけると友三が冷靜になつた。けれどもいつまで立つても旅行だ〳〵と云つて寺井の方で胡麻化さうとしてゐることが分つた時には、彼等は今度は一緒になつて腹を立てた。友三はK――氏に對しても不平を隱さなかつた。この仕事に對して彼が若し冒頭で表はす程の熱心を持たないのならば、手を引いてくれと云ふまで激しい手紙を書いた。K――氏からも返事が來なかつた。彼もまた旅行に出てゐるとだけで行先さへ分らなかつた。彼等は途方に暮れた。荒い心持になつて怒つてゐた

丁度その頃であつた。或る晩一人の見知らぬ青年が友三を訪ねて來た。而して二階の書齋に通された。弓子はその青年が玄關から階段を上る時の後姿を瞥見しにちらと見た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「どなた。」

客を案内した後で茶の間でお茶の用意をしようとしてゐる女中に弓子は尋ねて見た。

「寺井さんと仰しやる方でございます。」

この返事はちよつと弓子を驚かした。併し今の人が寺井の主人である筈はなかつた。彼はまだ非常に若く、學生らしい風俗であつた。若しかしたら□□町の方にゐると云ふ弟であるのかも知れない。何の用事で訪ねて來たのだらう。家のことで來たのだとすれば、責任者たる主人が逃げ隱れてゐてあんな若い者を表面に出すと云ふことは卑怯でもあればまた不快なことでもあつた。それとも何かの口上でも傳へに來たのであらうか、――いろ〳〵に考へられた。彼女の注意は二階の方へ強く引かれてゐた。客は一時間足らずゐて歸つた。友三は玄關まで見送ると、その儘緣側にゐた彼女の方へ來た。

「困るねえ。」

彼は嘆息するやうに云つて坐つた。

「あれは寺井の直ぐの弟なのださうだ。兄貴が非常に困つてゐるからも少し待つてやつてくれと賴みに來たのだ。――あの男も大學へ行つてたのだが、都合で休學して兄の仕事の方を手傳つてゐるのださうだ。」

「あの人ですか□□町にゐる弟さんと云ふのは。」

「いやあの男は神田の店にゐるのだ。あちらへはたまにしか行かないさうだ。」

「でも何故でせうね、そんなに行つたり來たりしてゐる人たちが、それも親子でゐて一時だけも一緒に住まへないと云ふのは。それさへ出來たら今にも笑つて話のつくことですもの。――どうしてもその譯が分かりませんわ。」

「今夜もそれを云つたのだが、矢張り神田の店へば引越せないと云つてゐる。それで家の見つかるまで待つてやつてくれと云ふのだ。」

「それがいつまでも待てるものなら何んにも云ふことはありませんけれどもねえ。」

「さうとも、苦しいのはお互ひだ。」

彼等は暗い緣先に向き合つたまゝ暫くの間默つてゐた。弓子は友三が何を考へてゐるかを知つてゐた。苦しいのはお互ひだ——おゝ、それなれば何が斯うまでお互ひを苦しめるのだらう。事情さへ違へば、同じ書籍で學問や藝術について樂しく話し合ひ、親しみ合はれたかも知れない青年と、さう云ふ不快な話をして、敵味方のやうな苦しい感情を以つて別れなければならないのは何のためであらう。理由は簡單であつた。彼等が一つのものを所有しようとしたことが、他を奪ふことになつたと云ふことであつた。而かも彼等は度々殘酷に奪はれたのであつた。今、一つの所有を思うたことも、再び奪はれないですむために過ぎなかつた。他を侵さうとする野心や、驕つた慾望が微塵もあつた譯ではなかつた。それはつゝましい防禦の心からであつた。にも拘はらず彼等はたゞ握ることは出來なかつた。もぎとらなければならなのであつた。これは何故であらう。——この苦悶は彼等の魂を底から揺り動かすものであつた。若し彼等に幾らかの金と幾らかの土地があつたならば、初めから人の住まつてゐる家などに手をも觸れないですんだであらうし、相手の人々にしても、それだけの金とそれだけの土地を持つてゐたら、一つの家に五月もかかつて醜い爭ひをする前に、今一つの立派な家が出來上つたであらう。然るにどちらの手も空つぽであつた。——このことを思ふ時、彼等の事件は一つの非常に重大な問題に根ざしてゐることを感じないではゐられなかつた。本統にすれば彼等は一と群れになつて、嶮しい人生の路を劬はり合つて進むべき筈であつた。常に愛と信頼を分ち合ふ最も親密な仲間であるべき筈であつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それを感じ、それを知つてゐる。而して尙も相爭ふことを、爭ひ合ふことを止めることが出來ないのであつた。

八月も頓て二三日で終らうとする頃までになつたが、家の方の話は一向に捗らなかつた。寺井からは相變らず何の音沙汰もなかつた。K――氏は旅行から歸つたことが分つたゞけで、その後彼と寺井との間にどれ程の交渉があつたのやら少しも知れなかつた。暑中休暇中のことで學校で友三と逢ふ機會は元よりなかつたし、訪ねても多く留守であつた。彼等は電話で氣短かな不平を云つたり、果さない約束の言葉を受け取つたりするだけで、毎日當途のない苛立たしい日が過ぎて行つた。違つた意味からではあつたけれども、彼等の後にはまた彼等の家主が丁度彼等の心持と同じ心持を抱いてゝくれて、怒つて、今にも彼等の足がその家を離れるか〳〵とねらひ詰めてゐるのであつた。これは全く奇妙な堪らない狀態であつた。而してこの苦しい刺戟は違約の日數に比例して進んで行つた。

寺井が終に而かも初めて彼等の家を訪ねて來たのは、この狀態が最後の支持力に依つて僅かに保たれて、この上は何等かの變化なしには到底堪えられなくなつてゐた瞬間であつた。彼は一人ではなかつた。四十五六位の太つた薄いあばたのある男を同伴してゐた。座敷へ通されて座に着くと、寺井はその人のことを彼の家の古い知己で、商務上、並びに家事上に就いて、萬事相談をかけてゐる者だと云つて友三に紹介した。弓子は茶菓をすゝめて、形式上の挨拶をしただけでわざと座を外づしてゐた。けれども彼女の注意をその場所から奪ひ去ることの出來なかつたのは勿論であつた。してよい事ならば立聞きでもしてゐたい位の熱心を以つて、座敷の方の話聲に耳をすましてゐた。現はれなければならない者が終に現はれたのであつた。併し今になつて何を云ひに來たのであらう。これ以上まだ待てと云ふのであらうか。」今日までの違約と背信は何と云つて辯解するのであらう。――弓子は胸が高く打つのを感じた。

座敷からは一つの低い聲が聞えてゐた。彼女は直覺してそれが寺井の聲であることを知つた。それに答へてゐるらし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い友三の言葉も年寄の割りに小さなゆつくりした聲であつた。軈てその中に別な太い聲が交り出した。それはあの同伴者の聲でなければならなかつた。聞いてゐると暫くその男の聲のみが續いた。早い口調で何か頻りに捲じ立てゝゐるやうであつたが、弓子の坐つてゐる茶の間までは、話の筋道がはつきり分るほど連絡した言葉は聞こえなかつた。が、きれぐの文句で彼が引越は當分不可能だと云ふことを主張してゐるらしいことだけが感じられた。三四の言葉がやり取りされた。急に調子が双方とも強まつた。途端に二つの聲が相撃つやうに鳴つた。

『そんな分らねえことを云ふもんぢやねえ。』

『分らないのはそつちだ。』

彼女ははつとした——こんな荒猾の言葉や調子が、彼等の住まつてゐる家の中で、殊に客と主人の間に發せられたことは曾てないことであつた。ぢつとしてゐれば何が始まるか知れないやうな氣がした。彼女はどきぐした。立ち上つた。而して第二の何と云つたのか鋭い客の聲が耳に入つた時には、我を忘れて見えない大きな手から押し込まれるやうにその座敷へ入つた。

『私の家ではそんな聲はなさらないで下さい。』

彼女は行きなり斯う云つた。けれどもそれ以上は客の方へは云はなかつた。彼女は靜かに友三の方を向いて尋ねた。

『お客様はどう仰しやるのでございますか。』

『寺井さんは家が見つからないから當分引越せないし、またいつ引越せるかも分らないと云ふ御挨拶なのだ。』

友三は寧ろ本人の寺井よりは同伴者の太つた男の方を相手にしてものを云つてゐることは明かであつた。彼は[illegible]した青い顔をして、その男のあばたのついた平つたい顔を見据えてゐた。

「――つまりさう云ふ譯になるのですね、君の話のやうだと。」

太つた男も突つかけるやうに應じた。

「兎に角當節に一月や二月で家を探させようなんて云ふのからして間違つた話ですからね。――引越し度くも引越せる譯のもんぢやありませんよ。」

「誰が一月や二月で家を探せと云ひました。――まあ君は默つてゐてくれ、――寺井さんへお聞きし度いのだ。――斯んな面倒の起らないために半年近くの餘裕をあげてもあるし、引越の期日に就いても度々あなたとお約束もしたことぢやありませんか。それを今頃になつて根柢から覆へすやうなことを云ひ出すのは一體どう云ふ譯なのです。」

「何分にも家がありませんし、あつても法外な家賃で、その上馬鹿々々敷い敷金がついてゐたりするので一寸手が出せませんものですから。」

彼は太つた男程無作法な言葉も使はなければ、相手の感情を傷けるやうな動作も示さなかつた代りに、捕へどころのない、その場逃れの返事のみをしてゐた。

「兎に角私の方としてはこれまで幾度も申上げてある通りこの家には到底ゐることは出來ないのです。今日までお待ちしたについても物質上だけで云つても僕等にはしよひきれない程の負擔をしよつてゐるのです。打ち明けたところこの儘ではやりきれないのです。然るにあなたの方は兎に角二軒の家を持つてゐる。新たな家を探すことがそれ程困難であれば二つを一つにしても住める譯ぢやありませんか。それもならぬ、これも出來ないで、それで不義理をして威張つてゐる。――どつちが分らないか子供に聞いても判斷されることです。」

寺井は默つてゐると太つた男がまた口を入れた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『物事が議論のやうに運ぶものぢやありませんや。——議論は議論、實際は實際で、何んと云つたつて——！』

『君は默つてゐ給へ。』

『默つてちや話が分らねえ、あなたのやうな——。』

『君とは話はしない。——寺井さん、あなたは何のために斯んな人を連れて來たのですか。この人が僕等の事件に何の關係があるのです。』

『——何かの事に就いて相談をかけてゐるものですから、K——君も色々心配してくれまして。』

彼は幾らかおど／＼した低い聲で辯明した。それは人の同情を呼び易い態度であつた。而して太つた男の露骨な厭氣味の惡いやうな動作に對照して、彼自身を善良らしく見せた。弓子はすべてを見、すべてを聞いてゐた。この場面がこの儘に進む時には決してよい結果に終らないばかりでなく、いつまでたつても同じ議論、同じ不平、同じ胡魔化し、同じ拒絶を繰返す果てしのない廻り舞臺に陥るに過ぎないことが感じられた。これは考へても情けない痛ましいことであつた。而してその中からお互に救はれようとするには、餘程思ひきつた方法に依らなければならないと思はれた。その瞬間一つの考が彼女を襲つた。

『さし出がましいやうですが——。』

彼女は斯う云つて口を開いた。弓子は同居説を提案したのであつた。

『あなたの方でもよく／＼の事情がおありなさる事でせうし、私の方でも今まで申上げました通りの譯でこの家にゐることは出來ないのですから。さう云ふ事になすつたら如何でせう。』

この言葉は確かに客を驚かしたらしかつた。二人は一寸と目を動かしたきりで默つてゐた。太つた男も口を入れなか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つた。

『考へて見ればこの問題はどちらがよいのわるいのと云ふべき事ではないのです。強いて悪いものを探せば私たちを斯んな目に逢はせる世の中がいけないと云ふより外はないと思ひます。』

世の中を悪者にするのはこの場合お互ひを傷けないですむ一番の良法であつたので、彼女はすべての責任をその方へかづけてしまつた。而して彼等はお互ひに災難に逢つてゐるのだから、寧ろ喧嘩をしてゐる場合ではなしに、協力してその災難を切り抜ける方法を講じなければならないと思ふと云つた。

『御一緒に洪水や火事に逢つたと思へばよろしいではありませんか。その時には我儘や贅澤は云つてはゐられません。どんな知らない方とでも家を分け軒を譲り合ふのが人情です。幸ひあちらの家は廣いさうですし、それにお宅ではお三人しかゐらつしやらないのだとすれば、二軒の家が住んで行くに差し支えもあるまいと思ひます。――あなたはどうお思ひになりますか。』

彼は先づ第一に夫に尋ねて見た。

『それでも構はない。』

彼はきつぱりと躊躇なく承諾した。

『寺井さん、如何でせう。』

いろ〱な答辯に就いて元より細かい打ち合せをして來たであらう二人も斯んな突飛な申出に對してはその用意を缺いでゐたのは勿論であつた。彼等は何んとなく不意を襲はれたやうな狼狽と孤疑を現はしてゐた。而していづれ夕方までに何とか御返事をいたしますと云ひ置いて歸つて行つた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「あの人たちは本統に困つてゐるのでせうか、それとも圖々しいのでせうか。」

「さあ、兩方だらう。」

どちらかゞはつきり知り度かつた。

「でも長くゐる氣遣ひはありませんわねえ。人の家を借りて、家賃は納めないで、半年近くも待たせた上に、またその家に同居すると云ふのですもの。普通のものならば頼まれたつて長くゐられるものではありませんわ。」

彼女は圖に乘つて斯んなお喋舌をしてゐるうちに、自分がどんなに淺間しい人間であるかに心づかないではゐられなかつた。これ等の考へ方は十分前に彼女が客の前で語つた言葉——決して策略でなしに多くの眞情と感激から發した言葉とは、天と地獄ほどの相違を持つたものであつたから、圖々しい惡者は彼女自身でなければならなかつた。

彼女はその半日は特別に百二十時間もあるやうに感じられた。承知して來るだらうか、それとも斷はつて來るだらうか、その間彼女は色々に考へて見た。あの場で直ぐ拒絶しなかつたことが幾分の望を與へるだけで、一向見當がつかなかつた。どのみち早く日が暮れてしまはなければ困つた。

「斷はる氣ならあの儘で何んとも云つて來やしないよ。」

友三は斯う云つた。弓子も成程と思つた。ところで彼は午後からは或る會があつて外出しなければならなかつた。

「若し承知して來たら明日でも引越せるのだね。」

「荷物は出來てゐますけれども、馬車や手傳の者は直ぐ明日の朝と云ふわけには行きませんわ。——明日はお掃除だけにでも行つて、明後日引越すことにいたしませう。」

「それでもいゝ。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

おゝ、若しそれが本統にさう出來たら。――斯んな打ち合せをして置いて彼は出掛けた。

終に日が暮れた。けれども寺井からは何んとも云つては來なかつた。矢張り駄目なのか。と思ふと彼女は非常に失望した。朝から意外な刺戟があつたのと、當てにならないとは思ひながら、尙ほ感情に甘へる期待を捨てかねてゐたのでその失望は一層強く彼女を挫いたのであつた。茶の間の時計が九時を打つた時には、彼女はもう諦めなければならないと思つてゐた。丁度その時であつた、玄關のベルが鳴つたのは。その鳴らし方で友三が歸つたのでないことが彼女には分つた。それならば他の誰が來たと云ふのであらう。――彼女は僅に勢づいて自分で玄關へ急いだ。

土間に立つてゐたのはずつと前の晩に訪ねて來た寺井の弟と云ふ人であつた。遲くなつて急ぐからと云つて彼は立つたまゝ話をした。

『折角のお言葉ですから、家の見つかりますまでお世話になることに話が極まりましたので。』

それで一と安心であつた。彼女は改めて承諾の旨を答ふると共に、胸がしぼまつたやうな氣がした。

『つきましては――。』

彼はまた口を開いた。弓子は本能的に、警戒するやうな氣持になつた。彼女の胸はまた強く引き締まつた。聞いて見ると部屋割をして來たのであつた。湯殿と臺所だけを共同にして寺井の方では階下に住み、彼等には二階に住んでくれと云ふのであつた。これはちよつと聞くと尤な云ひ分のやうにも聞こえるけれども、實情に就いて考へると非常な不公平が含まれてゐた。二階は十疊の廣間に六疊と三疊の小部屋がついて三間しかなかつた。雇人たちを入れると七人にもなる彼等の家族を其處に住ませて、寺井の方では階下の全部六室を、それもたつた三人で取ると云ふのであつた。それでは餘りひどいと弓子は思つた。この際であるから一と通りの不便や混雜は元より忍ばなければならなかつたが、まだ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

むつきの離れぬ小さい子供の用事だけから云つても、二階住まひをすると云ふことは不可能であつた。且つそんな理由以外に彼女を強く不快にした一つの事があつた。それは、その部屋割がもう早や相談でもなければ要求でもなく、寺井の方で自分たちの都合のよいやうに勝手に取り極めて、彼等には單に申渡しに來たに過ぎないことであつた。これは、權利者側に立つと云ふ自信を捨て兼ねる彼女の感情を夥しく傷けるものであつた。

『それだけは困ります。』

彼女は反對の意を述べると共に、理由をも細かに説明した。不公平だとも云つた。また先方からさう云ふことを云ひ出すのは順序が違ふと思ふ、と云ふことをも附け加へないではゐられなかつた。

『兎に角、お互ひに災難に逢つたと思つて一緒にゐませうと云ふことで、最初から申し出したお話なのですから、どの部屋に居れの、この部屋はやらぬのなんて、そんな四角張つたことは云はないことにいたさうではありませんか。荷物一つの納め方から云つても、さう云ふことは女同士でないと分らないことですから、□□町の方へ參つた上で、よくあちらの方と御相談をして双方都合のよいやうにいたしませう。兎に角明朝早く部屋の樣子を見がてらお掃除に參る積りにしてゐますから、どうかさう仰しやつておいて下さい。』

その間彼は立つて默つて聞いてゐた。而してその旨を通じることを云ひ置いて歸つた。

丹子は茶の間へ歸ると皆んなを呼び集めていよ／＼引越せるやうになつたこと、明日は早く起きてお掃除に行かなければならないことを知らせた。皆んな嬉しがつた。子供たちは躍つた。長い／＼間話にばかり聞かされてゐて、今ではお伽話の中の小人（こびと）の家か、夢の宮殿かなぞのやうな、不思議な神秘なものにさへなつてゐる『自分たちのお家』がやつと明日は見られると云ふのであつた。彼等は興奮してゐて遲く父親の歸つて來るまで眠らなかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明けの朝は彼等の家は家ぢうがみんな小さい子供になつたやうに悦んで騷ぎ廻つてゐた。お天氣もよかつた。朝飯がすむと友三だけ一と足先に行くことにして、手傳の男を連れて出掛けた。その男が家ぢうにありつたけの箒木を持つて、またハタキを幾本も持つて、その上片手にバケツを提げて行く樣子がおかしいと云つて皆んな後から笑つた。それから一時間ばかりして弓子は車で、二番目の男の子を前に載せて出掛けようとした。また一人の女中は雜巾や前掛類を入れた大きな包みを持つてまだ車のゐるうちに出て行つた。留守番には小さい子供とその子供に附いてゐる女中が殘る筈であつた。彼女は一緒に行き度さうな顏をして見送つた。

「明日になればいやでも行かなければならないのだから待つてお出でなさい。」

弓子は斯んことを云ひながら車に乘つた。

四十分程かかつた。車が□□町の家の前に着くと、廣く押し開かれた門の前に手傳の男がぼんやり立つてゐた。而して一番に開け放たれて、賑かなハタキの音でもしてゐるであらうと想像してゐた二階け、五月前に見た時と同じやうに雨戶が閉めきられたまゝになつてゐた。

「どうしたのですか。」

彼女は子供を助け下ろしながら聞いた。

「旦那樣は。」

「此處の人と玄關で何かお話があつてゐるやうです。」

彼はこれ以上は云はなかつたけれども、それで十分にわかつた。よくない豫感が激しく彼女を襲うた。が、七枚の敷石を踏んで玄關の硝子戶の前に立つまでに彼女は心を落ちつけようとした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『遲くなりました。』

彼女はわざと快活らしく叫んで戶を開けた。入つて見てひどく暗い玄關だと思つた。

『やあ淸坊來たね。』

兩方に押しあけてある障子の右の方から友三が子供を呼びかけた。見ると彼が話をしてゐる相手と云ふのはいつぞや寺井と一緒に來たあの太つたあばたの男であつた。

『お上り。』

友三は弓子が子供と二人で土間に立つたまゝにしてゐるのを見て痛はるやうな調子で云つた。その土間にはバケツが持つて來たまゝにしておいてあつた。またハタキや箒木は式臺の隅に立てかけてあつた。彼女はその橫に子供を腰かけさせて、靴を脫がせてやらうとするといやがつた。子供の敏感な直覺力は、其處が決して愉快な坐り場所でないことを旣に悟つてゐるらしかつた。

『それぢやあなたは表へ出て遊んでお出でなさい。その內には茂やも參りますから。』

彼女は斯う云つて彼を外へやつた後で自分だけ上つた。けれどもそれ以上どの部屋へも一步も立ち入ることは出來なかつたのであつた。而して彼女が最初その玄關をひどく暗く感じたことも、明るい外光の中から來たためのみではなかつたことが分つた。玄關の右と左に通じてゐる廊下には、兩方とも硏き杉の狐格子の戶で、泥棒か闖入者でも防ぐやうに嚴重に閉めきられてゐたのであつた。

『一體どう云ふ譯なのですか。――昨晩のお約束は取消なのですか。』

彼女はどちらが答へても答へられるやうな斯んな尋ね方をした。太つた男は默つた大風な顏をしてよそを向いてゐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。

『お前の昨夜の言葉に失禮な申分があるから、そんな人と同居は御免だと云ふのだ。』

冴子は吃驚した。自分がどんな惡いことを云つたのだらう。――彼女自身には分らなかつた。彼女は考へた通りを云つたゞけに過ぎなかつたし、またその考へ方が間違つてゐるとは今でも考へられなかつた。

『人數が少なければ多くの部屋はいらないだらうの、また、掃除をしてから移るの、なんて云つたことがすべて惡いのださうだ。』

平常隅々の掃除も碌にしない女だと思つてゐるのか、と云つて年寄りの婦人がひどく怒つてゐるのだと云ふことであつた。この言葉を聞くと冴子は一層驚くと共に腹立たしくさへなつた。假りにそれもよいとして、それならば何故折返して斷はつては來ないのであらう。その儘今朝まで知らぬ顔をしておいて、人を足許におびき寄せて蹈みにじるやうなことをどうしてしたのであらう。――斯う思ふとその壁の向ふに住まつてゐる人々、殊にその年取つた婦人に對して冴子は激しい憤りを持たないではゐられなかつた。以前或る事期に感じてゐたやうな同情心などは微塵も感じられなかつた。その婦人が一番惡い智惠を出してゐるのだと云ふ氣さへした。――取り分け閉めきられた左右の廊下口の戸――釘づけにでもしたかと思ふやうに、把手さへ動かぬ程に閉められてゐる戸のことを考へる時彼女の心はまつ暗になつた。叩きこはしてもやり度い氣がした。友三もその事に最強く刺戟されてゐるらしかつた。

『君に何の權利があつてそんな失敬な眞似をするのだ。――兎に角君と話をすることは御免だ。責任者たる寺井君を呼んで來てくれ。座敷へ通せないほど僕が危險な男なら此處で逢つてやつてもいゝ。』

太つた男はこちらの詰問や要求には一切耳を藉さなかつた。而して考へられ得る限りの圖々しさと、頑固さと、且つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

横柄な挑戦的の態度を以て其處に那々張つてゐた。友三が堪えきれなくなつて手でもあげるか、掴みかゝりでもするかを待ち構へてゐるかのやうにさへ思はれた。其處に密かに怖ろしい陷穽（わな）が張られてあることは彼等によく分つた。せめてこの場にK——氏でもゐてくれたならば、專門的の立場から都合のよい妥協策を見出して呉れるかも知れないと云ふ氣がした。彼等は偏ほ彼の力を賴みにしたのであつた。友三は手傳の男を呼んで電話をかけさせた。が、K——氏は矢張り留守だと云ふことであつた。彼等は重い息をつき合つたまゝ、默つて、暗い中に坐つてゐた。軈て襖の後では小鉢や皿の音がして、ごろ／＼と鰹節をかき出した。

『あの人たちは平氣で晩御飯が食べられるのだ。』

斯う思うてその音を聞いてゐると、門口に物貰ひが立つてゐる程の顧慮もなく、落つき拂つてそれをかいてゐる人の姿が目に見えるやうであつた。其處へ、

『この家だ、この家だ。』

と呼ぶ子供らしい聲と共に、三四人の小さい入り亂れた足音が門の前に留まつたかと思ふと、入口の戸が前から開いてその間から女中が覗いて云つた。

『大きいお坊ちやまがいらつしやいました。』

今日は土曜日で、彼はもう學校から廻つて來たのであつた。——既に自分の家へ歸つた氣持ちで。弓子が行つて見ると三人の友達がゐた。彼等の家はこの近所だと云つた。それで友達に馴れぬ路を案內するために、また友達の新しい家を知るために、今一つはその家で最初のたのしい一と遊びをするために連れ立つて來たのであつた。彼等は手傳の男や女中から其處で遮られたらしかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「何故家へ入つちやいけないの。」

子供が無邪氣に、それで幾らか心配さうな顔をして斯う尋ねた時、彼女の胸はふと塞がつた。弓子は滅茶滅茶に悲しい氣持になつた。

十五分の後、彼等は皆んな連れ立つて、來た時とは全く變つた心持でその家を出て、電車路の方へ歩いて行つた。數ケ月前に彼女が同じ場所から、我等人類のたつた一つの共同のランプだと思つて仰いだ太陽は、丁度その時と同じ天の位置にあつて、その一と群れの影を廣い道路の上に黒く印してゐた。けれどもあの光の中に立つて感じたやうな感情は、今日の彼女には失はれてゐた。愛は憎みに、憐みは怒りに、助け合ひ、分け合ふことを思つた心は、奪はずに置くものかと云ふやうな激しい敵對の念に變じてゐた。それでゐてひどく氣が沈んでゐた。誰にも見られないで泣いてゐたいやうな氣がした。

二三日して友三は云つた。

「どうも引越料をねらつてゐるのだね。さうでなければこれ程たちの惡いこだわり方をする譯はない。」

あゝ、あの人たちは私たちの金入がもう殆んど空つぽだと云ふことを知らないのであらうか、と弓子は考へた。

「お家賃だけもいゝ引越料になつてゐるのに。」

「K――君なんぞもその意見だ。」

彼は昨日久しぶりにK――氏に逢つたのであつた。

「兎に角、あれまでに漕ぎつけて駄目にしたのは非常な失敗だと云つてゐた。」

「――さうすると矢張り私が惡かつたのね。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『餘計なことを云はなけれりやよかつたのだ。一階でも階下でも構やしない入つて仕舞つてをれば後で話はつく、と詰まりさう云ふのだ。お前のそんな場合の馬鹿はさう惡いことではないと僕は思つてゐるが、併し悧巧なやり方ではないと云はれると辯解の仕樣がない。』

あれ程鬪々しい惡人だと思つた自分は、もつと〳〵狡い智惠を練らなければならなかつたのであつた。彼女の目には複雜を涙がにじんだ。

この不快な出來事は、一方から云へば彼等の態度を決定的にさせた點に於て有効なものであつた。而して常に彼等の心に並んで小さい溝を掘つて、彼等がどんなに怒つてもその怒の氣を拔き、どんなに憎んでもその憎みを去勢し、肝を食ふ程の焦燥をもいつとなしに靜めて來た一つの感情も、この最後の腹立の中では完全に燒き盡されてしまつた。彼等はもはや如何なる道德觀にも煩はされなかつたのであつた。蠻人の如くたゞ强くなることが出來た。而して彼等が他の部落民の砦をねらふと同樣の熱心と勇氣と、復讐心にさへ燃えて、彼等の敵對者から家を奪ふことに心を碎いた。——同時にまた彼等の敵は後にも迫つてゐたのであつた。

大村の方はもういつ引越すかとも訪ねて來なくなつた。彼等も云つて行かれなくなつた。どんなに先方を怒らしてゐるかはよく分つてゐた。が、彼等はもう怒りを解く氣にもなれなければ、事情を話して了解を求める根氣も盡きてゐた。すると彼等の家に奇妙な訪問者が集つて來だした。

『××町××番地の貸家と云ふのはこの家ぢやないのですか。』

或日庭先の菜戸から洋服の男が二人無遠慮に入つて斯んなことを聞いた。弓子は喫驚した。

『此處は貸家ぢやありません。』

と云つてやると、變だと云ふやうな顔をしてそれでも、直ぐには歸らないで、家の様子をじろ〱と見廻したり、庭の廣さを計つたりして行つた。弓子は栞戸に掛金をかけ、玄關にも晝間でも鍵をかけておいた。するとお客様のやうにベルを鳴らして取次を乞うた。人に依るとどうせ空くのだらうから部屋の中を見せてくれの、現在の家賃はどの位かのと聞いた。斯んな訪問者が毎日何人となく來るやうになつたのであつた。悪くすると知らない間に彼等の寢床や食卓が表に運び出されてゐるやうなことになるかも知れない氣がした。斯うなつては彼等はもう半日も一時間も住まつてはゐられなくなつた。

『なに、心配することはない。』

明けの日朝早く起きると、友三は一二冊の書物を風呂敷に包んで、而して田舎から出て來た親類の若い學生を連れて家を出た。彼は最後の冒險を試みようとするのであつた。晝過ぎ頃彼女はノオトの紙片に萬年筆で書いた彼の通信を受取つた。

兎に角二階を占領した。

併し門を入つて玄關をあけた時、誰が取次ぎに出たと思ふ。一番嫌ひなあの太つたあばたの男だ。これには一寸驚いた。こつちは不意を襲ふ積りだつたのに、あの男は先廻りして店から來てゐたのだ。あんな男には靈妙な妖氣があつて、斯んな場合には普通人以上の感應力を發揮するのかも知れない。どちらにせよ奴は待ち伏せしてゐた形になつたのだ。而して僕の前に立ち塞がらうとした。僕は平氣でかまはず二階へ上つて行つた。敬公も後からどん〱上つて來た。二人で雨戸を開けた。三つの部屋の雨戸を皆開けた。階下では狼狽し出したやうだが、知らん顔をし

てゐた。あばたが上つて來たから、

『あちらの家はもう借家の廣告に出て每日新しい借手が十人ばかり見に來る。とても住まつてゐられないから僕と書生だけ今日からこの二階にゐることにした』

と云つてやつた。外の者は誰も顏を出さない。彼は相變らずぐづぐづ云ひながら何遍も上つたり下りたりしてゐるうちに、とうとう本音を吹き出した。三百圓小切手を書けと云ふのだ。書くだけなら一萬圓でもかいてやるが、一體何處の銀行で支拂はせる積りなんだらう。そんな金があつたらこつちで使ひ前があると云つてやつたが、それでも信じないのだから始末にいけない。一二月籠城する氣ならどうにかなると思ふ。就いては兵糧を賴む。すしでもなんでもよい。敬公の歸る時に持つて來させてくれ。――荷物も大きいのを少し持ち込んで置いた方がよからう。車に一二台寄越してくれ。心配してゐるといけないから、これだけを報告して置く。――廣いから凉しくつていゝ氣持だ。

丹子は云はれた通りおすしを澤山と、それにサイダアを三本添へて藤の籠に入れて、手紙を持つて來た敬市に持たせてやつた。それから大急ぎで運送屋を呼びにやつて、二臺の車に成るたけ大きなかさ張つた荷物を載せて送り出した。

『荷物は先刻つきました。』

二時間ばかりの後敬市は斯う云つてまた歸つて來た。彼は第二の通信を持つて來たのであつた。

――終に寺井が現はれた。彼が本統に困つてゐるのか、圖々しいのか知り度いとお前は云つてゐたから知らせて上げるが、あの時兩方だらうと云つた僕の言葉は少し間違つてゐた。矢張り圖々しい方が勝つてゐるやうだ。たゞ

あばたの男とはその圖々しさが違ふだけだ。陰性の圖々しさだ。彼は泣言を云つたり、また僕をすかさうとしたりあらゆる方法を用ゐた、僕が斷然受けつけないと見ると、今度は辯護士を呼んで來ると云ひ出した。誰でも呼んで來いと云ふ氣で僕はゐた。が、向ふが專門の男を引つ張つて來るなら、こちらも矢張りK――君でもゐた方がよいかと思つた。電話をかけさせたが相變らずゐない。それならそれでもよいと思つて腹を極めてゐると、寺井の賴んだ辯護士が來た。僕は驚いた。誰だと思ふ。S――君だ。

弓子も讀みながら吃驚した。彼は若い法學士で、滅多に逢はなかつたけれども、逢へば遠慮のない話をし合ふ知人だと云ふことを彼女も知つてゐた。

S――君は寺井の、あの弟の友達でそれで引つ張り出されたのださうだ。相手が僕だと聞いて少し困つたさうだが、却つて話がしよいだらうと思つて引き受けて來たと云ふことだ。僕も好都合だと思つた。それで初めから今日までの話をすつかりした。今の家を追ひ立てられてゐる話から、この家を買つた話から――決して金があつて買つた家でない譯まで正直に說明した。それと共に奇妙な現象が生じたのだ。先方の委任辯護士なるS――君がすつかり僕に同情した譯だ。私の立ち場としては云はれないことだが、それでは伊藤さんがお氣の毒だ、と云ひ出したのだ。詮り僕は味方の辯護士からは見離されて、敵の辯護士の同情を贏ち得たのだ。おかしなこともあるものだ。恐らくに寺井の方はその反對であつたかも知れない。最初の面會以來K――君と寺井とは話が合つてゐるらしいから。――兎に角、斯んな譯で案外によい結果になるかも知れない。また手紙を書く。

三度目の通信は書く代りに彼が自身で歸つて來た。階下の部屋を三つだけ一週間その彼に貸してやると云ふことで話がついたのであつた。

『あゝ、ひどい目に逢つた。』

彼は座敷のまん中に打ち倒れて手足を踏み伸ばした。

『本統にひどい目に逢ひましたね。』

彼等は劬はり合つた。が、それつきりで默つた。二人とも熱の醒めた後のやうに妙にがつかりしてゐた。友三は何かを考へるやうな表情をしていつまでも默つてゐた。弓子は彼の考へてゐることを探り出さうとするやうに坐つてぢつと彼の顔を見てゐた。

(完)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

影繪のごとく

室生犀星

毎朝、立鏡のうちに映る白い道路と、向いの米屋の繩すだれとの間に、ひよつこり小路から出てくる姿を見つけた。バリカンや櫛の手入、下剃の湯沸しの火をいれてゐると、きまつたやうな洋服姿が鏡にうつつて、すぐ通りへ曲つて行つた。おきみは、ちかちか光るバリカンを小刷毛で拂ひながら、ときどき硝子戸の白いカーテンを分けて見送つた。

カチカチいふ物憂い鋏の音もやや疲れをかんじるころ、五時に廻ると、正二の、れいの洋服姿が小路へ消えて行つた。……白い前垂れをしてゐるため、おきみの色はなほ際立つて白かつた。髷がよく乘つて、まめで、下剃りをやつてゐた。

「あの人の家にゐたのかい。向ふではもう忘れてゐるだらう。」

夫はさう言ふだけで深くは尋ねなかつた。なんでも子供のときに貰はれて、十五のときまで育てられたと聞いてゐたが、何の爲めに實家へ歸つたのか解らなかつた。

夫もたまには、正二の姿を見つけると、ひまなとき新聞を擴げてゐるおきみを、そつと肘で突くやうにして囁いた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「來たぜ。お前の兄さんが……」

おきみは赧くなつて、鏡のなかと、道路の方とを透して見くらべた。いくらか病的に白い正二の强い近視の目金が、もの憂い午后のうすれ日にきらついて見えた。

「そりやほんとにひどい近眼なのよ。目金がないと歩けないくらゐよ。」

彼女は、さういふ原因が讀書にあること、いまでは役所でもかなりな重要な地位にあることなどを、田舍から出たばかりの土くさい新作に話した。この店もおきみの兄からの出費で、雪が消えるとすぐに田舍で結婚して出てきたのである。

「あたし一度おうかがひしないと、わるいんだけれど……。」

「行つたらいいぢやないか。お世話にもなつたんだから。」

おきみは、夫の顏をしづかに見て、すこし明るく浮いたやうに言つた。

「行つてもいい？」

「いいとも。近くに知合ひがあると氣丈夫なものだ。」

おきみは、正二に姉と、東京へ行つてゐる弟とがあることや、きびしい母親の事などをも話した。田舍へ行つてから四年も經つたので、向ふでも變つてゐるだらうし、自分も見違へるほどになつてゐるやうに考へられた。かうして世帶をもつてゐることなども、きつと喜んでくれるに決つてゐる。おきみは、明日にも訪ねて行きたい心で一杯になつてゐた。

けれども次から次へと客があつたり、晩がおそかつたりしてその儘になつてゐた。にはかに溫かくなると、なほ春刈の客が多かつたりして、ついぞ閑暇がなかつた。鉢の木瓜がすつかり開きつくしても、まだ手隙がなかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「ちつとも手すきがなくて困るわね。ちよいと時間があればいいんだけれど……。」
おきみは、毎朝のやうに道具の手入れをしながら不平さうに言ひ出した。むんずりした新作はそのたびに返事をしてゐたが、しまひには煩ささうに聞いてゐた。
「それよりも商ばいの方を身に入れてやつて呉れなきやいかん。」
たまには、おきみの氣を兼ねながら言ふこともあつた。
おきみは、默つて物憂い鋏とバリカンの音をきいて、一日づつを暮して行つた。立鏡のなかには、れいの正二の洋服姿が毎日映つては、小路をまがつて消えて行つたのである。

朝、道路へ水をまいてゐると、靴音がして正二とはじめて顏を合した。正二は、びつくりして立停つた。
「さうか床屋へ片づいたのかい。」
おきみは、品のある顏立ちにいつもの壓されるやうな氣持ちをかんじた。
「二タ月ほど前にこちらへ出てきたんですの。お伺ひしようと思ひながら、つい忙しいものですから。」
正二は、おきみがすつかり女になつてゐるのを次第に落着いて見まもつた。
「いつでも遣つておいで。弟もかへつてゐるし――。」
「さう弟さんもゐらつしやいますの。ではお賑やかですわね。」
おきみは、夫とふたりばかりの家とくらべて、たくさんの家族のなかへ行つてみたかつたし、活潑な弟がどう變つて

ゐるかも知りたかつた。

「ぢやそのうち還つてくるんだね。いづれ又。」

正二は、帽子のへりに手をかけると、もう歩きかけてゐた。それが五六年前と同じい特別に案氣ないところもないだけ、深い熱のあるところもなかつた。やはりああいふ人か知らとおもへた。

殘り水を一どきに朝日のこぼれた道路へ、さつとながした。――入口には、新作が刈込みの栗毛を低づめにして居た。おきみは、正二が目をそらしては、うしろの方を見てゐたのは、此處に立つてゐた新作を見つめてゐたのだと考へた。

「まだ若いやうだね。」

新作は、すぐ目をおとして、俵の上をごしごし壓しつけた。

「さうね。あなたと同じくらゐ。一つも上かしら。」

虎の二黒で、一つ上らしかつた。ちよいと見には、新作とはずつと色が白いだけでも若くなつて見えた。

「毎日ああして勤めるのもいいな。暢氣でね。」

おきみは、すぐ反對した。

「暢氣ぢやないわ。いまの役になつたのも試驗を受けてからなつたのよ。」

少年時代から勤めてゐて、一と飛びに今の役についた正二は、近よつてみると、妙なところに若さが擦り減らされてゐた。おきみは、よく宿直の晩には梢辨當をもつて行つた裁判所のすぐ、廷丁室のある裏口をおもひ出した。

そこは一杯の雜草地になつた空地にこのごろになると、一尺も伸びた太い土筆が、いちめんに生え込んで、わづかばかりの微風にも毬立つた穗が吹かれてゐた。宿直室から出てきた正二は、兩手をふところに入れたまま、いかにも此の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大きな鑛物を預つてでもゐるやうないかつい顔をしてゐた。それが又おきみにとつて、かなり立派な、しつかりした印象をあたへた。

湯が立つてゐることがあつたりした。ぴつたり閉めた浴室から、靜かにパチつく炭火の匂ひがして、正二がぱちやぱちややつてゐることがあつた。――廷丁は、まだ事務室の掃除に行つてゐて、あたりは森としてゐた。

「兄さん、ながしてあげませうか。」

おきみは、辨當を宿直室の大机の上に置いて、箸まで揃へて、出てくると何時(いつ)かういふのが常であつた。

「うん。しかしどうでもいい。」

正二の肌は、ほそづくりで白かつた。洗ひ洗ひ

「ずゐぶん淋しいお役所ね。」といふと

「なれれば何でもないよ。あとで見せてやらうか。」

さういふ正二は、食後に豫審廷から證據物件の入つてゐる金網の戸棚などを、まだ閉めてない仄暗い土藏のなかで見せてくれた。アルコール漬にした無氣味な肉體の一部や、さびた刃物や、賭博のかるたや骨子(さいころ)や、よごれた手拭などもあつた。おほかた昨日あたり收めたらしい懐中時計が、ゆるいネヂがまだ殘つてゐて、かちかち寂しく鳴つてゐたりしてゐた。

おきみは、うすくらい戸棚のなかから、さまざまな人相のよくない顔がさし覗いてゐるやうで氣味が惡かつた。ことに殺人犯の着物だといふ盲縞の單衣が、ところどころが銅(あかがね)のやうな血のあとの光をにぶく漂はしてゐた。

「あれはみな血のあとなんだよ。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

正二は平氣でさう言つて、白い指さきで示した。

「まあ怖い。」おきみはからだが竦むやうな氣がした。

「あんな着物にちやんと蚤がくつついたきりで、いつまでも生きてゐるんだ。しつこいものだ。」

おきみは、いまにも盲縞の着物がふうわりと動き出すやうでコワかつた。

室のまんなかに大きな金庫があつた。そのかげで正二は……今になれば、それが何であるかといふことまで、おきみには、ややはつきりと考へついたのである。

れいの土筆のたくさんに生えてゐる裏口まで送つて出てきた正二は、あたりに飛ぶ赤蛙を足で蹴つておいて

「あんなところを見せて貰つたつて人に言ふんぢやないよ。」

さう言つて、目金のなかから少してれた目つきをした。

「それから……。」と正二はまた言ひ澱んだ。

おきみは、ただ、そのときぼんやりしたまま正二が何か言はうとしたのをすぐ引取つて云つた。

「言はないわ。誰にも。」

裏門をごとりと閉めた正二を……その白い顔をおきみは思ひ出した。……。

表のカーテンの隙間から、西洋洗濯屋が突然に御用聞きをしたので、おきみはちよいと吃驚りした。

「二三日あとにして下さいな。まだ早いやうですから。」

「では又。」

洗濯屋が行つてしまふと、やつと仕事をしまつた新作が店へ出てきた。歯をちゆちゆ鳴らして、又新聞をとりあげた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いつも音讀するので、虻のやうにのんびりした聲だつた。
「ぼんやりしてゐるね。湯沸しが乾いてゐる。」
氣がつくと、さつき使つた刷毛もそのままで、湯の銅壺がぱちぱちはじくやうな音を立てた。
「まあ大へん。」
水をさすと、一どきに湯けむりが灰白く立ち上つた。
「まだ一人前ぢやないね。床屋つてやつはちやんと樂しで計つたやうに仕事を片づけなくちやいけないんだ。」
新作は、ばさばさ新聞を裏返しながら言つた。
「だつて馴れないんですもの。仕樣がないわ。」
刷毛も洗つてしまつてから
「そのうちだんだん慣れるわ。そしたらきつと一人前よ。」
新作は、白い前垂れの反射で、なほ色白くなつたおきみを樂しさうに見つめた。それに今朝はどこか子供らしかつた。
何か一ついいことを言ひたいやうな氣がしたが、やはり默つて新聞をよみはじめた。
「あたしやはり一ど行かないと氣がすまないわ。」
新作は、音讀をやめると
「いつでも行つてきたらいいよ。こちらは構はないから。」と言つて「何か手みやげでも提げてね。」
「あたしもさう思つてゐたの。」
おきみは、あれかこれかと言ひ出した。いざ持つてゆくとなると、ちよいと見當がつかなかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「何だつて印しだからかまはないぢやないか。」

「だつて下らないものは仕様がないわ。」

新作は、話がめんどうになつたので、また習讀をはじめた。

「何がいいでせうか。」

新作は、わざと默つてゐた。

「だつてあたしには解らないんですもの。」

「うるさいな。お前の好きなものにしたらいいぢやないか。」

しばらく返事がないので新作はふいに目をやると、おきみは刷毛のさきで自分の指をこすりながら、しくしく泣いてゐた。

「どうしたんだ。おれには向ふ様の好きなものがわからないからさう言つただけなんだよ。菓子券でもいいし、何だつていいぢやないか。」

新作は立つてなだめるやうに言つたが、白い頸すぢをこちらへ覗かせたまま、おきみは默つて泣きじやくつてゐた。

「泣かないで買つてくるといい、今手もすいてゐるから一と走りに行つてきたらどうか。」

へいぜいから控え目にしてゐるほど温良しい新作は、ぽんと肩をひとつ叩いてさう言つてくれたが、それが優しすぎるのも、よく心でわかつてゐてもおきみは頑固にだまりこくつてゐた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

まさかと思つてゐたおきみは、正二の家へはいると、出てきたのは、まだ一度も見たことのない學校を出たばかりの、どこかほやほやな女であつた。すぐそれが正二の妻だといふことを感じた。胸がどきついた。

「まあ、よくこそ、おあがりなさいまし。」

聲も冴えて、紅みをさした美しい容貌をしてゐた。いち早く、氣のつかないうちに、着付からすつかりを見られたやうでさもしかつた。足袋も穿きかへてくればよかつた。

「正二がいろいろお世話になりまして――いつもお噂さをしてゐるんですの。」

おきみは、赤くなつた。

「いいえ。あたしこそ子供の時分にこちらでお厄介になつたんでございます。ついお伺ひするのが遲れまして……。」

いくらか窮屈で話しづらかつた。

茶の間の柱の時計も、茶棚の上に三つならんだ大きな炭取り、古い提灯の塗箱も鴨居に三つならんで架けられたまま、ほかには變化つたところがなかつた。

「ええ、十五のときまで居たんでございますの。生れてからすぐ此方で育つたものですから、まるで自分のうちのやうな氣がしますの。」

「まあ――。」

初耳らしく驚いて「すこしも存じませんでした。そんなに長くいらつしつたんですか。」

奥さんは、何か聞かうとしたが、思ひかへしてお茶をいれた。

日曜で、正二がそとからかへつて來た。妻君が何かいはうとすると、そのさきに、元氣さうに言つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「や、よく來たね。すつかり見違へるほど別品になつた。」

妻に向つて言つた。「このひとが子供のときから家で育つたんだよ。」

「いまお聞きしたんですの。ほんとに能くいらつしつて下さいましたわね。」

おきみは、だいぶ落着いてきた。しぜんに正二に向つて微笑んだ。

「お目出度いことがあつたのも些つとも知らなかつたんですの。知らしてくだされぱいいのに。」

正二は、あぐらを掻いて紙卷を指さきで揉んで、火を點けた。

「いや、もつと別品なら知らせるんだつたけれど。」

正二は、愉快さうに微笑つた。おきみは、奥さんと目配せをして、まああんなことを言つてと目を瞬かせたが、その目が向ふで、ふいに逸れた。すくなくとも左ういふ氣がした。

「店の方がうまくゆくかね。場所としては大變佳いところなんだが――。」

おきみは、まだ二ケ月位にしかならないけれど、一度來てくれれば、つぎに又きてくれるので自然常客もだんだん付くやうになつたと言つて

「あの様子だと土地にさへ落着いて居れば、その日暮しに困るやうなことはございませんの。」

奥さんの手前、自分の仕事を言ふのが恥かしかつた。

「そりやいいな。僕もそのうち剃りに貰ひに行かうかな。」

正二は微笑んで、何氣なく膝の上にあるおきみの白い手を見た。

「どうぞ。」

さういふおきみの小さい顔には、まだ可愛げな子供らしさが殘つてゐた。
「お前を見にゆく客だけでも相當にあるかも知れない。」
正二は、冗談めいて云つて、さういふ客もあるやうに思へた。すこしばかり平つたいと思つた小鼻も整つてゐた。
「兄さんは酷いわ。誰ひとりだつてあたしを見にくる人なんてないわ。」
おきみは紅くなつて砕けた言ひかたをした。默つて愛想笑ひを話の合間に挿んでゐる奥さんは、つとめて何か言はうとしても、永い間兄妹ともめあはせともつかずに育つた二人の親密さに、すこしの隙間さへなかつた。
「むつつりとして座つてゐるのが御亭主かい。いつも新聞を讀んだりしてゐるぢやないか。」
氣のつかない振りをして知つてゐるのは、この間逢ふ前から自分があすこに居ることを知つてゐたにちがひないとおきみは考へた。それから何故か親しげな氣がしたのである。
「え。田舍丸出しな人なんですの。この町へも初めてなんです。」
「そんな風な人だな。あれでむづかしいところがあるかい。」
おきみは、正二の目いろに答へて柔しく微笑んでみせた。
「あのままの人ですの。かざりも何もない田舍者です。でも隨分しんせつにしてくれるんですの。」
正二は、聲を出して笑つた。
「のろけるには驚いた。あれだから耐らない。」
振りかへつて奥さんの方へ顔を向けた。奥さんは仕方なしに低い聲で微笑んだ。おきみは赤くなつた。
「そんなつもりで言つたんぢやないんですの。そりや兄さんとくらべると無教育なんですもの。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「まあ、さう言はなくともいいさ。でもよく仕事を覺えたもんだね。」

正二は、こんどは急におちついて言つた。

「そりやもう一生懸命になつて覺えたんですの。」

おきみは、仕事の方の話をし出した。どうせあとで知れることだからと思つて、奥さんの前で剃りは惡かつたが、どれだけ剃りぞこなつて人の顔を傷つけたか分らないことまで話した。何もしらない奥さんはそのたびごとに、珍らしい話に目を瞠つたり吃驚りしたりしてきいてゐた。

「でも其うちでも女の方の顔はいちばん剃りにくいんですわ。やつぱり自分が女だからですわね。——けども宅なんぞでも(女はどうも剃りにくい)と言ひますの。きつとこいせいや白粉氣もあるせいでせうがね。」

奥さんは、このおきみの言葉をさも感心したやうに聞いてゐた。

「さうでせうね。どんなにお骨折りのことでせうね。」

この女が白い前垂れをしめて仕事をするのかと、奥さんはいくらか不調和なほどハイカラなおきみを見つめた。

「そのうち入らつしやいましな。あたしていねいに剃りますから。」

「え。ぜひ今度あがらしていただきます。わたしなんかも剃るといいんですけれど、まだ一度もあたつたことがございません。」

奥さんはさう言ひながら、きめの細かいぼいんと張つたうすあかい皮膚をそつとなでて見せた。おきみは、まだ一度も剃刀のあてられてない產毛立ちのデリケートな皮膚をながめた。

そこへ二階から良男が、微笑つたまま、瘦せてはゐるがしつかりしたからだ付きをして降りて來た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「やあ、さう、床屋へ行つたのかい。まるで見違へてしまつた。」

さういふ政男は、兄の正二とくらべて肖たところはなかつたが、四五年前とはちがつて口髭まで短かくたくはへてゐた。

「まあ、あたしすつかり見異つてしまひましたわ——ほんとにお久しくそのせつはいろいろ……。」

政男は、兄の方へ振りかへつて、またおきみをながめた。

「變るもんだな。わづか四年やそこらで恁麼にかはるもんかな。」

感心しながら、此間まで梯子段の下へきて政男を食事のときには呼びにきた小さいおきみの姿を思ひうかべた。

「さうさ。四年經てば四歳になるわけなんだから。」

正二は、わかり切つたことのやうに、弟を顧みながら言つた。おきみは、微笑しさうに政男の髭を見つめた。そして

「だつて小さい兄さんだつてすつかり大人になつてゐるんですもの。」と、すぐもとのやうにカチ揃いた心持ちになることができて嬉しかつた。

「よくお前がいぢめたものさ。馬乘りになつてどやしつけたぢやないか。」

正二は横合から言つたので、兄嫁の前もあつたのでちよいと赧くなつた。おきみは、すぐこれも何やら思ひ出したらしかつた。

「小さい兄さんはずゐぶん酷いんですもの。覺えていらつしやる。」

政男は、そのとき溫かいおきみの胸倉をとつて小づき廻したことと、その溫かみがかうして向ひ合つてゐる生白いおき

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

みの、わづかばかり覗いてゐる胸もとからもかんじられた。

「うむ。そんなことは最う言つこなしさ。古いことなんですもの。ねえ嫂さん。」

奥さんは默つて靜かに微笑つてゐるばかりだつた。おきみは、何か言つて引込み勝な奥さんを引立てようとしたが、とりつきやうもなかつた。

「何かうんとご馳走をしてやるさ。どつさりしてやるさ。大食ひなんだから。」

正二が妻にさういふと、おきみは仰山に目をみはつた。

「まあひどい――奥さんおかまひしないで下さいましよ。」

正二を睨むやうにした。正二は立つて奥へはいつて行つた。

「兄さん覺えていらつしやい。」

さううしろから言つた。奥さんは兄さん兄さんと言はれるごとに、表情にまざるものを抑へてゐるやうな顔をしてゐるため、顔ぢやう固くなつて見えた。

「お好きなものを仰つてくださいまし。なんでもいたしますから。」

「いゝえ、わたしなら關はないで下さいな。なんにもほしかないんですから。」

さういふ讓り合ひをしてゐるまに、奥さんは立つて勝手へ出て行つた。

「それよりお話しなさいな。」と言つても無理に行つてしまつたので、おきみは妙にさびしかつた。

おきみは政男に、いろいろなことを聞いた。

「わたし一度でもいいから東京へ行つてみたいの。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「詰らないところだよ。東京なんてところは。」

政雄は、それきり東京の話をしなかつた。そのあとで、やつと小さい聲で

「お母さんは――。」

おづおづ尋ねた。政男はこれもすぐ思ひ出したやうに

「ちよいと出掛けたんだ。相變らず頑固でこまるよ。」

正二、政男、嫁に行つた姉、それらはみなおきみのやうに生れるとすぐ貰はれて育てられた。それゆゑ兄弟は似ないで、べつべつな血で集まつてゐたのである。

おきみは默つて柱時計を見あげた。政男も何か考へ込んでゐるので此の古い家は靜まり返つてゐた。おきみは河原町の店でかちかちいふバリカンの音と、店へ半分さしかけてゐる日さしとを目にうかべた。時計はちやうど三時をさしてゐた。

久振りで庭へでて見ると、筧のながれを引いたところの粉米花や小梅の樹やよもぎや百合やさまざまな雜草をそのまゝに圍ふた小高い土工台など、おきみが此處にゐたころとすこしも渝らなかつた。それらの出揃つた芽立ちが蒸されてこんもりと温かかつた。おきみは、正二のそばへ寄ると低い聲で囁いた。

「いい奥さんね。」

「さあ、見たところよささうに見えるが、やはりね。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

おきみは不審さうに正二を見詰めた。いまごろ當り前ならば、自分がこの正二と一緒になつてる筈だつた。ひよつとしたことから實家へかへされて終つたので、よくよく考へると妙に縁が切れてゐないやうにも思はれたが、もうこちらは亭主もゐるし、向ふだつて持つてゐる。——

「お前の方はうまく行つてゐるぢやないか。人のよささうな男だが。」

「そりや能くしてくれますけれど、なんだかやはり……。」

おきみは、かうして話してゐると、漸と物足りない氣が起つてくることを感じた。べつにこれと云ふ程もない穩やかな生活ではあつたが、どこか沈んだままで附勢のやうな氣がした。

「ぜいたくを言はないで辛棒するんだね。さう宜いことつてあるものぢやないんだから。」

「それもさうね。」

政男が出てきた。杏の葉うらに覗く小さい實を幾つも見出した。おきみも珍らしさうに目を遣つた。

「あのころとは餘程大きくなつたやうですわ。枝の廣がり方がずつと大きくなつたやうよ。あたしちやんと屋根から一尺ばかり空いてゐたことを覺えてゐるわ。」

さう云へば、もう屋根の上へ乘り出して、美しい鮮緑がうろこのやうに搖れてゐた。去年からの落葉がそのまま屋根石のあいまに乾びて殘つてゐた。

「お前はよくあそこから竿で落してゐたぢやないか。そしては叱られてゐたぜ。」

政男は、自分で採つてそれをおきみにとりつけたこと、そしておきみが烈しく叱られたことを思ひ出した。

「だつてお母さんはあんな實の數まで算んで置くんだもの。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

そのとき兄の正二も、同様に弟につみをにじりつけてをいて、杏の實を採つては食べたことを思ひ出した。おきみは、政男のことを、政男は正二のことをちよいとの間に考へた。

それが期せずして微笑ひとなつて、樂しさうに聲を立てた。蕗畑、枇杷のある籔隣り、垣根に一杯にもみついてゐる椿は、落ちつくして最う多のやうな濃い緑ばかりにかへつてゐた。

「兄さん。あたし最う一度此處へ來たいと思ひますの。でも賑やかでいいんですもの。」

おきみは、鎖の錆びた古るくからある鞦韆に、危なささうに腰をおろしながら、嫣然と微笑んで言つた。

「ときどき遊びにくれば、ここの家のものにならなくともいいぢやないか。結局は同じことなんだから。」

正二は、意味のこもつた寂しい微笑ひ顏をした。おきみも、それが直ぐ解つたやうに、ちよいと白けた。

「ぢやあたし時々やつてくるわ。」

「その方がいいよ。」

政男は、鋭い東京なまりで、そのとき口を挿んだ。

「隔れてゐるとお互ひが懐しい氣はするが一緒にゐると駄目なもんだよ。」

いつも人前に先立つて、ずばずば言ふ政男は、にべもなく言ひ放つた。おきみは、何か考へあてたやうに背い顏をした。三人がばらばらに考へを搜り合つてゐるやうな目で、庭をあちこちあるいた。

が、すぐ又、三人は話をむかしにかへして笑ひ合つた。

「あたし今日はほんとに嬉しいわ。ほんたうに四五年振りよ。」

さういふおきみは、そとの乾いた空氣に上氣せて頰をあかく染めてゐた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「なんだか暑いくらゐよ。」

かの女は、頬に手をやつて撫でて、あつさうにして見せた。さういふ一つ一つが殆娘らしく、新らしい目で政男に映つてきたのである。

「ばかだねお前は？」

正二がさう言つて母屋へはいつて行かうとした。

「ばかでもいいわ。ほんとに嬉しいんですもの。」

その聲をききながら、勝手へはいると、妻は、庖刀の手をやすめて蒼い顔をしながら何か考へ込んで、聞耳を立ててゐた。

「ご馳走ができたかい。手つだつてやらうか。」

妻は、正二の方を見ないで、低い聲で言つた。

「もうすぐですの。」

正二は、その物憂い濕つた聲音をきくと、すうと奥の間へ這入つて行つた。

あとで政男は、裁縫のそばへ寄ると、いきなりおきみの頸すぢを抱いた。

「どうしたの。」

家にゐる間も、しよつちゆう東京へ行つてゐた政男が、突然にかういふことをするのが可笑かつた。

「おかしな兄さん。小ちやい兄さん。」

おきみは、こんどは赫くなつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「東京で何してゐらつしつたの。そんなことばかり覺えてゐらつしつたの。」

政男は、おきみの目をみつめたまま、風に吹かれたやうな寂しい顔をしてゐた。

「どうせ東京にゐても、こちらに居ても何も出來はしないんだよ。遊んでばかり居るのさ。」

「それで？」おきみは微笑つた。「それでそんなことをするの。」

政男は、鎖のさびを小石で、ガリガリ剝ぎ落してゐた。おきみは、踊るやうな嬉しさで子供のやうに目をいきらして

それが艶やかにひかつて見えた。

低い足音がした。正二の妻が用意ができたからと呼びにきたのである。

「ほんとに濟みません。永くお邪魔してしまつて――。」

おきみは、よそよそしく言ふつもりではなかつたが、ついさう言つてしまつた。

「いゝえ。なにもおかまひしないんでございますよ。」

奥さんも、ていねいな言葉をくずさなかつた。政男はあとからのつそりと歩いて行つた。もう樹の影がながくなつて、

夕そよぎの蒼みが濃く葉の間に潜んでゐた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



亂世

菊池寛

一

戊辰正月、鳥羽伏見の戰で、幕軍が敗れたと云ふ報知が、初て桑名藩に達したのは、今日限りで、松飾りが取れようと云ふ、七日の午後であつた。

同心の宇多熊太郎と云ふ男が、戰場から道を迷つて、笠置を越へ、伊賀街道を、故郷へと、走せ歸つて來たのである。

一藩は、愕然とした。愕然としながらも、みんな爪先立てゝ、後の報知を待つて居た。

公用方の築麻市左衛門が、歸つて來たのは、十日の午前であつた。彼は、本國への使者として、浪花表で本隊と離れ、大和伊賀を、さ迷つた末、故郷へ辿り付いたのである。從つて、彼は敗戰に就いて、もつと精しい報知を持つて居た。慶喜公が、藩主越中守、會津侯、その他僅か數名の近侍のものと、夜中潛かに、軍艦に投じて、逃かるゝやうに江戸に下つたこと、幕軍を初、會桑二藩の諸隊は、算を亂して、紀州路に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

落ちて行つたこと、朝廷では討幕の軍を早くも發向せしめようとして居る事などが、彼に依つて傳へられた。

一藩は、色を失つた。薩長の大軍が、錦の御旗を押し立てゝ、今にも東海道を下つて來ると云つたやうな風聞が、頻りなしに人心を動かした。

桑名は、東海道の要衝である。東征の軍に取つては、第一の目標であつた。その上、元治元年の四月に、藩主越中守が、京都所司代に任ぜられて以來、薩長二藩とは、互に恨みを結び合つて居る。薩長の浪士達を迫害して居る、殊に、長州とは蛤門の變以來、恨が更に深い。彼等は、桑名が朝敵になつた今、錦旗を擁して、どんなヒドい仕返しをするかも分らない。

藩中が、鼎の湧くやうに、沸騰するのも、無理もなかつた。藩主も、留守であつて、一藩の人心を統一する中心がない。その上、多くの家庭では、思慮分別のある屈竟の人達は、藩主に從ふて上京して居る。紀州路へ落ちたと云ふ噂丈で、今は何處を漂浪つて居るか分らない。留守を守つて居る人々は、老人でなければ、女子供である。さうした家庭では、狼狽して爲す所を知らないのも當然である、

市左衛門が、歸つて來たその夜、城中の大廣間で、一藩の態度を決するための、大評定が開かれた。

血氣の若武者は、桑名城を死守して、官軍と血戰することを主張した。が、それが無謀な、不可能な、たゞ快を一時に遣る方法であることは、誰にも分つて居た。隣藩の龜山も、津の藤堂も、勤王である。官軍を前にしては、背後にしなければならぬ尾州藩は、藩主同志こそ兄弟であるが、前年來朝廷に忠誠を表して居る。何等の後立もなく、留守居の小勢で、血戰したところで、一揉みに揉み潰されるのは、定まつて居る。

死守說は、少數で直ぐ破れた。その後で、議論は東下論と恭順論との二つに別れた。東下論は、硬論であり、恭順論

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は、軟論であつた。

家老の酒井孫八郎や、軍事奉行の杉山弘枝は、東下論を主張した。彼等の主張はかうであつた。城を守つて一戰することは、花々しいことではあるが、此の小勢では一日も支へがたい。が、それかと云つて、藩主定敬公が、まだ恭順を表されない前に、城を出でゝ官軍に降ると云ふことは、相傳の主君に對して不忠である。從つて、我々の採る道は、今の場合一つしかない。それは、城を一旦敵に渡して、關東に下り、藩主越中守の指揮に從ひ、幕軍と協力して、敵に當るより外はないと云ふのだつた。

それに對して、政治奉行の小森九右衛門、山本主馬などが、恭順論を主張した。彼等は、天下の大勢を說き、順逆の名分を力說して、此際一日も早く、朝威に歸順するのが得策であると云ふのであつた。

恭順東下の議論は、二日に亘つて決しなかつた。その裡に、鎮撫使の橋本少將、柳原侍從が、有栖川宮の先發として、京師を發したと云ふ報知が、早くも傳つた。

その報知に接して、評定の人々は、更に焦つた。が、諸士の議論は、容易に一致しなかつた。藩中第一の器量人と云はれて居る家老の、酒井孫八郎が、到頭こんなことを云ひ出した。今、敵は眼前に迫つて居る。必死危急の場合である。小田原評定をやつて、一刻をも緩ふすべき時ではない。昨日今日の容子では、この上幾何評定を重ねても、皆が心から折れ合ふことなどは望み得ない。その上、恭順がよいか東下がよいか、その孰れが本當に正しいかは、人間の力では判るものでない。それよりも、いつそ、東下と恭順との二つの籤を作つて、藩祖定綱公以下を祭つた神廟の前で引いて見よう。その出た籤に依つて、一藩の態度を、決しようではないかと、云ふのであつた。

議論に疲れて居た——また心の裡では、歸趨に迷ふて居た——多くの藩士達は、擧つてその說に賛成した。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かうして、籤は作られた。發案者の酒井が、撰ばれて、籤を引いた。引かれた籤は東下の籤であつた。東下の籤が出た以上、恭順論者も、諦めてそれに從ふ外はなかつた。

藩老達は、一藩の士卒を城中に呼び集めて、評定の經過を語つた後、關東へ發足するに就いての用意を命じた。命ぜられた藩士達は、家財を取り片づけ、妻子を緣故々々を辿つて、城下の町人在の百姓に預けるなど、一藩は激しい混亂に陷つた。

が、其處に思はざる反對が起つた。それは、お目見得以下の輕輩の士が、一致しての云ひ分であつた。彼等は、太平の世には、上士達の命令を唯々諾々として、聽いて居た。が、一藩が危急に瀕すると、其處に階級の區別は、段々薄れて居た。階級が物を云はずして數が物を云ふのであつた。三百名に近い下士達は、足輕組頭矢田牛左衞門、松岡領右衞門、大塚九兵衞を、筆頭として東下論に、反對した。彼等の云ひ分は、可なり筋道が通つて居た。

關東へ下ると云ふことは、將軍家及び藩主定敬公と協力して、官軍に當ると云ふのであるが、然し將軍家が、必ず官軍に反抗するとは定まつて居ない。否、將軍家も定敬公も、錦旗の旗影を見られると、直ぐ恭順せられるかも知れない。もし、さうした場合には、我々が捨てぬでもよい城を捨てゝ、關東へ下つたことは、全然徒勞になる。その上、其處まで官軍に、反抗するとなると、藩祖樂翁公が、禁裡御造營に盡された功績も、又近く數年禁闕を守護して、朝廷に恪勤を盡した忠誠も、沒却されてしまふばかりでなく、どんな嚴罰に處せられて、當家の祭祀が絕えてしまふやうなことが、ないとも限らない。さうした危險を冒すよりも、今日の場合は、一日も早く朝廷に謝罪恭順して、桑名松平家の社稷を全うすることが、何より大切である。それには、當家には先代の御子の萬之助樣がある。當主定敬公は、美濃高須藩からの御養子であるが、萬之助樣は、當家の正統である。定敬公が、禁闕に發砲して、朝敵の惡名を被て居られる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

以上、萬之助様を擁立して、どこまでも朝廷に、恭順の誠を表すのが、得策であると云ふのである。

藩士達は、武士の面目の上から、東下を潔しとし、恭順を斥けて居たものゝ、心の裡では皆、差し迫る妻子との離別を悲しみ、住み馴れた安住の地を離れて、生還の期しがたい旅に出る不安に囚はれ、銘々心の裡では、二の足を踏んで居たのであるから、多くの藩士達は、口には出さないが、下士達の絶對恭順論に、心を傾けずには居なかつた。神籤のために、嫌々ながら、東下論に從つて居た恭順論者は、再び自説を主張し始めた。かくて、一藩は又もや烈しい混亂の裡に陷つた。

東下論の主張者である酒井採八郎、杉山弘枝は駭いて、下士達の鎭撫方を、政治奉行の小森、山本に交渉した。二人は彼等自身恭順論者でありながら、必死に下士達を撫めて、籤に依つて定まつた藩論に、從はしめようと焦つた。が、下士達はその主張を固守して、一歩も退かなかつた。一方東下論者の酒井杉山は、神籤に依つて定まつた東下を、明日にも實行しようと迫つた。政治奉行の小森と山本とは、東下論者と、下士達の板挾みになつて、下士達の鎭撫不能の責任を負ふて、城中で屠腹してしまつた。それは、十二日の午前であつた。

二人の死を、轉機としたやうに――二人の死を全くの犬死にするやうに、下士達の恭順論は、何時の間にか藩論を征服して居た。東下論者は、辭を潜めてしまつた。

藩老達は、同夜左の如き、一書を尾州藩へ送つて、朝廷へ歸順の取成しを、嘆願したのである。

今般大阪表の始末柄、在所表へ相聞え、深奉恐入候に付き、上下一同謹愼罷在候抑も尊王の大義は兼て厚く相心得罷在候處不圖も、今日の形勢に立至り候段、恐懼嘆願の外無御座候何卒平生の心事御了解被成下大納言様御手筋を以乍恐　朝廷へ御取成寛大の御沙汰只管奉歎願誠恐誠惶謹言

酒井孫八郎
吉村又右衛門
澤　采女
三輪權右衛門
大關五兵衛
服部石見
松平帶刀

成瀬隼人正樣

次いで、同月十八日、官軍の先鋒が鈴鹿を、越えたと云ふ報を聴くと、同文の嘆願書を、隣藩龜山藩へ送つた。

二十一日、鎭撫使からの御沙汰の手控が、龜山藩の手を通して、桑名藩に致された。文面は、次ぎ通であつた。

先般松平越中守依願歸國被仰出候處豈料ラン闕下ニ向ツテ發砲始末全ク反逆顯然不得止速ニ桑城退治ノ折柄過ル十一日石川宗十郎ノ家來ニ托シ歎願ノ趣有之旁々萬之助並ニ重臣一同浪花ヨリ分散ノ諸兵ヲ引連レ四日市本營へ罷出御處置可承トノコト

追テ參上ノ義ハ二十三日夜五ツ時期限ニ候其節宗十郎一手ノ内ヲ以テ誘引可有之事

一藩の人々は、愁眉を開いた。歸順が容れられたからである。が、一藩の人々が、愁眉を開いたと反對に、生命の危險を感じ始めた十三人の人々があつた。それは、鎭撫使からの手控への中に、判然と名指されて居る「浪花ヨリ分散ノ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

諸兵」であつた。

七日に走せ歸つた宇多熊太郎、十日に歸つた梁麻市左衛門を筆頭とし、その後數日の間に、折蟻の間で桑名藩の本隊と分れ、思ひ〳〵の道を取つて、本國の桑名に歸つて居たものが、凡て十三人、彼等は所謂「浪花ヨリ分散ノ諸兵」であり、鳥羽伏見の戰場で、錦旗に向つて發砲したものに違なかつた。

鎭撫使からの御沙汰に依つて、彼等がその本營に召出される以上、彼等の運命は定まつたと云つてもよかつた。官軍では、桑名の投降を容れると同時に、錦旗に發砲したこれらの諸兵を斬つて、朝威を明にしようとして居るのだ――と、一藩の人達は考へた。十三人の人達が、他の人々よりも早く、それに氣が付いたのは無論である。彼等は當日、家を出るときに、銘々の妻子と水杯を掬み交はした。

幼年の主君萬之助の乘つた籠の後から、麻上下を付けて、白い鼻緒の草履を穿いて、トボ〳〵と付き從ふて行く彼等を、一藩の人々はあはれな犧牲者として見送つた。

萬之助主從は、四日市の八町に入ると、瓦町の法泉寺で、四つ時まで、休憩した後、龜山藩士の名川力[illegible]に導かれて、官軍の本營眞光寺に出頭した。萬之助と重臣達は、式臺の上に上ることを許された。十三人の敗兵達は、白州の上に蹲くまつて居た。

衣冠束帶に威儀を正した鎭撫使の橋本少將が、嚴そかな口調で、次のやうに云ひ渡した。

越中守反逆顯然無道至極今更申迄モ無之爲征討發向の處歎願ノ趣有之旁々書面ノ通可心得

一、本城ヲ掃除シ朝廷ニ可奉差上事

一、帶刀ノ者不殘寺院へ立退恭順可罷在事

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

十三人に對して、定まつた處分は云ひ渡されなかつた。が、萬之助及び重臣達が、桑名に歸されずに、四日市の法泉寺に抑留されたやうに、十三人の敗兵は、鳥取藩士の警護に附されて、四日市の北、一里にある海村、羽津の光明寺に幽閉されてしまつた。其處からは、海藏川原の刑場が、つひ目の先に見えて居た。

二

桑名藩で、黒廻り使番を勤めて、五十石の知行を、取つて居た新谷格之介も、十三人の中に交じつて居た。

彼は、今年廿五才の青年であつた。父が、慶應元年の三月に死んだので、當時二十二になつた格之介が、跡目を相續した。翌慶應二年の春に、彼は妻のおもとを娶つた。

新婚の夢、僅かであつた格之介は、その夏不意に京都在番を命ぜられて、數人の同僚と出京して以來、所司代屋敷のお長屋の、むさくるしい部屋で、一年半に近い間を、滿されない月日を送つて居た。夜毎の寢覺に、本國に殘して來た、うら若い妻を思ひながら。

鳥羽伏見で、敵方に錦旗が飜めくと同時に、味方の足が浮いて、何時となく總崩れとなり、淀の堤を、退却したとき、彼は何時の間にか、味方の諸隊と離れて居た。離れて居たと云ふよりも、意識して離れたと云つてもよかつた。彼は、此の道を取れば、味方に離れるかも知れぬと思ひながらも、田圃の中の小道を、南へ走しつたのである。それが、奈良街道へ出たときも、彼は後悔して居なかつた。亂軍の場合に、道に迷つたと云へば、云ひ譯は立つ。本隊と一緒に落ちて行けば、薩長の大軍に、西と東とから取り圍まれるに違ない。本國へ退くにも、退かれない。烈しい切破詰まつた戰が、屢々繰り返されるのに違ない。さう考へると、彼は何うにも、味方の後を追ふて行く氣がしなかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

巨椋の池の堤に出たときは、戰場の銃聲も途絶えて、時々思ひ出したやうに、大砲の音が、かすかに聞えて來る丈だつた。本隊を離れたのを幸に、道に迷つたと云つて、本國へ歸らう。本國へ歸つて、世の靜まるのを待たう。さう考へると、故郷の家庭の有様が、マザ〳〵と眼の前に浮んで來た。舊臘京都を立つ前に、藩の御用飛脚から受取つた妻の消息の文面が、頭の裡に消しても消しても、浮んで來る。それに續いて妻の、初々しい笑顔が浮んで來る。結婚の當時、彼女は十六になつたばかりであつた。赤いてがらのかゝつた大丸髷が、彼には又なく、いぢらしく考へられた。彼の足は、矢も楯も堪らないやうに、故郷の方へ向いて居た。

彼が、奈良から、伊賀街道を伊勢に出で、桑名に達したのは、一月の十二日であつた。

彼は、故郷へ歸つて來たものゝ、心ひかに藩からのお咎を恐れて居た。が、それ自身危急に瀕して居る藩は、かうした敗兵達に對する處分などは、思ひも及ばなかつた。むしろ、次ぎ〳〵に、走せ歸つて來る敗兵達から、上國の形勢を聽くことを、欲して居たのであつた。

妻のおもとは、格之介の不時の歸宅を、雀躍して欣んだ。格之介も、自分の行動が、いゝ結果に終つたことを欣んだ。嚴密に云へば――うまく云ひ譯が立つても落伍の罪が、何のお咎もなく濟んだことを、格之介は此上なき僥倖に思つた。

差し迫る一藩の大事に脅びえながらも、蜜のやうな歡樂の日が、此の若い夫婦の間に、幾日か過ぎた。それが、再び恐ろしい不幸に依つて、滅茶々々にされるまで。

敗兵お召出しの個條が、官軍からの御沙汰の中にあると聞いたとき、格之介は色を失つた。錦旗に發砲した以上、命がないかも知れない。さうした考が、ヒシ〳〵と彼の胸に迫つて來る。愛妻のおもとと、水杯を交はすとき、格之介は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

不覺にも涙を流した。

三

光明寺に、十三人が閉ぢ込められてから、數日經つた。本堂に續いた二十疊に近い舞臺が、彼等の居室に當てられた。住持の好意に依つて、手廻りの品物が、給せられた。警護の鳥取藩士は、彼等に可なり寛大だつた。が、生死の間に彷徨して居る彼等は、みな快々として樂しまなかつた。

人間は、何かの感情に激すると、臆病者でも可なり潔く死ぬことがある。忠君とか愛國とか、憤怒とか、慷慨とか、さうした感激で、人は潔く死ねる。が、さうした感激がなく、死が素面で人間に迫つて來る場合には、大抵の人間が臆病になつてしまふ。十三人の場合が、さうであつた。彼等は、蛤門の戰や鳥羽伏見の戰には、可なり勇敢に戰つた人達である。が、戰場から本隊と別れて、故郷へ歸つて來て以來、忠節とか意地とか云つた感激的な心持が、心の裡に緩んで居る。其處へ、死は不意に彼等の顏を覗き込んで來たのである。宇多熊太郎、梁瀬市左衞門など、剛勇を以て、聞えた武士までが、茲へ來て以來、可なり沈んで居る。まして、最初から餘り勇敢でない新谷格之介が、心の裡で脅びえ切つて居たのは當然である。

最初、彼等は自分達の境遇に就いては、何も話さなかつた。みんな注意して、それに觸れるのを避けた。それに觸れることが、誰に取つても不快であつたからである。

「萬之助樣のお身上は、何うなつたであらう」

彼等の一人が云つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「本城の明渡しは、もう無事に濟んだかしらん」

他の一人が云つた。

「紀州へ落ちた人達は、あれから何うしたであらう。まさか、紀州家が見殺しにはしないだらう」

第三の人が云つた。

彼等は、努めて自分達以外の人々の身上を、心配して居るやうに、お互に見せかけた。が、そんな風な話をし始めても、少しもはづまなかつた。銘々自分自身心の裡に、自分達の身上を思ふ心が、暗憺として居たからである。

一日經ち二日經ち、彼等の生死の不安が、益々濃くなつて來るに連れ、彼等はもう、他人のことなどは、話して居る餘裕が無くなつて居た。

廿七日の午後である。十三人の中では、一番輕輩の近藤小助と云ふ男が、到頭口を切つた。それは、皆が口に出したくて、而も妙な外見から、口に出せなかつた言葉である。

「時に、われ〳〵は、一體何うなると云ふのだらう。もう四日にもなるのに、何の御沙汰もない」

彼は、小聲で同僚に、さう話しかけた。が、異常に緊張して居る十三人の耳は、小助の呟きを、聞き落さなかつた。みんなは、一齊に小助の方を見た。

「さあ！　それぢやて」一番年輩の足輕小頭が、小助の問を受けて答へた。「もう、何とか御沙汰がある筈ぢやが、もしかすると、京都へ一旦伺ひを立てたのかな。もし、それだと往復四日かゝるとして、御沙汰があるのは、今日か明日ぢやて。もう、どんなに遲くても二三日ぢや」

「首が飛ぶのかかい？」

小助は、蒼白い顔に、苦笑を洩しながら、さう云つた。みんなは、チロリと小助の方を見た。その眼には、不吉な不快な言葉を、無遠慮に使ふ小助に對する非難が、一樣に動いて居た。

「いや、さうとは限るものか。朝廷の御主旨は萬事御仁慈を旨とせられると云ふから、取るに足らぬ我々の命を召さるゝ筈はない。取越苦勞はせぬものぢや！」

足輕小頭は、小助を窘めるやうに云つた。

「いや、お言葉ぢやが、鎭撫使の參謀には、長州人が居ると云ふからな。長州人と我々とは、元治以來犬と猿のやうに啀み合つて居るからな。長州征伐の時、藩府の軍勢が、浪花を發向の節、軍陣の血祭に、七人の長州人を斬つたことが、御座るぢやらう。あれは、桑名藩で、蛤門の戰で捕へた俘虜だつた。あれを長州人は、ひどく恨んで居るさうぢやから、あの轍で、征東の宮が、伊勢をお通りになるときに、屹度われ〳〵は、その血祭と云ふのになつてしまふのだ」

小助は、絶望したやうに、自棄半分に、一番彼等に取つて不利な想像を、喋べり散らして居た。が、みんなは、それを單に、小助の想像だと貶してしまふ譯には行かなかつた。

鎭撫使からの、手控への裡に、「浪花ヨリ分散ノ諸兵」と、指摘されてある以上、それは彼等に對する有罪の宣告文であつた。彼等が刑罰を受けなければならぬことは明かだつた。刑罰を受けなければならぬ以上、彼等は死を覺悟する必要があつた。かうした亂世に在つては、死罪以下の刑罰は、刑罰ではなかつたからである。

「あはゝゝ、みんなこれぢや〳〵。覺悟をして居れば、何も狼狽へることはない」

十三人の中では、一番身分の高い簗瀬市左衞門が、左の手で首筋を叩きながら、快活に笑つた。が、それに次いで、誰も笑ひ出す者はなかつた。いや、市左衞門の笑ひ聲までが、一種悲慘な調子を帶びて、消えて行つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

格之介は、緣側の柱にもたれて、皆の話を聞かぬやうな顏をしながら、その癖一番氣にして聞いて居た。首だとか覺悟だとか云ふやうな言葉が、話されるごとに、彼は目の前が暗くなるやうな氣持になつて居た。

彼は、どう考へ直しても、覺悟と云つたやうな心持を、想像することが出來なかつた。彼は、殺されると云ふ氣持を、頭の中に思ひ浮べても、身顫ひがした。

が、格之介が嫌がらうが、嫌がるまいが、死は刻々、十三人の身上に、襲ひかゝつて來るやうに感ぜられた。

四

翌廿八日は、朝から快く晴れた。春が來たことが、幽囚の人達にも、感ぜられた。寺が高地に在るために、塀ごしに伊勢灣の波が見えた。波の面までが、冬らしい暗綠色を捨てゝ、鮮かな綠色に凪いで居た。

空を掩ふ樫の梢を洩れた日の光が、庭の蒼い苔の上を照して居た。庭の右手には、建仁寺垣があつて、垣越に墓地が見えた。山から出て來たらしいひたきが、赤と靑との翼を、ひらめかしながら、午前中墓石の上を、アチコチ飛び廻つて居た。

墓地は、黒い板塀に圍はれて居た。塀の向ふには、草が蒼みかけようとする廣い空地があつた。其處で時々、警護の鳥取藩士が、調練をして居た。

一昨日あたりから、料紙硯を寺から借りて、手紙を認めるものが多くなつて居た。今日は、それが殊に烈しい。さうした手紙が、何う云ふ内容を持つて居るかは、みんなに分つて居た。

「木村氏、その後は拙者が拜借したい」と一人が云ふと、

「その次ぎは、拙者に」

第三の人が、傍から云ふ。

料紙と硯とは、次ぎから次ぎへと渡つた。さうして、午前中に五六人も、手紙を認めた。が、格之介はさうした心持になることが、出來なかつた。彼は、覺悟とか遺書とか、さうしたことを出來る丈、考へまいとした。自分の頭が、さうした方面へ走しるのを、出來る丈制止した。王道を以て、新政の要義として居る朝廷が、妄りに陪臣の命を取るやうなことは、萬に一つもないと考へようとした。又、若し我々が斬られるのなら、四日市の本營に呼び出されたあの晩か、遲くともあの翌日には、斬られて居る筈である。今まで、捨て丶置かれる筈はない。

桑名藩を罰すると云ふのなら、藩主の定敬公か、鳥羽伏見の戰ひで、全軍を指揮した森彌左衛門をでも、斬るのが當然である。自分のやうな、五十石取の使番を。

彼は、一生懸命に出來る丈有利に、明るく考へようとした。が、同僚の誰彼が、遺書を認めて居るのを見ると、暗い穴の中へでも、引きづり込まれるやうな、イヤな心持がした。自分の明るい想像が、滅茶々々に掻き亂されるのであつた。

午後の事である。格之介の前に、立ちはだかつて、ぢつと空地の方を見て居た徒士の木村清八が、獨言のやうに云つた。

「あ丶、彼處へ家が建つのだな。段々暖くなるのだから、普請にはい丶時候だな」

木村の言葉を、聞く前から、格之介はそれに、氣が付いて居た。先刻から、材木を積んだ一臺の車が、何處からともなく、空地へ引かれて來て居る。その材木を、大工らしい男が三人、車から下して居る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

枚に來てから、四日の間、ポンヤリ床の間や天井や、庭や墓地などを見て居た格之介は、さうしたものに、可なり飽き〱して居た。彼はかうして新しい見物が出來たことを、欣んだのである。

「うむ！　家を建てるのかな。が、こんな田圃の中にぽツつり建てる譯はない。木組をしてから、何處かへ運んで行くのだらう。」

彼は、心の裡でそんな事を考へながら、ちつと大工達の働くのを見て居た。

が、それを見て居るのは、格之介と木村清八と丈ではなかつた。どんなに、死が迫つて來て居る時でも、人間は退屈するものである。十三人の中で、先刻から碁を圍んで居る鈴木市左衞門と宇多熊太郎との外は、みんな外へ出て大工の動くのを見て居た。

三人の大工は、材木を下してしまふと、銘々に手斧を使ひ始めて居た。手斧が、木に喰ひ入る音が、澄み渡つた早春の空氣の中に、暫らくは、快く響いて居た。

が、共の裡に縁側に立つて居る人々に、單純な大工の動作に飽いて、いつとなく部屋の中へは入つてしまつた。格之介と、清八と丈は、まだ縁側を離れなかつた。

大工は、その材木で幾本となく、高い柱をこさへて居ることは明かだつた。そして、一方の端を、土の中へでも打込むやうに、尖らせて居るのだつた。その裡に、さうした丸い柱の數も、格之介には分つた。大工は、十本の柱を、作へ上げてしまふと、今度は車に積み殘してあつた材木を、下しにかゝつた。見ると、それは巾が一尺位、長さが一間位あらうと思はれる板だつた。厚みは、一寸にも近かつた。板の數は、數へると五枚あつた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「怪しいなあ。一體、何をこさへるのだらう」

傍に居る清八が、首を傾しげながら、呟いた。格之介にも、それが不思議に感ぜられて居た。彼も、大工が何を作らうとするのか、少しも見當が付かなかつた。

その裡に、大工は銘々、一枚の板と二本の柱とを揃へると、板の兩端へ一本づゝ柱を當がつた。「おや！」と、思つて居る内に、大工は道具箱から、一尺に近い鎹を取り出して、柱と板との継目に當がうと、大きい金槌へ、一杯の力を籠めながら、カーンと鋭く打ち込んだ。

今まで、好奇心丈で見て居た清八が、チラリと格之介の顔を振り返つた。清八の顔には、血の氣がなかつた。脣が、ピク／＼動いた。それを見返した格之介が、もつとあはれな顔をして居たことは無論である。二人は、先刻からウカウカと、獄門臺が作られるのを見て居たのである。

「こりやいかん！　諸君、あんなものを作つて居る。あんなものを」

清八は、救ひを求めるやうな悲鳴を揚げた。五六人駭いて、縁側に飛び出して來た。が、みんな一目見ると、色を易えてしまつた。誰も、何とも云はないで、縁側の上に釘付にされたやうに立つて居た。

碁を圍んで居た築麻市左衛門までが、立ち上つて來た。流石の彼も、一目見ると、かすかではあるが、顔色が變つた。

「うむ！　謎をかけ居つたな。われ／＼に、覺悟をせよと云ふ謎だな」

彼は重くるしい口調で、みんなの沈默を破つた。

一番おしまひに、出て來た字多熊太郎は、一番動じて居なかつた。

「もう諸君！　今夜がお別れぢや！　刻限は明日の夜明だな、按ずるに」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼は苦笑しながら、みんなを見返つた。

「五人丈は梟首か。拙者は免れぬな、あはゝ」

市左衛門が、さう云つた。彼も獄門臺の數を數へて見たのである。

格之介は、先刻から、止めようとしても止まらない胴顫ひが、身體の何處からともなく、全身に傳はつて來るのである。

獄門臺の數が五つ。それを數へたときに、彼は自分の死首が、その上に載つて居るやうな氣がした。もうそれで、彼が殺されて、梟首されることは確だつた。十三人の中で、八人まで輕輩の士である。お目見得以上の士は五人しか居ない。彼はその五人の中で、家の格式が丁度眞中に位して居る。

「五人丈は、獄門になるのは判つた。が、後の八人はどうなるのだらう。斬首かな、それとも命丈は助かるか知らん」

足輕の中で、一番年輩の男が、さう云つた。彼はまだ一縷の望みを、繫いで居た。

「助かる！　たわけたことを云はれる！　今になつて、助かることを考へる。稍もつても見るがいゝ。五人の方々が、梟首される以上、われ／＼が助かる筈があるものか。武士たるものに、梟首は極刑ぢや。五人の方々を、極刑にする以上、われ／＼を許す筈がない。打首丈なら、まだ仕合せぢや。御覧なされい！　今にも、もう一臺材木を引いた車が參るから。」

加藤小助が、地獄の獄卒でゞもあるやうに、憎らしげにさう云つた。その癖、彼の顏色にも人間らしい色は殘つて居なかつた。

八人の輕輩の人達は、加藤の言葉を不快に思つた。が、その眞實を認めない譯には行かなかつた。五人の上士達が、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

梟首される以上、殘りの八人が、縱令梟首は免かれるにしても、打首丈は確かな事實だつた。殊に、五人の中には入つて居る格之介が、死を免がれ得るやうな理由は、少しも考へられなかつた。死は、たゞ時の問題として、彼の前に迫つて來た。彼も、何うにかして、死を待ち受ける準備を、しなければならなかつたのだ。

獄門臺が、スツカリ出來上つて、その氣味の惡い恰好を、ズラリと地上に並べて居る時だつた。燃ゆる赤熊の帽子を着た鳥取藩の士官が、空地へ現はれた。士官が、何か合圖をすると、大工達は一つの獄門臺を、三人で擔ぎながら、寺の方へ近づいて來た。何をするのかと思つて居ると、寺の板塀の上に、獄門臺の板が、ぬつと現はれた。見ると、今まては氣が付かなかつたが、板の丁度中央に、死首を突きさす釘が打つてあつて、それが夕日の光を受けて、キラ〳〵と光つて居るのであつた。

それを見ると、宇多熊太郎は、緣側の板を踏み鳴らしながら怒つた。

「あゝ、あんないやな事をしやがる。あんな嫌がらせをする！」

が、怒り得るものは幸ひだつた。格之介は、それを見ると、恥も外見もなく、身體がガタ〳〵と顫え出した。

五つの獄門臺は、次ぎ〳〵に塀に、立てかけられた。眞新しい材木が、古い板塀の上にマザ〳〵と、夕日の中に浮んで居る。

「あゝ殘念だ！　諸君、こんな汚はしいものを見て居ないで、障子を閉めようでは御座らぬか。武士たるものを、罪人同樣に恥しめ居る。あゝかうと知つたら、匕首の一本位隱して居るところであつた。」

宇多熊太郎は、忌々しさうに舌打した。

みんなは、部屋には入つて、障子を閉めた。が、格之介には、障子越に、五つ並んだ獄門臺が、アリ〳〵と見えた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それ限り、夕食の時まで、誰も一口も、口を利かなかつた。

夕食の膳が出ると、粟麻市左衛門は、所化の僧に酒を所望した。

「各々方、今夜はお別れで御座る。我々に無禮を働く鳥取藩士への面當に、明日は潔い最後を、心掛けようでは御座らぬか。各々方が、平生の覺悟を拜見したう御座る」

十二人までは、遉に悪びれた所はなかつた。盃が、しめやかに廻はつた。

が、格之介は、飯も咽喉へは通らなかつた。一杯喰つた飯が、もどしさうに、何時までも胸に支へて居た。

彼は、何うしても死ぬ氣にはなれなかつた。切破詰まつて、死ぬにしても、もう一度妻の顔が見たかつた。もう一度妻と――、妻と最後の名殘りを惜しみたかつた。が、妻などゝ云ふことを考へないでも、死その物が、何うしても嫌だつた。

彼は、何うにかして死にたくなかつた。まして、殺された後に、自分の首が、獄門臺に晒されることを考へると、どんなことをしても死を免かれたかつた。もう、とつぷりと暮れてしまつた障子の外の、闇の彼方に、白木の獄門臺が、ズラリと並んで居ることを考へると、水のやうな寒む氣が、全身を流れるのであつた。

その翌くる朝、桑名の藩士達は銘々、覺悟を定めて床を離れた。が、起き出でたものは、十二人ではなかつた。格之介は、夜の裡に警護の者の目を盗んで逃亡してしまつて居たのである。

五

「臆病者！　卑怯者！」

十二人は、口々に格之介を罵しつた。が、中には、うまく逃亡した格之介に對する心の裡の羨望を、さうした言葉で現

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はして居るものもあつた。

樂麻市左衛門から、格之介逃亡の旨を、警護の鳥取藩士に申出でた。但に、その推定された逃亡の理由までは云はなかつた。敵となつて居る他藩の人に對し、同藩の者を臆病者にはしたくなかつたからである。

「有樣は、關東へ下つて、慶喜公の旗下に加つて、一働き致さうとの、所存と見え申す」

市左衛門は、格之介逃亡の理由を、かう說明した。

それを聽いた鳥取藩の隊長は、苦い顏をした。

「それは近頃、心外なことぢや。武士は、敵味方に別れても、相見互ぢやと存じたに依つて、かほど迄、寬大な取扱ひを致したのは、われらが寸志ぢやに、それが各々方に、判らなかつたとは、心外千萬ぢや。いや、よう御座る！ 鎭撫使から預つた大事な囚人を、逃したとあつては、拙藩の恥辱で御座るほどに、草を別けても探し出す所存で御座る。各々方を信用したのが、拙者の不覺で御座る」

隊長は、可なり憤慨して、開き直つた。

市左衛門も、相手から寬大な取扱ひと云ふ言葉を聞くと、ムツとした。武士たるものに、汚はしい刑具を見せ付けて、侮辱を與へて置きながら、よくもそんなしら〳〵しいことが云へると思つた。

「ふむ！ あれで寬大な取扱ひと申さるゝか」

彼は、吐き出すやうに云つた。

「いかにも」隊長は、屹となつて答へた。「拙者の計ひで、各々方に、かほど自由を與へて御座るのが分らないのか。錦旗に發砲した朝敵ぢやほどに、手錠をかけ足械をかけても云ひ分はない筈ぢや。それを、起居も各々方の隨意にさせ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てある。番兵も付けず、看視も致さないのは、何の爲ぢや。武士たる各々方が、一旦恭順を表せられた以上、萬に一つ間違はないと思つたからぢや。それを、盗人か何かのやうに、夜中ひそかに脱走する……」

「云はれな！」市左衛門は、中途で烈しく妨ぎつた。「それほど、われ〲を武士として扱ふと云はるゝ貴殿が、あの指圖は何事ぢや。われ〲は町人百姓では御座らぬぞ。朝廷の御處置が定まつたら、何時にても首を差し伸べる覺悟は致して御座る。それをあの指圖は何事ぢや。貴殿こそ、われ〲を盗人か無宿者同樣に心得て御座る。あれが、武士を遇する道か。あれが、武士に對する寛大の取扱ひか」

市左衛門の眼は、血走しつた。もし、彼が帶刀を許されて居たならば、左の手はきつと、その柄頭を握りしめたに違ない。

市左衛門に指さされて、鳥取藩の隊長は、墓地を越えて、板塀の方を見た。彼の眼にも、黒い板塀と、ハツキリした對象をなして、ぬつと突き出て居る、獄門の首台が、眼に映つた。それを一瞥したときに、彼は明に狼狽した。

「やあ！　これは〲、いかい不念ぢや。許されい〲」

詫びようとする隊長を押へて、市左衛門は勝ち誇つたやうに云つた。

「われ〲は、武士で御座る。あのやうに、御親切に悟されいでも、腹を切る覺悟は、平生から致して御座る。今日か、但しは明日か、時刻をさへ知らして下されば、それで澤山ぢや。」

市左衛門の憤慨を、肯きながら聽いて居た隊長は、彼の言葉の終るのを待つて、態度を改めた。

「それは、飛んでもないお考違ぢや。拙者の不念から、部下のものゝ致した粗相ぢや。各々方に、あのやうな不吉なものを見せて、何とも申譯が御座らぬ。お氣に止められるな。各々方を處刑、そのやうなお沙汰は、氣もないことぢや。い

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

や、昨夜も本營へ參つて、聞いた噂に依れば、桑名藩の方は、主從とも何のお咎もなからうとの事ぢや。あの獄門台で御座るか……」

さう云つて彼は、次ぎのやうな話をした。

丁度、有栖川宮の先發たる橋本少將、柳原侍從が、錦旗を擁して、伊勢へはいつたと同時に、近江から美濃へは入つた官軍の別働隊があつた。彼等は、赤報隊と稱して、錦の御旗を先頭に立て、貳百人に近い同勢が、鎭撫使の萬里小路侍從を取り圍んで居た。彼等の多くは、陣羽織に野袴を穿いて、舊式の六匁銃などを持つて居たが、右の肩口には、孰れも錦の布片を附けて居た。彼等は、美濃には入つてから、所在に農兵を募つた。美濃の今尾、竹腰伊豫守の城下に達したときは、同勢七百人に近かつた。小藩の今尾では、不意の官軍に駭いて、家老が城下の入口まで出迎へた。彼等は今尾藩へ三千兩、城下の町人に二千兩の軍用金を命じて、一日悠々と、軍隊を休めてから、南に下つて、大垣の南八里の高須藩へ殺到した。

高須の、松平中務大輔の藩中も、錦旗の前には、目が眩んでしまつた。赤報隊は、其處でも、一萬兩に近い軍用金を蒐めた。今尾高須の二藩を、慴服させた赤報隊は、意氣揚々として、桑名藩へ殺到しようとして、桑名城の南、安永村に進んで、齊雲寺と云ふ寺に、本營を敷いた。その夜である。鳥取藩と藝州藩の諸隊が、此齊雲寺を取り圍んだのは。錦の布片を附けた同志が、烈しく戰つた。玆まで、附いて來た農兵隊は、蜘蛛の子を散らすやうに逃亡した。僞の萬里小路侍從は、流彈に斃れた。その場で、殺された者が、五十人に近かつた。捕はれたものが十七人、それが明朝、海藏川原の刑場で、斬られると云ふのである。その裡で、僞の萬里小路侍從と他の四人の首級とが、梟首せられると云ふのであつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「獄門台は、右のやうな次第で、作らせたもので御座る。地上に於いては、調練の邪魔になるほどに、あのやうな粗相を致したので御座らう。不念の段は、拙者から幾重にも、お詫びいたす。許されい〳〵。これは飛んでもない粗相ぢやつた。はゝゝゝゝ、が、間違でめでたい！〳〵」

聞いて居る裡に、桑名藩の人々の相好が崩れて居た。隊長の語り終つた頃には、それが湧き立つやうな哄笑に變つて居た。彼等は、腹を抱へて笑ひたがらも、眼には一杯の涙を湛へて居た。

六

その誤解は、うちとけた哄笑で、濟んでしまつたけれど、鳥取藩士の格之介に對する追窮は、それでは濟まなかつた。彼等は、藩の面目にかゝはる一大事だから、何うあつても探し出すと揚言した。東海道筋には、官軍が滿ち〳〵て居る故に、江戸へ下り得る筈はない。近在に潜んで居るに違ないとあつて、十人二十人、隊を組んだ鳥取藩士は、四日市桑名名古屋を中心に、美濃伊勢尾張の、三國の村々在々を隈なく搜索した。その中の一隊に員辨川に添ふて、濃州街道を、美濃の方へ探して行つた。

桑名の西北六里、濃州街道に添ふて、石榑と云ふ山村があつた。山から石灰石を産するので、石灰を燒く窯が、山の中に幾つも散在した。一隊が、此村に達したとき、村人の一人は、此の石灰を燒く窯の一つに、武士體の男が、二三日來潜んで居ることを告げた。それを聞いた一隊の人々は、勇み立つた。彼等は庄屋に案内させて、その窯を、右とたから取り圍んだ。

火のない窯の中から、驚いて飛び出したのは格之介であつた。彼は、自分の家の若黨の實家を頼つて、人目に遠い山

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

中の窯の中に、隠匿れて居たのであつた。

彼は、官兵を見ると狼狽した。捕へられることは、彼に取つては死を意味して居た。彼は、身を翻して、窯の背後の、二間ばかりの谷を飛び越えると、雑木の生ひ茂つた山の中腹へ、逃げ込まうとした。

「えい！ まだ逃げ居る！ 未練な奴ぢや。射て！ 射て！ かまはぬ、射て！」

隊長はいらつて叫けんだ。

二三人の兵士が、新式のゲーペル銃で、折敷の構をした。烈しい銃聲が、山村の靜かな空氣を動かした。格之介のやせた細長い身體が、雑木の幹の間で、クル〳〵廻つたかと思ふと、仰けさまに倒れたまゝ、動かなかつた。

越えて數日、海蔵川原に、並んで立つて居た五つの獄門台から、赤報隊の元兇連の首級は、取り捨てられて居た。そして、その後代りのやうに、その中央の獄門台に、若い武士の首級が一つ、晒されて居た。

捨札には達筆で、次ぎのやうに書いてあつた。

桑名藩 雑谷格之介

右者京畿ニ於テ錦旗ニ發砲シタルニ依ツテ羽津光明寺ニ謹愼被仰付候ニモ拘ラズ潜カニ脱走ヲ企テ江戸ニ下向再ビ錦旗ニ抵抗致サントシタル段重々不埒至極依テ銃殺ノ上梟首スルモノ也

戊辰二月 官軍參謀

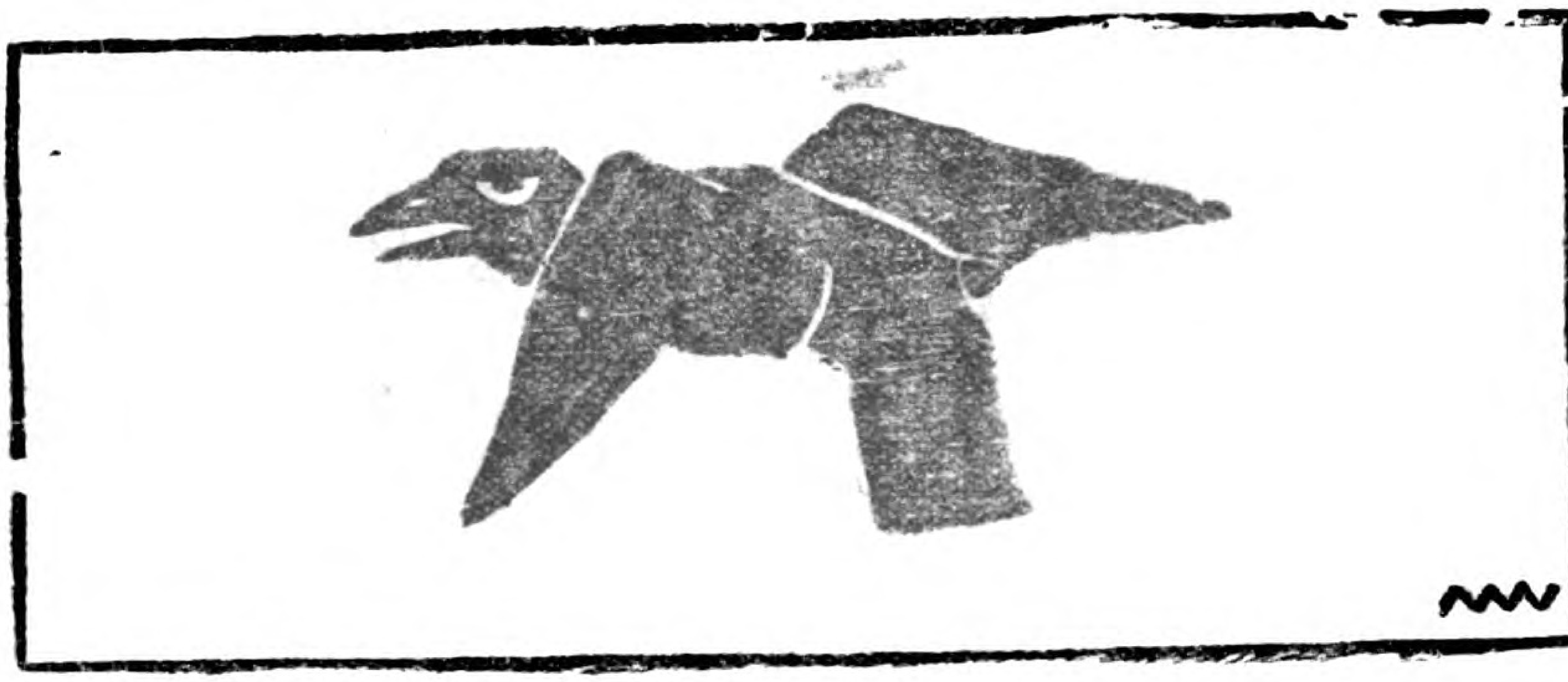
Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

格之介を除いた十二人の人々は、その年の四月、何のお咎もなく無事に、歸藩を許された。

格之介の逃亡の理由が判るにつれ、桑名藩士も、官軍の人達も、格之介が風聲鶴唳に駭いて逃走を企て、捨てぬでもよい命を、捨てたことを冷笑した。

が、何うして格之介を、嗤ふことが出來よう。彼は確に、自分の首が載る獄門台が、作られるのを見て居たのである。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



鴉

宇野浩二

家を出る時、俺の家は或る大きな古寺の境内にあるのだ、以前何に使つたものか、五六棟の可成り大きな平家がその境内に飛び飛びに建つてゐる、その一軒に俺は妻と女中との三人で住んでゐるのである、いつものやうに妻に玄關まで送られて、俺はいつもの學校に出る時の背廣を着て、折鞄を抱えて、ステッキを持つて家を出て、さてぼろ〱の寺の門を出ようとした時だ、門の屋根の上にでも止まつてゐたのか、厭な聲で鴉が何か思ひ出したやうにギヤア〱と鳴いたのである。俺は思はずはツとして、ステッキを宙に浮かして立止まつて、聲のする門を見上げると、果してその屋根の頂邊の鬼瓦の端に一羽の鴉が止まつてゐて、俺が睥み付けると、急に鳴聲を止めて、その鳶口のやうな嘴を眞正面に俺の方に向けて、俺をぢつと睥み返した。その目付が實に厭な目付なんだ。そこで俺は變に躍鬼になつて、二三度その方に向つて飛び上りながら、ステッキを振り廻した、すると、ギヤア〱と例の厭な聲を上げて鳴きながら、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大きな羽ばたきを立てゝ飛んで行つた。何とも言へぬ厭な羽ばたきだ。俺はその鴉を覺えてゐるやうな氣がした、これ迄に幾度も見た氣がした、外の鴉ぢやない、あの鴉にだ、厭な奴だな。

寺の門を出ると、暫くの間生垣つゞきの屋敷町である、そして通りに出て、右に曲つて二町ばかり行くと、電車の停留所に來る、その通りは鈴懸の木の並木道になつてゐる、この並木が電車道に出る半丁程手前で絶つてゐるところで、別の細道と出會ふのである、俺の家から停留所に出るのには、この細道を通つて來る方が幾分か近いのだが、この道を俺はどうも好まないのである、第一道の兩側の家が悉く俺の氣に入らない、といふのはみんな仕舞太家ばかりで、中には生垣を廻らした家もあり、大體に於て勤め人階級の屋敷町ではあるのだが、それ等の家々の主人が或ひは小使からやつと書記になつたものとか、或ひは昨日迄日給取であつたのが漸く月給取になつたとか、或ひは相當に金を取つてゐる癖に身分不相當にけちな暮しをしてゐるものとか、さういふ人間のかたまつてゐる所らしい氣がするのである、それに道が車が一臺やつとしか通れない程細くて、でこぼこで、雨の日などはズボンを汚さないでこの道が歩けたら懸賞物だ、それは兎に角、この細道と通りとの出逢ふ、今言つた並木の絶えるところに立つてゐる電信棒が、俺がこゝに引越して來た時から往來の、而もそれが細道の方になら大いに贊成だが、大きな往來の道の方に二十度ばかりの傾斜をなして突き出てゐるのである、それが極めて細くて短い電信棒なのだ、それでゐて、やつぱり何本かの針金を支へる用をしてゐるのだ、さうでなかつたら俺はもうとつくに近所の惡童たちに命じて、この棒をぶつ倒さしてやるんだが、……そんな譯で、俺は朝晩學校に通ふ往復にこの氣に入らない電信棒を見なければならないのだ。俺はだからこの棒をなるべく見ないようにしてこゝを通ることにしてゐる。

ところが、今、何といふことだ！　突然、俺が停留所に向つて道を急いでゐると、ギヤア／＼と、確に先の鴉の聲だ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

この時は俺は多少ぎよツとした、見ると、その電信柱の上に止まつて、そこから俺を見下ろしてゐるのだ。もう町にはポツ〳〵灯のつく時分だつた、俺はこの鴉の話でも分るやうに、一かどの學問を自分でも研究し人にも敎へる身でありながら、子供の時分からの癖といふのは恐しいもので、未だにひどく緣喜をかつぐ癖があるのだ、俺はいつその事家に引きかへさうかと思つた、實際二度ばかり五六步引き返した位だ、これがいつもの通り大學に出るのなら、俺は多分歸つてゐたかも知れない。が、俺は月に一週間だけ大坂の或研究所の囑托として、そこへ出かけて行つて刀劍の科學的な研究を受持つてゐる、だから月の第三の土曜の晚に汽車に乘つて大阪に出かけ、一週間目の日曜の晚に汽車に乘つて歸つて來るのだ、今日はその土曜の晚なのである、俺はその間あらゆる刀劍を金箔よりも薄く硏ぎ減らして、それを顯微鏡でのぞくのである、隨分興味のある仕事なのである、後の三週間每日每日大學に出て、定り切つた事を何人かの學生の前で、實際俺自身にだつて無味乾燥に思へる講義をしてゐるのであるから、この大阪の一週間は俺には日曜よりも愉快なのである、金箔よりも薄くして、顯微鏡でのぞくと、五郎正宗だつて、備前長船だつて、村正だつて、兼光だつて、丁度まるで三越や白木に夏分になると催される中形浴衣の陳列會に行つたやうに、それ〳〵違つた浴衣模樣のやうに見えるのだ、この研究が蛇になるか龍となるか實際今のところ皆目見當が付かないのである、だが今の俺にはその結果よりも何よりも、研究そのものが、無報酬でもかまはない、面白くて愉快でたまらぬのである。

俺は道の傍に立止つて、電信棒の上の方を睥み付けながら、シツ、シツ！　と鴉に向つて叫んだ、が、彼は今度はびくともしない樣子で、つんと空嘯いて、ぎやあ〳〵と傍若無人に鳴聲を上げる、俺がシツ、シツ！　と地踏太を踏みながら叫ぶと、一寸聲を止めて、又ぐツとその嶌口のやうな嘴を眞正面に俺に向けて、俺を見下ろしておいて、又つんと空嘯いて、ぎやあ〳〵とつゞけ樣に鳴くのである、俺はシツ、シツ！と叫びながらステツキを振り廻した、が、いくら短い

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と言つても、電信棒は寺の屋根より高いので、鴉はびくともしないでのある、俺は躍鬼になつて石を投げつけてやらうかと思つた、と、ふとあたりを見ると、丁度遲れ走せに歸る腰辨や働き人や、それから酒買ひに行く子供や、肴を買つて歸る女房や、遲い豆腐屋や等の頻りに通る時分で、四五人の者が俺のする事を吃驚しながら立止まつて見てゐるのに氣が付いた、俺は流石に極りが惡かつたので、半分夢中ですた〱と電車通りに急いだ、そして丁度通り掛つた電車に飛乘つた。

その時から俺はどうも妙な氣がし出した、どうも外の鴉でない、あの鴉にこれ迄俺が幾度も出遭つたといふことばかりでなく、あの鴉に惱まされて、電車に飛び乘つたことが、確にいつか一度、もしかすると一度以上、同じことがあつたやうな氣がし出したのである、どういふ時だつたか知ら、いつ頃だつたか知ら、近頃の事かな、學生時分の事かな、あの鴉、鴉、學生時分、と色々と考へてゐるうちに、どうもそれが思ひ出せない、そして別のことを思ひ出した、それは俺が未だ學生時代のことで、何でも谷中の坂町の、やつぱり寺だ、或る寺の、まるで無住と言つてもいゝ位の荒れ寺だつたが、そこのどういふつもりで建てたのか、本堂の裏の方に一棟獨立して建つてゐる二間ばかりの部屋を借りて俺は自炊をして暮してゐた、或る日曜日のことである、俺は朝からずつと勉强してゐた、机の前の障子を開けると一向手入などもしてない茶畑がある、茶畑の果に高低思ひ思ひの榛の並木がある、そこ迄が寺の境内で、それに沿うて細い往來があつて、往來の向ふ側には貧民階級の人家がぽつり〱と並んでゐる、又その茶畑の反對の側、つまり俺の家の背後は一寸した竹籔になつてゐた、その竹籔の繁つてゐる範圍が又寺の別の境内を劃してゐる譯である、今の俺の住居にしても、その時の住居にしても、京に田舍ありとは全くその通りで、少し遲くなつて來ると、臺所の板の間の隙からちよろ〱と家守が這ひ出したり、天井から屢々ぽたりと雨滴のやうな音を立てゝ落ちて來る、何だらう、と思つて見ると、やす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

でで、それが何かの貝のやうにまん丸い恰好をして疊の上に落ちて來たのが、ぽつ〳〵とその百足型の不氣味な細長い體(からだ)を延ばすところだつたり、大體さういふ風な家だつたので、物理學生に似合はしからぬ臆病者の俺は、始終何かに驚かされることを待つてゐるやうに、びく〳〵してゐた、そして俺は或る日曜日の午後、机に向つて勉强してゐたのである、外はひどく麗らかな日らしかつた、その時、突然ウァー〳〵〳〵と、左樣、確に數十羽數百羽の鴉が一時に鳴き立つやうな聲が聞えて來たのである、俺は机の上でぎよツとして目を上げた、と、その聲は止んでしまつた、が、暫くすると、又ウァー〳〵〳〵と一頻り聞えて來て、俺が耳を澄ますと、どうやら微かにバタ〳〵〳〵と百もの鴉が羽ばたきするやうな聲もその間に聞えるのである、俺はそれは多分この寺の墓地、それはどういふ譯だかそのだゞツ廣い寺の境内にはなくて、先に言つた俺の家の前の茶畑の向ふの椽の並木に沿うた細い往來を隔てた向ふ側の、例の貧民階級の人家の外れに一郭をなしてゐるのである、無論本家の寺が荒れ果てゝゐるやうに、この墓場は急いで通り過ぎるとそれと氣が附かない程、多くの墓石は倒れて雜草に埋もれてゐて、その雜草が乞食の頭のやうにくしや〳〵に生え繁つてゐるのである、俺はその墓場に百羽の鴉がウァー〳〵と鳴きながら下りたのだと氣が附いた、そしてバタ〳〵と羽ばたきの音がして、又ウァー〳〵と鳴きながら飛び去つたのだと思つた、ところが暫くすると三度目にウァー〳〵が聞えて、又暫くすると四度目に、それから暫く間をおいて五度目に、そして六度目に……俺はひどく氣に懸つて來た、これは何かあの墓場にあるに違ひない、ウァーと言つて飛び去つた鴉共が、忽ち歸つて來たり、又飛び去つたり、歸つて來たり、これは何かあの墓場にあるんぢやないか、と思ふと俺は落着いてゐられなくなつたものだから、障子を開けて緣側に出て見た、春だつたか秋だつたか、兎に角先にも言つたやうに、天氣はひどくうら〳〵とした日なのである、高低の思ひ思ひの椽の梢を通して見ると青空の果は乳色に濁つて霞んで見える、だが、俺は何とも鴉が氣になるので、餘り氣分が晴れない、始

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

めのうちはどうやら俺が縁側に飛び出すと奴共は決して鳴かぬのである、が、終にはそれは單に俺の思ひ做しらしく、俺が縁側に出ても出なくても、一向それには關係なく、ウァー〳〵は暫くづゝ間をおいては聞えて來る、俺は縁側でシッシッと叫びながら足踏などをした、が、到頭俺は我慢がし切れなくなつて、表に飛び出した、墓場の傍に恐々行つて見た、墓場は靜まり返つてゐて、何の聲も起らぬのである、暫く俺はぢつと立つてゐた、するとウァー〳〵はもつと向ふの方に聞えるのである、俺は少しづゝ勇氣を得て、なアに、町はうらゝかな日曜の晝のことだから實に陽氣で賑かなのだ、俺はウァー〳〵の聲のする方に歩き出した時、始めて鴉ぢやないのか知ら、といふ氣がした、そして二町ばかり歩いて裏町を突當つて、阪町の通りに出て、その町角に立ち止まつて聲のする見當を計つて見た、すると目は根津の谷底町を越えて本郷の臺に及んだ、又ウァー〳〵といふ聲が聞えた、その時俺 思はず可笑しくなつた、何の事だ、それは高等學校の運動場で野球の試合が始まつてゐるのだ、ウァー〳〵は見物の喝采の聲なのだ。……俺は東京驛に向ふ電車でその事を思ひ出して、思はず獨りで笑ひ顔をしかけたので、それを堪えた。

東京驛に來たら七時に十分前であつた、俺は七時發の汽車に乘るつもりで來たので少しあわてた、考へて見ると未だその次に七時半に出るのがあるのだから、三十分位どうでもいゝのだ、何も少しもあわてることはないのだが、俺は七時半發といふのが何となく氣に入らないので、いつの時でも七時のに定めてゐる、そして俺はあんまりあわてゝ乘るのが嫌ひだものだから、いつでも必ず三十分位前に停車場に來てゐないと氣が濟まぬのである、俺はそこに着くと悠然と一度待合室に這入つて行つて、そこの腰掛のクッションに心持ずり下るやうに腰を落着けて、なるべくゆつくりと紙卷を一本すつてから、やがて悠然と切符賣場に行つて切符を買つて來て、それから又待合室に歸つて、そこで紙卷を一本すつてから、さて改札口を出る迄に少なくとも十分位の間、一層ずり下るやうに腰掛けて、稍下目使で待合室の中

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を彼方此方してゐる人間を、彼等に就いて何にも心配しないで、唯ぼんやりと眺める習慣になつてゐる、それからやつと立上つて、停車場などといふ所では大抵の人間が平生の持前の三倍或ひはそれ以上の速力で歩いてゐるものである、俺は平生の歩き方の凡そ半分の速力でゆる〱とそこを歩いて行くことが好きなのである、ところがその日はそんな譯でそれが出來ない、どころか大急ぎで一直線に切符賣場に行つて、大急ぎで改札口を通り拔けて、プラットフォームを驅け出さねばならなかつた、俺は不愉快で仕方がなかつた、俺は無意識に切符を買つて、無意識に改札口を通つたが、今日はやつぱり出發を見合はさうかな、と考へた、だが、俺はその時は先のやうに一度も引返さないで、さう思ひながら、どん〱プラットフォームに急いだ、汽車が出る迄にまだ五分間はあつたらう、俺は横付けにたつてゐる列車の傍を歩いてゐる時、おや、寢臺券を買ふのを忘れた、と氣が附いた、俺は徐々氣分が惡くなつて來た、俺はいつの時でも寢臺で行くのだ、人の話では寢臺券は前以て買つておかないと直に滿員賣切れになる、それにやつと殘つてゐても上段の方だ、と言ふ、ところが俺の經驗ではいつの時でも俺は六時半に停車場に來て、乘車券と一緒に買ふのだが、未だ甞て賣切でなかつたなんてことはない、なる程、いつの時でも上段だが、俺はその上段の方が好きなのである、それは兎に角その寢臺券を如何にあわてたとは言へ買ふことを忘れるなんて、俺は今日はどうかしてゐるぞ、と思ひながら、俺はいつになくせか〱した歩調でプラットフォームを駈足步調で步いて、最寄の普通車に飛び乘つた、俺は何事でも、いつの時でも、こんなにあわてゝ急ぎになる時には、碌な事はないぞ、と思ひながら……。

だが、そこ迄はまだ何でもなかつたのだ、よくある事なんだ、誰にもある事なんだ。俺はさういふ具合で、泡喰つてとある二等車に飛び乘つて、一步車室に足を入れた時、俺はしまつた、これは汽車を間違へたのぢやないかな、と言ふのは廣い車室の中に見たところ十五六人しか人間が乘り組んでゐないのである、俺はこれは屹度橫須賀行とか、小田原

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

行とかいふ列車に違ひない、俺も月に一度づゝ神戸行の急行列車に乘るが、神戸行がこんなに、而も發車にもう二三分前といふのに、がら空きのことはない筈である、俺はもつともいつもは寢臺車の方に乘るから分らないやうなものゝ、それにしても斷じてこんな筈がない、俺はあわてゝ列車を下りて、車の横側の札を調べて見た、するとやつぱり神戸行となつてゐるのである、がもう一つ不思議なことには外の車には相當に見送り人があるのに、俺の今乘つた車には殆ど見送り人がゐないと言つていゝ位だ、丁度車掌だか何だかゞ通り掛つたので、俺はその車を差して、これは神戸行です……か、と問ふのも極りが惡かつたので、神戸行ですね、と確めるやうに聞いて見た、えゝ、と車掌は極めて簡單に無愛想に答へて、すた〳〵と行つてしまつた、で、俺はもう一度乘つた。やがてがら〳〵と鈴が鳴つて汽車が動き出した、とそこ迄は、さうだ、やつぱり何でもない、大して不思議なことでもないのである。

汽車が走り出して暫くして、俺自身氣持が少し落着いて來ると、俺は實に變な氣に襲はれ出した、俺は確にこの汽車に、この列車に、外の列車でないこの同じ列車に一度乘つたことがある、そんならと言つて、この列車の何處に見覺えがあるかと言ふと、見覺えも何もない、それでゐて、確に外の列車でない、この同じ列車に一度乘つた記憶があるやうな氣がしてならぬのである、をかしな事があるものだな、と俺は又先から少し落着いて來た氣持が變にいら〳〵して來るのを覺えた、ところで、俺が先づ乘客の中で最先に目についたのは、恥かしい話だが、俺の三尺程おいて左手に坐つてゐる女なのだ、次に俺の眞正面に腰掛けてゐる背廣を着た、先づ會社員らしい男だ、が、そんな男なんかどうでもいゝんだ、俺はその女の方を注意して見たいんだ。が、それには首を直角に横向けなければならぬ、するとそれが前に坐つてゐる男に氣附かれる、それが癪だ、俺は時々ちら〳〵と何を見るともなしに横を見るといつたやうな顏をして、その女の方を見た、するとどうやらその女はどこかで一度見たことがあるやうな氣がするのだ、はてな、と思つて屢々その方

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を見ると、どうも前の男が氣に掛つてならない、俺は先づ前の男を睥みつけてやらうと考へた、そして俺は正しく眞正面を向いて腰かけて、前の男と相對すると、どうやらその男は俺が彼を見ない時にはじろ〳〵と俺に注目してゐるらしいのに、俺がちつと彼の方に目を据ゑると、そ知らぬ顏をして本を讀み出すのだ、何といふ本だらう、と思つて、と言つてのぞき込んだり、窺ふやうに見たりしてはいけないので、そ知らぬ樣子で苦心しいしい、讀手の手で隠れてゐるので、始めに「義」といふ字をやつと拾ひ讀みし、次に「現主」と讀んで、最後にやつと「表現主義」と讀んだ、まだ外にもあつたかも知れないが、もうそれだけ讀んだら別に好奇心もなくなつたので止した、だが、何の本だらう、と氣になつた、一寸俺の專門の理學の何かを何か平易に書いたものかとも思つたが、まさかそんなものでもなささうだし、では、と色々考へた末、はゝあ、哲學の本かな、と思つた、その時、俺は又ふとこの男も確にどこかで見たことがあるやうな氣がして來た、をかしいぞ、をかしいぞ。

俺は又隣の女が氣にかゝつて來たので、ふと一法を思ひついて、片膝を曲げて腰掛の上に載せて、片肘を硝子窓の匡のところに突いて、それに頭を寄せかけて疲れを休める恰好をしながら女の方を見た。俺は實は先から氣が附いてゐるのだが、彼女の方でも時々盜むやうにちら〳〵と俺の方を見てゐる樣子である、それが斷然俺の方だけである、現に俺の前に坐つてゐる男の方になぞ彼女は一顧もしない、これは俺が自惚れて言ふのではない、現に俺は俺自身よりも俺の前に坐つてゐる男の方を百人の女が見て九十九人まで好くだらうと思つてゐる、前の男は所謂苦み走つた、一寸役者のやうな顏をしてゐる、つんとした鼻の高い、口元の締つた、髮の毛を獨乙流に雞のとさかのやうに撫で上げた趣など、俺は斷然こんな男は嫌ひだが、確かに女が見て十人好きのする男に違ひない、だから女から見て、俺は決してこの男の敵ではない、それにも拘らず彼女は確に彼を無視して時々俺の方を盜み見してゐる。厭に頰骨の出た女であるが、そ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の突き出た頬骨が目に立たない程桃のやうなふくれた頬をしてゐる、更に目につくのは彼女の鼻の恰好だ、これが日本人にしては珍らしい恰好をしてゐるのである、眉と眉との間から突然山脈のやうに高くなつて、その山脈は下に延びるに從つても餘り高くなつてゐない、だからまるで屛風を立てたやうな塩梅である、だが、その顏を正面から見ると、うつかりすると十代かと思へる程若々しく、可愛らしく見えるのである、ふくれた頬が與かつて力があるのだらう、誰だつて女にぢろ〳〵と眺められて愉快にならないものはない、などと言ふと、やつぱり俺も少し自惚れ氣が起つたのかな、一俺の大學時代の友達に女さへ見ると女が自分の顏に見惚れると考へる男があつた、そんなのは多少病的だが、各々の好男子と言はれる男は大なり小なりこの感じは持つてゐる、俺は好男子と言はれたことはない代りに、そんな感じを持つたことはない、否、俺もたつた一度覺えてゐる、俺が二十歳の時だ、俺の遠縁の親類に或田舍で一寸した料理屋をしてゐる家があつた、そこへ俺は暑中休暇に一週間ほど泊りに行つたことがある、そこの別嬪の、後で聞いたら大人しい癖に唯一つ男好きといふ難がある娘ださうだが、その娘が俺を好男子だと言つた、俺は身體が弱いせゐか、どんな暑い夏の晩でも薄い布團を一枚だけ掛けないと眠れない性分を持つてゐる、娘は俺の寢姿を見て、實に行儀がいゝと賞讃した、それから俺がどんなに暑くつても肌をあらはさないのを見て、田舍の男ばかり見てゐる彼女は、それをも亦賞讃した、そして、何から何まで私は曾てあなた程好いたらしい人に會つたことがない、男振りはいゝし、と言つた、俺は自分の部屋に歸つて、机の上に鏡を立てゝ自分の男振りを檢査して見た、が、俺には何としても感心出來なかつた、で、色々に一寸口を歪めて見たり、笑ひ顏をして見たり、樣々に研究して見たが、更に醜惡になるばかりで、どうも好男子の表情は見られない、俺は少々悲観して、鏡の前を去らうとした瞬間に、ほんのその瞬間に、ちらりと、成程、一寸さう見える點があるかな、と思つたことがある、つまり俺の顏が百通りの表情をする中で、その九十九迄はいけないが、唯一通り

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だけ一寸好男子に見えることがあるといふ事を發見した、若しかすると、百人の女の中で一人だけ俺をさう認定するものがあるのかも知れない、今、この俺の隣に坐つてゐる女はその一人かな、と思ふと、俺は少し愉快になつた。俺は更に嬉しかつたのは、その女が斜め後から見ると、つまりその束髪に結つた髪の大部分と、その下にちらとその豐かな頰だけをのぞかせて見える時は、前から見るのとは違つて、完全に十七八の少女に見えることである、前から見ても、若くも可愛らしくも見えるが、よく見ると、どうも三十大分過ぎた女の相がちよく／＼見えることがある、これはさておき、更に驚いたことには、この女を眞横に見た時である、これは又五十歲位のお婆さんに見えるのである、その目に立たない頰骨と、殊に洋風のやうな鼻の恰好のためであらう、ところが、生憎俺がちら／＼と彼女の方へ目をやつた時、最も屢々見えたのはこの横顏なのである、俺はふと隨分以前に亡くなられた英吉利國のヸクトリア女皇に似てゐるなと思つた、すると、をかしいぞ、俺はいつかもこの女と同じ汽車に乘り合はしたことがあるやうな氣がして來たのである。

その時、車室の一方の扉が開いて、車掌が這入つて來た、俺はふと寢臺車のことを思ひ出したので、それが空いてないか、と車掌を呼び止めて聞いて見た、さうしてからこのまゝこの女を殘してこゝを去るのは少し殘り惜しいな、といふ氣がした、殊に何といふこともなく、向ひの「表現主義」を讀んでゐる男をこの女と二人殘しておくのが變に厭な氣がした、と車掌の答に、「多分もうないか知らと思ひます、が、一應掛の者に確めて見ます、もつとも、申し込んでお置きになると、ひよつと空くことがありますから、」と言つたので、俺は自分の名前を言つて置いた、車掌が手帳にそれを書き止めてゐると、突然「車掌さん、」と例の隣の席の女が呼んだ、車掌はその前に行つた、その時丁度汽車が鐵橋の上を通つたので、彼女が何を言つたのだか、場所が少し離れてゐるし、無論聞えなかつた、車掌も腰を屈めて彼女の顏のところに耳

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

をもつて行つて、聞いてゐる様子であつたが、最後に又手帳に何か書いてゐた、ひよつとすると、彼女も寢臺を頼んでゐたのかも知れない、その時、おや、斯ういふ事件も、これと同じ事が前に一度あつたと言ふ氣がした、そしてそれが確にこの女である、と俺は思つた、その時やつぱり俺の前にはこの「表現主義」を讀んでゐる背廣の男が坐つてゐた、すべてそのまゝだ、をかしいな、俺は夢を見てゐるのかな、いや、確に夢ではない、して見るとこれと同じ夢を見たことがあるかな、と思つた。

そこで俺は目を轉じて車室の前の側の、右の方を注意して見た、右の隅に二人の五十餘りの老婆が乘つてゐる、二人とも履物を脱いで坐席の上に坐つてゐる、その顔がよく似てゐるのである、が、一人は肥つてゐて一人は瘠せてゐる、而も二人は全くよく似てゐるのである、同じ顔で肥つた人と瘠せた人とを書いた何とか言ふ補血藥の廣告の看板にそつくりである、瘠せた方は手を前に束ねてぼんやりしてゐるのに反して、肥つた方は眼鏡をかけて、何か本を一心に讀んでゐる、が、これは距離が餘り遠いので何の本だか無論分らない、が、何と氣になるのは眼鏡をかけて、如何にも學者然として、一寸女流敎育家といつたやうな恰好なのだ、それにも拘らず本を讀みながら、頻りに酸漿を鳴らしてゐるのが、それが俺に、さうだ、この老婆連中も確に見たことがある、やつぱりそれが汽車の中でだ、と思ふと、俺は益々あたりの氣分が不思議に思はれ出した。

それから今迄殆ど注意しなかつた右隣の方を注意して見た、そこには六十近い、洋服を着た大男の紳士が後頭を窓匡に當てゝゐるので、顔を全く仰向けにして、眠つてはゐないのだらうが、目をつぶつてゐる、赤ら顔で、ちらつと見ると、西洋人でないかと疑はれた程であつた、鼻が大きいのと、額の拔け上つてゐる具合と、眉毛とすれ〲にくつ附いてゐるやうな眼に大きな眼鏡をかけてゐる恰好が、西洋人型なのである、彼の隣にその子供と見える十四五の男の子が目を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぱつちり開いて、頻りに蜜柑を食べてゐる、この少年はどうかと思つて注意して見たが、これは一寸も西洋人くさいところはなく、どつちかと言ふと役者の子見たいな、秀麗な眉目をしてゐる、水兵式の服を着てゐる、この子のお母さんが奇麗なのだらう、と俺は一寸その西洋人型の紳士が羨ましい氣がした。

その時、がらりと車室の一方の扉が開いたので、車掌が寢臺の返事に來たのか、とその方に目を向けると、何だ、つる〳〵の禿茶瓶の、いやにでぶ〳〵太つた背の低い男が、車の動搖に連れてひよろ〳〵しながら俺の前を通つた、食堂車の歸りらしいのである、曾我の家五九郎にそつくりの顏をしてゐた、五九郎にそつくりだな、と思つた瞬間、おやおやこの男も確に見覺えがある、それはいつの事だつたか知ら、と思ひ出さうとしたが、思ひ出せなかつた、が、不思議な事に、何でもこの前の時には、この男は俺の前を通つた時に、ひよろ〳〵として、俺の膝に手を突いて、だのに顏に似合はず横柄な男で、默つて挨拶もしないで通り過ぎてしまつたことを思ひ出した。果してその男は今俺の前を通る時にひよろ〳〵とした、そして俺の膝に手を突いた、俺は吃驚した、俺がびつくりしてゐる間にその男は悠然と身體の安定を直して、俺に一言の挨拶もしないで行つてしまつた、俺は驚いた、何よりもこの前にこれと同じことがあつたことを思ひ出して驚いた。

大船を通る時には、俺は腹が滅つてゐてもふくれてゐても、晴雨を論ぜず必ずサンドヰツチを買ふことにしてゐる、汽車が止まつて、「おほふな、おほふな、」といふ驛夫の叫聲が聞えたので、俺は一切のことを忘却して、早速立上つて硝子窓を開けた、窓から首を突き出すと、サンドヰツチ屋も茶屋も新聞雜誌煙草屋も遙かの向ふの方でうろ〳〵してゐる、俺はいら〳〵した、サンドヰツチを買はないうちに汽車が出てしまつたらどうしようと煩悶した、と言つて、俺には「おーい、サンドヰツチ屋！　茶！」などと呶鳴ることが出來ない、ひどく俺は恥かしがりの性分なのである、俺は卒しく

二分間ほどの間窓から首を突出して、サンドヰッチ屋らしいもの〻影を睨んでゐた、サンドヰッチ屋はだん〱此方にやつて來る形勢らしいのだな、多分俺の前に來る迄に汽車は出てしまふだらう、俺は股と股とを擦り合していら〱した。と、その時俺の直隣の窓に人の歩いて來る足音がして、窓ががたんと勢よく開けられた、見るとそれは俺の前に腰かけてゐる「表現主義」の男なのである、表現主義は窓を開けるなり、首を突き出す動作と一緒に「おーい、新聞屋！」と威勢のいい聲で呶鳴つた、新聞屋が馳けつけて來た、それと一步おくれてサンドヰッチ屋がやつて來た、

「ハムをくれ、ハムを！」とそこで俺は叫んで言つた。すると、

「おーい、ハム！」とその聲が後の方に向つて叫んだ、俺は變な奴だなと、思つた、

「ハムだよ」と俺は言つた、すると、

「はい、」と言つて別の男がやつて來て、俺に「はい、一圓」と一つの箱をさし出した、それを見た時、俺はしまつた、ハムぢやない、何とか言つたな、何とか、と心の中で思つたが、それぢやない、と言ひ兼ねて、取敢ずそれを一つ買つたが、その時、俺の隣の窓から首を突出してゐた男が、新聞の次に牛乳を買つて、それから向ふの方へ歩いて行くサンドヰッチ屋に、―

「おい、サンドヰッチ！」と叫んだ。

さうさう、サンドヰッチ、サンドヰッチ、と俺は心の中で叫んだ、俺はどうしてこのサンドヰッチといふ名を忘れて、ハムなどと言つたんだらう、と思ひながら、傍にやつて來たサンドヰッチ屋に、

「おい俺にもくれ、ハム」と言つた、そして驚いて、「いや、サンドヰッチ」と言ひ直した、その時ピリ〱と發車の笛が鳴つて、汽車が動き出した。俺の隣の表現主義の男は五圓札を出して、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「これでつりをくれ、」と叫んでゐる。

「おつりはありません」とサンドヰッチ屋は言つて、その隣で五十錢札を突き出してゐる俺の手にサンドヰッチと十錢札とを渡した、と、チョッ！ と表現主義の男は舌皷を打つて、窓を開け放つたまゝで自分の席に歸つて行つた、俺はひどく惡いことをしたやうな氣がした、だが、あやまるのもをかしなものだと思つた、で、俺はゆつくりと俺の硝子窓を閉めて、ゆつくりと腰を下ろした。前の男はそ知らぬ顔をして、「表現主義」を傍に投げ出して、今買つた新聞を讀んでゐる、新聞を讀みながら、今買つた牛乳を瓶の口からちびり〱と飲んでゐる。俺は安心した、が、一寸遠慮して、直にサンドヰッチを食べないで、目を閉つて腕組みしてゐた。

と、その時俺の傍で人の氣配がするので、目を開いてその方を見ると、例のヰイクトリア女皇の横顔の女が、前の男が大船驛で開け放しにしておいた窓を閉めようとしてゐるのだが、女の力が弱いのと、手が十分延びないのとで、ひどく困難してゐる、俺は氣輕に、實際俺にしては珍らしく氣輕に立つて行つて、

「僕、閉めませう、」と言つた。

「有難うございます、」と女は實にしとやかにお辭儀をした、やつぱり彼女はヰクトリア女皇でも、老婆でもない、そんなに年をとつてゐない、しとやかな日本婦人だ、と思つた、その瞬間、あゝ、どうも變だ、やつぱりこれは變だ、そつくりだ、いつの事だらう、俺はたしかにこの汽車に乗つたことがある、そしてこの女と隣合せに坐つて、そして彼女の爲に窓を閉めてやつたことがある、さう思ふと愈よ不思議なことにはサンドヰッチを買ひそこなつて、ハムを買つて、さうだ、丁度この通りだ、表現主義の男が五圓札を出してサンドヰッチやに刎ねつけられたのを、それを俺が横合から買ひ取つた、をかしいな、そんな同じことが人生に二度起ることがあるものか知ら、或ひはそれは夢で見たのか知ら？

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女はやつぱり時々俺の方を見てゐる、で、俺はサンドヰッチをそのまゝにして、再び前の姿勢に戻つて、頭を肘と一緒に横向きに窓框に押しつけて、休むやうな振をして女を見ようとした、が、直には一寸極りが悪くて出來なかつたので、俺は暫く後向きに、帽子を脫いで、額を窓硝子にぴつたりつけて、夜の窓外の景色に目をやつた、が、汽車の震動の爲に額が硝子を打ち、硝子が額を打つので、誠に具合が悪いものだから、今度は額を少し硝子から離して、兩膝ともクッションの上に載せかけて、兩肘を窓に突つ張つて、そして外の景色を眺めた、外の景色は眞暗で、うまく覗かれない、それを目を凝らしてよく見ようとすると、外の景色よりも、車内の反對の側が益々はつきりと硝子が鏡の代りのやうに寫し出すのである、それに依ると、前の男はいつの間にか新聞を傍に投げ出して、又もや例の「表現主義」の本を讀んでゐる、それから向ふの隅の方に二人の男が死んだやうな恰好をしてだらしなく寢そべつてゐるのも見える、それに、何處から乘り込んで來たのか、多分大船だらう、表現主義の男の隣りに、黒いトンビを着て、鳥打帽を被つた男が腰かけてゐる、その男が俺の隣の大男の西洋人型の紳士と知り合ひと見えて、頻りに話をしてゐる、それ等の光景が窓の外の眞暗な景色と、その景色の中に時々ポツリ／＼と點つてゐる灯だけが厭にくつきりと浮いて見える、それ等とが、まるで活動寫眞に出て來る幽靈のやうに、重なり合つて見えるのである、そんな景色は俺にはちつとも面白くないのである、

俺はどうしても隣の女の方が見たくなつて堪らない、ふと見ると、女の口元でパッと燐寸の火が點つたので、おや、彼女は紙巻を吹かし始めたのである、細い紙巻、多分「やよひ」とかいふ煙草だらう、それを挾んでゐる手の小指に、外の指には一本も嵌めないで、小指にこちや／＼と二本も、二本とも大きなきら／＼光るダイヤ入りの指輪を差してゐるのである、煙草の煙とダイヤとが妙に俺を引きつけるのである、俺は段々に肘に載せた頭を回轉さして、彼女と窓と半分半分の方向に目をおいて、後は目の玉だけを彼女の方にぐッと向けて、色々と觀察して見た、女は近頃流行の、俺の、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

細君も到頭二三ケ月前里の母親にせびつて買はしたので俺は知つてゐるのだ、眞黑な、天鵞絨見たいなコートを着てゐる、そして首にはこれ又眞黑なショールを卷いてゐる、どうかした拍子にそのショールの裏地の紫色がちら／＼と見えるだけで、女の體裁は悉く黑づくめである、この黑づくめが一層彼女をヸクトリヤ女皇に髣髴させるのだなとその時俺は氣がついた、そしてパツ、パツと煙草を吹かしてゐるのであるが、それがどうやら咽喉にすひ込んでゐるのではなくて、吹き出し煙草らしいのである、その吹き出し方が俺に氣に入るのである、俺は段々大膽になつて、片足を床の上に下ろして、片肘を膝に突いて、眞正面に、しかし俺もポケツトから煙草を取り出して火を點けながら、女の方を眺めた、今度は彼女の腰から下を眺めた、と、意外なことに、黑いコートの下には彼女は黑色ではなくて、茶色の、俺の目にも舊式ぢやないかなと思はれたやうな、縞の着物を着てゐたが、俺はこれは屹度最新流行の、つまり古代色の復活とでもいふのかも知れないと思つた、それに下駄は普通の若い女たちのやうな疊表のついてない、柾目の通つた男のやうな下駄を穿いてゐる、その鼻緒が、亦黑なのである、黑の裏側はやはりショールと同じやうな紫色らしいのである、殘念なことに足が少し大きくはないか、と俺は少し氣になつた、彼女は右側に上の方が更紗羽二重か何かの袋になつてゐて、下の方が四角な籠になつてゐる、相當に大型な袋を置いてゐる、それに心持ちもたれ掛るやうな姿勢で腰かけてゐるのである、この女は普通の女のやうに腰掛の上に下駄を脫いで上り込んで坐つたら似合はないに違ひない、やつぱりこんな風に腰かけて、行儀が惡く見えない範圍で足を組合はしてゐる方がよい。

その時、俺の反對の隣で可成り大きな聲で「ワハハハ」と笑ふ聲が起つた、西洋人型の紳士とその向ひの鳥打帽の男とが何か言つて聲を合はして笑つたのである、俺は何といふこともなく、驚いて兩足を床の上に下ろして、正面を向いた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「珈琲の木をすつかり枯らしてしまひましてね、」と鳥打帽の男が言つてゐる、「あれはやつぱり地室なんかぢや駄目ですな、惜しいことをしましたよ。えゝ、溫室の中に入れておいた二本だけは大丈夫でしたがね。」

「珈琲といふのは草かね、木かね？」と片つ方の西洋人型の紳士は柄に似合はない質問を發してゐる、「やつぱり山吹見たいなものかね？」

この愚問で、俺は又驚かされたのである、俺はこの男の愚問を確に一度聞いた覺があるのである、ゴーと汽車が隧道に這入つたので、後の問答は聞えなかつたが、やがて隧道を出ると、

「飛行機はやつぱり相當に高いところを飛ばないと不都合なものかね？」と西洋人型の男の愚問が聞えた、俺はこの時始めて分つた、さうだ、前に腰かけてゐる男は、飛行將校だ、この男もひどく愚答をするのを俺は確にいつか聞いたことがある。

「さうですよ、殊にこの邊は氣流の悪いところでね、これから箱根に掛かると、あの蘆の湖といふ奴が難物でさあ、」

「さうかね、」と西洋人型の紳士、「山の中は兎に角、平地でもどうしてそんなに高く飛ばなければいけないんです？」

「上の方が氣流が順調ですからね、」と和服の、鳥打帽を被つた飛行將校、「それに墜落の時にね、……」

「はゝあ、墜落の時に、やつぱりあんまり低いところだと、身をかはす暇がないのかね……」

そこで汽車が又鐵橋か何かに掛つたと見えて、二人の男の問答はかき消された。俺は益々氣が變になつて來た、この問答も俺は確に聞いた覺えがある、俺は突然西比利亞のことを考へ出した、無論俺はそこに行つたこともなければ、そこに親戚の者が行つてゐる譯でもない、にも拘らず俺は何の理由もなく、西比利亞のことを考へた。

「西比利亞は割合に飛行機には都合のいゝところでね、」と、すると汽車が鐵橋を離れた時、隣の二人は偶然に西比利亞

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の話をしてゐるので、俺はぎよツとした、「あそこは比較的氣流が穩かでね。……」
「……。馬はどうかね？」と西洋人型の紳士の聲。
「內地の馬は駄目ですよ、直に風を引いてしまつてね、」と鳥打帽。
今度は犬の話をするぞ、と俺はその時思つた、と、果して、
「彼地では犬が中々役に立ちましてね、」と鳥打帽。
「やつぱりセツターかね、ポインターかね？」
「おもにセツターですね、」
「彼地ぢや、彼地の子供は日本の子供と違つて犬に惡戯しないだらうね？」
「さあ、さうですね、あんまりしませんね。……」
俺は驚いた、氣味が惡くなつた、この愚問愚答を、俺は悉く一度、而もやつぱり汽車の中で、この男たちの口から聞いたことが確にあるのである、夢かな、と思つて、俺はうんときつく自分で自分の身體をつねつて見た、その時、汽車が國府津に着いたのである。
そこで俺はさつき買つたサンドヰツチを思ひ出して、丁度その折詰の蓋を開けようとしてゐるところへ、食堂車からの歸りらしい二三人連れの男が俺の前を通り掛つた、その先頭の男を俺は知つてゐる、向ふは俺を知らないかも知れないが、俺は知つてゐるのである、この男は俺が二年ばかりゐた高等小學校に、俺より一年上だつたかの級にゐた者だ、昔の通りひどいあばた面である、俺はこの男と一度も物を言つたことはなかつたが、この男が何とかいふ博奕打の子だと言ふことと、喧嘩がひどく強いといふことを、誰からとなしに聞いて知つてゐた、さうだらう、顏からして、その

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あばた一ぱいの赤面といひ、ぺつちやんこの鼻といひ、親の子だけにまるで子供の博奕打といつた感じだつた、運動場などでその男の傍を通つたり、その男に傍を通られたりすると、俺は驚いて傍に寄つたものだ、だがさういふ時にその男がどんな顏をしてゐたか、どういふ所に立つてゐたか、といふやうな事は恐く俺は忘れたが、唯一つ、どんな場合だつたか、何でも大勢の男を相手にして、この男が喧嘩をした後だつたかと思ふ、顏ぢゆう血だらけにして、着物の肩の邊を見事に引裂いて、凄い顏をして突立つてゐた、その周圍を大勢の者が取卷いて、口を開いて見てゐた、俺もその仲間の一人だつた、その時の、丁度芝居の殺し場の主人公のやうなその男の恰好を、俺は昨日のことのやうに思ひ出すことが出來る、今やその男は大島絣の上下を着て、悠然として俺の前を歩いて行く、その男の後から來る、目のぐりぐりした、無帽の、これ又大島絣の上下を着てゐる男も、その次の無地の着物に無地の羽織に、白縮緬の兵兒帶を締めた、これも目付の据つた、鼻の尖つた男も、一見みな博奕打か、顏役か、何にしても先のあばたの男と同職業の者に違ひない、さうだ、これが近頃人の噂に聞く國粹會とかいふ連中だな、と俺は思つた、俺はやつぱり二十年前の小學生時代と同じ恐怖を覺えて、思はず足をそろへて縮めた。

そこへ、俺の傍にいつの間にか一人の車掌が立つてゐて、「寢臺の御申込はあなたですか、一つ空きましたから、今御案內申します、」と、言つて、俺の返事を待たないで車掌は俺の隣の例のヰクトリア女皇の女の傍に言つて何か言つて居る、愈よあの女もやつぱり先に俺が寢臺を頼んだ時に、頼んだのだな、と思ふと、おや〳〵、これも同じことだよ、やつぱりこの通りだ、どうも變だぞ、どうも變だ。……

俺の前の「表現主義」の男はいつの間にかその本を傍にはふり出して、ぢつと腕組をして、時々俺の方をぢろ〳〵と、俺はその時まで氣が附かなかつたが、この男の目は何とも言へぬ凄い光を帶びてゐる、そしてその目付で俺の方を睨んで

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

居る、俺はふとこれは犯罪者の目付だと思つた、俺がさつき横取りして買つたサンドヰッチを食つてゐるのを、この男は憤慨してゐるのか知ら、俺はひどくサンドヰッチがまづくなつて來た、俺はこの男がどうも氣に入らない、さうだ、この男の目付はあの鴉の目に似て居る、と氣が付くと、俺はひどく氣味が惡くなつた、氣味が惡いと言へば、この男は先程から屢々便所に立つて行く、そんなに屢々淋病患者だつて便所に行くのはをかしいな、洗面所へでも行つて、おしやれをするのかな、おや、又立つて行つた。そしてこの男がその便所だか、洗面所だかに這入つて居る時間はばかに長いのである、何をしてゐるのだらう、中々出て來ない、が、俺はその間にあわてゝ大急ぎでサンドヰッチを食ふ。……彼の坐つて居た後に、散らばつた讀みさしの新聞の間に、例の「表現主義」といふ本が無雜作に投げ出されて居るのがひどく意味ありげに見える、一體何の本だらう、俺は一寸中を開けて見たくなつた、何もそんなに大それた罪を犯さうと言ふ譯ぢやないんだから、かまふものか、それにあの男は一度立つて行くと中々歸つて來ない、未だ十分間に合ふ、こそこそやつちやいけないが、堂々と、なアに、立つて行つて、あの本をぱつと開いて、ぱつと伏せて、そして自分の席に平然として戻つて來ればいゝのだ、よしそれをあの男に見付かつたとしても、その時は珍しいものをお讀みですな、失禮しました、あんまり珍しいものをお讀みですので、と言つて叮嚀にお辭儀をしたら、それでいゝのだ、で、俺は幾度もそれを決行しようとして中腰になりかけた、三度以上さうしかけた、だが、やつぱり躊躇された、その時ガラ〳〵と車室の扉が開いたので、そら歸つて來た、とびくッとしてその方を見ると車掌なのだ、車掌が俺の傍にやつて來て、それでは寢臺の方に御案内致します、と言つたのである。

汽車はいつの間にか國府津を出て、眞暗な中を突進して居た、俺は荷物と言つたつて、折鞄一箇とステッキ一本だ、折鞄を車掌に托して、俺はステッキを持つて、立つ時、一寸ヸクトリア女皇の女の方を見た、女も俺の方を見た、俺はこの女が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ひどく好きになつた、俺にあわてゝ目をそらしながら、この女を殘して行くのが心殘りがした、表現主義の男と二人殘しておくのが尙俺を不愉快にするのだ、だが、確にこの女も寢臺を賴んで居たやうだから、いつそ俺の寢臺を讓つてやらうか知ら、不愉快だな、表現主義の男はまだ出て來ない、あの男をもう一度見て行かないと變に氣懸りだな、と思ひながら、俺は車掌の後に附いて、いつか一つの車を過ぎ、又一つの車を過ぎて、寢臺車の領分に這入つて來た。

兩方に靑いカーテンが下がつて居るまん中の細い道を通る時、俺はいつにない不安な氣がした、俺は先にも言つたやうに寢臺でなければ近頃東海道を行つたことがない、俺は殊に寢臺車が好きなのだ、寢臺車の光景を見て、不安になるなんて始めての經驗だ、いや、一度以前にそんな思を感じたことがあつた、道理で、その時とこれは同じ汽車らしい、そら、上段の十三番と赤い札に書いてあるカーテンの中から、俺たちの通るのを覗いた顏、靑白い、角刈の、二十三四歲の肺患者のやうな顏、この顏が確に前の時も覗いた、奴は何者だらう、あの時も確に國府津を過ぎた所から、俺は車掌に案內されて寢臺に行つたのだつた。……

すると、車掌は一番隅の、下の段の寢臺を差して、こゝです、二番の寢臺です、と言つた、そこと、その上の段だけが、外が悉くカーテンが閉まつて居る中に、開け放しになつて居る、俺は驚いた、この上の段はいけないのかい、と聞くと、えゝ、それはもう約定濟です、と車掌は答へた、俺は困つた、俺は人とは反對で下の段が妙に嫌ひなんだ、が、これも前の時と同じだ、さうだ、この前この車掌に案內されて、この車掌は、おや、いつの間にかボーイになつて居るぞ、このボーイはまつたく美少年だ、そしてこの同じ列車のこの下の段に案內されて、不承々々で寢たことがある、あの時はどこへ行く時だつたか知ら？ 考へて見たがどうしても思ひ出せない、一體俺はこれ迄に物を忘れたといふことがない、が、これぱかりはどうしたことか思ひ出せない、仕樣がないので服を着かへてそこで寢ることにした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

俺の頭はひどく混亂して來た、これは珍しい現象である、俺の頭は餘り混亂しない頭である、これだけは俺の自慢のものなのである、殊に月に一度づゝ斯うして大阪の研究所に出かける時の、汽車の中の寢心地といふものは、一寸人に話が出來ない程、俺の頭は澄んで而も樂しさで一ぱいになる、俺は關孫六を考へる、備前兼光を考へる、顯微鏡で見る孫六の規則正しい斑紋が頭へ浮んで來る、兼光の又違つた規則正しい模樣が頭に浮んで來る、獨逸といふ國は恐しい國だ、一今から十年も二十年も前から、いつの間にか正宗も村正も孫六も兼光も手に入れて、俺が今やつてゐるよりずつと進んだ研究を秘密にしてしまつたのだ、その結果を先づ今度の世界戰爭の大砲の玉に應用してゐる、俺の心は躍る、今に俺は獨逸よりもつと進んだ研究をして見せる、俺は樂しさと興奮とで頭が冴えて眠られないのが常である、ところが今夜は全然違ふのである、俺の頭は混沌として、兼光を考へたり、獨逸を考へたり、ヰクトリア女皇、表現主義、國粹會、色んなものがごた〱と一度に頭の中で混雜して、而も妙に眠氣がさして來るのだ、そして又眠れないのだ、こんな事は嘗て唯の一度も俺に起つたことがない。……いや、それがたつた一度、前にこんな事、いや、これと全く同じことがあつたやうな氣がするのである、そしてその時もやはり兼光と獨逸とヰクトリア女皇と表現主義と國粹會と、同じことで同じ狀態に惱まされた、その時と俺は同じ列車の、同じ第二番の寢臺で、さうだ、決して別の列車の、別の第二番の寢臺ではない、ここだ、この寢臺で……さういふ事が、しかし、人生にあることだらうか？……

その時、俺の寢臺の前に人の來る氣配がした、俺ははツとした、聞き覺えの女の聲と男の聲である、はい、誠に濟みませんが、上の段で、こゝしかないものですから、と男の聲で。いえ、これで結構、と女の聲、何、そんなら、俺は丁度嫌ひな下の段で寢てゐるんだから、何時でも喜んで取換へてもいゝんだが、さう言はうか知ら、と思ひながら、俺はそつと自分のカーテンの端から覗いて見て驚いた、それはあのヰクトリア女皇に似た、俺の好きな女なのである、俺の眼

顏はもう口では言ひ現はせない、この通りなのだ、これも覺えてゐるのだ、確にいつかも俺が下の寢臺に寢て、あのヸクトリア女皇に似た女が上の段で寢たのだ、その通りなのだ、彼女は案内した例の美少年のボーイに、俺がカーテンの隙間から覗いてゐるとも知らずに、變に媚を含んだ目付を投げて、あの小指に二つのダイヤのきら〳〵光る手で一圓札を握らしてゐる、畜生、淫婦め！　と俺は理由のない嫉妬心を起して斯う心の中で叫んだ、やがて、ボーイが梯子を運んで來て、女が上つて行く氣配がする、淫婦め、淫婦め！　と別に淫婦である何の證據もないのに、俺は口の中で叫んだ、梯子段を上る、俺の上で寢るんだな、畜、畜！　俺は二度目だ、俺は一度こんな目に會つた。同じ女だ、どうしたと言ふんだらう、俺は夢でさういふ事を經驗したのか知ら、いや、夢ぢやない、夢にしては餘りはつきりし過ぎてゐる、確に俺はこの列車であの女に、こんな風に梯子を上られて、そして俺の上で寢られたことがある。……

俺は堪らなくいら〳〵して來たので、寢臺の上に坐り直つて、硝子窓の方のカーテンを一枚しぼつて見た、汽車は確に走つてゐるのか、窓の外には普通の人間の住んでゐる野山があるのか、謂はゞそんな氣がしたのである、が、窓の外は眞の暗で、いくら目を硝子におし付けて見ても、片側の背いカーテンの影が少し映るばかりで何にも見えない、俺は半巾を出して矢鱈に窓硝子をこすつて見た、そして尙も止めずに熱心に外を注意して見た、幾分か見えて來たところに依ると、やつぱり遠く近くに山らしいもの〻形も見えるし、たまには人家らしい灯も見えるし、鐵橋をも通るし、別に何の異狀をも認めないのである、俺は少し安心して、再び仰向けになつて頭を枕につけて見た、が、やつぱりどうも不思議に思はれてならぬのである、さうすることが既に一度あつたことのやうな氣がするのだ、俺はこれは堪らないから、何でも彼でも早く寢入つてしまはうと思つた、最早や五郎正宗も、獨逸も、表現主義も、何にもない、そんな考さへ起らない、唯こんな事が、これと同じことがあつた、確にあつたといふ事ばかりが考へられて、不思議の氣持が不安の氣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

持になり、いら／＼する氣持になり、もう／＼辛抱が出來ないので、何でも、どうかして早く眠つてしまはうと努力して見た。

そして少し眠つたのか、大分眠つたのか、或ひはやつぱり少しも眠らなかつたのか、ちとも分らない、俺は何でも汽車が隧道を拔けるごう／＼言ふ音を聞いた、そのごう／＼いふ音が外のでない、確にこの通りのごう／＼言ふ音を俺は以前に一度聞いた氣持を思ひ出した、その時、それから直に鐵橋に掛つたことを覺えてゐる、果して今も、それから直に鐵橋にかゝつた、その鐵橋は中程から以後の部分の時、最もひどい音を立てた筈だ、と思つた、果して中程から後にさしかかると、一層ひどい音を立てた、俺は少し睡氣を催して來た、その睡氣が尋常のものでなく、麻睡藥か何かを嗅がされた時に感じるやうな眠さだ、これはいけないと俺は思つた、俺はこれも確に覺えてゐる、こんなに一々同じことが二度ある筈がない、やつぱり俺は今俺が經驗してゐることを、いつか前に夢に見たのかも知れない、それは有り得ることである、さうだ、夢だ、夢だ、夢に汽車に乘つたのを見たことがあるやうな氣がする、その時やつぱり斯うして寢臺に乘つてゐて、隧道をくゞつて、鐵橋を渡つた後で、麻藥を掛けられたやうな眠さを感じたものだ、あの夢は氣味の惡い夢だつた、何でも暫くして汽車が再び隧道に這入るか何かするので、その前觸の汽笛を鳴らした、その瞬間にぬつと一人の男が俺の寢臺のカーテンを無斷で開けて這入つて來て、俺が何とか言つて呶鳴る暇もないうちに、ぐさりとその男が俺を、俺を、俺に何の怨もなければ、確に俺が金持でも何でもないことを承知しながら、短刀で突きさした、そして俺は確かびつしより汗をかいて目を醒ました、その男があの「表現未發」といふ本を讀んでゐた、あのさつき俺の前に坐つてゐた男だ、そして俺がびつしより汗をかいて目を醒ますと、あのギクトリア女皇が俺の枕元に、……と考へてゐた時、やあ！　汽笛が鳴つた。……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

……汽笛が鳴つた、その瞬間ぬーッと俺の足下の方のカーテンが動いて、手が出た、はつと俺が思はず息を凝らした時にはもうその手を出した男が、物音も立てずにその身體全體を俺の寢臺の中に入れてしまつた、ゴー／＼……汽車は隧道に這入つた、俺がうわーッと叫ぶ聲を立てようと思つた瞬間、暗がりの中にもちらりと俺の目を射たのは抜き放つた短刀だ、それが息もつかせない早さで、俺の咽喉をぐさり……と、そしてあゝ、あゝ、その時見た、やつぱり、それが、あの「表現主義」の男なんだ。……

氣がつくと、俺は汽車の中ではなく、俺の家でもなく、そして夜でもない、が、俺はそれを別に不思議とも何とも思はないのである、俺は頭の中に烟か豆腐の滓のやうなものが一ぱい詰まつてゐるやうな氣持だ、何のために、何が怨があつて、あの「表現主義」の男は俺を殺しに來たんだらう、と一寸思つたが、俺にはもう物を考へたり、言葉を言つたりする能力が全然缺けてゐるのである、俺は死ぬんだなと思つた。さう思ふと、俺は變にいら／＼する氣持を感じた、俺は今死にたくない、五郎正宗や備前長船のことがちらりと俺の頭に浮んで來る、唯浮かんで來るだけである、俺は頰ぺたを白い枕におしつけてゐる、俺の目は窓を見てゐる、窓の外は晴天で、木の梢や、ごた／＼と並んだ家の屋根が見える、俺はいつか一度これと同じ場合に遭遇したやうな氣がした、その時もこんなに晴れてゐて、同じ形の白雲が一つ空に浮いてゐて、……何もかも同じことだ。

俺の傍にヰクトリア女皇に似た女が頭を垂れて腰かけて居る、もつと傍に俺の細君がやはり腰かけて心配さうに俯向いてゐる、これも俺は夢で見たのか、確に一度これと同じ境遇にあつたことを覺えてゐる、あゝ言ふ事が昔一度あつて、俺は今その夢を見てゐるのぢやないかなとも思つた。實際、その時と寸分違はない、俺の傍に警察の役人のやうな人間

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が二人立つてゐる、それから裁判所の役人のやうな人間が二人三人立つて居る、彼等は時々俺の方を見ながら何か話をしてゐる、ひどく心配さうにしてゐる、看護婦もゐる、無論醫者もゐる。俺は頭の上に吊り下がつてゐる氷嚢が重くてたまらない、が、それを取つてくれと言ふことが出來ない、それを取つてくれたら俺の夢が醒めるのかも知れないと思ふ、それを取つてくれたら、俺は口がきけて、そしたら、俺が如何に人に怨まれる理由がないか、痴情の關係もないか、——しかしヸクトリア女皇の女はどうかな、いや、然しあれは唯の乘合客に過ぎないのだ、だのに、あの表現主義の男はどうして、……兎に角、俺はあの男に突然寢臺の中にもぐり込まれて、ぐさりとやられたのだ、といふ事を話さう、實際、俺が話さなければ、誰が俺をこんな目に合はしたのか、誰にも分らないに違ひない、俺はものを言ひたくて堪らなくなつた。

せめて、あの男の、あの下手人の頻りに讀み耽つてゐた、「表現主義」といふ本の名前だけでも一言言つておきたいと思ふ、實際をかしな本だ、何の本だらう、表現主義なんて、乾度俺は知らないのだが、それを言つたら裁判官なり醫者なりに直に判斷がつくかも知れない、さうだ、彼等に判斷が附かなくても、立會つてくれてゐるあのヸクトリア女皇の女が知つてゐる、おや〳〵、西洋人型の、大男も隅の方に坐つてゐるぞ、何處かに和服の飛行將校もゐるんだらうな。……をかしいな、いつ俺はこんな目に會つたことがあるのだらう、實際、この通りだ、そつくりだ、あの時も俺が斯うして寢てゐて、そしてやつぱり俺の周圍に今こゝにゐるだけの人間がそつくりゐた、あれは夢かな、今が夢かな、……人生にこんなことが二度起る譯がないからな、それとも先の世か、次の世か、現在か、そんなものかな……

おや〳〵、少し日が陰つたな、あの窓の外の木は何の木だらう、おや、木ぢやないのかな、ばかに傾いてゐるぞ、二十度位は傾いてゐる、あの電信棒かな。俺の家から電車道へ出るところにある、あの俺の嫌ひな電信棒かな？

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

や、や、や、到頭又彼奴が來やがつた、外の鴉ぢやない、あの鴉だ、あの鴉が鳶口のやうな嘴を俺の方に向けたぞ、今に鳴きやがるな、あの厭な目はどうだ、表現主義の男の、俺を殺した男の目そつくりだ、……すつかりこの通りだ、俺はこの光景を覺えてゐる、俺は死ぬんだな、おや、鳴くぞ、鳴くぞ、あの鴉が……

死ぬ迄に、俺はせめて言はう、言はう、「表……表現……主……主義……」

何と言つたんでせう、何か言ひましたな、と言ふ人々の聲が聞える、何か手懸りになるかも知れませんがな、何と言ひましたかな、支那人の名か何かのやうでしたな、……と人々が言ひながら俺の傍に寄つて來た、俺はもう言へない、もう目も見えなくなつて來た……

鴉が、あの鴉がその時、かーお、と鳴いた。……（九・三・二一）

子爵と三人の女

長谷川如是閑

松原越に紫色に霞んだ海をぼんやりと眺めてゐた白戸子爵はふと、こんな風にして此の廊下から、よく海を眺めてゐた逝くなつた夫人のことを思ひ浮べた。

或る種の婦人によく見るやうな、階級的の誇りと彼女自らの女性美に對する自信とに最も非難し悪い表現を與へてゐたのは彼女であつた。然しそれは如何に非難し難いものであつたにせよ、女性の無智と利己心とを、遺憾なく發露したものであつた、と子爵は思つた。けれどもさう思ふことは、彼女を悪むことでも笑ふとでもなかつた。子爵は、彼女に於て、彼女に屬する階級に於ける標準的の女性を見たのであつた。さうして、子爵はそのことに充分敬意を拂つて居たのである。

子爵が時々自分を襲つて來るえたいの知れない、混亂した、一揆的の感情を忘すれてゐる時には、夫人が、子爵にとつて、彼女の地位に最も適はしい女性で、さうして子爵自からの地位にも、適はしくなくはない同伴者であつたことに感謝の念をさへ禁

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

じ得ないのであつた。女王の威嚴と、處女の純潔と、女性の纎弱とを、矛盾なしに、渾然と表示してゐるのに對しては、少しでも反感らしい氣持を起すことが何うして出來やう。あの病氣が普通の女性に持來すいろ〳〵の殃は、彼女を内からも外からも、何うすることも出來なかつた。生理的に犯された少しの影響を除いては、彼女は死ぬまで、その容姿にも擧動にも、彼女らしいすべてのものをちつとも失はなかつた。

『もう少し良くなつたら、又江の島へ連れて行つて下さらない?』

影のやうに浮んでゐるその島の方を恍乎と見てゐた彼女が、列んで椅子に倚つてゐた子爵の方を見て、さういつて笑顔を見せたのは、逝くなるつひ二三日前のことであつた。その笑顔は、死んで行く人の淋しさを、彼女といふもので押し包んだ努力であつた。それは美しい努力であつた、けれども威かめしい努力でもあつた。

『つまらなかつたらうなア。』子爵は、それを思つて、ふとこんな獨言を呟いた。さうして子爵自身の頭から何か振り落しでもするやうに首を振つた。

『何を仰つてゐらしやるの?』後ろでさういつたのは、小間使のお由美の聲であつた。

子爵は振り返つた。お由美は、紅茶を注ぎながら、子爵の顔を見てほゝ笑んでゐる。

『それ溢れる。やあ〳〵だらしがない。』子爵は戯弄ふやうにさう云つたが、實際紅茶が茶碗から溢れて皿一杯になつてゐる。

お由美は顔を赤くして、それでもクス〳〵笑ひながら、皿の紅茶を欄干の外へあけた。お由美は、血色の好い櫻色をして、潤いたやうな眼を晋のしさうに瞬いてゐる、少し顋の張つた顔の、やゝ大きい口をいろ〳〵に動かして表情をする、生々とした女であつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

子爵は自分の椅子を少しずらして、お由美に傍の椅子を與へた、

『何うだ一緒にやらないか。』

『お邪魔ぢやなくつて？』お由美は、首を傾しげて、そんなことをいつたが、その返事を待つでもなく、傍の椅子に倚つて、も一つの茶碗に紅茶を注いだ。さうして、また、

『今何を仰つてゐらしつたの？』と始めの問を繰り返した。

子爵は默つて、態とらしく、機械人形のやうな首のふり方をした。

『奥様のことを考へてゐらしつたのでせう。』と切口上で云つて『定つてるわ。』と急に言葉につけ加へた。

『いけないか？』子爵は、お由美の顔を眺めるやうに見て、さういつて微笑した。

『私奥様に、一遍お目にかゝりたかつたわね。』お由美は急にそんなことを云つて、『お寫眞で拜見しても、お美しくつていらしつたのね』

『美しかつたね。』子爵は、今しがた考へた通りのことを考へながら『それは美人だつた。』と附加へた。

『旦那様、ほんとうにお氣の毒ね。』

『うん。』子爵には、自分よりも當の夫人が氣の毒であつた。で『俺よりも當人が氣の毒だつた。』と云つた。

『……』お由美は、唇まで持つて行つた紅茶茶碗を元に戻して、暗い顔をした。

子爵は、それをチラと見て、氣がついて、更めてお由美の顔を慰めるやうに見た。

『まあ然し、それは、アレが自分の持つてゐた誇りと自信の犠牲になつたのさ、我々の社會の女性は皆さうなのだ。』

さういつたが、子爵は、自分の云つた意味がお由美に通じないといふ不安を感じた。然しそれに頓着せずに、なほこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れだけのことを云ひたかつた。

『男でも女でも同じだが、自分よりも周圍を大事にすると、氣の毒なことになる。さうしなければならないことになつてゐるし、さうした方が無事でもあるが、それはさうしちやいけないのだ。お前だつてさうだらう。』子爵は、少しお由美に解るやうに云つてやりたかつた。

『さうぢやないか。他の人に、あゝ見えやしないかの、かう見えやしないかのつて、お化粧をしたり身づくろひをしたりしてゐたら、自分の爲めの身體だか、人の爲めの身體だか解らないぢやないか。……けれどもそれは女ばかりがさうぢやないんだ。いやになつてしまう。』

『さうね。』お由美は、賢して相に諾いて、『でも奥様はそんな方ぢやなかつたのでせう。』

『それは何も故意にそんなことばかりしてゐる譯ぢやないがね。何しろ生れ落ちると、さういふ空氣の中にばかり育つたのだから自然とそんな風に出來上つてしまつたんだね。咳を一つするのでも、ちやんと作法に違はないやうに心懸けなければならない。あれのは、非常にそれに熟練して、故らでなく、頗る自然にやつてゐたといふに過ぎないんだ。』

『ですから私達なんぞはさういふ方の前には、出やられしませんわ。……でも私今まで餘りそんなことを構はなかつたのよ。だから皆に惡まれたのかしら。』お由美はそんなことを言つて、何か思ひ出したやうに淋し相な顏をした。

『お前はそれが好んだ。だから僕はお前が好きになつたのだ。』子爵は、さういつて笑つたけれども、嘘を吐いたのではなかつた。

お由美は眞赤になつて、反射的に俯向てしまつたが、やがて顏を揚げて、そつと子爵を見た眼は涙ぐんでゐた。

子爵は、急に咽喉に物が塞つたやうに感じた。今夫人の事を賢ら相に批評した自分が耻しかつた。現在自分が立つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゐるやうな岐路に、夫人を立たせたら、あの誇りと自信とは、そこにも働いて、子爵自身のやうにウロ〳〵することは無いかも知れないと思つた。柔しいながら凛とした調子で、夫人が、何時も自分を押し通さうとするのに避易した子爵は、――その夫人の『自分』は、子爵の『自分』とは大分距離のあるものであつたにせよ。――夫人の、官僚の勇氣のやうな勇氣を羨しく思つた。けれども考へて見れば、あゝいふ風に、環境に對して謀叛をしないで、忠義をする勇氣は、勇氣ではないとも思つた。自分を餘儀なくしてゐるところの力に對する反抗でなければ勇氣ではない。夫人や官僚の勇氣は、自分を餘儀なくしてゐるところの力に忠順である努力だから勇氣とはいへない。現在子爵自身が要求してゐる勇氣は、そんな勇氣ではなく、前の場合のそれでなければならない。それならば、誰れよりも自分に在る筈だ、と子爵は思つた。それで居て、胸の痞へるやうに感ずるのは忌々しかつた。

子爵は思ひ切つて、傍にあつた新聞をお由美の前に擴げて。或る個所を指しながら、お由美の顔を一寸見た。

それは、若い、美しい夫人を喪つて、二年近くも淋しい生活を送つてゐた白戸子爵は、我が貴族社會の產んだ唯一の女性の天才として唱はれてゐる梁谷椿孃と近く結婚をするといふ記事で、然かもそれを二人の久しい間の戀愛生活の歸結であるかの如く眞しやかに書き立てたものであつた。

その記事を讀んでゐるお由美の顔は蒼白ろかつた。さうして、そこに揭げてゐる椿孃の寫眞を見た。それは日本の婦人の寫眞――殊に華族の令孃のそれとしては目新しい型を見せたものであつた。ダイとしやくつた顎を、松茸の頭を下から見たやうな恰好に擴つて、露はな胸の上に、約四十度の角度に傾いた首が載つてゐる。その傾いた顔は、蠟畫のやうに暗らく、たゞ上に向いた半面の輪廓を、浪頭のやうに尖つた線の、鋭角的のカーヴで現はしてゐる。それは活動寫眞のポスターにでもあり相な圖であつた、その下の處に斜めに、閑却された子爵の寫眞が微笑んでゐた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『飛んでもない出鱈目だ。』子爵はたゞさう云つて、葉卷に火をつけて、二ツ三ツパツパと強く吸つた。

お由美の眼は見る〳〵曇つて、その強く結んだ口は烈しく動いた。子爵は、お由美に並んでゐた椅子を筋交ひにずらして、葉卷の煙を遠い海の方へ吹きかけた。沈默が續いて、波の音と一緒に、紫色の霧が二階の椽先に流れ込んだ。

『俺はもう結婚なんかしやしない。あれは一遍もしたことのないものがやりたがるものなのだ。二度とは出來ない。』

子爵は、向ふを向ひたまゝ獨言のやうにさう云つて、ふと立ち止つて、椽に出て、いつたり來たりしながら、

『由美、お前は、俺が又結婚をすると思つてゐるのかい?』

『でも、結局はなさるのでせう。』お由美は、何時もの張りのある聲とは、別の人のそれのやうな、低くかすれた聲でさう云つた。

『結局? 結局なんかゞ解るものか。確かに解つてゐる「結局」は、死ぬ事だけだ。』

『ですから……』とお由美は口の中で、呟くやうに云つて、傍を向いた。

『お前は誤解してゐるのだよ。』子爵は、強い足取りでお由美の椅子の側へ來て、その凭れに手をかけて、『結局なんてことは解るものぢやないが、強いて云へば、結局、俺はお前と結婚するだらう。』

お由美は恐しいことでも云はれたやうに、身體をびくりとさせて、逃げるやうに椅子の凭れから背を離した。

結婚といふことは、寧ろ事務的の印象を、子爵の頭腦に殘してゐる。子爵は、田宮伯爵の今の當主の末弟であつたが、少年時代に白戸子爵家の養子となつたのであつた。さうしてまだ壯年であつたその當主が逝くなつて間もなく、白戸子爵家の令孃と結婚した。それらはすべて事務的の感じを子爵に與へたゞけであつた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

令孃時代の夫人は、子爵の記憶には、矢張り端然として犯し難い少女であつた。學校友達と電車に乗つてゐるのを見ても、一人だけ目立つて美しく、氣高かつた。凝と首を据えて、口を固く結んで、胸の出るほどに眞直ぐに座つて、何時までも顔色も姿勢も崩さなかつた。カナリヤのやうに囀る友達も、ばつたのやうに刎ね廻る友達も、夫人に對する時だけはそんな擧動を愼んでゐた。

結婚の時のことを思ひ出すと、子爵は何時も覺えず微笑するのであつた。能くも覺えないが、複雜な、强烈な色彩の衣裳の上に、白地に晴々しい模樣の裲襠を着た、背の高い夫人の姿は、取卷いてゐる夫人連の頭の上に聳え立つてゐるやうに見えた。さうして周圍の人々に對して、世界を異にする人種か何かのやうに全く無關心で、顔にも態度にも、固定した一定の表情を彫刻のやうに維持してゐるのは、流石、平生から見馴れてゐる子爵にも、目新らしく感じて、さうして可笑しくもあつた。

「まるで野蠻人部落の女王の即位式だ。」子爵はそんなことを考へた。

子爵は、白戸子爵家の令孃と結婚する前から、今新聞で問題になつてゐる森谷男爵家の椿孃と懇意であつた。椿孃と夫人とは、まるで兩極端の女性であつた。そのことは椿孃が、運動服を着て、機械體操を得意にしたことだけで充分察しられる。後にはピアノとダンスの天才と呼ばれたが、子爵には、その兩方とも機械體操と同列位にしか思へなかつた。さうしてパスの聲で、無遠慮な、男のするやうな話をして、淫らなことを、可なり上手に、誰れの顔も赤くなさせないやうに云つたりするのが得意でゞもあるらしかつた。

夜會などで、子爵は、何度も椿孃と踊つたことがあつた。さうしてその度、子爵の何處かしらに與へられる痛いほどの接觸に胸を躍らせた。けれども、或る茶目が、子爵に、こつそりと、同じやうなことを云つたので、子爵は落膽し

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、それ切り、もう椿嬢と踊りたがらなかつた　それを椿嬢が無理に引張り出して、子爵をヘトヘトにした事が度々あつた。けれどもその時は、子爵はもう、それは踊手の少ない日本では、有勝なことだと解釋する位冷靜になつてゐた。

けれども結婚後の子爵に對する椿嬢の變つた素振りは、神經の鋭い子爵に氣の付かない筈はなかつた。殊に夫人に對する椿嬢の態度は、傲慢を通り越して、凌辱的であつたことを、子爵はよく知つてゐた。夫人の病氣が段々表に現はれた時に、椿嬢は夫人に向つて、

『だめよあなた、別居なさらなければ癒りつこはないわ。』そんなことを云つて、さうして端厳な夫人が、心持顏を赤くして、無理に笑つて見せたのを、愉快さうに上目で見返して、子爵の方をふり向つて、勝ち誇つたやうな顏でクスと笑つて見せた。

『所が別居の出來ないのが、その病氣の特色なのですよ。』子爵は、さう云つて、まだ何か云つたら、もつと突込んでやらうと待構えた。

『マアあんなことを云つて。』椿嬢は、さういつて殊更らしく夫人を見て『だから私男子は嫌ひ。女子も自分達のやうに劣等だと思つてゐるのですもの。』

『男子が劣等でなかつたら、女は皆ヒステリーになつてしまう。女子が劣等でなかつたら、男子は皆野獸のやうに腕力を必要とすることゝなる。』子爵はニコリともしないで、そんなことを云つて見せた。

二人の問答を聽きながら、端然として、たゞ時々片靨を作つてゐる夫人を見て、椿嬢はつまらな相に話を代へてしまつた。子爵はザマア見やがれと思つた。

けれども、洋裝の椿嬢が、卓子の上に、洗ひ立ての大根を二本列べたやうに、肉づきの好い二脚まで見せて、相手を

差し延べてゐるのを見ると、子爵は變な氣になつた。さうして、短いスカートから、桃色に肉の見え透いてる薄い靴下の足が二本、長く延びて、絡んだり解けたりしてゐるのに氣を取られない譯には行かなかつた。モーパッサンだかミューゼだかで讀んだそんな場面の記憶が、擽ぐるやうに子爵の胸に浮んだ。

夫人が階下に立つて行つた跡で、椿孃はすぐと、卓子の上に列べた大根を、ぶつ違ひに組み合せて、その上に顎を載せて子爵を睨んで、さうして變に笑つた。子爵も睨み返して、笑ひ返した。

その刹那、子爵は自分が一種奔放な心理狀態になつてゐたことを自分で感じた。

椿孃の組み合せた腕の下には、手紙のやうに折つた紙があつた。椿孃は、それを見ては子爵の顔を見て、焦らすやうな風をした。子爵は、そんなものに好奇心は少しも持つてゐなかつた。けれども、衝動的に立ち上つて、椿孃の肩越しにその紙を取り上げようとした。實は、椿孃の肩を兩手で抱へて、後ろに背らして、恰もその紙を取らうと爭ふかのやうに見せて、自分の衝動を滿足させやうとしたのであつた。椿孃の強く爭ふのを、子爵は動かせないやうにして後ろから抱いて、紙片を持つた方の手首を捉へて、その紙を取り上げやうとした。

椿孃は爭ひながら、立ち上つて身體を向け直して、子爵の胸にヒタと、自分の身體を押しつけて、二人の胸の間で、その紙をずた／＼に引裂いた。それをさせまいとするやうに子爵は、椿孃の胸を自分の胸に抱きしめて、腕の萎びれるほど押へつけた。でも椿孃は『アッアッ』と苦し相な忍び聲を洩しながら、とう／＼紙を引裂いてしまつた。子爵が椿孃を離した時に、椿孃は聲をあげて粉のやうになつた紙片を見せた。そんなものは子爵に用はなかつたのであつた。

徐かな足音を聴いた時、子爵の奔放な心狀は、雷に打たれたやうに消え去つた。それは子爵と椿孃とが離れ／＼の椅子に倚つてから、なほ間のあつた後のことであつたのに、子爵は、今の光景が、まさ／＼と夫人の眼に映じたやうに思

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はれて、夫人の顏を見る勇氣が出なかつた。何となくおづ〳〵とした心持で、椿孃の方を見ると、足の爪先で拍子を取りながら何か小聲で唄つてゐた彼女は、夫人を見上げて、意味ありげの笑ひ顏をして見せて、さうして同じ笑顏で子爵の方を殊更に見た。子爵は、面が憎くて、睨みつけてやりたかつたが、さうも出來なかつた。さうして臆病らしく、眼の遣り場に困つた末に、パイプに煙草をつめ出した。

子爵は椿孃の前に出たり、彼女のことを考へたりすると、何時でも、抵抗の出來ない蠱惑と妥協の出來ない反撥とを同時に感じた。さうしてそれが縺れ合つて、衝動的に子爵自身を動かすことを、子爵は虞れた。さうして忌々しがつた。而かもそんな時に限つて、子爵は自分の夫人に興味を失つてゐた。夫人が冷めたい想像でゞもあるやうな氣がした。さうして、自分だけを高く標置してゐる彼女の無意義な尊嚴を情なく思つた。

夫人の病氣が重くなつてからは、鵠沼の別莊を本邸同樣にして、子爵だけは東京に居たが、大抵兄の田宮伯の邸に泊つてゐた。椿孃は、伯爵夫人卽ち子爵の嫂と從姉妹同士なので、始終伯爵邸に出入してゐた。しかも子爵が伯爵邸に宿泊するやうになつてから、殊に頻繁に出入して、時々は泊つても行つた。子爵は、顏を見ると反感しか起つて來ない椿孃が、明かに自分に附纏つてゐるのを知つて、焦々した。何うもあの女性には犯罪性の素質がある。子爵は、そんなことまで思つた。さうして同族の間から出た犯罪性を持つた二三の女性に比べて見たりした。似てゐるところが鮮なからずあるやうに思はれた。甚しく虛榮的なこと、同性に對して殘忍性を發揮すること。それは、子爵夫人に對する彼女の態度に明かに現はれてゐた。それから母性を缺てゐること。赤子に對して感興を持つてゐないことは甚しかつた。婦人客が赤子を抱いて來たりすると、汚ない豚でも抱へ込んで來たやうに眉を寄せて、愛相にあやしたりする仲間には決して入らないで、苦い顏を見せてゐた。其他、執念深いこと、執拗なこと、慾望の强烈なこと、病的に體力の或る一面の發

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

違してゐることなど、同族間に有名であつた犯罪性の女性の素質に椿孃が大概適合することを子爵は發見した。そんな風に、子爵は、椿孃に對する反感を培うことに努めた。

けれども、子爵は、椿孃に面と向つた時の、恐しい勢で刎ね起きて來る放逸な感情を何うすることも出來なかつた。伯爵邸へ宿泊するやうになつてから、椿孃に頻繁に出會はすことが、子爵には、怖わ〳〵阿片を飮んでゐるやうな心持であつた。このまゝ進行して、それが或る必然の轉回を取つた時には……子爵はそれを考へると、身内が熱くなつて、腋の下に冷汗が流れた。

けれども、椿孃に出逢うと、子爵は、自分が抵抗することの出來ない力の爲めに、よろめきかゝるやうに椿孃の方へと倒れて行くのであつた。許されるだけのところまで突き入らう突き入らうとした。伯爵夫妻が子供を連れて鎌倉の別莊に行つた留守中などは、二人は、開け放した西洋室の裡で、仲の好い獅子のやうに狂ひ合つた。——子爵自身何時もさう思つた。——×××、×××、××××××××××××、×××。×××××××××××、××××××××××、××××××××××××。××××××××、××××××××、×××××××××、×+×××××××××××。××××××××××××××××××××××、××××××××××。××××××××××××、×××、×××××××、×××××、××××××××××。

それは忌々しいほど馬鹿〳〵しいことだ、と子爵は思つた、さうしてそれを何うすることも出來なかつたことは、益子爵を焦ら立たせた。そんな時には、子爵は屹度、邸を飛び出して、二日も三日も歸つて來ないのであつた。さうして突然夜中に、ぐた〳〵になつて歸つて來たりした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

子爵附の小間使のお由美は、そのぐたぐたの子爵を、赤子を扱ふやうに扱ふのが上手であつた。年端も行かない少婢のその巧者な所作を、女中頭が感心して賞めた時に、お由美は快濶に、

『うちの親父で馴てゐますのよ。』と云つた。

カランとした十二疊の座敷に、子爵は、朦朧として歸つて來て見ると、威儀を正した夫人を見出さなかつた代りに、何も見出さなかつた。それが非常に心地好くもあり、腹立たしくもあつた。プリズムの簾を通して、煌々と輝いてゐる電燈の下に、大きい丸火鉢が、主人公然と座つてゐるのを、子爵は、警戒すべき相手方ででもあるかのやうに睨らまへながら、ぐるりとそれを廻つて、絨氈の上に、大の字に臥るのであつた。

お由美は、それに枕を當てがつて、介捲をかけて、子爵がさうしてゐる間、次ぎの間で、鐵瓶の音を聞きながら、何時までも／＼起きてゐるのであつた。朝までさうして過すことも珍らしくなかつた。

さういふ晩が段々頻繁になつた。或る日の朝、子爵は、お由美にいつた。

『お前は俺がゴロ寢をしてゐる時には、乾度次ぎの間で夜明かしをするのだね。もうそんなことをしなくても好いよ。』

『いんえ。私好いのですの。ちつとも構ひませんの。』お由美は、全く苦にはしてゐないらしかつた。

子爵は、少女らしいお由美の大きい潤るんだ瞳が、チラと自分を見たことを感じた。子爵はお由美が、自分の爲めのさういふ勤めを、ちつとも苦にしてゐないのを疑ふことは出來なかつた。けれども、子爵は、お由美を、自分の氣儘な苦しみの捲添にして平氣でゐるほどお由美に對して無關心でゐる譯には行かなかつた。で云つてやつた。

『でもそんな必要はない。俺だつて、お前にそんな真似をされてゐては、ゴロ寢も樂にしちやゐられない。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『あれあんなことを仰つしやつて。』お由美は一寸顔を赤くして笑つて、『私ちつとも構はないんですから何、うぞお樂にゴロ寢をなすつてオホ。でもゴロ寢はお身體に惡いでせうと思ひますのよ。今度からすぐと御寢間へおいで遊ばした方がお好ろしいでせう。』

『ありがたう。』子爵は笑ひながらお辭儀をして見せた。『なあに、本體を改良すれば、お寢間もゴロ寢もないんだがね……』

子爵は、羽織を疊んでゐるお由美が、一寸顔をあげて自分を見た眼の、少女らしいうちに同情の色の包まれてゐるのを見て取つた。然かも子爵は、自分が此の無垢の處女の純な同情を値しないことを恥ぢた。

子爵は、お由美が、昨夜のゴロ寢で皺になつた羽織を掌でのしながら、『お火熨斗をかけて置きませう。』と呟いて、それを隣座敷の衣桁に懸けに行かうとして、子爵の身の廻りに輕く目を通した大人びた擧動に氣がついた。さうして彼女が衣桁の下の亂れ箱から羽織の紐を持つて來て、胡座をかいて新聞を見てゐる子爵の身體に摺り寄つて、その紐を羽織につけてゐるのを凝としてさうさせながら、子爵は、自分のうら淋しい孤りものの生活の慰められてゐることを感じない譯に行かなかつた。

子爵は、お由美のかうした甲斐〳〵しい擧動を見ながら、時々彼女の少女らしい瞳に射られると　子爵自身の此頃の荒んだ生活に嫌惡を催さない譯には行かないのである。が、あの椿嬢の襲撃を受けると、それらの反省の動機は、遺憾なく搔き消されて、何時でも混沌たる生活に捲き込まれて行くのである。さうして同じく混沌たる身體を、夜更けに、お由美の前に轉ろがして、彼女の處置に委ねるのである。朝になると、お由美の瞳に射すくめられたやうに、頗る謹愼の態度で、さうしてやつぱり、彼女の爲るがまゝに任かせてゐるのであつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

子爵の生活はかうして、椿孃とお由美との間を振子のやうに行つたり來たりしてゐるのであつた。而かも子爵は、回歸的に、鵠沼にゐる夫人のことを考へた。それは振子がお由美の一端に達した時に於てよりも、椿孃の方に達した時に於てゞあつた。一極端の椿孃は、必然に他の一極端の子爵夫人を呼び起す働きを持つてゐた。その結果、子爵は一週に一度は必らず鵠沼に夫人を訪ねた。けれども夫人から歸つて來た子爵は、椿孃に對して一層強い反應を起すのが常であつた。で子爵は、夫人に行くことに臆病になつた。その結果を恐れてゐたのである。

で子爵は、夫人と椿孃との間の振子運動を、椿孃とお由美との間の振子運動よりも恐れてゐた。前者は双方とも、子爵の生活を強制してゐるものであつたが、後者では、子爵は、お由美の瞳の裡に歸つて來た時、如何にも自分に返つたやうな、のんびりとした寛ろぎを感ずるからであつた。

夫人に對しては敬意、椿孃に對しては反感——此の敬意と反感とが、子爵を、夫人と椿孃とから引離して、お由美に持つて來るのであつた。が此の、夫人と椿孃とお由美の三人のうちの何れから、子爵が一番遠く引離されてゐるかといへば、それは夫人からであつた。此三人と子爵との間の地理的距離が、偶然に、そのまゝ心的距離を現はしてゐるのであつた。夫人は子爵にとつては月のやうなものであつた。それは美しく輝いてゐるが、畢竟、遠い所にある冷めたい對象であつた。椿孃は、子爵が、常に努力してそれを突き除けなければならない程、子爵に近いところにゐた。お由美に至つては、子爵は、彼の女の少女らしい瞳の裡に、のんびりと寛ろいでゐるだけであつた。

けれども、お由美の瞳のうちの子爵の生活が、のんびりとしてゐたのは比較的短い期間に過ぎなかつた。

子爵の、椿孃から受けた肉のわなゝくやうな焦ら立しさは、次第にその彈力を失つて、倦怠が、夕霧のやうに子爵の生活に蔽ひかぶさつて來た。掻き亂された夜々の生活からは、たゞ疲れ切つた惱みだけが殘された。すべてが遠退い

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て行く旋風のやうに、子爵の生活の地表から去つて、沈み切つた靜さが支配した。子爵は狂ひ疲れた馬のやうに、力のない喘へぎと、濕んだ眼とを持つて、お由美のところに落ちついてしまうやうになつた。

子爵は、一週一度鵠沼へ行く外に、もう餘り外出もしなくなつた。家に居ても、兄の伯爵夫婦を尋ねるさへ時々で、離れの座敷と庭とを自分の檻のやうにしてゐた。さうして椿孃と、又始まつた貴族院議員の選擧運動者との襲撃を一番恐れてゐた。椿孃が、急に來なくなつたので、不思議に思つてゐたが、此頃は、具さに音樂を研究して歸朝したY男爵の許に頻繁に出入してゐることを聽いて、子爵は、何年か前に、舞踏で椿孃から經驗させられたことを、繰返し經驗させられたやうな氣がして苦笑を禁じ得なかつた。

子爵は、長い間閑却してゐた自分の研究――植物學上の――を續けやうと思つたが、假りの住ゐでは何うにもならなかつた。で腹這ひに寢轉びながら大きい書物を繰りひろげる位を日課にしてゐた。さうして彼れの假住居の若い主婦であるお由美と、世間話をしたり、西洋の小說の筋を話して聽かせたり、雜誌の小說をお由美に讀ませたり、時々はそこらから草花を採つて來て、その形態を說明したり、檢索表でその草の名を搜し出させて見たりした。

子爵とお由美との全く二人きりの生活の續くに從つて、子爵は、お由美にあるいろ／＼の力を感じた。とこまでも無邪氣な、けれども人を惹きつけずに置かない彼女の力――それは子爵が、彼の女を始めて見た時に感じた力であつた――を子爵は今更らながら深く強く、さうして細かに感じない譯に行かなかつた。茶を注いでゐる時の身體のこなし――さうしてゐる彼女の顏を、子爵が凝つと見てゐるとも知らないで、眼元や口元の邊に働かしてゐる顯著な表情、そんな些細なところに、子爵は強い動悸を覺ゆるまで惹きつけられた。さうした、その少女ぢみた表情に似げない、そつのない切り廻しを、子爵は、意味深い原因を持つたことのやうに思つて、考へさせられたりした。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

醉ぱらつて、自動車を下りやうとして轉ろがつて、泥だらけになつた子爵の衣服を、お由美が赤坊の着物を脫がせるやうにして脫がせたことを、子爵はかすかに想ひ出して、お由美に話した。

『えゝそうでしたの。まあるで大きい赤ちやんでしたわ。「大層汚れましたこと」つて申したら、「ア、ア、ア」なんて仰つて。オホヽヽヽ。翌る朝伺つても、何だかぼんやりだつて仰つたぢやございませんか。一體何うなすつたの？』

『自動車から轉ろげ落ちたのさ。』

『あれ、お危ぶない！』

今やつたことのやうにお由美はハツと思つたらしく、覺えず涙を浮かせて、大きい眼を瞬つた。そんなことが子爵を涙ぐませるに充分であつた。

子爵の、お由美に對する感じが次第に變化して來たことを、子爵自身も感じるやうになつた。お由美が目の前に居ない時には、子爵は、焦ら〳〵して安靜を失つてゐた。けれどもお由美と面と向つてゐる子爵は、たゞ慌だしい、輕快な、眼にとまらないほど迅く通り過ぎて行くやうな快感に身體を搖すぶられて、矢張り落ちつきがなかつた。さうして何時でも、直き捉まへられるものを取逃がしてばかりゐるやうな不滿を感じた。

それは或るじめ〳〵した梅雨の晩だつた。子爵は寢室のストーヴに火を入れさせて、寢間着に着更へて、それにあたりながら、濕氣拂ひと稱して、ウキスキーを傾けてゐた。お由美が例の通りその話相手であつたが、子爵は、お由美が、子爵の快濶な調子を、何時ものやうに快濶に受けないで、何となく沈んでゐるのに感付いた。

『由美、お前今夜は何か沈んでゐるね。何うかしたのかい。』

『いゝえ、何でもございませんの。』とお由美は傍を向いて淋しく笑つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「何でもないことはあるまい。今朝又親父のとこへ行つて、何か云はれて來たね。」子爵は慰めるやうに、『だから餘り行かない方が好いつていふのだ。何うせ向ふは何も解らないのだから、此方が忌やな思ひをするだけ損だ。』

お由美の父は、伯爵家の馬丁頭であつたのだが、昔酒と職業上の失敗とから、精神病に罹つたことのあつたのが、先頃再發して、府立病院の施療患者になつてゐたが、此頃子爵の世話で、私立の△△病院に移されたのであつた。子爵は此の老馬丁と馬の扱方で烈い爭をしてから、大の仲好になつて、時々酒を飲ませて、その氣焰を聴いたりしてゐたのであつた。

「惜い老人を氣狂ひにしちやつたな。尤も前から馬と話をしたりなんかして、少し調子が訝しかつたが、矢張昔の病氣が癒らなかつたのだね。然し面白ろい老人だつた。馬を馬鹿にするなら、俺は今日から此邸の馬丁は辭職だ。辭職しちまへば、互格の人間だ。さア何で俺の好きな馬を虐待しやがつた。つて喰つて掛られたには弱らせられたね。その馬は僕の馬だから僕が自由にするといつても、馬には馬の法律があるんだ、俺は馬の味方になつて、馬の法律を人間共に通さねへちや置かねへ、なんて少し氣狂ちみてゐたが、言分は尤もだつたから、此方が謝つて收つた。何にしても痛快な親父だ。……けれども、あの迷信には困つたな。何うも、お父さんは僕に祟るね。」子爵は戯談らしくさう云つた。

お由美は、涙ぐんだ眼で子爵を見上げて、

『ほんとうに、あんなに御世話になつてゐて、私共までお蔭でこんな仕合せな思ひをさしていたゞいてゐるのに、何といふ恩知らずでせう。』

『でも病氣なら仕方がないぢやないか。然し今日もまたアレをいつたのかい。』

お由美は、默つて俯向いて、何とも答へなかつた。子爵が「アレ」といつたことは、實はまだ一遍も、子爵とお由美と

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の間に打ち明けられてゐなかつたことなのである。子爵は、それを他の女中から聽いたのだが、今にお由美にそれを明らさまには云ひ兼ねてゐるのである。ましてお由美は、尙更ら自分からそのことを子爵に云ふことは出來なかつたに違ひない。

お由美の、氣の狂つた父は、お由美が、子爵の許に妾奉公に出てゐるとばかり信じてゐるのである。さうして主人でも朋輩でも誰れでも、大抵見境がなくなつてしまつてゐるに拘らず、お由美だけは能く覺えてゐて、お由美の顏さへ見れば、『親の顏に泥を塗つた不所存者』とか『早くそんな耻曝らしは已めて、家に歸つて親父を引取つて孝行しろ』とかいつて怒鳴るのである。始めはお由美もそれをいはれるのが斬られるやうに辛らかつたが、何時のまにか馴れッ子になつて、笑つてそれを聽くやうになつたといふことを、子爵は、能く知つてゐるのである。今朝も二三時間暇を取つて病院に行つたので、乾度又それを聽かされて來たに違ひないと、子爵は思つたのである。

『氣狂ひのいふことなんか氣にしたつて始らない。……さあ葡萄酒でも少し飲んで元氣をつけなさい。』

子爵が、卓子の上の小さいコップに葡萄酒をついで、お由美にすゝめると、お由美は、急に手巾を顏に押し當てゝ泣いてしまうのである。今夜に限つて何うしたのだらう、と子爵も少し不審に思つた。何か外に事件でも出來たのかと疑つても見た。がそれを聽いても、お由美はたゞ首を振つてゐるばかりである。

しばらくしてお由美は、顏を上げて、詫をいつて淋しく笑つた。さうして子爵のコップの空になつてゐるのを見て、ウヰスキーの瓶を取り上げたが、もう殘り少なになつて居た。

『マア久しぶりで大そう召し上つたのね。もつと上りますの。』

『何、少ししかなかつたのだよ。だがもう澤山だ、葡萄酒を少し貰はうかな。』

お由美は、コップが、自分に勧められた葡萄酒で塞つてゐるので、それを取りに行かうとして立ち上ると、子爵は押し止めて、お由美にすゝめたコップを取り上げやうとした。

『あれ、まだ頂戴しては居ませんけれども失禮ですから……』とお由美は手早くそれを傍にずらして、扉に歩みよつてそれを開けやうとすると、錠が下りてゐて開かなかつた。

『おや、』とお由美は不審に思つて、何時も内から鍵穴に差し込んで鍵は、と見るとそれも無かつた。自分が先刻此室に入つた時には、確かに鍵穴に鍵があつたが、それが無いところを見ると、誰れか、外から悪戯をしてそつと二人を閉ち込めたのではあるまいかと咄嗟に思つて、不安の胸を躍らした。さうして子爵の方を見て小聲で云つた。

「誰れか外から閉めたんぢやありませんの」

『鍵は俺が持つてゐる。』子爵は、更らに葡萄酒を注ぎながらそんなことをいつた。

『何うぞ一寸御借し遊ばして。』お由美は歩み寄つて手を差しのべた。

『行かんでも好いんだよ。まあお掛け。』子爵は、お由美の差し延べてゐる手を執らうとした。

お由美はその手を引くと共に、その顏は見る〳〵蒼さめて、大きく結んで唇をピリ〳〵と震はせた。

『鍵をお借し遊ばして。』とお由美は、聲を震はせた。その眼には涙がもう一杯たまつてゐた。

子爵は默つて立ち上つて、ポケットから鍵を出して、それをお由美の手に握らせると同時に、其の手を執つて低い聲で、

『悪いことをした。謝るから許しておくれ。鍵はあげる、けれども……由美……。』子爵はその跡を云ひ淀んで、凝とお由美の顏を見た。子爵の眼にも涙が溢れてゐた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

お由美は、子爵に執られた手を振り離さうと爭つた。さうして絡み合つた二人の手の上にハラ〳〵と涙を落した。

子爵は、手を放して、倒れるやうに椅子に倚つて、卓子に顔を伏せて頭を抑へた。お由美は、鍵を持つた自分の手を、暫らく凝つと視てゐたが、やがて扉に近づいて、震へる手先でガチャ〳〵と音を立てて、漸く鍵穴を求め得た。

『何うしても行くか、由美。』子爵は、涙の顔を擧げた。さうして扉に身を寄せて、自分を防ぐやうな姿勢で立つてゐるお由美を見た。

『參ります。』お由美は、低いけれども凛とした聲で答へた。鍵を捻る音がカチンと響いた。

子爵は、自分を制することが出來なかつた。さうして立ち上つてお由美に近いた。それを恐れるやうに、お由美は身をすくめて扉に倚り添つたが、それを開けやうとはしなかつた。

背の高い子爵は、蔽ひかぶさるやうにしてお由美を抱へやうとしたが、お由美は、その下をすりぬけて、扉に確りと背を押しつけ、

『いけません。私は參ります。』と叫んだ。

『お前は眞個に行きたいのか。』子爵は、それを云つたつもりだが、その聲は咽から外へは出なかつた。

お由美は、歯を喰ひしばつて、子爵を見た。それは首を横にふつてゐるやうでもあつた。

『それなら、何故行く。』子爵は怒鳴るほどの勇氣で、それを云つたと思つたが、聲には出なかつた。

お由美は唇をかみしめて、歯から洩れるやうな聲で叫んだ。

『氣狂ひの云つたことが眞個になります！』

子爵は何か小さい聲で云つて、お由美を抱へやうとした手を押し開いて、後と退りした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『殘酷だ、殘酷だ。』子爵は口の中で呟たい。その聲は段々大くなつた。

『俺達は何うして許されないのだ。誰れがそれを俺達に命令するのだ。そんなことはあるものか、そんなことはあるものか。』云つたかと思ふと、子爵はお由美を抱へて、力に任かせて絞めつけた。

『何うか行かして下さい。何うか行かして下さい。』お由美は、子爵の胸に顔を埋めて、咽び泣きながらそれを繰返した。

子爵は手を離した。自由になつたお由美は、けれどもなほ、子爵の胸から離れやうとしないで、咽びながら『何うか行かして下さい。何うか行かして下さい。』と痙攣的に繰返した。

そんな記憶は、何時まで經つても、子爵には新しい思ひ出である。さうして、それに增つた生活を子爵とお由美とはもう三年近くも生活して來たのである。然かもそれは絕えず脅威を受けてゐる生活であつた。さうして目下その最後の破壞が二人の周圍に計畫されてゐるのである。お由美が眼の前に擴ろげてゐる新聞の記事は、それを外部から覗つた形態であつた。

前代夫妻を喪つて、間もなく家附の夫人を逝くした白戸子爵家の親族及び同族の親切者等は、子爵家の當主の後妻を一日も早く確定して、此の由緖ある家系の安泰を計らうとしてゐるのである。森谷子爵家の椿孃は、即ちそれらの人々の間に選擇されたのであつた。

親族間にも、その選擇には異議を持つてゐるものもあり、同族間にも、兎角の批評はあつたのであるが、森谷子爵家の運動と、今一つの有力な事情とは、一も二もなく、椿孃の撰擇を確定的としてしまつたのである。それを決した有力

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

な一つの事情とは、白戸子爵が、馬丁の娘を寵愛してゐるといふことである。多少異議のある人々も、此の不穩の形勢を一日も早く揉み消す爲めに、貴族女優と綽名されても、兎に角貴族であるところの椿孃に左袒したのである。攻手は當の子爵を納得せしむべく、矢繼早やにあらゆる手段を講じた。新聞の記事も恐らく、その作戰の中の一つであつたらう。けれども實際の形勢はもつと進んでゐた。子爵が頑强に、結婚を拒んでゐるところから、子爵を白戸子爵家から離緣すべきや否やといふやうなことが、或日の親族會議の議題に上つたのである。

「由美。段々形勢が有望になりつゝあるのだよ。」と子爵は、さういつて、匂ふやうな春の潮風の快よく吹きつけてゐる廊下に椅子を持ち出して「此處へ來ない？」

子爵は、お由美と相對して椅子に倚つた。事毎に不安に脅かされない譯に行かないお由美は、まだ先刻の新聞で傷けられた創が癒えないと見えて、もとの爽々しい顏色を回復してゐなかつた。それには頓着なしに、子爵は云つた。

「俺はもう、子爵でも華族でも金持でも何でも無くなるのだよ。」

「マア何うしてゞすの？」さういふお由美の顏の色は却つて晴れやかであつた。

「でも、椿孃を拒絕したらう、どんな結婚も皆拒絕するだらう。さうすると白戸子爵家を斷絕させるやうなものは、當主にして置けないと子爵家を離緣される。田宮家でも、そんな不埒者は家に入れないといふことになるのは解り切つてゐる。」

「でもそれ皆私……」

「の故かい。そんな道行の文句見たいなことは云つこなしにしやう。俺達はこれから二人だけで生きて行けば好いのだ。考へて見れば、結婚といふものはあべこべなものだね。俺がもし結婚するならば、第一に由美とでなければならない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

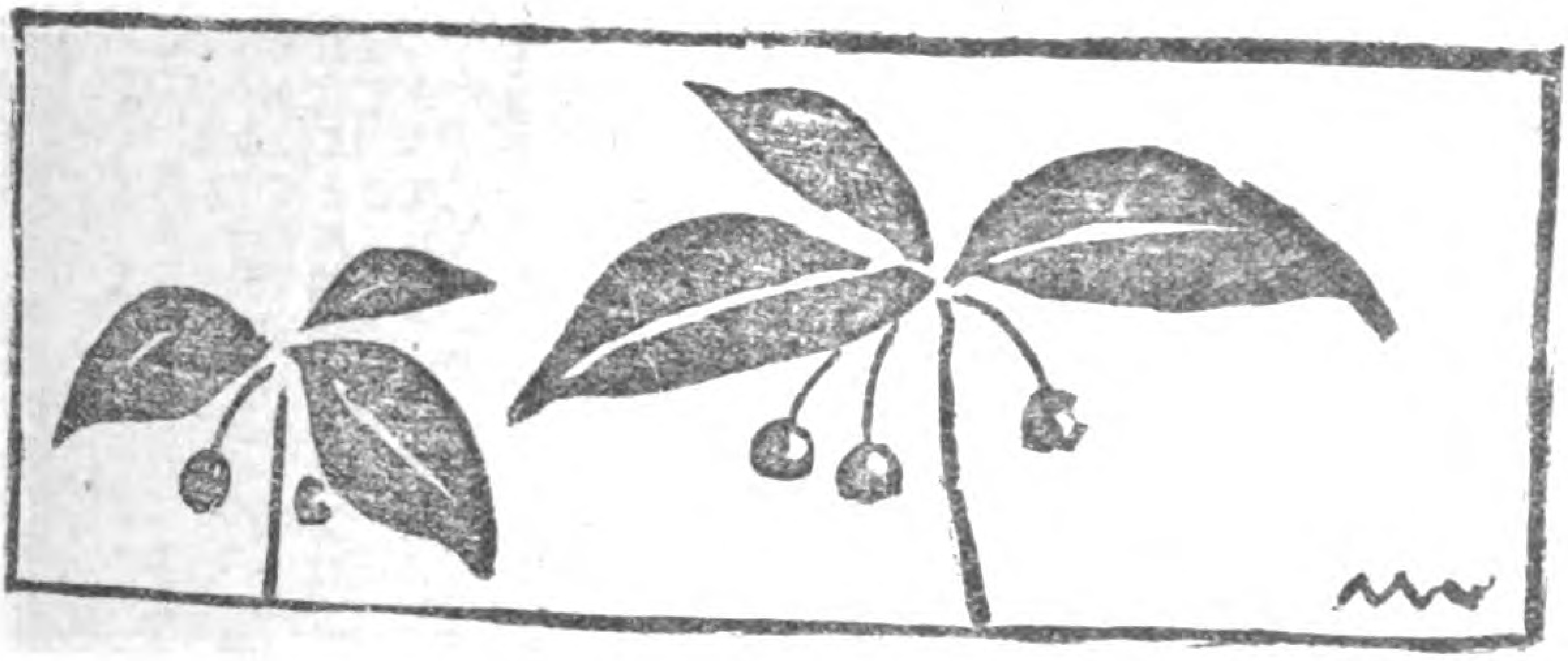
さうして或る時期には、椿でなければならなかつたのだ。だが何時だつて、阿伊子「夫人」でなければならなかつたことはないのだ。それだのに、出來上つた結婚を見ると、一番要求されなかつた結婚だけが、一番堅固に、一番同意されて成立して、大ぎに要求されてゐたものは、その當時だつたら乾度頑固に妨害されて成り立ちつこはなかつたし、一番要求されてゐた由美との結婚は、一番强く妨害されてゐる。だから二人は何時までも〳〵、かうしてゐるに限る。そんな出鱈目なことに關係する必要はない。」　をはり

さうは云つても、子爵には、すべてが混沌としてゐるやうな氣もした。さうして、やゝバツの悪い氣持でお由美の顔を見た。

そのお由美の顔には、不安よりも、寧ろ晴れやかな何物かゞあつた。

をはり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



奇遇

芥川龍之介

編輯者　支那へ旅行するさうですね。南ですか、北ですか。

小說家　南から北へ周るつもりです。

編輯者　準備はもう出來たのですか。

小說家　大抵出來ました。唯讀む筈だつた紀行や地誌なぞが、未だに讀み切れないのに弱つてゐます。

編輯者　（氣がなささうに）そんな本が何冊もあるのですか。

小說家　存外ありますよ。日本人が書いたのでは、七十八日遊記、支那文明記、支那漫遊記、支那佛教遺物、支那風俗、支那人氣質、燕山楚水、蘇浙小觀、北淸見聞錄、長江十年、觀光紀游、征塵錄、滿州、巴蜀、湖南、漢口、支那風韻記、支那

編輯者　それをみんな讀んだのですか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小說家　何、まだ一册も讀まないのです。それから支那人が書いた本では、大淸一統志、燕都遊覽志、長安客話、帝京――

編輯者　いや、もう本の名は澤山です。

小說家　まだ西洋人が書いた本は、一册も云はなかつたと思ひますが、――

編輯者　西洋人の書いた支那の本なぞには、どうせ碌な物はないでせう。それより小說は出發前に、きつと書いて貰へるでせうね。

小說家　（急に悄氣る）さあ、兎に角その前には、書き上げるつもりでゐるのですが、――

編輯者　一體何時出發する豫定ですか。

小說家　實は今日出發する豫定なのです。

編輯者　（驚いたやうに）今日ですか。

小說家　ええ、五時の急行に乘る筈なのです。

編輯者　するともう出發前には、半時間しかないぢやありませんか。

小說家　まあさう云ふ勘定です。

編輯者　（腹を立てたやうに）では小說はどうなるのですか。

小說家　（愈悄氣る）僕もどうなるかと思つてゐるのです。

編輯者　どうもさう無責任では困りますなあ。しかし何しろ半時間ばかりでは、急に書いても貰へないでせうし、……

三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小說家　さうですね。ウ＝デキンドの芝居だと、この半時間ばかりの間にも、不遇の音樂家が飛びこんで來たり、何處かの奥さんが自殺したり、いろいろな事件が起るのですが、――御待ちなさいよ。事によると机の引出しに、まだ何か發表しない原稿があるかも知れません。

編輯者　さうすると非常に好都合ですが――

小說家　（机の引出しを探しながら）論文ではいけないでせうね。

編輯者　何と云ふ論文ですか。

小說家　「文藝に及ぼすジヤアナリズムの害毒」と云ふのです。

編輯者　そんな論文はいけません。

小說家　これはどうですか。まあ、體裁の上では小品ですが、――

編輯者　「奇遇」と云ふ題ですね。どんな事を書いたのですか。

小說家　ちよいと讀んで見ませうか。二十分ばかりかかれば讀めますから、――

至順年間の事である。長江に臨んだ古金陵の地に、王生と云ふ青年があつた。生れつき才力が豐な上に、容貌も亦美しい。何でも奇俊王家郎と稱されたと云ふから、その風采想ふべしである。しかも年は二十になつたが、妻はまだ娶つてゐない。家は門地も正しいし、親譲りの資産も相當にある。詩酒の風流を恣するには、こんな都合の好い身分はない。

實際又王生は、仲の好い友人の趙生と一しよに、自由な生活を送つてゐた。戯を聽きに行く事もある。博を打つて暮

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

らす事もある。或は又一晩中、秦淮あたりの酒家の卓子に、酒を飲み明かす事なぞもある。さう云ふ時には落着いた王生が、花磁盞を前にうつとりと、何處かの歌の聲に聞き入つてゐると、陽氣な趙生は醉蟹を肴に、金華酒の滿を引きながら、盛に妓品なぞを論じ立てるのである。

その王生がどう云ふ譯か、去年の秋以來忘れたやうに、ぱつたり痛飲を試みなくなつた。いや、痛飲ばかりではない。吃嫖賭戲の道樂にも、全然遠のいてしまつたのである。趙生を始め大勢の友人たちは、勿論この變化を不思議に思つた。王生ももう道樂には、飽きたのかも知れないと云ふものがある。いや、何處かに可愛い女が、出來たのだらうと云ふものもある。が、肝腎の王生自身は、何度その譯を尋ねられても、唯微笑を洩らすばかりで、何がどうしたとも返事をしない。

そんな事が一年程續いた後、或日趙生が久しぶりに、王生の家を訪れると、彼は昨夜作つたと云つて、元稹體の會眞詩三十韻を出して見せた。詩は花やかな對句の中に、絕えず嗟嘆の意が洩らしてある。戀をしてゐる青年でもなければ、かう云ふ詩はたとひ一行でも、書く事が出來ないに違ひない。趙生は詩稿を王生に返すと、狡猾さうにちらりと相手を見ながら、

「君の鶯々は何處にゐるのだ」と云つた。

「僕の鶯々？　そんなものがあるものか。」

「噓をつき給へ。論より證據はその指環ぢやないか。」

成程趙生が指さした几の上には、紫金碧甸の指環が一つ、讀みさした本の上に轉がつてゐる。指環の主は勿論男ではない。が、王生はそれを取り上げると、ちよいと顏を暗くしたが、しかし存外平然と、徐ろにこんな話をし出した。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「僕の艶福なぞと云ふものはない。が、僕の戀をしてゐる女はある。僕が去年の秋以來、君たちと太白を擧げなくなつたのは、確にその女が出來たからだ。しかしその女と僕との關係は、君たちが想像してゐるやうな、ありふれた才子の情事ではない。かう云つたばかりでは何の事だか、勿論君にはのみこめないだらう。いや、のみこめないばかりなら好いが、或は萬事が嘘のやうな疑ひを抱きたくなるかも知れない。それでは僕も不本意だから、この際君に一切の事情をすつかり打ち明けてしまはうと思ふ。退屈でもどうか一通り、その女の話を聞いてくれ給へ。

「僕は君が知つてゐる通り、松江に田を持つてゐる。さうして毎年秋になると、一年の年貢を取り立てる爲に、僕自身あそこへ下つて行く。所が丁度去年の秋、やはり松江へ下つた歸りに、舟が渭塘のほとりまで來ると、柳や槐に圍まれながら、酒旗を出した家が一軒見える。朱塗りの欄干が疊いたやうに、折れ曲つてゐる容子なぞでは、中々大きな構へらしい。その又欄干の繞いた外には、紅い芙蓉が何十株も、川の水に影を落してゐる。僕は喉が渇いてゐたから、早速その酒旗の出てゐる家へ、舟をつけろと云ひつけたものだ。

「さて其處へ上つて見ると、案の定家も手廣ければ、主の翁も卑しくない。その上酒は竹葉青、肴は鱸に蟹と云ふのだから、僕の滿足は察してくれ給へ。實際僕は久しぶりに、旅愁も何も忘れながら、陶然と盃を口にしてゐた。その内にふと氣がつくと、誰か一人幕の陰から、時々こちらを覗くものがある。が、僕がそちらを見るが早いか、すぐに幕の後へ隱れてしまふ。さうして僕が眼を外らせば、ちつと又こちらを見つめてゐる。何だか翡翠の簪や金の耳環が幕の間に、ちらめくやうな氣がするが、確にさうかどうか判然しない。現に一度なぞは玉のやうな顏が、ちらりと其處に見えたやうに思ふ。が、急にふり返ると、やはり唯幕ばかりが、懶さうにだらりと下つてゐる。そんな事を繰り返してゐる内に、僕はだんだん酒を飲むのが、妙につまらなくなつて來たから、何枚かの錢を抛り出すと、匆々又舟へ歸つて來た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「所がその晩舟の中に、獨りうとうと眠つてゐると、僕は夢にもう一度、あの酒旗の出てゐる家へ行つた。晝來た時には知らなかつたが、家には門が何重もある。その門を皆通り拔けた、一番奧まつた家の後に、小さな繡閣が一軒見える。その前には見事な葡萄棚があり、葡萄棚の下には石を疊んだ、一丈ばかりの泉水がある。僕はその池のほとりへ來た時、水の中の金魚が月の光に、はつきり數へられたのも覺えてゐる。池の左右に植わつてゐるのは、二株とも垂絲檜に違ひない。それから又墻に寄せては、翠柏の屛が結んである。その下にあるのは天工のやうに、石を積んだ築山である。築山の草は悉、金絲線繡墩の屬ばかりだから、この頃のうそ寒にも凋れてゐない。窓の間には彫花の籠に、綠色の鸚鵡が飼つてある。その鸚鵡が僕を見ると、「今晩は」と云つたのも忘れられない。軒の下には宙に吊つた、小さな、木鶴の一双ひが、煙の立つ線香を啣へてゐる。窓の中を覗いて見ると、几の上の古銅瓶に、孔雀の尾が何本も挿してある。その側にある筆硯の類は、いづれも淸楚と云ふ外はない。と思ふと又人を待つやうに、碧玉の簫なぞもかかつてゐる。壁には四幅の金花箋を貼つて、その上に詩が題してある。詩體はどうも蘇東坡の四時の詞に傚つたものらしい。書は確に趙松雪を學んだと思ふ筆法である。その詩も一々覺えてゐるが、今は披露する必要もあるまい。それより君に聞いて貰ひたいのは、さう云ふ月明りの部屋の中に、たつた一人坐つてゐた、玉人のやうな女の事だ。僕はその女を見た時程、女の美しさを感じた事はない。」

「有美閨房秀　天人謫降來かね。」

趙生は微笑しながら、さつき王生が見せた會眞詩の、冒頭の二句を口ずさんだ。

「まあ、そんなものだ。」

話したいと云つた癖に、王生はさう答へたぎり、何時までも口を噤んでゐる。趙生はとうとう待ち兼ねたやうに、そつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と王生の膝を突いた。

「それからどうしたのだ。」

「それから一しよに話をした。」

「話をしてから？」

「女が玉簫を吹いて聞かせた。曲は落梅風だつたと思ふが、――」

「それぎりかい。」

「それがすむと又話をした。」

「それから？」

「それから急に眼がさめた。眼がさめて見るとさつきの通り、僕は舟の中に眠つてゐる。艙の外は見渡す限り、茫々とした月夜の水ばかりだ。その時の寂しさは話した所が、天下にわかるものは一人もあるまい。

「それ以來僕は心の中では、始終あの女の事を思つてゐる。すると又金陵へ歸つてからも、不思議に毎晩眠りさへすれば、必あの家が夢に見える。しかも一昨日の晩なぞは、僕が女に水晶の雙魚の扇墜を贈つたら、女は僕に紫金碧甸の指環を抜いて渡してくれた。と思つて眼がさめると、扇墜が見えなくなつた代りに、何時か僕の枕もとには、この指環が一つ抜き捨ててある。して見れば女に遇つてゐるのは、全然夢とばかりも思はれない。が、夢でなければ何だと云ふと、――僕も答を失してしまふ。

「もし假に夢だとすれば、僕は夢に見るより外に、あの家の娘を見たことはない。いや、娘がゐるかどうか、それさへはつきりとは知らずにゐる。が、たとひその娘が、實際はこの世にゐないのにしても、僕が彼女を思ふ心は、變る時

があるとは考へられない。僕は僕の生きてゐる限り、あの池だの葡萄棚だの綠色の鸚鵡だのと一しよに、やはり夢に見る娘の姿を懷しがらずにはゐられまいと思ふ。僕の話と云ふのは、これだけなのだ。」

「成程、ありふれた才子の情事ではない。」

趙生は半ば憐むやうに、王生の顏へ眼をやつた。

「それでは君はそれ以來、一度もその家へは行かないのかい。」

「うん、一度も行つた事はない。が、もう十日ばかりすると、又松江へ下る事になつてゐる。その時渭塘を通つたら、是非あの酒旗の出てゐる家へ、もう一度舟を寄せて見るつもりだ。」

それから實際十日ばかりすると、王生は例の通り舟を艤して、川下の松江へ下つて行つた。さうして彼が歸つて來た時には、――趙生を始め大勢の友人たちは、彼と一しよに舟を上つた少女の美しいのに驚かされた。少女は實際部屋の窓に、綠色の鸚鵡を飼ひながら、これも去年の秋雨の陰から、そつと隙見をした王生の姿を、絕えず夢に見てゐたさうである。

「不思議な事もあればあるものだ。何しろ先方でも何時の間にか、水晶の雙魚の扇墜が、枕もとにあつたと云ふのだから。――」

趙生はかう遇ふ人每に、王生の話を吹聽した。最後にその話が傳はつたのは、錢塘の文人瞿祐である。瞿祐はすぐにこの話から、美しい渭塘奇遇記を書いた。………

小說家　どうです、こんな調子では。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

編輯者　ロマンティクな所は好いやうです。兎に角その小品を貰ふ事にしませう。

小說家　待つて下さい。まだ後が少し殘つてゐるのです。ええと、美しい渭塘奇遇記を書いた。——此處までですね。

しかし渭塘の瞿祐は勿論、趙生なぞの友人たちも、王生夫婦を載せた舟が、渭塘の酒家を離れた時、彼が少女と交換した、下のやうな會話を知らなかつた。

「やつと芝居が無事にすんだね。おれはお前の阿父さんに、每晚お前の夢を見ると云ふ、小說じみた噓をつきながら、何度冷や冷やしたかわからないぜ。」

「私もそれは心配でしたわ。あなたは金陵の御友だちにも、やつぱり噓をおつきなすつたの。」

「ああ、やつぱり噓をついたよ。始は何とも云はなかつたのだが、ふと友だちにこの指環を見つけられたものだから、やむを得ず阿父さんに話す筈の、夢の話をしてしまつたのさ。」

「ではほんとうの事を知つてゐるのは、一人も外にはない訣ですわね。去年の秋あなたが私の部屋へ、忍んでいらしつた事を知つてゐるのは、——」

「私。私。」

二人は聲のした方へ、同時に驚いた眼をやつた。さうしてすぐに笑ひ出した。帆檣に吊つた雕花の籠には、綠色の鸚鵡が賢さうに、王生と少女とを見下してゐる。……　……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

編輯者　それは蛇足です。折角の讀者の感興をぶち壞すやうなものぢやありませんか。この小品が雜誌に載るのだつたら、是非とも末段だけは削つて貰ひます。

小說家　まだ最後ではないのです。もう少し後があるのですから、まあ、我慢して聞いて下さい。

しかし錢塘の瞿祐は勿論、幸福に滿ちた王生夫婦も、舟が渭塘を離れた時、紅い芙蓉の簇がる中に、その舟の帆影を見送りながら、少女の父母が交換した、下のやうな會話を知らなかつた。

「お婆さん。」

「お爺さん。」

「まづまづ無事に芝居もすむし、こんな目出たい事はないね。」

「ほんたうにこんな目出たい事には、もう二度とは遇へませんね。唯私は娘や婿の、苦しさうな嘘を聞いてゐるのが、それはそれは苦勞でしたよ。お爺さんは何も知らないやうに、默つてゐろと御云ひなすつたから、一生懸命にすましてゐましたが、今更あんな嘘をつかなくつても、すぐに一しよにはなれるでせうに、――」

「まあ、さうやかましく云はずにやれ。娘も婿も極り惡さに、智慧袋を絞つてついた嘘だ。その上婿の身になれば、ああでも云はぬと一人娘は、容易にくれまいと思つたかも知れぬ。お婆さん。お前はどうしたと云ふのだ。こんな目出たい婚禮に、泣いてばかりゐてはすまないぢやないか。」

「お爺さん。お前さんこそ泣いてゐる癖に……」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小說家　もう五六枚でおしまひです。次手に殘りも讀んで見ませう。

編輯者　いや、もうその先は澤山です。ちよいとその原稿を借して下さい。あなたに默つて讀ませて置くと、だんだん作品が惡くなりさうです。今まででも中途で切つた方が、遙に好かつたと思ひますが、――兎に角この小品は貰ひますから、そのつもりでゐて下さい。

小說家　其處で切られては困るのですが、――

編輯者　おや、もう餘程急がないと、五時の急行には間に合ひませんよ。原稿の事なぞはかまつてゐずに、早く自働車でも御呼びなさい。

小說家　さうですか。それは大變だ。ではさようなら。何分よろしく。

編輯者　さやうなら、御機嫌好う。

最新刊

小林一郎氏新著

芭蕉翁の一生

（四六判最上製箱入 美本全壹冊七百頁）正價貳圓八拾錢 送料金十二錢

其の生前に於ても死後に於ても芭蕉翁の如くに多くの崇拝者をもつて居る人は古今の詩人文士中に曾て例の無いことである此の如き人の一生は何人も之を研究して見て大なる教訓を得べきものである著者は俳諧の専問家では無いが翁の作を愛誦すること既に三十年翁を識る上に於ては一種の自信をもつて居る随て著者は此書を現代各階級の人に薦めて其の批判を得ることを熱望して居るのである。

加藤咄堂氏・境野黄洋氏・島地大等氏・序文中村碧潮松岡良友師共著

熱と力と涙とに趯く

本願寺全史

四六判最上製 美本全壹冊 紙數七百餘頁 金参圓廿錢 送料廿四錢

好評激甚

世に親鸞を說き蓮如を語りしものは決して尠からずされど宗祖以來六百餘年に亘り終始民衆を中心として活動せし本願寺の盛衰興亡の眞相を組織的に大成せしものは未だ發見せず本書は第一期草創時代より秦靡時代中興時代戰國時代東西分立より現代までの波瀾重疊一起一伏を明鏡に照して詳說評論せし教界稀有の良書なり文章は平易簡明趣味亦津々として盡きざるべし眞宗門徒は勿論心を人生問題生活問題に潜むるの士は是非本書を繙かざるべからず。一世の豪傑●織田信長をして抜き難し南無の六字城と嘆ぜしめし理由は一に信仰の力也

東京市聯合青年團講師 浦谷甫水著

最新刊

徹底せる心の生活

四六判最上美本 金壹圓八拾錢

國民として亦個人として思想の動搖精神の不安實に今日ほど甚しきはなし此時に際會せる青年の心事洵に同情且つ寒心に堪へざるなり本書は著者が體驗自得せる自己の信念を極めて平易に吐露し以て彼等の精神に一道の光明を寄與し其の生活を意味深からしめんとせる者也一言一句皆其肺腑より出痛切懇篤に高潮せしもの

東京市神田區表神保町七 大同館發行 振替口座東京八七貳番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

泰西現代劇の代表的作物 精緻なる新譯書

バナアド、ショウ作
文學士 細田枯萍譯
定價二圓卅錢
送料金十二錢

人と超人

バナアド、ショウの代表的作品を譯したるもの、劇にして哲學を兼ね、現代の有ゆる問題に觸れ居る本書は、正に人生の歸趣に一大光明を與へたものである。譯文流暢にして精緻、深遠なる原作の旨は十分に發揮されてある。故上田敏博士の序文縱横ショウを論じて錦上花を添ふ。

オスカア、ワイルド原作
文學士 安井清譯註
定價金二圓廿錢
送料金十二錢

英和對譯 近代劇 理想の良人

オスカア、ワイルドの現代劇代表作を譯したるもの、ワイルド一流の機智縱横なる警句と、現代社會に於ける痛快なる諷刺とは透徹せる譯文によりて一般の精彩を放つて居る。

ピネロ原作
文學士 中越新二譯註
定價金二圓
送料金十二錢

英和對譯 近代劇 ポオラ

原作者ピネロは英國劇壇の巨人、本書は婦人問題を中心とした四幕の悲劇、可憐の女ポオラの數奇なる運命は優麗な譯文によつて讀者の心を唆らずには居まい。

發行所 東京神田區 小川町四一 敬文館 振替東京一二三三六 電話神田三六七七

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◎本號特價　金壹圓五拾錢
郵稅金四錢

中央公論大賣捌所

東京市神田區表神保町　東[illegible]
同　神田區裏神保町　上田屋
同　京橋區銀座三丁目　東海堂
同　京橋區元數寄屋町　北隆館
同　日本橋區本石町　至誠堂
同　本鄕區本富士町　盛春堂
大阪市北區梅田町　盛文館
同　北區東梅田町　立盛堂
京都市七條停車場前　共盛社
同　四條西洞院　前田大盛社
名古屋市富澤町　中京堂
朝鮮京城本町二丁目　日韓書房

○定價　金六拾錢郵稅金貳錢（海外郵稅拾錢但支那を除く）

冊數／國別	內國	外國
六冊	金參圓六拾錢	金四圓貳拾錢
十二冊	金七圓貳拾錢	金八圓四拾錢
以上郵稅共		

▲但し新年號春秋二期附錄號臨時號は各倍册に付普通號二册の代金を申請くべし、即ち一ケ年通計十七册分の割合なれば一ヶ年分御注文の方は內國は金拾圓貳拾錢外國は金拾壹圓九拾錢の割となれども頁數の都合にて臨時變更することあるべし。

廣告取次所

博報堂、弘報堂、正路喜社、一星社
金蘭社、萬年社、電通社、信賴社
三誠社、東亞通信社

一誌代郵稅　は一切前金とす、前金切の場合は發送を止むべし
一振替貯金　口座は東京三十四番なり
一郵券代用　は謝絶す但し郵便局に不使の地に限り一割増にて代用せらるるを拒まず
一代金引替　小包の取扱は一切謝絶す
一集金郵便　御希望の方は拂込金額以外に左記料金を加へたる其總額を前以て弊社へ通知せらるべし、弊社は直ちに其取扱手續をなすべし
但集金郵便の申込を受くるも現金受領濟にあらざれば雜誌を發送せず
　一金一圓迄　金六錢
　一金五圓迄　金七錢（集金委託料及送料共）
　一金拾圓迄　金八錢
一中央公論及婦人公論　代金取り纏め御拂込みの場合には各誌割當て金額御指定を乞ふ
一受領證請求　は必ず返信料を要す

大正十年三月三十一日印刷納本
大正十年四月一日發行
（禁轉載）

發行兼編輯人　瀧田哲太郎
印刷人　高木西三

發行所
東京市本鄕區駒込西片町十番地
中央公論社
電話小石川一四四一・小石川三四二〇
電信略號コウロン

印刷所
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

CHUO KORON (*The Central Review.*)

By The Chuo Koron Sha Publishing Co., Published Monthly.
Terms of Subscription: Annual subscription *yen* 11.90; Single copy 70 *sen* including Postage. Entered at the Post Office at Los Angeles, Cal. U.S.A. as second-class mail matter.

春は野に山に

三越の店には春の品物が一杯に、溢れて居ります

三越の四月の賣出しは、例年皆々樣の大に期待さるゝ年中行事の一つであります、特に本年は品質が良く値段の廉い品を潤澤に取揃へ御高覧に供します

◆三越の四月◆
◆春裂見切反物賣出し（一日より）
◆新製洋傘陳列（一日より）
◆五月人形陳列會（十日より）
◆銘仙新柄陳列（十五日より）

……定休日は……
十一日◆廿五日



……東京市駿河町……

㊂ 三越呉服店

信用なき店舗及び卑猥なる賣品の廣告掲載は[illegible]す

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA